

Oracle(R) Hyperion Enterprise Performance
Management Architect, Fusion Edition

リリース 11.1.1.3

管理者ガイド

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Performance Management Architect 管理者ガイド, 11.1.1.3

Copyright © 2006, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Performance Management Information Development

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されません。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 I 部 Performance Management Architect の概要	19
第 1 章 Performance Management Architect の使用方法	21
Performance Management Architect について	21
Performance Management Architect モジュール	22
Performance Management Architect のユーティリティ	24
ERP Integrator の Performance Management Architect との使用方法	25
アーキテクチャ	25
プロセスの概要	26
Performance Management Architect へのアクセス	27
セキュリティ	28
EPM System のライフサイクル管理	30
Performance Management Architect のナビゲート	31
ツールバー	32
メニュー	33
Performance Management Architect へのクラシック・アプリケーションの移動	35
第 2 章 Performance Management Architect サーバーの管理	39
Performance Management Architect サービス	39
Performance Management Architect 次元サーバーの開始および停止	40
Performance Management Architect アプリケーション・サーバーの開始および停止	41
Performance Management Architect データ・シンクロナイザ・サーバーの起動および停止	42
第 II 部 アプリケーション・メタデータの管理	43
第 3 章 メタデータのインポート	45
フラット・ファイルの作成	48
フラット・ファイルのエンコーディング	48
フラット・ファイルの構文	48
次元セクション	49
次元の関連付けセクション	50

メンバー・セクション	50
階層セクション	52
プロパティ配列セクション	54
インタフェース・テーブルの使用方法	56
インタフェース・データ・ソースの構成	57
インタフェース・テーブルの定義	59
インタフェース・テーブルの消去	62
インポート・プロファイルの作成	63
ファイル・プロパティの入力	65
次元のマッピング	65
次元マッピング - プロパティ・マッピング・オプション	67
インポート・プロファイルの管理	70
次元のインポート	70
インポート・プロファイルの編集	72
インポート・プロファイルの詳細の表示	72
インポート・プロファイルの削除	73
第 4 章 次元の操作	75
次元の作成	75
共有次元およびローカル次元の理解	76
プロパティの変更	77
プランニング次元での操作の考慮事項	78
その他のプランニング次元の機能	79
別名次元	80
ユーザー定義属性次元	82
カスタム次元	83
次元の関連付け	83
次元の関連付けの作成	83
次元の関連付けの表示および削除	84
次元のコピー	85
アプリケーション・メンバーシップの表示	86
次元の整理	86
フォルダの作成	86
フォルダへの次元の追加	87
フォルダの名前変更	87
フォルダの削除	88
次元のフィルタ処理	88
次元およびフォルダのソート	89
次元の削除	90

グリッド・エディタの使用方法	90
グリッド・エディタの起動	91
メンバーの選択	93
プロパティの選択	95
グリッド・エディタの操作	96
スマート・リストの操作(Planningのみ)	101
スマート・リストの作成	102
スマート・リストの名前	103
スマート・リストの次元プロパティの変更	103
スマート・リストでの#Missingの表示	104
トランザクション・ログの表示	105
トランザクション履歴の削除	111
トランザクション履歴の削除ユーティリティの起動	111
トランザクション履歴の削除ログの表示	113
トランザクション履歴の削除ユーティリティの操作	114
ネイティブのデータベース・ログの考慮事項	117
第5章 メンバーの操作	119
メンバーの作成	119
共有メンバーの操作	120
コピーおよび貼付けによる共有メンバーの作成	121
メンバー・セレクタを使用した共有メンバーの作成	121
Planning アプリケーション内の共有メンバー	123
動的時系列メンバーの設定	124
メンバー名の変更	126
メンバーの除去および削除	127
メンバーの除去	127
メンバーの削除	128
プランニング・メンバーの除外および削除	128
メンバーの検索	129
子メンバーの順序変更	131
孤立メンバーの管理	132
孤立メンバーの表示	132
孤立メンバーの削除	133
プロパティ値の編集	133
プロパティの検索	134
ユーザー定義属性の操作	135
関連付けの作成	135
ユーザー定義属性の作成	135

ユーザー定義属性の削除	136
メンバー計算式の操作	137
式の検証	137
数式の操作	138
アプリケーションのメンバーの操作	141
アプリケーションへのメンバーの追加	141
上位メンバーの選択	143
メンバーの除外	144
除外したメンバーの表示	144
基本メンバーの設定	145
第 6 章 アプリケーションの構築	147
アプリケーションについて	147
アプリケーション作成のワークフロー	147
手動のワークフロー	148
アプリケーション・ウィザードのワークフロー	148
前提条件	148
連結アプリケーションの作成	149
アプリケーション・タイプの選択	149
次元の選択	150
アプリケーション設定の変更	155
Planning アプリケーションの作成	157
アプリケーション・タイプの選択	158
次元の選択	161
アプリケーション設定の変更	164
検証および配置	169
Profitability and Cost Management アプリケーションの作成	170
アプリケーション・タイプの選択	170
次元の選択	171
アプリケーション設定の変更	176
検証および配置	179
Essbase アプリケーションの作成	181
アプリケーション要件	181
汎用アプリケーションの作成	182
共通アプリケーション・タスク	183
アプリケーションでの次元の追加	183
アプリケーションへの次元のインポート	187
次元の除去	187
次元の関連付けの表示	187

次元別名の設定	189
アプリケーション・メンバーシップの表示	190
第7章 アプリケーションの管理	191
アプリケーション・ライブラリのナビゲート	191
アプリケーション・ライブラリ・ビューの変更	192
アプリケーションの整理	192
アプリケーション・ライブラリのリフレッシュ	195
アプリケーションの編集	195
アプリケーションを開く	195
アプリケーションを閉じる	196
アプリケーションの削除	196
アプリケーションの複製	196
新規アプリケーションとしてのアプリケーションの複製	197
配置済アプリケーションとしての連結アプリケーションの複製	197
アプリケーションの検索	198
アプリケーションの再登録	199
アプリケーションの比較	199
比較結果のナビゲート	200
比較結果でのメンバーの除外	202
データ・フローの表示	202
データ・フローでのフォーカル・アプリケーションの変更	203
同期の表示	203
同期の編集	204
同期の検証および実行	204
アプリケーションの編集	204
アプリケーションの検証および配置	204
アプリケーションの検証	205
配置ログおよびエラーの確認	206
Planning アプリケーションの配置	206
連結アプリケーションの配置	210
収益性アプリケーションの配置	211
Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションの配置	213
アプリケーションの再配置	214
プランニング・データ・ソースの管理	216
データ・ソース・ウィザードの開始	216
データ・ソース情報の入力	217
データベースの選択	217
Essbase サーバーの構成	218

要約詳細の表示	218
データ・ソースの削除	219
第 III 部 ビジネス・ルールの管理	221
第 8 章 Calculation Manager の概要	223
Calculation Manager について	223
Calculation Manager の前提条件	223
Calculation Manager のセキュリティ	225
EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス	226
Workspace および Calculation Manager のツールバーの使用法	227
標準ツールバー	227
Calculation Manager のツールバー	228
Calculation Manager のメニューの使用法	228
「ファイル」メニュー	229
「編集」メニュー	230
「表示」メニュー	230
「お気に入り」メニュー	231
「ツール」メニュー	231
「アクション」メニュー	232
「ヘルプ」メニュー	232
Calculation Manager のフロー・チャートの使用法	233
Calculation Manager のビューおよびフィルタの使用法	233
リスト・ビュー	234
システム・ビュー	236
カスタム・ビュー	236
配置ビュー	238
ビュー・ペイン	238
第 9 章 ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計	241
ビジネス・ルールについて	241
ビジネス・ルールの作成	242
ビジネス・ルールの設計	243
Workforce Planning および Capital Asset Planning のプラン・タイプの事前定義済 ビジネス・ルールのロード(Planning ユーザーのみ)	247
ビジネス・ルールを開く	248
ビジネス・ルールの編集	248
ビジネス・ルールの保存	259
異なる名前でのビジネス・ルールの保存	259
ビジネス・ルールへのショートカットの作成	260
ビジネス・ルールの削除	261

ビジネス・ルールの印刷	261
ビジネス・ルールセットについて	263
ビジネス・ルールセットの作成	263
ビジネス・ルールセットの設計	264
ビジネス・ルールセットを開く	266
ビジネス・ルールセット内でビジネス・ルールを開く	267
ビジネス・ルールのビジネス・ルールセットへの追加	268
ビジネス・ルールセットからのビジネス・ルールの除去	268
ビジネス・ルールセットの編集	269
ビジネス・ルールセットの保存	273
異なる名前でのビジネス・ルールセットの保存	273
ビジネス・ルールセットの削除	274
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ	275
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示	276
オブジェクトの所有者の変更	277
第 10 章 テンプレートの操作	279
テンプレートについて	279
システム・テンプレートの操作	279
Financial Management システム・テンプレートについて	280
Planning および Essbase システム・テンプレートについて	281
ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)	282
システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存	297
システム・テンプレートのフロー・チャートへの挿入	298
システム・テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除 去	299
カスタム定義テンプレートの操作	300
カスタム定義テンプレートについて	301
カスタム定義テンプレートの作成	301
カスタム定義テンプレートの設計	302
カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成	305
設計時プロンプトの依存関係の定義	311
テンプレートのコンポーネントまたはビジネス・ルールのコンポーネント からのカスタム定義テンプレートの作成	312
カスタム定義テンプレートを開く	313
カスタム定義テンプレートの編集	313
カスタム定義テンプレートの保存	313
異なる名前でのカスタム定義テンプレートの保存	314
カスタム定義テンプレートのリフレッシュ	315

カスタム定義テンプレートの使用の表示	315
カスタム定義テンプレートの削除	316
カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け	317
カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートへの挿入	317
カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去	318
テンプレートの検索	318

第 11 章 コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計

Calculation Manager のコンポーネントについて	319
式コンポーネントの操作	320
式コンポーネントについて	320
式コンポーネントの作成	320
式コンポーネントの設計	321
式コンポーネントを開く	329
式コンポーネントの編集	329
式コンポーネントの削除	330
式コンポーネントのコピーおよび貼付け	330
スクリプト・コンポーネントの操作	331
スクリプト・コンポーネントの作成	331
スクリプト・コンポーネントの設計	332
スクリプト・コンポーネントを開く	335
スクリプト・コンポーネントの編集	335
スクリプト・コンポーネントの削除	336
スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け	337
条件コンポーネントの操作	338
条件コンポーネントについて	338
条件コンポーネントの作成	338
条件コンポーネントを開く	340
条件コンポーネントの編集	340
条件コンポーネントの削除	341
条件コンポーネントのコピーおよび貼付け	341
メンバー範囲コンポーネントの操作	342
メンバー範囲コンポーネントについて	342
メンバー範囲コンポーネントの作成	343
メンバー範囲コンポーネントを開く	345
メンバー範囲コンポーネントの編集	345
メンバー範囲コンポーネントの削除	346
メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け	346

データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)	347
データ範囲コンポーネントについて(Financial Management ユーザーのみ)	348
データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)	348
データ範囲コンポーネントを開く (Financial Management ユーザーのみ)	350
データ範囲コンポーネントの編集(Financial Management ユーザーのみ)	350
データ範囲コンポーネントの削除(Financial Management ユーザーのみ)	351
データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management ユーザーのみ)	352
固定ループ・コンポーネントの操作	352
固定ループ・コンポーネントについて	353
固定ループ・コンポーネントの作成	353
固定ループ・コンポーネントを開く	354
固定ループ・コンポーネントの編集	354
固定ループ・コンポーネントの削除	355
固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け	356
DTP 割当てコンポーネントの操作(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	357
DTP 割当てコンポーネントについて(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	357
DTP 割当てコンポーネントの作成(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	357
DTP 割当てコンポーネントを開く(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	359
DTP 割当てコンポーネントの編集(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	359
DTP 割当てコンポーネントの削除(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	360
DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	361
スクリプトおよび式コンポーネントの共有	361
式およびスクリプト・コンポーネントの共有から非共有への変更	362
式およびスクリプト・コンポーネントの非共有から共有への変更	362
コンポーネントの保存	363
コンポーネントの保存	363
コンポーネントのテンプレートとしての保存	364
異なる名前での式およびスクリプト・コンポーネントの保存	364
式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ	365
式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示	366
フロー・チャート内でのコンポーネントの操作	367
フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開	367

コンポーネントのフロー・チャートからの除去	368
フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け	368
フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け	369
フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け	370
コンポーネントの検索	371
第 12 章 メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計	373
メンバー選択、変数および関数について	373
メンバーの操作	374
コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について	374
変数の操作	398
システム・ビューからの変数の作成	400
変数の選択	410
変数の編集	411
変数の削除	412
変数のリフレッシュ	412
変数のコピー	413
Financial Management アプリケーションへの事前定義済システム変数のロード (Financial Management ユーザーのみ)	413
関数の操作	414
関数の選択	415
第 13 章 ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置	417
システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証	417
ルール・デザイナーからのビジネス・ルールの検証	418
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置	420
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にする	420
配置ビューからのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置	421
ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置する (Planning および Essbase ユーザーのみ)	423
ショートカットを含むビジネス・ルールの配置 (Planning および Essbase ユーザーのみ)	423
ルールセット・デザイナーからのビジネス・ルールの配置	424

第 14 章 Essbase ビジネス・ルールの起動	427
第 15 章 ビジネス・ルールの移行	429
ビジネス・ルールの移行について	429
Business Rules から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行(Planning ユーザーのみ)	429
移行のユース・ケース	433
Financial Management から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行 (Financial Management ユーザーのみ)	440
第 16 章 ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・ コンポーネントのエクスポートおよびインポート	447
エクスポートおよびインポートについて	447
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・ コンポーネントのエクスポート	447
アプリケーションのエクスポート	449
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・ コンポーネントのインポート	449
第 IV 部 データの同期	451
第 17 章 データの同期	453
データの同期の理解	453
データの同期	454
Hyperion アプリケーションのソースとしての使用方法	454
複数通貨の Planning アプリケーションの同期	456
Hyperion データ・インタフェース・テーブルをソースとして使用	457
外部ファイルのソースとしての使用方法	459
次元のマッピング	460
次元のフィルタ処理	463
デフォルト・メンバーの割当て	464
マッピング・テーブルの挿入	464
マッピングの編集	465
同期の保存	465
マッピングの操作	465
次元マッピングでのマッピング・テーブルの作成	466
データ・シンクロナイザでのマッピング・テーブルの作成	469
データ・シンクロナイザの操作	471
データ・シンクロナイザのナビゲート	471
同期の編集	473
マッピング・テーブルの編集	473
同期およびマッピングの複製	473

同期およびマッピングの削除	473
同期の検証および実行	474
第 V 部 ジョブの管理	477
第 18 章 ジョブの管理	479
ライブラリ・ジョブ・コンソールの操作	479
ライブラリ・ジョブ・コンソールのナビゲート	480
ライブラリ・ジョブ・コンソール・ビューの変更	481
ライブラリ・ジョブ・コンソールのリフレッシュ	482
ジョブ・フィルタの作成	482
セキュリティ	485
ジョブの添付ファイルの表示	486
インポート結果の表示	486
テキスト・ファイルの表示	487
ジョブの削除	488
第 19 章 タスクの自動化の使用法	489
概要	489
タスクの自動化の前提条件	490
タスクフローの管理	490
タスクフローの作成	491
Performance Management Architect アクション	491
ステージの追加	494
Shared Services のステージ・アクションおよびパラメータ	496
リンクの追加	497
タスクフローの表示	498
タスクフローの編集	498
タスクフローのコピー	498
タスクフローの削除	499
タスクフローの手動実行	499
タスクフローのアクセス権の管理	499
タスクフローのアクセス権の割当て	500
タスクフローの権限の編集	501
タスクフローの権限の削除	502
タスクフローのステータスの表示	502
アクティブ・タスクフローの停止	504
タスクフロー参加者(要約)の表示	504
タスクフロー参加者(詳細)の表示	505

付録 A. Financial Management 次元の操作	507
勘定科目	508
勘定科目の種別の動作	513
動的な勘定科目の定義	515
カスタム	516
エンティティ	518
シナリオ	521
アプリケーション	524
期間別組織	529
連結メソッド	529
連結メソッドの使用方法	531
手動での連結メソッドの割当て	532
通貨	532
システム生成の勘定科目	534
連結勘定	534
出資比率勘定科目	535
内部取引パートナーの設定	536
システム生成の値メンバーの編集	537
セキュリティに基づくメタデータのフィルタ	538
メタデータの参照整合性	538
参照整合性に影響を与えるメタデータ・プロパティの変更	538
メタデータ・ログ・ファイルの参照整合性エラー	540
次元の名前付けの制限	541
9.3.1 で作成された連結フラット・ファイルの使用法	541
Financial Management 9.3.1 および Performance Management Architect の操作 ..	541
付録 B. プランニング次元の操作	543
すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ	543
複数のプランニング次元に共通するプロパティ	547
勘定科目	552
勘定科目の種別およびそれに依存するプロパティの有効な組合せ	555
タイムバランスプロパティの例	555
通貨	557
エンティティ	559
期間	560
期間次元の代替階層の考慮事項	561
シナリオ	561
バージョン	562
年	564

カスタム次元	565
Planning の別名	565
Planning の属性	565
Planning の UDA	566
Planning 9.3.1 および Performance Management Architect の操作	566
Essbase での作業の考慮事項	566
アプリケーションの命名の制限(Essbase)	568
次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限	569
Planning のフラット・ファイルの操作	570
リリース 9.3.1 で作成されたフラット・ファイルの使用方法	570
Planning 9.3.0.1 で作成したフラット・ファイルの使用方法	573
Planning のフラット・ファイルの例(通常)	574
Planning のフラット・ファイルの例(シンプル)	579
付録 C. Profitability and Cost Management プロパティの操作	583
次元プロパティおよびメンバー・プロパティ	583
付録 D. Essbase プロパティの操作	591
アプリケーション・プロパティ	591
次元プロパティおよびメンバー・プロパティ	597
付録 E. 統計およびシステム・プロパティの操作	609
付録 F. アプリケーションの検証	611
付録 G. メンバー・クエリー関数	615
メンバー・クエリー関数の使用方法	615
構文	616
例	616
Ancestors	616
BottomOfHierarchy	617
Match	617
Parent	618
Property	618
Siblings	620
付録 H. BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定	623
付録 I. アクセシビリティ	631
スクリーン・リーダーおよび拡大鏡の標準	631
JAWS のプリファレンスの設定	631

Calculation Manager のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする	632
高コントラスト・モードの設定	633
Calculation Manager ユーザー・インタフェースでの[Tab]キーの使用法	633
グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用法	633
一般的なユーザー・インタフェース要素のアクセシビリティ動作	634
Calculation Manager のアクセシビリティ	635
オンライン・ヘルプのアクセシビリティ	645
付録 J. Performance Management Architect のアクセシビリティ	647
キーボード対応	647
ユーザー・インタフェースのナビゲート	647
次元ライブラリ	647
アプリケーション・ライブラリ	654
アプリケーションの比較	657
データ・フロー	657
アプリケーションのアップグレード・ウィザード	658
プランニング・データ・ソースの管理	658
ジョブ・コンソール	659
データの同期	660
新規同期	661
データの同期 - 次元マッピング	661
用語集	663
索引	691

第 I 部

Performance Management Architect の 概要

Performance Management Architect の概要の内容 :

- [Performance Management Architect の使用方法](#)
- [Performance Management Architect サーバーの管理](#)

1

Performance Management Architectの使用方法

この章の内容

Performance Management Architect について.....	21
Performance Management Architect モジュール	22
Performance Management Architect のユーティリティ	24
ERP Integrator の Performance Management Architect との使用法	25
アーキテクチャ	25
プロセスの概要	26
Performance Management Architect へのアクセス	27
セキュリティ.....	28
EPM System のライフサイクル管理.....	30
Performance Management Architect のナビゲート	31
Performance Management Architect へのクラシック・アプリケーションの移動	35

Performance Management Architect について

Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition は、Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition、Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition および Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition の機能です。Performance Management Architect を使用すると、管理者は1つのインタフェースで Hyperion のアプリケーションを管理、作成および配置できます。

作成および配置

- ドラッグ・アンド・ドロップによるアプリケーションの作成
- 1つの環境内でのグラフィカルなアプリケーションの設計
- 既存のアーチファクトを使用する対象固有のアプリケーションの作成
- 定義済のサンプル・ライブラリからの次元の構成およびプロパティの定義
- 次元の特定のメンバーを選択するフィルタの作成。たとえば、「勘定科目」次元の「貸借対照表」の勘定科目を選択します。これによって、すべてのアプリケーションのすべての次元を使用しないで、1つの次元を管理できます。
- テストまたは仮定の分析用のアプリケーションの複製
- 前のリリースからのアプリケーションのアップグレードと次元ライブラリおよびアプリケーション・ライブラリへの配置。これによって、Performance Management Architect の機能の開始を準備できます。

アプリケーションのビジネス・ルールの計算

Hyperion Calculation Manager を使用すると、Financial Management および Planning のビジネス問題を解決する高度な計算を作成、検証および配置できます。Calculation Manager を使用すると、次の計算を作成できます:

- エンティティ間のコストの割当て
- 収益モデリングの実行
- 支出モデリングの実行
- 貸借対照表の準備
- キャッシュ・フローの計算
- 為替換算調整勘定の計算
- グループおよび少数株持ち分の計算
- 繰延税金の計算

管理

- 視覚的なアプリケーションのリンクおよび管理
- 複数のアプリケーション間での次元および属性の使用。(たとえば、勘定科目次元を1つ作成して、それを複数のアプリケーションで使用できます。)Performance Management Architect は既存のアプリケーションおよび次元性を活用して、以前に構成された次元を使用する他のアプリケーションに展開します。
- グラフィカルなデータ・フローの管理
- 影響分析の実行 - アプリケーション間の関係のグラフィカルなビューおよびモデル化
- すべてのモデルに対する除外および変更における影響の処理および評価
- アプリケーション間の手動による次元およびデータの調整の消去

このガイドでは、Performance Management Architect で導入された管理機能について説明します。クラシック・アプリケーション管理機能(Performance Management Architect では管理されないアプリケーション用)の詳細については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』または『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

Performance Management Architect モジュール

Performance Management Architect には次のモジュールがあります:

- **次元ライブラリ** - 次元および次元のプロパティを集中的に管理します。次元ライブラリを使用すると次のことができます:
 - 次元インポート・プロファイルの作成 - フラット・ファイルおよびデータベース・インタフェース・テーブルからの次元の更新を使用可能にする
 - 共有ライブラリまたは直接にアプリケーションでの次元メンバーの追加、削除および変更
 - 共有ライブラリまたは直接にアプリケーションでの次元およびメンバー・プロパティの変更

- **アプリケーション・ライブラリ** - 作成され、Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase Aggregate Storage Option (ASO)またはEssbase Block Storage Option に配置済アプリケーションの要約。Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)および(BSO)に特有の要件を満たすように作成された次元および次元属性がアプリケーションには含まれます。アプリケーション・ライブラリを使用して次のことができます:
 - Financial Management および Planning アプリケーションに基づく Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)または Essbase (BSO)レポート・アプリケーションの作成
 - アプリケーションの集中管理
 - アプリケーション間のデータ・フローの表示
 - アプリケーションの異なるサーバーへの移行
 - Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)または Essbase (BSO)へのアプリケーションの配置
- **Calculation Manager** - ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを作成、検証および配置できます。(Financial Management および Planning 内からビジネス・ルールを起動できます。)

Calculation Manager で計算できるオブジェクトには3つのタイプがあります:

- ビジネス・ルールからなり、式、スクリプト、条件、範囲、固定ループ、関数、メンバーおよび変数が含まれるオブジェクトであるコンポーネント
- 計算を実行するコンポーネントのグループが含まれるオブジェクトであるルール
- 同時または連続して計算される複数のルールが含まれるオブジェクトであるルールセット

Calculation Manager には、1つの場所から別の場所にデータをコピーするテンプレートや、データベースのアウトラインで1つのレベルから別のレベルにデータを割り当てるテンプレートなどのシステム・テンプレートがあり、これらをビジネス・ルールで使用できます。ビジネスに固有の問題を解決する計算を行うためのテンプレートも独自に作成できます。

- **データの同期** - Hyperion アプリケーション内または Hyperion アプリケーション間でのデータの同期を使用可能にします。データの同期を使用して次のことができます:
 - Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase(ASO)および Essbase(BSO)を宛先として、次のソースとの間にデータの同期を作成します:
 - Financial Management
 - Planning
 - Profitability and Cost Management
 - Essbase BSO
 - 外部ソース(フラット・ファイル)

□ インタフェース・テーブル

たとえば、管理者は、2つの Financial Management アプリケーション間、2つの Planning アプリケーション間、1つの Financial Management アプリケーションおよび Planning アプリケーション間でデータを同期できます。

- 再使用できるデータ・マッピングの作成
- Hyperion アプリケーションにデータをインポートするフラット・ファイルおよびインタフェース・テーブル・マッピングの作成
- **アプリケーションのアップグレード** - Financial Management および Planning の前リリースからのアップグレードを使用可能にします
- **ライブラリ・ジョブ・コンソール** - 次元ライブラリおよびインポート、配置およびデータ同期などのアプリケーション作業のステータスを含めた要約を提供します

Performance Management Architect のユーティリティ

Performance Management Architect とともに次のユーティリティを使用できます:

- **Performance Management Architect バッチ・クライアント**

Performance Management Architect バッチ・クライアントによって、データのエクスポート、メタデータのロード、データのロード、計算などのプロセスを組み合わせ、通常の夜間または週末のロード・プロセスの処理中に、これらの操作を開始できます。

バッチ・クライアントによる外部スケジューリング・ツールを使用してプロセスを開始できます。バッチ・クライアントを使用すると、次のような多くのタスクを実行できます:

- Performance Management Architect にメタデータをロードする
- 次元およびメジャーのセキュリティに関するプロパティを更新する
- アプリケーションにデータをロードする

バッチ・クライアントは、Performance Management Architect のインストール時に自動的にインストールされます。バッチ・クライアントの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect バッチ・クライアント・ユーザー・ガイド』を参照してください。

- **Performance Management Architect ファイル・ジェネレータ**

Performance Management Architect ファイル・ジェネレータでは、次のソースからインポート・ファイルを作成できます:

- .PER、.SEC、.XML メタデータ・ファイルなどの既存の Financial Management ファイル。

注: サポートされているのは Financial Management .XML フォーマットのメタデータ・ファイルのみです。.APP フォーマットは直接にはサポートされていませんが、システムから XML フォーマットにメタデータを抽出して、コンバータを使用できます。

- 既存の Financial Management アプリケーション - バージョン 11.1.1 以降
- 既存の Planning アプリケーション - バージョン 11.1.1 以降
- 既存の Performance Management Architect アプリケーション(連結、Planning および汎用アプリケーション・タイプ) - バージョン 11.1.1 以降
- Microsoft Excel ファイル

Performance Management Architect ファイル・ジェネレータをインストールするには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラ、Fusion Edition を使用します。インストール情報については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。ファイル・ジェネレータの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect ファイル・ジェネレータ・ユーザー・ガイド』を参照してください。

ERP Integrator の Performance Management Architect との使用方法

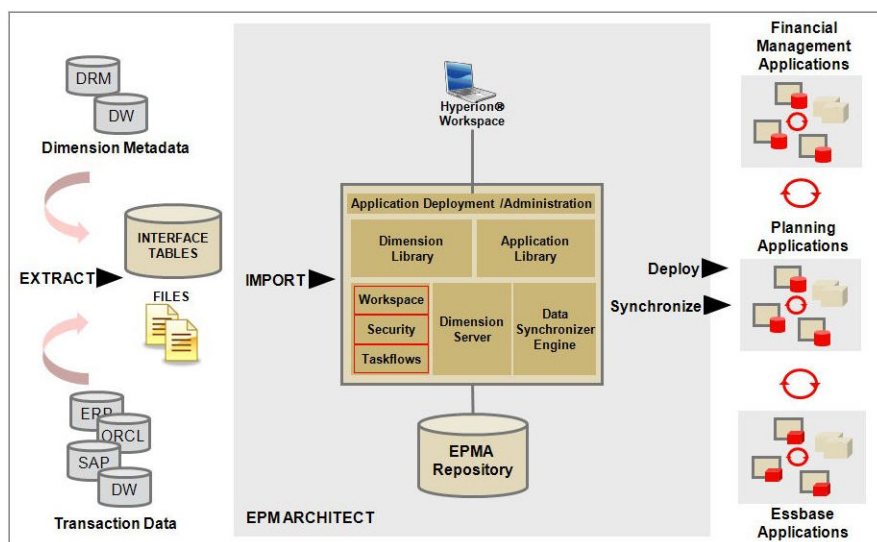
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications は、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Fusion Edition のモジュールであり、次のことができます:

- Enterprise Resource Planning (ERP) ソース・システムのメタデータとデータを、Performance Management Architect で作成された Enterprise Performance Management (EPM) ターゲット・アプリケーションに統合します。
- EPM ターゲット・アプリケーションからドリルスルーし、ERP ソース・システムのデータを表示します。

ERP Integrator の使用方法の詳細は、『Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle 管理者ガイド』を参照してください。

アーキテクチャ

Performance Management Architect は、Enterprise Resource Planning システム、リレーショナル・データベース、データ・ウェアハウスを含むメタデータおよびデータの様々なソースに対するインタフェースを提供します。これらのソースのデータ(およびその次元階層)は、フラット・ファイルまたは Hyperion インタフェース・テーブルを使用してシステムにインポートできます。



注： この機能ダイアグラムには、配置に必要なサーバーの数は示されていません。

Performance Management Architect は、Financial Management、Profitability and Cost Management および Planning の各アプリケーションに直接のインタフェースを提供するので、Performance Management Architect からこれらのアプリケーションを直接作成、維持および同期できます。

Performance Management Architect の中間層には、アプリケーション構築に必要なアプリケーション・サービス、メタデータ管理、データ同期およびユーザー・インタフェースの仕上げが含まれます。

エンド・ユーザーは、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition を使用して Performance Management Architect、レポート機能およびアプリケーションのコンテンツにアクセスします。

プロセスの概要

全体的には、次のプロセスに従います：

- 次元ライブラリを使用して次元をインポートします。第3章「メタデータのインポート」を参照してください。
- アプリケーションを作成します。第6章「アプリケーションの構築」を参照してください。
- Calculation Manager を使用してビジネス・ルールを作成します。
- アプリケーションを Hyperion 製品(Profitability and Cost Management、Planning、Financial Management など)に配置します。Hyperion 製品で、アプリケーションが作成され、製品サーバーでメタデータがロードされます。157 ページの「検証および配置」を参照してください。
- Oracle の Hyperion(R) Shared Services を使用し、アクセス権を割り当てます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- Hyperion 製品を使用して、データ・フォームをアプリケーションにロードします。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。
- Hyperion 製品を使用して、データ・フォーム、レポート、プラン、タスク・リストなどを作成します。

Performance Management Architect へのアクセス

▶ Performance Management Architect にアクセスするには:

- 1 共有サービスおよび EPM Workspace サーバーが実行されていることを確認します。
- 2 IIS が実行されていることを確認します。
- 3 次のいずれかの方法で次元サーバーを開始します:

- 「サービス」パネルから Hyperion EPM Architect プロセス・マネージャを開始します。

注： EPM Architect プロセス・マネージャ・サービスを開始すると、Hyperion EPM Architect - エンジン・マネージャ、Hyperion EPM Architect - イベント・マネージャ、および Hyperion EPM Architect - ジョブ・マネージャなどのサービスも自動的に開始されます。

- スタート、すべてのプログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect、Start Dimension Server の順に選択します。

注： 次元サーバーを開始できない場合は、タイムアウト設定を変更する必要がある可能性があります。40 ページの「Performance Management Architect 次元サーバーの開始および停止」を参照してください。

- 4 以下のいずれかの方法で、EPM Architect アプリケーション・サーバーを開始します:

- 「サービス」パネルで Hyperion EPM Architect - Web Application を選択します。
- スタート、すべてのプログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect、Performance Management Architect Web の開始の順に選択します。

- 5 Web ブラウザを開始して、Performance Management Architect に EPM ワークスペースからアクセスします(<http://<Web Server>:<port>/workspace/>)ここで、<Web Server>は Web サーバー・マシンのホスト名、<port>は Web サーバーのリスニング・ポートです。たとえば、Oracle の Hyperion Reporting and Analysis で構成した Apache インスタンスを使用する場合は 19000 です。

- 6 ユーザー名およびパスワードを入力して、ログオンをクリックします。

注： Performance Management Architect がユーザーを認証できないというエラー・メッセージが表示された場合は、ユーザーがアプリケーションに対してプロビジョニングされているか(プロビジョニングされていない場合は、共有サービスを使用してユーザーをプロビジョニングします)、ユーザーのトリー

クンまたはセッションがタイムアウトしていないか(タイムアウトしている場合はログオフしてから再度ログインし、新規セッションを開始します)、または Financial Management Web サーバーやアプリケーション・サーバーに問題がないか(問題がある場合はシステム管理者に連絡します)を確認します。

Performance Management Architect にアクセスできない場合は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド・ガイド』を参照してください。

- 7 次元ライブラリにアクセスするには、ナビゲート、管理、次元ライブラリの順に選択します。

セキュリティ

Performance Management Architect は、次の役割をサポートします:

Performance Management Architect の役割	役割のタスク
アプリケーション作成者 Planning アプリケーション作成者 財務アプリケーション作成者 収益性アプリケーション作成者 Essbase アプリケーション作成者	アプリケーションを作成してアクセス権を持っている次元に変更します。アプリケーション作成者によって Performance Management Architect からアプリケーションが配置されると、自動的にアプリケーション管理者になります。 注: すべてのアプリケーション作成者は汎用アプリケーションを作成できます。
次元エディタ	次元および次元メンバーをインポート、削除および変更できます。また、次元にアクセス権(次元所有者およびリーダー/ライター)を割り当てることもできます。アプリケーションの作成はできません。
統合の作成	データの同期を作成および実行します。
統合の実行	データの同期を実行します。
Calculation Manager 管理者	Calculation Manager の関数を管理します。
Financial Management Calculation Manager 管理者	Financial Management の Calculation Manager の関数を管理します。
Planning Calculation Manager 管理者	Planning の Calculation Manager の関数を管理します。

次の表に、Performance Management Architect の役割とアクセスのレベルへのマッピング方法を示します。

表1 アクセスのレベル

役割	アクセスのレベル
次元エディタ*	<ul style="list-style-type: none"> ● 共有ライブラリのすべての共有次元に対する次元所有者 ● 次元所有者、次元ライター、または次元リーダーというアクセス権を共有ライブラリの任意のローカル次元に、明示的に割り当てられます。
アプリケーション作成者†	<ul style="list-style-type: none"> ● 配置されていないアプリケーションのすべての次元に対する次元所有者です。 ● 次元所有者、次元ライター、または次元リーダーというアクセス権を共有ライブラリの任意の次元に、明示的に割り当てられます。
アプリケーション管理者‡	<ul style="list-style-type: none"> ● 配置済アプリケーションのすべての次元に対する次元所有者です。 ● 次元所有者、次元ライター、または次元リーダーというアクセス権を共有ライブラリの任意の次元に、明示的に割り当てられます。
Calculation Manager 管理者	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切なアプリケーション・タイプのすべての次元に対する次元リーダーです。

*次元エディタのみが共有ライブラリで次元を作成できます。

†アプリケーション作成者またはアプリケーション管理者は、次元を作成したりアプリケーションに次元を追加できます。

‡アプリケーション作成者またはアプリケーション管理者は、次元を作成したりアプリケーションに次元を追加できます。

次の表に、Performance Management Architect で実行される一般的なタスクおよび必要なアクセスのレベルを示します。次の考慮事項に注意してください:

- アプリケーション内のローカル次元、または共有ライブラリの共有次元の構造のみ編集できます。
- 役割によってコピー先に次元を作成できる場合のみ、次元をコピーできます。
- 少なくともソース次元に対するリーダー・アクセス権およびターゲット次元に対するライター・アクセス権を持っている場合のみ、次元を同期できます。
- アプリケーション作成者またはアプリケーション管理者の役割の場合のみ、アプリケーションに次元を追加できます。

表2 一般的なタスク

アクセスのレベル	次元レベルのタスク
次元所有者	<ul style="list-style-type: none"> ● 次元の構造またはプロパティの編集 ● 次元のコピー ● 次元と次元の同期 ● アプリケーションへの次元の追加 ● 次元の除去 ● 次元の削除
次元ライター	<ul style="list-style-type: none"> ● 次元の構造またはプロパティの編集 ● 次元のコピー ● 次元間の同期 ● アプリケーションへの次元の追加
次元リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ● 次元のコピー ● 次元からの同期

アクセスのレベル	次元レベルのタスク
	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーションへの次元の追加

役割の詳細については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

シナリオ

Bob Smith がアプリケーション・ライブラリのアプリケーションを選択し、そのアプリケーション・タイプに対するアプリケーション作成者の役割を持っていない場合、またはそのアプリケーションの管理者にプロビジョニングされている場合、Bob Smith がこのアプリケーションに対するアクセス権を持たないというダイアログ・ボックスが表示されます。さらに、メニュー・アイテムが使用不可となり要約情報が制限されます。次の例を考慮してください：

Bob Smith は、管理者にプロビジョニングされていない App2 を選択しましたが、作成者の役割を持っていません。そのアプリケーションを選択すると、このアプリケーションに対して権限がないことを知らせるメッセージが表示されます。Bob Smith が右クリックすると、すべてのオプションが使用不可となります。

アプリケーションが配置されていない場合、そのアプリケーション・タイプ(連結、Planning、Essbase (ASO)および Essbase (BSO))に対する作成者ユーザーは適用可能なすべてのオプションおよび要約情報を利用できます。次の例を考慮してください：

アプリケーション・ライブラリには 5 つの Planning アプリケーション・ビュー (App_6、App7、App8、App9(配置済)および App10(未配置))と 5 つの連結アプリケーション (App1、App2、App3、および App4(配置済)および App5(未配置))があります。Bob Smith は連結アプリケーション作成者、Karen Jones は Planning アプリケーション作成者、および Jim Harrington は App1 の管理者です。Bob Smith は App5 に対する適用可能なすべての操作(配置、編集、比較など)を実行できます。Karen Smith も App10 に対する適用可能なすべての操作(配置、編集、比較など)を実行できます。

配置済アプリケーションに対する管理者としてプロビジョニングされたユーザーは、すべての操作(削除、再配置、移行など)を実行できます。次の例を考慮してください：

Jim Harrington は App1 の管理者で、App1 に対するフル・アクセス権を持ちます。管理者にプロビジョニングされていないがアプリケーションの作成者であるユーザーは、製品固有の役割を必要としないすべての操作(編集、複製、比較、検証など)にアクセスできます。アプリケーション固有の役割を必要とする操作(削除、再配置および移行)はできません。たとえば、Bob Smith は App1 から App4 に対して、編集および比較できますが、削除、再配置または移行できません。

EPM System のライフサイクル管理

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System のライフサイクル管理には、EPM System 製品のアプリケーション、リポジトリ、または個別のアーチファ

クトを製品環境およびオペレーティング・システムの間で移行する一貫した方法があります。一般的には、Oracle の Hyperion(R) Shared Services Console のライフサイクル管理インタフェースは、ライフサイクル管理をサポートするすべての EPM System 製品に対して一貫しています。ただし、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 製品では、ライフサイクル管理インタフェースでアーチファクトのリスト表示、およびエクスポートとインポートのオプションの表示が異なります。

ライフサイクル管理には、次の機能があります:

- アプリケーションおよびフォルダの表示
- アーチファクトの検索
- アプリケーションおよびフォルダの比較
- 1つのアプリケーションから他のアプリケーションへの直接移行
- ファイル・システム間の移行
- 移行定義ファイルの保存およびロード
- 選択済アーチファクトの表示
- 移行の監査
- 移行のステータスの表示
- ファイル・システム上で変更をすばやく行うための、個々のアーチファクトのインポートおよびエクスポート

Shared Services Console でのライフサイクル管理インタフェースの提供に加えて、ソースから宛先にアーチファクトを移行するための代替の方法を提供する、ライフサイクル管理ユーティリティと呼ばれるコマンド・ライン・ユーティリティがあります。ライフサイクル管理ユーティリティは、Windows のタスク・スケジューラや Oracle Enterprise Manager などのサードパーティ製スケジューリング・サービスとともに使用できます。

最後に、ユーザーがライフサイクル管理の機能をカスタマイズしたり拡張したりできるようにする、ライフサイクル管理のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)が存在します。

ライフサイクル管理の詳細については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理ガイド』を参照してください。

Performance Management Architect のナビゲート

EPM Workspace で、「ナビゲート」メニューから次の項目にアクセスします:

- アプリケーション - 連結(Financial Management)アプリケーション、Planning アプリケーション、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)アプリケーションにアクセスできます。アプリケーションは、ユーザーがアクセス権を持ち、そのアプリケーションが使用可能な場合にのみ表示されます。
- 管理 - ユーザー、グループ、ユーザー・プリファレンス、役割および認証方式を管理できます。さらに、次の Performance Management Architect モジュールにもアクセスできるようになります:

- 次元ライブラリ
- アプリケーション・ライブラリ
- データの同期
- ライブラリ・ジョブ・コンソール
- アプリケーションのアップグレード

ツールバー

次のツールバーは、Performance Management Architect で使用できます:

- 標準ツールバー - 共通 EPM Workspace 機能に使用します。
- Performance Management Architect ツールバー - Performance Management Architect 固有のボタンが表示されます。

表 3 標準ツールバーのボタン












ボタン	メニュー・コマンド	説明
	該当なし	コンテンツ領域のデフォルトの領域オプションを表示します
	「ファイル」>「新規」>「ドキュメント」	ブック、バッチ、分析ドキュメント、スケジュールしたバッチ・ジョブなどのドキュメントを作成します
	「ファイル」>「開く」>「ドキュメント」	リポジトリ・ドキュメントを使用します
	「ナビゲート」>「エクスプローラ」	エクスプローラを表示し、リポジトリをファイル管理システムとして表示します
	「ファイル」>「ログオフ」	現在のセッションを終了します
	「ヘルプ」>「このトピックに関するヘルプ」	コンテンツ領域に表示されているページのヘルプを、新規ブラウザ・ウィンドウで開きます。(ノート: ヘルプ・ウィンドウのテキスト・サイズを変更するには、「表示」、「テキスト・サイズ」の順に選択します。)

表 4 Performance Management Architect ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「表示」>「リフレッシュ」	ウィンドウをリフレッシュします。
	「表示」>「トランザクション・ログのダウンロード」	「トランザクション・ログのフィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。*
	「表示」>「次元のフィルタ」	「次元のフィルタ処理」ダイアログ・ボックスが表示されます。†
	「表示」>「次元のソート」	「次元のソート」ダイアログ・ボックスが表示されます。‡

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	なし	次元ライブラリに、「メンバーの検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。 アプリケーション・ライブラリに、「アプリケーションの検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。

*次元ライブラリのみに表示されます。

†次元ライブラリのみに表示されます。

‡次元ライブラリのみに表示されます。

メニュー

Performance Management Architect オプションは、EPM Workspace オプションとともに表示されます。次の項では、Performance Management Architect のオプションについてのみ説明します。

「ファイル」メニュー

表 5 「ファイル」メニュー

コマンド	説明
「新規」>「次元」	次元を作成します。*
「新規」>「アプリケーション」	アプリケーション・ウィザードを起動します。
「新規」>「フォルダ」	新規フォルダを作成します。
「開く」>「アプリケーション」	すべてのアプリケーションがアプリケーション・タイプごとに表示されます。
「閉じる」	現在のタブ、他のタブ(開いている他のすべてのタブ)、またはすべてのタブを開きます。
「アプリケーションの編集」	編集するアプリケーションを選択可能なダイアログ・ボックスが表示されます。†
「インポート」>「プロファイルの作成」	インポート・プロファイルを作成します。‡
「インポート」>「次元のインポート」	「次元のインポート」ダイアログ・ボックスを使用して次元をインポートします。‡
「インポート」>「インタフェース領域の消去」	インタフェース領域を消去します。‡

*次元ライブラリのみに表示されます。

†次元ライブラリのみに表示されます。

‡次元ライブラリのみに表示されます。

‡次元ライブラリのみに表示されます。

‡次元ライブラリのみに表示されます。

「編集」メニュー

「編集」メニューを使用すると、次元ライブラリでの検索およびソート条件の設定に関連するタスクを実行できます。

表 6 「編集」メニュー

コマンド	説明
検索	プロパティ、名前、別名によりメンバーを検索します。
「フィルタ条件の消去」	適用されたフィルタを消去します。
「ソート条件の消去」	適用されたソートを消去します。

「表示」メニュー

「表示」メニューを使用すると、Performance Management Architect に特定のペインを表示できます。これらのオプションは、切り替えることはできません。ペインを閉じるには、閉じるボタンを使用します。

表 7 「表示」メニュー

コマンド	説明
EPM Workspace	
ビュー・ペイン	EPM Workspace ビュー・ペインが表示されます。ビュー・ペインを非表示にするには、「非表示」をクリックします(縦区切り線の中央、または「表示」、「ビュー・ペイン」の順にクリック。)
次元ライブラリ	
共有ライブラリの表示	共有ライブラリが表示されます。
アプリケーションの表示	アプリケーション・ペインが表示されます。
プロパティ・グリッドの表示	プロパティ・グリッドが表示されます。
メンバー・リストの表示	「メンバーの検索」ペインが表示されます。
リフレッシュ	表示をリフレッシュします。
トランザクション・ログのダウンロード	「トランザクション・ログのフィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
メンバーの表示	別名次元に使用します。このオプションを選択した場合、手動でリフレッシュする必要があります。リフレッシュすると、システム・プロパティで指定されたデフォルト・メンバーが存在する別名次元に関連付けられた次元の変更内容が表示されます。
次元のソート	次元を昇順または降順にソートします。
次元のフィルタ	次元を名前、タイプ、または所有者によってフィルタします。

コマンド	説明
データの同期、ライブラリ・ジョブ・コンソールおよびアプリケーション・ライブラリ	
アイコン	アイコンおよびアーチファクトの名前が表示されます。*
詳細	アーチファクト名、説明および詳細が表示されます。
リフレッシュ	表示をリフレッシュします。
フィルタ	「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示され、表示内容をフィルタできます。
「フィルタ条件の消去」	適用されたフィルタを消去します。

*データの同期およびアプリケーション・ライブラリでのみ表示されます。

管理メニュー

Performance Management Architect モジュール(次元ライブラリ、アプリケーション・ライブラリ、ライブラリ・ジョブ・コンソールまたはデータの同期)にアクセスすると、「管理」メニューが表示されます。

表 8 管理メニュー

コマンド	説明
タスクフローの管理	通常行うタスクを自動化します。
タスクフロー・ステータスの表示	自動化されたタスクのステータスを表示します。

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューから、Performance Management Architect のオンライン・ヘルプ、Oracle サポート、Oracle Technology Network、Oracle Web サイトおよび Performance Management Architect に関する情報にアクセスできます。

Performance Management Architect へのクラシック・アプリケーションの移動

アプリケーション管理に Performance Management Architect を使用するには、Financial Management または Planning クラシック管理を使用して管理されているアプリケーションを移動します。

クラシック・アプリケーション管理機能(Performance Management Architect では管理されないアプリケーション用)の詳細は、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』または『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

注： アプリケーションは、移動前にリリース 11.1.1 にアップグレードしておく必要があります。

クラシック・アプリケーション管理で作成したアプリケーションを Performance Management Architect に移動すると、そのアプリケーションをクラシック・アプリケーション管理には戻せません。

アプリケーションを移動する前に実行するタスク

- Planning の以前のリリースで作成されたフラット・ファイルを使用している場合、リリース 11.1.1 でのフラット・ファイルの使用に必要な更新については、[570 ページの「リリース 9.3.1 で作成されたフラット・ファイルの使用方法」](#)を参照してください。
 - クラシック Planning アプリケーションを Performance Management Architect に移動する前に、属性次元の名前に含まれているスペースを除去します。たとえば、Extra Small という属性は ExtraSmall に変更します
 - クラシック Planning アプリケーションを Performance Management Architect に移動する前に、すべてのユーザーがアプリケーションをログオフする必要があります。ユーザーに通知するには、ブロードキャスト・メッセージを送信します。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。
 - Performance Management Architect アプリケーションのサポートを使用可能にするには、Financial Management アプリケーション・サーバーに IIS をインストールする必要があります。ただし、ASP コンポーネントを使用可能にする必要はありません。
- ▶ アップグレードしたアプリケーションを Performance Management Architect に移動するには、次の手順を行います:
- 1 Workspace で、移動」>「管理」>「アプリケーションのアップグレードを選択します。
 - 2 「よろこそ」画面を確認し、次へをクリックします。

アップグレード要約ページに、ユーザーがアップグレードするためにアクセスできるアプリケーションが表示されます。(この情報は、Shared Services サーバーから得られます。アプリケーションをアップグレードできない場合は、説明が表示されます。)
 - 3 アプリケーションの選択ページで、アップグレードするアプリケーションを、アップグレードするアプリケーションリストに追加し、次へをクリックします。
 - 4 アップグレードするアプリケーションの要約を確認し、次へをクリックしてアップグレードを実行します。
 - 5 終了をクリックすると、ジョブ・コンソールにアップグレード・プロセスが表示されます。
 - 6 アプリケーション・ライブラリを開き、アプリケーションが Performance Management Architect に存在することを確認します。
 - 7 次元ライブラリに移動し、Performance Management Architect に追加された次元を確認します。
 - 8 アプリケーションを開きます。

- 注：** Performance Management Architect へのアプリケーションの転送が成功しない場合は、ジョブ・コンソールのインポート・ジョブ・ログで転送に関する詳細情報を参照できます。
- 注：** Planning アプリケーションが Performance Management Architect に移動されると、最初に検出された Planning のメンバーが共有されます。アップグレード後もこのメンバーは共有されたままであり、Planning と Performance Management Architect の階層が同じになります。

2

Performance Management Architect サーバーの管理

この章の内容

Performance Management Architect サービス	39
Performance Management Architect 次元サーバーの開始および停止	40
Performance Management Architect アプリケーション・サーバーの開始および停止	41
Performance Management Architect データ・シンクロナイザ・サーバーの起動および停止	42

Performance Management Architect では、次の 3 つのサーバーを実行する必要があります:

- 次元サーバー
- Performance Management Architect アプリケーション・サーバー
- データ・シンクロナイザ・サーバー

サーバーを開始する前に、共有サービス、EPM Workspace、IIS および特定の Windows サービスが確実に実行されるようにする必要があります。

Performance Management Architect サービス

5 つの Windows サービス・アプリケーションおよび少なくとも 1 つの Windows コンソール・アプリケーションが Performance Management Architect で実行されます。これらはすべて 1 台のサーバー上で実行される必要があります。

表 9 Performance Management Architect サービスおよびコンソール・アプリケーション

Performance Management Architect アプリケーション	説明
プロセス・マネージャ Windows サービス HyS9BPMA_ProcessManager.exe	次元サーバー・エンジンのすべてのインスタンスを管理します。その他すべての Performance Management Architect Windows サービス・アプリケーションの開始および停止を行います。
イベント・マネージャ Windows サービス HyS9EPMA_EventManager.exe	アプリケーション間通信の手段として、様々なサーバー・アプリケーション間にイベント・メッセージを配布します。
エンジン・マネージャ Windows サービス HyS9EPMA_EngineManager.exe	プロセス・マネージャからの要求に応じて、次元サーバー・エンジンのインスタンスの開始および停止を行います。

Performance Management Architect アプリケーション	説明
ジョブ・マネージャ Windows サービス HyS9EPMA_JobManager.exe	Performance Management Architect によって長時間実行されるタスクを管理します。これらのジョブは、次元サーバー・エンジン内部で実行されますが、そのステータスおよび結果はこの管理アプリケーションによって管理されます。
NetJNIBridge Windows サービス HyS9BPMA_NetJNIBridge.exe	Performance Management Architect サーバー・アプリケーションおよび Shared Services (HSS) Java アプリケーション間のブリッジとなります。
次元サーバー・エンジン Windows コンソール・アプリケーション dimension_server.exe	ライブラリ・データのすべての読取りまたは書込み処理を扱います。Web サービスを介して公開された API 経由で送られるサーバー要求を処理するプロキシ・レイヤーをホストします。エンジン・インスタンスはエンジン・マネージャ・サービスによって管理されます。エンジン・マネージャは、プロセス・マネージャ・アプリケーションから受信するメッセージに基づいて、エンジン・インスタンスの開始および停止を行います。

前述した Windows サービス・アプリケーションのうち1つを除くすべてが、「手動」スタートアップ・モードでインストールされるため、ホスト・サーバーが再起動したときに自動的に実行されません。また、これらのサービスの手動での起動もできません。ただし、プロセス・マネージャ・アプリケーションが「自動」スタートアップ・モードでインストールされ、必要に応じて、および BPMA ServerConfig.xml ファイルの構成に応じて、「手動」サービスの開始および停止を行います。

注： Shared Services 管理者ユーザー(Shared Services データベース・ユーザーではない)の管理者パスワードを変更すると、Performance Management Architect のプロセス・マネージャ・サービスが実行しなくなります。Performance Management Architect の「データベースの構成」タスクを再度実行し、プロセス・マネージャ・サービスを再起動する必要があります。また、Performance Management Architect データベース・ユーザーまたはパスワードを変更する場合にも、「データベースの構成」タスクを再度実行し、Performance Management Architect データベース・ユーザーおよびパスワードを入力する必要があります。再構成後に、プロセス・マネージャ・サービスを再起動します。

Performance Management Architect 次元サーバーの開始および停止

Performance Management Architect 次元サーバーは、「開始」メニューまたは「サービス」パネルから開始および停止できます。

- ▶ 次元サーバーを開始または停止するには:
次のいずれかを行います:

- スタート、プログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect の順に選択し、次元サーバーの開始または次元サーバーの停止を選択します。
- 「サービス」パネルから Hyperion EPM Architect プロセス・マネージャを開始します。

▶ 次元サーバーのスタートアップのタイムアウト設定を高くするには:

次元サーバーのサービス(Hyperion EPM Architect プロセス・マネージャ)の開始時に問題が発生する場合は、タイムアウト設定を変更できます。次元サーバーのスタートアップに対するデフォルト・タイムアウト設定は 180 秒です。

1. BPMA_Server_Config.xml を開きます。このファイルは、Hyperion¥products ¥Foundation¥BPMA¥AppServer¥DimensionServer¥ServerEngine¥bin にあります。
2. Config、ProcessManager の下から DimensionServerStartupTimeout を探して、タイムアウト値(秒単位)を変更します。

すべての BPMA_Server_Config.xml 設定の詳細は、[付録 H](#)

「BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定」を参照してください。

Performance Management Architect アプリケーション・サーバーの開始および停止

Performance Management Architect アプリケーション・サーバーは、「サービス」パネル、「スタート」メニューから、またはコマンドを使用して開始および停止できます。コマンドの場所は、使用している Java アプリケーション・サーバーによって異なります。

▶ EPM Architect アプリケーション・サーバーを開始または停止するには:

次のいずれかを行います:

- 「サービス」パネルから Hyperion EPM Architect Web アプリケーションを開始します。
- スタート、プログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect、Performance Management Architect Web の開始(停止)の順に選択します。

Java アプリケーション・サーバーをホストしているコンピュータから、サーバーを開始または停止するコマンドを見つけます。

表 10 StartEPMAWebServer および StopEPMAWeb Server コマンドの場所の例

使用しているサーバー:	次のディレクトリに移動(例)	実行するコマンド
<ul style="list-style-type: none"> ● Tomcat 5 ● WebLogic 9 ● WebSphere 6 	<ドライブ文字>:¥Hyperion ¥deployments ¥<AppServerNameVersion> ¥bin	startEPMAWebTier.bat または stopEPMAWebTier.bat をダブルクリック

使用しているサーバー:	次のディレクトリに移動(例)	実行するコマンド
WebLogic 8.1.6	<ドライブ文字>:\Hyperion \%products%\Foundation \%BPMA%\AppServer \%InstalledApps%\WebLogic \%<version>\%BPMAWebServer \%bin	startEPMAWebTier.bat または stopEPMAWebTier.bat をダブルクリック

Performance Management Architect データ・シンクロナイザ・サーバーの起動および停止

Performance Management Architect のデータ移動機能を使用するにはデータ・シンクロナイザ・サーバーを開始する必要があります。ただし、EPM Workspace にログインする必要はありません。

Performance Management Architect は「サービス」パネル、「スタート」メニュー、またはコマンドを使用して起動および停止できます。コマンドの位置は、どの Java アプリケーション・サーバーを使用しているかで決まります。

- ▶ EPM Architect データ・シンクロナイザ・サーバーを起動または停止するには:

次のいずれかを行います:

- 「サービス」パネルから Hyperion EPM Architect Data Synchronization – Web Application を起動します。
- スタート、すべてのプログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect、データ・シンクロナイザの開始(停止)の順に選択します。
- Java アプリケーション・サーバーをホストしているコンピュータから、サーバーを開始または停止するコマンドを見つけます。

表 11 StartEPMAWebServer および StopEPMAWeb Server コマンドの場所の例

使用しているサーバー:	次のディレクトリに移動(例)	実行するコマンド
<ul style="list-style-type: none"> ○ Tomcat 5 ○ WebLogic 9 ○ WebSphere 6 	<ドライブ文字>:\Hyperion \%deployments \%<AppNameVersion> \%bin	startEPMADataSynchronizer.bat または stopEPMADataSynchronizer.bat をダブルクリックします
WebLogic 8.1.6	<ドライブ文字>:\Hyperion \%products%\Foundation \%BPMA%\AppServer \%InstalledApps%\WebLogic \%<version> \%BPMAWebServer%\bin	startEPMADataSynchronizer.bat または stopEPMADataSynchronizer.bat をダブルクリックします

第 II 部

アプリケーション・メタデータの管理

アプリケーション・メタデータの管理の内容：

- [メタデータのインポート](#)
- [次元の操作](#)
- [メンバーの操作](#)
- [アプリケーションの構築](#)
- [アプリケーションの管理](#)

3

メタデータのインポート

この章の内容

フラット・ファイルの作成.....	48
インタフェース・テーブルの使用方法.....	56
インポート・プロファイルの作成.....	63
インポート・プロファイルの管理.....	70



次元ライブラリは、次元および階層を表示、作成および管理するための、Financial Management、Profitability and Cost Management および Planning の管理者のための中心的な場所です。

共有ライブラリまたは個々のアプリケーションに次元情報(メタデータ)をインポートするには、1)インポート・フラット・ファイルを作成してインポートするか、2)インタフェース・テーブルからメタデータをインポートします。

注意 次元ライブラリの次元にアクセスするには、適切なセキュリティ・ログイン情報が必要です。たとえば、次元エディタ・セキュリティ役割を持っている場合、次元やメンバーの作成、削除および変更、インポート・プロファイルの作成、トランザクション・ログの実行など、次元ライブラリのすべての機能にアクセスできます。また、次元レベル・セキュリティを使用すると、個々の次元へのユーザー・アクセスを制御できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

次の表では、Performance Management Architect でサポートされる次元タイプについて説明します。共有ライブラリでは、各次元タイプはアイコンで表されます。

表 12 次元タイプ

アイコン	タイプ	説明
	勘定科目	アプリケーションにおける純利益および売上などの勘定科目の種別情報のチャート。
	別名	Financial Management アプリケーションの次元メンバーの説明または言語のセットを定義し、Planning、Profitability and Cost Management および Oracle

アイコン	タイプ	説明
		Essbase アプリケーションの別名テーブルを作成します。
	AllocationType	直接割当ておよび割当て系統関係を保管します。収益性アプリケーションに必須です。
	属性	Planning アプリケーションおよび Essbase アプリケーションで次元のメンバーを分類します。
	連結メソッド	Financial Management アプリケーションの連結動作を表します。
	国	Essbase アプリケーションの多数の国のビジネス・アクティビティを追跡調査します。次元に国のタグを付けると、「通貨」テキスト・ボックスに通貨名を入力できます。 注： この次元タイプは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。
	通貨	マルチ通貨アプリケーションにおける通貨。
	エンティティ	アプリケーションにおけるエンティティまたは組織構造。
	汎用	すべてのアプリケーション・タイプで使用できるカスタム次元
	ICP	Financial Management アプリケーションで ICP エンティティなどの内部取引情報を指定します。連結アプリケーションに ICP 次元を含めると、そのアプリケーション内のエンティティ次元のメンバーが自動的に挿入されます。これらのメンバーの編集や変更はできません。この次元は連結アプリケーションに含める必要があります。
	メジャー	Profitability and Cost Management モデルを構築、検証および計算するために必要となります。
	期間	月、四半期および半期などのアプリケーションの期間構造。

アイコン	タイプ	説明
	シナリオ	実績および予算などのアプリケーションのシナリオ。
	セキュリティ・クラス	Financial Management アプリケーションのセキュリティ・クラス情報。
	スマート・リスト	Planning アプリケーションのスマート・リスト情報。
	時間	Essbase アプリケーションでデータを連結および更新する頻度を指定します。Essbase アウトラインの1つの次元にのみ時間のタグを付けられます。
	UDA	Planning アプリケーションでユーザー定義属性(UDA)情報を指定します。
	値	Financial Management アプリケーションの値次元に相当します。連結アプリケーションに値次元を含めると、そのアプリケーションの通貨次元のメンバーに基づいて、3つの通貨メンバーが自動的に生成されます。これらのメンバーの編集や変更はできません。この次元は連結アプリケーションに含める必要があります。
	バージョン	Planning アプリケーションのバージョン1および最終バージョンなどのバージョン情報。
	ビュー	Financial Management アプリケーションのビュー次元に相当します。この次元には、システムの期別メンバーに加え、特定のアプリケーションの期間次元の各レベルに相当するメンバーを含める必要があります。たとえば、期間次元に月、四半期および半期が含まれている場合、ビュー次元には、期別、MTD、QTD、HTD、YTDなどのメンバーを含める必要があります。
	年	アプリケーションに使用する年

アプリケーションを作成する前に、これらのアプリケーションに含める次元のいくつかを定義する必要があります。

- ▶ 次元ライブラリにアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「次元ライブラリの順」に選択します。

フラット・ファイルの作成

フラット・ファイルを作成することで、次元を次元ライブラリにインポートできます。フラット・ファイルを作成して次元をインポートする前に、次の項を参照してください:

- [48 ページの「フラット・ファイルのエンコーディング」](#)
- [48 ページの「フラット・ファイルの構文」](#)
- [48 ページの「フラット・ファイルの特殊文字」](#)

フラット・ファイルのエンコーディング

Performance Management Architect インポートは、UTF-8、UTF-16LE、UTF-16BE、UTF-32LE、UTF-32BE のいずれかのエンコードの ADS フォーマットのテキスト・ファイルをサポートしています。また、ASCII エンコード・ファイルも読み取れますが、英字に限られます。ファイルには、保存されたファイルに使用するエンコードを判別するバイト順マークを含める必要があります。バイト順マークがない場合、デフォルトは UTF-8 です。

フラット・ファイルの構文

フラット・ファイルには次のセクションが含まれており、自由に順序を変更できます。

- [次元 - 49 ページの「次元セクション」](#) を参照してください。
- [次元の関連付け - 50 ページの「次元の関連付けセクション」](#) を参照してください。
- [メンバー - 50 ページの「メンバー・セクション」](#) を参照してください。
- [階層 - 52 ページの「階層セクション」](#) を参照してください。
- [プロパティ配列 - 54 ページの「プロパティ配列セクション」](#) を参照してください。

フラット・ファイルの特殊文字

感嘆符(!)は、セクションの始まりを示します。感嘆符の後には有効なセクション名(Dimensions や DimensionAssociations など)が続く必要があります。

アポストロフィ(')で始まる行は、各セクションの列を定義します。各セクションのヘッダー行の後には、列ヘッダー/定義行が続く必要があります。次に例を示します:

```
!Section=Dimensions
```

```
'Name|DimensionClass|DimensionAlias|DimensionStorageType|
```


AllowDuplicatesInDimension | CommentDuplicate | ConsolidationDuplicate |
 DataStorageDuplicate | DimensionHierarchyType | DimensionSolveOrder |
 MemberFormulaDuplicate | MemberSolveOrderDuplicate | SkipValueDuplicate |
 TimeBalanceDuplicate | UDADuplicate | TwoPassCalcDuplicate |
 VarianceReportingDuplicate | DimDataStorage | DimValidForCapex |
 DimValidForPlan1 | DimValidForPlan2 | DimValidForPlan3 | DimValidForWorkforce |
 EnumOrder1 | EnumOrder2 | EnumOrder3 | EnumOrderCapex | EnumOrderWF |
 AttributeType | CurrencyNameDuplicate | customDimensionId | ApplySecurity |
 DisplayOrder | GridMissingLabelType | Increment | SmartListLabel | StartValue

TRUE および FALSE 値は、それぞれ Y および N として表されます。

セミコロン(;), カンマ(,), パイプ(|), スペースおよびタブは、有効なフィールド/列の区切り文字です。

注： インポート・ファイルにスペースを含むプロパティ名は含められません。たとえば、関連付けられた次元が属性次元の場合に次元の関連付けを指定する場合、その次元の関連付けセクションで指定されたプロパティ名にスペースを含めないでください。

次元セクション

次元セクションは、インポートされる次元を定義します。このセクションで定義される次元が共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションに存在しない場合、その次元はインポートの実行中に作成されます。共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションに存在する次元は、このセクションで定義されるプロパティ値を持ち、その値はインポートの実行中に更新されます。このセクションでは、Performance Management Architect でサポートされるすべての次元レベル・プロパティのサブセットまたは全部を定義できます。列ヘッダ行で使用されるプロパティ名は、Performance Management Architect の次元プロパティ名と厳密に一致する必要はありません。ファイルのプロパティ名を、インポート・プロファイルの対応する Performance Management Architect プロパティ名にマッピングできます。

注： このセクションは必須であり、フラット・ファイルに常に存在する必要があります。

構文

```
!Section=Dimensions
```

```
'名前;DimensionClass;Dimension_Property1;... ;Dimension_PropertyN
```

パラメータ	説明
名前	次元名(通貨など)。このパラメータは必須です。
DimensionClass	次元タイプ(汎用など)。このパラメータは、新規次元には必須です。
Dimension_PropertyX	次元レベルのプロパティ名。

例

```
!Section=Dimensions
'Name;DimensionClass;DimensionAlias
MyCurrency;Currency;Currencies
MyScenario;Scenario;Scenarios
MyEntity;Entity;Entities
MyAccount;Account;Accounts
```

次元の関連付けセクション

このセクションには、勘定科目次元とセキュリティ・クラス次元の間の関連付けなどの、次元間の関連付けに関する情報が含まれています。

注： メンバーのプロパティが別の次元を参照している場合、新規次元と、置換モード使用時の次元には、このセクションは必須です。マージ・モードを使用する場合の次元には、このセクションはオプションです。

構文

```
!Section =DimensionAssociations
'BaseDimension;プロパティ;TargetDimension
```

パラメータ	説明
BaseDimension	メンバーのプロパティが別の次元に関連付けられる基本次元の名前。これは必須列です。
Property	関連付けられたプロパティの名前('Alias'など)。これは必須列です。
TargetDimension	プロパティが関連付けられる次元の名前。これは必須列です。

例

```
!Section=DimensionAssociations
'BaseDimension;Property;TargetDimension
Currency;SecurityClass;MySecurityClassDimension
Scenario;Alias;MyAliasDimension
Account;UDA;MyUDADimension
```

メンバー・セクション

このセクションでは、次元メンバーとそのメンバー・プロパティを定義します。関係メンバー・プロパティは、親子関係を必要とするので、このセクションでは定義できません。たとえば、'AggregationWeight'はメンバー・セクションで定義できません。

次元のプロパティについては、次の製品固有の付録で定義されています:

- 付録 A 「Financial Management 次元の操作」
- 付録 B 「プランニング次元の操作」
- 付録 C 「Profitability and Cost Management プロパティの操作」

- 付録 D 「Essbase プロパティの操作」

注： このセクションはオプションです。メンバー・プロパティ値は、フラット・ファイルの Hierarchies および PropertyArray セクションでも定義できます。

構文

```
!Members=Dimension_Name
```

```
'Name;Member_Property1;…;Member_PropertyN
```

パラメータ	説明
Dimension_Name	メンバーが定義されている次元の名前。
Name	メンバー名(Euro など)。これは必須列です。
Member_PropertyX	個別の次元タイプのメンバーレベル・プロパティ名。プロパティについては、製品固有の付録を参照してください。

例

```
!Members=Currency
'Name;Scale;TranslationOperator;DisplayInICT
EURO;Whole;;y
GBR;Whole;;
USD;Whole;;

!Members=Scenario
'Name;DefaultFrequency;DefaultView;ZeroViewForNonAdj;_
ZeroViewForAdjConsolidateYTD;MaximumReviewLevel;UsesLineItems;_
Creating Flat Files 3
EnableProcessManagement;SecurityClass;EnableDataAudit;_
DefFreqForICTrans
Actual;MTD;Periodic;Periodic;Periodic;N;10;Y;N;;Y;MTD
Budget;MTD;Periodic;Periodic;Periodic;N;10;Y;Y;;Y;MTD

!Members=Entity
'Name;Currency;AllowAdjs;AllowAdjFromChildren;_
HoldingCompany;SecurityAsPartner;IsICP;SecurityClass
Entity_[None];[None];N;N;;N;
Regional;USD;Y;N;;N;CORPORATE
UnitedStates;USD;Y;Y;;N;US

!Members=Account
'Name;ConsolidationAccountType;IsCalculated;_
IsConsolidated;PlugAccount;Custom1TopMember;Custom2TopMember;_
Custom3TopMember;Custom4TopMember;NumDecimalPlaces;_
EnableCustom1Aggr;EnableCustom2Aggr;EnableCustom3Aggr;_
EnableCustom4Aggr;XBRLTags;ICPTopMember;IsICP;UsesLineItems;_
SecurityClass;EnableDataAudit;CalcAttribute
Account_[None];Revenue;N;N;;0;Y;Y;Y;;N;N;N;
ExchangeRates;GroupLabel;Y;Y;;0;Y;Y;Y;;N;N;N;
Plug;Revenue;N;Y;;0;Y;Y;Y;;N;N;N;
```

階層セクション

このセクションでは、次元メンバー、それらのメンバー・プロパティと関係プロパティ、および階層/親-子関係を定義します。

- このセクションは、新規次元および置換方法を使用する既存の次元には必須です。
- このセクションは、マージ方法を使用する既存の次元にはオプションです。
- このセクションは、親の下にあるメンバーの順序を制御します。親の下にあるすべてのメンバーが階層セクションにある場合、既存の次元のメンバーは置換モードのインポート実行中に順序変更されます。

構文

```
!Hierarchies=Dimension_Name
```

```
'Parent;Child;Member-Relationship_Property1;…;Member-Relationship_PropertyN
```

パラメータ	説明
Dimension_Name	メンバーが定義されている次元の名前。
Parent	親メンバーの名前。これは必須列です。
Child	子メンバーの名前。これは必須列です。
Member-Relationship_PropertyX	個々の次元タイプのメンバーレベルのプロパティまたはメンバー関係プロパティの名前。メンバー・プロパティ情報については、製品固有の付録を参照してください。
IsPrimary	オプション。親の下にあるメンバーのインスタンスがプライマリか、または共有かを指定します。53 ページの「 IsPrimary を使用したメンバーのプライマリおよび共有インスタンスの指定 」を参照してください。

例

```
!Hierarchies=Currency
```

```
'Parent;Child
```

```
#root;EURO
```

```
#root;GBR
```

```
#root;USD
```

```
!Hierarchies=Scenario
```

```
'Parent;Child
```

```
#root;Actual
```

```
#root;Budget
```

```
!Hierarchies=Entity
```

```
'Parent;Child
```

```
#root;Entity_[None]
```

```
#root;Regional
```

```
Regional;UnitedStates
```

```
UnitedStates;California
```

```
California;Sunnyvale
```

```
California;FosterCity
```

```

UnitedStates;Connecticut
Connecticut;Stamford

!Hierarchies=Account
'Parent;Child
#root;Account_[None]
#root;ExchangeRates
ExchangeRates;Rate1
ExchangeRates;Rate2
#root;Plug

```

注： トークン「#root」は、一番上の次元メンバーを親として参照するために使用されます。また、次元名を使用して、一番上の次元メンバーを親として参照できます。

ヒント： Alias および UDA など、複数の値を含んだプロパティは、階層セクションで定義できます。

例

階層セクションでの Alias プロパティの定義例:

```

!Hierarchies=Entity
'Parent;Child;DefaultParent;Currency;AllowAdjs;AllowAdjFromChildren;Hold
ingCompany;Alias=English;Alias=French
#root;Entity_[None];Y;[None];N;N;;Entity None Alias;French None Alias
#root;Regional;Y;USD;Y;N;;Regional Operations;Operationes Regionale

```

例

階層セクションでの UDA プロパティの定義例:

```

!Hierarchies=Plan1Account
'Parent;Child;UDA1; UDA2;UDA3;
111092;HSP_NOLINK;Plan1;Plan3
111093;HSP_NOLINK;Plan3

```

IsPrimary を使用したメンバーのプライマリおよび共有インスタンスの指定

メンバーが次元に複数のインスタンスを持っている場合、IsPrimary 列を使用して、どのインスタンスがプライマリかと、どのインスタンスが共有されているかを明示的に指定できます。この列はオプションです。これを指定しないと、処理されるメンバーの最初のインスタンスがプライマリ・インスタンスになります。

注： インポート・データに IsPrimary 列が含まれている場合、MergeAsShared フラグ(ユーザー・インタフェースのチェック・ボックス)は、インポート・プロファイルを作成するときに無視されます。インポート・プロファイルの詳細は、[63 ページの「インポート・プロファイルの作成」](#)を参照してください。

プロパティ配列セクション

このセクションを使用して、次元のメンバーに対して複数值および単一値プロパティを定義できます。

製品固有のメンバー・レベル・プロパティについては、付録 A 「Financial Management 次元の操作」、付録 B 「プランニング次元の操作」、583 ページの「次元プロパティおよびメンバー・プロパティ」、および付録 D 「Essbase プロパティの操作」を参照してください。

注： このセクションはオプションです。

構文

```
!PropertyArray=Dimension_Name
```

```
'Property;Name;Key;Value;
```

パラメータ	説明
Dimension_Name	メンバーが定義されている次元の名前。
Property	変更されるプロパティの名前。この列は必須です。
Name	プロパティが変更されるメンバーの名前。この列は必須です。
Key	プロパティが次の値の場合: UDA - UDA 値。空白の場合は、このメンバーのすべての UDA が削除されます。 別名 - 別名テーブル名または説明名。空白のままである場合は、このメンバーのすべての別名値が削除されます。 その他 - 常に空白にしておく必要があります。
Value	プロパティが次の値の場合: UDA - 常に空白にしておく必要があります。 別名 - キーで指定した値に対応する別名または説明。空白のままである場合は、このメンバーの別名値とキーは削除されます。 その他 - プロパティ値。

例

Alias プロパティ値の定義

```
!PropertyArray=Currency  
'Property;Name;Key;Value  
Alias;EURO;English;European Euro  
Alias;EURO;French;  
Alias;EURO;German;  
Alias;EURO;Italian;  
Alias;EURO;Japanese;  
Alias;GBR;English;Great Britain Pounds  
Alias;GBR;French;  
Alias;GBR;German;
```

```
Alias;GBR;Italian;
Alias;GBR;Japanese;
Alias;USD;English;United Stated Dollars
Alias;USD;French;
Alias;USD;German;
Alias;USD;Italian;
Alias;USD;Japanese;
```

別名値の削除(値は空白のまま)

```
!PropertyArray=Currency
'Property;Name;Key;Value
Alias;EURO;English;
```

メンバーの別名値をすべて削除(キーと値は空白のまま)

```
!PropertyArray=Currency
'Property;Name;Key;Value
Alias;EURO;;
```

UDA プロパティ値の定義

```
!PropertyArray=Account
'Property;Name;Key;Value
UDA;ExchangeRates;UDA1;
UDA;ExchangeRates;UDA2;
```

```
UDA;Plug;UDA1;
UDA;Plug;UDA2;
```

メンバーの UDA 値をすべて削除(キーと値は空白のまま)

```
!PropertyArray=Account
'Property;Name;Key;Value
UDA;ExchangeRates;;
```

単一プロパティ値の定義

```
!PropertyArray=Account
'Property|Name|Key|Value
ACCOUNTTYPE|MemberRev||Revenue
ACCOUNTTYPE|MemberExp||Expense
```

Performance Management Architect は次元インポートの単一値メンバー・プロパティをサポートします。これにより、フラット・ファイル!PropertyArray セクションまたはプロパティ配列インタフェース・テーブルにキーを入力せずに、メンバー、プロパティおよび値を入力でき、配列プロパティとは対照的に単一値メンバー・プロパティ割当てとして処理されます。インタフェース・テーブルでは、データは次のようになります:

ロード ID	プロパティ	名前	キー	値
1	ACCOUNTTYPE	MemberRev		収益
2	ACCOUNTTYPE	MemberExp		支出

フラット・ファイルで、!PropertyArray セクションは次のようになります:

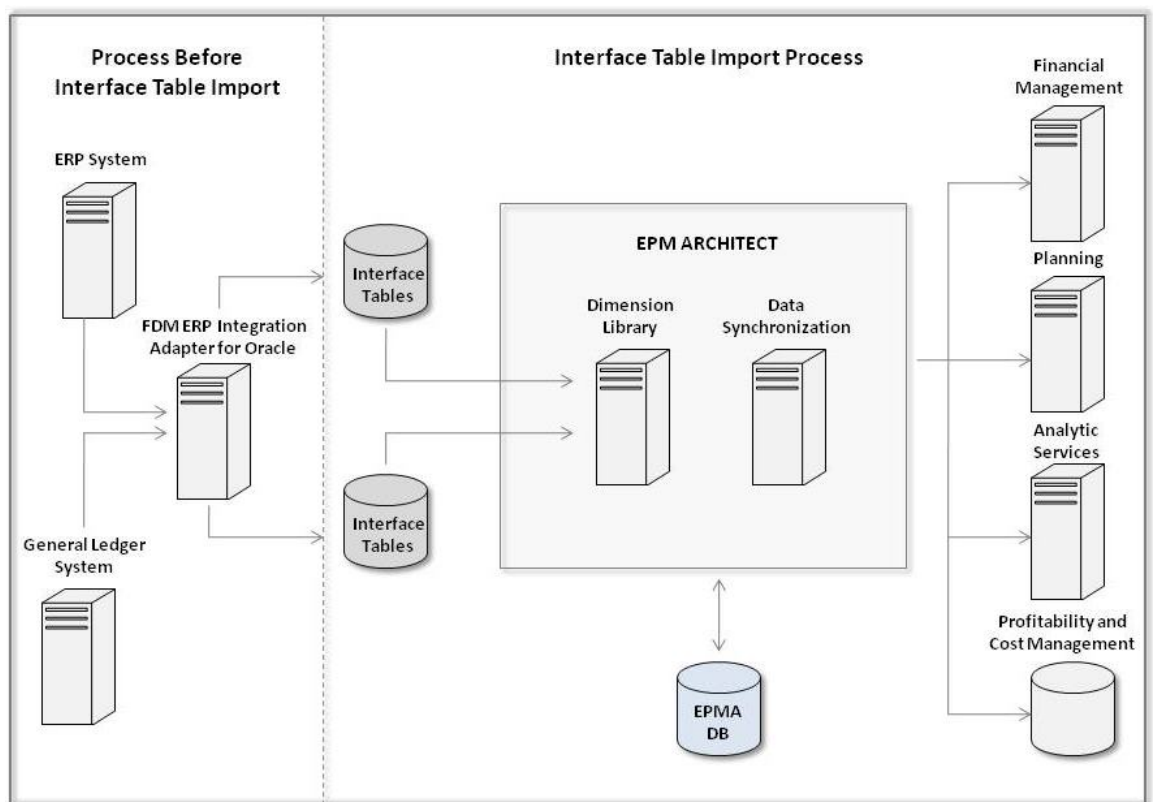
```
!PropertyArray=Account
'Property|Name|Key|Value
```

ACCOUNTTYPE | MemberRev | Revenue
ACCOUNTTYPE | MemberExp | Expense

この利点は、ACCOUNTTYPE プロパティが現在インポートされたデータの一部でなかった場合に割当てを開始するとき、ACCOUNTTYPE 列を HS_*Member または HS_*Hierarchy テーブルに追加する必要がないという点にあります。フラット・ファイルのインポートでは、ACCOUNTTYPE 列を生成された!Members および!Hierarchies セクションに追加する必要がありません。

インタフェース・テーブルの使用方法

インタフェース・テーブルでは、リレーショナル・データベースを介した、外部システムから Performance Management Architect へのデータおよびメタデータのインポートが可能です。



インタフェース・テーブルからのメタデータのインポートは、2段階のプロセスから構成されます。Performance Management Architect 外で行われる第1段階を点線で図に示します。第2段階は Performance Management Architect 内で行われます。

1. ERP システムまたは総勘定元帳システムから ERP Integrator への情報の移動
2. Oracle Hyperion Financial Data Quality Management ERP Integration Adapter for Oracle Applications から Performance Management Architect インタフェース・テーブルへの情報の移動
3. インタフェース・テーブルから Performance Management Architect へのメタデータのインポート。

4. インポートされたメタデータを使用する Financial Management アプリケーション、Profitability and Cost Management アプリケーション、Planning および Essbase アプリケーションの作成

複数の Performance Management Architect インタフェース・テーブルの定義を構成できます。Performance Management Architect とインタフェース・テーブルのデータベース・タイプは異なる可能性があります。たとえば、Performance Management Architect データベースは SQL Server を使用し、Performance Management Architect インタフェースは Oracle を使用できます。ベスト・プラクティスとしては、インタフェース・テーブルを Performance Management Architect と同じデータベース・テーブルスペースで構成しないでください。

インタフェース・データ・ソースの構成

この手順は、Performance Management Architect でインタフェース・テーブルを使用する場合に必要となります。インタフェース・テーブルは、外部システムから Performance Management Architect へのメタデータおよびデータのインポートを使用可能にする一連のテーブルやビューで構成されます。メタデータおよびデータをインタフェース・テーブルからインポートするには、その前に、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータを実行して、Performance Management Architect インタフェース・テーブルを構成する必要があります。テーブルを構成するには、プロファイル作成中およびデータ同期中に使用できるデータ・ソース・リンクを作成します。

第 3 章「メタデータのインポート」および第 17 章「データの同期」を参照してください。

- ▶ インタフェース・データソースを作成するには:
 - 1 スタート」、「すべてのプログラム」、「Hyperion」、「Foundation Service」、「EPM System コンフィグレータの順にクリックします。
 - 2 製品選択パネルから、Foundation の下の Performance Management Architect を選択し、インタフェース・データソース構成を選択して、次へをクリックします。
 - 3 新規データソース・リンクを作成してくださいを選択して、次へをクリックします。
 - 4 データベース・タイプ(Oracle、Microsoft SQL Server、または IBM DB2)を選択して、次へをクリックします。
 - 5 インタフェース・データソースに詳細を入力します:
 1. データソースの名前を入力します。デフォルトの「データソース」が表示されますが、変更できません。
 2. 「ホストの詳細」で、データベースをホストしているサーバーの名前およびポート番号を入力します(データベース・タイプに基づくデフォルト表示)。
 3. 「データベースの詳細」で、インタフェースとして使用するデータベース名、データベース・ユーザー名およびパスワードを入力します。
 4. インタフェース・テーブルを作成してくださいを選択します。
 5. 次へをクリックします。
 6. はいをクリックして既存のテーブルの削除を確認します。

7. 「構成作業が完了しました」というメッセージが表示されたら、次へをクリックします。

注： 成功したという通知が表示されない場合は、構成ログ (<HYPERION_HOME>/logs/config)を確認し、エラーを修正して、EPM System コンフィグレータを再実行します。

8. いいえを選択して製品選択パネルに戻ります。
9. 次へをクリックします。
10. 終了をクリックします。

EPM System コンフィグレータで構成を完了すると、データベース内にサンプル・テーブルのセットが作成されます。サンプル・テーブルの詳細なリストは、[59 ページの「インタフェース・テーブルの定義」](#)を参照してください。

▶ データソース・リンクを削除するには:

- 1 EPM System コンフィグレータを起動します。
- 2 次へをクリックします。
- 3 製品選択パネルから、Foundation、Performance Management Architect を選択し、インタフェース・データソース構成を選択して、次へをクリックします。
- 4 データソース・リンクを削除してくださいを選択して、次へをクリックします。
- 5 ドロップダウン・リストから、データソース・リンクを選択します。
- 6 オプション:インタフェース・テーブルを削除してくださいを選択してデータベース・テーブルを削除します。
- 7 次へをクリックします。
- 8 「構成作業が完了しました」というメッセージが表示されたら、次へをクリックします。
- 9 いいえを選択して製品選択パネルに戻ります。
- 10 次へをクリックします。
- 11 終了をクリックします。

▶ データソース・リンクを編集するには:

- 1 EPM System コンフィグレータを起動します。
- 2 製品選択パネルから、Foundation、Performance Management Architect を選択し、インタフェース・データソース構成を選択して、次へをクリックします。
- 3 データソース・リンクの編集を選択して、次へをクリックします。
- 4 ドロップダウン・リストから、データソース・リンクを選択して、次へをクリックします。
- 5 表示されているフィールドを変更します(たとえば、データベース・パスワードの変更するときなど)。オプションで、インタフェース・テーブルを作成してくださいを選択して、次へをクリックして、はいを選択して既存のテーブルの削除を確認します。

注：「インタフェース・テーブルを作成してください」チェック・ボックスを選択しない場合、テーブルは作成されません。インタフェース・テーブルを作成するためこのチェック・ボックスを選択した場合は、IM_ (内部)およびHS_ (サンプル)のテーブルが作成されます。テーブルがすでに存在する場合、既存のIM_およびHS_ テーブルを削除するようにプロンプトが表示されます。「はい」をクリックして既存のテーブルを削除すると、新規テーブルが作成されます。ただし、「いいえ」を選択すると、既存のIM_およびHS_ テーブルは変更されません。

- 6 「構成作業が完了しました」というメッセージが表示されたら、次へをクリックします。
- 7 いいえを選択して製品選択パネルに戻り、次へをクリックします。
- 8 終了をクリックします。

インタフェース・テーブルの定義

Performance Management Architect のインタフェース・テーブルは、システム・テーブルおよびユーザー定義テーブルという 2つのカテゴリにグループ化されます。

システム・テーブルは、インタフェース・テーブルの構成時に作成されます。システム・テーブルにはプロファイルの作成および実行時にインポート・モジュールによって使用される情報が含まれます。

システム・テーブル	説明
IM_Load_Info	<p>このテーブルの使用はオプションです。IM_テーブル内のレコードのサブセットをグループ化できます。たとえば、異なるソースのメタデータを、同じインタフェース・テーブル・インスタンスに分類できますが、各ソースをソース独自の Load_ID を使用して識別できます。IM_Load_Info テーブルを使用すると、異なる Load_ID とその対応するソースを追跡できます。</p> <p>注： インポート実行中は、特定の Load_ID のセットでタグ付けされたメタデータのみをインポートするよう選択できます。71 ページの「次元のインポート時のロード ID 情報の入力」を参照してください。</p> <p>列は次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● i_Load_ID - Load_ID を表す番号。 ● c_Source_System - この Load_ID が表すソース・システム。このフィールドはオプションです。 ● c_User_Last_Updated - このフィールドはオプションです。 ● c_Date_Last_Updated - このフィールドはオプションです。 ● c_Last_Update_Login - このフィールドはオプションです。
IM_Dimension	<p>処理される次元についての情報、タイプ、それらの次元のメタデータを含むすべてのテーブルおよびビューへの参照が含まれます。</p> <p>注： このテーブルには、サンプル次元の名前、サンプル次元クラス、および HS_サンプル・テーブル(c_Dimension_Name ごとに 1 行)が事前に移入されます。</p> <p>列は次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● i_Load_ID - この次元の Load_ID タグ。 ● c_Dimension_Name - 次元の名前。

システム・ テーブル	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● c_Dimension_Class_Name - 次元タイプ。 ● c_Member_Table_Name - この次元のメンバー情報を含むテーブルまたはビューの名前。50 ページの「メンバー・セクション」を参照してください。このテーブルおよびビューの移入および指定はオプションです。 ● c_Hierarchy_Table_Name - この次元の階層情報を含むテーブルまたはビューの名前。52 ページの「階層セクション」を参照してください。置換モードのインポートの実行時には、このテーブルおよびビューを指定し、定義する必要があります。 ● c_Property_Array_Table_Name - この次元の PropertyArray 情報を含むテーブルまたはビューの名前。54 ページの「プロパティ配列セクション」を参照してください。このテーブルおよびビューの移入および指定はオプションです。 ● c_Dim_Property_Table_Name - このテーブルは、ここで次元プロパティが定義されない場合を除き、フラット・ファイルの!Dimensions セクションに部分的に対応しています。49 ページの「次元セクション」を参照してください。
IM_ Dimension_ Association	<p>このテーブルはフラット・ファイルの!DimensionAssociation セクションに直接対応しています。50 ページの「次元の関連付けセクション」を参照してください。</p> <p>注： サンプル・テーブルにはデータは事前に移入されません。</p> <p>列は次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● i_Load_ID - この次元の Load_ID タグ。 ● c_Base_Dimension - メンバー・プロパティが別の次元に関連付けられている基本次元の名前。この列は必須です。 ● c_Property - 関連プロパティの名前(別名など)。この列は必須です。 ● c_Target_Dimension - 関連プロパティが関連付けられている次元の名前。この列は必須です。

ユーザー定義のテーブルまたはビューを使用して、次元のメンバー、階層、PropertyArray、および次元プロパティ・コンテンツを表せます。IM_Dimension テーブルで適切に参照されているかぎり、テーブルおよびビューのいずれも使用できます。サンプル・テーブルは、命名規則 HS_Dimension_Section を使用します。ここで Dimension は、HS_Accounts_Hierarchy などの次元名を表します。

注： 次のテーブルのテーブル名はサンプルです。ユーザー定義のテーブルまたはビューには任意の名前を使用できます。

HS_Dimension_ Member	このテーブルはフラット・ファイルの!Member セクションに直接対応しています。50 ページの「メンバー・セクション」を参照してください。
HS_Dimension_ Hierarchy	<p>このテーブルはフラット・ファイルの!Hierarchies セクションに直接対応しています。52 ページの「階層セクション」を参照してください。</p> <p>Alias および UDA プロパティは、サンプル・テーブルにこれらのプロパティの列がない場合でも、HS_Dimension_Hierarchy テーブルで指定できます。必要に応じて、サンプル・テーブル内に Alias および UDA プロパティの列を追加できます。</p> <p>例:</p>

	<p>Oracle Database 用:</p> <pre>ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=English] NVARCHAR2(255); ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=French] NVARCHAR2(255);</pre> <p>SQL Server データベース用:</p> <pre>ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=English] nvarchar(255); ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=French] nvarchar(255);</pre> <p>IBM DB2 データベース用:</p> <pre>ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=English] VARCHAR(255); ALTER TABLE HS_Account_Hierarchy ADD [Alias=French] VARCHAR(255);</pre> <p>等号[=]列名を使用すると、各別名次元メンバーを別々の列として表せます。</p>
HS_Dimension_PropertyArray	このテーブルはフラット・ファイルの!PropertyArray セクションに直接対応しています。54 ページの「プロパティ配列セクション」を参照してください。
HS_Dimension_Property	このテーブルはフラット・ファイルの!Dimension セクションに直接対応しています。49 ページの「次元セクション」を参照してください。

注： 次のサンプル・テーブルは、インタフェース・テーブル・インスタンスの作成時に作成されます。これらのテーブルは、ユーザーが作成したテーブルで置換できます。また、これらのテーブルに実際のデータは事前に移入されません。

サンプル・テーブル

HS_Account_Member	HS_Data_Sales	HS_SmartList_Property
HS_Account_Hierarchy	HS_Entity_Hierarchy	HS_SmartList_PropertyArray
HS_Account_Property	HS_Entity_Member	HS_Time_Hierarchy
HS_Account_PropertyArray	HS_Entity_Property	HS_Time_Member
HS_Alias_Hierarchy	HS_Entity_PropertyArray	HS_Time_Property
HS_Alias_Member	HS_Generic_Hierarchy	HS_Time_PropertyArray
HS_Alias_Property	HS_Generic_Member	HS_UDA_Hierarchy
HS_Attribute_Hierarchy	HS_Generic_Property	HS_UDA_Member
HS_Attribute_Member	HS_Generic_PropertyArray	HS_UDA_Property
HS_Attribute_Property	HS_ICP_Hierarchy	HS_Value_Hierarchy
HS_Attribute_PropertyArray	HS_ICP_Member	HS_Value_Member
HS_ConsolidationMethod_Hierarchy	HS_ICP_Property	HS_Value_Property
HS_ConsolidationMethod_Member	HS_ICP_PropertyArray	HS_Value_PropertyArray
	HS_Period_Hierarchy	HS_Version_Hierarchy
	HS_Period_Member	HS_Version_Member

サンプル・テーブル

HS_ConsolidationMethod_Property	HS_Period_Property	HS_Version_Property
HS_ConsolidationMethod_PropertyArray	HS_Period_PropertyArray	HS_Version_PropertyArray
HS_Country_Hierarchy	HS_Scenario_Hierarchy	HS_View_Hierarchy
HS_Country_Member	HS_Scenario_Member	HS_View_Member
HS_Country_Property	HS_Scenario_Property	HS_View_Property
HS_Country_PropertyArray	HS_Scenario_PropertyArray	HS_View_PropertyArray
HS_Currency_Hierarchy	HS_SecurityClass_Hierarchy	HS_Year_Hierarchy
HS_Currency_Member	HS_SecurityClass_Member	HS_Year_Member
HS_Currency_Property	HS_SecurityClass_Property	HS_Year_Property
HS_Currency_PropertyArray	HS_SecurityClass_PropertyArray	HS_Year_PropertyArray
HS_Data_CapExTemplate	HS_SmartList_Hierarchy	
HS_Data_Consolidation	HS_SmartList_Member	

テンプレート・スクリプトによって作成された次元インタフェース・テーブルに加え、その他の次元のインタフェース・テーブルを追加できます。たとえば、テンプレート・スクリプトにエンティティ次元のテーブルのセットが含まれる場合などです。エンティティ次元は必要に応じて追加できます。また、インタフェース・テーブルに追加された各次元には、プロファイル作成中に次元を使用可能にするために、IM_Dimension システム・テーブルに次元を含める必要があります。サンプル・テーブルを作成するためのスクリプトは、HYPERION_HOME¥Products¥Foundation¥BPMA¥Server¥Conf にあります。スクリプトは、Oracle_Create_Interface_Tables.sql、DB2_Create_Interface_Tables.sql および SQL_Server_Create_Interface_Tables.sql のように、各データベース・タイプ用に名前が付けられています。

インタフェース・テーブルの消去


インタフェース・テーブル領域のオプションは次のとおりです:

- すべて
- ロード ID
- 経過時間 - 年、月、週および日の数を選択できます。
- 日付範囲

▶ インタフェース・テーブルを消去するには:

- 1 次元ライブラリで、ファイル、インポート、インタフェース領域の消去の順に選択します。

- 2 データ・ソースを選択します。
- 3 消去するデータ・ソース・ロード情報のタイプのオプションのいずれかを選択します。

複数のロード ID をカンマで区切って入力するか、または  をクリックしてロード ID を検索できます。

- 4 消去をクリックします。
- 5 はいをクリックして確定します。
- 6 成功メッセージで OK をクリックします。

インポート・プロファイルの作成

次元ライブラリまたはアプリケーションに次元をインポートする前に、インポート・プロファイルを作成する必要があります。プロファイルには新規次元などのインポートされた次元、既存の次元をマージするか置換するかどうか、および次元プロパティに関する重要な情報が含まれます。

インポート・ファイルをインポート、編集、表示および削除できます。[70 ページの「インポート・プロファイルの管理」](#)を参照してください。

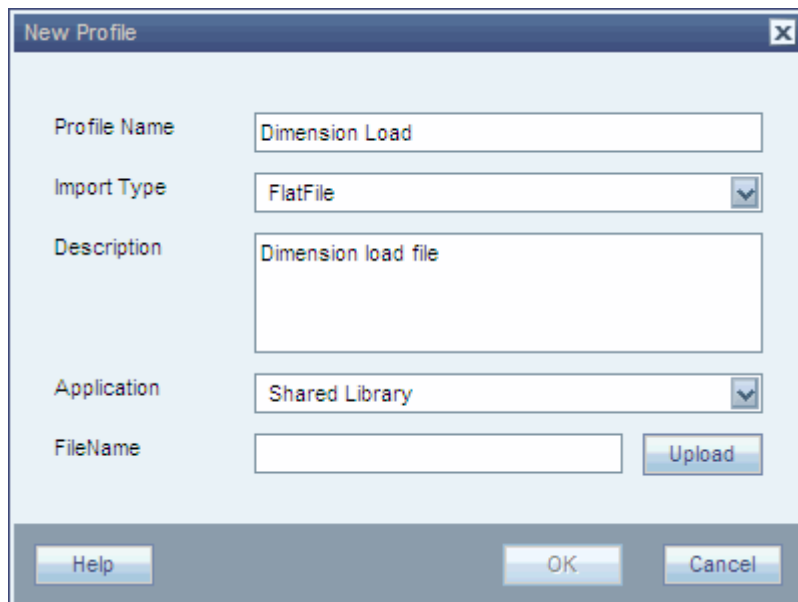
Performance Management Architect アプリケーション管理を使用した Planning のサンプル・アプリケーションの作成および初期化の詳細については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

- ▶ インポート・プロファイルを作成するには:
 - 1 次元ライブラリから、ファイル、インポート、プロファイルの作成の順に選択します。
 - 2 プロファイル名を入力します。
 - 3 インポート・タイプから、「フラット・ファイル」または「インタフェース・テーブル」を選択します。
 - 4 オプション: プロファイルの説明を入力します。

5 次のいずれかを行います:

- 手順3で「フラット・ファイル」を選択した場合は、アップロードをクリックし、ファイルを探し、「アップロード」をクリックします。

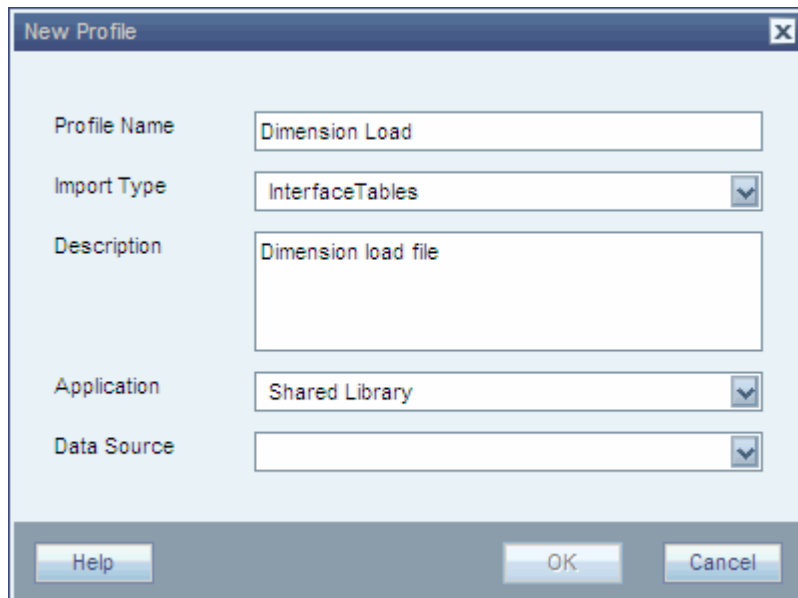
注： Performance Management Architect のインポートでは、エンコード方式 (UTF-8、UTF-16LE、UTF-16BE、UTF-32LE、UTF-32BE)ADS フォーマットでテキスト・ファイルをサポートします。さらに、ASCII にエンコードされたファイルは、読取り可能ですが、英語の文字に限定されます。



The screenshot shows a 'New Profile' dialog box with the following fields and values:

- Profile Name: Dimension Load
- Import Type: FlatFile
- Description: Dimension load file
- Application: Shared Library
- FileName: (empty)
- Buttons: Help, OK, Cancel, Upload

- 手順3で「インタフェース・テーブル」を選択した場合は、データ・ソースから、このプロファイルで使用するデータベースを選択します。



The screenshot shows a 'New Profile' dialog box with the following fields and values:

- Profile Name: Dimension Load
- Import Type: InterfaceTables
- Description: Dimension load file
- Application: Shared Library
- Data Source: (empty)
- Buttons: Help, OK, Cancel

- 6 次元ライブラリにインポートする場合は、共有ライブラリを選択するか、既存のアプリケーションを選択します。

アプリケーション・リストには共有ライブラリおよびアプリケーション・ライブラリへのセキュリティ・アクセス権限を持つすべての既存のアプリケーションが含まれます。

7 OK をクリックします。

8 次へをクリックします。

65 ページの「ファイル・プロパティの入力」の説明に従って、ファイル・プロパティを入力します。インタフェース・テーブルからインポートする場合は、65 ページの「次元のマッピング」にスキップします。

ファイル・プロパティの入力

▶ ファイル・プロパティを入力するには:

1 「ファイルのプロパティ」で、列の区切り記号を選択します。

セミコロン(;)、カンマ(,), パイプ(|)、スペースまたはタブを選択できます。セミコロンがデフォルトです。

2 オプション: 文字列から単一引用符を除去するには、引用符文字列を削除を選択します。

フラット・ファイルにメンバー計算式が含まれる場合、引用符が除去されないようにするためには「文字列の二重引用符を除去」の選択を解除します。

3 オプション: ロード・ファイルのスペースを除去するには、空白文字の除去を選択します。

4 オプション: トランザクション・ログを作成しない場合は、トランザクション・ログの抑制を選択します。

5 次へをクリックします。

これで、65 ページの「次元のマッピング」で説明したように、次元をマッピングできます。

次元のマッピング

次元のマッピング・セクションで、次の方法に従い、フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルから次元をインポートする方法を指定します。次元は、自動マッピングまたは手動マッピングを行うことでマップできます。

▶ 次元をマップするには:

1 ソースから新規次元を作成するには、ソース次元名を持つマップされていない次元に対して次元を作成しますを選択します。マップされない次元(すなわち、自動または手動でマップされない次元)の場合、フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブル内の次元の名前が、新規次元の作成に使用される名前となります。

「ソース次元名を持つマップされていない次元に対して次元を作成します」オプションを選択すると、共有ライブラリまたはアプリケーション列が自動的に移入されます。

- 2 フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルの次元が共有ライブラリまたはアプリケーションに存在する場合、次元を自動的にマップし、インポートされた次元をターゲット次元にマージするか、ターゲット次元をインポートされた次元と置換するかを選択できます。すべての次元を「共有としてマージ」に自動的に設定するには、すべて選択 - 共有としてマージを選択します。
 - 3 次元を手動でマップするには、「共有ライブラリ」列で、新規次元を作成するか、インポートされた次元を別の次元にマップします。別の次元にマップする場合は、インポートされた次元を共有ライブラリ次元にマージするか、または共有ライブラリ次元をインポートされた次元で置換できます。次のいずれかのアクションを行います:
 1. フラット・ファイル次元にマップする共有ライブラリ次元を選択します。
 2. 次元を作成します。次元を作成するには:
 1. 共有ライブラリまたはアプリケーションから、「新規次元」を選択します。
 2. 「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスで、次元名と必要に応じて説明を入力し、次元タイプを選択して OK をクリックします。
 3. オプション: マージまたは置換を選択します。
 - **マージ・モード** - マージ・モードではすべてのセクションが処理され、ソースには存在するが、共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションには存在しない新規次元、メンバー、関係、プロパティおよび関連付けが追加されます。マージ・モードでインポートしても、次元、メンバー、関係、プロパティまたは関連付けが除去されることはありません。ソースで指定されている次元、関係、メンバーまたはプロパティが共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションに存在する場合、ソースで指定された値に置換されます。ソースに含まれていないプロパティは、共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションで変更されません。
 - **置換モード** - 置換モードの動作はマージ・モードとほぼ同じです。すべての新規要素が追加され、すべてのプロパティ更新が行われます。ソースで指定されていないメンバーやメンバー関係は、共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションから除去されます。置換モードを使用すると、親の下のメンバーの順序も変更できます。ソースに含まれていないプロパティは、共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーションで変更されません。
- 注:** 新規次元を作成する場合、マージおよび置換オプションは適用されません。
- **共有としてマージ** - マージ・モードを選択すると、「共有としてマージ」オプションが自動的に選択されます。このオプションは、マージ・モードでのみ有効です。置換モードでは無視されます。また、このオプションは、IsPrimary プロパティが指定された階層セクションでも無視されません。

「共有としてマージ」が選択された場合、階層セクション内の最初のメンバーがプライマリ・インスタンスになり、その後のメンバーはプライマリ・インスタンスの共有インスタンスになります。あるメンバーのプライマリ・インスタンスがすでに共有ライブラリまたはターゲット・ア

リケーションに存在する場合、ソースで指定されているすべてのインスタンスが共有インスタンスとして追加されます。

「共有としてマージ」が選択されない場合、共有ライブラリまたはターゲット・アプリケーション内のメンバーのプライマリ・インスタンスは、ソースの階層セクション内の該当するメンバーの最初のインスタンスに指定されている親の下に移動します。たとえば、アプリケーションまたは共有ライブラリに現在存在している階層を別の親に移動する場合は、「共有としてマージ」の選択を解除します。「共有としてマージ」オプションの選択を解除すると、ソースで指定されているメンバーの新規共有インスタンスが作成されるかわりに、ソースで指定されている別の親にメンバーが移動します。

4 次へをクリックします。

「次元マッピング」画面が表示されます。67 ページの「次元マッピング - プロパティ・マッピング・オプション」の説明に従ってプロパティ・マッピング・オプションを定義します。

次元マッピング・プロパティ・マッピング・オプション

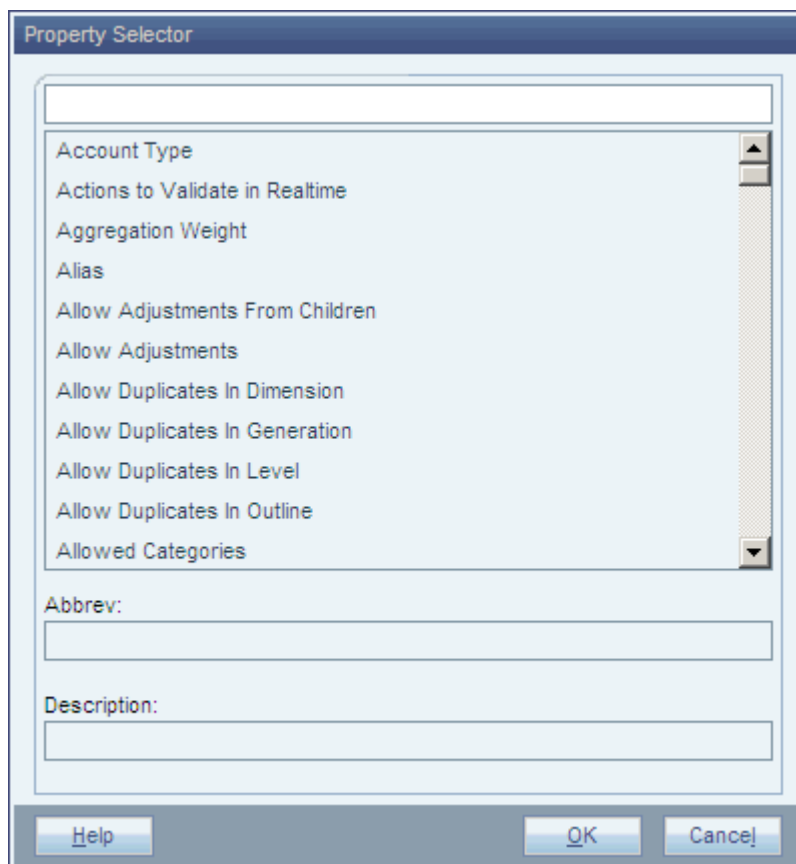
▶ 次元プロパティ・マッピング・オプションを定義するには:

- 1 フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブルから次元プロパティをインポートするには、インポートするプロパティを「共有ライブラリ」列で選択します。使用可能なプロパティのドロップダウン・リストについては、「共有ライブラリ」または「アプリケーション」列のセルをダブルクリックします。

いくつかのセルはデフォルト・プロパティを表示できない場合があります。この場合、「プロパティ・セレクト」ダイアログ・ボックスを使用して、プロパティを選択できます。

- 2 **オプション:** 空のセルを右クリックして、プロパティの検索を選択します。


「プロパティ・セレクト」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 3 プロパティを選択して、OK をクリックします。
- 4 オプション: 欠落したソース・プロパティのターゲット値の除去を選択します。

「欠落したソース・プロパティのターゲット値の除去」が選択されている場合、このオプションはソースの値が空のプロパティに対して「値の除去」に相当する操作を実行するようインポート・エンジンに指示します。選択されていない場合、空のプロパティ値は処理されません。
- 5 終了をクリックします。
- 6 プロファイルを次元ライブラリにインポートするには、はいをクリックします。

注： インタフェース・テーブルのインポート・プロファイルの場合は、「ロード ID 入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。ロード ID をカンマで区切って入力できます。69 ページの「インポート・プロファイル用のインタフェース・テーブル・ロード ID の入力」を参照してください。

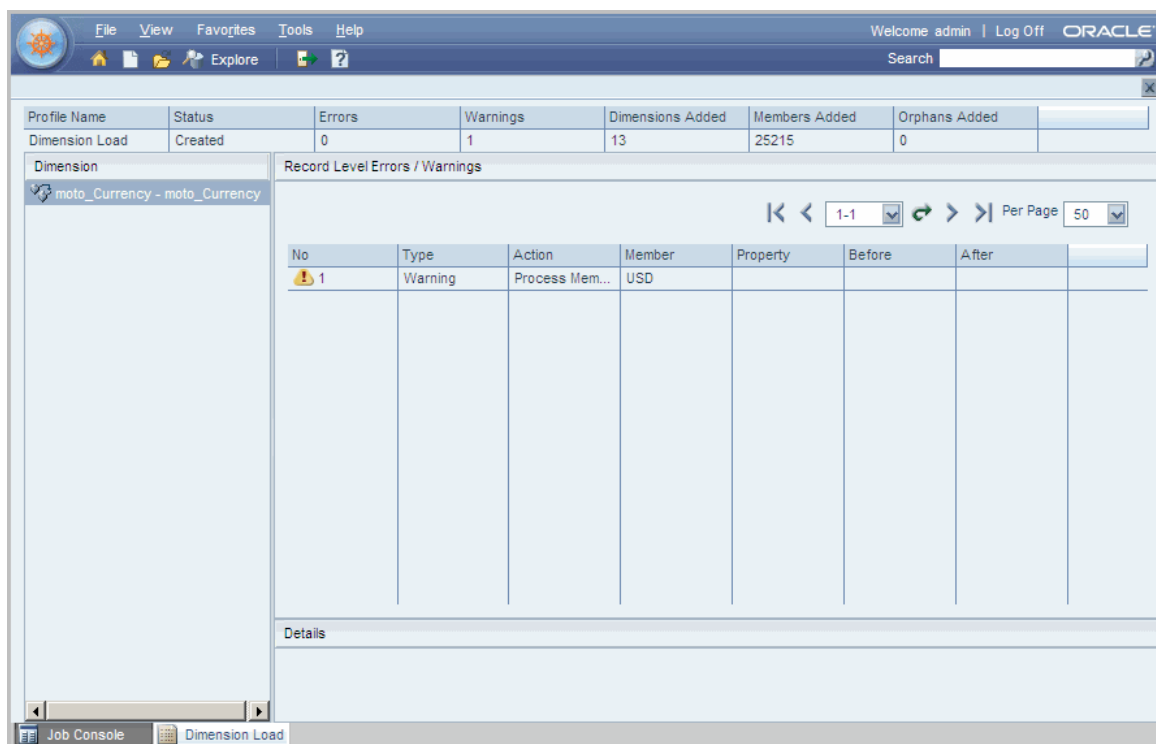
リンクをクリックしてジョブ・コンソールにジョブを表示する場合は、ジョブの完了後にインポート結果を表示できます。インポート・ステータスをリフレッシュするには、 をクリックします。

- 7 インポートが完了したら、警告またはエラーに関するインポート結果を表示します。

次元をアプリケーションにインポートすると、添付ファイル領域にはログ・ファイルへのリンクが含まれます。そうでない場合、リンクは「インポート結果」画面を表示します。ジョブ添付ファイルの表示については、486 ページの「ジョブ

の添付ファイルの表示」を参照してください。インポート結果の表示については、486 ページの「インポート結果の表示」を参照してください。

注： bpma_server_config.xml ファイルの ImportErrorThreshold 設定は、実行中のインポートがシャット・ダウンする前に発生する可能性があるエラーと警告を合せた最大数を定義します。デフォルト値は 1000 ですが、ImportErrorThreshold 設定を変更して、インポート・エラーしきい値を大きくできます。付録 H 「BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定」を参照してください。




次元をアプリケーションにインポートした場合、インポートの完了後に、そのアプリケーションで次元を表示および編集できます。または、共有ライブラリで次元を表示できます。

インポート・プロファイル用のインタフェース・テーブル・ロード ID の入力

インタフェース・テーブルから次元およびメンバーをインポートする場合、すべての次元およびメンバーが自動的にインポートされます。ただし、インタフェース・テーブルには、インポート・プロファイルの実行時にフィルタの役目を果たす i_Load_ID 列が存在します。データベース管理者は、データベースの i_Load_ID 列を移入し、インポートされた次元およびメンバーをフィルタできます。

Performance Management Architect では、インポート・プロファイルまたはインポート次元を作成するときにロード ID を入力し、インタフェース・テーブルからアーチファクトをフィルタすることで、誤ったメタデータをロードしないようにできます。

▶ ロード ID を入力するには:

- 1 インタフェース・テーブルのインポート・プロファイルを作成したら、はいをクリックして次元をインポートします。
- 2 「ロード ID 入力」ダイアログ・ボックスで、ロード ID をカンマで区切って入力するか、または  をクリックしてロード ID を選択します。

注: i_Load_ID 列を Performance Management Architect で選択するには、データベース管理者がインタフェース・テーブルに移入する必要があります。

- 3 OK をクリックします。

インポート・プロファイルの管理

インポート・プロファイルを作成した後に、次元ライブラリに次元をインポートし、プロファイルの詳細を表示し、プロファイルを編集および削除できます。

次の項を参照してください:

- [70 ページの「次元のインポート」](#)
- [72 ページの「インポート・プロファイルの編集」](#)
- [72 ページの「インポート・プロファイルの詳細の表示」](#)
- [73 ページの「インポート・プロファイルの削除」](#)

次元のインポート

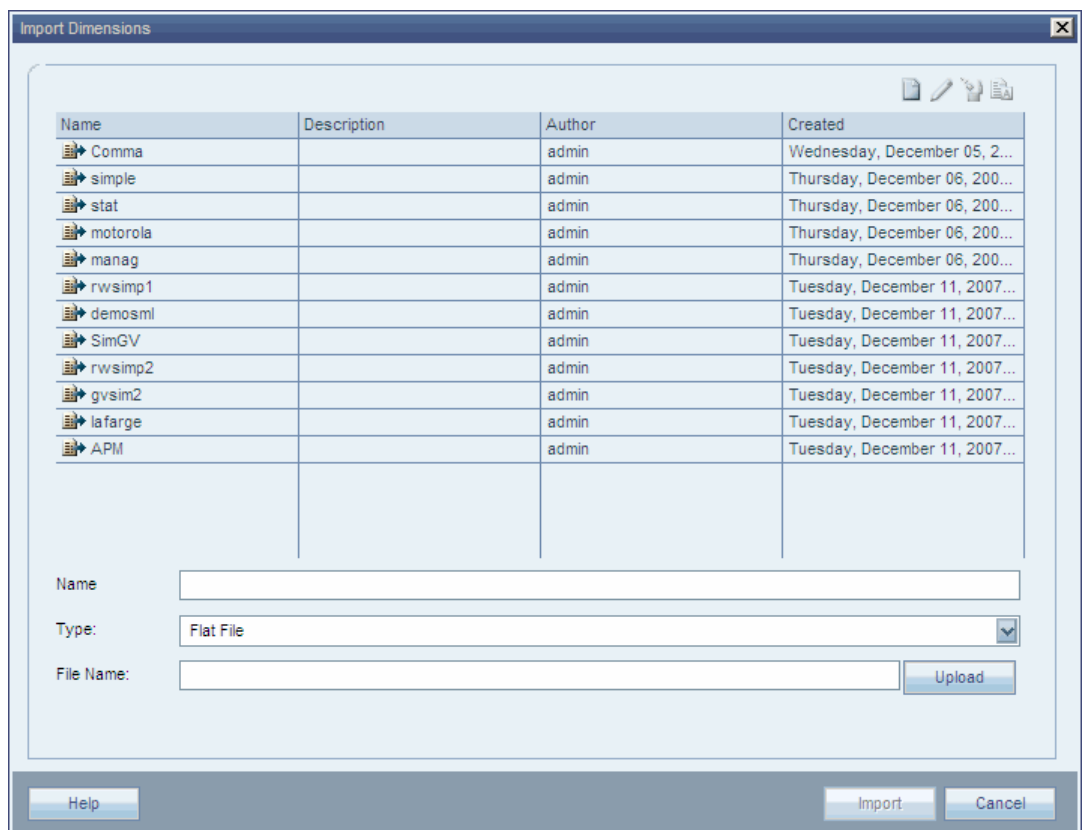
▶ 次元をインポートするには:

- 1 次元ライブラリから、ファイル、インポート、次元のインポートの順に選択します。
- 2 インポート・プロファイルを選択します。
- 3 インポートのタイプ(フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブル)を選択します。

注: 「インタフェース・テーブル」を選択し、ロード ID を入力する場合は、[71 ページの「次元のインポート時のロード ID 情報の入力」](#)を参照してください。

- 4 次のいずれかのアクションを行います:

- 「フラット・ファイル」を選択し、参照をクリックしてファイルを検索したら、アップロードをクリックします。
- 「インタフェース・テーブル」を選択し、データ・ソースを選択します。ロード ID を入力するには、参照、アップロードの順にクリックします。




- 5 インポートをクリックします。

次元のインポート時のロード ID 情報の入力



インタフェース・テーブルから次元およびメンバーをインポートする場合、すべての次元およびメンバーが自動的にインポートされます。ただし、インタフェース・テーブルには、次元のインポート時にフィルタの役割を果たす `i_Load_ID` 列があります。データベース管理者は、インポートした次元およびメンバーをフィルタできるように、`i_Load_ID` 列をデータベースに移入できます。Performance Management Architect では、インポート・プロファイルまたはインポート次元を作成するときにロード ID を入力し、誤ったメタデータをロードしないようインタフェース・テーブルからアーチファクトをフィルタできます。



注： `i_Load_ID` 列を Performance Management Architect で選択するには、データベース管理者がインタフェース・テーブルに移入する必要があります。

- ▶ ロード ID 情報を入力するには:
 - 1 インポート次元の「インタフェース・ロード ID」フィールドで、ロード ID を入力するか、または  をクリックします。

ヒント： 複数のロード ID を入力するには、各エントリをカンマ(,)で区切ります。

「ロード ID 選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 左側の使用可能なロード ID のリストで、追加するロード ID を選択し、 をクリックします。
- 3 選択のリストからロード ID の選択を解除するには、 をクリックします。

ヒント： すべてのロード ID を選択するには、 をクリックします。選択のリストからすべてのロード ID の選択を解除するには、 をクリックします。

- 4 OK をクリックします。

インポート・プロファイルの編集

- ▶ インポート・プロファイルを編集するには:
 - 1 ファイル、インポート、次元のインポートの順に選択します。
 - 2 インポートの種類(フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブル)を選択します。
 - 3 次のいずれかのアクションを行います:
 - 「フラット・ファイル」を選択した場合は、アップロードをクリックし、ファイルを探し、アップロードをクリックします。
 - 「インタフェース・テーブル」を選択した場合は、次の手順に進みます。
 - 4 プロファイルを右クリックし、プロファイルの編集をクリックします。

注： 「プロファイルの編集」オプションをアクティブにするには、フラット・ファイルをアップロードする必要があります。

- 5 インポート・プロファイルを編集します。
[63 ページの「インポート・プロファイルの作成」](#) の手順に従います。

インポート・プロファイルの詳細の表示

- ▶ インポート・プロファイルの詳細を表示するには:
 - 1 ファイル、インポート、次元のインポートの順に選択します。
 - 2 プロファイルを右クリックし、詳細の表示をクリックします。
 - 3 タブをクリックしてプロファイル情報、次元、またはプロパティを表示します。
 - 4 保存をクリックします。

インポート・プロファイルの削除

- ▶ インポート・プロファイルを削除するには:
 - 1 ファイル、インポート、次元のインポートの順に選択します。
 - 2 インポートの種類(フラット・ファイルまたはインタフェース・テーブル)を選択します。
 - 3 プロファイルを右クリックし、プロファイルの削除をクリックします。
 - 4 はいをクリックしてプロファイルの削除を確認します。

4

次元の操作

この章の内容

次元の作成.....	75
共有次元およびローカル次元の理解.....	76
プロパティの変更.....	77
プランニング次元での操作の考慮事項.....	78
別名次元.....	80
ユーザー定義属性次元.....	82
カスタム次元.....	83
次元の関連付け.....	83
次元のコピー.....	85
アプリケーション・メンバーシップの表示.....	86
次元の整理.....	86
次元のフィルタ処理.....	88
次元およびフォルダのソート.....	89
次元の削除.....	90
グリッド・エディタの使用方法.....	90
スマート・リストの操作(Planningのみ).....	101
トランザクション・ログの表示.....	105
トランザクション履歴の削除.....	111

次元の作成

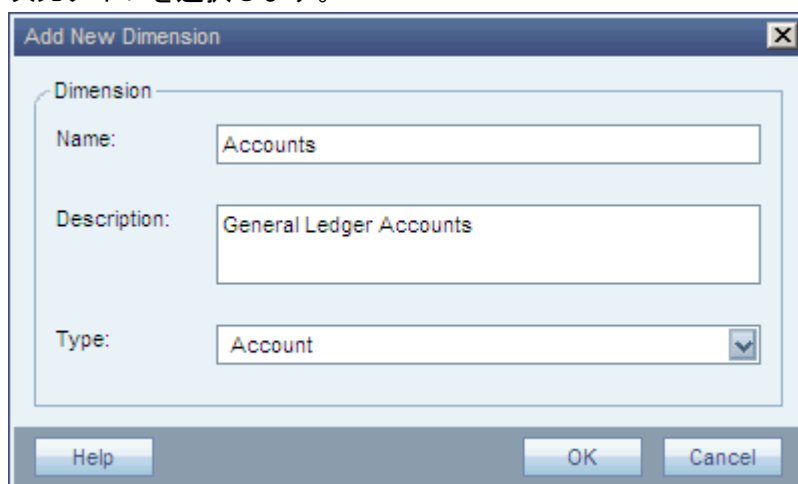
次元を手動で作成して既存の次元を編集できます。次元を作成するにはいくつかの方法がありますが、次元ライブラリのみで作成できます。

注： 次元ライブラリで次元を作成する場合は、製品の命名規則から逸脱することもできます。ただし、製品アプリケーション内では、命名規則に従う必要があります。プランニング次元については、[569 ページの「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」](#)を参照し、Financial Management の次元については、[付録 A「Financial Management 次元の操作」](#)を参照し、Essbase の次元については、[付録 D「Essbase プロパティの操作」](#)を参照してください。

注： 次元ライブラリで次元を作成する場合に、別の文字を入力することもできますが、次元がアプリケーションに送られるときにアプリケーションの命名規則が適用されます。

▶ 次元を作成するには:

- 1 ファイル」、「新規」、「次元の順に選択します。
- 2 次元の名前および説明(省略可能)を入力します。
- 3 次元タイプを選択します。



注： 表 12 を参照してください。

- 4 OK をクリックします。

次元は、次元ライブラリに追加されます。次元にメンバーを追加するには、次元を右クリックし、メンバーの作成、追加、または挿入を選択します。119 ページの「メンバーの作成」を参照してください。

各次元タイプはアイコンを使用して共有ライブラリで示されます。Performance Management Architect の次元タイプのリストについては、表 12 を参照してください。

注： 次元の名前は後で変更できません。次元名を変更する必要がある場合は、次元をコピーして新規名前を指定する必要があります。次に、新規次元をアプリケーションに追加し、古い次元に対する関連付けを除去します。必要に応じて、古い未使用の次元を削除できます。

共有次元およびローカル次元の理解

Performance Management Architect アプリケーションには、共有およびローカルの 2 つの異なる状態の次元を含められます。

- 共有次元は、共有ライブラリという次元ライブラリの領域で作成されます。これらの次元は、すべてのアプリケーションで使用でき、各アプリケーションに共有次元として含めると、個別に 1 つ以上のアプリケーションにリンクできます。共有ライブラリの次元への変更は、その次元を共有するすべての

アプリケーションに自動的に継承されます。共有ライブラリ内の次元にはあらゆる種類の変更を実行できますが、アプリケーション内の共有された次元に実行できる変更の種類は限られています。

アプリケーションに次元を共有次元として含めると、そのアプリケーションのみに関連する例外を処理するための変更を共有次元に適用できます。この種の変更は次のとおりです:

- メンバー・フィルタ
- プロパティ値の上書き

メンバーの追加や移動などの共有次元の構造的な変更は、共有ライブラリ内のみで実行できます。

- ローカル次元は、単一のアプリケーション内で作成され、アプリケーション内で直接作成するか、またはアプリケーションの共有ライブラリまたはアプリケーション内の別の次元からのコピーとして作成します。ローカル次元は個別の次元で、共有ライブラリの次元への変更は継承されません。
 - 共有ライブラリからの次元の最初のコピーによって、次元全体がコピーされます。新規メンバーの追加などのその後のアクションは、アプリケーション内で実行されます。
 - ローカル次元を作成するために使用した共有次元を変更する場合、次元に対するその後の変更をアプリケーション・レベルでマージするかどうかを明示的に指定できるオプションがあります。[185 ページの「ローカル次元の共有への変換」](#)を参照してください。

プロパティの変更

次元ライブラリからこれらのプロパティを編集できます:

- アプリケーション
- 次元
- メンバー

プロパティは、カテゴリ別に整理されます:

- システム - 名前、説明、メンバーが非アクティブかどうかなど、メンバーの特徴を識別するために使用されます。
- 統計 - 子の数や兄弟の数など、メンバーについての統計情報を提供するために使用されます。
- Essbase (ASO) - Essbase レポート・キューブのみ。
- Planning - Planning アプリケーションに使用されます。
- Essbase (BSO) - Essbase レポート・キューブのみ。
- 連結 - Financial Management アプリケーション。
- 収益性 - Profitability and Cost Management アプリケーション。

次元プロパティのカテゴリは、製品ごとの付録で定義されています:

- [付録 A 「Financial Management 次元の操作」](#)

- 付録 B 「プランニング次元の操作」
- 付録 C 「Profitability and Cost Management プロパティの操作」
- 付録 D 「Essbase プロパティの操作」
- 付録 E 「統計およびシステム・プロパティの操作」

それぞれの付録では、これらのプロパティ、使用可能な値およびデフォルト値、およびその使用法を左右する他の特徴について説明します。プロパティは、グローバル・プロパティまたは関係プロパティになります:

- グローバル・プロパティ - このプロパティの値は、関連付けられている親に関係なく、次元のメンバーでは同じになります。
- 関係プロパティ - このプロパティの値は、その上にあるそれぞれの親のメンバーごとに異なります。メンバーが、次元内の複数の場所で同じ親の下にある場合、そのメンバーはその関係と同じ値を持ちます。

次元のメンバーのプロパティは継承もできます。継承には、関係継承とアプリケーション継承の 2 種類があります。

- 関係継承 - デフォルト値は、次元内のメンバーの親のプロパティの値から取得されます。継承されるプロパティは、グローバルか、または関係によって様々です。継承されるグローバル・プロパティは、次元のプライマリ・メンバーの親から継承されます。継承される関係プロパティは、プロパティ値が関係によって様々なので、メンバーの各インスタンスの親から継承されます。継承される値はデフォルト値のみで、メンバーに保管されている値による上書きもできます。この状況では、継承が上書きされているので、このプロパティの親に対する変更は、メンバーには反映されません。
- アプリケーション継承 - アプリケーションの共有次元のメンバーのプロパティのデフォルト値は、共有ライブラリ内のそのメンバーの値から継承されます。アプリケーション・レベルでは、共有ライブラリから継承されたプロパティ値を、そのアプリケーションにローカルな値で上書きできます。継承される値は、アプリケーションのメンバーのデフォルト値のみなので、アプリケーション内でも上書きできます。いったん上書きされたメンバーのプロパティには、共有ライブラリの次元に対する変更は反映されません。

プランニング次元での操作の考慮事項

次元のコンポーネントであるメンバーを作成および整理することによって、次元内に階層的な関係を作成します。次元メンバーは個別に、またはインポート・プロファイルを使用して追加できます。次元名は、[569 ページの「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」](#)で詳しく説明する規約を使用する必要があります。

疎次元は、メンバーの組合せの大多数にデータ値がなく、利用可能なデータ位置が占有されている確率が低くなっています。密次元は、高い確率で、次元のすべての組合せに 1 つ以上のデータ・ポイントが占有されています。

データベースのパフォーマンスを最適化するには、次元を疎または密として指定します。次元が疎の場合、**Planning** では、各次元の組合せを占有しているデータ値のみが計算されます。これは、計算時間の短縮およびディスク使用の低減によってパフォーマンスを最適化します。デフォルトで、**Planning** では、勘定科目および期間次元が密として、その他の次元が疎として指定されます。

次元階層は、構造的および算術的關係、およびデータベースのメンバー間の連結を定義します。同じ次元またはメンバーに属する同一レベルのメンバーは、兄弟と呼ばれます。次元に属するメンバーはその次元の子と呼ばれます。メンバーに属するメンバーはそのメンバーの子と呼ばれます。

アプリケーションについての重要な情報については、[543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」](#) および [547 ページの「複数のプランニング次元に共通するプロパティ」](#) を参照してください。次のような追加の考慮事項があります：

- 次元ライブラリで作成された新規次元には、デフォルトの関連付けがありません。
- フラット・ファイルからロードされた次元の場合、関連付けをフラット・ファイルで指定する必要があります。
- Planning から Performance Management Architect にアップグレードしたアプリケーションの場合、関連付けが割り当てられることがあります。
- スマート・リストを次元(勘定科目またはエンティティなど)に関連付ける必要はありませんが、スマート・リストは、Smart List プロパティ・フィールドで関連付けられます。スマート・リストは、共有ライブラリのメンバーに関連付ける必要があります。スマート・リストと関連付けられているメンバーは、そのデータ型をスマート・リストに設定する必要があります。

その他のプランニング次元の機能

その他の Essbase 機能がプランニング次元でサポートされるようになりました。シナリオ、バージョンおよび期間次元に、子および兄弟を追加できます。さらに、次元階層でメンバーの切取り、貼付け、展開および縮小ができます。また、これらの次元の共有メンバーを使用したり、すべての次元のルート・レベルでの 2 パス計算を設定できます。たとえば、次のことを実行できます：

- シナリオおよびバージョン次元で、階層の作成および共有メンバーの使用ができます。子をボトムアップ・バージョンに割り当てる場合、これらのバージョンは読取り専用の親としてデータ・フォームに表示されます。
- 期間次元で、代替階層の作成および共有子孫の使用ができます。すべての期間のデータ・ストレージを任意の有効なデータ・ストレージ値に設定できます。すべてのシナリオ、バージョンおよび期間次元の連結演算子(BegBalance を含む)は、任意の有効な連結演算子に設定できます。たとえば、~(無視)のかわりに+を設定できます
- 属性の場合は、階層の作成および別名の割当てができます。
- たとえば勘定科目のルート・レベルで 2 パス計算を有効にできます。

注意 2 パス計算は、動的計算が設定されていない勘定科目以外のメンバーでは無視されます。この設定を使用する場合は、通貨換算スクリプトに対する影響を考慮します。

注： マルチ通貨アプリケーションの場合、組込み済の通貨換算計算スクリプトは、任意のシナリオ、バージョン、期間または年メンバー、または特定の次元ルート(エンティティ、バージョン、通貨、カスタム次元など)でデー

タ・ストレージを動的に変更した場合、適切に機能しません。データ・ストレージを変更する場合は、通貨換算スクリプトに対する影響を考慮します。

別名次元

別名は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。1つ以上の別名を **Planning** の勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年、属性値およびユーザー定義の次元メンバーに割り当てられます。別名は、任意の **Financial Management** 次元に割り当てられます。

別名次元には3つの要素があります:

- 別名次元
- 別名メンバー
- **Alias** プロパティ

別名次元を作成し、それにメンバーを追加できます。関連付けられている次元のメンバーの **Alias** プロパティ値フィールドに、説明や代替名などを入力します。たとえば、メンバーが英語、フランス語、イタリア語の別名次元を作成します。**Planning** では、これらのメンバーは別名テーブルとみなされます。この別名次元に関連付けられている通貨次元では、メンバーが AUD、JPY および USD です。各メンバーの **Alias** プロパティ値をダブルクリックし、英語、フランス語およびイタリア語の説明を入力します。たとえば、英語の説明を「**Australian Dollar**」、「**Japanese Yen**」、「**United States Dollar**」と入力します。

次元ライブラリでのメンバーおよびその別名の表示方法を設定できます。メンバー名のみ、別名のみ、または両方を表示できます。たとえば、別名が **Australian Dollar** である AUD という通貨メンバーがある場合、次元ライブラリに、「**AUD**」のみ、「**Australian Dollar**」のみ、または「**AUD-Australian Dollar**」と表示できます。

別名によって、次元およびメンバーの一意的識別子を作成できます。たとえば、コスト・センター次元メンバーを、数字(100、200、210 など)でも、記述的な別名(人事、技術、営業など)でも識別できます。メンバーは、異なる言語の別名を持つこともできます。

別名次元の名前は、**Hyperion** 製品の命名要件に従う必要があります。プランニング次元の場合は、[569 ページの「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」](#)を参照してください。**Financial Management** 次元の場合は、[付録 A 「Financial Management 次元の操作」](#)を参照してください。

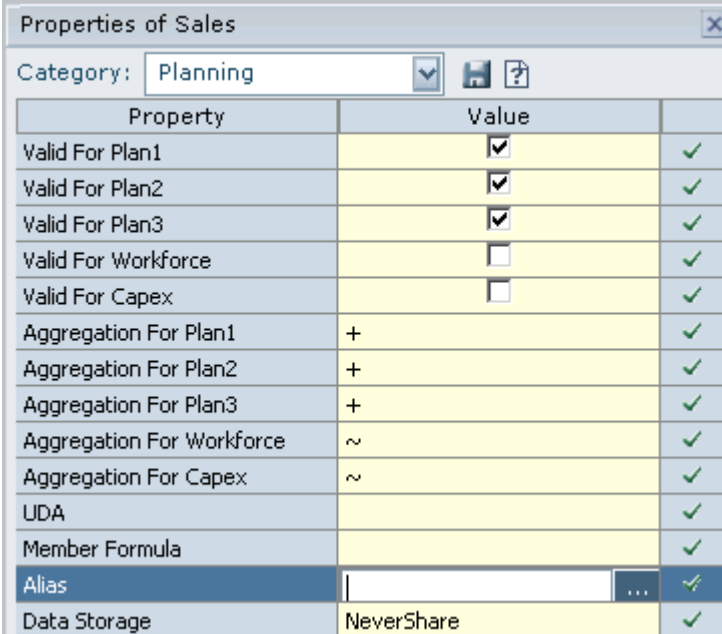
注： 次元ライブラリで別名次元を作成する場合に、別の文字を入力することもできますが、別名次元がアプリケーションに送られるときにアプリケーションの命名規則が適用されます。

▶ 別名次元を設定するには:

- 1 次元ライブラリで別名次元を作成して、メンバーを追加します。

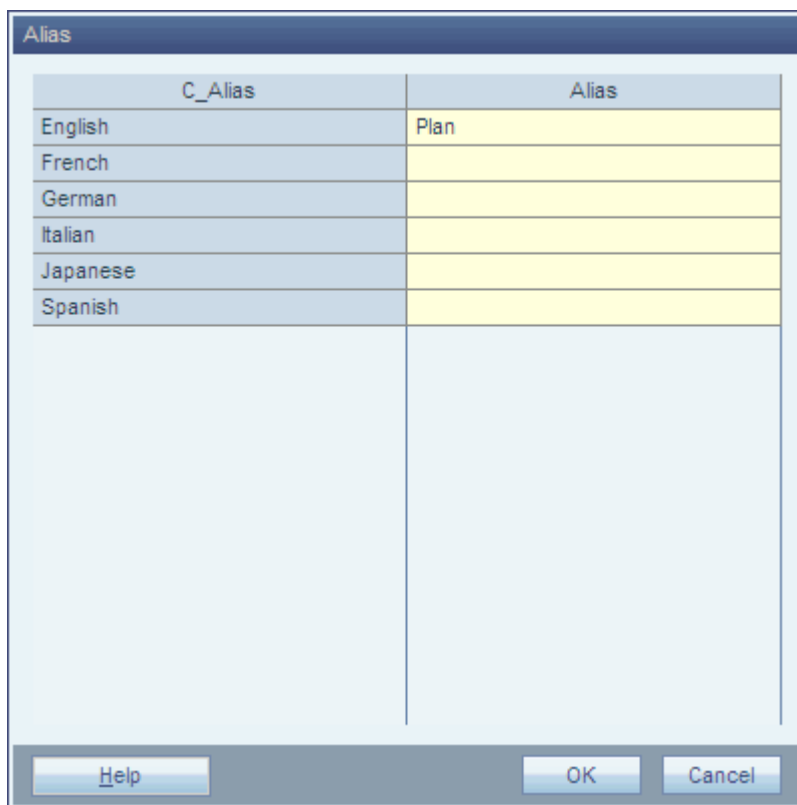
注： アプリケーションが Planning に配置されると、別名次元の子メンバーが別名テーブルになります。したがって、Planning の場合は、Default という名前のメンバーを追加する必要があります。

- 2 勘定科目やエンティティなどのメイン次元を別名次元に関連付けられます。83 ページの「次元の関連付けの作成」を参照してください。
- 3 別名次元をアプリケーションにドラッグします。(別名次元との関連付けを持つメイン次元がアプリケーションに存在しない場合は、メイン次元もドラッグする必要があります。)
- 4 アプリケーションで関連付けをアクティブにします。187 ページの「次元の関連付けの表示」を参照してください。
- 5 アプリケーションで、メイン次元メンバー(たとえば、販売)を選択し、プロパティ・グリッドの「別名」フィールドをダブルクリックします。



Property	Value	
Valid For Plan1	<input checked="" type="checkbox"/>	✓
Valid For Plan2	<input checked="" type="checkbox"/>	✓
Valid For Plan3	<input checked="" type="checkbox"/>	✓
Valid For Workforce	<input type="checkbox"/>	✓
Valid For Capex	<input type="checkbox"/>	✓
Aggregation For Plan1	+	✓
Aggregation For Plan2	+	✓
Aggregation For Plan3	+	✓
Aggregation For Workforce	~	✓
Aggregation For Capex	~	✓
UDA		✓
Member Formula		✓
Alias	<input type="text"/> ...	✓
Data Storage	NeverShare	✓

- 6  をクリックし、別名テーブルにメンバーの別名を入力します。



7 OK をクリックします。

▶ メンバーの別名を表示するには:

- 1 アプリケーションの別名次元を選択します。
- 2 プロパティ・グリッドで、「システム」カテゴリを選択します。
- 3 デフォルト・メンバーをダブルクリックし、別名テーブルを選択し、保存をクリックします。
- 4 プロパティ・グリッドで、Planning カテゴリを選択します。

エンティティなどの基本次元に別名次元とのアクティブな関連付けがある場合、およびエンティティ・メンバーが、選択された別名テーブルに定義された別名を持っている場合、Planning カテゴリの「別名」フィールドに別名が表示されます。

ヒント: 次元ライブラリで、「表示」、「メンバー」、「表示」、「両方」の順に選択し、アプリケーションの別名を表示します。

ユーザー定義属性次元

ユーザー定義属性(UDA)次元では、複数の次元のメンバー用に作成した UDA 次元を再使用できます。UDA は、メンバーの特徴を説明するために使用される単語または語句です。これによって、計算スクリプト内、メンバー計算式内およびレポート内で、指定した UDA に関連付けられているメンバーのリストを戻すことができます。たとえば、様々な製品メンバーを含む製品次元がある場合に、新製品という名前の UDA 次元を作成し、特定の計算を新製品にのみ基づかせます。

▶ UDA 次元を作成するには:

- 1 次元ライブラリで、ファイル、新規、次元の順に選択します。
- 2 次元の名前および説明を入力します。
- 3 UDA を選択します。
- 4 メンバーを UDA 次元に追加します。

メンバーは、プロパティ・グリッドを使用して UDA をメンバーに割り当てるときの選択元の UDA です。その他の情報については、[135 ページ](#)の「[ユーザー定義属性の操作](#)」を参照してください。

カスタム次元

カスタム次元を使用する場合、[569 ページ](#)の「[次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)」の命名規約に従う必要があります。次元名および別名は一意にしてください。スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。説明は 255 文字までです。

メンバーにアクセス権を割り当て、次元メンバーの階層を再調整し、エンティティ、勘定科目およびカスタム次元のメンバーを共有できます。アクセス権の割当てについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

次元の関連付け

他の次元を参照する次元には関連付けが必要です。たとえば、セキュリティ・クラスや通貨などの次元を参照する次元には関連付けが必要です。Oracle の Hyperion 製品ではアプリケーションの構成(次元にはセキュリティが適用されています)が可能なので、関連付けが必要な次元はアプリケーションの構成に依存します。

次元の関連付けの作成

セキュリティ・クラス、通貨および属性を次元およびそのメンバーに割り当てるために、次元の関連付けを作成します。たとえば、エンティティ次元をセキュリティ・クラスおよび通貨次元に関連付ける場合、その関連付けはそのエンティティ次元のすべてのメンバーによって継承されます。

また、フラット・ファイルで次元の関連付けを行うこともできます。[50 ページ](#)の「[次元の関連付けセッション](#)」を参照してください。既存の関連付けは、アプリケーションをアップグレードするときに自動的に作成およびアクティブ化されます。

▶ 次元の関連付けを作成するには:

- 1 次元を右クリックし、関連付けの作成を選択します。

注: セキュリティ・クラスおよび別名次元は、属性次元にのみ関連付けられません。

- 2 既存のプロパティまたは新規プロパティを選択します。

- 3 「既存のプロパティ」を選択した場合は、「プロパティ」ドロップ・ダウン・リストからプロパティを選択します。
- 4 「新規プロパティ」を選択した場合は、新規プロパティの名前を入力します。

注：「新規プロパティ」を選択した場合は、属性次元との関連付けのみを作成できません。

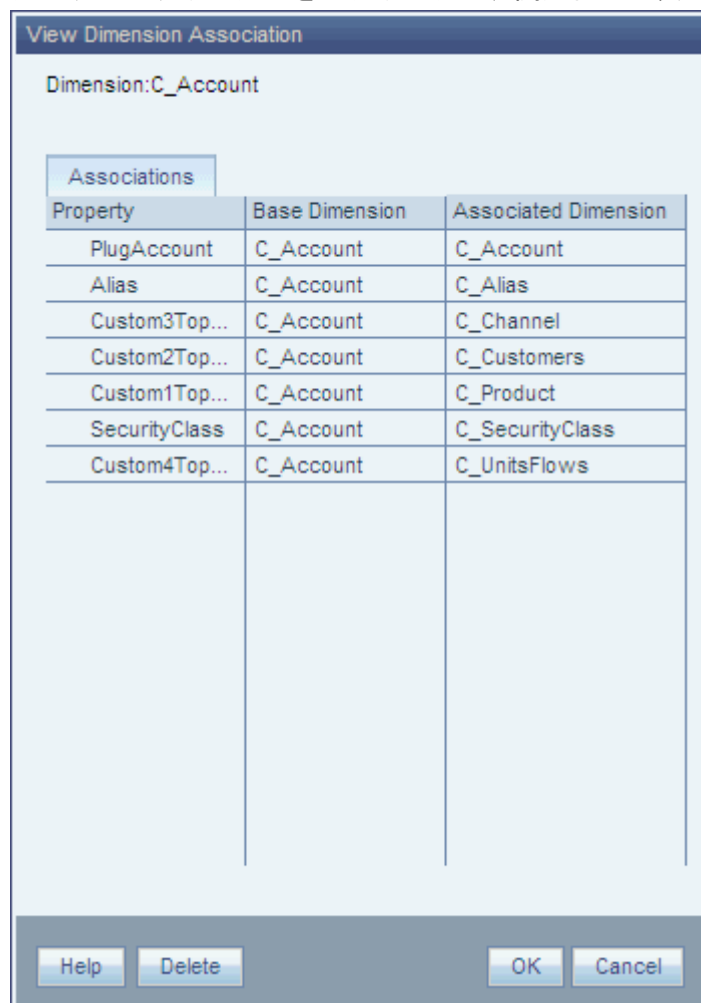
- 5 **オプション:** 関連付けの説明を入力します。
- 6 次元から関連次元を選択します。
- 7 OK をクリックします。

注： 次元ライブラリに作成された関連付けは、アプリケーションでアクティブ化する必要があります。187 ページの「次元の関連付けの表示」を参照してください。

次元の関連付けの表示および削除

▶ 次元の関連付けを表示および削除するには:

- 1 次元ライブラリで次元を右クリックし、関連付けの表示を選択します。



- 2 **オプション:** 「次元の関連付けの表示」ダイアログ・ボックスの列をソートするには、列のヘッダーをクリックします。

ヒント: 次元の関連付けを使用するアプリケーションのリストを表示するには、関連付けの行を右クリックして、「検索」を選択します。

- 3 関連付けを削除するには、関連付けの行を選択し、削除をクリックします。

ヒント: [Ctrl]または[Shift]キーを使用して複数の次元の関連付けを選択できます。

- 4 はいをクリックして確定します。

- 5 OK をクリックします。

次元のコピー

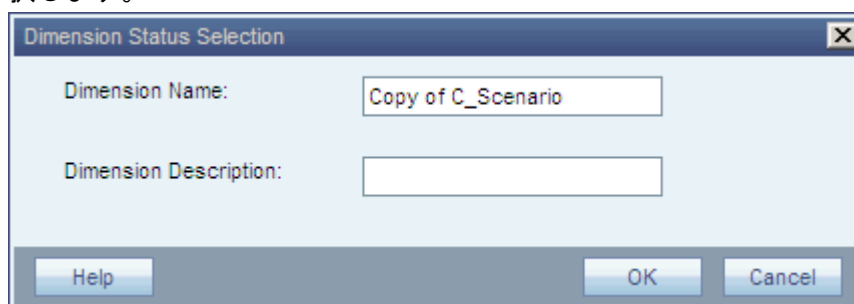
同じタイプの新規次元を作成するために、次元をコピーできます。次元がコピーされると、すべてのメンバーおよびプロパティの値も新規次元にコピーされます。元の次元およびコピーされた新規次元との間にリンクは定義されません。

次のように次元をコピーできます:

- 共有ライブラリ内の次元
- アプリケーション内でローカル次元として
- 共有ライブラリから新規ローカル次元を作成するアプリケーションに
- 1つのアプリケーションから、他のアプリケーションと共有する共有ライブラリに

▶ 次元を共有ライブラリにコピーするには:

- 1 共有ライブラリ内の次元を右クリックし、次元のコピー先、共有ライブラリの順に選択します。



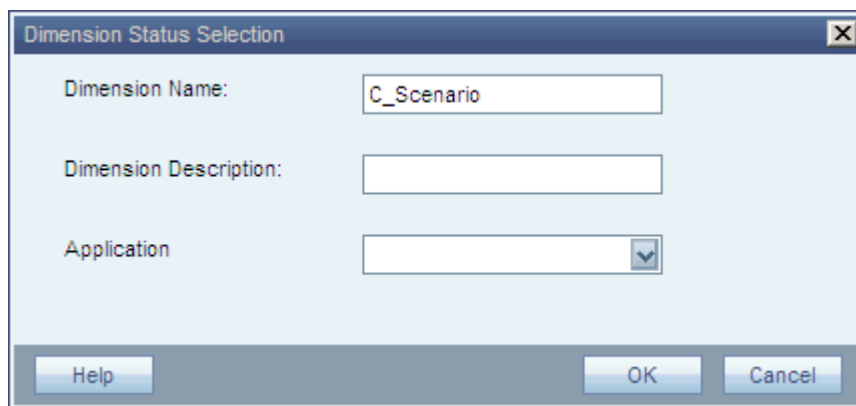
- 2 デフォルトの次元名を変更し、説明を入力します。

- 3 OK をクリックします。

次元が共有ライブラリに追加されます。

▶ 次元をアプリケーションにコピーするには:

- 1 次元を右クリックし、次元のコピー先、アプリケーションの順に選択します。



- 2 次元名を変更し、説明を入力します。
- 3 アプリケーションを選択して、OK をクリックします。

アプリケーション・メンバーシップの表示

アプリケーション・メンバーシップは、どのアプリケーションでどのメンバーまたは次元が使用されるのかを示します。この情報を使用して次元の変更の影響を確認できます。

- ▶ アプリケーション・メンバーシップを表示するには:
 - 1 次元ライブラリで、次元またはメンバーを右クリックし、アプリケーション・メンバーシップを選択します。
 - 2 保存をクリックします。

次元の整理

フォルダを作成し、次元をそのフォルダにコピーまたは移動することで、次元を整理できます。次の項では、次元の整理について詳細に説明しています。

- [86 ページの「フォルダの作成」](#)
- [87 ページの「フォルダへの次元の追加」](#)
- [87 ページの「フォルダの名前変更」](#)
- [88 ページの「フォルダの削除」](#)

フォルダの作成

- ▶ フォルダを作成するには:
 - 1 ファイル、新規作成、フォルダの順に選択します。
「新規フォルダの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 名前および説明を入力し、OK をクリックします。

フォルダへの次元の追加

次元は複数の場所に存在する可能性があります。たとえば、次元を整理して、勘定科目次元を複数のフォルダに持たせるか、または最上位レベルとフォルダ内に持たせます。複数のメソッドを使用して次元をフォルダにコピーまたは移動できます。

次元のコピー

▶ 次元をフォルダにコピーするには:

- 1 共有ライブラリでフォルダを右クリックし、次元の追加を選択します。

「フォルダに次元を追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

ヒント: 「次元の追加」ダイアログ・ボックスを使用する場合、次元は新しい場所にコピーされます。この場合、次元は複数の場所に存在します。

- 2 [Ctrl]キーを使用してリスト内の1つ以上の次元を選択します。

注: 次元がすでにフォルダ内に存在する場合、そのフォルダに同じ名前の次元は追加できません。

- 3 OK をクリックします。

次元の移動

次元をドラッグすると、元の場所からフォルダに移動できます。

▶ 共有ライブラリで次元を移動するには、次元をフォルダにドラッグします。

ヒント: [Ctrl]キーを使用すると、複数の次元を選択して移動できます。

▶ 次元をフォルダから取出し、共有ライブラリのルートに戻すには、フォルダ内の次元を右クリックし、フォルダから除去を選択し、はいをクリックして確定します。

フォルダの名前変更

▶ フォルダの名前を変更するには:

- 1 フォルダを右クリックし、名前変更をクリックします。

「フォルダの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 フォルダ名を入力し、OK をクリックします。

フォルダの削除

次元ライブラリで作成するフォルダを削除できます。フォルダを削除する場合は、1)フォルダのみを削除する、または2)フォルダおよびそのコンテンツを削除する、の2つの選択肢があります。

フォルダのみの削除

フォルダを削除するとき、次のガイドラインを覚えておいてください:

- フォルダのみが削除される
- 次元およびサブフォルダは削除されずに次元ライブラリのルートに移動される
- サブフォルダを削除する場合は、サブフォルダのみが削除されます。次元は削除されずに、ルート・フォルダに移動します。

▶ フォルダのみを削除するには:

- 1 フォルダを右クリックし、「削除」、「フォルダのみの順」を選択します。
確認のダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 はいをクリックします。
- 3 OK をクリックします。

コンテンツがあるフォルダの削除

コンテンツがあるフォルダを削除するには、次のガイドラインを考慮してください:

- コンテンツ全体が削除されます。
- サブフォルダを含むフォルダおよび次元が削除されます。
- サブフォルダを削除すると、フォルダを含むサブフォルダおよび次元が削除されます。

▶ フォルダおよびそのコンテンツを削除するには:

- 1 フォルダを右クリックし、「削除」、「フォルダ(コンテンツあり)の順」を選択します。
確認のダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 はいをクリックします。
- 3 OK をクリックします。


フォルダおよびそれに含まれるすべての次元が削除されます。

次元のフィルタ処理

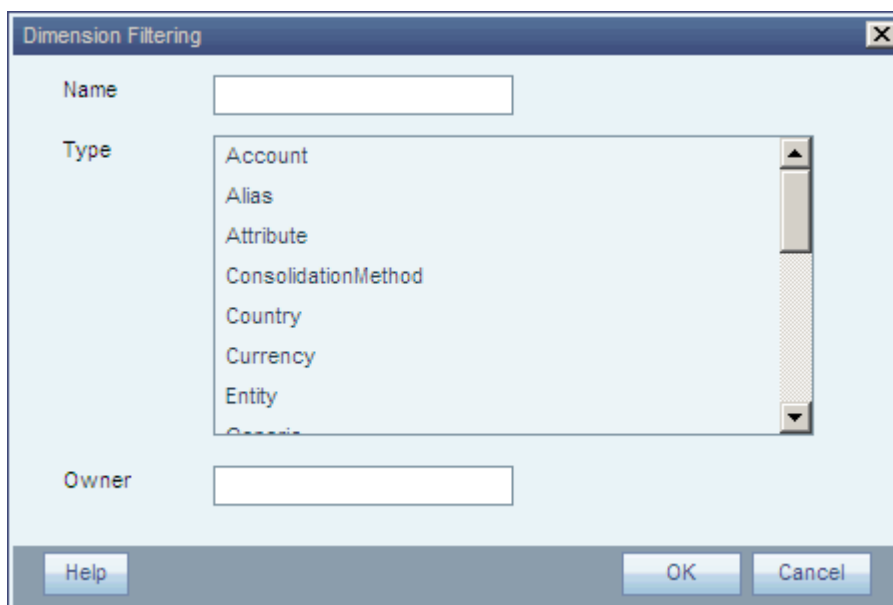
次元ライブラリの次元はフィルタできます。フィルタ処理は、フォルダではなく次元のみに適用されます。

注： 次元を作成し、新規次元を含めないフィルタを適用すると、その次元は、フィルタを除去するまで共有ライブラリに表示されません。

▶ 次元をフィルタするには:

- 1  をクリックするか、または表示、次元のフィルタの順に選択します。

「次元のフィルタ処理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



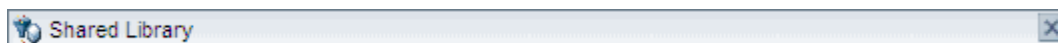
- 2 名前を入力するか、タイプを選択するか、または次元を所有するユーザーまたはグループの名前を入力します。

ワイルドカード文字を使用して、次元をフィルタできます。次元サーバーは、 $\$^{\{[|]+.*?!}$ のワイルドカード文字をサポートします。

- 3 OK をクリックします。

ヒント： フィルタ条件を除去するには、「編集」、「フィルタ条件の消去」の順に選択します。


次元がフィルタされるときは、共有ライブラリ・ペインにフィルタ・アイコンが表示されます。



次元およびフォルダのソート

次元およびフォルダは、昇順または降順でソートできます。

▶ 次元およびフォルダをソートするには:

- 1  をクリックします。

「次元のソート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 ソート基準のアーチファクトを選択します(次元クラス、名前、説明、所有者)。
- 3 ソート順を選択します(昇順または降順)。
- 4 OK をクリックします。

ヒント: ソート条件を除去するには、「編集」、「ソート条件の消去」の順に選択します。

次元をソートするときは、共有ライブラリ・ペインにソート・アイコンが表示されます。

次元の削除

次元を削除すると、次元およびそのすべてのメンバーが次元ライブラリから削除されます。次元およびそのメンバーは、その次元を使用しているアプリケーションからも削除されます。次元の関連付けも削除されます。

注意 次元を削除する前に次元を右クリックし、アプリケーション・メンバーシップを選択すると、この次元を使用しているアプリケーションが表示されます。アプリケーションにその次元が含まれる場合、その次元は削除できません。

プランニング次元の削除に関する重要な情報については、[128 ページの「プランニング・メンバーの除外および削除」](#)を参照してください。

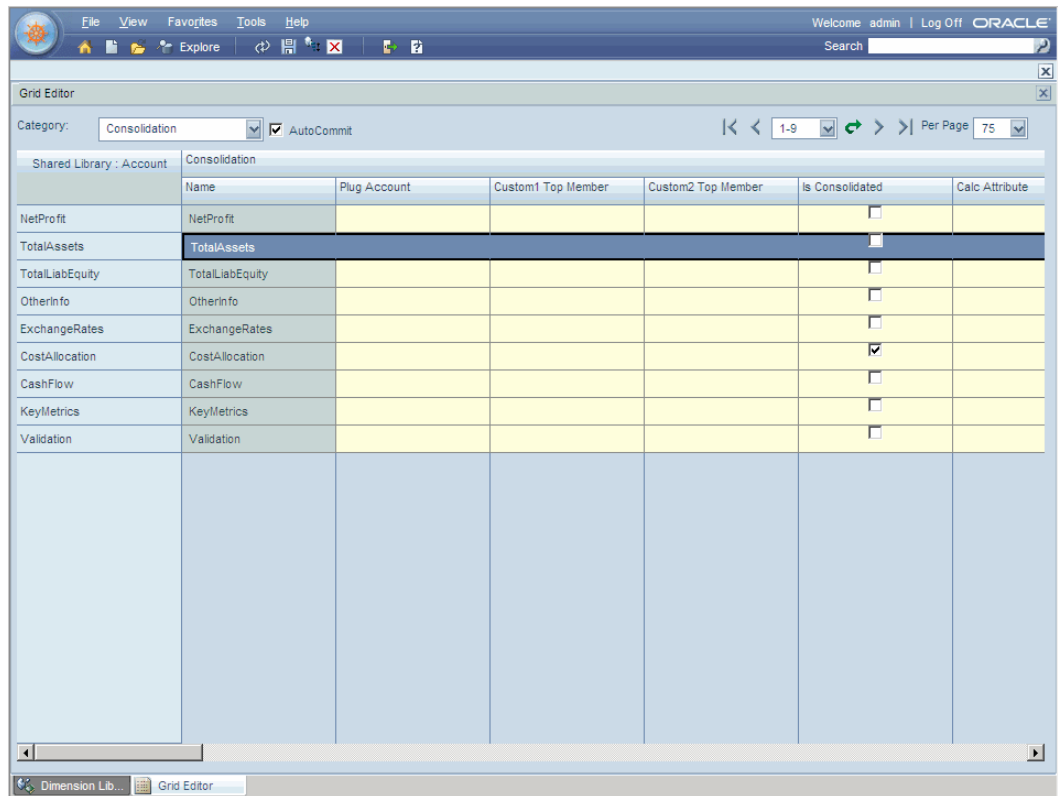
- ▶ 次元を削除するには:
- 1 次元ライブラリで次元を右クリックし、次元の削除を選択します。
 - 2 はいをクリックします。

グリッド・エディタの使用法

グリッド・エディタを使用すると、表形式またはグリッドベースのインターフェース内で次元を表示および管理できます:

- 同時に複数のメンバーのプロパティを表示する
- 複数のメンバーにバルク更新を実行する
- 変更された値を識別して簡単に値を割り当てる

次の例では、勘定科目次元のメンバーおよびプロパティを編集するためのグリッド・エディタを表示します。



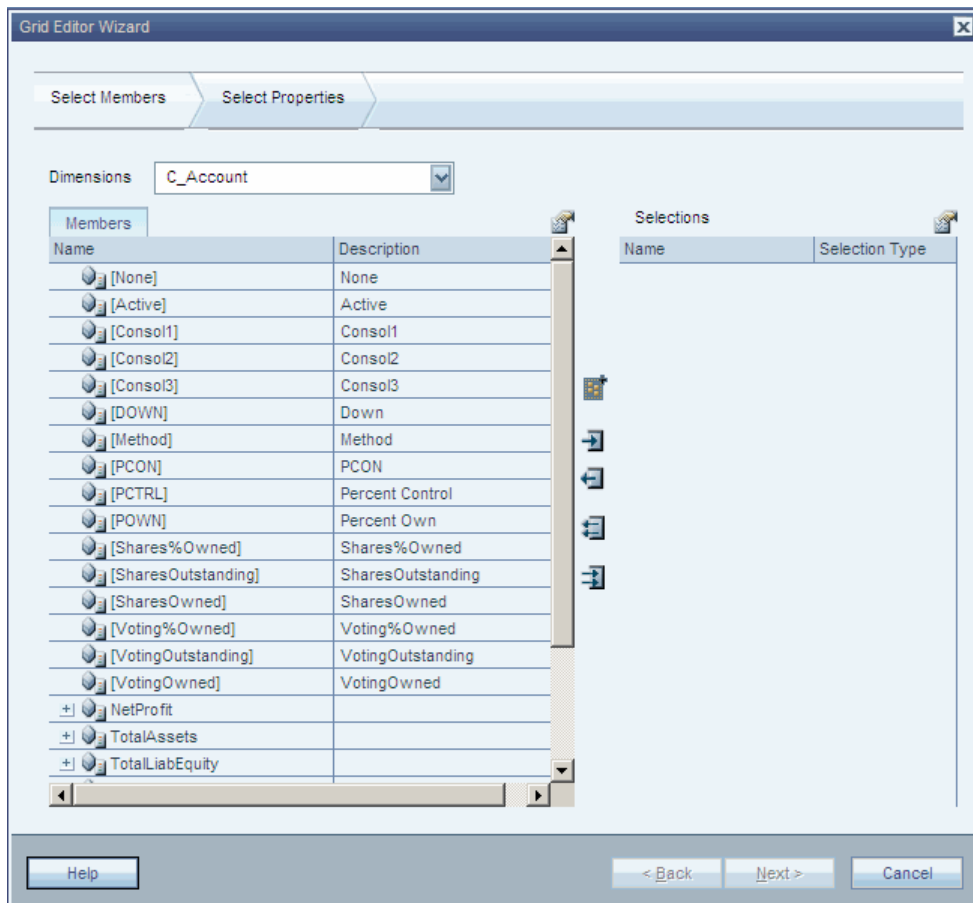
グリッド・エディタの起動

▶ グリッド・エディタを起動するには:

- 1 次元を右クリックし、グリッド・エディタを選択します。

注： メンバーを右クリックしても、「グリッド・エディタ」オプションは表示されません。次元を右クリックする必要があります。


グリッド・エディタ・ウィザードが表示されます。



グリッド・エディタ・ウィザードによって、次元内のメンバーを表示できます。「+」および「-」を使用して、次元内のメンバーを展開および縮小します。


グリッド・エディタ・ウィザードには、2つのペインがあり、次元のすべてのメンバーが左側に表示され、グリッド・エディタの選択内容が右側に表示されます。その次元で使用可能なすべてのメンバーが表示される左ペインには、メンバー名および簡単な説明が表示されます(使用可能な場合)。グリッド・エディタの選択内容が表示される右ペインには、メンバー名および選択タイプが表示されます。

各ペインの上部にあるメニュー・ボタンを使用すると、グリッド・エディタ・ウィザードの列を変更できます。

- 2 次元のすべてのメンバーを縮小するには、 をクリックしてすべて縮小を選択します。

注：「すべて縮小」を選択すると、次元の下のすべてのメンバーまたは選択したメンバーが縮小されます。次元またはメンバーが縮小された後にアーチファクトの上にマウス・ポインタを置くと、子孫の数を示すツールチップが表示されます。


- 3 次のいずれかのアクションを行います:

1. 左ペインで、、表示、カウントの順に選択します。

名前および説明に加えてカウント列が表示されます。カウント列には、現在の次元の子メンバーの数が表示されます。これは、ツリーの分岐を展開するために必要な時間を示唆する便利なインディケータになります。

2. カウント列を除去するには、、表示、カウントの順に選択します。

4 次のいずれかのアクションを行います:

1. 別名列を表示するには、、表示、別名の順に選択します。
名前および説明に加えて別名列が表示されます。別名列には、次元メンバーの代替の説明である別名が表示されます。

2. 別名列を除去するには、、表示、別名の順に選択します。

5 選択ペインの列を変更するには、選択ペインで、、表示、選択のタイプの順に選択します。

選択ペインには名前が自動的に表示されますが、選択のタイプを表示するかどうかは各自で決められます。

メンバーの選択

グリッド・エディタ・ウィザードを使用するための最初の手順は、グリッド・エディタで編集するメンバーを選択することです。

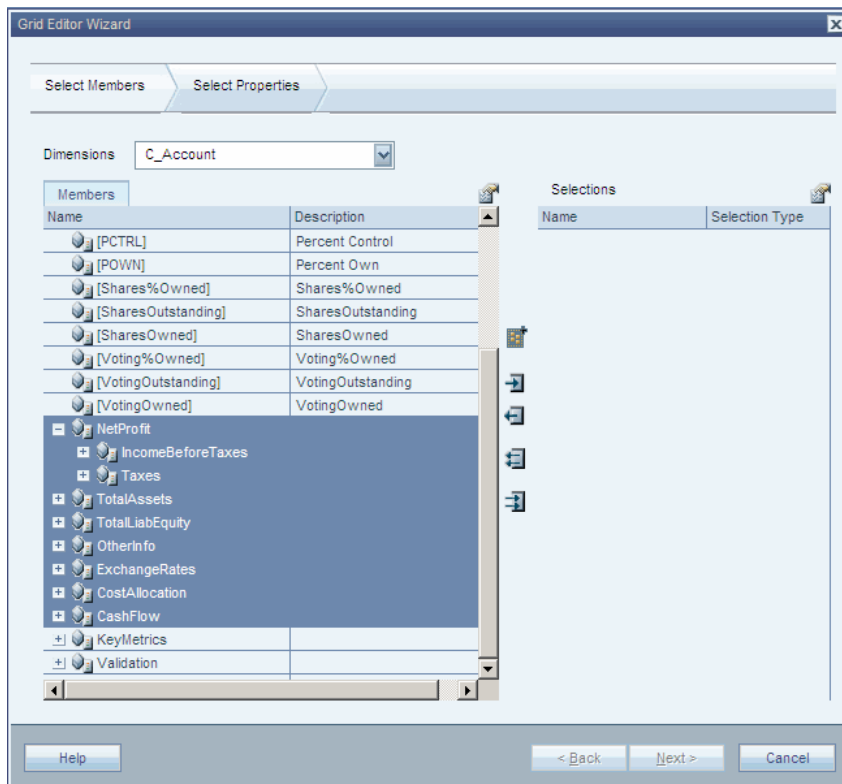
▶ メンバーを選択するには:


1 次元を選択します。

注: デフォルトでは、グリッド・エディタを選択するために右クリックしたときに選択した次元が表示されます。別の次元を選択する場合は、「次元」ドロップ・ダウン矢印をクリックします。

共有ライブラリまたはアプリケーション内のすべての次元に対してグリッド・エディタを使用できますが、一度に操作できる次元は1つのみです。アプリケーションの共有次元の詳細については、[183 ページの「アプリケーションでの次元の追加」](#)を参照してください。

2 左側のメンバーを選択してをクリックします。




3 メンバーに特殊なオプションを追加するには、 をクリックします。次のいずれかのオプションを選択します:

- メンバー
- 子
- 子(含む)
- 子孫
- 子孫(含む)
- 兄弟
- 兄弟(含む)
- 親
- 親(含む)
- 祖先
- 祖先(含む)
- 相対

ここに挙げたオプションで、「(含む)」は選択したメンバーを含むことを意味します。たとえば、「子(含む)」は選択したメンバーを含むメンバーのすべての子を追加し、「子孫(含む)」は選択したメンバーを含むすべての子孫を追加します。「子」を選択した場合、選択したメンバーは含まれず、その子のみが含まれます。

そのメンバーは右側に移動され、「選択のタイプ」列には選択したオプションが表示されます。たとえば、「選択のタイプ」列に「子孫」が表示されます。

4 グリッド・エディタに表示するすべてのメンバーを選択するまで、これらの手順を繰り返します。

ヒント: 選択したリストのすべてのメンバーの選択を解除するには、をクリックします。

5 必要な場合は、編集対象の新規次元およびメンバーを選択します。

6 終了したら、次へをクリックします。

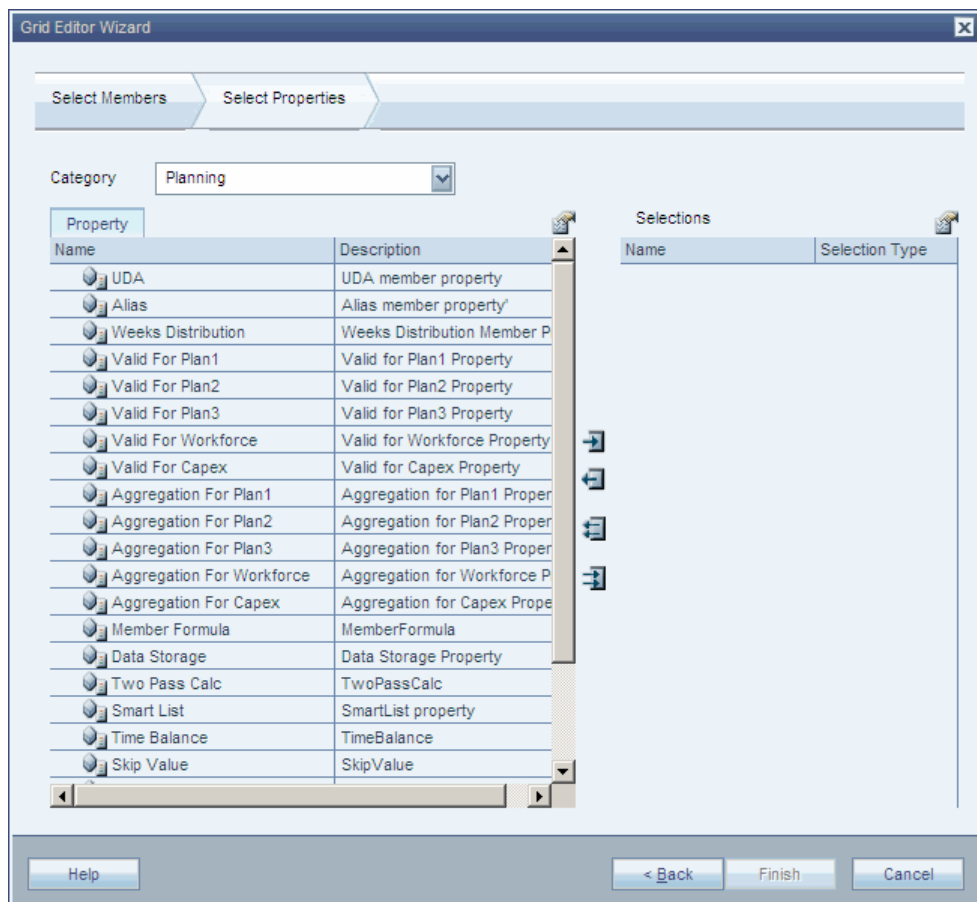
「プロパティの選択」タブが表示されます。95 ページの「プロパティの選択」を参照してください。


プロパティの選択

グリッド・エディタを使用して変更するプロパティを選択できます。グリッド・エディタ・ウィザードでプロパティを選択したときは、適切なカテゴリを選択したことを確認します。

▶ プロパティを選択するには:

1 プロパティはカテゴリとは異なることがあるため、編集するプロパティを含むカテゴリを選択します。

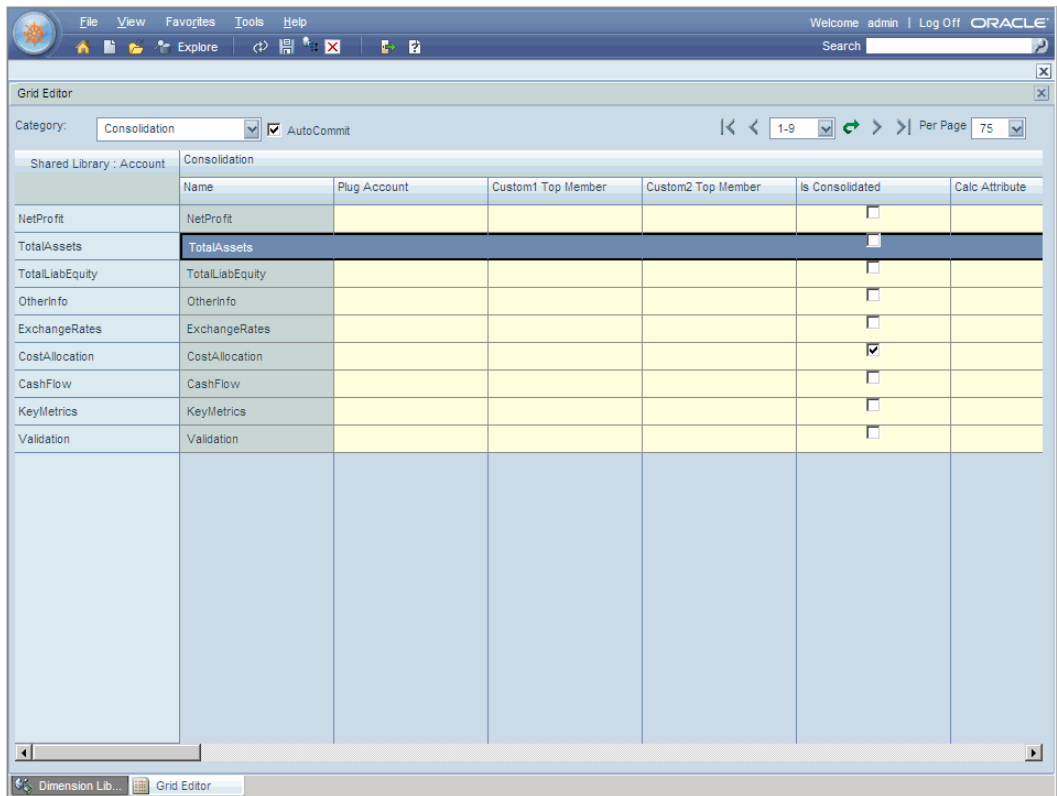


2 左側のプロパティを選択して  をクリックします。

3 「グリッド・エディタ」で編集するすべてのプロパティを選択するまで、これらの手順を繰り返します。

4 終了をクリックします。

グリッド・エディタが表示されます。



読み取り専用プロパティを表すグリッド・セルは暗く表示され使用不可になります。次元ライブラリ・プロパティ・グリッド内のチェック・ボックスなど、特殊なコントロールを利用するプロパティの場合は、グリッド・エディタでも同じコントロールを使用します。


共有ライブラリ次元を編集する場合、グリッド・エディタには、「共有ライブラリ: 勘定科目」のように、共有ライブラリの後に次元名が表示されます。ただし、アプリケーションの次元を編集する場合、「FinMgt: 勘定科目」のように、アプリケーションの名前は次元名の前に表示されます。さらに、各プロパティ・カテゴリ名は、プロパティ列の上に表示されます。たとえば、連結は、連結カテゴリで選択したプロパティの上に表示されます。

グリッド・エディタの操作

「グリッド・エディタ」には、ウィザードで選択したメンバーおよびプロパティが表示されます。カテゴリによっては、メンバーおよびプロパティは異なることがあるため、「グリッド・エディタ」の上部に表示する特定のカテゴリを選択できます。メンバーは行として表示され、左側にメンバー名が表示されます。プロパティは列として表示され、列の見出しの2行目にその名前が表示されます。対応するそれぞれのプロパティ値はセル・データとして表示されます。

メンバーおよびプロパティの変更の保存

メンバーおよびプロパティを変更する場合、その変更を即時に発生させるか、「保存」ボタンを使用するまで待機するかを設定できます。「グリッド・エディタ」の自動確定機能は、それぞれの変更を即時に保存します。自動確定機能を使用するときには、次のガイドラインに留意してください:

「保存」ボタン - 

自動確定 - AutoCommit

自動確定機能が選択されていない場合:


- データは「保存」ボタンをクリックしたときにのみ保存されます。
- メンバーまたはプロパティを変更した場合、そのセルは新しく次の色で影が付けられます:
 - **黄色** - 黄色いセルは、その値が更新されていることを示します。その値を保存すると、「次元ライブラリ」で更新されて、セルの色はデフォルトの色に戻ります。
 - **赤** - 赤い行は、削除のためにマークされていることを示します。行が削除にマークされると、そのセルは編集できなくなります。保存のときには、そのすべてのメンバーが「次元ライブラリ」から削除され、アプリケーションから除去され、すべての行がグリッドの現在のページから削除されます。

グリッドのあるページから別のページに移動する場合、変更を保存するかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。

- すべての変更は、「保存」ボタンをクリックしたときに保存されます。
- 自動保存を選択するように変更すると、データを保存するように指示するメッセージが表示されます。

自動確定機能が選択されている場合:

- 個別のアクションが実行されると、データが保存されます。
- 行を変更するか[Enter]キーを押すと、プロパティ値は保存されます。
- メンバーを右クリックして「メンバーの削除」を選択すると、即時にそのメンバーは削除されます。

注:  をクリックすると、グリッドに対して実行した変更を除去して、最後に保存したデータにリフレッシュできます。

次元の変更

グリッド・エディタに表示される次元を変更できます。

▶ 次元を変更するには:

- 1 グリッド・エディタの左上の次元名を右クリックします。
- 2 次元の変更を選択します。
グリッド・エディタ・ウィザードが表示されます。
- 3 次元のドロップ・ダウン矢印を使用して次元を選択します。
- 4 グリッドに表示するメンバーを選択して、次へをクリックします。
- 5 プロパティを選択して終了をクリックします。

グリッド・エディタが表示されます。

祖先の表示

グリッド・エディタを使用してメンバーの祖先を表示して、メンバーが存在する次元階層の場所を特定できます。

▶ メンバーの祖先を表示するには:

- 1 **メンバー(行)を右クリックして祖先の表示を選択します。**

「祖先の表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。メンバー名が「検索」テキスト・ボックスに自動的に表示され、リストに展開されます。

- 2 **OK をクリックします。**

ヒント: 「検索」テキスト・ボックスに名前を入力すると、メンバーを検索できます。検索は、入力したテキストに基づいて、選択した次元のすべてのメンバーを検索します。たとえば、「c*」と入力すると、「c」で始まる最初のメンバーを選択します。「次へ」ボタンおよび「前へ」ボタンを使用すると、「c」で始まる他のメンバーも表示できます。

メンバーの作成

「グリッド・エディタ」を使用すると、子メンバーまたは兄弟メンバーを作成できます。

選択したメンバーの子としてメンバーを作成すると、新規の子メンバーのプロパティ値の行がグリッドの現在のページに追加されます。選択したメンバーの兄弟を作成すると、選択したメンバーと同じレベルの兄弟として新規メンバーが作成され、新規の兄弟メンバーのプロパティ値の行がグリッドの現在のページに追加されます。

▶ メンバーを作成するには:

- 1 **行を右クリックしてメンバーの作成を選択します。子としてまたは兄弟としてを選択します。**

「新規メンバー」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 **メンバー名を入力して、OK をクリックします。**


グリッド・エディタの選択したメンバーの下に、そのメンバーが表示されます。新規メンバーを作成すると、グリッド・エディタはそのアクションを自動的に保存します。

メンバーの追加

▶ メンバーを追加するには:

- 1 **行を右クリックしてグリッドにメンバーを追加しますを選択します。**

「メンバーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 追加するメンバーを選択して、をクリックします。

ヒント: 「メンバーの追加」ダイアログ・ボックスの下部の「検索」領域を使用してメンバーを検索できます。


- 3 OK をクリックします。

新規メンバーが、グリッド・エディタの行として追加されます。

メンバーの除去および削除

「グリッド・エディタ」を使用して、メンバーを除去または削除できます。メンバーを除去すると、選択したメンバーがグリッドから除去されます。メンバーを削除すると、選択したメンバーが赤色でマークされて削除されます。メンバーの削除では、「保存」ボタンをクリックしたときに次元サーバーからメンバーが物理的に削除されます。

- ▶ グリッド・エディタの表示からメンバーを除去するには:

- 1 メンバーを除去する前に、をクリックします。
- 2 メンバー行を右クリックして、メンバーのグリッドからの除去を選択します。
メンバーはその次元から除去されます。

- ▶ 次元サーバーからメンバーを削除するには:

- 1 メンバーを右クリックしてメンバーの削除を選択します。
確認のダイアログ・ボックスが表示されます。


注意 メンバーを削除すると、すべてのビューから削除されます。特に慎重に操作してください。

- 2 はいをクリックします。

メンバーおよびプロパティのソート

グリッド・エディタでメンバーおよびプロパティをソートできます。

- ▶ グリッド・エディタでアーチファクトをソートするには:

- 1 をクリックします。
「GridEditor ソート・ダイアログ」が表示されます。
- 2 「メンバー」、「プロパティ」など、ソートするものを選択します。
- 3 「メンバー」を選択した場合、ソート基準のアーチファクトを選択します(「名前」、「別名」、または「プロパティ」)。
- 4 ソート順を選択します(昇順または降順)。
- 5 OK をクリックします。

ヒント： 列ヘッダーをダブルクリックすると、「プロパティ」列をソートできます。プロパティをソートするとき、列ヘッダーにソート・インディケータが表示されます。

セル・データのコピーおよび貼付け

あるセルに別のセルで使用するコンテンツを追加している場合、時間の節約のためにそのセル・データをコピーして貼り付けられます。

注： 同じ列内で、1つのセルから別のセルへ情報をコピーして貼り付けられません。列同士では、コピーして貼り付けられません。

▶ セル・データをコピーして貼り付けるには:

1 情報をコピーするには、次のいずれかのアクションを行います:

- コピーするセルを選択し、右クリックしてコピーを選択します。
- コピーするセルを選択し、[Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押します。

2 情報を貼り付けるには、次のいずれかのアクションを行います:

- 情報を貼り付けるセルまたは列を選択し、右クリックして貼付けを選択します。
- 情報を貼り付けるセルまたは列を選択し、[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します。

ヒント： 1つのセルから値をコピーしてその値を列のすべてのセルに貼付けできます。値をコピーし、列ヘッダーを右クリックして「貼付け」を選択します。


プロパティの追加および除去

グリッド・エディタを使用して、メンバーのプロパティを追加または除去できます。

▶ プロパティを追加するには:

1 列を右クリックして、プロパティの追加を選択します。

プロパティ・リスト・セレクトアが表示されます。

2 追加するプロパティを選択し、 をクリックします。

3 OK をクリックします。

グリッド・エディタが表示されます。

- ▶ プロパティを除去するには、除去するプロパティの列を右クリックして、プロパティの除去を選択します。

プロパティの検索

多数のメンバーおよびプロパティを編集している場合、編集するプロパティを検索できます。


- ▶ プロパティを検索するには:

- 1 列を右クリックして、プロパティの検索を選択します。
- 2 プロパティを選択して、OK をクリックします。

「グリッド・エディタ」で、そのプロパティ列が強調表示されます。

グリッド・エディタの終了

- ▶ グリッド・エディタを閉じるには:

- 1  をクリックすると、「グリッド・エディタ」のすべての変更が保存されます。
- 2 次のいずれかのアクションを行います:
 - 画面下部の「グリッド・エディタ」タブを右クリックして、閉じるを選択します。
 - ファイル、閉じる、現在の順に選択します。

スマート・リストの操作(Planningのみ)

スマート・リストはカスタムのドロップ・ダウン・リストで、Planning アプリケーションのデータ・フォームのセルからアクセスできます。データ・フォームのセルをクリックすると、データを入力するかわりにドロップ・ダウン・リストからアイテムを選択できます。スマート・リストを含むセルには入力できません。スマート・リストは、セルでは下矢印として表示され、そのセルをクリックすると展開されます。

たとえば、「理由」というドロップ・ダウンのスマート・リストを作成し、「研究」、「顧客の意見」および「展開」という選択項目を提供できます。ユーザーが「理由」スマート・リストと関連付けられている「理由」という「勘定科目」をクリックするときに下矢印をクリックすると、ドロップ・ダウン・リストが展開されて「研究」、「顧客の意見」および「展開」という選択項目が表示されます。そのセルの値として、スマート・リストのオプションを選択します。

管理者は次元ライブラリを使用してスマート・リストの次元およびメンバーを作成し、プロパティを割り当てます。スマート・リストの作成および管理のために、次のような作業を実行します:

- 次元タイプとして選択されたスマート・リストを使用して、新規次元を作成します。

- その次元にメンバーを作成します。(メンバーは、ドロップ・ダウン、データ・フォーム、またはグリッドに表示されるアイテムです。)
- スマート・リストの次元およびメンバーにプロパティを割り当てます。スマート・リストおよびスマート・リストのメンバーにラベルを割り当てます。
- オプション:
 - データ・フォームに対してスマート・リストを使用可能にします。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。
 - メンバー式およびビジネス・ルールで、スマート・リストの値を使用します。
 - スマート・リストが関連付けられた#Missingセルが、データ・フォームおよびドロップ・ダウン・リストにどのように表示されるかを設定します。

スマート・リストの次元は、メンバーの次元と関連付ける必要はありません。スマート・リストはデフォルトのメンバー・プロパティです。スマート・リストとメンバーの関連付けを除去するには、**Smart List** プロパティをダブルクリックしてスマート・リスト名を削除します。メンバーからスマート・リストを除去するには、**Smart List** プロパティ・フィールドを右クリックして値を除去します。

スマート・リストの作成

▶ スマート・リストを作成するには:

- 1 次元ライブラリで、ファイル、新規、次元の順に選択します。

「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 名前および説明を入力し、タイプでスマート・リストを選択します。

注: 英数字およびアンダースコアからなる(特殊文字や空白を含まない)一意の名前(例: Position)を入力します。スマート・リストおよび次元名を一致させることはできません。スマート・リスト名は数式で参照されることがあります。

スマート・リストの次元が共有ライブラリに表示されます。

データ・セルには1つのスマート・リストのみを表示できます。複数のスマート・リストが複数のセルで交差する場合は、データ型の評価順序を設定して優先的に表示されるものを設定します。

次に、ドロップ・ダウン・リストのアイテムとして表示されるメンバーを作成します。

- 3 共有ライブラリで、スマート・リストの次元を右クリックしてメンバーの作成を選択し、子としてを選択します。

「新規メンバー」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 4 メンバー名を入力して、OK をクリックします。
- 5 必要に応じて、次元の他のメンバーも作成します。

スマート・リストの名前

スマート・リストを使用するときは、スマート・リストの名前および別名に関して、次の考慮事項に注意してください:

- 開始値は文字で、文字、数字、_(アンダースコア)および\$(ドル記号)文字を含められます。空白または次に挙げる Java の予約語は使用できません。

```
abstract, assert, boolean, break, byte, case, catch, char, class,
const, continue, default, do, double, else, enum, extends, false,
final, finally, float, for, if, goto, implements, import,
instanceof, int, interface, long, native, new, null, private,
protected, public, return, short, static, strictfp, super,
switch, synchronized, this, throw, throws, transient, true, try,
void, volatile, while
```

- スマート・リストの次元、他の次元、または次元メンバーと同じ名前は使用できません。

スマート・リストの次元がアップグレードされると、接頭辞 `s1_` が追加されて名前を一意に保ちます。(スマート・リストのメンバー名のアップグレードでは追加されません。)

スマート・リストの次元プロパティの変更

プロパティ・グリッドを使用して、スマート・リストのプロパティを設定します。

▶ スマート・リストのプロパティを設定するには:

- 1 スマート・リストの次元を選択します。
- 2 カテゴリで **Planning** を選択します。スマート・リストの次元の次のプロパティを定義します:

表 13 スマート・リストの次元プロパティ

プロパティ	説明
Label	スマート・リストが選択されたときに表示されるテキストを入力します。スマート・リストおよびスマート・リストのメンバーにはラベルを割り当てる必要があります。空白および特殊文字を使用できません。スマート・リストのラベルはリソースを参照して、それを別の言語に翻訳できます。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。
Auto Generate ID	スマート・リストのエントリに対して数値 ID を生成します。このオプションを選択しない場合は、スマート・リストの ID の値をカスタマイズできます。
Start Value	スマート・リストの最初のメンバーの <code>Value</code> プロパティを取り込みます。たとえば、スマート・リストの次元が <code>Justification</code> で <code>Start Value</code> が 10 に設定されている場合、このリストに追加される最初のメンバーの値は 10 になります。
Increment	この値は、リストの最後のメンバーに追加されて、それによって選択したメンバーの値が決定します。次に例を示します: Justification (Start Value=0, Increment=10) Research (Value=0) Customer Feedback (Value=10)

プロパティ	説明
	Survey (Value=20)
Display Order	<p>スマート・リストのドロップダウン・リストを、ID 順、名前順、ラベル順のいずれでソートするのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ID - エントリを表示する順番を決める一意の数です。 ● 名前 - 一意の英数字の名前で、英数字およびアンダースコアを含められます(例: Customer_Feedback)、特殊文字および空白は含むことができません。 ● ラベル - ドロップダウン・リストのスマート・リストのエントリに表示されるテキストです(例: Customer Feedback)。
#Missing Data Form Label	<p>スマート・リストに関連付けられたセルでの、#Missing 値の表現形式を指定します。次のオプションがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ドロップ・ダウン - #Missing ドロップ・ダウン・ラベルのラベル・セットを表示します。 ● グリッド - データ・フォームの「欠落値を空白で表示」の選択内容によって、#Missing を表示するか、セルを空白のままにします(『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照)。 <p>この選択によって、セルが選択されていないときに表示される内容が決定されます。セルが選択されているときは、スマート・リストのドロップ・ダウン・リストで選択されたアイテムが表示されます。</p>
#Missing Drop Down Label	<p>値が#Missing のスマート・リストのエントリに表示するラベル(たとえば、No Justification)を入力します。次に注意点を示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのドロップ・ダウンに最初の項目として表示されるので、データ・フォームの中で#Missing を選択できます。 ● セルがフォーカスされていないときには、ドロップ・ダウン・リストが選択されている場合のみこのラベルが表示されます。それ以外の場合は、データ・フォームの「欠落値を空白で表示」の選択内容によって、#Missing を表示するか、セルを空白のままにします。 ● #Missing ラベルは、#Missing をセルに表示するかどうかを決定するのみです。保管された値は、#Missing のままです。

スマート・リストでの#Missing の表示

管理者はスマート・リストおよびデータ・セルに表示される値を設定できます(セルにデータがない場合に表示する内容を含む)。セルにデータがない場合、そのセルに値を表示しない(すなわち空白を表示)、#Missing または(スマート・リストが関連付けられたセルの場合)指定した別の値を表示する、から選択できます。

次に示すオプションを使用して、セルが選択されていない場合の#Missing の表示を制御します:

オプション	説明
空白	データ・フォームの設計時に、「欠落値を空白で表示」を選択します。 スマート・リストのプロパティの設定時に、「グリッド」を選択します。
#missing	データ・フォームの設計時に、「欠落値を空白で表示」を選択しません。 スマート・リストのプロパティの設定時に、「グリッド」を選択します。

オプション	説明
「No Change」などのカスタム・ラベル	スマート・リストのプロパティの設定時に、「#Missing ドロップ・ダウン・ラベル」フィールドにカスタム・ラベルを入力します(例: No Change)。「ドロップ・ダウン」を選択します。

トランザクション・ログの表示

「次元ライブラリ」で実行されるすべての操作は、トランザクション・ログに記録されます。日付、アプリケーション、次元およびプロパティでログをフィルタでき、現在のセッションで実行された操作のみ記録するように制限できます。それぞれの操作はタイム・スタンプ、ユーザー名、実行したアクションのタイプおよびその他の関連情報とともに記録されます。

アクション	説明
AddApplication	アプリケーションをライブラリに追加します
AddDimension	次元をライブラリに追加します
AddDimensionAssociation	2つの次元の間の関連付けを追加します
AddLibrary	ライブラリをシステムに追加します
AddMember	指定したメンバーを指定した次元に追加します
AddOrphanMember	孤立メンバーを次元に追加します
AddView	ビュー・オブジェクトをアプリケーションに追加します
AddViewFilter	ビュー・フィルタをビューに追加します
AddViewTopMember	指定したビューの最上位のメンバーを追加します
AddViewFilterTopMember	ビュー・フィルタに最上位のメンバーを追加します
AutomatorRun	オートメーター実行に対する記録されたアクションです
ClearApplication	既存のアプリケーションを消去します。アプリケーションに対するデータ・アーチファクトを削除しますが、アプリケーション・レコードは削除しません
ClearDimension	既存の次元を消去します。次元に対するデータ・アーチファクトを削除しますが、次元レコードは削除しません
CloseLibrary	ライブラリの終了に対する記録されたアクションです
CompareRun	比較ジョブに対する記録されたアクションです
CopyApplication	既存のアプリケーションをコピーします
CopyDimension	既存の次元をコピーします
CopyLibrary	既存のライブラリをコピーします
DeleteApplication	既存のアプリケーションを削除します

アクション	説明
DeleteBranch	メンバーおよびその子孫を削除します
DeleteDimension	ライブラリから次元を削除します
DeleteLibrary	既存のライブラリを削除します
DeleteMember	ライブラリから指定したメンバーを削除します
DeleteView	アプリケーション内のビューを削除します
ExportRun	エクスポート・ジョブに対する記録されたアクションです
ImportRun	インポート・ジョブに対する記録されたアクションです
InsertMember	指定したメンバーを指定した次元に挿入します
MemberPropertyDataLoss	メンバーのプロパティ・データ損失に対する損失アクションです
MigrateApplication	アプリケーションを別のサーバーに移行します
MoveMember	次元内の指定したメンバーを移動します
OpenLibrary	ライブラリの開始に対する記録されたアクションです
RemoveApplicationArrayPropertyValue	指定したアプリケーションの指定したプロパティの配列値を除去します
RemoveApplicationPropertyValue	指定したアプリケーションの指定したプロパティの値を除去します
RemoveDescendantValues	メンバーの子孫のプロパティ値を除去します
RemoveDimensionArrayPropertyValue	指定した次元の指定したプロパティの配列値を除去します。他の次元が使用している可能性があるため、プロパティ自体は削除されません。
RemoveDimensionAssociation	2つの次元の間の関連付けを除去します
RemoveDimensionPropertyValue	指定した次元の指定したプロパティの値を除去します。他の次元が使用している可能性があるため、プロパティ自体は削除されません。
RemoveDuplicates	指定したメンバーに対する重複したプロパティを除去します
RemoveLibraryPropertyValue	指定したライブラリの指定したプロパティの値を除去します。他のライブラリが使用している可能性があるため、プロパティ自体は削除されません。
RemoveMember	次元から指定したメンバーを除去します
RemoveMemberArrayPropertyValue	指定したメンバーの指定したプロパティの配列値を除去します。他のメンバーが使用している可能性があるため、プロパティ自体は削除されません。
RemoveMemberPropertyValue	指定したメンバーの指定したプロパティの値を除去します。他のメンバーが使用している可能性があるため、プロパティ自体は削除されません。

アクション	説明
RemoveViewFilter	既存のアプリケーションからビュー・フィルタを除去します
RemoveViewFilterTopMember	ビュー・フィルタから最上位のメンバーを除去します
TransactionExportRun	トランザクション・クエリーに対する記録されたアクションです
UpdateApplicationArrayPropertyValue	指定したアプリケーションの指定したプロパティの配列値を更新します
UpdateApplicationPropertyValue	指定したアプリケーションの指定したプロパティの値を更新します
UpdateDimensionArrayPropertyValue	指定した次元の指定したプロパティの配列値を更新します
UpdateDimensionPropertyValue	指定した次元の指定したプロパティの値を更新します
UpdateLibraryPropertyValue	指定したライブラリの指定したプロパティの値を更新します
UpdateMemberArrayPropertyValue	指定したメンバーの指定したプロパティの配列値を更新します
UpdateMemberPropertyValue	指定したメンバーの指定したプロパティの値を更新します

▶ トランザクション・ログを表示するには:


- 1 次元ライブラリで表示」、「トランザクション・ログのダウンロードの順に選択します。

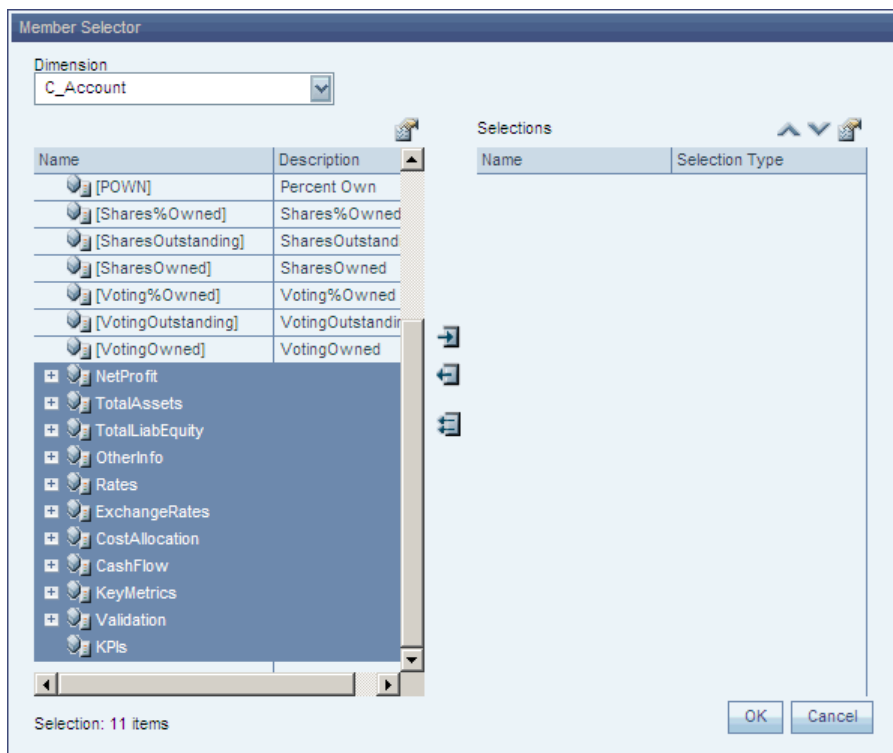
- 2 アプリケーションを選択するか、共有ライブラリを選択して共有ライブラリのすべての次元を表示します。


注： トランザクション・ログをフィルタするアプリケーションまたはマスターを少なくとも1つ選択する必要があります。

3 オプション: 次元を選択します。

注： ドロップ・ダウン・リストには選択したアプリケーションに対する次元のみが表示され、1つの次元のみ選択できます。

4 オプション: ログに含める1つまたは複数のメンバーを選択するには、をクリックしてOKをクリックします。



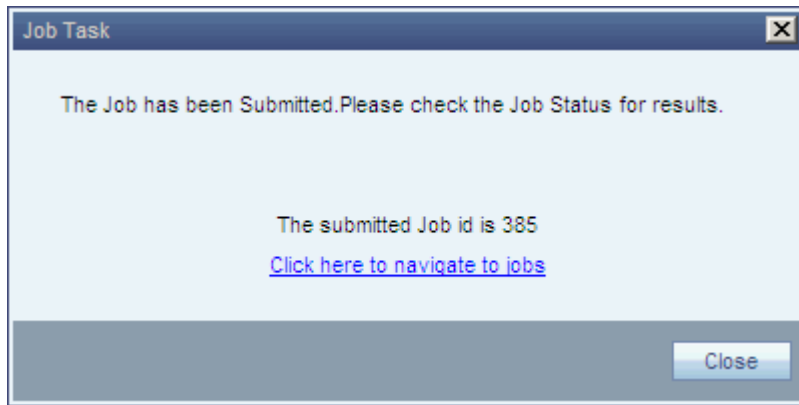
5 オプション: ログに含める1つまたは複数のプロパティを選択するには、をクリックしてOKをクリックします。

6 オプション: 「日付」ドロップ・ダウン・リストを使用し、日付範囲を選択します。

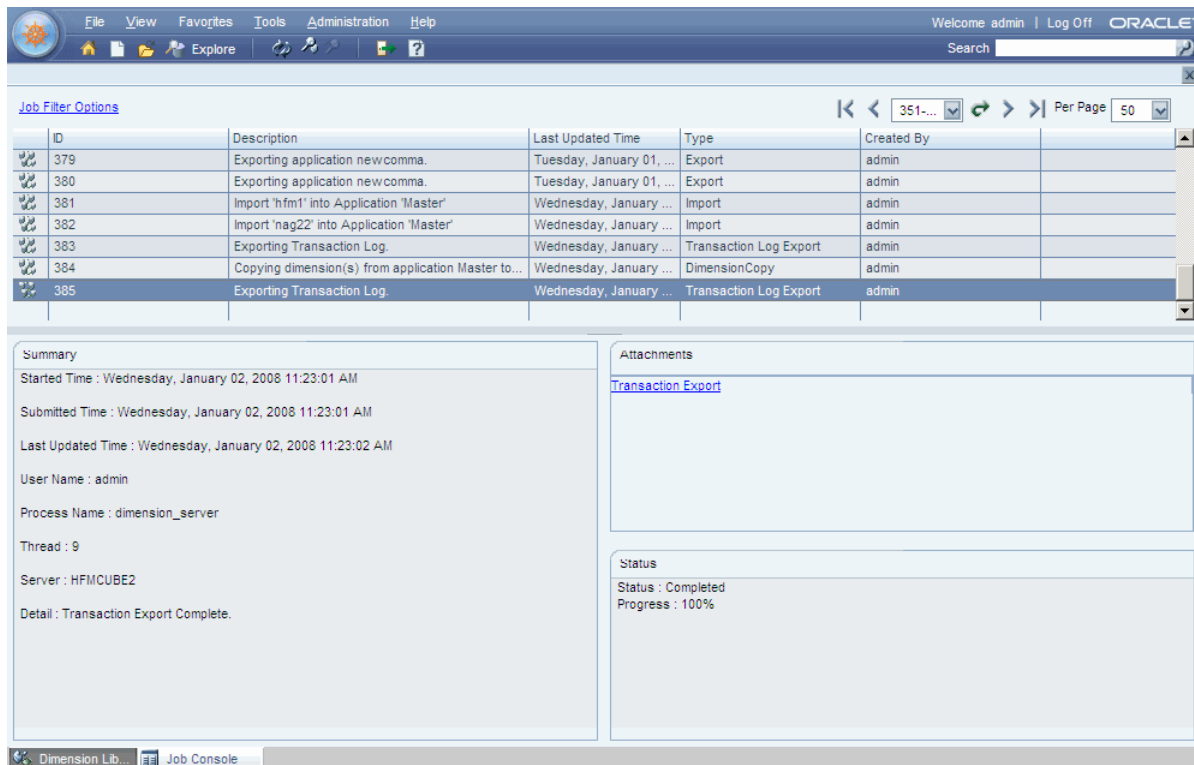
7 オプション: 現在のセッションへのフィルタを選択します。

8 OK をクリックします。

9 ジョブが送信されたら、メッセージ・ボックスのリンクをクリックして、エクスポートされたトランザクション・ログに移動します。



10 「添付ファイル」領域で、トランザクションのエクスポートをクリックします。



11 選択してトランザクション・ログを開くか、または保存します。

注： トランザクション・ログは csv ファイル拡張子を使用し、Microsoft Excel で開けます。

トランザクション・ログには複数の情報列から構成されます。列の表示は、選択した基準によって異なります。

列名	説明
トランザクション ID	1 つまたは複数のトランザクション・アクションに関連付けられたトランザクション ID です
DetailID	トランザクション内で処理されるアクションの順序です
アクション	ログに記録される操作です
ApplicationID	アプリケーション・アーチファクトと関連する、生成された ID です

列名	説明
ApplicationName	アプリケーション名
ClassID	追加されているアーチファクトの分類です
CreatedDateTime	アクションのタイムスタンプです
説明	アクションの説明です
DimensionID	次元アーチファクトの生成された ID です
DimensionName	アクションが実行される次元名です
FromOrigin	プロパティの更新のときに、更新が発生する前のプロパティ値の原点です
FromValue	プロパティの更新のときに、更新が発生する前のプロパティの値です
レベル	トランザクション・アクションに対する指定で、「コア」、「ログに記録済」、「損失」、「結果」、「管理」のいずれかです。
MemberDescription	アクションがメンバーと関連する場合、そのメンバーの名前がこの列に記録されます
メンバー ID	メンバーの生成された ID です
MemberName	アクションが実行されるメンバー名です
NewMemberOrder	メンバーが親の下に挿入される順序です
NewParentID	メンバーが挿入される親の ID です
OriginalMemberOrder	親メンバーに対するこの順序の元の位置です
OriginalParentID	メンバーの移動操作の前の、元の親の ID です
OriginatingDetailID	他のアクションを開始するアクションに対して、これは開始しているアクションの詳細 ID です
OriginatingID	他のアクションを開始するアクションに対して、これは開始しているアクションの ID です
PropertyID	プロパティの定義の生成された ID です
PropertyName	プロパティの定義の名前です
ToOrigin	プロパティ値の元です
ToValue	プロパティ値の新しい値です
UserName	アクションを実行するユーザー名です
LibraryID	ライブラリ ID で、デフォルト値は 1 です
LibraryName	アクションを実行する対象のライブラリ名です

トランザクション履歴の削除

Performance Management Architect により、Performance Management Architect データベースにトランザクションが作成されます。このデータベースは、インストール時および構成時に自動的に作成されます。Performance Management Architect では、これらのアーチファクトが削除されないため、データベースのサイズは時間の経過とともに増大します。Performance Management Architect のトランザクション履歴の削除ユーティリティにより、データベースからトランザクションを除去して、データベースのサイズを小さくできます。

トランザクション履歴の削除により、トランザクションが除去され、データベースのサイズが小さくなります。ユーティリティを使用する場合、ユーティリティを実行する前に、Performance Management Architect データベースをフル・バックアップして、サーベンスオクスリー遵守のための監査証跡を維持する必要があります。

トランザクション履歴の削除ユーティリティの起動

トランザクション履歴の削除ユーティリティを実行するには、コマンド・ラインを使用するか、または Windows の「スタート」メニューのショートカットの「EPMA トランザクション履歴削除」を選択します。

注： トランザクション履歴の削除ユーティリティを実行する前に、プロセス・マネージャを開始する必要があります。Windows の「サービス」パネルで、「Hyperion S9 EPM Architect Process Manager」を選択し、右クリックして「開始」を選択するか、コマンド・ラインで `net start HyS9BPMA_ProcessManager` と入力します。

注意 このユーティリティはデータベースからトランザクションを削除します。トランザクション履歴の削除ユーティリティを実行する前に、Performance Management Architect データベースのフル・バックアップを実行していることを必ず確認する必要があります。

ユーティリティによって Shared Services データベースからデータベース接続情報 (データベース名、場所、ログイン情報など) が自動的に取得されるので、クリーンアップは Performance Management Architect が使用する同じデータベースに影響を及ぼします。このユーティリティはリモート・クライアント上では実行できないことに注意してください。このユーティリティは次元サーバーのアプリケーション・サーバーで実行する必要があります。

▶ ユーティリティを起動するには:

1 ユーティリティをグラフィカル・ユーザー・インターフェースで起動するには、次のいずれかのアクションを行います:

- スタート、プログラム、Oracle EPM System、Foundation Services、Performance Management Architect、EPMA トランザクション履歴削除の順に選択します。

- <HYPERION_HOME>\BPMA\AppServer\DimensionServer\ServerEngine\bin へ移動し、database_cleanup_utility.exe をダブルクリックします。

「EPMA トランザクション履歴削除ユーティリティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

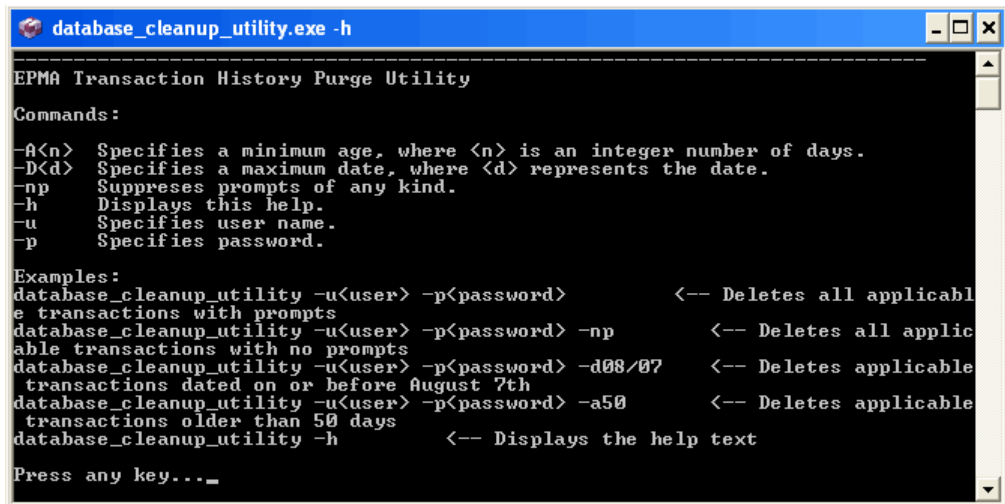
The screenshot shows the 'EPMA Transaction History Purge Utility' dialog box. It features a 'Login Information' section with 'User Name:' and 'Password:' input fields and a 'Log On' button. Below this is the 'Transaction Deletion Criteria' section, which has two radio buttons: 'Dated on or before' (selected) and 'Older than'. The 'Dated on or before' option has a date picker showing 'Friday, April 03, 2009'. The 'Older than' option has a spinner box set to '0' and the text 'days'. At the bottom, there is a 'Log File Location' section with an empty text box and an 'Open file' button. 'Start' and 'Close' buttons are also visible.

- 2 Performance Management Architect にログインするのに使用するユーザー名とパスワードを入力し、ログオンをクリックします。

注： トランザクション履歴を削除するには、LCM 管理者のセキュリティ役割が必要です。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- 3 コマンド・ラインでユーティリティを起動するには、コマンド・プロンプトを開き、ディレクトリの場所を dimension_server.exe ファイルの場所に変更します。たとえば、C:\Hyperion\BPMA\AppServer\DimensionServer\ServerEngine\bin に変更してから、次のように入力します：

```
database_cleanup_utility -h
```

```
database_cleanup_utility.exe -h
-----
EPMA Transaction History Purge Utility
Commands:
-A<n> Specifies a minimum age, where <n> is an integer number of days.
-D<d> Specifies a maximum date, where <d> represents the date.
-np  Suppresses prompts of any kind.
-h   Displays this help.
-u   Specifies user name.
-p   Specifies password.

Examples:
database_cleanup_utility -u<user> -p<password>      <-- Deletes all applicabl
e transactions with prompts
database_cleanup_utility -u<user> -p<password> -np   <-- Deletes all applic
able transactions with no prompts
database_cleanup_utility -u<user> -p<password> -d08/07 <-- Deletes applicable
transactions dated on or before August 7th
database_cleanup_utility -u<user> -p<password> -a50  <-- Deletes applicable
transactions older than 50 days
database_cleanup_utility -h                          <-- Displays the help text

Press any key..._
```

114 ページの「トランザクション履歴の削除ユーティリティの操作」では、グラフィカル・ユーザー・インタフェースの使用方法を説明し、ユーティリティに関する重要な情報も含まれています。コマンド・ライン・パラメータの説明については、114 ページの「コマンド・ウィンドウでのトランザクション履歴の削除ユーティリティの使用方法」を参照してください。

- 4 database_cleanup_utility -u<user> -p<password>と入力します。ここで、<user>はユーザー名を表し、<password>はパスワードを表します。

トランザクション履歴の削除ログの表示

トランザクション履歴の削除ユーティリティによって、<HYPERION_HOME>\logs\epmaにログ・ファイルが生成されます。次に

Database_Cleanup_UTILITY_Log.log ファイルの引用を示します。

```
2009-04-03 17:27:28,468
2009-04-03 17:27:28,484 EPMA Transaction History Purge Utility
2009-04-03 17:27:28,484
2009-04-03 17:27:28,484 Connecting to database...
2009-04-03 17:27:31,734 Connected successfully
2009-04-03 17:27:31,750 Only items dated April 3, 2009 or earlier will
be deleted.
2009-04-03 17:27:31,750
2009-04-03 17:27:31,750 Deleting transactions...
2009-04-03 17:27:36,234
2009-04-03 17:27:36,234 The purge has completed. 129 transactions were
deleted.
```

ヒント: 「EPMA トランザクション履歴削除ユーティリティ」ダイアログ・ボックスの「ファイルを開く」ボタンをクリックして、プロセスの実行後にログ・ファイルにアクセスすることもできます。

トランザクション履歴の削除ユーティリティの操作

次の項では、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用してトランザクションを削除する方法を説明します。

トランザクションの削除

注意 このユーティリティはデータベースからトランザクションを削除します。トランザクション履歴の削除ユーティリティを実行する前に、Performance Management Architect データベースのフル・バックアップを実行していることを確認する必要があります。トランザクションの削除は元に戻せません。トランザクションを削除する場合は十分に注意してください。

▶ トランザクションを削除するには:

1 「EPMA トランザクション履歴削除ユーティリティ」ダイアログ・ボックスで、トランザクションを削除する条件を選択します。次のいずれかのアクションを実行します:

- 「次の日付以前」を選択し、日付を選択します。
- 「経過時間」を選択し、日数を選択します。最大 100 日まで設定可能です。100 日を超える値に変更すると、エラー・メッセージが表示されます。

2 開始をクリックします。

「警告」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注意 「はい」をクリックする前に、トランザクションの削除は進行中に取消しできないことに注意してください。

3 はいをクリックします。

「開始」ボタンをクリックすると、ユーティリティによって削除するトランザクションが判別されます。「警告」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックすると、すべてのトランザクションの削除が開始されます。「はい」をクリックすると、削除プロセスが開始されます。ダイアログ・ボックスのコントロールにはプロセスが完了するまでアクセスできません。削除したトランザクションの要約がプロセスの最後に表示されます。この要約はダイアログ・ボックスの下部に示されるログ・ファイルに含まれます。削除が完了すると、ダイアログ・ボックス・コントロールが再度使用可能になります。

注: 削除の進行中にアプリケーションを閉じようとする、現在の削除プロセスがロールバックされることを示すエラー・メッセージが表示されます。

コマンド・ウィンドウでのトランザクション履歴の削除ユーティリティの使用法

-h パラメータを含んだコマンド・プロンプトからユーティリティを起動する場合は、有効なパラメータのリストがコマンド・ウィンドウに表示されます。次のガイドラインに注意してください:

- 各パラメータはスペースで区切る必要があります。
- パラメータが値をとる場合は、スペースで区切らないでください。たとえば、-d05/08 は日付を渡します。
- コマンドでは、大文字と小文字は区別されません。

コマンド・ウィンドウでユーティリティを起動するには、114 ページの「コマンド・ウィンドウでのトランザクション履歴の削除ユーティリティの使用法」を参照してください。

次の表では、コマンド・ウィンドウで使用可能な各パラメータを説明します:

パラメータ	説明
-a<n>	削除する最少日数を指定します。<n>は整数の日数です。
-d<d>	最大の日付を指定します。<d>は日付を表します。日付フォーマットは、コントロールパネルの「地域設定」のフォーマットを使用します。年は、現在の年と同じである場合は指定する必要はありません。ただし、月および日は指定する必要があります。たとえば、現在の年が 2008 年である場合、9/8 と 09/08 は 2008 年 9 月 8 日を表します。 使用できる最大値は 100 です。100 を超える値を入力すると、エラーがロギングされます。
-np	すべてのプロンプトを非表示にします。
-h	パラメータのヘルプを表示します。
-u	ユーザー名を指定します。
-p	パスワードを指定します。

複数のパラメータを使用してプロセスを完了できます。コマンド例は次のとおりです:

コマンド	説明
database_cleanup_utility -u<user> -p<password>	ユーザー名とパスワードを指定します。ユーティリティの各コマンド・ラインを実行するには、ユーザー名とパスワードが必要です。ただし、ユーティリティのヘルプ・テキストにアクセスするための-h コマンドは例外です。
database_cleanup_utility -np	プロンプトを表示せずに、該当するすべてのトランザクションを削除します。
database_cleanup_utility -d04/08	現在の年の 4 月 8 日以前の該当するトランザクションを削除します。
database_cleanup_utility -d04/08/2005	2005 年 4 月 8 日以前の該当するトランザクションを削除します(日付が現在の年の範囲内にはない場合は、年を指定する必要があります)。

コマンド	説明
database_ cleanup_utility - a50	50 日より古い該当するトランザクションを削除します。
database_ cleanup_utility -h	ヘルプ・テキストを表示します。

注： コマンド・ラインでユーティリティを実行する際にエラーが発生すると、終了コード・メッセージが表示されます。

コマンド・ラインに表示できる終了コードは次のとおりです。次の表に、終了コード、コマンド・ラインのコードに対して表示される関連番号、および説明を示します。

終了コード	関連番号	説明
正常終了	0	コマンドは正常に実行されました。
入力エラー	1	使用したコマンド・ライン・パラメータは無効です。
構成ファイル・エラー	2	BPMA_Server_Config.xml ファイルに問題があります。たとえば、BPMA_Server_Config.xml はこのユーティリティと同じディレクトリにある必要がありますが、そうでない場合はエラーが発生します。このファイルはデータベース接続情報には不要ですが、存在する必要があります。
接続の失敗	3	データベースへのアクセス中に接続エラーが発生しました。
プロセス・マネージャが実行されていない	4	トランザクション履歴の削除ユーティリティを起動する前に、プロセス・マネージャを開始する必要があります。コマンド・ラインを使用してプロセス・マネージャを開始する方法については、 114 ページの「コマンド・ウィンドウでのトランザクション履歴の削除ユーティリティの使用法」 を参照してください。
不明なエラー	5	Oracle サポートに連絡してください。
SQL エラー	6	データベースに対する削除操作を実行しようとしているときにエラーが発生しました。

データベースのクリーンアップ・タスクのスケジュール

Windows のコントロールパネルを使用して、トランザクション履歴の削除ユーティリティの実行をスケジュールできます。

- ▶ タスクをスケジュールするには、コントロールパネルを使用してタスクを開きます。次に、トランザクション履歴の削除ユーティリティのスケジュールされたタスクを追加し、タスク ウィザードの手順に従います。ウィザードの最後の画面で、詳細プロパティを表示してください。

スケジュールされたタスクのプロパティを表示する場合、「ファイル名を指定して実行」テキスト・ボックスの末尾にパラメータを追加できます。「ファイル名を指定して実行」テキスト・ボックス内の文字列の末尾にパラメータを追加する場合、たとえば、`database_cleanup_utility.exe -u<user> -p<password> -a20 -np` と入力すると、20 日より古いすべての適用可能なトランザクションがプロンプトなしで削除されます。

終了コードおよびロギング機能は、Windows のスケジューラを使用するときに役立ちます。これは、スケジューラの実行時にログインする必要がなく、失敗時にログを確認して原因を判別できるためです。ログ・ファイル

Database_Cleanup_Utility_Log.txt は <HYPERION_HOME>\logs\epma にあります。

ネイティブのデータベース・ログの考慮事項

このユーティリティを使用すると、多数のネイティブ・データベースのログ・エントリが生成されます。これらの多数のエントリにより、データベースで使用される格納場所が大幅に増大する可能性があります。使用するデータベース・タイプ(Oracle、SQL Server または DB2)に応じて、様々な方法を使用して、トランザクション・ロギング・スペースを管理できます。

注： ロギング・スペースの再利用は、データベース管理者が行うタスクです。

次の例は、Oracle および SQL Server でトランザクション・ロギング・スペースを再利用する方法を示します。

- Oracle - 次のコマンドは、Redo ログ・ファイル EPMARedo.log を 600k にサイズ変更します。

```
ALTER DATABASE DATAFILE 'F:\oradata\live\EPMARedo.log' RESIZE 600k;
```

- SQL Server - 次のコマンドは、各ファイル内に 5%の空きスペースを作成するために、EPMA というデータベースのデータおよびログ・ファイルのサイズを小さくします。

```
DBCC SHRINKDATABASE (EPMA, 5);  
GO
```

注： DB2 では通常、ログ・ファイルのサイズは問題になりません。これは、循環ロギングが使用可能な場合に上書きされるためです。非循環ロギングが使用可能な場合は、DB2 が次のログ・ファイルの使用を開始したときに削除されます。詳細は、DB2 のドキュメントを参照してください。

この章の内容

メンバーの作成	119
共有メンバーの操作	120
動的時系列メンバーの設定	124
メンバー名の変更	126
メンバーの除去および削除	127
メンバーの検索	129
子メンバーの順序変更	131
孤立メンバーの管理	132
プロパティ値の編集	133
プロパティの検索	134
ユーザー定義属性の操作	135
メンバー計算式の操作	137
アプリケーションのメンバーの操作	141

メンバーの作成

選択したメンバーの兄弟または子として、メンバーを作成できます。次元ライブラリにのみメンバーを作成できます。アプリケーションにメンバーを追加する場合、先に共有ライブラリにメンバーを作成し、それをアプリケーションに追加する必要があります。

メンバー名は、製品名の命名要件に従う必要があります。プランニング次元の場合、569 ページの「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」を参照してください。

Financial Management 次元の場合、付録 A 「Financial Management 次元の操作」を参照してください。Profitability and Cost Management メンバーの作成の詳細については、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide』を参照してください。

注： 次元ライブラリでメンバーを作成する場合に、別の文字を入力することもできますが、メンバーがアプリケーションに送られるときにアプリケーションの命名規則が適用されます。

▶ メンバーを作成するには:

- 1 メンバーを右クリックしてメンバーの作成を選択します。次に子としてまたは兄弟としてを選択します。

注: 次元の最上位のメンバーを右クリックしても、兄弟を作成するオプションは表示されません。

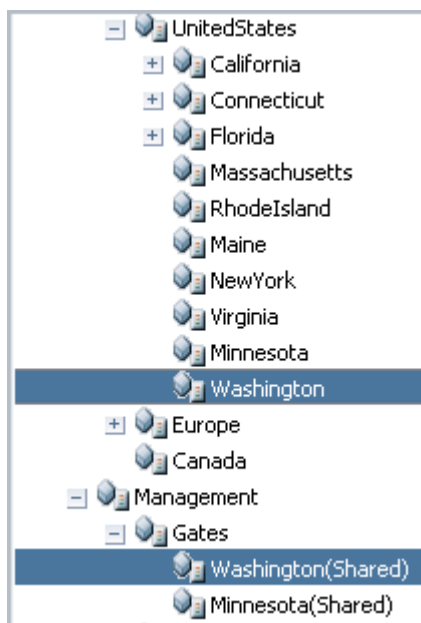
- 2 メンバー名を入力して、OK をクリックします。

共有メンバーの操作

メンバーを共有することで、次元ライブラリ内で別の階層構造を許可できます。共有メンバーを作成する前に、基本メンバーが存在する必要があります。1つのメンバーに対して複数の共有メンバーを作成できます。

メンバーの第2インスタンスには共有メンバーであることを示すタグ(かっこに囲まれた「共有」)が付けられます。

次の例では、Washington というエンティティは UnitedStates 階層のメンバーで、Management-Gates 階層のメンバーでもあります。



共有メンバーは次の2つの方法で作成できます:

- 子または兄弟として共有メンバーをコピーおよび貼付けます。121 ページの「コピーおよび貼付けによる共有メンバーの作成」を参照してください。
- メンバー・セレクタを使用して共有メンバーを挿入します。これによって、「共有ライブラリ」ツリー・ビューの現在の位置を失うことなく、次元の別の部分からメンバーを選択できます。121 ページの「メンバー・セレクタを使用した共有メンバーの作成」を参照してください。

コピーおよび貼付けによる共有メンバーの作成

▶ 共有メンバーを作成するには:

- 1 メンバーを右クリックしてコピーを選択します。
- 2 階層内の新規メンバーを配置する場所を検索し、メンバーを右クリックして、「貼付け」、「子としてまたは兄弟としての順」を選択します。

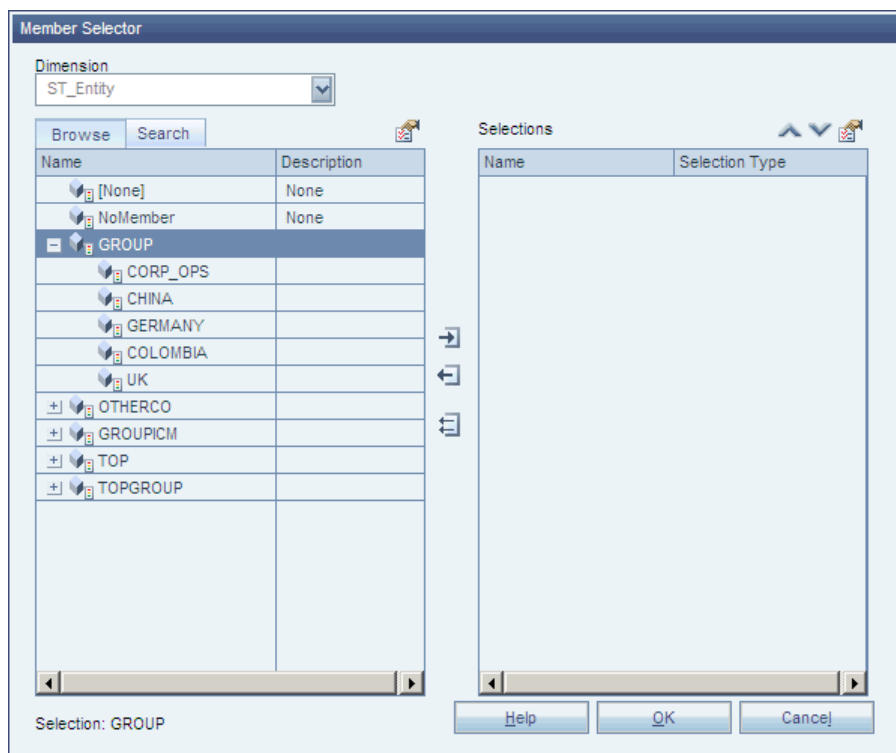
メンバー・セレクタを使用した共有メンバーの作成

メンバー・セレクタを使用すると、「共有ライブラリ」ビューの位置を失うことなく、次元の別の部分からメンバーを選択できます。

▶ 共有メンバーを作成するには:

- 1 メンバーを右クリックして共有メンバーの挿入を選択します。
- 2 子としてまたは兄弟としてを選択します。




「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



メンバー・セレクタを使用すると、次元内のメンバーを表示して選択できます。「+」および「-」を使用すると、次元内のメンバーを展開および縮小できます。




「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスには、2つのペインがあり、次元のすべてのメンバーが左側に表示され、選択内容が右側に表示されます。その次元で使用可能なすべてのメンバーが表示される左ペインには、メンバー名および簡単な説明が表示されます(使用可能な場合)。選択内容が表示される右ペインには、メンバー名および選択タイプが表示されます。

それぞれのペインの上の「メニュー」ボタンを使用すると、「メンバー・セレクト」の列を変更できます。

1. 左ペインで、、表示、カウントの順に選択します。
名前および説明に加えてカウント列が表示されます。カウント列には、現在の次元の子メンバーの数が表示されます。これは、ツリーの分岐を展開するために必要な時間を示唆する便利なインディケータになります。
2. カウント列を除去するには、、表示、カウントの順に選択します。
3. 次元を縮小するには、をクリックし、すべて縮小を選択します。

注：「すべて縮小」を選択すると、次元の下のすべてのメンバーまたは選択したメンバーが縮小されます。次元またはメンバーが縮小された後にアーチファクトの上にマウス・ポインタを置くと、子孫の数を示すツールチップが表示されます。

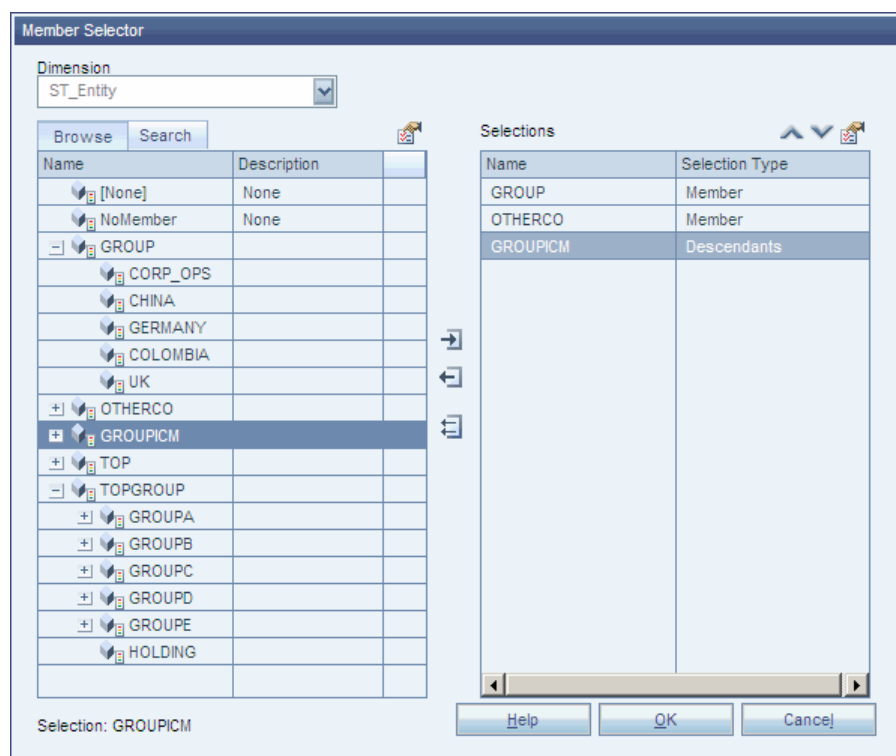
「検索」タブを使用して、メンバーを検索して語句の中でワイルドカードを使用することもできます。たとえば、顧客次元を検索する場合に、名前で検索するためにテキスト・ボックスに Ba**と入力して「検索」をクリックすると、名前が Ba で始まる顧客のみが表示されます。また、ワイルドカードとして!をテキスト・ボックスに入力することもできます。たとえば、Privado, Inc.が Privado、Pravado または Provado である可能性がある場合など、顧客名のつづりが明確でない場合があります。そのような場合は、Pr!v と入力すると、この顧客を検出できます。


4. 「選択」ペインでをクリックして表示を選択し、列を変更します。
- 3 左側の使用可能な次元およびメンバーのリストで、共有として追加するメンバーを選択してをクリックします。
- 4 共有メンバーのリストからメンバーを選択解除するには、をクリックします。
- 5 メンバーの特殊なオプションを追加するには、メンバーを右クリックしオプションを選択します：
 - メンバー
 - 子
 - 子(含む)
 - 子孫
 - 子孫(含む)
 - 兄弟
 - 兄弟(含む)
 - 親
 - 親(含む)
 - 祖先

- 祖先(含む)
- 相対

ここに挙げたオプションで、「(含む)」は選択したメンバーを含むことを意味します。たとえば、「子(含む)」は選択したメンバーを含むメンバーのすべての子を追加し、「子孫(含む)」は選択したメンバーを含むすべての子孫を追加します。「子」を選択した場合、選択したメンバーは含まれず、その子のみが含まれます。

そのメンバーは右側に移動され、「選択のタイプ」列には選択したオプションが表示されます。たとえば、「選択のタイプ」列に「子孫」が表示されます。



ヒント： 選択したリストのすべてのメンバーの選択を解除するには、をクリックします。

6 OK をクリックします。

Planning アプリケーション内の共有メンバー

メンバーを共有すると、Planning アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。共有メンバーを作成する前に、基本メンバーが存在する必要があります。基本メンバーに対して複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはそれに対する共有メンバーより先に表示されます。

共有メンバーは勘定科目、エンティティ、シナリオ、バージョン、期間およびカスタム次元で作成できます。共有メンバーは基本メンバーと一部のプロパティ定義(メンバー名、別名、基本通貨、メンバーに対して有効なプラン・タイプなど)を共有します。共有メンバーの Data Storage プロパティは共有または ShareData である必要があります。カスタム・プロパティ、カスタム・プロパティ値およびメンバー式は、共有メンバーには使用できません。

共有メンバーは、他の親メンバーには移動できません。共有メンバーを削除してから別の親メンバーの下に再作成する必要があります。共有メンバーは階層の最下位レベル(レベル 0)である必要があります、子を持つことはできません(基本メンバーはレベル 0 である必要がありません)。共有メンバーにデータを入力できますが、その値は基本メンバーに保管されます。共有メンバーの注意事項を次に示します:

- 基本メンバーは共有メンバーの親になることはできません。共有メンバーは次元階層のそれ以外の場所に存在できます。
- 共有メンバーおよびそれに対する基本メンバーは同じ名前を持つ必要があります。
- Performance Management Architect で、共有メンバーのデータ・ストレージを ShareData に設定する必要があります。そうしないと、アプリケーションが Planning に配置されたときに、共有メンバーが追加されません。

Oracle Hyperion(R) Business Rules および Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition のメンバー選択の次元階層で、共有メンバーは基本メンバーのように表示されます。Oracle Hyperion(R) Business Rules の場合、それを明示するラベルはありません。したがって、「データのコピー」などのアクションで共有メンバーを選択できないことがあります。

動的時系列メンバーの設定

動的時系列(DTS)メンバーを使用して、期間累計データ(支出の四半期累計など)を表示するレポートを作成できます。DTS のメンバーは期間次元メンバーとともに使用されます。たとえば、四半期累計の値を計算するには、Q-T-D メンバーを使用可能にして世代番号 2 と関連付けます。これによって、Q-T-D の DTS メンバーを使用して、現在の月までの四半期の月ごとの値を計算できます。

定義済の DTS メンバーを次に示します:

- Y-T-D: 年次累計
- H-T-D: 累計
- S-T-D: 季節累計
- Q-T-D: 四半期累計
- P-T-D: 期間累計
- M-T-D: 月次累計
- W-T-D: 週次累計
- D-T-D: 日次累計

注意 Y-T-D メンバーまたは P-T-D メンバーを使用している場合、年次元または期間次元の名前を変更して、動的時系列で生成された名前の年および期間と競合しないようにする必要があります。Y-T-D を使用する前に年次元の名前を変更し、P-T-D を使用する前に期間の名前を変更します。その後で、この変更によって影響を受けるすべてのアプリケーション・アーチファクト(メンバー式、ビジネス・ルール、名前次元を参照するすべてのレポートなど)を更新します。

DTS メンバーは最高 8 レベルの期間累計レポートを提供します。使用するデータおよびデータベースのアウトラインによって、使用できるメンバーが決定されます。たとえば、データベースに 1 時間ごと、日ごと、週ごと、月ごと、四半期ごとおよび年ごとのデータがある場合、日次累計(D-T-D)、週次累計(W-T-D)、月次累計(M-T-D)、四半期累計(Q-T-D)および年次累計(Y-T-D)の情報をレポートできます。データベースに過去 5 年間の月ごとのデータがある場合、指定の年の年次累計(Y-T-D)および累計(H-T-D)の情報をレポートできます。データベースで季節ごとのデータを追跡している場合、四半期累計(P-T-D)または季節累計(S-T-D)の情報をレポートできます。

動的計算のために設定されたメンバーには(動的時系列計算で使用する予定の場合)、タイム・バランス・プロパティ(First、Average など)を割り当てないでください。これを割り当てた場合、勘定科目次元の親メンバーについて正しくない値が取得される可能性があります。詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

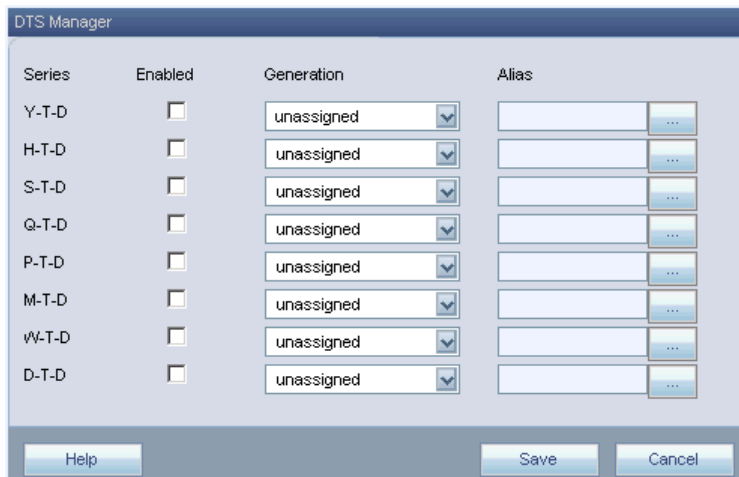
「DTS マネージャ」ダイアログ・ボックスを使用すると、次のオプションで DTS メンバーを設定できます。DTS 使用可能、DTS 世代および別名。(DTS メンバー以外に DTS プロパティを設定しても影響はありません。)それ以外の期間プロパティは DTS メンバーには適用されません。

Performance Management Architect での DTS メンバーの使用についての考慮事項を次に示します:

- DTS メンバーはレベル 0 のメンバーで、root メンバー(「期間」など)の子である必要があります。
- DTS メンバーの期間タイプ・プロパティは DTS 期間です。
- DTS として使用可能なメンバーには、DTS 世代を選択する必要があります。
- Y-T-D を使用している場合、年次元の名前を年にはできません。
- P-T-D を使用している場合、期間次元の名前を期間にはできません。
- DTS メンバーは期間次元階層の実際のメンバーとしては表示されません。Planning の場合、アプリケーションが配置されると Planning および Essbase で DTS メンバーが使用可能になります。

▶ DTS メンバーを設定するには:

- 1 次元ライブラリで「期間次元」を右クリックし、DTS マネージャを選択します。



- 2 DTS マネージャダイアログ・ボックスで、使用する DTS の時系列に対して使用可能を選択します。時系列は、Y-T-D、H-T-D、S-T-D、Q-T-D、P-T-D、M-T-D、W-T-D、または D-T-D です。
- 3 世代を選択します。
DTS メンバーを最上位の世代(次元ルート)に関連付けることはできません。
- 4 オプション: 次元に別名が関連付けられている場合、別名を選択します。
- 5 保存をクリックします。

メンバー名の変更

次元ライブラリでメンバー名を変更できます。次のガイドラインに留意してください(アプリケーション・タイプごと):

すべてのアプリケーション

- システム・メンバー(大かっこ[]で名前が囲まれている)の名前は変更できません。

連結(Financial Management)

- Financial Management アプリケーションの場合、名前の変更は Performance Management Architect にのみ適用され、クラシック管理機能には適用されません。次のアーチファクトの名前を変更すると、Financial Management では自動更新されなくなります:
 - ルール
 - メンバー・リスト
 - Web データ入力フォーム
 - データ・グリッド
 - レポート
 - POV
- 期間、年および表示のメンバー名は、アプリケーションが初めて正常に配置された後は変更できません。

- デフォルト通貨のメンバー名が変更された場合、既存の Financial Management アプリケーションに対するアプリケーション・プロパティである Default Currency も手動で更新する必要があります。

Planning

- 通貨メンバー名は変更できません。
- 年メンバー名は変更できません。

収益性アプリケーションで初期配置後にメンバー名を変更した場合は、そのアプリケーションを再配置する必要があります。

注： アプリケーションを配置すると、ログ・ファイルには、名前を変更されたすべてのメンバーおよびすべてのアイテムは自動的に更新されないという注意が表示されます。

▶ メンバー名を変更するには:

- 1 メンバーを右クリックしてメンバー名の変更を選択します。

「メンバー名の変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 名前を入力して、OK をクリックします。

メンバーの除去および削除

共有メンバー、共有ライブラリ階層のメンバーなどのメンバーを除去および削除できます。

メンバーを除去するには、[127 ページの「メンバーの除去」](#)を参照してください。

メンバーを削除するには、[128 ページの「メンバーの削除」](#)を参照してください。

メンバーの除去

共有メンバー、共有ライブラリ階層のメンバーなどのメンバーを除去できます。除去されたメンバーは孤立メンバーになります。メンバーを除去すると、そのメンバーおよびそのすべての子孫が階層から除去され、階層構造を持たない個のメンバーとして孤立領域に移動されます。共有メンバーを除去すると、そのメンバーだけが孤立領域に移動されます。別の階層構造内の同じメンバーは除去されません。

▶ メンバーを除去するには:

- 1 「次元ライブラリ」でメンバーを右クリックし、メンバーの除去を選択します。

注： 複数のメンバーを選択するには、[Ctrl]キーおよび[Shift]キーを使用します。

- 2 はいをクリックして確定します。

メンバーの削除

共有メンバー、共有ライブラリ階層のメンバーなどのメンバーを除去して、後で再利用できます。階層からメンバーを除去すると、孤立メンバーが作成されます。メンバーを除去すると、そのメンバーおよびそのすべての子孫が階層から除去され、階層構造を持たない個のメンバーとして孤立領域に移動されます。共有メンバーを除去すると、そのメンバーだけが孤立領域に移動されます。別の階層構造内の同じメンバーは除去されません。

共有メンバー、共有ライブラリ階層のメンバーなどのメンバーを削除できます。メンバーを削除すると、そのメンバーおよびそのすべての子孫が階層とすべてのビューから削除されます。共有メンバーを削除すると、そのメンバーだけが削除されます。別の階層構造内の同じメンバーは、削除されません。

▶ メンバーを削除するには:

- 1 「次元ライブラリ」でメンバーを右クリックし、メンバーの削除を選択します。

注： 削除するメンバーを複数選択するには、[Ctrl]キーおよび[Shift]キーを使用します。

- 2 はいをクリックして確定します。

プランニング・メンバーの除外および削除

Planning の各データ値は一連の次元メンバーおよびプラン・タイプによって識別されます。Performance Management Architect アプリケーションからの次元メンバーの除外は、配置時には削除アクションに翻訳されます。したがって、次元メンバーを除外すると、再配置のときにデータを失うことになることがあります。

再配置のときには、Planning アプリケーションは Performance Management Architect からリフレッシュされ、アプリケーションで使用されるすべての次元は Performance Management Architect 内のそれぞれの現在の構造とともにリフレッシュされます。再配置では、変更されたかどうかにかかわらず、すべての次元およびそれらのメンバーがリフレッシュされます。

除外されたメンバーが他のどこか(データ・フォームでの選択など)で使用されているとき、それらの関連付けは除去されます。アプリケーションからメンバーを除外する前に、Planning 内の Planning の使用の表示機能を使用して、メンバーがアプリケーションで使用されているかどうかを判断し、次元メンバーの除外による影響を確認します。使用の表示機能の詳細については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

Performance Management Architect アプリケーションの次元からメンバーが削除され、そのアプリケーションが Planning に配置されている場合、そのメンバーは Planning のその次元から削除されます。これによって、そのメンバーに関連するサポート詳細、データおよび参照などが存在する場合はすべて削除されます。次に例を示します:

- シナリオ次元、バージョン次元、またはエンティティ次元メンバーを除外すると、プランニング・ユニット、そのすべての履歴(データ)および注釈が削除されます。

- データ・フォームから参照されているメンバーを除外するとデータ・フォームの定義が変更され、ルート次元メンバーだけを使用することになります。これによって、アクセス権を失ったり、データ・フォームに表示するデータがなくなったりする可能性があります。
- エンティティによって参照されている通貨次元メンバーを除外すると、そのエンティティが変更され、Performance Management Architect のアプリケーションに対してデフォルト通貨を使用することになります。
- 三角換算法の通貨として参照されている通貨のメンバーを除外すると、その三角換算法が除去されます。

Performance Management Architect のアプリケーションから除外されたカスタム次元および属性次元は、配置中は Planning から削除されません。ただし、それらの次元メンバーが Performance Management Architect のアプリケーションから削除されると、配置中の Planning から削除されます。


エンティティの削除中のパフォーマンスを改善するには、root メンバーを除外することで、すべてのシナリオおよびバージョンに対するサブツリーのプランニング・ユニットを最初に除外します。エンティティのメンバーを削除した後で、ビジネス・ルール、レポートおよびデータ・フォームを更新して検証する必要があります。

メンバーの検索

次元ライブラリ内でメンバーを検索できます。

▶ メンバーを検索するには:

1 「メンバーの検索」ダイアログ・ボックスで、次のいずれかのアクションを行います:

-  をクリックします。
- 次元を右クリックしてメンバーの検索をクリックします。
- 編集、検索の順に選択します。

2 メンバーの検索方法を「名前」、「別名」、「プロパティ」から選択します。



3 値を入力します。

注: 英数字のみを入力します。ワイルドカード文字も入力できますが、他の特殊文字はサポートされません。

4 結果表示のオプションを次から選択します:

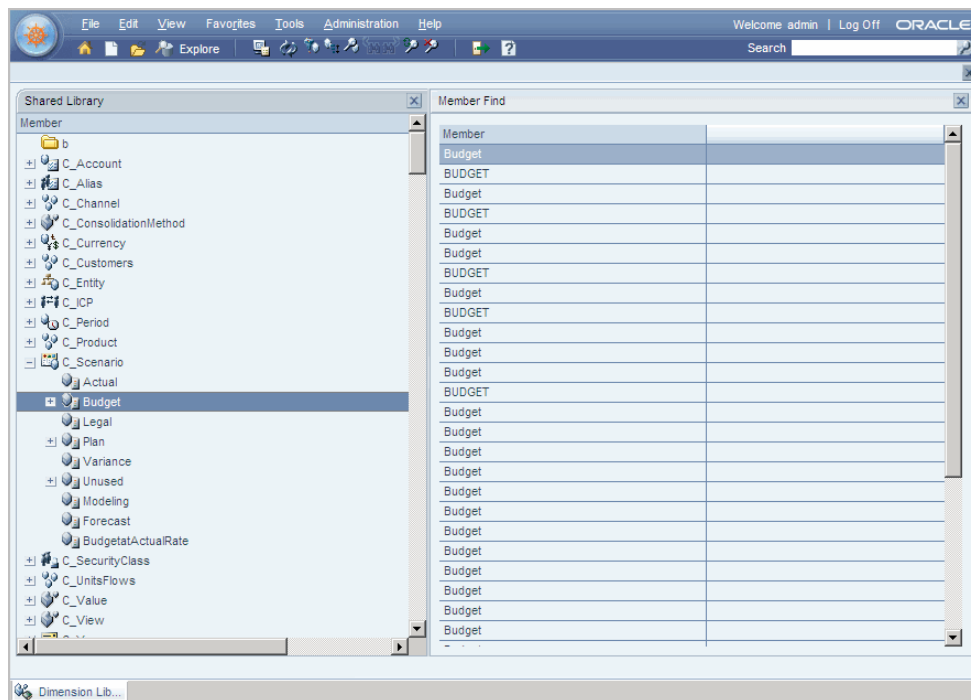
- リスト・ビュー - 「プロパティ・グリッド」を置換して「メンバーの検索」ペインのすべてのメンバーをリスト表示します。
- ナビゲーション・ボタン - 選択された「共有ライブラリ」ペインの最初のメンバーを表示します。標準ツールバーのナビゲーション・ボタンを使用すると、次のメンバーまたは前のメンバーに移動できます。

たとえば、ナビゲーション・ボタンを使用して「予算」というメンバーを検索すると、最初に検索されたメンバーが自動的に共有ライブラリで選択され、

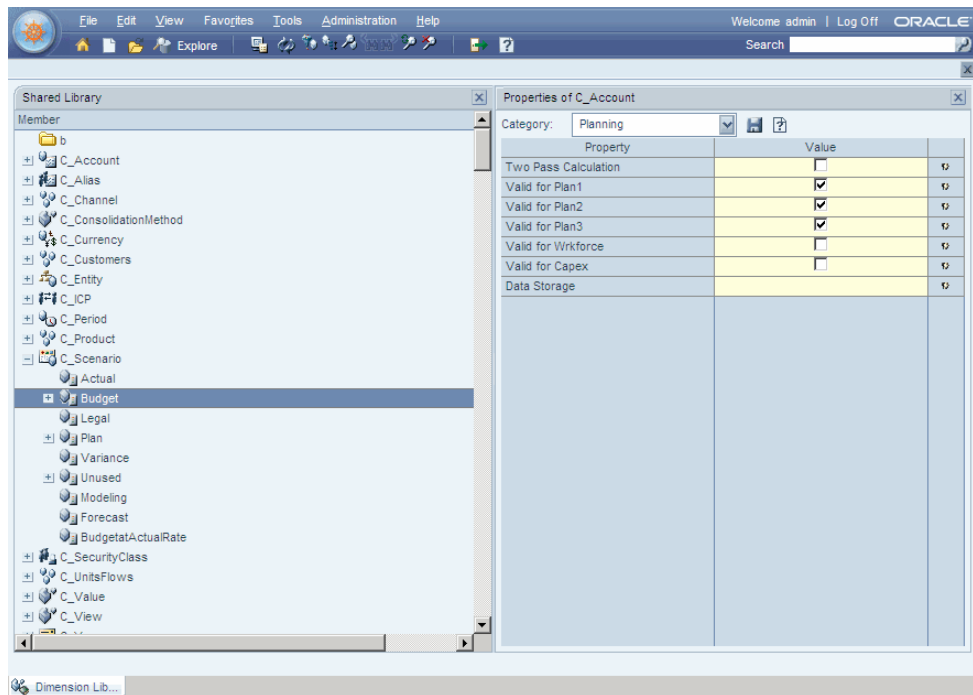
次に  をクリックすると次の「予算」メンバーを検索し、「次へ」をクリックし続けるとさらに次のメンバーを検索します。前のメンバーを検索する場合は、 をクリックします。

5 OK をクリックします。

「リスト・ビュー」を選択した場合、検索結果は「プロパティ・グリッド」を置換します。「メンバーの検索」ペインでメンバーをダブルクリックすると、階層内のメンバーの場所を特定できます。メンバーをダブルクリックすると、そのメンバーが含まれる次元が自動的に「次元ライブラリ」に展開されます。



「ナビゲーション・ボタン」を選択すると、そのメンバーを含む次元が自動的に「次元ライブラリ」に展開されます。共有ライブラリでメンバーを選択すると、「プロパティ・グリッド」にそのプロパティが表示されます。

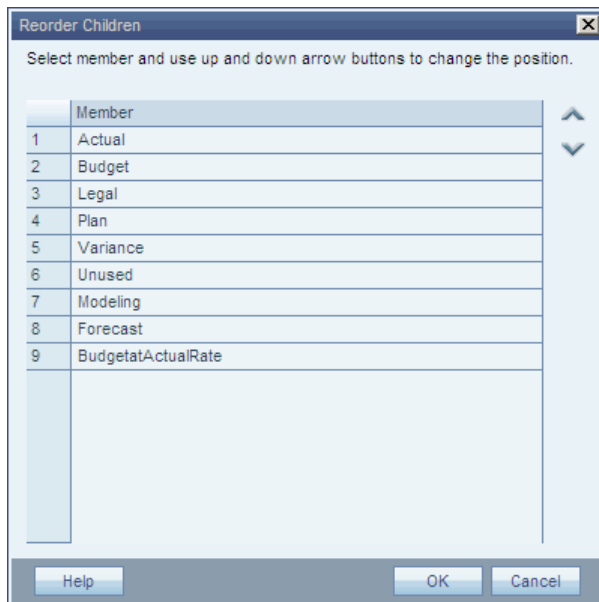


- 6 オプション: 検索を再適用するには、 をクリックします。前に入力した情報は「メンバーの検索」ダイアログ・ボックス保存されています。
- 7 オプション: 検索を消去するには、 をクリックします。
- 8 オプション: 検索結果に表示されるアーチファクトをリフレッシュするには、 をクリックします。
- 9 「メンバーの検索」を閉じるには、 をクリックします。



子メンバーの順序変更

次元ライブラリで子の順序を変更できます。

- ▶ 子を順序変更するには:
 - 1 順序を変更するメンバーを上または下にドラッグするか、子を順序変更する次元を右クリックして、子の順序変更を選択します。
「子の順序変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。



注： Profitability and Cost Management モデルの場合、NoMember を最新のメンバーとして表示するには、モデル内のすべてのビジネス次元について、メンバーのリストの順序を変更する必要があります。これを行わないと、モデルの検証に失敗します。この手順は、Alias、AllocationType、Measures、Periods、Scenarios、Years などのシステム次元には必要ありません。

- 2  または  を使用して、子の順序を変更します。
- 3 OK をクリックします。

孤立メンバーの管理

共有メンバー、共有ライブラリ階層のメンバーなどのメンバーを除去して、後で再利用できます。階層からメンバーを除去すると、孤立メンバーが作成されます。メンバーを除去すると、そのメンバーおよびそのすべての子孫が階層から除去され、階層構造を持たない個のメンバーとして孤立領域に移動されます。共有メンバーを除去すると、そのメンバーだけが孤立領域に移動されます。別の階層構造内の同じメンバーは除去されません。

孤立メンバーを表示したり、孤立メンバーを完全に削除できます。

孤立メンバーの表示

- ▶ 孤立メンバーを表示するには、次元を右クリックして孤立メンバーを選択します。孤立メンバーのリストによってプロパティ・グリッドが置換されます。

孤立メンバーの削除

- ▶ 孤立メンバーを削除するには、孤立メンバー・リストでメンバーを右クリックして孤立メンバーの削除を選択します。

孤立メンバーは完全に削除されます。

プロパティ値の編集

次元メンバーが作成されたときには、プロパティおよびプロパティ値のデフォルト・セットが設定されます。プロパティはカテゴリごとに編成されます。

たとえば、カテゴリが **Planning** に設定されると、**Test_Account** に対する次のプロパティが表示されます:

Property	Value	
Two Pass Calculation	<input type="checkbox"/>	
Valid for Plan1	<input checked="" type="checkbox"/>	
Valid for Plan2	<input checked="" type="checkbox"/>	
Valid for Plan3	<input checked="" type="checkbox"/>	
Valid for Wrkforce	<input type="checkbox"/>	
Valid for Capital Asset Plan	<input type="checkbox"/>	
Data Storage	NeverShare	

プロパティ、有効なプロパティ値およびデフォルト値は次の付録で定義されています:

- 付録 A 「Financial Management 次元の操作」
- 付録 B 「プランニング次元の操作」
- 付録 C 「Profitability and Cost Management プロパティの操作」
- 付録 D 「Essbase プロパティの操作」
- 付録 E 「統計およびシステム・プロパティの操作」

プロパティ値の形式には、次のとおりです:

- 文字列およびメモ - テキストを入力します。
- 整数 - 数値を入力します。
- ブール - TRUE で選択、FALSE で選択解除します。
- メンバー - をクリックしてメンバーを選択します。
- ドロップ・ダウン・リスト - アイテムを選択します。
- 文字列マップ - Alias プロパティから別名次元にマップします。

- ▶ プロパティ値を編集するには:




- 1 編集するプロパティの値列のセルをダブルクリックします。

2 プロパティの値を変更します。

注： 値を変更すると、セルの色が変わります。

3 をクリックします。

プロパティ・エディタでは、各プロパティの右側にアイコンが表示されます。各アイコンは、次のようなプロパティの種類を示します：

-  デフォルト
-  ユーザー定義
-  派生

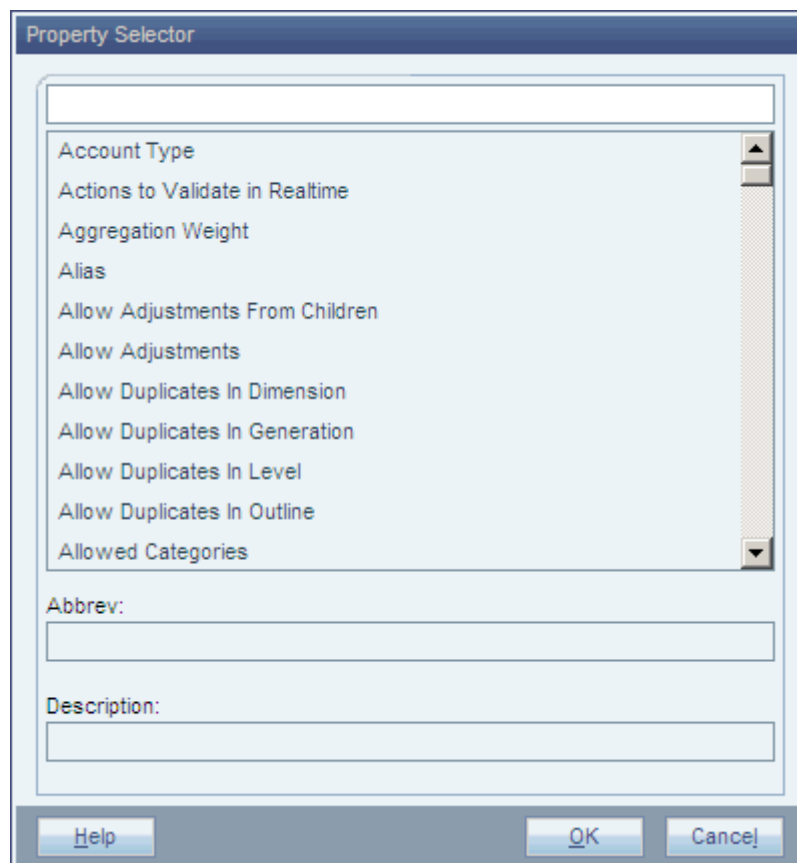
プロパティの検索

いくつかのセルはデフォルト・プロパティを表示できない場合があります。この場合、「プロパティ・セレクタ」ダイアログ・ボックスを使用して、プロパティを選択できます。

▶ プロパティを検索するには：

1 プロパティ・グリッドで、空のセルを右クリックしてプロパティの検索を選択します。

「プロパティ・セレクタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 プロパティを選択して、OK をクリックします。

ユーザー定義属性の操作

計算スクリプト、メンバー式およびレポートで、ユーザー定義の属性(UDA - メンバーの特徴を記述した語句)を使用して、指定した UDA に関連するメンバーのリストを戻します。たとえば、製品次元に様々な製品メンバーが含まれている場合、「新製品」という UDA を作成すると新製品のみを対象に計算することができます。UDA の作成および使用の詳細については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』およびオンライン・ヘルプを参照してください。

UDA の作成は、次の 3 ステップのプロセスです:


1. 1 つまたは複数の UDA 次元を作成します。82 ページの「ユーザー定義属性次元」を参照してください。
2. UDA プロパティおよび UDA 次元の間に次元の関連付けを作成します。
3. UDA のメンバーを作成します。

関連付けの作成

ユーザー定義の属性を作成する前に、UDA を作成する次元を UDA 次元に関連付ける必要があります。UDA 次元との関連付けを作成すると、複数の次元でその UDA を再利用できるようになります。

注: すでにこの次元を UDA 次元に関連付けている場合、UDA の作成前に次の手順を実行する必要はありません。

▶ 次元の関連付けを作成するには:

- 1 次元を展開してユーザー定義の属性を作成する対象のメンバーを選択します。
- 2 プロパティ・グリッドで、UDA をダブルクリックして  をクリックします。






注: 次元を UDA 次元と関連付けていない場合、「関連付けの作成 - 警告」ダイアログ・ボックスが表示されます。ユーザー定義の属性をこのメンバーに追加するには、最初に次元の関連付けを作成する必要があります。

- 3 はいをクリックすると関連付けが作成されます。
「新規関連付けの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 UDA プロパティを選択し、オプションで説明を追加して、UDA 次元を選択します。

ユーザー定義属性の作成

UDA を作成するときに、次のオプションの 1 つを使用できます:

- UDA 次元にメンバーを追加します。119 ページの「メンバーの作成」を参照してください。

- プロパティ・グリッドから「UDA 選択」ダイアログ・ボックスを使用して、メンバーを追加します。
- ▶ プロパティ・グリッド経由で UDA のメンバーを作成するには:
- 1 プロパティ・グリッドで、UDA をダブルクリックして  をクリックします。
「UDA 選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 UDA を作成するには、追加をクリックします。
「新規 UDA メンバーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 UDA 名を入力します。
 - 4 オプション: 複数の UDA を追加するには、次のアクションを行います:
 - 複数のメンバーの作成を選択します。
 - UDA 名をカンマ区切りで入力します。たとえば、「Spring Collection, Summer Collection, Fall Collection, Winter Collection」のようになります。この例では、4 個の新規 UDA が作成されます。
 - 5 OK をクリックします。
「UDA 選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 6 次のいずれかのアクションを行います:
 - 左側の 1 つまたは複数の UDA メンバーを選択して  をクリックします。
 - すべての UDA メンバーを追加するには、 をクリックします。
 - 「UDA メンバーの選択」リストから 1 つまたは複数のメンバーを除去するには、そのメンバーを選択して  をクリックします。
 - 「UDA メンバーの選択」リストからすべてのメンバーを除去するには、 をクリックします。
 - 7 保存をクリックします。
UDA が UDA プロパティに表示され、その UDA プロパティとの関連付けを作成した UDA 次元メンバーとして表示されます。

ユーザー定義属性の削除

- ▶ UDA を削除するには、次のいずれかのアクションを行います:
- 「UDA 選択」ダイアログ・ボックスで:
 1. 「UDA 選択」ダイアログ・ボックスで 1 つまたは複数のメンバーを選択します。
 2. 右クリックして、メンバーの削除を選択します。
 - 「次元ライブラリ」で:
 1. 除去するメンバーが含まれている UDA 次元を展開します。

2. メンバーを右クリックして、メンバーの削除を選択します。
3. はいをクリックします。

他のメンバーによって参照されている UDA は削除できません。最初にプロパティ・グリッドから「UDA 選択」ダイアログ・ボックスを使用して、参照されているメンバーから UDA を除去する必要があります。

メンバー計算式の操作

Planning、収益性、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)の各カテゴリのプロパティ・グリッドでメンバー式を定義できます。メンバー式は演算子、計算関数、次元名およびメンバー名、および数値定数を組み合わせて、メンバーに対する計算を実行します。メンバー式には、次のものも含まれます:


- Essbase の式で許可されている演算子のタイプ、関数、メンバー名、UDA、その他(『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』およびオンライン・ヘルプを参照)
- データベースのリフレッシュ時に式または値に展開される、定義済の数式(スマート・リストの値など)

▶ メンバー計算式を定義するには:

- 1 式を追加または変更する次元メンバーを選択します。

注: Member Formula プロパティは、Planning、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)の各カテゴリで表示されます。

- 2 プロパティ・グリッドで、メンバー式をダブルクリックします。

- 3  をクリックします。

「メモ・エディタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Essbase の式の構文、ルールおよび使用の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。


- 4 式のテキストを折り返すには、右端で折り返すをクリックします。
- 5 OK をクリックします。

式の検証

アプリケーションを配置した後にのみ、メンバー式を検証できます。

▶ メンバー式を検証するには:

- 1 検証するメンバー式をダブルクリックします。

- 2  をクリックします。

「メモ・エディタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 検証をクリックします。

- 4 必要に応じて、式を編集します。終了したら、OK をクリックします。


数式の操作

メンバー式は、データベースがリフレッシュされるときに検証され Essbase コード・ブロック内に展開される Essbase ネイティブの式および数式をサポートします。これらの式では、スマート・リストを名前で指定し、それを計算中に数値によって置換できます。

定義済の数式をメンバー式に含められ、メモ・エディタの「検証」ボタンを使用してアプリケーションの配置後にそれをテストできます。また、Oracle の Hyperion(R) Application Link または Shared Services を使用して、それらをロードできます。

次元のアウトラインに依存するすべてのビジネス・ルールおよび計算スクリプトを更新しなくても、アウトラインを更新できます。計算がアウトラインの仕様から独立します。数式を使用しても、データベースをリフレッシュするときのみ実行されるため、パフォーマンスは低下しません。

- ▶ メンバー計算式で数式を使うには:

- 1 式を追加または変更する次元メンバーを選択します。
- 2 メンバー式をダブルクリックして、 をクリックします。
- 3 「メモ・エディタ」ダイアログ・ボックスで、メンバーに対する式を定義します。

メンバー式には数式および Essbase ネイティブの式を含められます。Essbase ネイティブの式の構文、ルールおよび使用の詳細については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

Planning には定義済の数式があり、数式内でそれらを使用できます。独自の数式を編集または作成できません。138 ページの「数式」を参照してください。

- 4 OK をクリックします。

前提条件

メンバー式で数式を使用する前に、Essbase の式、計算およびアプリケーションのアウトラインを理解する必要があります。『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

数式

数式には、定義済の変数および関数を含められます。

表 14 数式内の変数

変数	説明
OpenInputValueBlock	マルチ通貨アプリケーションの場合に IF 文を生成し、単一通貨のアプリケーションの場合には空の文字列を生成します。CloseInputValueBlock とともに使用されます。

変数	説明
CloseInputValueBlock	マルチ通貨アプリケーションの場合に End IF 文を生成し、単一通貨のアプリケーションの場合には空の文字列を生成します。 OpenInputValueBlock とともに使用されます。
NumberOfPeriodsInYear	年内の期間を戻します。
NumberOfYears	アプリケーション内の年数を戻します。

表 15 数式内の関数

関数	説明
Dimension(dimTag)	定義済の次元の名前を戻します。dimtags の値は次のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> ● DIM_NAME_PERIOD ● DIM_NAME_YEAR ● DIM_NAME_ACCOUNT ● DIM_NAME_ENTITY ● DIM_NAME_SCENARIO ● DIM_NAME_VERSION ● DIM_NAME_CURRENCY
Period(periodName)	指定した期間を戻します。periodName の選択肢は次のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> ● FIRST_QTR_PERIOD ● SECOND_QTR_PERIOD ● THIRD_QTR_PERIOD ● FOURTH_QTR_PERIOD ● FIRST_PERIOD ● LAST_PERIOD
CrossRef(accountName)	勘定科目の相互参照を生成します。
CrossRef(accountName, prefix)	勘定科目の相互参照を生成します。勘定科目名には定義した接頭辞が含まれます。デフォルトの接頭辞は No で、空白をあけて勘定科目名が続きます。たとえば、「No Salary」とします。
getCalendarTPIIndex()	期間のインデックスを戻す式を生成します。暦年に基づくインデックスです。
getFiscalTPIIndex()	期間のインデックスを戻す式を生成します。年度に基づくインデックスです。
CYTD(memberName)	メンバー用に暦年の通算日数を計算する式を生成します。
CYTD(memberName, calTpIndexName, fiscalTpIndexName)	メンバー用に暦年の通算日数を計算する式と、暦年および会計年度に基づいた期間のインデックスを生成します。メンバーの名前が変更されたときに使用します。デフォルトのメンバー名は「暦期間-インデックス」および「会計期間-インデックス」です。

構文

数式は関数および変数をサポートします。数式を作成するときは、次に示す関数および変数の構文ルールに従います:

- 変数またはプロパティは大かっこ([])で囲みます。大かっこを使用しないと、その変数はネイティブの変数として処理されます。
- メンバー名は、二重引用符で囲みます(たとえば、"Account 200")。
- 変数では大文字と小文字は区別されますが、余計なスペースや、アンダースコア(_)のような文字は使用できません。
- 式には他の関数へのサブコールも含まれます。
- 数字が必要な箇所には、テキストは入力できません。
- アウトラインの順序は、メンバー式では重要です。たとえば、まだ計算されていない値を参照できません。

スマート・リストの値を変数として含める

数式"Status"= [Status.Departed]などのように、数式内の変数としてスマート・リストを含められます。

"Status"はメンバー名で、Status はスマート・リストの次元名、Departed はスマート・リストのメンバー名です。Departed に対するスマート・リストの値が 2 の場合、Essbase はメンバー式内の Status.Departed を 2 で置換します(Planning はスマート・リストをテキストとして処理し、Essbase はスマート・リストを数値として処理します)。Departed に対するスマート・リストの値が 2 の場合、Essbase は計算では Status.Departed を 2 で置換し、データベースには 2 を保管します。

スマート・リストは、次のフォーマットで記述します。

[SmartListDimensionName.SmartListMemberName]

一般的なエラーの理解

構文のルールには慎重に従います。数式の構文にエラーが含まれている場合、アプリケーションを配置したときにエラー・メッセージが戻されます。エラー・メッセージの情報を取得するには、Planning アプリケーション・サーバー・ログを表示します。最も一般的なエラー・メッセージは、「実行できませんでした」です、これは、式に対して不適切なパラメータを使用した場合に発生します。次のようなアクションが、「実行できませんでした」エラー・メッセージの原因になります:

- 数式のパラメータの個数が間違っている
- メンバー名、関数、または変数名の綴りが間違っている
- メンバー名が引用符で囲まれていない
- 文字列が必要な場所に数字が含まれている

『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

アプリケーションのメンバーの操作

アプリケーションを作成するときに、アプリケーションに一定のメンバーを追加したり、メンバーを除外したり、基本メンバーを設定できます。アプリケーションの作成の詳細については、第6章「アプリケーションの構築」を参照してください。

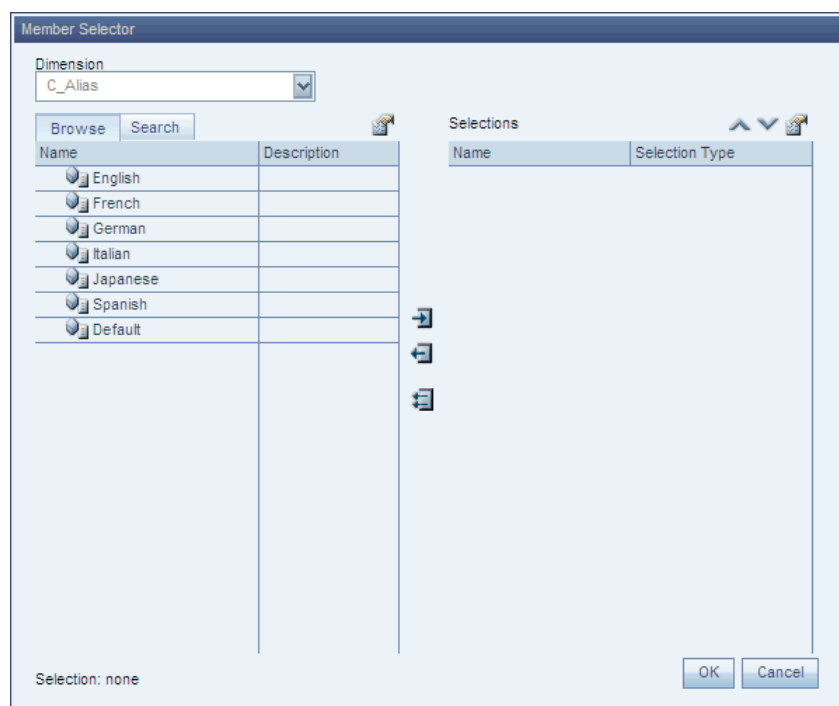
アプリケーションへのメンバーの追加

次元のサブセットを使用すると、アプリケーションに表示される結果を絞り込めます。たとえば、製品や地域など、アプリケーションの特定のメンバーのみを表示する場合があります。特定のメンバーのみを追加すると、アプリケーションの結果はそれらのメンバーに絞り込まれます。これは、膨大なメンバーが含まれている次元の一部のメンバーのみを表示する場合に、非常に役に立ちます。

▶ アプリケーションにメンバーを追加するには:

- 1 共有ライブラリで、次元を右クリックしてアプリケーション・ビューに追加を選択します。




「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスが表示されます。






「メンバー・セレクト」によって、次元メンバーをフィルタできます。次元メンバーを展開および縮小するときは、「+」および「-」を使用します。

「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスには2つのペインがあり、左側には次元のすべてのメンバーが表示され、アプリケーションで選択されたメンバーは右側に表示されます。その次元で使用可能なすべてのメンバーが表示される左ペインには、メンバー名および簡単な説明が表示されます(使用可能な場合)。右のペインでは、アプリケーションに対して選択されたメンバーについて、メンバー名および選択のタイプが表示されます。新規アプリケーションの場合は、デフォルトですべてのメンバーが選択されています。

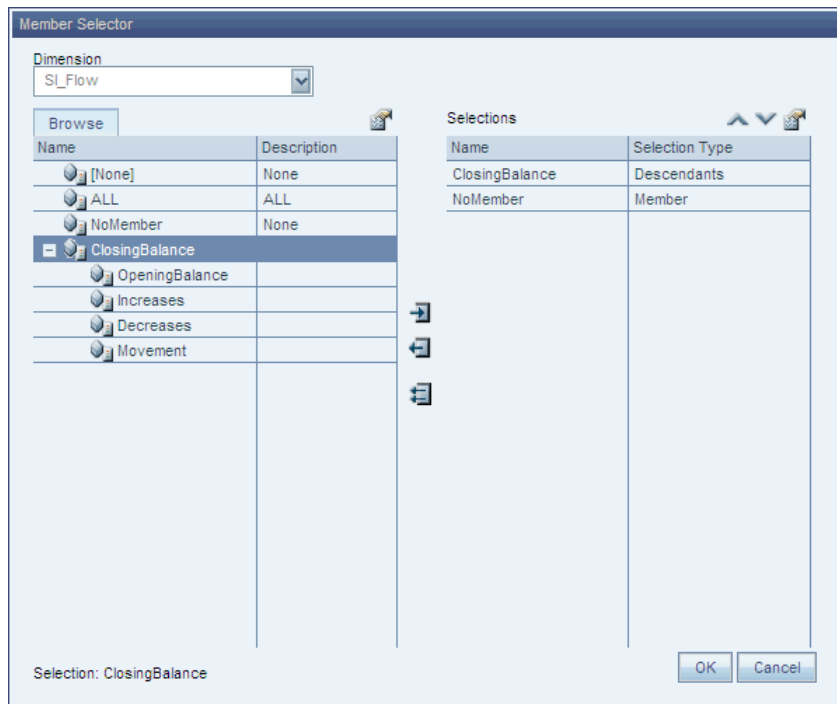
それぞれのペインの上の「メニュー」ボタンを使用すると、「メンバー・セレクト」の列を変更できます。

1. 左ペインで、、表示、カウントの順に選択します。
名前および説明に加えてカウント列が表示されます。カウント列には、現在の次元の子メンバーの数が表示されます。これは、ツリーの分岐を展開するために必要な時間を示唆する便利なインディケータになります。
2. カウント列を除去するには、、表示、カウントの順に選択します。
3. 次元を縮小するには、をクリックし、すべて縮小を選択します。

注：「すべて縮小」を選択すると、次元の下のすべてのメンバーまたは選択したメンバーが縮小されます。次元またはメンバーが縮小された後にアーチファクトの上にマウス・ポインタを置くと、子孫の数を示すツールチップが表示されます。


4. 「選択」ペインでをクリックして表示を選択し、列を変更します。
- 2 左側の使用可能な次元およびメンバーのリストで、フィルタ条件にするメンバーを選択してをクリックします。
- 3 フィルタ条件のメンバーのリストからメンバーを選択解除するには、をクリックします。
- フィルタの追加オプションを取得するには、右クリックします。たとえば、メンバーのすべての兄弟をフィルタできます。
- 4 次元の使用可能なメンバーのリストのメンバーを右クリックします。次のオプションを選択します：
- メンバー
 - 子
 - 子孫
 - 兄弟
 - 親
 - 祖先
 - レベル 0(ベース)
 - 含む



そのメンバーは右側に移動され、「選択のタイプ」列には選択したオプションが表示されます。たとえば、「選択のタイプ」列に「子孫」が表示されます。



ヒント： 選択したリストのメンバーを右クリックすると、指定を変更できます。たとえば、「子」を「子孫」に変更できます。

- 5 フィルタへのメンバーの追加を続行します。(アプリケーションのフィルタ条件になるメンバーが右側に表示されます。)

ヒント： 選択したリストのすべてのメンバーの選択を解除するには、をクリックします。


- 6 「選択」ペインでメンバーを選択して  および  をクリックすると、メンバーを上または下に移動できます。
- 7 終了したら、OK をクリックします。

上位メンバーの選択

上位メンバーの選択機能は、アプリケーション・ビューに追加機能に似ています。141 ページの「アプリケーションへのメンバーの追加」の説明に従ってメンバーをアプリケーションに追加すると、必要なメンバーのみが共有ライブラリからアプリケーションに追加されます。一方、上位メンバーを選択すると次元全体がアプリケーションに追加されるため、1 つ以上の上位メンバーを選択することでメンバーを除外できます。たとえば、すべての地域に地理的な階層を持つエンティティ次元がある場合に、国固有の構造のみを含むようにアプリケーションを設定するとします。アプリケーションの共有次元では、ドイツなどの国を上位メンバーとして選択できます。同様に、機能的な階層から他の上位メンバーを選択できます。上位メンバーを選択する場合は、メンバーのみか、子またはすべての子孫を含むかどうかも指定できます。

注： 上位メンバーは最上位レベルにある必要はありません。子メンバーを上位メンバーとして選択でき、共有ライブラリに子を追加したり子を変更したりすると、アプリケーション内に反映されます。

▶ 上位メンバーを選択するには:

- 1 アプリケーションで、共有次元を右クリックし、上位メンバーの選択を選択します。「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 左でメンバーを選択し、 をクリックしてメンバーを選択領域に移動します。
- 3 OK をクリックします。

メンバーの除外

次元に対するメンバー・フィルタを定義したときにメンバーを選択に含めた場合、そのメンバーを除外できます。

メンバーを除外すると、そのメンバーがアプリケーションには表示されなくなるように自動的にプロパティが設定されます。メンバーを除外しても、そのメンバーおよびその子孫に対して設定された既存のプロパティ値は除去されません。後でそのメンバーをアプリケーションに追加すると、除外の直前と同様にプロパティ値は保持されています。

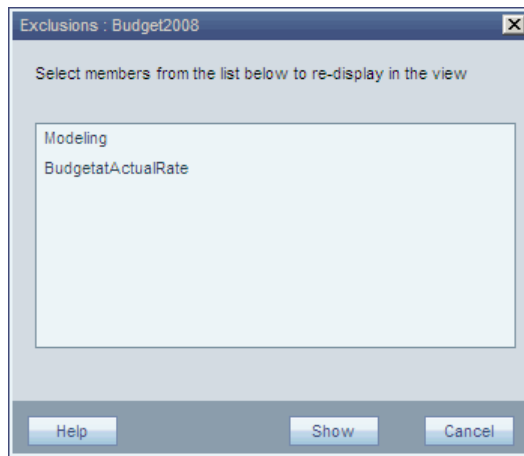
Planning および Financial Management 製品がインストールされていて、Planning アプリケーションを作成した場合、不要な Financial Management システム・メンバーを除外する必要があります。[None]や[Active]などの大かっこが表示されているすべての Financial Management システム・メンバーを選択して、除外します。たとえば、勘定科目次元で、Planning アプリケーションを作成するときは、「勘定科目」の下の「負債」および「無形資産」以外のすべてのアイテムを除外します。

▶ アプリケーションでメンバーを除外するには、除外するメンバーを右クリックしてメンバーを除外を選択します。

除外したメンバーの表示

▶ 除外したメンバーを表示するには:

- 1 アプリケーションで、次元を右クリックして除外したメンバーの表示を選択します。「除外」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 アプリケーションで除外されたメンバーを表示するには、そのメンバーを選択して表示を選択します。表示しない場合は取消しをクリックします。

除外されたメンバーがアプリケーションで表示されます。

基本メンバーの設定

基本メンバーを設定すると、ある親のすべての子を除外できます。たとえば、エンティティのロール・アップで、「ヨーロッパ」には「イタリア」および「英国」という子があるとします。「ヨーロッパ」をこのロール・アップの基本にすると、「イタリア」および「英国」は表示されなくなります。

注： 基本メンバーの設定機能は、共有メンバーとは関係ありません。

- ▶ 基本メンバーを設定するには、アプリケーションでそのメンバーを右クリックし、基本メンバーとして設定を選択します。
- ▶ 基本メンバーの設定を除去するには、その基本メンバーを右クリックして子孫の使用可能を選択します。

6

アプリケーションの構築

この章の内容

アプリケーションについて.....	147
アプリケーション作成のワークフロー.....	147
前提条件.....	148
連結アプリケーションの作成.....	149
Planning アプリケーションの作成.....	157
Profitability and Cost Management アプリケーションの作成.....	170
Essbase アプリケーションの作成.....	181
汎用アプリケーションの作成.....	182
共通アプリケーション・タスク.....	183

アプリケーションについて

アプリケーション・ライブラリによって、Performance Management Architect アプリケーションを表示、作成、検証および Hyperion 財務アプリケーションに配置できます。アプリケーションには、財務管理および Planning の要件を満たすための次元および次元属性が含まれます。各アプリケーションには、勘定科目、エンティティ、シナリオおよびその他の次元要素が含まれています。

アプリケーション作成者が作成できるアプリケーションの数には制限がありません。たとえば、次の目的のアプリケーションを作成できます：

- 原価中心点ごとの、営業経費の予算計上
- 製品ラインごとの、収益プラン作成
- 税金データのレポート
- セキュリティおよび取引手数料のデータのレポート

▶ アプリケーション・ライブラリを開くには、ナビゲート、管理、アプリケーション・ライブラリの順に選択します。

アプリケーション作成のワークフロー

次の各項では、様々なタイプのアプリケーションの作成について説明します：

- 連結 - 149 ページの「[連結アプリケーションの作成](#)」を参照してください。
- Planning - 157 ページの「[Planning アプリケーションの作成](#)」を参照してください。

- 収益性 - 170 ページの「Profitability and Cost Management アプリケーションの作成」を参照してください。
 - Essbase - 181 ページの「Essbase アプリケーションの作成」を参照してください。
 - 汎用 - 182 ページの「汎用アプリケーションの作成」を参照してください。
- 前提条件については、148 ページの「前提条件」を参照してください。

手動のワークフロー

手動方式では、次の7ステップの手順で、ブランク・アプリケーションを作成してそのアプリケーションを定義できます:

1. アプリケーション・ウィザードでアプリケーション・タイプを選択し、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択します。
2. 共有ライブラリからアプリケーションへ次元(または次元階層のサブセット)をドラッグするか、アプリケーションにローカル次元を作成します。
3. 次元のプロパティを変更します(アプリケーション・プロパティが共有ライブラリのプロパティと異なる場合のみ)。
4. すべての次元の関連付けをアクティブ化します。
5. アプリケーションを検証します。
6. アプリケーションを Hyperion の製品環境に配置します。
7. アクセス権を定義します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

アプリケーション・ウィザードのワークフロー

アプリケーション・ウィザードでは、アプリケーションの作成が簡単になるように、次の各画面で手順を進めます:

- アプリケーション・タイプ - 名前を入力し、タイプを選択して、説明を入力します。149 ページの「アプリケーション・タイプの選択」を参照してください。アプリケーション・タイプに従って、追加のオプションが表示されます。
- 次元の選択 - 次元を選択または作成できます。150 ページの「次元の選択」を参照してください。
- アプリケーション設定 - 次元の関連付け、次元別名の設定およびその他のアプリケーション・プロパティの変更を行います。155 ページの「アプリケーション設定の変更」を参照してください。

前提条件

アプリケーションを作成するには、Hyperion 製品(Financial Management、Profitability and Cost Management、Planning、Essbase (ASO)、または Essbase (BSO)) に対する「アプリケーション作成者」グローバル役が必要です。グローバル役割

の作成および割当ての詳細については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

アプリケーションを作成する前に、次のタスクを実行します:

- Shared Services をインストールおよび構成します。
- アプリケーションの配置先として予定している製品を構成します。(構成には製品インスタンスおよびデータ・ソースの作成も含まれます。)
- **オプション:** Performance Management Architect で、プロファイルを作成して共有ライブラリに次元をロードします。第3章「メタデータのインポート」を参照してください。

注: すべてのアプリケーション・タイプについて、アプリケーションに"Master"という名前は付けられません。アプリケーション名"Master"は、Performance Management Architect の予約名です。誤ってアプリケーションに"Master"という名前を付けると、アプリケーションが存在することを示すエラー・メッセージが表示されます。

連結アプリケーションの作成

アプリケーション・ウィザードを使用して、連結アプリケーションを作成できます。次の各項で、連結アプリケーションの作成について順を追って説明します:

- 149 ページの「アプリケーション・タイプの選択」
- 150 ページの「次元の選択」
- 151 ページの「手動での次元の追加」
- 153 ページの「ウィザードを使用した次元の追加」
- 155 ページの「アプリケーション設定の変更」
- 157 ページの「検証および配置」

アプリケーション・タイプの選択

次の手順は、連結アプリケーションの作成方法を示します。

▶ 連結アプリケーションを作成するには:

- 1 ファイル、新規、アプリケーションの順に選択します。
- 2 アプリケーション名を入力します。

名前には、特殊文字は使用できません。また、10文字を超えることはできません。空白を含むことはできません。HFM、HSV、HSX、または数字で開始できません。

- 3 連結を選択します。
- 4 説明を入力します。

説明は、「&」(アンパサンド)などの特殊文字を使用することはできず、40文字以下にする必要があります。

5 オプション: 「ブランク・アプリケーションの作成」を選択してブランク・アプリケーションを作成し、次元ライブラリを使用して次元をアプリケーションにドラッグ・アンド・ドロップします。151ページの「手動での次元の追加」を参照してください。

6 オプション: ローカル次元の自動作成を選択します。

「ローカル次元の自動作成」を選択すると、アプリケーションで必要とされるすべての次元の新規次元が自動的に作成されます。各新規次元の次元名は、次元タイプにかっこで囲まれた(New)が付いたものです。ローカル次元を自動的に作成すると、アプリケーションの作成に必要な次元が追加されるため、時間を節約できます。

7 次のアクションを行います:

- デフォルト通貨を入力します。

通貨コードは3文字です。次に、サポートされている通貨コードのリストを示します:

- USD - US ドル
- EUR - 欧州連合ユーロ
- FRF - フランスのフラン
- DEM - ドイツのドイツ・マルク
- AUD - オーストラリア・ドル

- 「残高勘定のデフォルト・レート」を入力します。

ASSET または LIABILITY 勘定科目で使用する換算レートを含む勘定科目を指定します。

- 「フロー勘定のデフォルト・レート」を入力します。

REVENUE または EXPENSE 勘定科目で使用する換算レートを含む勘定科目を指定します。

8 次のいずれかのアクションを行います:

- 手動でアプリケーションを作成している場合は、終了をクリックします。

次元ライブラリが表示されます。

- ウィザードを使用している場合は、次へをクリックします。

「次元の選択」画面が表示されます。

次元の選択

アプリケーション作成の次の手順は、アプリケーションに次元を追加することです。連結アプリケーションには次の次元インスタンスが含まれる必要があります:

- 1つのシナリオ
- 1つの年
- 1つのビュー

- 1つの期間
 - 1つのエンティティ
 - 1つの値
 - 1つの勘定科目
 - 1つのICP
 - 4つの汎用(それぞれ異なるカスタム次元1から4にマップされる)
 - 1つのセキュリティ・クラス(オプション)
 - 1つの別名(オプション)
- 別名次元に含まれるメンバー数は10までです。
- 1つの通貨
 - 1つの連結メソッド

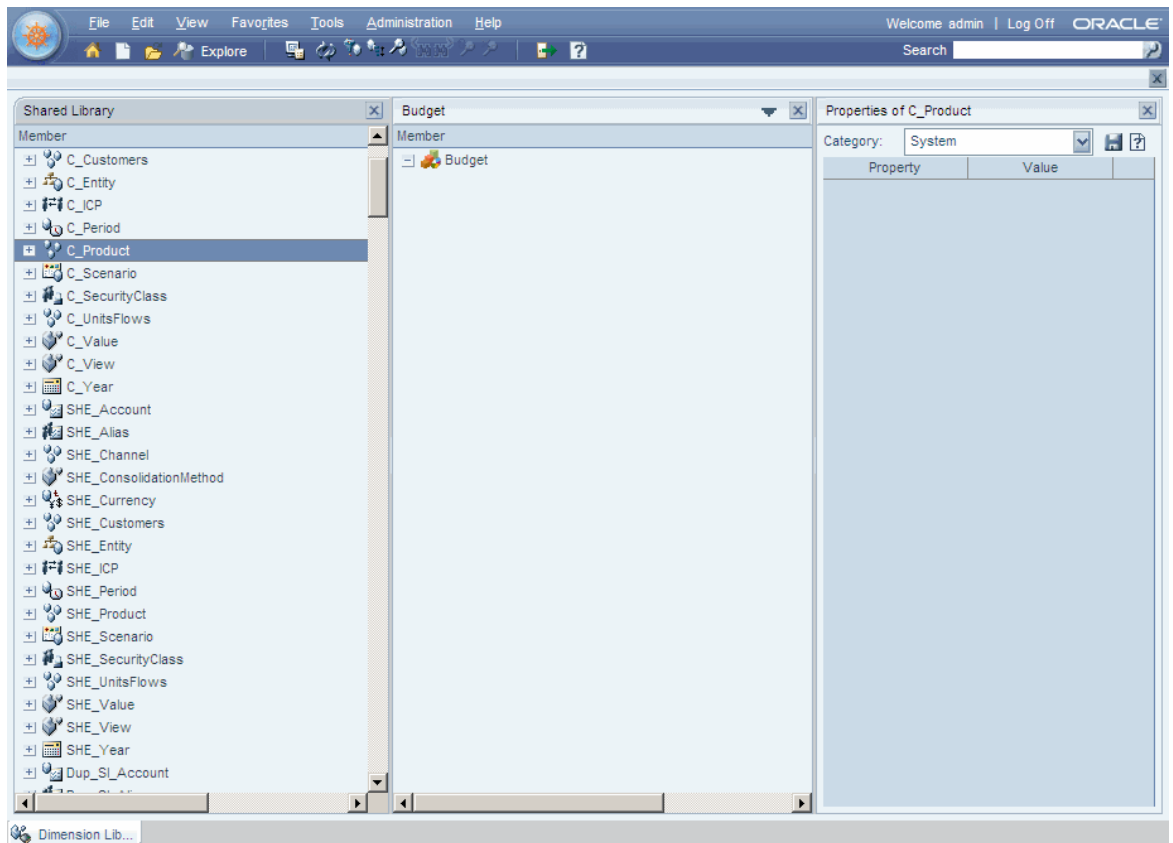
ヒント: ウィザードを使用してアプリケーションを作成すると、必要なすべての次元が自動的に「次元の選択」画面に表示されます。

ブランク・アプリケーションを作成した場合、[151 ページの「手動での次元の追加」](#)を参照してください。ウィザードを使用している場合は、[153 ページの「ウィザードを使用した次元の追加」](#)を参照してください。

手動での次元の追加

ブランク・アプリケーションを作成する場合は、次元ライブラリを使用して次元を選択します。次元ライブラリには、次の3つのペインがあります:

- **共有ライブラリ** - 左側に表示されます。共有ライブラリで現在使用可能なすべての次元が表示されます。
次元ライブラリに次元をロードする方法の詳細は、[第3章「メタデータのインポート」](#)を参照してください。
- **アプリケーション** - 中央部に表示されます。展開されると現在のアプリケーションのすべての次元の名前をリスト表示します。
- **プロパティ・グリッド** - 右側に表示されます。選択した次元またはメンバーのすべてのプロパティを表示します。
プロパティを編集する方法の詳細は、[133 ページの「プロパティ値の編集」](#)を参照してください。



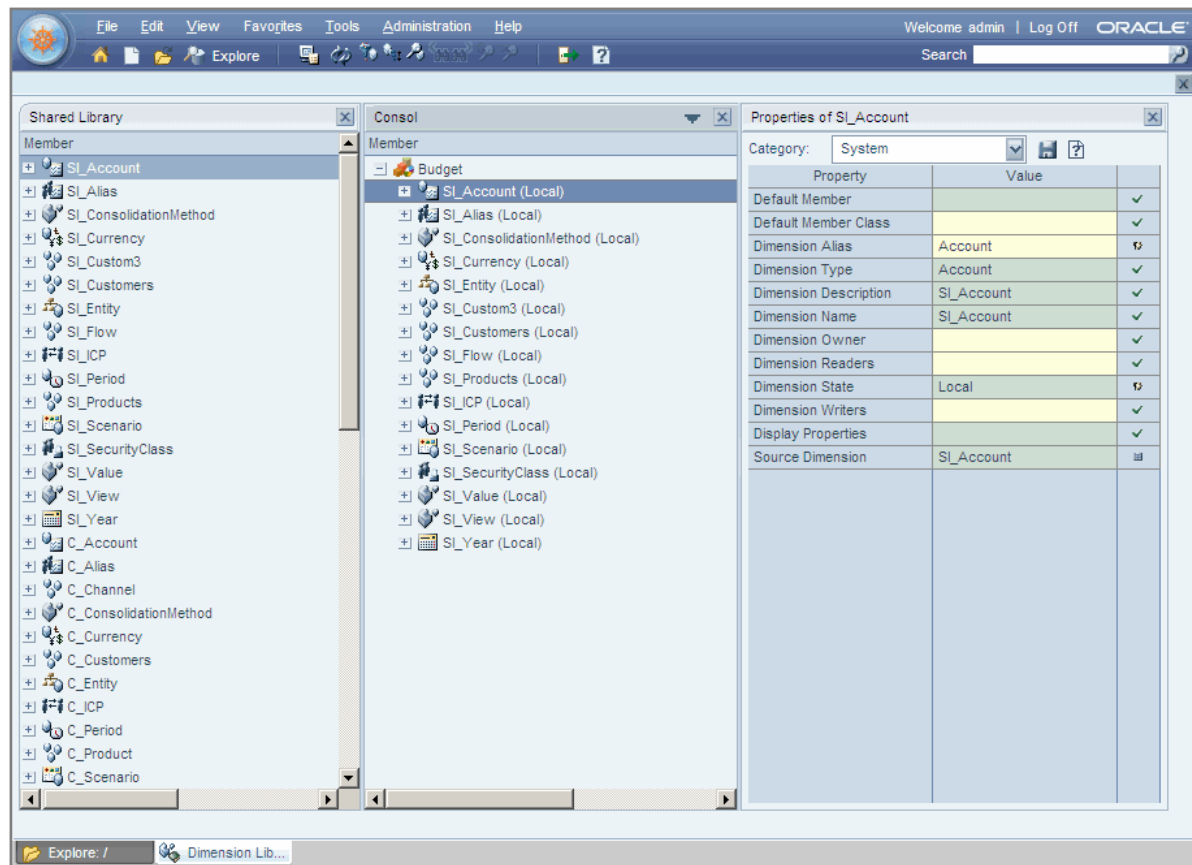
▶ アプリケーションに次元を追加するには:


- 1 共有ライブラリからアプリケーションに次元をドラッグします。
「次元のコピー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 「ローカル次元」または「共有次元」を選択します。

ヒント: アプリケーションにメンバーのみを追加するには、共有ライブラリで次元を右クリックして、「アプリケーション・ビューに追加」を選択します。141 ページの「アプリケーションへのメンバーの追加」を参照してください。

共有次元およびローカル次元の詳細は、76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」を参照してください。

展開されたアプリケーションにすべての次元が表示されます。



ヒント: 共有ライブラリにメンバーを追加してアプリケーションに次元を含めた場合、 をクリックすると新規メンバーがアプリケーションに表示されます。

ウィザードを使用した次元の追加

アプリケーション・ウィザードを使用しているときは、必要なすべての次元が自動的に表示されます。正確に一致しているものがある場合、その次元タイプに対する次元の列を自動的に取込みます。次元タイプは自動的にカテゴリ化されその見出しが暗く表示されます。たとえば、プライマリ次元、カスタム次元およびその他の次元などです。プライマリ次元は、必須です。

「ローカル次元の自動作成」を選択した場合、必要な各次元に対して新規ローカル次元が作成されます。各新規次元の名前は、次元タイプと同じで、かっこに囲まれた(New)が付加されます。たとえば、Account (New)のようになります。

▶ 次元を定義するには:

1 次元に次元タイプをマップするには、「次元」列で選択をクリックします。

必須の次元タイプが次元ライブラリの次元と一致する場合、その次元名が「次元」列に表示されます。

2 次元を選択します。

ドロップ・ダウン・リストに表示される次元は次元タイプにマップされます。たとえば、ある次元を勘定科目次元タイプにマップしている場合、勘定科目次元のみがリストに表示されます。

Dimension Type	Dimension	Local Dimension
Primary Dimensions		
Account	[Select]	<input type="checkbox"/>
Entity	[Select]	<input type="checkbox"/>
Scenario	[Select]	<input type="checkbox"/>
Year	[Select]	<input checked="" type="checkbox"/>
Period	[Select]	<input checked="" type="checkbox"/>
ICP	[Select]	<input type="checkbox"/>
View	[Select]	<input type="checkbox"/>
Value	[Select]	<input type="checkbox"/>
Custom Dimensions		
Custom 1	[Select]	<input type="checkbox"/>
Custom 2	[Select]	<input type="checkbox"/>
Custom 3	[Select]	<input type="checkbox"/>
Custom 4	[Select]	<input type="checkbox"/>
Other Dimensions		
Alias	[Select]	<input type="checkbox"/>
Currency	[Select]	<input type="checkbox"/>
Consolidation Method	[Select]	<input type="checkbox"/>
Security Class	[Select]	<input type="checkbox"/>

場合によっては、新規次元を作成することがあります。

3 オプション: 新規次元を作成します。新規次元を作成するには:

- 「次元」ドロップダウン矢印を使用して、新規次元の作成を選択します。
「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 次元の名前および説明を入力します。次元を「次元タイプ」列にマップする次元タイプに従って、タイプが自動的に選択されます。
- OK をクリックします。
- プライマリ次元、カスタム次元およびその他のすべての次元に対する新規次元の選択、または作成を続けます。
- 次元をローカルにする場合は、各行の末尾のローカル・チェック・ボックスを選択します。

注: ウィザードの最初の画面で新規ローカル次元を自動的に作成した場合、その次元を共有に変更できません。

共有次元およびローカル次元の詳細は、[76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」](#)を参照してください。

注: 次の画面に移動する前に、すべての次元を、次元または[該当なし]にマップする必要があります。

6 次へをクリックします。

「アプリケーション設定」画面が表示されます。

アプリケーション設定の変更

アプリケーション作成の次の手順は、アプリケーション・プロパティおよび他のアプリケーション設定の変更です。アプリケーションを手動で作成する場合、これらのオプションに加えて、次元ライブラリの他のオプションを使用します。

アプリケーションを手動で作成する場合、次元ライブラリとともに、共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。右クリック・メニューを使用すると、アプリケーション次元や最高レベルのアプリケーションを変更できます。

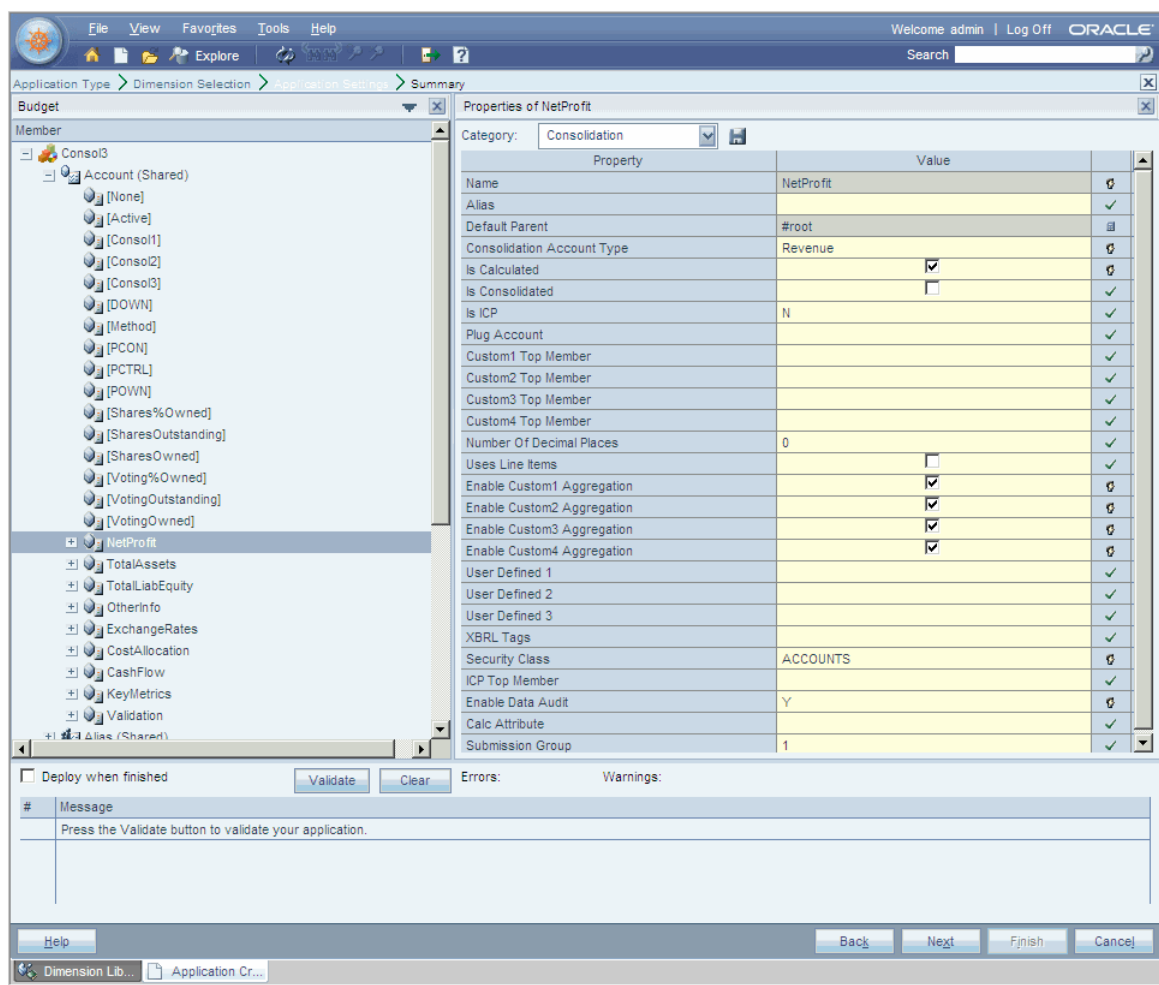
次元ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更

空のアプリケーションを作成した後、次元ライブラリでアプリケーション設定を変更する場合、次のアクションを行えます：

- 次元別名の設定 - [189 ページの「次元別名の設定」](#) を参照してください。
- 次元の関連付けおよび既存の次元の関連付けの表示 - [187 ページの「次元の関連付けの表示」](#) を参照してください。
- アプリケーション・メンバーシップの表示 - [190 ページの「アプリケーション・メンバーシップの表示」](#) を参照してください。
- 次元の作成 - [75 ページの「次元の作成」](#) を参照してください。
- 次元の除去 - [187 ページの「次元の除去」](#) を参照してください。
- 次元のコピー - [85 ページの「次元のコピー」](#) を参照してください。
- 次元の切離し - [185 ページの「ローカル次元の共有への変換」](#) を参照してください。
- プロパティ値の変更 - [133 ページの「プロパティ値の編集」](#) を参照してください。
- メンバーの追加、メンバーの除外および基本メンバーの設定 - [141 ページの「アプリケーションのメンバーの操作」](#) を参照してください。

アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更

ウィザードを使用してアプリケーションを作成する場合、アプリケーションの次元およびメンバーが左側に表示され、プロパティ・グリッドが右側に表示され、検証および配置オプションが下部に表示されます。



ウィザード・アプリケーションでは、右クリック・メニューを使用して、アプリケーションの次元またはメンバーを変更します。次のアクションを行えます：

- 次元別名の設定 - [189 ページ](#)の「[次元別名の設定](#)」を参照してください。
- アプリケーション・メンバーシップの表示 - [190 ページ](#)の「[アプリケーション・メンバーシップの表示](#)」を参照してください。
- 次元の関連付けの表示 - [187 ページ](#)の「[次元の関連付けの表示](#)」を参照してください。
- 次元の同期 - [186 ページ](#)の「[共有ライブラリを使用した次元の同期](#)」を参照してください。
- メンバーの作成 - [119 ページ](#)の「[メンバーの作成](#)」を参照してください。
- 共有メンバーの挿入 - [120 ページ](#)の「[共有メンバーの操作](#)」を参照してください。
- 子の順序変更 - [131 ページ](#)の「[子メンバーの順序変更](#)」を参照してください。
- 孤立メンバーの管理 - [132 ページ](#)の「[孤立メンバーの管理](#)」を参照してください。
- メンバーの除外 - [144 ページ](#)の「[メンバーの除外](#)」を参照してください。

検証および配置

アプリケーション・ウィザードを使用している場合、アプリケーションの次元およびメンバーの変更が終了したとき、アプリケーションを検証して、アプリケーションの作成の終了前にエラーを修正できます。ウィザードの検証および配置オプションを使用しないで、後でアプリケーション・ライブラリで配置オプションを使用することもできます。

アプリケーションを手動で作成する場合は、アプリケーション・ライブラリのオプションを使用してアプリケーションを検証および配置します。検証および配置の詳細は、[204 ページの「アプリケーションの検証および配置」](#)を参照してください。

▶ ウィザードを使用してアプリケーションを検証および配置するには:

- 1 アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、検証を選択します。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプとエラー・メッセージが示されます。

- 2 検証エラーが発生した場合は、アプリケーションを配置する前にそれらを修正します。
- 3 アプリケーションを配置するには、「アプリケーション設定」画面で終了時に配置を選択します。
- 4 終了をクリックします。

「終了時に配置」を選択した場合、「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注: アプリケーションを配置した後は、年、期間、別名、表示の各次元は変更できません。さらに、配置後は言語を追加できません。

Planning アプリケーションの作成

Planning アプリケーションを手動で、またはアプリケーション・ウィザードを使用して作成できます。次の各セクションでは、Planning アプリケーションの作成について説明します。Planning アプリケーションは、次の要件を満たす必要があります:

- アプリケーションは名前を持ち、少なくとも1つのプラン・タイプに割り当てられる必要があります。
- Default Currency プロパティを定義する必要があります。
- Start Year プロパティを定義する必要があります。年は、4桁の長さにする必要があります(2008 など)。
- 年次元の最初の年メンバーおよび Start Year プロパティは、同じ年を表す必要があります。たとえば、Start Year が 2008 の場合、年次元の最初の年は FY08 にする必要があります。
- 年メンバーは FY で始まり、2桁の年が続く必要があります。たとえば、FY08 のようになります。

- Start Month プロパティが定義される必要があります。
- Default Alias Table プロパティを定義する必要があります。詳細は、[80 ページの「別名次元」](#)を参照してください。
- アプリケーションには Planning の必須次元が含まれる必要があります。単一通貨のアプリケーションにはシナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間および年が必要です。複数通貨のアプリケーションには、シナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間、年および通貨が必要です。
- アプリケーションは[付録 B「プランニング次元の操作」](#)で指定されている条件を満たす必要があります。

Performance Management Architect アプリケーション管理を使用した Planning のサンプル・アプリケーションの作成および初期化の詳細については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

アプリケーション・タイプの選択

次の手順を使用して Planning アプリケーションを作成します。アプリケーション情報を指定するときに、次のことを確認します:

- アプリケーションが名前を持ち、少なくとも 1 つのプラン・タイプに割り当てられていること。
- Default Currency プロパティが定義されていること。
- Start Year プロパティが定義されていること。年は 4 桁の必要があります。たとえば、2008 のようになります。
- 年次元の最初の年メンバーおよび Start Year プロパティが同じ年を示すこと。たとえば、Start Year が 2008 の場合は年次元の最初の年は FY08 になります。
- 年のメンバーは FY で始まり、2 桁の年が続くこと。たとえば、FY08 のようになります。
- Start Month プロパティが定義されていること。

▶ Planning アプリケーションを作成するには:

- 1 **ファイル、新規、アプリケーションの順**に選択します。
ウィザードの最初の画面である「アプリケーション・タイプ」が表示されます。
- 2 **アプリケーション名**を入力します。
名前には特殊文字を使用できません。また、8 文字を超えることもできません。
- 3 **Planning** を選択します。
- 4 **オプションの説明**を入力します。
- 5 **オプション**: ブランク・アプリケーションの作成を選択してブランク・アプリケーションを作成し、次元ライブラリを使用して次元をアプリケーションにドラッグ・アンド・ドロップできます。次に、終了をクリックします。[151 ページの「手動での次元の追加」](#)を参照してください。

ブランク・アプリケーションを作成している場合、プロパティ・グリッドを使用してプラン・タイプとデフォルト通貨を定義し、複数通貨を使用可能にします。

160 ページの「プラン・タイプの定義」および160 ページの「デフォルト通貨の指定」を参照してください。

- 6 **オプション:** 次元クラスのデフォルト名を使用して必要なすべての次元をローカルに作成して、ローカル・アプリケーションを作成する場合、ローカル次元の自動作成を選択します。

たとえば、これによって「エンティティ」という名前のエンティティ次元、「勘定科目」という名前の勘定科目次元、などが作成されます。この設定では、次元は「次元設定」画面でローカル次元として選択され、必要な場合は「カスタム次元」および「その他の次元」の下にこれらの次元を追加できます。

- 7 次のアクションを行います:

- プラン・タイプを定義します。160 ページの「プラン・タイプの定義」を参照してください。
- デフォルト通貨を指定します。160 ページの「デフォルト通貨の指定」を参照してください。
- 基本期間の calendA・オプションを設定します。12 か月を選択する場合、会計開始月および週次配布を入力します。166 ページの「 calendA範囲の定義」を参照してください。

- 8 **オプション:** 次のアクションを行います:

- アプリケーションが複数通貨をサポートする場合、複数通貨の使用を選択します。
160 ページの「デフォルト通貨の指定」を参照してください。

- 新規ローカル期間次元の作成を選択します。

ローカル期間次元を作成する場合、 calendA領域で新規次元に対する期間名を入力します。「基本期間」で「カスタム」を選択する場合は、期間名、接頭辞および年間の期間を入力します。

- 新規ローカル年次元の作成を選択します。
ローカル年次元を作成する場合、カレンダー領域で新規次元の適切な情報(年名、会計開始年および合計年数など)を入力します。

9 次へをクリックします。

「次元の選択」画面が表示されます。

プラン・タイプの定義

アプリケーションでは、少なくとも1つのプラン・タイプを構成する必要があります。Essbase データベースは、各プラン・タイプに対して作成されます。Planning アプリケーションに対しては最高3つのプラン・タイプ、個別のモジュールに対しては2つのプラン・タイプを設定できます。アプリケーションを作成した後は、プラン・タイプの名前や数を変更できません。

アプリケーションの勘定科目、エンティティおよびその他の要素を作成するとき、それらをプラン・タイプに関連付けます。それによって、各プラン・タイプのデータベースにはアプリケーションの次元、メンバーおよびプラン・タイプに関連するデータ値のみが含まれるようになります。これで、設計、サイズおよびパフォーマンスが最適化されます。

プラン・タイプの数、組織での必要性に依存します。たとえば、販売部門には年次収益プランがあり、財務部門には P&L(損益計算書)プランがある場合、収益および P&L という2つのプラン・タイプを定義できます。

プラン・タイプ間でデータを共有できます。たとえば、収益プランには、製品販売合計勘定科目にロール・アップされる販売の明細科目がいくつか含まれることがあります。P&L プランに製品販売合計勘定科目を含めるように構成できます。この構成によって、製品販売合計勘定科目のデータ値を明細科目なしで P&L プランに取込むことができます。これによって、P&L プランのデータベースは小さく、効率的になります。

プラン・タイプの名前には8文字まで使用できます。8文字を超えても、シングルバイトおよびダブルバイトの文字を入力できますが、Essbase データベースが作成されるときにエラー・メッセージが表示されます。Essbase が UNIX サーバーにインストールされている場合は、プラン・タイプ名にはアンダースコア文字を使用できません。

▶ プラン・タイプを定義するには、次のいずれかのアクションを行います:

- アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、プラン・タイプを選択してプラン・タイプ名を入力します。
- 手動でアプリケーションを作成している場合は、Plan 1 Name プロパティをダブルクリックしてそのプラン・タイプの名前を入力します。追加のプラン・タイプに対してもこのプロセスを繰り返します。

デフォルト通貨の指定

アプリケーションのエンティティに対してデフォルト通貨を指定して、アプリケーションが通貨換算をサポートするかどうかを確立する必要があります。複数通貨

のサポート(通貨の上書き)は、基本通貨にかかわらず、レベル0のメンバーで使用可能です。

次に、サポートされている通貨コードのリストを示します:

- USD: US ドル
- EUR: 欧州連合ユーロ
- FRF: フランスのフラン
- DEM: ドイツのドイツ・マルク
- AUD: オーストラリア・ドル

通貨コードのリストについては、銀行およびビジネスで使用される ISO 4217 の通貨コードのリストを参照してください。事前定義済の3桁の通貨コードを使用するか、独自のコードを追加します。Performance Management Architect では、ISO規格を遵守する必要はありません。

複数通貨をサポートしている場合、配置済アプリケーションでは通貨および HSP_Rates という2つの次元が作成されます。複数通貨の設定は、後で変更できません。

▶ デフォルト通貨を設定するには:

- 1 アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、デフォルト通貨として使用する通貨を選択します。アプリケーションに複数の通貨がある場合は、複数通貨を選択します。
- 2 手動でアプリケーションを作成している場合は、最上位レベルのアプリケーションを選択します。デフォルト通貨プロパティをダブルクリックして通貨コードを入力します。複数通貨をサポートしている場合は、最上位レベルのアプリケーションを選択して「プロパティ・グリッド」で複数通貨を選択します。

次元の選択

アプリケーションの作成の次の手順は、アプリケーションへの次元の追加です。Planning アプリケーションは、次の要件を満たす必要があります:

- 単一通貨のアプリケーションには次の次元が必要です:
 - エンティティ
 - バージョン
 - シナリオ
 - 勘定科目
 - 年
 - 期間
- 複数通貨のアプリケーションでは、上の次元の他に通貨が必要です。
- Default Alias Table プロパティを定義する必要があります。詳細は、[80 ページの「別名次元」](#)を参照してください。
- アプリケーションは[付録 B「プランニング次元の操作」](#)で指定されている要件を満たす必要があります。

ヒント： ウィザードを使用してアプリケーションを作成している場合、必要なすべての次元が「次元の選択」画面で自動的にマークが付けられます。

ブランク・アプリケーションを作成する場合は、[162 ページの「手動での次元の追加」](#)を参照してください。ウィザードを使用している場合は、[162 ページの「ウィザードを使用した次元の定義」](#)を参照してください。

手動での次元の追加

手動でアプリケーションを作成している場合は、「次元ライブラリ」を使用して次元を選択します。「次元ライブラリ」には次の3つのペインがあります：

- **共有ライブラリ** - 左側に表示されます。共有ライブラリで現在使用可能なすべての次元が表示されます。

次元ライブラリに次元をロードする方法の詳細は、[第3章「メタデータのインポート」](#)を参照してください。

- **アプリケーション** - 中央部に表示されます。展開されると現在のアプリケーションのすべての次元の名前をリスト表示します。
- **プロパティ・グリッド** - 右側に表示されます。選択した次元またはメンバーのすべてのプロパティを表示します。

プロパティを編集する方法の詳細は、[133 ページの「プロパティ値の編集」](#)を参照してください。

アプリケーションの次元のフィルタ処理の詳細については、[141 ページの「アプリケーションへのメンバーの追加」](#)を参照してください。

▶ アプリケーションに次元を追加するには：

- 1 共有ライブラリからアプリケーションに次元をドラッグします。

「次元のコピー」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 「ローカル次元」または「共有次元」を選択します。

ヒント： アプリケーションにメンバーのみを追加する場合については、[141 ページの「アプリケーションへのメンバーの追加」](#)を参照してください。

展開されたアプリケーションはすべての次元をリスト表示します。共有次元およびローカル次元の詳細については、[76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」](#)を参照してください。

アプリケーション・プロパティを変更できます。アプリケーション・タイプによって、要件およびプロパティは様々に異なります。[164 ページの「アプリケーション設定の変更」](#)を参照してください。

ウィザードを使用した次元の定義

アプリケーション・ウィザードを使用すると、必要なすべての次元が太字で表示されます。次元タイプはカテゴリ化され、見出しとともに表示されます。たとえ

ば、すべてのプラン・タイプ、カスタム次元、その他の次元などです。すべてのプラン・タイプの下の次元は必須です。

▶ 次元を定義するには:

1 次元に次元タイプをマップするには、「次元」列で選択をクリックします。

必須の次元タイプが次元ライブラリの次元と一致する場合、その次元名が「次元」列に表示されます。

Dimension Type	Dimension	Base Dimension	Local Dimension
All Plan Types			
*Entity	Entity (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Version	Version (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Scenario	Scenario (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Account	Account (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Year	Year (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Period	Period (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
*Alias	Alias (new)		<input checked="" type="checkbox"/>
Custom Dimensions			
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Custom	[Select]		<input type="checkbox"/>
Other Dimensions			
Attribute	[Select]	[None]	<input type="checkbox"/>
Smart List	[Select]		<input type="checkbox"/>
UDA	[Select]		<input type="checkbox"/>
Add Dim	[Select]		<input type="checkbox"/>

2 次元を選択します。

ドロップ・ダウン・リストに表示される次元は次元のタイプにマップされます。たとえば、ある次元を勘定科目次元タイプにマップしている場合、勘定科目次元のみがリストに表示されます。

場合によっては、新規次元を作成することがあります。

3 オプション: 新規次元を作成します。新規次元を作成するには:

- 「次元」ドロップダウン矢印を使用して、新規次元の作成を選択します。
「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 次元の名前および説明を入力します。次元を「次元タイプ」列にマップする次元タイプに従って、タイプが自動的に選択されます。
- OK をクリックします。
この新規次元はアプリケーションのローカル次元で、共有ライブラリには追加されません。
- 必須次元、カスタム次元およびその他のすべての次元に対する新規次元の選択、または作成を続けます。
- 属性次元を追加するには、基本次元を識別します。属性次元は基本次元と関連付けられる必要があります。

- 6 アプリケーションのローカルとして次元を作成するには、各行の最後にあるローカル次元を選択します。

注： ウィザードの最初の画面で新規ローカル次元を自動的に作成した場合、その次元を共有に変更できません。

エンティティなどの共有の基本次元に、別名などのローカル次元を関連付けることはできません。共有次元およびローカル次元の詳細については、[76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」](#)を参照してください。

注： 次の画面に進む前に、すべての必須次元を1つの次元にマップする必要があります。必須でない次元はマップする必要がありません。

- 7 [161 ページの「次元の選択」](#)に説明されている要件を満たしているか、アプリケーション設定を確認します。たとえば、必須次元がすべて選択されている必要があります。(単一通貨アプリケーションではシナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間および年が必要で、複数通貨アプリケーションではそれ以外に通貨が必要です。)
- 8 すべての問題を解決したら、次へをクリックします。

エラーが表示された場合は、アプリケーションが [161 ページの「次元の選択」](#)に説明されている要件を満たしているかを確認します。詳細の表示をクリックすると、エラーに関する情報が表示されます。次に詳細の非表示をクリックします。次に、OK をクリックします。すべてのエラーを解決したら、再度次へをクリックします。

「アプリケーション設定」画面が表示されます。

アプリケーション設定の変更

アプリケーション作成の次の手順は、アプリケーション・プロパティおよび他のアプリケーション設定の変更です。アプリケーションを手動で作成する場合、これらのオプションに加えて、次元ライブラリの他のオプションを使用します。

アプリケーションを手動で作成する場合、次元ライブラリとともに、共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。右クリック・メニューを使用すると、アプリケーション次元や最高レベルのアプリケーションを変更できます。

次元ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更

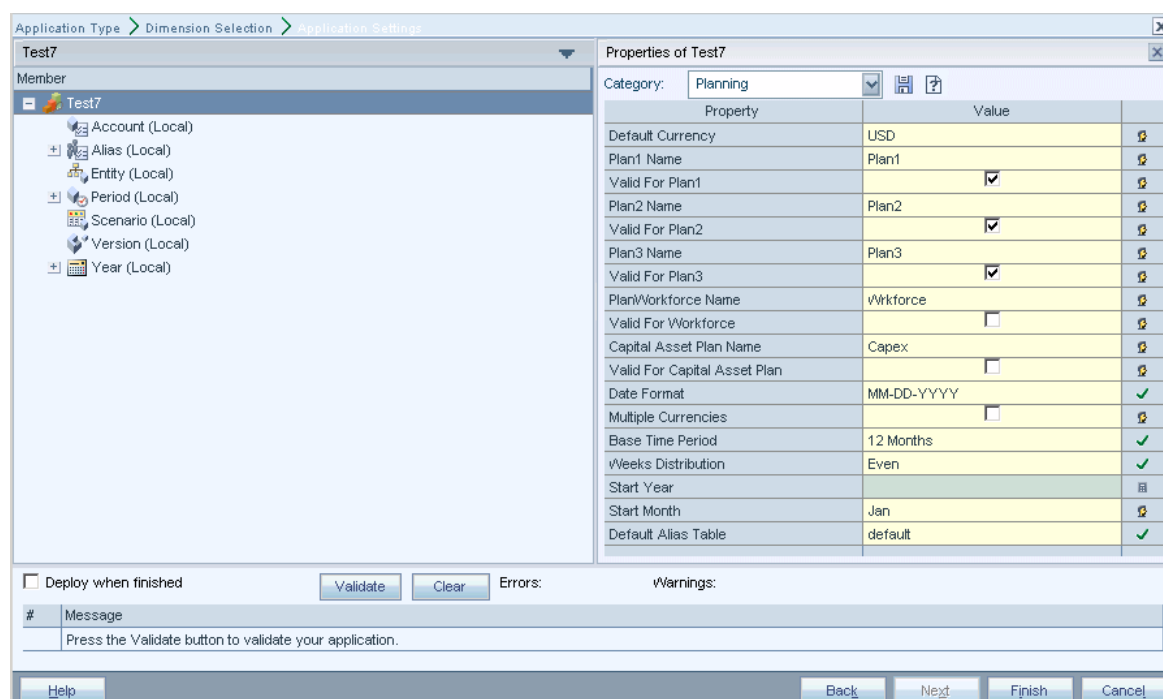
空のアプリケーションを作成した後、次元ライブラリでアプリケーション設定を変更する場合、次のアクションを行えます：

- アプリケーション・パフォーマンスの最適化。 [167 ページの「パフォーマンス設定の変更」](#)を参照してください。
- データ型の評価順序の設定。 [168 ページの「データ型の評価順序の設定」](#)を参照してください。
- 次元別名の設定 - [189 ページの「次元別名の設定」](#)を参照してください。
- 次元の関連付けおよび既存の次元の関連付けの表示 - [187 ページの「次元の関連付けの表示」](#)を参照してください。

- 次元の作成 - 75 ページの「次元の作成」を参照してください。
- 次元の除去 - 187 ページの「次元の除去」を参照してください。
- 次元のコピー - 85 ページの「次元のコピー」を参照してください。
- 次元の切離し - 185 ページの「ローカル次元の共有への変換」を参照してください。
- プロパティ値の変更 - 133 ページの「プロパティ値の編集」を参照してください。
- メンバーの追加、メンバーの除外および基本メンバーの設定 - 141 ページの「アプリケーションのメンバーの操作」を参照してください。

アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更

ウィザードを使用してアプリケーションを作成する場合、アプリケーションの次元およびメンバーが左側に表示され、プロパティ・グリッドが右側に表示され、検証および配置オプションが下部に表示されます。



ウィザード・アプリケーションでは、右クリック・メニューを使用して、アプリケーションの次元またはメンバーを変更します。次のアクションを行えます:

- アプリケーション・パフォーマンスの最適化。167 ページの「パフォーマンス設定の変更」を参照してください。
- デフォルト別名テーブルを設定します。Default Alias Table プロパティは、アプリケーション・レベルでデフォルトに設定されています。別の別名テーブルを作成し(「英語」など、別次元の別のメンバー)、これをアプリケーションで使用されるデフォルト別名テーブルにする場合、これを手動で設定する必要があります。189 ページの「次元別名の設定」を参照してください。
- アプリケーション・メンバーシップの表示 - 190 ページの「アプリケーション・メンバーシップの表示」を参照してください。
- 次元の関連付けの表示 - 187 ページの「次元の関連付けの表示」を参照してください。

- 次の同期 - 186 ページの「共有ライブラリを使用した次元の同期」を参照してください。
- メンバーの作成 - 119 ページの「メンバーの作成」を参照してください。
- 共有メンバーの挿入 - 120 ページの「共有メンバーの操作」を参照してください。
- 子の順序変更 - 131 ページの「子メンバーの順序変更」を参照してください。
- 孤立メンバーの管理 - 132 ページの「孤立メンバーの管理」を参照してください。
- メンバーの除外 - 141 ページの「アプリケーションのメンバーの操作」を参照してください。

基本期間および月配布分散の定義

基本期間および月配布パターンは、1 か月間の会計週の数に基づいて選択できます。基本期間は、アプリケーションにおける最下位レベルの期間です。定義済のオプションは、四半期と月です。週や日などの、カスタム基本期間を作成できません。

月配布パターンを使用して、要約期間に入力されるデータが基本期間中に配布(分散)される方法を決定します。データの入力中に、ユーザーは年や四半期などの要約期間にデータを入力できます。要約期間を構成する基本期間中、入力された値が Planning により配布されます。

均等配布パターン以外の週次配布パターンを選択した場合、Planning により、四半期ごとの値は 13 週に分割されたものとして扱われ、選択したパターンに従って週が配布されます。たとえば、5-4-4 パターンを選択した場合、Planning により四半期の最初の月は 5 週あるものとして扱われ、四半期の最後の 2 か月は 4 週あるものとして扱われます。週次配布パターンのオプションは、基本期間オプションの「12 か月」を選択した場合のみ使用できます。

- ▶ 基本期間および週次配布パターンを定義するには:
 - 1 アプリケーション(最上位レベル)を選択して基本期間プロパティをダブルクリックし、「12 か月」、「四半期」、または「カスタム」を選択します。
 - 2 週の配布プロパティをダブルクリックして、週次配布パターンを選択します。(オプションは「偶数」、「445」、「454」および「544」。)

カレンダー範囲の定義

アプリケーションでは、会計開始年および開始月を指定できます。会計開始年を指定する際、組織がアプリケーションで必要とする過去のデータの量を考慮します。カレンダーには年を追加できますが、会計開始年は変更できません。

- ▶ カレンダーの範囲を定義するには:
 - 1 アプリケーション(最高レベル)を選択し、開始年をダブルクリックして年を入力します。
 - 2 開始月をダブルクリックして月を選択します。

パフォーマンス設定の変更

アプリケーションのパフォーマンスを最適化するには、次の方法を使用します:

- 次元を密または疎として割り当てます。

次元を密および疎のいずれかに割り当てると、データ取得を高速化し、メモリーおよびディスク・スペースを最小限にできます。

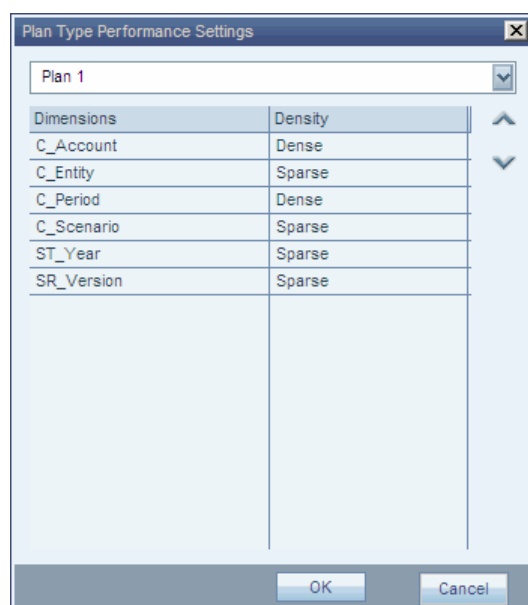
次元にメンバーの組合せの大多数のデータ値が不足している場合、次元を疎と定義します。次元にメンバーの組合せの大多数のデータ値がある場合、次元を密と定義します。多くの場合、密次元は期間および勘定科目です。通常、期間には多くのデータが追加されていますが、勘定科目は計算が頻繁に行われるために密になっています。

Essbase では、少なくとも 1 つの次元を密に設定する必要があります。密次元にカスタム属性を割り当てられません。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。
- 次元順序の変更
- サポート詳細キャッシュにメモリーを割り当てます。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

▶ Planning アプリケーションのパフォーマンスを向上させるには:

1 アプリケーション(最上位レベル)を右クリックし、パフォーマンス設定を選択します。

「プラン・タイプ・パフォーマンス設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2 プラン・タイプを選択します。

プラン・タイプに属する次元と、プラン・タイプの次元の数が表示されます。プラン・タイプは最大 5 つです。

アプリケーションが単一通貨で作成されている場合、HSP_Rates 次元は表示されません。

3 「密度」列のセルをダブルクリックして、次のいずれかを選択します:

- **疎** - メンバーの組合せの大多数のデータ値が不足している次元。疎次元は、使用可能なデータ位置のうち入力されている割合が小さい次元のことです。
- **密** - 次元のすべての組合せの中で、1つまたは複数のデータ・ポイントが占められている可能性が高い次元のことです。

注意 キューブ内の少なくとも1つの次元を密に割り当てない場合は、アプリケーションの配置に失敗します。



計算する次元の順序を変更すると、計算時間を高速化できます。次元の順序は、Essbase データベースの構造およびパフォーマンスにとって重要です。密次元は疎次元より速く計算されるため、次元の順序は密の度合いが高い順にしてください。集約する次元は、子を親に集約して新規データを作成します。集約しない次元は、階層ごとに新規データを作成しません(たとえば、シナリオ次元やバージョン次元など)。

疎次元は、集約する次元および集約しない次元に分けて、集約する次元を集約しない次元の前に配置します。

次のガイドラインに従って次元を順序付けすることにより、パフォーマンスを最適化します:

- 期間および勘定科目を密にします。
- 密次元は、密の度合いが高い順に順序付けします。通常、最も密な次元が期間となり、その後に勘定科目が続きます。
- 疎次元は、集約する次元および集約しない次元に分けます。集約する次元を集約しない次元の前に配置します。疎次元は、密の度合いが高い順に順序付けします。

4 次元を選択します:

-  をクリックして、リストで次元を上に移動します。
-  をクリックして、リストで次元を下に移動します。

5 OK をクリックします。

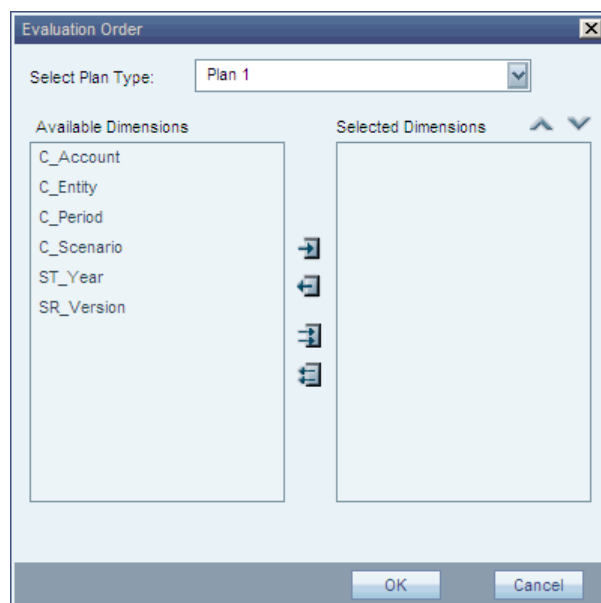
データ型の評価順序の設定

データ型は、すべての次元メンバーで定義されるプロパティです。データ・フォームに定義されたセル交差によっては、データ型によりデータ・フォームの表面に競合する結果が生じる場合があります。たとえば、「パーセント」のデータ型および「通貨」のデータ型は、パワー・ユーザーにより設定された定義済の順序に基づいて解決する必要があります。「データ型の評価順序」が定義済の順序です。プラン・タイプごとに次元順序を設定し、複数のデータ型が交差する場合の優先順位を決定します。リスト内の最初の次元に関連付けられたデータ型は、後続の次元に関連付けられたデータ型より優先されます。

▶ 評価順序を変更するには:

- 1 アプリケーション(最上位レベル)を右クリックし、データ型の評価順序 を選択します。

「評価順序」ダイアログ・ボックスが表示されます。





注： Planning アプリケーションで、ユーザーが日付およびテキスト(それぞれ日付データ型とテキスト・データ型)をデータ・フォームのセルに入力できるようにする場合、それらのメンバーの次元を選択し、それらを「選択した次元」に移動します。

2 「プラン・タイプ」を選択します。

プラン・タイプの数 は最大 5 つです。

3 次元を選択し、1 つのアクションを実行します：

-  をクリックして、リストで次元を上移動します。
-  をクリックして、リストで次元を下移動します。

4 OK をクリックします。

検証および配置

アプリケーション・ウィザードを使用している場合、アプリケーションの次元およびメンバーの変更が終了したとき、アプリケーションを検証して、アプリケーションの作成の終了前にエラーを修正できます。ウィザードの検証オプションおよび配置オプションを使用しないで、後でアプリケーション・ライブラリで配置オプションを使用することもできます。

アプリケーションを手動で作成する場合は、アプリケーション・ライブラリのオプションを使用してアプリケーションを検証および配置します。検証および配置の詳細は、[204 ページの「アプリケーションの検証および配置」](#)を参照してください。

▶ ウィザードを使用してアプリケーションを検証および配置するには：

- 1 アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、検証を選択し、問題を表示して配置前に解決します。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプおよびエラー・メッセージが表示されます。メッセージを表示するには、必要に応じてスクロール・バーを使用します。

1つまたはすべてのメッセージのコピーを保存するには、メッセージを右クリックし、選択内容をクリップボードにコピーまたはすべてをクリップボードにコピーを選択します。情報をテキスト・エディタに貼付けて保存したり、メッセージを印刷できます。メッセージのリストを消去するには、消去をクリックします。

- 2 検証エラーまたは警告が表示された場合は、アプリケーションを配置する前にそれらを修正します。
- 3 アプリケーションを作成した後に配置するには、「アプリケーション設定」画面で終了時に配置を選択します。
- 4 終了をクリックします。

「終了時に配置」を選択した場合、「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

アプリケーション・ウィザードを使用して Profitability and Cost Management アプリケーションを作成できます。次の項では、Profitability and Cost Management アプリケーションの作成について順を追って説明します:

- [170 ページの「アプリケーション・タイプの選択」](#)
- [171 ページの「次元の選択」](#)
- [176 ページの「アプリケーション設定の変更」](#)
- [179 ページの「検証および配置」](#)

注意 アプリケーションに含めるビジネス次元(汎用、勘定科目、エンティティ、時間、国など)は、アプリケーションを作成する前に、次元ライブラリに追加する必要があります。これを行わないと、アプリケーション・ウィザードでの選択に次元を使用できません。「次元の作成」を参照してください。

アプリケーション・タイプの選択

次の手順では、Profitability and Cost Management アプリケーションの作成について説明します。

- ▶ Profitability and Cost Management アプリケーションを作成するには:
 - 1 フラット・ファイルのインポートまたは Performance Management Architect インタフェース・テーブルのインポートを使用して Performance Management Architect に新規共有ライブラリを移入します。[57 ページの「インタフェース・データ・ソースの構成」](#)を参照してください。

- 2 EPM Workspace から、ナビゲート、管理、アプリケーション・ライブラリの順に選択します。
アプリケーション・ライブラリが表示されます。
- 3 ファイル、新規、アプリケーションの順に選択します
ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます。
- 4 アプリケーション名を入力します。
名前は7文字以内で命名し、「&」(アンパサンド)を含む特殊文字を使用しないでください。
- 5 収益性を選択します。
- 6 説明を入力します。
- 7 オプション: 次元を手動でブランク・アプリケーションに追加するには、ブランク・アプリケーションの作成を選択し、終了をクリックします。151 ページの「[手動での次元の追加](#)」を参照してください。
- 8 オプション: すべての必須次元を自動的に作成するには、ローカル次元の自動作成を選択し、次へをクリックします。150 ページの「[次元の選択](#)」を参照してください。

「ローカル次元の自動作成」を選択すると、アプリケーションに必要なすべての次元について新規次元が自動的に作成されます。各新規次元の次元名は、次元タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。

ウィザードの2番目の画面である「次元の選択」が表示されます。

次元の選択

アプリケーションを作成した後、アプリケーションに含める次元を選択する必要があります。

Profitability and Cost Management アプリケーションに必要な次元は次のとおりです:

- メジャー次元には、ドライバ・メジャー、レポート・メジャー、割当てメジャーなど、モデルの構築、検証および計算に必要な次元およびメンバーが含まれています。ユーザーは、メンバー「UserDefinedDriverMeasures」の下の階層にユーザー定義のドライバ・メジャー(つまりサブ階層)を追加できます。
- AllocationType 次元は、直接割当ておよび割当てシステムの保管に使用されます。
- ユーザーは、少なくとも1つの視点(POV)次元を定義する必要があります。モデル POV により、年、ステータス、シナリオなど、選択した期間のモデル情報に関する具体的なビューを参照できます。
- 少なくとも1つのビジネス次元をユーザーが定義する必要があります。ビジネス次元は、ビジネス固有の部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、顧客または製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。この次元タイプは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。

ビジネス次元には、次の次元の一部または全部が含まれ、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります:
 - 汎用ビジネス次元

- 勘定科目次元タイプには、純利益や売上などアプリケーション内の勘定科目タイプの情報のチャートが含まれています。
- エンティティ次元タイプには、アプリケーション内のエンティティまたは組織構造があります。
- 時間次元は、期間、月、財務四半期などを指定するのに使用します。
- 国次元は、複数の国におけるビジネス・アクティビティを追跡するのに使用します。

注： これらのビジネス次元は Profitability and Cost Management アプリケーションの一部として含められますが、Essbase アウトラインが配置されると、タイプのない基本または汎用次元として作成されます。

- 属性次元は、ビジネス次元に関連付けられた次元の特殊なタイプです。属性は、製品のサイズ、色など、データの特徴を示します。
- 別名次元はオプションで、モデル内で別名を使用する場合にのみ必要です。

注： モデル・ステージは次元ではないため、Performance Management Architect では使用できません。Profitability and Cost Management では、ステージはモデルに追加され、次元を論理的な手順またはステージに整理するために使用されます。

アプリケーションを作成した後、適切な手順を使用してアプリケーションに追加する次元を選択します：

- ウィザードを使用している場合は、172 ページの「ウィザードを使用した次元の追加」を参照してください。
- ブランク・アプリケーションを作成した場合は、174 ページの「手動による次元の追加」を参照してください。

ウィザードを使用した次元の追加

アプリケーション・ウィザードを使用すると、必要なすべての次元が自動的に表示されます。正確な一致がある場合は、その次元タイプの次元列に自動的に入力されます。Profitability and Cost Management の必要な次元タイプは、自動的に分類されて、次の影付きヘッダーとともに表示されます：

- メジャー次元
- AllocationType 次元
- POV 次元
- 別名次元
- ビジネス次元
- 属性次元

「ローカル次元の自動作成」を選択した場合、必要な次元ごとに新規ローカル次元が作成されます。各新規次元の名前は、次元タイプにかっこで囲まれた(New)が付いたものになります。たとえば、Account (New)となります。

注意 勘定科目、エンティティ、時間、国などアプリケーションに含めるビジネス次元は、アプリケーションを作成する前に次元ライブラリに追加する必要があります。そうしないと、アプリケーション・ウィザードで次元を選択できません。「次元の作成」を参照してください。

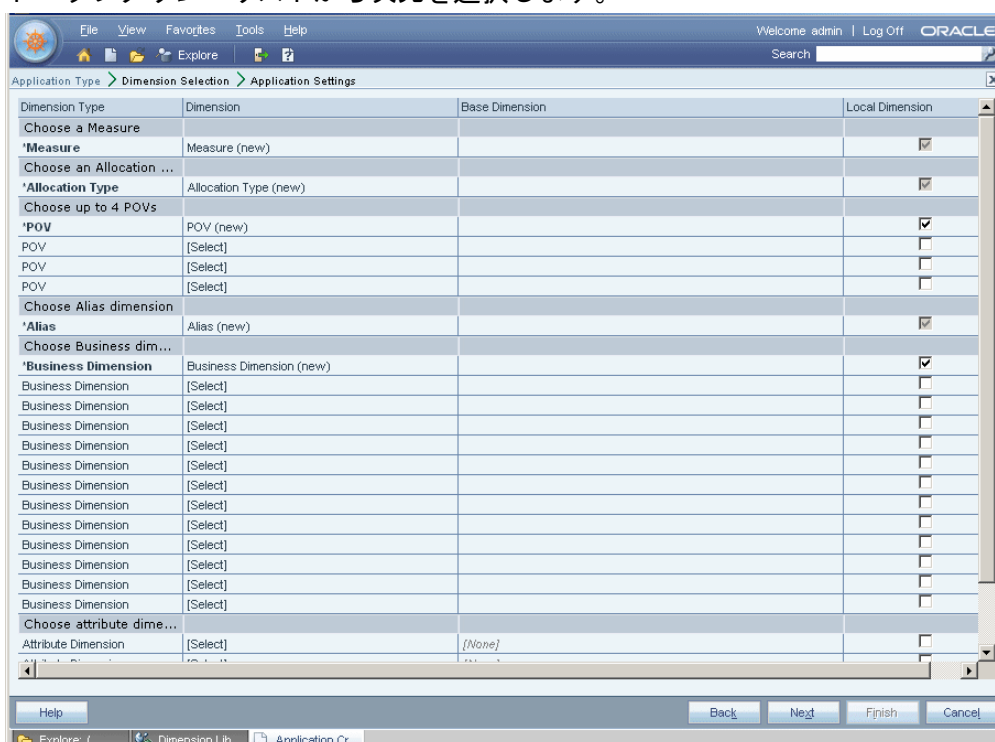
▶ 次元を選択するには:

1 「次元の選択」タブ(アプリケーション・ウィザードの手順 2)の次元のタイプで、必要な次元タイプを確認します。

2 既存の各次元をアプリケーションに追加するには、次元列の[選択]をクリックすると、その次元タイプに使用可能な次元のドロップダウン・リストが表示されます。

関連次元タイプの次元のみが表示されます。たとえば、次元をメジャー次元タイプにマッピングしている場合は、メジャー次元のみがリストに表示されます。

3 ドロップダウン・リストから次元を選択します。

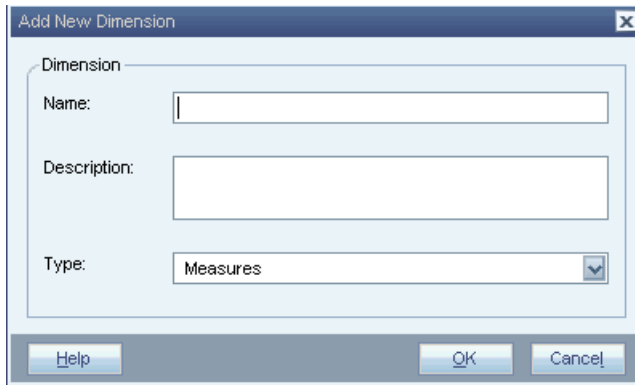


4 オプション: 新規次元を次のように作成します:

1. 次元列で、[選択]をクリックすると、その次元タイプに使用可能な次元のドロップダウン・リストが表示されます。

2. ドロップダウン・リストから、[新規次元の作成]を選択します。

「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 新規次元の名前と説明を入力します。タイプは、「次元のタイプ」列で選択した次元タイプに基づいて、自動的に選択されます。
4. OK をクリックします。
- 5 必要に応じて、新規次元を選択または作成して続行します。
- 6 **オプション:** 次元をローカル次元として設定するには、各行の最後にあるローカル次元チェック・ボックスを選択します。
共有次元およびローカル次元の詳細は、76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」を参照してください。

注: 次の画面に移動する前に、すべての次元を、次元または[該当なし]にマップする必要があります。

- 7 次へをクリックします。
「アプリケーション設定」画面が表示されます。

手動による次元の追加

ブランク・アプリケーションを作成する場合は、次元ライブラリを使用して次元を選択します。次元ライブラリには、次の3つのペインがあります:

- **共有ライブラリ** - 左側に表示され、共有ライブラリで現在使用可能なすべての次元が表示されます。

次元ライブラリに次元をロードする方法の詳細は、第3章「メタデータのインポート」を参照してください。

- **アプリケーション** - 中央部に表示され、展開されると現在のアプリケーションのすべての次元の名前をリスト表示します。
- **プロパティ・グリッド** - 右側に表示され、選択した次元またはメンバーのすべてのプロパティを表示します。

プロパティを編集する方法の詳細は、133 ページの「プロパティ値の編集」を参照してください。

ブランク・アプリケーションを作成したら、次元を追加できます。

- ▶ ブランク・アプリケーションに次元を追加するには、次の手順を行います:
 - 1 次元ライブラリで、共有ライブラリからアプリケーションに次元をドラッグします。

「次元のコピー」ダイアログ・ボックスが表示されます。

ヒント： 新規ローカル次元を作成するには、アプリケーション・ビューでアプリケーション名を右クリックし、「次元の作成」を選択します。「新規次元の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

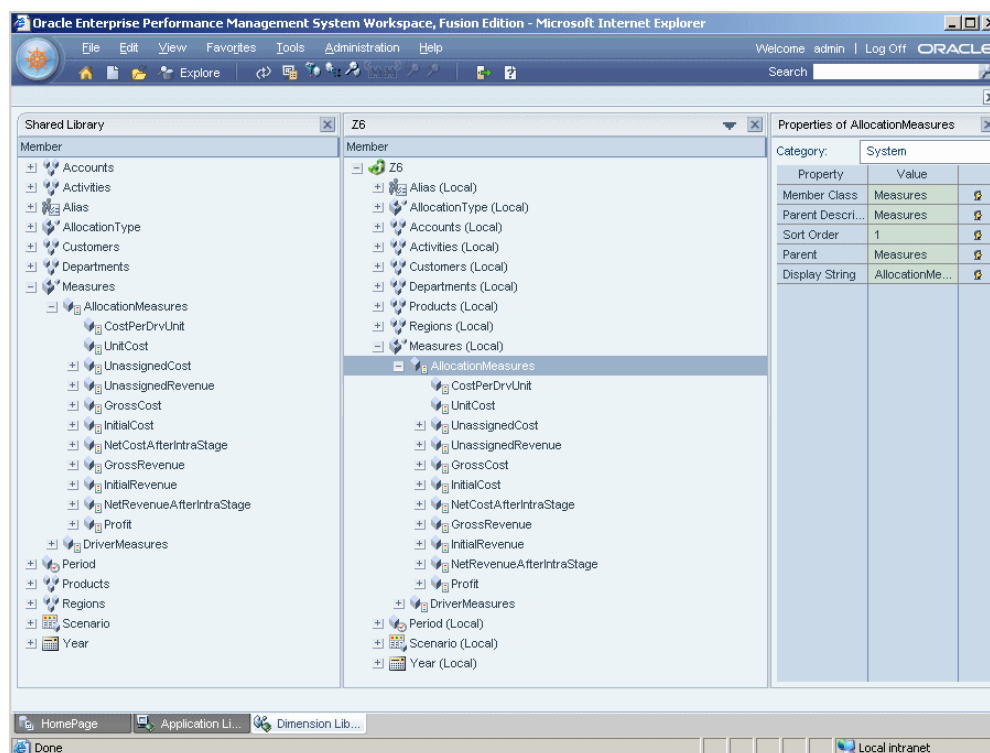
2 各次元の「ローカル次元」または「共有次元」を選択します。


ヒント： アプリケーションにメンバーのみを追加するには、共有ライブラリで次元を右クリックして、「アプリケーション・ビューに追加」を選択します。141 ページの「アプリケーションへのメンバーの追加」を参照してください。

共有次元およびローカル次元の詳細は、76 ページの「共有次元およびローカル次元の理解」を参照してください。

3 必要なすべての次元をアプリケーションに追加します。(メジャー、AllocationType、POV など。)

展開されたアプリケーションにすべての次元が表示されます。



ヒント： 共有ライブラリにメンバーを追加し、アプリケーションに次元を追加した場合、「リフレッシュ」ボタン  をクリックすると、アプリケーションに新規メンバーが表示されます。

4 NoMember の Consolidation プロパティ値を~(無視)に設定します。

5 NoMember が最後の Gen2 の位置に移動するように次元の順序を変更します。178 ページの「Profitability and Cost Management モデルの子メンバーの順序変更」を参照してください。

- 6 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。176 ページの「[アプリケーション設定の変更](#)」を参照してください。

アプリケーション設定の変更

アプリケーションの作成の次の手順は、アプリケーションのプロパティ、関連付けおよび他のアプリケーション設定の変更です。ブランク・アプリケーションを作成し、次元ライブラリを使用してアプリケーション設定を変更する場合、変更を加えるためにウィザードではなく次元ライブラリを使用するという点を除けば、同様のオプションを使用できます。

適切なオプションを使用して、アプリケーション設定を変更します:

- ブランク・アプリケーションの場合は次元ライブラリを使用します。176 ページの「[次元ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更](#)」を参照してください
- 自動生成アプリケーションの場合はアプリケーション・ウィザードを使用します。177 ページの「[アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更](#)」を参照してください

注: 次元の関連付けは、共有階層に必要ですが、すべてのモデルで必要というわけではありません。

次元ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更

次元ライブラリには、共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。右クリック・メニューを使用して、アプリケーション次元を変更し、次のアクションを実行できます:

- POV 次元のプロパティを設定します。177 ページの「[POV 次元のプロパティの設定](#)」を参照してください。
- 複数の POV 次元の POV 表示順序を設定します。178 ページの「[Profitability and Cost Management モデルの子メンバーの順序変更](#)」を参照してください。
- 次元別名の設定 - 189 ページの「[次元別名の設定](#)」を参照してください。
- 次元の関連付けおよび既存の次元の関連付けの表示 - 187 ページの「[次元の関連付けの表示](#)」を参照してください。
- アプリケーション・メンバーシップの表示 - 190 ページの「[アプリケーション・メンバーシップの表示](#)」を参照してください。
- 次元の作成 - 75 ページの「[次元の作成](#)」を参照してください。
- 次元の除去 - 187 ページの「[次元の除去](#)」を参照してください。
- 次元のコピー - 85 ページの「[次元のコピー](#)」を参照してください。
- 次元の切離し - 185 ページの「[ローカル次元の共有への変換](#)」を参照してください。
- プロパティ値の変更 - 133 ページの「[プロパティ値の編集](#)」を参照してください。

- メンバーの検索、メンバーの除外および基本メンバーの設定 - [183 ページの「共通アプリケーション・タスク」](#) を参照してください。

アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更

ウィザードを使用してアプリケーションを作成する場合、アプリケーションの次元およびメンバーが左側に表示され、プロパティ・グリッドが右側に表示され、検証および配置オプションが下部に表示されます。

- POV 次元のプロパティを設定します。 [177 ページの「POV 次元のプロパティの設定」](#) を参照してください。
- 複数の POV 次元の POV 表示順序を設定します。 [178 ページの「Profitability and Cost Management モデルの子メンバーの順序変更」](#) を参照してください。
- 次元別名の設定 - [189 ページの「次元別名の設定」](#) を参照してください。
- アプリケーション・メンバーシップの表示 - [190 ページの「アプリケーション・メンバーシップの表示」](#) を参照してください。
- 次元の関連付けの表示 - [187 ページの「次元の関連付けの表示」](#) を参照してください。
- 次元の同期 - [186 ページの「共有ライブラリを使用した次元の同期」](#) を参照してください。
- メンバーの作成 - [119 ページの「メンバーの作成」](#) を参照してください。
- 共有メンバーの挿入 - [120 ページの「共有メンバーの操作」](#) を参照してください。
- 子の順序変更 - [178 ページの「Profitability and Cost Management モデルの子メンバーの順序変更」](#) を参照してください。
- 次元ソート順の設定 - [179 ページの「次元ソート順の設定」](#) を参照してください。
- 孤立メンバーの管理 - [132 ページの「孤立メンバーの管理」](#) を参照してください。

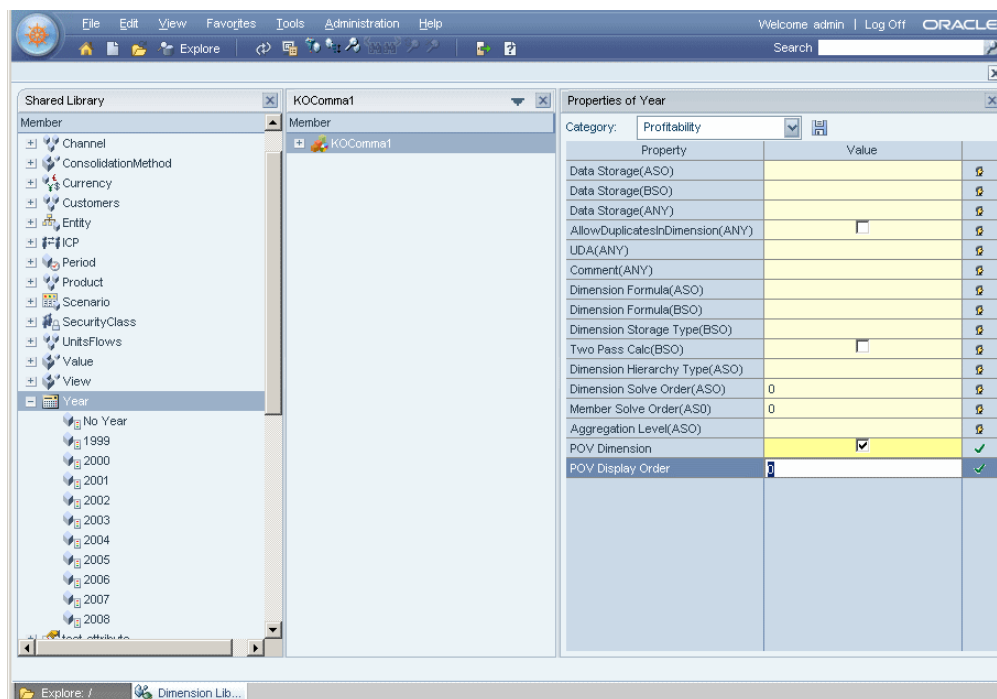
POV 次元のプロパティの設定

Profitability and Cost Management モデルごとに、少なくとも 1 つの POV (つまり視点)次元を設定する必要があります。POV 次元は、任意のカスタム値に設定できますが、通常は、年、期間、シナリオなどの期間を示します。

複数の POV 次元が指定されている場合、POV の表示順序も設定してこれらを計算を順序付ける必要があります。Performance Management Architect で設定された POV の表示順序は、Profitability and Cost Management で自動的に取得されます。

- ▶ POV 次元プロパティを設定するには:
 - 1 最初の POV 次元(「年」など)を選択します。
 - 2 プロパティ・グリッドでカテゴリの下の収益性を選択します。

3 POV次元を選択します。



- 4 オプション: 期間やシナリオなど、他の POV 次元を選択するには、手順 1 から手順 3 を繰り返します。
- 5 オプション: 複数の POV 次元が選択された場合、POV 次元ごとに POV の表示順序を設定します。

「POV の表示順序」セルをダブルクリックして、選択した POV 次元のシーケンス番号を入力します。たとえば、年、期間およびシナリオが POV 次元として設定されている場合、年の POV の表示順序に 1、期間に 2、およびシナリオに 3 を表示順序として設定します。

Profitability and Cost Management モデルの子メンバーの順序変更

モデル内のすべてのビジネス次元については、NoMember がメンバー・リストの最後のメンバーとして表示されるようにリストを順序変更する必要があります。これを行わないと、モデルの検証は失敗します。

NoMember が最後の位置に移動されていれば、特定の要件に合わせてメンバーの順序も変更できます。

注: この手順は、別名、AllocationType、メジャー、期間、シナリオまたは年などのシステム次元では必要ありません。

- ▶ 子を順序変更するには:
 - 1 EPM Workspace から、ナビゲート、管理、次元ライブラリの順に選択し、共有ライブラリを表示します。
 - 2 共有ライブラリで、順序変更する次元を右クリックします。
「子の順序変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 移動するメンバーを選択し、上下矢印を使用して子の順序を変更します。

注： NoMember 次元がリストの最後に移動したことを確認します。最後でない場合、配置は失敗します。

- 4 手順 3 を繰り返して、すべてのメンバーを順序付けます。
- 5 OK をクリックします。

次元ソート順の設定

モデル内のすべての次元の処理順序は、Dimension Sort Order プロパティを使用して次元レベルで設定する必要があります。

別名次元と UDA 次元を除く、モデル内のすべての次元ソート順が設定されている。

注： 別名次元は、Profitability and Cost Management と Essbase には次元として存在しないため、次元ソート順では無視されます。

次元は、表 16 で指定した順序でソートする必要があります。これを行わないと、モデルの検証に失敗します：

▶ 次元ソート順を設定するには：

- 1 EPM Workspace から、ナビゲート、管理、次元ライブラリの順に選択し、共有ライブラリを表示します。
- 2 プロパティ・グリッドで、収益性を選択します。
- 3 次の次元を選択し、次の表に示すように次元ソート順を設定します：

表 16 次元ソート順の設定

次元タイプ	設定
メジャー	1 (デフォルト)
AllocationType	2
POV およびビジネス次元	3 以上
属性次元	最後の次元としてソートします。 たとえば、12 個の連続した次元のうち 4 個が属性次元である場合、属性次元には 9、10、11 および 12 を設定する必要があります。

- 4 モデルを検証します。179 ページの「検証および配置」を参照してください。

検証および配置

アプリケーション次元とメンバーを変更したら、アプリケーションを次のように検証し配置します：

- アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、アプリケーションの作成を終了する前にアプリケーションを検証して、すべてのエラーを修正します。必要に応じて、ウィザードの検証および配置オプションを使用せずに、後で配置オプションをアプリケーション・ライブラリで使用することもできます。
- ブランク・アプリケーションを作成している場合は、アプリケーション・ライブラリのオプションを使用してアプリケーションを検証および配置します。[211 ページの「収益性アプリケーションの配置」](#)を参照してください。

Profitability and Cost Management の検証

Profitability and Cost Management では、次の条件が検証されます:

- アプリケーションの名前が 7 文字以下で、特殊文字が含まれていない。
- 少なくとも 1 つの次元が POV タイプに設定されている。
- 最大 4 つの次元を POV 次元としてマークできる。
- アプリケーションに 1 つのメジャー次元が含まれている必要がある。
- アプリケーションに 1 つの AllocationType 次元が含まれている必要がある。
- 使用できる勘定科目タイプの次元は 1 つのみである。
- 使用できるエンティティ・タイプの次元は 1 つのみである。
- 次元ソート順がモデルに対して設定されていて、次の条件を満たしている:
 - 別名次元と UDA 次元を除く、モデル内のすべての次元ソート順が設定されている。
 - 次元ソート順が連続している。
 - メジャー次元がデフォルトで 1 に設定されている。
 - AllocationType 次元がデフォルトで 2 に設定されている。
 - POV 次元とビジネス次元が 3 以上に設定されている。
 - 属性次元が最後の次元としてソートされている。

たとえば、12 個の連続した次元のうち 4 個が属性次元である場合、属性次元には 9、10、11 および 12 を設定する必要があります。
- 重複メンバーが同じ次元に存在しないことを確認します。
- NoMember がどのビジネス次元に対しても最後のメンバーとして設定され、プロパティ・グリッドで「無視(~)」に設定されている。

注: この要件は、別名、AllocationType、メジャー、期間、シナリオまたは年には適用されません。

➤ ウィザードを使用してアプリケーションを検証および配置するには:

- 1 アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、検証をクリックします。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプとエラー・メッセージが示されます。

- 2 **オプション:** 検証後にアプリケーションを配置するには、終了時に配置を選択します。
- 3 検証エラーが発生した場合、アプリケーションを配置する前にすべての問題を修正します。
- 4 終了をクリックします。

「終了時に配置」を選択した場合、「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注: 共有次元を変更した場合、その共有次元を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。変更内容を適用するには、アプリケーションを再配置する必要があります。

- 5 アプリケーションを配置します。211 ページの「収益性アプリケーションの配置」を参照してください。

Essbase アプリケーションの作成

Performance Management Architect では、Essbase (ASO) および Essbase (BSO) アプリケーション(キューブのクエリは行わず、キューブのレポートのみ)を作成することにより、Essbase への配置がサポートされます。Essbase アプリケーションを作成したら、アプリケーション・ウィザードを使用してブランク・アプリケーションを作成します。その後、次元ライブラリを使用して次元を追加できます。

▶ Essbase (ASO) および Essbase (BSO) アプリケーションを作成するには:

- 1 ファイル、新規、アプリケーションの順に選択します。
ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます。
- 2 アプリケーション名を入力します。
名前は 8 文字以下にする必要があります。さらに、特殊文字は使用できません。
- 3 Essbase (ASO) または Essbase (BSO) を選択します。
- 4 オプションの説明を入力します。
- 5 終了をクリックします。
次元ライブラリが表示されます。
- 6 次元ライブラリを使用して、アプリケーションに次元を追加します。183 ページの「共通アプリケーション・タスク」を参照してください。

Essbase ASO または BSO アプリケーションを作成するときに、アプリケーションの要件を確認することは重要です。181 ページの「アプリケーション要件」を参照してください。

アプリケーション要件

Essbase アプリケーションを作成する際は、次のガイドラインと要件に注意してください:

Essbase アプリケーションには、次元の固定されたセットは必要ありません。たとえば、1つの汎用次元および1つのメンバーのみが含まれる Essbase アプリケーションを作成して配置できます。

- 別名メンバーを追加する場合は、このメンバーと関連付ける別名タイプの次元を作成する必要があります。次元の関連付けを作成する方法の詳細は、[83 ページの「次元の関連付けの作成」](#)を参照してください。

別名次元には、最大 10 個のメンバーを含められます。この次元には、少なくとも「Default」という名前のメンバーが必要です。

- 属性メンバーを追加する場合、メンバーを基本次元に関連付けます。次元の関連付けを作成する方法の詳細は、[83 ページの「次元の関連付けの作成」](#)を参照してください。
- Performance Management Architect では、属性タイプ「Text」のみがサポートされます。
- Performance Management Architect を使用して、ハイブリッド分析または拡張リレーショナル・アクセス・キューブを作成できません。
- Essbase (BSO)アプリケーションでは、Performance Management Architect で密または疎を設定する方法はありません。

注： Performance Management Architect の Auto Configure プロパティを変更しても、Essbase 内で上書きされないことがあります。Essbase アプリケーションで Dimension Storage Type プロパティを設定する場合は、Essbase にアプリケーションを配置または再配置する前に、Auto Configure プロパティ値を FALSE に設定する必要があります。

Essbase アプリケーションのプロパティと、次元およびメンバーについては、[付録 D「Essbase プロパティの操作」](#)で説明します。

アプリケーションおよびデータベースの Essbase 要件の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』および『Oracle Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』を参照してください。

汎用アプリケーションの作成

汎用アプリケーションは、次のことを行う場合に作成できます：

- 複製可能なテンプレート・アプリケーションを作成して、様々なタイプの配置可能なアプリケーションを作成する
- 共有ライブラリまたは配置可能なアプリケーションに含める準備ができるまで、独自の作業領域でローカル次元をモデル化する
- Performance Management Architect ファイル・ジェネレータから ADS ファイルを生成するためのソースとして使用する。[24 ページの「Performance Management Architect のユーティリティ」](#)を参照してください。

汎用アプリケーションを作成する場合、アプリケーション・ウィザードを使用して空白・アプリケーションを作成します。その後、次元ライブラリを使用して次元を追加します。

▶ 汎用アプリケーションを作成するには:

1 ファイル、新規、アプリケーションの順に選択します。

ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます

2 アプリケーション名を入力します。

名前には特殊文字やスペースを含めないでください。また、名前に使用できる文字数は 10 文字以内です。

3 汎用を選択します。

4 説明を入力します。

5 終了をクリックします。

次元ライブラリが表示されます。

6 共有ライブラリからアプリケーションに次元を追加します。183 ページの「共通アプリケーション・タスク」を参照してください。

共通アプリケーション・タスク

ここでは、すべてのアプリケーション・タイプの共通タスクについて説明します。アプリケーション・タイプに固有のタスクについては、次の項を参照してください:

- [149 ページの「連結アプリケーションの作成」](#)
- [157 ページの「Planning アプリケーションの作成」](#)
- [170 ページの「Profitability and Cost Management アプリケーションの作成」](#)
- [181 ページの「Essbase アプリケーションの作成」](#)
- [182 ページの「汎用アプリケーションの作成」](#)

アプリケーションでの次元の追加

Performance Management Architect では、アプリケーション間で次元を管理および共有するのみではなく、アプリケーションに固有の独自の次元を使用可能にします。さらに、アプリケーション内で次元を共有からローカル(またはその逆)に変更することもできます。この機能により、他のアプリケーションとの次元共有要件を、アプリケーションの作成時に定義しなくても時間の経過とともに変更する柔軟性が、配置済アプリケーションにもたらされます。

ローカル次元を作成し、アプリケーションで次元をローカルに管理できます。その後で、それらのローカル次元を共有することにした(ローカルから共有に変換)、それらの次元を他のアプリケーションが独自に使用する別個の次元として共有ライブラリにコピーできます。一度次元が共有ライブラリに入れられると、次元を使用する他のアプリケーションに更新を様々な方法で配布できます(共有ライ

ブラリを使用して継承したり、次元の同期を明示的に使用して共有ライブラリおよびアプリケーションの間で変更を移動します)。

次元の添付解除(共有からローカルに変換)により、共有ライブラリ内の次元およびアプリケーション内の対応する次元の間の共有リンクを切断しながら、アプリケーションで同じ次元構造およびプロパティ値の維持が使用可能になります。この場合、共有ライブラリ内の次元に加えられた変更は、アプリケーションに自動的に継承されなくなります。

▶ アプリケーションに次元を追加するには:

1 共有ライブラリからアプリケーションに次元をドラッグします。

「次元ステータス選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 ローカル次元または共有次元を選択します。

3 OK をクリックします。

アプリケーションで共有されている次元は、次元名の後に(共有)と表示されます。アプリケーションでローカルな次元は、次元名の後に(ローカル)と表示されます。

共有次元のローカルへの変換

共有次元を、アプリケーション内のローカル次元に変更する必要があることがあります。共有次元をローカルに変換すると、共有ライブラリで加えたその後のすべての変更は、アプリケーション内のそのローカル次元に適用されなくなります。

アプリケーションで次元を添付解除することにより、共有次元をローカルに変換できます。

「次元を添付解除」機能は、次元がアプリケーションで共有されている場合のみ使用できます。次元を添付解除すると、コピーを作成することにより共有次元がローカル次元に変換されます。次元がコピーされると、その次元は共有されなくなりますが、共有ライブラリに影響を与えず(またはその逆に)構造を変更可能なローカル次元となります。

次元を再び共有にする場合は、アプリケーションに以前含められていた共有ライブラリ内の同じ次元と再接続できます。[185 ページの「ローカル次元の共有への変換」](#)を参照してください。

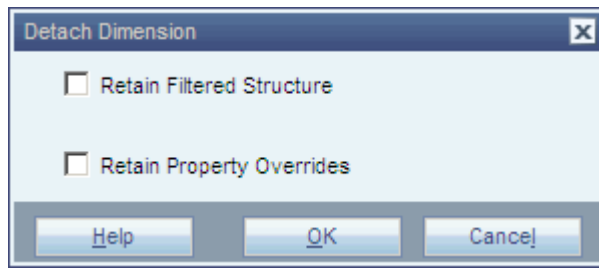
次元が共有からローカルに変換される場合、次元はアプリケーションにコピーされるため同期されません。プロパティの上書きとフィルタがローカル次元に適用されるため、作成される次元の構造とプロパティ値は共有バージョンと同じになります。

▶ 次元を添付解除するには:

1 アプリケーションで共有次元を右クリックします。

2 次元を添付解除を選択します。

「次元を添付解除」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3 フィルタされた構造を保持またはプロパティの上書きを保持を選択します。

共有次元にあったのと同じフィルタされた構造および上書きされたプロパティ値をローカル次元で保持するには、両方のオプションを選択します。共有次元で作成したアプリケーション・レベルのフィルタ処理および上書きをすべて破棄し、共有ライブラリ内のソース次元と同じ構造を持つローカル次元を作成するには、ソース次元の継承されたプロパティ値を使用し、どちらのオプションも選択しないでください。

4 OK をクリックします。

注： アプリケーションでプロパティ値を変更した場合、そのプロパティ値はアプリケーション・レベルの上書き値となります。この場合、共有ライブラリのバージョンが変更されても、共有ライブラリ内の同じメンバーのプロパティ値から添付解除されます。アプリケーション・レベルのプロパティを継承する共有ライブラリのバージョンに戻すには、アプリケーションで右クリックして値を除去します。

ローカル次元の共有への変換

ローカル次元は、次の2つのタイプで構成されます：

- 共有ライブラリをソースとするが、共有ライブラリ次元にリンクされていない次元
- 共有ライブラリの外部をソースとする次元

アプリケーション内のローカル次元を共有に変換できます。変換時にローカル次元は共有となり、アプリケーションに元々含まれていた同じ共有次元に再接続されます。ローカル次元を変換する際、変更をマージするか、単に共有ライブラリ内の次元と置換するかを決定できます。

変更のマージ - 元の共有次元に変更を加えた場合、アプリケーション内の次元に加えられた構造変更がすべてマージ操作によりマージされます。共有ライブラリから既存の次元を選択すると、マージにより共有ライブラリ内の次元からアプリケーション内の次元にメンバーが追加されます。既存のメンバーのプロパティ値の違いは、アプリケーション内でローカル・プロパティ値として保持されます。マージする新規共有次元を作成することもできます。

変更の置換 - 元の共有次元に変更を加えた場合、置換操作により、アプリケーション内の次元が共有ライブラリ内の次元の構造およびプロパティ値と置換されます。

他のアプリケーションが使用するために、ローカル次元を共有ライブラリに追加できます。

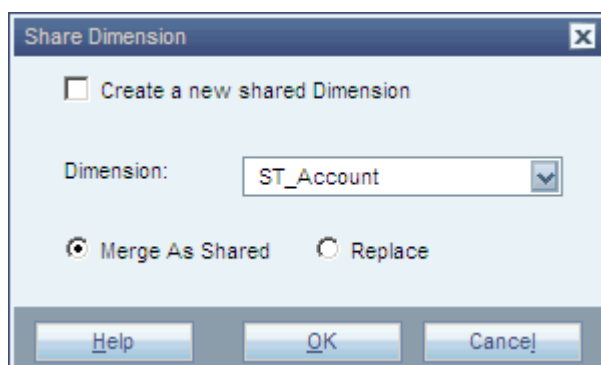
注： アプリケーションの配置後は、期間、ビュー、ICP、年、値、通貨の各連結次元を更新できません。

▶ ローカル次元を共有に変換するには:

1 アプリケーションでローカル次元を右クリックします。

2 共有次元を選択します。

「共有次元」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3 次のいずれかのアクションを行います:

- 次元のコピーを作成して新規コピーを作成するには、新規共有次元の作成を選択します。

注： 次元は、共有ライブラリ内と同じ名前で作成されます。すでに同じ名前が存在する場合は、新規共有次元を作成できないことを示すエラーが表示されます。共有アクションの結果、ローカル次元が共有ライブラリに移動して、アプリケーションに対して共有されるため、次元名は同じになる必要があります。これは、アプリケーションに次元を追加する際に、プロセスの最初から次元がその場所にドラッグされていたかのようなものです。アプリケーション内の共有次元は、共有ライブラリ内のソース次元と常に同じ名前になります。

- マージまたは置換する既存の次元を選択します。

4 共有としてマージまたは置換を選択します。

5 OK をクリックします。

共有ライブラリを使用した次元の同期

アプリケーションでローカル次元を同期する方法は2つあります。1つは、共有ライブラリ内の次元からアプリケーション内のローカル次元に変更を同期する方法で、もう1つはアプリケーション内のローカル次元から共有ライブラリ内の次元に変更を同期する方法です。

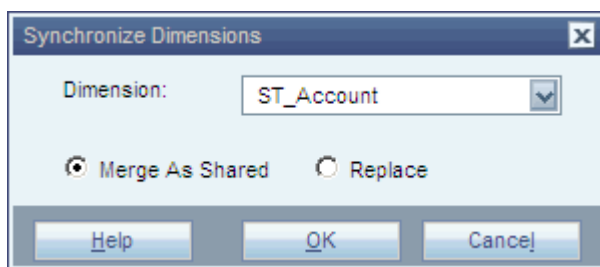
▶ 次元を同期するには:

1 アプリケーションでローカル次元を右クリックします。

2 同期を選択します。

3 次のいずれかを選択します:

- 共有ライブラリへ
- 共有ライブラリから



4 同期するターゲット次元を選択します(同期先または同期元)。

共有ライブラリの使用可能なターゲット次元のリストは、選択されたアプリケーション次元と同じ次元タイプの次元のみにフィルタされています。ローカル次元のコピーが共有ライブラリに存在する場合、デフォルトで自動的に選択されます。

5 共有としてマージまたは置換を選択して、OK をクリックします。

「共有としてマージ」オプションを使用すると、2つの異なるアプリケーションから同様の次元をマージできます。たとえば、Performance Management Architect にアップグレードされた、同様の次元性(同様の製品次元など)2つのアプリケーションをアップグレードする場合です。この場合、一方の次元を共有ライブラリにコピーして、もう一方の次元をこの次元にマージできます。これにより、個々のアプリケーションの構造を保持しながら、マスター次元を作成することもできます。

アプリケーションへの次元のインポート

Performance Management Architect アプリケーションには、次元を直接インポートできます。詳細は、63 ページの「インポート・プロファイルの作成」および 70 ページの「インポート・プロファイルの管理」を参照してください。

次元の除去

- ▶ アプリケーションから次元を除去するには、次元を右クリックし、次元の除去を選択します。

次元の関連付けの表示

次元の関連付けによる、次元と次元メンバーに対するセキュリティ・クラスおよび通貨の割当てが使用可能になります。たとえば、エンティティ次元の場合、セキュリティ・クラスおよび通貨次元への関連付けを作成できます。関連付けは次元レベルで作成され、次元の下のすべてのメンバーにより継承されます。次元の関連付けは、次元ライブラリで作成されます。83 ページの「次元の関連付けの作成」を参照してください。

次元の関連付けは、共有ライブラリおよびアプリケーション内の次元間の相互関係を示すために使用されます。たとえば、連結アプリケーション内には、セキュリティ・クラス、カスタム次元の交差(Custom1TopMember)などを参照する勘定科目次元プロパティがあります。これらの次元プロパティは、他の次元と直接関連

しています。次元の関連付けによる、これらのプロパティおよび他の次元の間の関係の定義が使用可能になるため、参照先次元からの値の直接取得が使用可能になります。

次元の関連付けは、プロパティ値が別の次元のメンバーを参照するすべてのプロパティに作成されます。関連付けを作成すると、アプリケーションでその関連付けをアクティブ化する必要があります。

次元の関連付けのアクティブ化

- ▶ すべての次元の関連付けをアクティブ化するには、アプリケーション(最上位レベル)を右クリックし、すべての関連付けをアクティブにするを選択します。

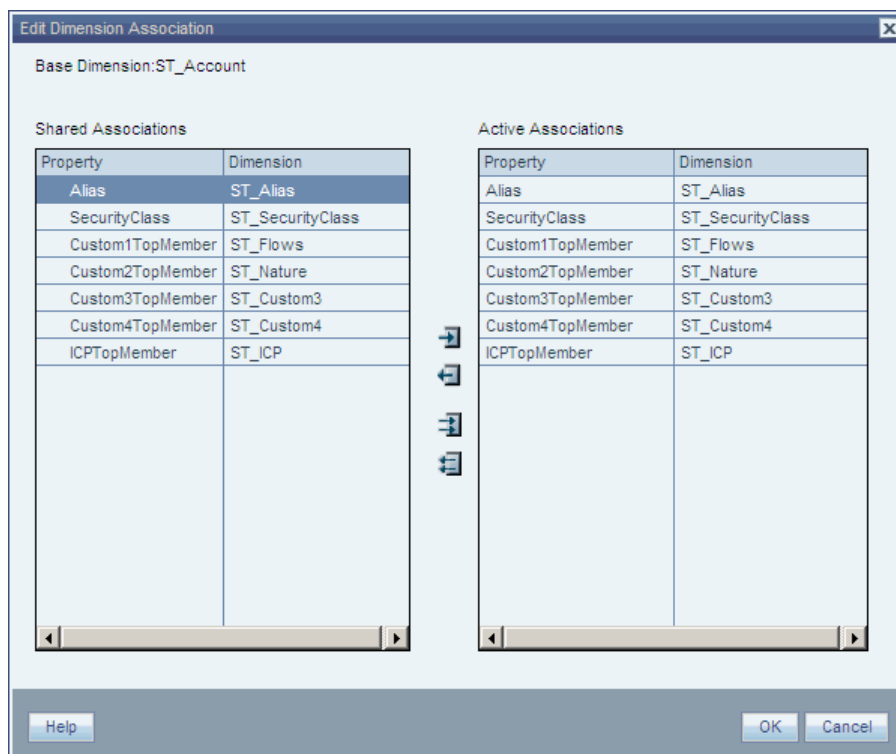
注： マルチ通貨アプリケーションを使用している場合、通貨次元を基本エンティティ次元に関連付ける必要があります。すべての次元の関連付けをアクティブ化する場合、関連付けが自動的にアクティブになります。

1つ以上の次元の関連付けを作成する方法の詳細は、[83 ページの「次元の関連付けの作成」](#)を参照してください。

次元の関連付けの表示および編集



次元の関連付けは自動ではないため、すべての関連付けをアクティブ化するか、「次元の関連付けの編集」ダイアログ・ボックスを使用して関連付けをアクティブ化する必要があります。

- ▶ 1つ以上の次元の関連付けを表示またはアクティブ化するには:
 - 1 アプリケーションで、次元を右クリックし、次元の関連付けを選択します。「次元の関連付けの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。



Planning アプリケーションの次元の関連付けの例は、シナリオ次元の Start Period プロパティおよび End Period プロパティに、期間次元との次元の関連付けがあるという点です。シナリオ次元の Start Year プロパティおよび End Year プロパティには、年次元との次元の関連付けがあります。

2 必要に応じて、一方または両方のアクションを実行して繰り返します。

- 次元をアクティブ化するには、「共有関連付け」で次元を選択し、 をクリックします。
- 次元を非アクティブ化するには、「アクティブな関連付け」で次元を選択し、 をクリックします。

「すべて追加」または「すべて除去」をクリックすると、すべての次元をアクティブまたは非アクティブ化できます。Performance Management Architect により、すべての基本次元および関連付け先の次元が自動的に関連付けられます。

3 OK をクリックします。

次元別名の設定

配置済アプリケーションでの別の名前を表示するために、別名(つまり次元名)を変更できます。配置済アプリケーションでの次元の別の名前を、共有ライブラリまたはアプリケーションに表示されている名前と比較する場合は、次元別名プロパティが役立ちます。

▶ 次元別名プロパティを設定するには:

- 1 共有ライブラリで次元を選択します。
- 2 プロパティ・グリッドで、カテゴリをシステムに変更します。

- 3 次元別名プロパティを右クリックし、新規次元名(別名)を入力します。

アプリケーション・メンバーシップの表示

アプリケーション・メンバーシップは、特定のメンバーまたは次元が使用されている場所を、使用可能なアプリケーションのリストに示します。この情報は、変更の影響を理解するのに役立ちます。たとえば、部門が再編成されたため、エンティティ次元を更新をプランニングしている場合です。アプリケーション・メンバーシップ機能を使用して、影響を受ける可能性があるアプリケーションや、変更スコープを特定します。

▶ アプリケーション・メンバーシップを表示するには:

- 1 次元またはメンバーを右クリックし、アプリケーション・メンバーシップを選択します。

「アプリケーション・リスト」ダイアログ・ボックスには、次元がメンバーとなっているすべてのアプリケーションのリスト、および各アプリケーションの説明が表示されます。

- 2 OK をクリックします。

7

アプリケーションの管理

この章の内容

アプリケーション・ライブラリのナビゲート	191
アプリケーションの編集	195
アプリケーションを開く	195
アプリケーションを閉じる	196
アプリケーションの削除	196
アプリケーションの複製	196
アプリケーションの検索	198
アプリケーションの再登録	199
アプリケーションの比較	199
データ・フローの表示	202
アプリケーションの検証および配置	204
プランニング・データ・ソースの管理	216

- ▶ アプリケーション・ライブラリを開くには、ナビゲート、管理、アプリケーション・ライブラリの順に選択します。

アプリケーション・ライブラリのナビゲート

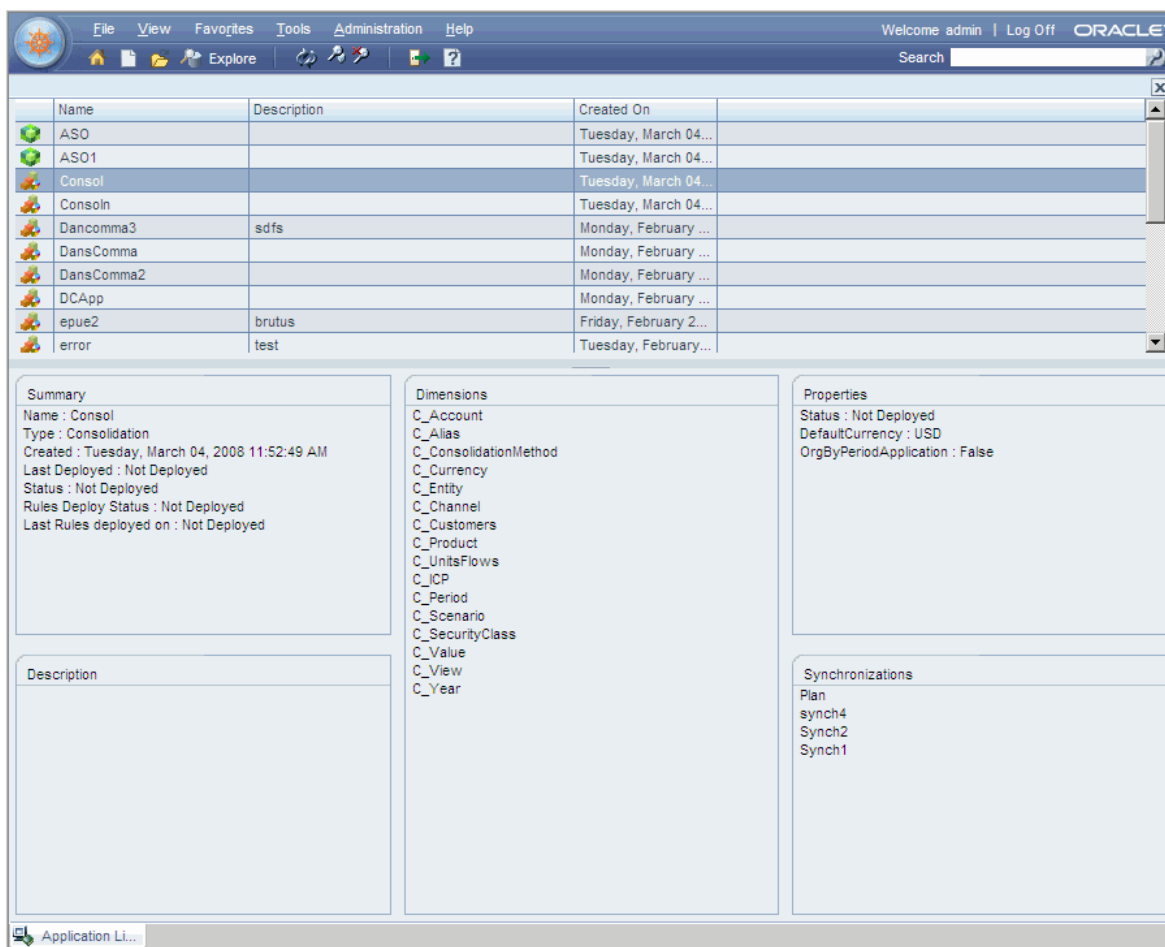
アプリケーション・ライブラリには、すべてのアプリケーションが表示されます。上部ペインでアプリケーションを選択すると、下部ペインに要約情報が表示されます。下部ペインには、次の情報が表示されます:

- **要約** - 名前、タイプ、作成日、前回の配置日および関連付けられたデータ同期
- **説明** - 「新規アプリケーション」ダイアログ・ボックスまたはアプリケーション・ウィザードの「説明」フィールドに入力した情報
- **次元** - アプリケーションで使用可能な次元
- **プロパティ** - アプリケーションのステータス、デフォルト通貨および特定のプロパティ・セット
- **同期** - このアプリケーションのデータ同期
- **ルール/ルール・セット** - Calculation Manager で定義された、このアプリケーションのルールおよびルール・セット

アプリケーション・ライブラリ・ビューの変更

▶ アプリケーション・ライブラリ・ビューを変更するには:

1 表示、詳細の順に選択します。



2 次の1つまたは複数のアクションを行います:

- 列を基準にソートするには、列ヘッダーをクリックします。たとえば、名前によってソートする場合は、名前をクリックします。
- 列を移動するには、列ヘッダーを新しい場所にドラッグします。
- ビューをアイコン・ビューに変更するには、表示、アイコンの順に選択します。

アプリケーションの整理

アプリケーション・ライブラリでフォルダを作成し、アプリケーションをフォルダに移動すると、アプリケーションを整理するのに役立ちます。

フォルダの作成

▶ フォルダを作成するには:

1 アプリケーション・ライブラリで、ファイル、新規、フォルダの順に選択します。

「新規フォルダの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

フォルダ名には、空白を使用できますが、特殊文字は使用できません。

2 フォルダ名および説明を入力し、OK をクリックします。

フォルダが作成されます。

フォルダへのアプリケーションの追加

アプリケーション・ライブラリでフォルダを作成したら、アプリケーションをフォルダに追加できます。

▶ アプリケーションをフォルダに追加するには:

1 アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションをフォルダにドラッグするか、またはフォルダを右クリックしてアプリケーションの追加を選択します。

「アプリケーション・リスト」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 フォルダに追加する 1 つ以上のアプリケーションを選択します。

ヒント: [Shift]または[Ctrl]キーを押すと、「アプリケーション・リスト」ダイアログ・ボックスで複数のアプリケーションを選択できます。

3 OK をクリックします。

作成したフォルダにアプリケーションが移動します。

4 フォルダを開くには、フォルダをダブルクリックするか、フォルダを右クリックして開くを選択します。

アプリケーション・ライブラリでフォルダを開くと、アプリケーション・ライブラリ・ウィンドウの上部付近にフォルダの名前が表示されます。

ヒント: フォルダを開いている場合に新規アプリケーションを作成すると、アプリケーションは自動的にそのフォルダに保管されます。新規フォルダを作成してアプリケーション・ライブラリに戻ると、そのフォルダではなくライブラリのルートが表示されるため、この点に注意してください。新たに作成したアプリケーションが表示されない場合は、フォルダを確認してください。

フォルダからアプリケーションを除去する場合は、[193 ページの「フォルダからのアプリケーションの除去」](#)を参照してください。

5 アプリケーション・ライブラリ(ルート)に戻って現在のフォルダを閉じるには、 をクリックします。

フォルダからのアプリケーションの除去

▶ フォルダからアプリケーションを除去するには:

1 フォルダを開きます。

- 2 アプリケーションを右クリックし、フォルダから除去を選択します。

フォルダからアプリケーションが除去され、アプリケーション・ライブラリのルートに戻されます。

フォルダの名前変更

- ▶ フォルダの名前を変更するには:

- 1 フォルダを右クリックし、名前変更を選択します。

「フォルダの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 新規フォルダ名を入力し、OK をクリックします。

フォルダの削除

フォルダは、フォルダ内に存在するアプリケーションを除去せずに削除できます。フォルダを削除すると、すべてのアプリケーションは自動的にアプリケーション・ライブラリのルートに移動します。

- ▶ フォルダを削除するには:

- 1 フォルダを右クリックし、削除を選択します。

「アプリケーション・ライブラリ - 警告」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 はいをクリックします。

フォルダが除去され、アプリケーションがアプリケーション・ライブラリのルートに移動します。

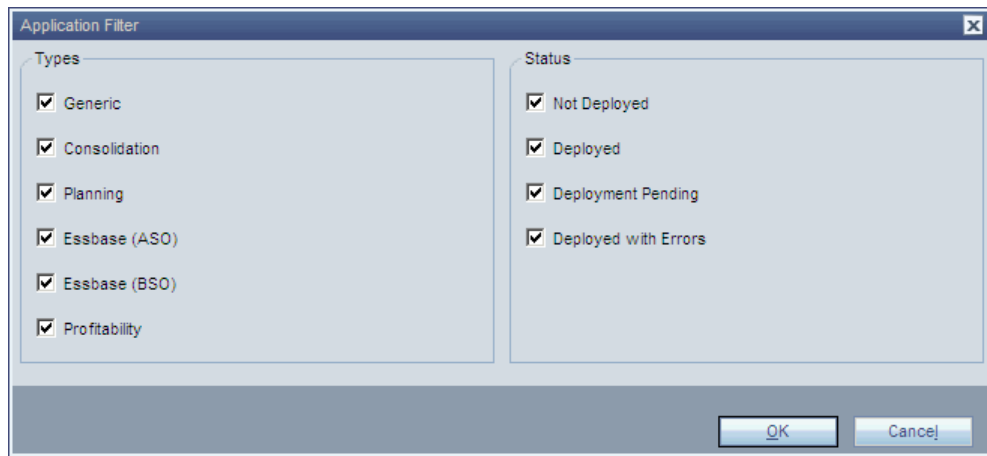
アプリケーション・フィルタの作成

フィルタを作成すると、アプリケーション・ライブラリに特定のアプリケーションのみが表示されます。

注： アプリケーション・ライブラリでは、セキュリティに基づいてアプリケーションがフィルタされません。すべてのアプリケーションが表示されます。たとえば、ユーザーが1つのアプリケーションへのアクセス権しか持っていない場合でも、アプリケーション・ライブラリ内の20個のアプリケーションが表示されます。

- ▶ アプリケーション・フィルタを作成するには:

- 1 表示、フィルタの順に選択します。



- 2 表示しないタイプを選択解除します。
- 3 「ステータス」の下で、表示しないステータスを選択解除します。たとえば、配置されていないアプリケーションを表示できます。
- 4 OK をクリックします。

アプリケーション・ライブラリのリフレッシュ

最も新規アプリケーション情報が表示されるようにするため、アプリケーション・ライブラリをリフレッシュできます。

- ▶ アプリケーション・ライブラリをリフレッシュするには、表示、リフレッシュの順に選択します。

アプリケーションの編集

- ▶ アプリケーションを編集するには、アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションをダブルクリックするか、右クリックして編集を選択します。

次元ライブラリに共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。

アプリケーションを開く

アプリケーションを配置したら、配置した Hyperion アプリケーションで開くことができます。


- ▶ アプリケーションを開くには、アプリケーション・ライブラリで配置したアプリケーションを右クリックして開くを選択します。

ヒント： 「ナビゲート」、「アプリケーション」の順にクリックして、Planning などのアプリケーション・タイプを選択し、アプリケーションを選択することもできます。

アプリケーションは、Financial Management および Profitability and Cost Management、または Planning で表示されます。

注： 右クリック・メニューの「開く」オプションは、アプリケーションが配置されていない場合は使用できません。

アプリケーションを閉じる

- ▶ アプリケーションを閉じるには、次のいずれかのアクションを実行します：
 - ビューの右上隅で、をクリックします。
 - 開いているアプリケーションが表示されている「次元ライブラリ」タブを右クリックし、閉じるを選択します。
 - ファイル、閉じる、現在の順に選択します。

アプリケーションの削除

アプリケーション・ライブラリでは、「配置済」または「未配置」ステータスのアプリケーションを削除できます。ステータスが「配置の保留中」の場合、アプリケーションを削除できません。

- ▶ アプリケーション・ライブラリでアプリケーションを削除するには、アプリケーションを右クリックして削除を選択します。

削除の権限チェックが実行され、要求が Hyperion 製品サーバーに渡されて完了ステータスとなります。アプリケーションのステータスは「削除対象としてマーク」となり、他の操作ができなくなります。アプリケーションが削除されると、アプリケーション・ライブラリから除去されます。

注： Planning アプリケーションを削除する前に、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System バックアップおよびリカバリ・ガイド』で説明されているようにアプリケーションおよびアプリケーション・データベースをバックアップします。バックアップ後、アプリケーションを削除する標準的な手順に従います。削除後、アプリケーションが Essbase から削除されており、プランニング・リレーショナル・テーブルがリレーショナル・データベースから削除されていることを確認します。

アプリケーションの複製

アプリケーション・ライブラリでは、アプリケーションをコピーして新規アプリケーションを作成できます。共有ライブラリでアーチファクトを変更した場合、両方の未配置のアプリケーションで変更が自動的に反映されます。アプリケーションを複製するときは、次の2つのオプションがあります：

- アプリケーションを新規アプリケーションとして複製する
- アプリケーションを配置済アプリケーションとして複製する

新規アプリケーションとしてのアプリケーションの複製

▶ アプリケーションを複製するには:


- 1 アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションを右クリックして複製、新規アプリケーションとしての順に選択します。

「アプリケーションの複製」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 名前、説明(オプション)を選択し、タイプを選択します。次に、OK をクリックします。

注: 連結から Planning など、別のアプリケーション・タイプを選択した場合、類似の次元プロパティのみがコピーされます。アプリケーションを複製したら、新規アプリケーション・タイプ・プロパティを更新する必要があります。

場合によっては、アプリケーション・ライブラリをリフレッシュして、既存のアプリケーションの複製により作成された新規アプリケーションを表示する必要があります。

- 3 表示、リフレッシュの順に選択するか、 をクリックします。

- 4 必要に応じて、アプリケーションをダブルクリックし、次元ライブラリを使用してプロパティを変更します。

配置済アプリケーションとしての連結アプリケーションの複製

配置済の連結アプリケーションをコピーして、あるサーバーから別のサーバーに複製できます。連結アプリケーションは異なるタイプのデータベースにはコピーできません。たとえば、SQL Server データベースを使用して作成された連結アプリケーションは、別の SQL Server データベースにコピーする必要があります。

次のガイドラインに従います:

- ソースおよび宛先コンピュータは、同じ Shared Services サーバーに登録する必要があります。
- ある Performance Management Architect サーバーから別の Performance Management Architect サーバーにアプリケーションを複製できません。

▶ 配置済アプリケーションを複製するには:

- 1 アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションを右クリックして複製、配置済アプリケーションの順に選択します。

注：「データのコピー」および「監査データのコピー」オプションは、連結アプリケーションでのみ使用できます。

- 2 新規アプリケーションの名前を入力します。
- 3 オプションで、コメントを入力します。
- 4 インスタンス名、アプリケーション・サーバーおよび Shared Services プロジェクトを選択します。
- 5 データのコピーと監査データのコピーの両方またはいずれかを選択します。
「データのコピー」を選択すると、メタデータ/アプリケーション構造情報とともにデータをコピーできます。「監査データのコピー」を選択すると、移行時点までにアプリケーションで生成されたデータおよびタスク監査情報がコピーされます。
- 6 OK をクリックします。

注：複製のステータスを表示するには、「ナビゲート」、「管理」、「ライブラリ・ジョブ・コンソール」の順に選択します。


配置済アプリケーションを複製すると、Shared Services に自動的に登録されます。ユーザーの役割を割り当てる方法の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

アプリケーションの検索

アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションを検索できます。アプリケーションの検索では、アプリケーション・ライブラリのルートおよびすべてのフォルダが検索されます。次の検索条件を入力できます：

- アプリケーション名
- アプリケーション・タイプ
- ステータス

▶ アプリケーションを検索するには:

1 をクリックします。

「アプリケーションの検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 次の1つまたは複数のアクションを行います:

- オプション: アプリケーション名を入力します。
- アプリケーション・タイプを選択します。
- ステータスを選択します。「未配置」、「配置済」、「配置の保留中」および「配置済(エラーあり)」の各オプションがあります。

3 OK をクリックします。

アプリケーションの再登録

再登録は、Shared Services に対してのみ行われ、Shared Services が停止してアプリケーションを再登録する必要がある場合に使用されます。

▶ アプリケーションを再登録するには:

1 アプリケーションを右クリックし、再登録を選択します。

2 アプリケーションにオプションを選択し、再登録をクリックします。

注: 「再登録」ダイアログ・ボックスに、アプリケーションのタイプに応じて各種オプションが表示されます。

アプリケーションの比較

アプリケーションの比較は、アプリケーション・フローに不可欠な部分です。比較レポートには、除外されたすべてのメンバーおよびプロパティの差が表示されます。

アプリケーションは、次の方法で比較できます:

- 共有ライブラリとの比較 - アプリケーション内の次元およびメンバーを、共有ライブラリ内の次元およびメンバーと比較します。
- 配置済アプリケーションとの比較 - アプリケーションを、配置済アプリケーションと比較します。

▶ アプリケーションを比較するには:

1 アプリケーションを右クリックし、比較を選択して次のアクションを実行します:

- 共有ライブラリとの比較

- 配置済アプリケーションとの比較
「比較」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 結果の表示をクリックします。

「次元比較結果」が表示されます。

Property Name	Master	CommaK02
Application Class	Master	Consolidation
Application Description	Master Application	
Application Name	Master	CommaK02

注： アクティブ化および非アクティブ化は現在サポートされていません。

比較結果のナビゲート

比較ビューには、次の3つのペインがあります：

- 200 ページの「次元比較結果」
- 201 ページの「アプリケーション比較要約」
- 202 ページの「プロパティ比較結果」

次元比較結果


左側の「次元比較結果」には、追加または削除された次元およびメンバーが表示されます。最初、比較結果にはアプリケーションが折りたたまれて表示され、差の合計数がかっこで囲まれて表示されます。アプリケーションを展開すると、次元が折りたたまれている場合は次元ごとに差の数がかっこで囲まれて表示され、次元が配置されている場合は、アプリケーションから除去されたアーチファクト

が取消し線付きで表示されます。プロパティの差があるアーチファクトは、太字で表示されます。


アーチファクトを選択すると、「比較要約」および「プロパティ比較結果」の値が更新されます。(選択内容に応じて、「比較要約」ヘッダーには「アプリケーション比較要約」、「次元比較要約」、または「メンバー比較要約」が表示されます。) 次の選択肢があります:

- アプリケーション - 「アプリケーション比較要約」に、アプリケーション全体の差の合計数が表示されます。
- 次元 - 次元全体の差の合計。
- 除去されたメンバー(取消し線付き) - 「メンバー比較要約」の「差の合計」および「除去」が更新されて、選択したメンバーの値が反映されます。
- プロパティの差があるメンバー(太字) - 「メンバー比較要約」が更新され、「プロパティ比較結果」に比較対象のアプリケーションと異なるプロパティ名が表示されます。

▶ 次元比較結果ビューを変更するには:

1 ツリーを横に並べて表示するには、をクリックします。

「次元比較結果」に、比較ビューが横に並んで表示されます。

2 1つのツリーを表示するには(デフォルト・ビュー)、をクリックします。

アプリケーション比較要約

右上の「比較要約」には、アプリケーションおよび共有ライブラリの間の変更の要約が表示されます。「比較要約」は、選択内容に応じて更新されます。たとえば、「次元比較結果」で次元を選択した場合、「比較要約」ヘッダーには「次元比較要約」が表示されます。「比較要約」の値は、「次元比較結果」で選択されたアーチファクトに基づきます。次の内容が表示されます:

- 差の合計 - アプリケーションおよび共有ライブラリの間の変更の合計。
- プロパティの差 - プロパティの差の合計数。
- 追加 - アプリケーションに追加されたアーチファクトの合計数。
- 除去 - 除去されたアーチファクトの合計数。
- 名前変更 - 名前が変更されたメンバーの合計数。ここに表示される名前が変更されたメンバーの数は、「差の合計」とは別にカウントされます。たとえば、差の合計が6で、名前変更が2の場合、差の総計は8になります。
- 移動 - メンバーが、次元内のある場所から別の場所に移動されました。
- 共有 - 次元に共有メンバーが挿入されました。
- 含む - アプリケーションに共有次元が追加されました。
- 除外 - 次元のメンバーがフィルタされました。


各要約にはラジオ・ボタンが表示されます。ラジオ・ボタンはフィルタです。「追加」、「除去」、または「プロパティの差」の各ラジオ・ボタンを選択すると、「次元比較結果」が更新されます。たとえば、「追加」を選択した場合、表示が更新さ

れて追加のみが表示されます。加えて、追加がないメンバーは、表示すべき子がある場合以外は表示されなくなります。

プロパティ比較結果

右下の「プロパティ比較結果」には、「次元比較結果」で選択されたメンバーの変更されたメンバー・プロパティが表示されます。「プロパティ比較結果」の列は、プロパティ名、マスター(共有ライブラリ)、およびアプリケーション名の3つです。

比較結果でのメンバーの除外

- ▶ メンバーを除外するには:
 - 1 「次元比較結果」でメンバーを右クリックし、除外フィルタへの追加を選択します。「アプリケーション比較要約」で「除去」の数が更新されます。
 - 2 終了したら、ビューの右上隅の  をクリックします。

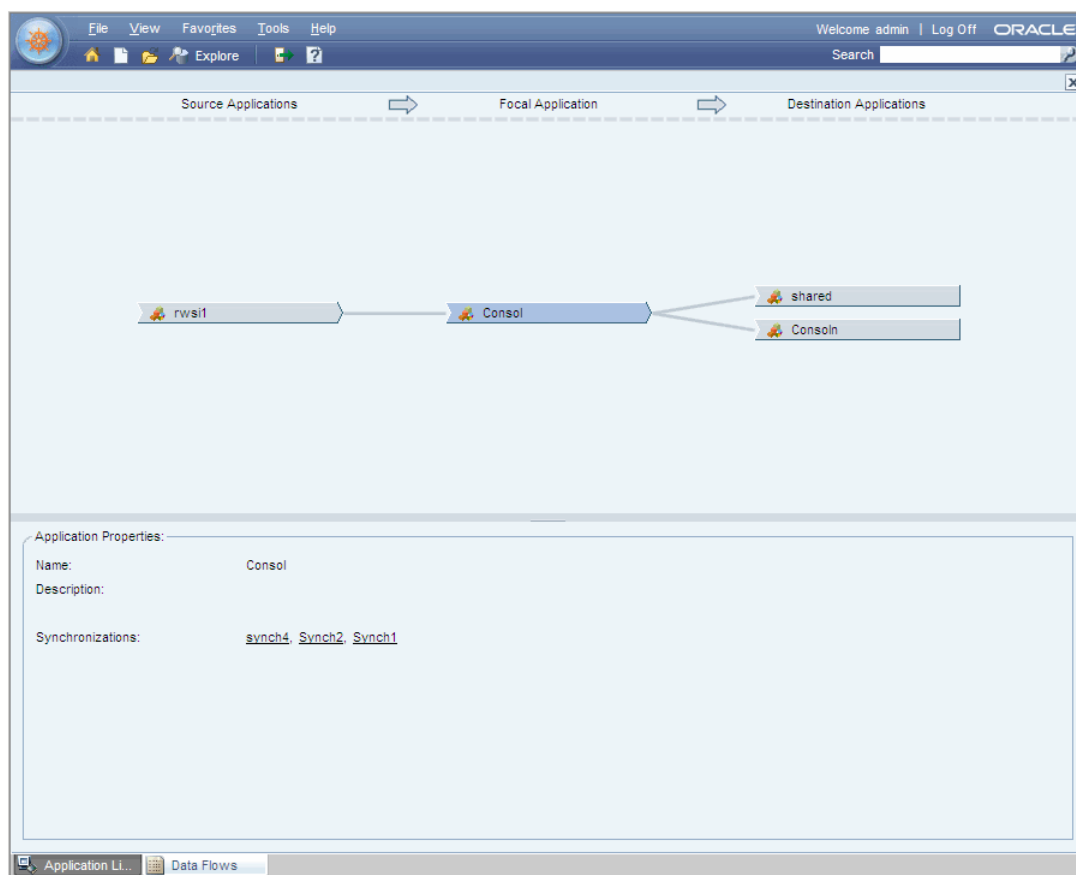
データ・フローの表示

データ・フローには、アプリケーション・ライブラリからアクセスできます。データ・シンクロナイザで作成された同期を使用してアプリケーション間でデータがどのように移動するかが、データ・フローに示されます。データ・フローではデータ同期がとられ、アプリケーション間のデータ移動の関係がグラフィカルに表現されます。

注： データ・フローを表示するには、同期済の複数のアプリケーションが必要です。[第 17 章「データの同期」](#) を参照してください。

- ▶ データ・フローを表示するには、アプリケーション・ライブラリでアプリケーションを右クリックし、データ・フローを選択します。

データ・フローが表示されます。データ・フロー・マップに、フォーカル・アプリケーションに出入りするデータのフローが示されます。フォーカル・アプリケーションとは、データ・フローの中心にあるアプリケーションのことです。



データ・フローでアプリケーションを選択すると、下部ペインにプロパティが表示されます。アプリケーション・プロパティには名前、説明および同期が表示されます。

データ・フローでのフォーカル・アプリケーションの変更

- ▶ フォーカル・アプリケーションを変更するには、アプリケーションを右クリックし、中央を選択します。

選択したアプリケーションに従って、フォーカル・アプリケーションが変更されます。

同期の表示

- ▶ 同期を表示するには、アプリケーションを右クリックし、同期を選択して同期名を選択します。

編集、検証、または実行する同期を選択できます。[204 ページの「同期の編集」](#)および[204 ページの「同期の検証および実行」](#)を参照してください。

同期の編集

▶ 同期を編集するには:

1 次の操作を行います:

- データ・フローの「アプリケーション・プロパティ」領域で同期をダブルクリックします。「同期実行」ダイアログ・ボックスで、同期を選択して「アクション」を選択し、「編集」を選択して「OK」をクリックします。
- データ・シンクロナイザにアクセスし(「ナビゲート」>「管理」>「データの同期」)、同期を右クリックして「編集」を選択します。

2 必要に応じてデータ・マッピングを変更します。

[第 17 章「データの同期」](#)を参照してください。

同期の検証および実行

データ・フローから同期を実行できます。

▶ 同期を検証および実行するには:

1 データ・フローで、アプリケーションを選択します。

2 アプリケーション・プロパティで、実行する同期をダブルクリックします。

「同期実行」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 アクション検証または実行を選択し、OK をクリックします。

同期を検証する場合、「データ同期検証オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。データ・フローから同期を実行した場合は、「データの同期実行オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

アプリケーションの編集

データ・フローに表示されたアプリケーションを編集できます。

▶ アプリケーションを編集するには、データ・フローでアプリケーションを右クリックして編集を選択します。

アプリケーションの検証および配置

Performance Management Architect では、次元性およびアプリケーションに関する他の情報を説明するアプリケーションを作成します。アプリケーションを作成する際、アプリケーションを検証して Oracle の Hyperion 製品に配置できます。配置プロセスにより、Financial Management、Profitability and Cost Management、Essbase、Planning などの目的の製品にアプリケーションが自動的に作成されます。

配置プロセスには、次の処理が関係します:

- **配置および検証** - アプリケーションを検証し、Financial Management、Profitability and Cost Management、Planning などの製品にアプリケーションを配置します。

アプリケーションに次元や他の必須情報がない場合、配置は中止されます。さらに、アプリケーションの別の配置が進行中の場合、要求は取り消されません。配置を表示する方法の詳細は、[第 18 章「ジョブの管理」](#)を参照してください。

- **製品固有のプロパティおよび登録** - 配置操作では、製品固有のプロパティが、Shared Services でのインスタンス登録から取得されます(Oracle Hyperion Data Relationship Management, Fusion Edition を使用)。登録情報には、Hyperion 製品への配置を開始する呼び出しへの配置 URL も含まれます。

Performance Management Architect は、Oracle Hyperion Data Relationship Management, Fusion Edition から共通スキーマ・フォーマットのメタデータ XML を取得し、XML を使用して配置または再配置要求を製品 Web サーバーに送信します。

- **製品アプリケーションの作成** - アプリケーション・ライブラリで、アプリケーションのステータスが「配置の保留中」に更新されます。これが新規配置の場合、Hyperion 製品によりアプリケーションが作成され、Hyperion 製品サーバーはメタデータのロードを試みます。配置が完了すると、アプリケーション・ライブラリでステータスおよびタイムスタンプが更新されます。

注： アプリケーションの作成時に特定の製品タイプを選択した場合、アプリケーションはその製品タイプに配置されます。アプリケーション・タイプに「汎用」を選択した場合、配置時に製品タイプを指定する必要があります。

アプリケーションの検証

▶ アプリケーションを検証するには:

- 1 アプリケーションを右クリックし、検証、アプリケーションの順に選択します。
「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 リンクをクリックして、ライブラリ・ジョブ・コンソールにナビゲートします。
- 3 「添付ファイル」領域で検証ログ・リンクをクリックします。
- 4 開くをクリックして、ログ・ファイルをテキスト・エディタで開きます。

検証ログの抜粋を次に示します:

```
Validation Log
=====

Job Id: 191
Created : 3/4/2008 8:08:30 PM
Application : Consol

Validation Summary
=====
```

Result : Success

Summary : There were 0 errors and 0 warnings during the validation process. For details refer the error and warning section of this log.

アプリケーションの検証の詳細は、[付録 F「アプリケーションの検証」](#) を参照してください。

配置ログおよびエラーの確認

アプリケーションを配置したら、「要約」領域を表示して、ライブラリ・ジョブ・コンソールで配置ログ(参照可能な場合)を表示できます。[第 18 章「ジョブの管理」](#) を参照してください。

連結アプリケーションの場合、配置ログ(ライブラリ・ジョブ・コンソールに表示)には Financial Management メタデータ・ロード・ファイルが含まれています。ほとんどの場合、ログには無効なメンバーおよびエラーが表示されており、Financial Management ログにアクセスして詳細情報にアクセスするために必要ではありません。ただし、まれにメタデータ・ログに十分な情報がないことがあり、この場合は Financial Management アプリケーション・サーバー・ログで詳細を確認できます。

Planning アプリケーションの場合、ライブラリ・ジョブ・コンソールでは、配置を中止した前回の配置例外のエラー・スタック・トレースが「要約」領域に表示されます。配置に失敗した場合、アンロードされたメンバー、アンロードされたメンバーの詳細、ハード検証エラーおよびキューブ・リフレッシュなど、すべてのエラー・メッセージに関して Planning アプリケーション・サーバー・ログを確認してください。

収益性アプリケーションの場合、ライブラリ・ジョブ・コンソールには配置ログが表示されます。エラーがある場合、「添付ファイル」領域の「検証ログ」リンクをクリックして、すべての検証エラーまたはメッセージの完全なリストを表示します。

Planning アプリケーションの配置

Planning では、アプリケーションの設定内容に応じて、特定の次元が必要です。検証エラーを回避するため、アプリケーションに必要な次元がすべて含まれていることを確認します。プランニング次元の要件は、[付録 B「プランニング次元の操作」](#) を参照してください。

配置プロセスでは、次のものが作成されます:

- プランニング・データベース内のテーブルおよび値。
- Planning Web ユーザー・インターフェースからキューブをリフレッシュする必要がない、Essbase 内のアプリケーションおよびアウトライン。
- マルチ通貨アプリケーションの場合、配置時の HSP_Rates(手動で作成する次元ではありません)。

注： Planning アプリケーションを配置する前に、必ず Planning アプリケーション・サーバーを起動してください。Performance Management Architect から

Planning にアプリケーションを配置する操作は時間がかかります。初回の配置には、その後の再配置よりも時間がかかる可能性があります。

Planning アプリケーションを配置する前に、すべてのプロパティが正しく、必要に合っていることを確認してください。設定を更新する必要がある場合は、配置前に更新します。アプリケーションが正しく設定されていない場合、配置が失敗してエラー・メッセージが表示されます。正しく配置するには、Planning アプリケーションが、この章の第3章「メタデータのインポート」および付録B「プランニング次元の操作」に示されている条件を満たす必要があります。たとえば、次の条件です:

- Start Year プロパティを定義する必要があります。年は、4桁の長さにする必要があります(2008 など)。
- 年次元は、先頭の FY の後に、2桁の年が続く必要があります(FY08 など)
- 年次元の最初の年メンバーおよび Start Year プロパティは、同じ年を表す必要があります。たとえば、Start Year が 2008 の場合、年次元の最初の年は FY08 にする必要があります。
- 12 か月の基本期間アプリケーションの場合のみ、Start Month プロパティを定義する必要があります。
- Default Alias Table プロパティを定義する必要があります。詳細は、80 ページの「別名次元」を参照してください。
- Default Currency プロパティを定義する必要があります。
- アプリケーションに、事前に定義されている次元を含める必要があります。単一通貨アプリケーションには、シナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間および年が必要です。マルチ通貨アプリケーションには、シナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間および通貨が必要です。
- アプリケーションは付録B「プランニング次元の操作」で指定されている条件を満たす必要があります。

アプリケーション名やデータ・ソースなどの一部の情報は、アプリケーションの配置後は変更できません。アプリケーションが配置されると、未参照の UDA がアプリケーションから除去されます。135 ページの「ユーザー定義属性の操作」を参照してください。

注意 Planning 内の各データ値は、次元メンバーおよびプラン・タイプのセットにより識別されます。アプリケーションから次元メンバーを除外すると、削除アクションを再配置に変えられます。除外されたメンバーが他の場所(データ・フォームでの選択など)で使用されている場合、それらの関連付けは除去されます。詳細は、128 ページの「プランニング・メンバーの除外および削除」を参照してください。

アプリケーションからメンバーを除外する前に、Planning 内で「使用の表示」機能を使用して、メンバーが使用されるアプリケーションの場所、および配置中にアプリケーションから次元メンバーを除外することの影響について特定します。「使用の表示」機能の詳細は、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

▶ Planning アプリケーションを配置するには:

- 1 ナビゲート、管理、アプリケーション・ライブラリの順にクリックします。
- 2 Planning アプリケーションを右クリックし、配置、アプリケーションの順に選択します。

また、ルールのみ配置する場合はルールを選択し、ビジネス・ルールとともにアプリケーションを配置する場合はすべてを選択できます。ビジネス・ルールの配置については、Calculation Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

アプリケーションは、配置前に検証されます。検証エラーは、すべてジョブ・コンソールに表示されます。配置前にすべての検証エラーを修正する必要があります。ビジネス・ルール・エラーを解決する方法の詳細は、Calculation Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Application Name	Test
Description	
Instance Name	Default
Web Server	hfm01.hyperion.com
Application Server	Default
Shared Services Project	Default Application Group
Purge Transaction history on success	<input type="checkbox"/>
Data Source	Test
Create Outline	<input type="checkbox"/>
Refresh Outline	<input type="checkbox"/>
Create Security Filters	<input type="checkbox"/>
Shared Members Security Filters	<input checked="" type="checkbox"/>
Validate Security Filter Limit	<input type="checkbox"/>

3 次のタスクを実行します:

再配置する場合、インスタンス(クラスタ)名、アプリケーション・サーバー、データ・ソースなど、一部のオプションは使用できません。

- 1 インスタンス名(「クラスタ」とも呼ばれます)を選択します。
- 2 アプリケーション・サーバーを選択します。
- 3 Shared Services プロジェクトを選択します。
- 4 オプション: トランザクション履歴を保存しない場合は、成功トランザクション履歴を削除を選択します。
- 5 アプリケーションにより使用されるデータ・ソースを選択します。

6. **オプション:** データ・ソースを作成する場合は、データ・ソースの横のアイコンをクリックします。詳細な方法は、[217 ページの「データ・ソース情報の入力」](#)を参照してください。
7. アプリケーションを最初に配置する場合、アウトラインの作成を選択して、アプリケーション・データが保管される Essbase データベースを更新します。
8. **オプション:** アプリケーション構造の変更後にアプリケーション・データベースをリフレッシュするには、アウトラインのリフレッシュを選択します。
9. **オプション:** セキュリティ・フィルタの作成を選択して、暗号化されたデータ・ファイル(Essbase.sec)にアクセス権を保管します。アプリケーション内のすべてのユーザーのセキュリティ・フィルタを生成するには、セキュリティ・フィルタの作成を選択しますが、セキュリティ・フィルタ制限の検証は選択しないでください。
10. **オプション:** 共有メンバーのセキュリティ・フィルタを選択して、共有メンバーにアクセス権を適用します。
11. **オプション:** セキュリティ・フィルタ制限の検証を選択し、Essbase セキュリティ・フィルタの制限である 1 行当たり 64 KB を超えているセキュリティ・フィルタを特定します。これにより、Essbase セキュリティ・フィルタの構築時に、ファイル・サイズがサイズ制限を超えていないことが検証されます。
12. ビジネス・ルールを配置する場合、ルールの配置またはルールの検証に失敗してもルールの配置を続行するを選択することもできます。ビジネス・ルールを配置する方法の詳細は、Hyperion Calculation Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

4 配置をクリックします。

注: 単一通貨アプリケーションを配置する場合、エンティティ・メンバーの Currency プロパティがアプリケーションのデフォルト・プロパティに設定されます。

Planning アプリケーションが自動的に Shared Services に登録され、Planning に配置されます。進捗状況およびエラー・メッセージを表示するには、Planning アプリケーション・サーバーを開きます。

配置後に作成した Planning アプリケーションにログインする際は、ユーザー名およびパスワードを使用します。『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

注: 配置が中断または削除された場合、ステータスは「配置の保留中」となり、配置がタイムアウトすることがあります。デフォルトのタイムアウト値は 8 時間です。このデフォルトは、awbconfig.properties で変更できます。配置がタイムアウトした場合、アプリケーションを再度配置する必要があります。配置と同期されていることがステータスに示されている場合でも、タイムアウトのために同期されていない場合があります。

連結アプリケーションの配置

除去された次元メンバーからのデータの消去については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

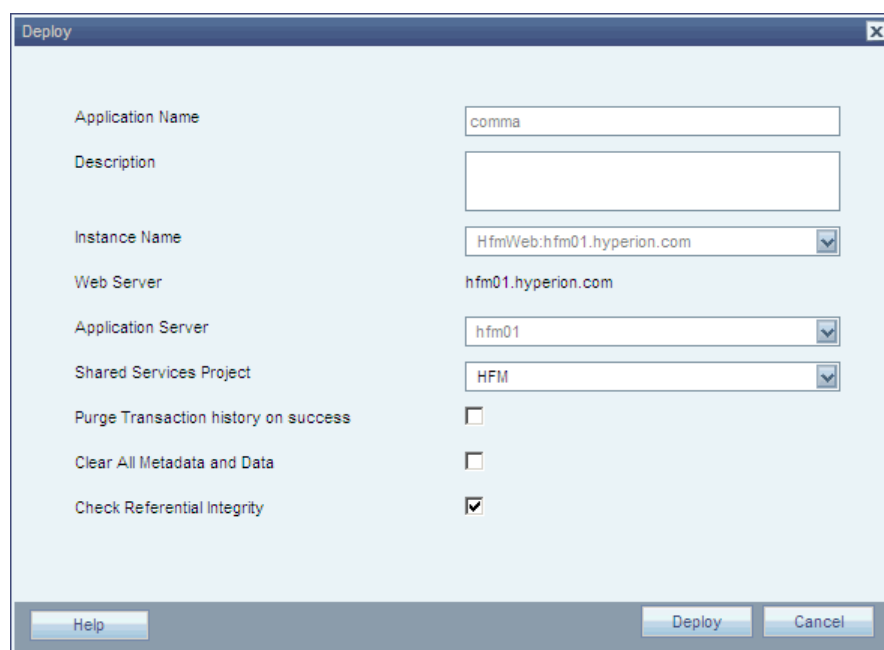
▶ 連結アプリケーションを配置するには:

- 1 ナビゲート、管理、アプリケーション・ライブラリの順にクリックします。
- 2 連結アプリケーションを右クリックし、配置、アプリケーションの順に選択します。

また、ルールのみ配置する場合は「ルール」を選択し、ビジネス・ルールとともにアプリケーションを配置する場合は「すべて」を選択できます。ビジネス・ルールの配置については、Calculation Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

- 3 「アプリケーション検証エラー」ダイアログ・ボックスが表示されたら、エラーを修正し、もう一度配置してみてください。

「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。



Application Name	comma
Description	
Instance Name	HfmWeb:hfm01.hyperion.com
Web Server	hfm01.hyperion.com
Application Server	hfm01
Shared Services Project	HFM
Purge Transaction history on success	<input type="checkbox"/>
Clear All Metadata and Data	<input type="checkbox"/>
Check Referential Integrity	<input checked="" type="checkbox"/>

Buttons: Help, Deploy, Cancel

4 次のタスクを実行します:

- 1 インスタンス名を選択します。
- 2 アプリケーション・サーバーを選択します。
- 3 Shared Services プロジェクトを選択します。
- 4 オプション: 成功トランザクション履歴を削除を選択します。
- 5 オプション: すべてのメタデータとデータの消去を選択します。 - アプリケーション・データベース内のすべての次元メンバー、対応するデータ、仕訳および内部取引が削除されます。
- 6 オプション: 参照整合性のチェック - メタデータとデータ間の整合性がチェックされます。たとえば、メンバーを名前変更し、「参照整合性のチェック」を選択すると、配置ログには、名前変更により影響を受けたすべてのアーチ

ファクトがリストされます。『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

注： アプリケーションの配置後は、年、期間またはビューの次元を変更できません。

5 配置をクリックします。

注： 配置が中断または削除された場合は、ステータスが「配置の保留中」と表示されたり、配置がタイムアウトになったりします。デフォルト・タイムアウトは8時間です。デフォルトは `awbconfig.properties` で変更できます。配置がタイムアウトになった場合、もう一度アプリケーションを配置する必要があります。ステータスで配置との同期が示されている場合でも、タイムアウトのため、同期されていない可能性があります。

収益性アプリケーションの配置

▶ Profitability and Cost Management アプリケーションを Performance Management Architect で配置するには、次の手順を行います：

- 1 ナビゲート、管理者、アプリケーション・ライブラリの順に選択します。
- 2 アプリケーション・ライブラリから、配置するアプリケーションを選択します。
- 3 アプリケーション名を右クリックし、検証を選択して、Performance Management Architect に新たに作成した Profitability and Cost Management アプリケーションを検証します。

Profitability and Cost Management の検証条件の詳細なリストを表示するには、[付録 F「アプリケーションの検証」](#)を参照してください。

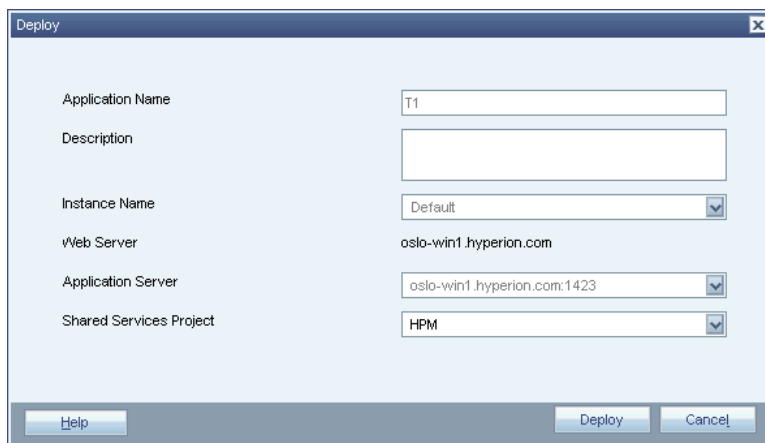
検証が完了すると、ジョブ・コンソールが表示され、関連付けられたジョブ番号が表示されます。



- 4 関連付けられたジョブのリンクをクリックすると、ジョブ・コンソールが表示されます。
- 5 ジョブ・コンソールの要約を確認します。エラーがある場合、「添付ファイル」の下にある検証ログのリンクをクリックして、すべての検証エラーまたはメッセージの完全リストを表示します。
- 6 検証ログ内のエラーをすべて修正します。
- 7 エラーがなくなり検証に成功するまで、[手順 3](#)から[手順 6](#)を繰り返すと、アプリケーションの配置に成功します。

- 8 アプリケーション・ライブラリで、アプリケーション名を右クリックし、ドロップダウン・リストから配置を選択します。

「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 9 次の情報を入力します:

- 配置されているアプリケーションの名前を入力します
- オプション: アプリケーションの説明を入力します。
- インスタンス名で、アプリケーションの配置先の Profitability and Cost Management インストール名を選択します。

Profitability and Cost Management アプリケーションは、単一マシンまたはクラスタの一部として複数のマシンにインストールできます。各インストールまたはインスタンスは、「インスタンス名」ドロップダウン・リストに表示されます。初回インストール時には、コンフィグレータ・ツールで使用するインスタンスの名前がデフォルトで指定されます。

- アプリケーション・サーバーを選択します。
- Shared Services プロジェクトで、「Profitability and Cost Management」アプリケーション・グループを選択します。

注: Profitability and Cost Management グループは、配置の初回選択時には表示されません。Oracle Hyperion(R) Shared Services Console で、Profitability and Cost Management アプリケーション・グループまたはプロジェクトを作成する必要があります。

- 10 配置をクリックします。

検証ジョブが送信されたことを確認する「ジョブ・タスク」ウィンドウが表示され、ジョブ ID が表示されます。

- 11 ジョブ・タスクウィンドウでリンクをクリックすると、ジョブ・ステータスが表示されます。

ジョブを完了すると、新規アプリケーションが作成され、Profitability and Cost Management に配置されたことを示すメッセージが詳細に表示されます。新規アプリケーションを選択できるようになります。

Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションの配置

Essbase アプリケーションの配置前に完了する必要があるタスクは次のとおりです:

- Essbase 管理サービス・コンソールから、Performance Management Architect で使用する Analytic Server を登録する必要があります。登録については、『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』を参照してください。
- ユーザーは、Shared Services で、Essbase アプリケーション作成者のユーザー役割によりプロビジョニングされている必要があります(ユーザー管理コンソールで、「Hyperion Shared Services」、「グローバル役割」、「アプリケーション作成者」、「Essbase アプリケーション作成者」の順に設定します)。プロビジョニングの詳細は、Shared Services のドキュメントを参照してください。

Essbase アプリケーションの配置時に考慮する必要があるガイドラインは次のとおりです:

- Essbase アプリケーションには、次元の固定されたセットは必要ありません。たとえば、1つの汎用次元および1つのメンバーのみが含まれる Essbase アプリケーションを作成して配置できます。
- Performance Management Architect を使用して、ハイブリッド分析または拡張リレーショナル・アクセス・キューブを作成できません。
- 一般的な検証エラーの1つに、メンバー名に無効な文字が含まれている、というものがあります。大かっこ([])がメンバー名に含まれている場合にこのエラーが発生します。このエラーの回避方法は次のとおりです:
 - 大かっこを無効な文字とする検証メッセージを無視します。
 - アプリケーションで、[144 ページの「メンバーの除外」](#)で説明されているように、「メンバーを除外」コマンドを使用して、大かっこが含まれているメンバーを消去します。

注： Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションの配置プロセスに違いはありません。

Essbase アプリケーションのプロパティと、次元およびメンバーについては、[付録 D 「Essbase プロパティの操作」](#)で説明します。

アプリケーションおよびデータベースの Essbase 要件の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』および『Oracle Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』を参照してください。

- ▶ Essbase (ASO)アプリケーションまたは Essbase (BSO)アプリケーションを配置するには:
 - 1 ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリの順にクリックします。
 - 2 「Essbase (ASO)」または「Essbase (BSO)」アプリケーションを右クリックし、配置を選択します。

- 3 アプリケーション検証エラーダイアログ・ボックスが表示されたら、配置をもう一度クリックします。

注： また、「アプリケーション検証エラー」ダイアログ・ボックスで「エラーの表示」をクリックして、「検証要約」ダイアログ・ボックスを表示できます。「詳細」をクリックして、エラーを確認し、アプリケーションを編集して必要な修正を行います。修正を行ったら、配置プロセスを再開します。

「配置」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4 次のタスクを実行します：

1. アプリケーションを配置する Essbase サーバー・インスタンスのインスタンス名を選択します。

これは、Performance Management Architect に Essbase サーバーを登録したときに作成した名前です。登録手順については、『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』を参照してください。

2. **オプション:** 再配置を行い(以前配置していたアプリケーション上に配置)、既存のアプリケーションのデータを消去する必要がある場合には、すべてのデータを消去を選択します。

5 配置をクリックします。

注： 配置が中断または削除された場合は、ステータスが「配置の保留中」と表示されたり、配置がタイムアウトになったりします。デフォルト・タイムアウトは 8 時間です。デフォルトは `awbconfig.properties` で変更できます。配置がタイムアウトになった場合、もう一度アプリケーションを配置する必要があります。ステータスで配置との同期が示されている場合でも、タイムアウトのため、同期されていない可能性があります。

アプリケーションの再配置

再配置では、前回の配置後に行った変更のタイプに基づいて、アプリケーション・メタデータのマージまたは置換が実行されます。たとえば、アプリケーション内の階層でメンバーが移動されたかまたは削除された場合は、置換モードでメタデータの再配置が実行されます。前回の配置後にアプリケーションに対してプロパティのみ更新された場合は、メタデータの再配置はマージ・モードで実行されます。

- アプリケーションを再配置するには、アプリケーションを右クリックし、配置を選択します。

206 ページの「[Planning アプリケーションの配置](#)」を参照してください。

Planning アプリケーションの再配置時における考慮事項

再配置前に、プロパティが正しく、要件を満たしていることを確認します。アプリケーションが正しく設定されていない場合、配置は失敗し、エラー・メッセージが表示されます。Planning アプリケーションが表示された後、次のプロパティを変更できません：

- アプリケーションで単一通貨を使用しているか、複数通貨を使用しているか。たとえば、複数通貨を選択して配置した後、複数通貨を後で消去して、単一通貨を使用できません。同様に、単一通貨のアプリケーション上では、後で複数通貨を選択できません。
- デフォルト・アプリケーションの通貨。たとえば、USD を使用する場合、後で EUR に変更できません。
- カレンダのタイプ。たとえば、「基本期間」を「12 か月」に設定した場合、後で「四半期」に変更できません。
- 会計開始月。「開始月」を設定した後は、変更できません。
- 開始年。たとえば、「開始年」を「2008」に設定した場合、後で「2007」に変更できません。ただし、最初の年の後に年を追加できます。
- 年の追加。年を追加した後は、除去できません。たとえば、配置したアプリケーションに FY08 が含まれている場合、この年を除去できません。
- 「週の配布」パターン。たとえば、「週の配布」を「445」と設定した場合、後で「544」や「偶数」に変更できません。
- アプリケーションに含まれているプラン・タイプ。たとえば、アプリケーションをプラン 1 およびプラン 2 のプラン・タイプとして選択して配置した場合、後でプラン 3 の追加またはプラン 2 の除去はできません。次元メンバーに対する「プラン・タイプに有効」はいつでも変更できます。ただし、配置後のアプリケーションに含まれているプラン・タイプは変更できません。
- 追加された次元。事前に定義されている次元を含めて、全部で 20 個まで次元を追加できます。次元の名前変更はできますが、削除できません。
- 事前に定義されている次元。事前に定義されている次元は削除できません。単一通貨アプリケーションには、シナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間および年の次元が必要です。複数通貨アプリケーションには、シナリオ、バージョン、エンティティ、勘定科目、期間、年および通貨の次元が必要です。

注意 プランニングの各データ値は、次元メンバー・セットおよびプラン・タイプによって識別されます。アプリケーションから次元メンバーを除外すると、これは配置時の削除アクションになります。詳細は、[128 ページの「プランニング・メンバーの除外および削除」](#)を参照してください。

アプリケーションからメンバーを除外する前またはプランニングに配置する前に、プランニング内で「使用の表示」機能を使用して、メンバーがアプリケーション内のどこで使用されているか、および配置時に次元メンバーをアプリケーションから除外する影響を判断します。「使用の表示」機能の詳細は、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

Planning アプリケーションの再配置

▶ Planning アプリケーションを再配置するには:

- 1 Planning アプリケーションを右クリックし、配置を選択します。

2 Shared Services プロジェクトを選択します。

Shared Services プロジェクトは、アプリケーションが Shared Services に登録された後でのみ使用できます。Performance Management Architect を配置するかまたは Shared Services を使用してこのアプリケーションを登録すると、アプリケーションは自動的に登録されます。

3 アウトラインのリフレッシュを選択し、必要に応じて追加のセキュリティ・オプションを選択します。206 ページの「Planning アプリケーションの配置」を参照してください。

4 OK をクリックします。

アプリケーションが Planning に配置されます。進行状況およびエラー・メッセージを表示するには、Planning アプリケーション・サーバーを開きます。

注： 単一通貨アプリケーションを再配置すると、エンティティ・メンバーの Currency プロパティはアプリケーションのデフォルト・プロパティに設定されます。

プランニング・データ・ソースの管理

データ・ソースはリレーショナル・データベースおよび Essbase サーバーをリンクします。プランニングの場合、各アプリケーションがデータ・ソースと関連付けられている必要があります。名前、説明、Unicode のサポート、使用、データベース・タイプ、名前、サーバー、ユーザー名、Essbase サーバー情報などを含む、データ・ソースの要約詳細を表示できます。

データ・ソースを作成および更新するには、217 ページの「データ・ソース情報の入力」を参照してください。データ・ソースを削除するには、219 ページの「データ・ソースの削除」を参照してください。

注： 各アプリケーションはインスタンスと関連付けられている必要もあります。インスタンスは EPM System コンフィグレータで操作します。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

データ・ソース・ウィザードの開始

データ・ソース・ウィザードを使用して Planning アプリケーションのデータ・ソースを作成および更新できます。データ・ソースはリレーショナル・データベースおよび Essbase サーバーをリンクします。このタスクを実行する前に、Essbase サーバーが実行されていることを確認してください。

データ・ソースを削除するには、219 ページの「データ・ソースの削除」を参照してください。

▶ データ・ソース・ウィザードを開始するには:

- 1 アプリケーション・ライブラリで、ツールを選択し、プランニング・データ・ソースの管理を選択します。

2 次のいずれかのアクションを実行します:

- データ・ソースを作成するには、ファイル、新規、データ・ソースの順に選択します。
- データ・ソースを更新するには、データ・ソースを右クリックし、編集を選択します。

3 217 ページの「データ・ソース情報の入力」に進みます。

データ・ソース情報の入力

▶ データ・ソース情報を入力するには:

1 データ・ソース・ウィザードのナビゲーション・フレームで、1. データ・ソースの詳細をクリックします。

ウィザードを開始するには、216 ページの「データ・ソース・ウィザードの開始」を参照してください。

2 データ・ソース名を入力します。

データ・ソースが作成された後は、この名前を更新できません。

3 オプション: データ・ソースの説明を入力します。

4 オプション: Unicode をサポートを選択して、アプリケーションを Unicode モードに設定します。Unicode モードのアプリケーションは複数の文字セットをサポートします。

5 次へをクリックし、217 ページの「データベースの選択」に進みます。

データベースの選択

データベースに接続している必要があります。また、サポートされているデータベース・タイプである必要があります。サポートされているデータベースについては、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』ガイドを参照してください。

注: データベースを構成する前に、プランニングが Shared Services に登録され、アプリケーション・サーバーに配置されていることを確認します。プランニングに対してデータベースを構成する際に、以前に構成されているデータベースが検出された場合、新規データベースを作成するか、既存のデータベースを再利用するかを尋ねるメッセージが表示されます。製品アップグレードを構成する場合には、このページのフィールドはパスワード以外、読取り専用になります。

オプションを設定して、アプリケーションを Unicode モードに設定できます。Unicode モードのアプリケーションは、複数の文字セットをサポートします。Essbase は UTF-8 エンコード方式を使用して、文字テキストを解釈して保管します。Unicode モードのアプリケーションでの文字ベースのアーチファクト(メンバー、別名など)には別の言語の文字を含めることができます。詳細は、Oracle Essbase データベース管理者オンライン・ヘルプを参照してください。

▶ データベースを選択するには:

- 1 データ・ソース・ウィザードのナビゲーション・フレームで、2. データベースの詳細をクリックします。

ウィザードを開始するには、216 ページの「データ・ソース・ウィザードの開始」を参照してください。

- 2 データベース・タイプフィールドがアクティブ化されている場合には、MS SQL Server、Oracle、IBM DB2 のいずれかを選択します。
- 3 データベース構成の詳細を追加または更新します:
 - サーバー: データベースをホストするサーバー。
 - ポート: ポート番号。デフォルト・ポートの詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』ガイドを参照してください。
 - データベース: データベースの名前。
 - ユーザー名: データベース・ユーザー名。
 - パスワード: データベース・パスワード。
- 4 オプション: 接続のテストをクリックして、データ・ソースとの接続をテストします。
- 5 次へをクリックして、218 ページの「Essbase サーバーの構成」に進みます。

Essbase サーバーの構成

▶ Essbase サーバーを構成するには:

- 1 データ・ソース・ウィザードのナビゲーション・フレームで、3. Essbase サーバーの詳細をクリックします。

ウィザードを開始するには、216 ページの「データ・ソース・ウィザードの開始」を参照してください。

- 2 サーバーの詳細を更新します:
 - Essbase サーバー名
Essbase サーバー名はポート番号とともにリストできます。たとえば localhost:1423 のようにリストできます。
 - Essbase ユーザー名
 - Essbase パスワード
- 3 オプション: 接続のテストをクリックして、Essbase サーバーの接続をテストします。
- 4 次へをクリックして、218 ページの「要約詳細の表示」に進みます。

要約詳細の表示

詳細を表示した後に、データ・ソースを作成または更新できます。

注： データ・ソースを作成した後、必要に応じて、Oracle の Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータを使用して、インスタンスを更新できます。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

▶ 要約詳細を表示するには:

- 1 データ・ソース・ウィザードのナビゲーション・フレームで、4. 要約詳細をクリックします。

ウィザードを開始するには、216 ページの「データ・ソース・ウィザードの開始」を参照してください。

- 2 設定がよければ、終了をクリックします。

設定を更新するには、「戻る」をクリックし、変更したら、このタブに戻り、「終了」をクリックします。

データ・ソースの削除

アプリケーションに関連付けられていないデータ・ソースを削除できます。

▶ データ・ソースを削除するには:

- 1 アプリケーション・ライブラリで、ツールを選択し、プランニング・データ・ソースの管理を選択します。

- 2 アプリケーションに関連付けられていないデータ・ソースを右クリックして、削除を選択します。

データ・ソースがアプリケーションに関連付けられている場合、このオプションは使用できません。

- 3 プロンプトで OK をクリックし、データ・ソースを削除します。

第 III 部

ビジネス・ルールの管理

ビジネス・ルールの管理の内容：

- Calculation Manager の概要
- ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計
- テンプレートの操作
- コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計
- メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計
- ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置
- Essbase ビジネス・ルールの起動
- ビジネス・ルールの移行
- ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポートおよびインポート

8

Calculation Managerの概要

この章の内容

Calculation Manager について	223
Calculation Manager の前提条件	223
Calculation Manager のセキュリティ	225
EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス	226
Workspace および Calculation Manager のツールバーの使用方法	227
Calculation Manager のメニューの使用方法	228
Calculation Manager のフロー・チャートの使用方法	233
Calculation Manager のビューおよびフィルタの使用方法	233

Calculation Manager について

Calculation Manager を使用して、Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition、Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition および Oracle Essbase のビジネス問題を解決する高度な計算の作成、検証、配置および管理を行います。Calculation Manager には、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition 内からアクセスします。

Calculation Manager で計算できるオブジェクトは次の 3 種類です:

- ルールセット。同時にまたは連続して計算できるルールが含まれるオブジェクト(第 9 章「ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計」を参照。)
- ルール。コンポーネントおよびテンプレートが含まれるオブジェクト(第 9 章「ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計」を参照。)
- コンポーネント。式コンポーネント、スクリプト・コンポーネント、条件コンポーネント、範囲コンポーネントおよび固定ループ・コンポーネントが含まれるオブジェクト(第 11 章「コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計」を参照。)

Calculation Manager の前提条件

EPM Workspace にログオンして Calculation Manager にアクセスする前に、次のタスクを実行しておく必要があります:

1. Oracle Hyperion(R) Shared Services をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)
2. EPM Workspace をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)
3. (Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition アプリケーション・ユーザーのみ)Performance Management Architect をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)

注： クラシック Planning または Financial Management アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect をインストールする必要はありません。

4. Hyperion Calculation Manager をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)
5. **オプション:** Financial Management、Planning または Essbase、あるいはこれらの製品すべてにビジネス・ルールを配置する場合には、これらの製品をインストールし、構成しておく必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)
6. 少なくとも1つの Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションが Performance Management Architect のメタデータとともにインストールされている必要があります。

このガイドの第2部を参照してください。

7. Shared Services でユーザーをプロビジョニングし、役割を割り当てる必要があります。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照。)
8. 次のサーバーがインストールされ、実行されていることを確認する必要があります:(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照。)
 - Shared Services サーバー
 - EPM Workspace サーバー
 - Performance Management Architect アプリケーション・サーバー
 - Performance Management Architect 次元サーバー

注： Performance Management Architect アプリケーション・サーバーと次元サーバーは Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合にのみ実行する必要があります。クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを使用する場合は、これらのサーバーを実行する必要はありません。

- Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション、あるいはすべてのアプリケーションにビジネス・ルールおよびルールセットを配置する場合は、Financial Management サーバー、Planning サーバーまたは Essbase サーバー、あるいはすべてのサーバー。
- Calculation Manager サーバー

注： これらのサーバーのいずれかがサービスとしてインストールされている場合は、自動的に開始されている可能性があります。

9. EPM Workspace を起動し、ログオンする必要があります。(226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照。)
10. 「ナビゲート」、「管理」、「Calculation Manager」の順に選択し、Calculation Manager を起動する必要があります。

Calculation Manager のセキュリティ

Calculation Manager で、オブジェクト(つまり、ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、コンポーネントおよびテンプレート)の作成および編集ができるかどうかは、Shared Services で割り当てられている役割および Calculation Manager でのオブジェクトの所有権によって決まります。Financial Management、Planning および Essbase の役割とセキュリティの詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Calculation Manager でビジネス・ルールやその他のオブジェクトを作成、編集および削除できるかどうかに対して、割り当てられている役割がどのように影響するかについてのパターンは次の 3 つです:

- 使用しているアプリケーションが配置されていない場合は、Calculation Manager でビジネス・ルールやその他のオブジェクトを作成、編集および削除するための 4 つの役割のうちの 1 つが必要です:
 - グローバル Calculation Manager の管理者役割では、Planning、Financial Management および Essbase オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。
 - Financial Management Calculation Manager の管理者役割では、Financial Management オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。
 - Planning Calculation Manager の管理者役割では、Planning オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。
 - Essbase の管理者役割では、Essbase オブジェクトの作成、編集および削除が可能です。

注： Essbase の管理者役割は、Essbase から継承されます。Essbase Calculation Manager の管理者役割はありません。

ビジネス・ルールとその他のオブジェクトを配置したら、セキュリティの起動を定義します。次に、Financial Management ビジネス・ルールセットを Financial Management で、Planning ビジネス・ルールを Planning で、Essbase ビ

ビジネス・ルールを Oracle Essbase Administration Services または Calculation Manager でそれぞれ起動できます。

注： Financial Management ビジネス・ルールセットは Financial Management のみ、Planning ビジネス・ルールは Planning のみ起動できます。

- 使用しているアプリケーションが配置済で、そのアプリケーションに対して管理者権限を持つ場合(つまり、配置済アプリケーションに対して、Financial Management Calculation Manager 管理者の役割、Planning 管理者のアプリケーション固有の役割、または Essbase 管理者のアプリケーション固有の役割を持つ場合)、そのアプリケーションに属するビジネス・ルールを作成、編集および削除できます。
- 使用しているアプリケーションが配置済で、そのアプリケーションに対してデザイナー権限を持つ場合(つまり、配置済アプリケーションに対して、Financial Management 計算デザイナーまたは Planning 対話型ユーザーのアプリケーション固有の役割を持つ場合)、ユーザー自身のルールの作成、編集および削除と、他のユーザーのルールの表示を行えます。他のユーザーのルールは、そのユーザーから「所有権の変更」機能を使用してルールの所有権を割り当てられている場合を除き、編集できません。(277 ページの「オブジェクトの所有者の変更」を参照。)

注： 使用しているアプリケーションが配置済で、Financial Management ビューアまたはプランニング表示ユーザーのアプリケーション固有の役割を持つ場合は、ルールの表示のみ可能です。

EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス

Calculation Manager にアクセスするには、EPM Workspace にログオンし、ここから Calculation Manager を起動する必要があります。

▶ EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager にアクセスするには:

- 1 Web ブラウザから「`http://<WebServer>:<port>/workspace/`」と入力します。
<WebServer>は Web サーバーのコンピュータ・ホスト名で、<port>は Web サーバーのリスニング・ポートです。たとえば、Oracle の Hyperion Reporting and Analysis で構成されている Apache インスタンスを使用している場合には、ポート番号は 19000 です。

注： Calculation Manager を起動する前に、Shared Services サーバー、EPM Workspace サーバー、Calculation Manager サーバー、Performance Management Architect アプリケーション・サーバーおよび次元サーバー(Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合)がすべて実行されている必要があります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- 2 EPM Workspace のログオン・ダイアログ・ボックスに、システム・ユーザー名およびパスワードを入力し、ログオンをクリックします。

URL の設定の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注： Performance Management Architect でユーザーを認証できないことを示すエラー・メッセージが表示された場合は、アプリケーションに対してユーザーがプロビジョニングされているか(プロビジョニングされていない場合は、Shared Services を使用してユーザーをプロビジョニングする)、ユーザーのトークンまたはセッションがタイムアウトされていないか(タイムアウトされている場合は、いったんログオフしてからログオンして新規セッションを開始する)を確認します。

- 3 Calculation Manager にアクセスするには、ナビゲート、管理、Calculation Manager の順に選択します。

Calculation Manager のシステム・ビューが、アクセスできる Financial Management、Planning および Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションのリストとともに表示されます。

Shared Services で割り当てられているユーザー役割に応じて(対話型ユーザーまたは管理者の役割が必要)、Calculation Manager を使用してビジネス・ルール、ビジネス・ルールセットおよびコンポーネントを表示、作成および管理できます。(『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照。)




Workspace および Calculation Manager のツールバーの使用方法




Calculation Manager を使用する場合、EPM Workspace、Performance Management Architect および Calculation Manager からツールバーにアクセスできます。この項では、使用可能なツールバーの概要について説明します。

標準ツールバー

標準ツールバーには、EPM Workspace 内のアプリケーションで共通の機能およびタスク用のボタンが含まれます。

表 17 標準ツールバーのボタン








ボタン	メニュー・コマンド	説明
	該当なし	コンテンツ領域のデフォルトの起動オプションが表示されます
	「ファイル」>「新規」>「ドキュメント」	ブック、バッチ、分析ドキュメント、スケジュール済バッチ・ジョブなどのドキュメントを作成します
	「ファイル」>「開く」>「ドキュメント」	リポジトリ・ドキュメントを開きます

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ナビゲート」 > 「エクスプローラ」	エクスプローラが表示されます。ここから、リポジトリがファイル管理システムとして表示されます。
	「ファイル」 > 「ログオフ」	現在のセッションを終了します
	「ヘルプ」 > 「このトピックに関するヘルプ」	コンテンツ・ペインに表示されているページのヘルプを表示します

Calculation Manager のツールバー

Calculation Manager のツールバーには、EPM Workspace のボタンに加えて、Calculation Manager 固有のボタンが表示されます。すべてのビューやデザイナーにすべてのボタンが表示されるわけではありません。

表 18 Calculation Manager のツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	表示、システム・ビュー	Calculation Manager 内にメイン・ビューが表示されます。(これがデフォルト・ビューです。)
	表示、リスト・ビュー	アプリケーション・タイプ、アプリケーション、オブジェクト・タイプ、計算またはプラン・タイプおよび配置または検証ステータス別にフィルタできるオブジェクトのリストが表示されます。
	表示、カスタム・ビュー	カスタマイズできるビューが表示されます。フォルダを作成し、オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップできます。
 (このボタンはリスト・ビューでのみ使用できます。)	ツール、フィルタ	リスト・ビューでオブジェクトをフィルタするために使用できる「フィルタ」ダイアログ・ボックスが開きます。
	該当なし	最新の変更でビューをリフレッシュします。
	アクション、検証	ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントのデザイナーで操作するオブジェクトを検証します。
	ファイル、保存	ルール、ルールセット、テンプレート、式、スクリプトおよび変数のデザイナーで操作するオブジェクトを保存します。

Calculation Manager のメニューの使用方法

Calculation Manager での作業中、EPM Workspace のメニューおよびメニュー・オプションに加えて Calculation Manager のメニューおよびメニュー・オプションが表示されます。このメニューおよびメニュー・オプションは使用しているビュー

および作業しているオブジェクトによって異なります。この項では、システム・ビューの Calculation Manager を起動したときに表示されるデフォルト・ビューから使用可能な Calculation Manager のメニューおよびメニュー・オプションについて説明します。

次のトピックを参照してください:

- [229 ページの「ファイル」メニュー](#)
- [230 ページの「編集」メニュー](#)
- [230 ページの「表示」メニュー](#)
- [231 ページの「お気に入り」メニュー](#)
- [231 ページの「ツール」メニュー](#)
- [232 ページの「アクション」メニュー](#)
- [232 ページの「ヘルプ」メニュー](#)

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューでは、新規オブジェクトの作成、オブジェクトを開いたり、閉じたり、オブジェクトのインポートおよびエクスポート、ルール印刷およびログオフができます。「ファイル」メニューのオプションには、EPM Workspace および Calculation Manager のオプションがあります。この項では、Calculation Manager の「ファイル」メニュー・オプションのみ説明します。

表 19 「ファイル」メニュー

コマンド	説明
新規、ルール	新規ルールを作成します
新規、ルールセット	新規ルールセットを作成します
新規、カスタム定義テンプレート	新規カスタム定義テンプレートを作成します
新規、式コンポーネント	式コンポーネントを作成します
新規、スクリプト・コンポーネント	スクリプト・コンポーネントを作成します
開く	アプリケーション・リストから選択されるオブジェクトを開きます
印刷	アプリケーション・リストから選択されるビジネス・ルールを印刷します
インポート	「インポート」ダイアログ・ボックスが開きます
エクスポート	アプリケーション・リストから選択されるオブジェクトをエクスポートします

「編集」メニュー

「編集」メニューでは、選択したオブジェクトを編集できます。このメニューは、ほとんどの Calculation Manager ビューや、ルール、コンポーネントおよびテンプレートのデザイナー内から使用できます。

注： このメニューは、EPM Workspace では使用できません。Calculation Manager 内からのみ使用できます。

表 20 「編集」メニュー

コマンド	説明
編集、削除	システム・ビュー、リスト・ビューまたはカスタム・ビューで選択されているオブジェクトを削除します
編集、コピー	選択されているテキストをコピーします
編集、貼付け	クリップボードにコピーされているテキストをカーソルの右側に貼り付けます
編集、参照のコピー	コンポーネントへの参照をコピーします
編集、グループのコピー	コンポーネント・グループをコピーします
編集、グラフィカル/スクリプト	ルールまたはテンプレートとそのコンポーネントのグラフィカル表示と、ルールまたはテンプレートとそのコンポーネントの生成されたスクリプト間で表示を切り替えます

注： 「編集」メニューは配置ビュー内では使用できません。

「表示」メニュー

「表示」メニューから、Calculation Manager で様々なビューを開くことができます。システム・ビューは、Calculation Manager を起動すると表示されるデフォルト・ビューです。配置ビューを選択した場合は、Calculation Manager はシステム・ビューを開いたまま、別のタブで配置ビューを開きます。リスト・ビューまたはカスタム・ビューを選択した場合は、Calculation Manager はシステム・ビューを閉じてから、リスト・ビューまたはカスタム・ビューを同じタブで開きます。

「表示」メニュー・オプションには、EPM Workspace および Calculation Manager のオプションが含まれています。この項では、Calculation Manager の「表示」メニュー・オプションのみ説明します。

表 21 「表示」メニュー

コマンド	説明
表示、ビュー・ペイン	カスタム・ビュー、ルール・デザイナー、ルールセット・デザイナー、テンプレート・デザイナーおよびコンポーネント・デザイナーで、ルール、ルールセット、コンポーネントおよびテンプレートにドラッグ・アンド・ドロップで追加できる既存オブジェクトまたは新規オブジェクト、あるいはその両方のリストの表示および非表示を切り替えます。

コマンド	説明
	注： これは、ルール・デザイナー、ルールセット・デザイナー、テンプレート・デザイナーおよびコンポーネント・デザイナー内から使用できる唯一の「表示」メニュー・オプションです。
表示、リスト・ビュー	「フィルタ」ダイアログ・ボックスで選択したオブジェクトのリストが表示されます。「フィルタ」ダイアログ・ボックスで、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、およびオブジェクト別にフィルタされたリストを作成できます。
表示、システム・ビュー	アクセスできる Financial Management、Planning および Essbase アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、およびオブジェクトのリストが表示されます。(これは Calculation Manager のデフォルト・ビューです。)
表示、カスタム・ビュー	フォルダを作成し、そこにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップすることにより、カスタマイズできるビューが表示されます。このビューにより、自分の目的に合うようにオブジェクトを整理できます。
表示、配置ビュー	配置されているルールとルールセットおよび配置されていないルールとルールセットのリストがアプリケーション・タイプおよびアプリケーション別に表示されます。配置および検証ステータスが表示されます。

「お気に入り」メニュー

「お気に入り」メニューは、EPM Workspace およびその製品内のページにブックマークを作成するために使用できる EPM Workspace のメニューです。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

「ツール」メニュー

「ツール」メニューには、Calculation Manager および EPM Workspace のツールが含まれます。ここから、他の製品のインストール、オブジェクトの検索、リスト・ビュー用のフィルタされたオブジェクト・リストの作成、オブジェクトのキャプションの編集および変数ナビゲータへのアクセスができます。この項では、Calculation Manager の「ツール」メニュー・オプションのみ説明します。

表 22 「ツール」メニュー

コマンド	説明
ツール、フィルタ	「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここから、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、オブジェクト・タイプ(ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネント、またはテンプレート)、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、および配置または検証ステータス別にフィルタできます。また、「すべて」を選択すると、配置および検証ステータスに関係なく、すべてのアプリケーション・タイプ、すべてのアプリケーション、すべてのオブジェクト、およびすべての計算タイプ、プラン・タイプおよびデータベースを表示できます。 注： このメニュー・オプションは、配置ビュー内では使用できません。

コマンド	説明
ツール、変数	変数ナビゲータが表示されます。ここで、コンポーネントの変更を作成できます 注： このメニュー・オプションは、配置ビュー内では使用できません。
ツール、クイック編集	ルールおよびテンプレート・デザイナ内から、フロー・チャートのコンポーネントのキャプションを編集できます。

「アクション」メニュー

「アクション」メニューでは、ビュー、およびルール、ルールセット、テンプレートおよびコンポーネントのデザイナ内から選択したオブジェクトの検証、移行および配置ができます。「アクション」メニューのすべてのオプションをすべてのビューおよびデザイナ内から使用できるわけではありません。

注： 「アクション」メニューは Calculation Manager 内からのみ使用できます。

表 23 「アクション」メニュー

コマンド	説明
アクション、検証	選択したルール、ルールセット、スクリプト、式コンポーネントまたはテンプレートを検証します 注： これは、配置ビュー内からのみ使用できる「アクション」メニュー・オプションです。
アクション、移行	選択したルールまたはルールセットを移行します
アクション、配置	選択したルールまたはルールセットを配置します
アクション、クイック配置	通常の配置より少ない手順でルールを配置します 注： この機能は、Planning および Essbase ビジネス・ルールのルール・デザイナ内からのみ使用できます。Planning ルールは、デフォルトで Planning に配置され、Essbase ルールは、デフォルトで Essbase に配置されます。

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューから、Calculation Manager のヘルプ、EPM Workspace 内の他の製品のヘルプおよび Oracle Web サイトのその他のリソースにアクセスできます。

表 24 「ヘルプ」メニュー

コマンド	説明
ヘルプ、このトピックに関するヘルプ	現在の Web ページのコンテキスト依存ヘルプを起動します

コマンド	説明
ヘルプ、目次	Calculation Manager ヘルプ・システム(または現在使用している製品のヘルプ・システム)を起動します
ヘルプ、Oracle サポート - http://www.oracle.com/support/index.html	Oracle Web サイトのサポート・ページを起動します
ヘルプ、Oracle Technology Network - http://www.oracle.com/technology/index.html	Oracle Web サイトの Oracle Technology Network ページを起動します
ヘルプ、Oracle Web サイト - http://www.oracle.com/index.html	Oracle Web サイトを起動します
ヘルプ、EPM Workspace のバージョン情報	EPM Workspace の著作権およびバージョン情報を起動します

Calculation Manager のフロー・チャートの使用方法

ルールおよびテンプレートとそれらを構成するコンポーネントを、ルール・デザイナーおよびテンプレート・デザイナー内のフロー・チャートに表示できます。ルールまたはテンプレートを開いて、フロー・チャートで選択することにより、ルールまたはテンプレートを構成するコンポーネント(たとえば、式、スクリプト、条件、範囲およびループ)間を移動できます。また、フロー・チャートのサイズを増減させることにより、コンポーネントの詳細を表示したり非表示にしたりできます。

フロー・チャートでコンポーネントを選択すると、フロー・チャートの下のタブに、コンポーネントのプロパティ、使用およびその他の情報が表示されます。コンポーネント間で移動すると、フロー・チャートの下のタブが変わります。たとえば、式およびスクリプト・コンポーネントを含むビジネス・ルールを開いて、フロー・チャートで式を選択すると、式のプロパティ(名前、説明、所属するアプリケーションおよびアプリケーション・タイプ)、式の使用(使用されるルールとテンプレート)および式のテキスト(変数、メンバーおよび関数)が、フロー・チャートの下のタブに表示されます。次に、ルールのフロー・チャートでスクリプト・コンポーネントを選択すると、スクリプトのテキスト、プロパティおよび使用がフロー・チャートの下のタブに表示されます。

Calculation Manager のビューおよびフィルタの使用方法

ビューにより、Calculation Manager オブジェクトを様々なコンテキストで表示できます。たとえば、配置ビューでは、オブジェクトが配置されているかどうかに従って表示されます。カスタム・ビューでは、選択するフィルタと条件に従ってオブジェクトが表示されます。

次のトピックを参照してください:

- [234 ページの「リスト・ビュー」](#)

- [236 ページの「システム・ビュー」](#)
- [236 ページの「カスタム・ビュー」](#)
- [238 ページの「配置ビュー」](#)
- [238 ページの「ビュー・ペイン」](#)

リスト・ビュー

リスト・ビューには、Financial Management、Planning および Essbase アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、およびオブジェクト(ルールセット、ルール、スクリプト、式コンポーネントおよびテンプレート)が、指定するフィルタ条件に従ってフィルタされて、リストに表示されます。リスト・ビューから、次のタスクを実行できます:

- Calculation Manager オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、削除、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- ビジネス・ルールの印刷
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行、その他の EPM Workspace 製品のインストール、指定する条件に従ったビューでのオブジェクトのフィルタおよび変数の使用
- オブジェクトの検証および移行
- Calculation Manager およびその他の EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

リスト・ビューでのオブジェクトのフィルタ処理

リスト・ビューでフィルタを使用すると、アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning および Essbase)、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、オブジェクト・タイプ(つまり、ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネント、およびテンプレート)、および配置または検証ステータスに応じてオブジェクトをフィルタできます。

- ▶ リスト・ビューでフィルタされたオブジェクト・リストを作成するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、「表示」、「リスト・ビューの順に選択します。

リスト・ビューを初めて開く場合は、「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。フィルタ処理オプションを選択してから、システム・ビューまたはカスタム・ビューで作業するためにリスト・ビューを閉じると、リスト・ビューを再度開く際に、「フィルタ」ダイアログ・ボックスは表示されません。リスト・ビューを開く際にフィルタ処理オプションを変更する場合は、「ツール」、「フィルタの順」を選択して、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。

- 3 フィルタダイアログ・ボックスで、フィルタ・オプションのアプリケーション・タイプから「Financial Management」、「Planning」または「Essbase」を選択します。(デフォルトでは、「Financial Management」が表示されています。)

- 4 次のいずれかを行います:

ヒント: 連続した複数の項目を選択する場合は[Shift]を押しながら、連続しない複数の項目を選択する場合は[Ctrl]を押しながらクリックします。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** アプリケーションおよびオブジェクト・タイプで、リスト・ビューに表示するアプリケーションとオブジェクト・タイプを選択します。(デフォルトは「すべて」です。)
- **Financial Management ユーザーのみ:** アプリケーション、オブジェクト・タイプおよび計算タイプで、リスト・ビューに表示するアプリケーション、オブジェクト・タイプおよび計算タイプを選択します。(デフォルトは「すべて」です。)

- 5 配置済ステータスおよび検証済ステータスで、表示しないチェック・ボックスの選択を解除します。(デフォルトではすべてのチェック・ボックスが選択されています。)

ヒント: デフォルト値でダイアログ・ボックスをリセットする場合は、「リセット」をクリックします。

- 6 詳細設定オプションのオブジェクト・ラベルで、条件に一致する名前のオブジェクトのみを表示する場合には、次のいずれかのオプションを選択します:

- 次で始まる、指定する文字で始まる名前のオブジェクトのみを表示
- 次で終わる、指定する文字で終わる名前のオブジェクトのみを表示
- 含む、指定する文字を含む名前のオブジェクトのみを表示
- 一致、指定する文字と一致する名前のオブジェクトのみを表示

- 7 表示するオブジェクトの名前に共通する文字を入力します。

- 8 **手順 7** で入力したテキストの大文字と小文字が異なっていても、そのテキストを含んでいる名前のオブジェクトを表示する場合には、大文字と小文字を区別しないを選択します。

- 9 作成者には、表示するオブジェクトを作成したユーザー名を入力します。

- 10 変更者には、表示するオブジェクトを変更したユーザー名を入力します。

- 11 作成日には、指定する日付の後、前またはその間に作成されたオブジェクトのみ表示する場合に、後、前または次の値の間を選択します。(「次の値の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。

- 12 変更日には、指定する日付の後、前またはその間に変更されたオブジェクトのみ表示する場合に、後、前または次の値の間を選択します。(「次の値の間」がデフォルトです。)次に、ドロップダウンの矢印をクリックし、カレンダーを表示して、日付を選択できます。
- 13 OK をクリックします。

システム・ビュー

システム・ビューは、Calculation Manager を起動すると表示されるデフォルト・ビューです。アクセスできるアプリケーション、計算またはプラン・タイプおよびオブジェクトのすべてのリストが表示されます。(アクセス権は Shared Services で割り当てられている役割によって決定されます。アクセス権はアプリケーション・ベースで割り当てられます。)各オブジェクトについて、所有者、最後に変更したユーザーおよび最後に変更された日付がリストされます。システム・ビューから、次のタスクを実行できます:

- Calculation Manager オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、削除、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールへのショートカットの作成
- ビジネス・ルールの印刷
- ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトのインポートおよびエクスポート
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行、その他の EPM Workspace 製品のインストール、および変数の使用
- オブジェクトの検証および移行
- Calculation Manager およびその他の EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

カスタム・ビュー

カスタム・ビューでは、フォルダを作成して、そこにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップして、必要なオブジェクトのみ表示するビューを作成できます。このビューにより、ユーザーの目的に合わせてオブジェクトを整理できます。カスタム・ビューから、次のタスクを実行できます:

- Calculation Manager オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、除去、リフレッシュおよび閉じる

- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールの印刷
- ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトのインポートおよびエクスポート
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行、その他の EPM Workspace 製品のインストール、および変数の使用
- オブジェクトの検証および移行
- Calculation Manager およびその他の EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

カスタム・ビューでのフォルダの作成

カスタム・ビューでは、表示および操作するビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式、スクリプト・コンポーネントおよびテンプレートのみを含むフォルダを作成できます。フォルダにオブジェクトを追加するには、「既存のオブジェクト」ペインからオブジェクトをドラッグし、フォルダにドロップします。

- ▶ カスタム・ビューでフォルダを作成するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、表示]、「カスタム・ビューの順」を選択します。
 - 3 カスタム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを右クリックし、新規フォルダを選択します。
 - 4 新規フォルダに、フォルダの名前を入力します。
 - 5 OK をクリックします。

ヒント: フォルダを右クリックし、「新規フォルダ」を選択することにより、ネストされたフォルダを作成できます。

カスタム・ビューでのフォルダの名前変更

カスタム・ビューで作成したフォルダを名前変更できます。

- ▶ カスタム・ビューでフォルダを名前変更するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、表示]、「カスタム・ビューの順に選択します。
- 3 カスタム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを展開します。
- 4 名前変更するフォルダを右クリックし、名前変更を選択します。
- 5 フォルダ名の変更に、フォルダの新規名前を入力します。
- 6 OK をクリックします。

配置ビュー

配置ビューには、アプリケーション・タイプおよびアプリケーション別に、配置可能なルールおよびルールセットとその配置および検証ステータスのリストが表示されます。このビューから、アプリケーションに配置できるようにするルールおよびルールセットを選択できます。次に、アプリケーションに1つ以上のルールおよびルールセットを配置するか(部分配置)、すべてのルールおよびルールセットを配置できます(完全配置)。配置ビューから、次のタスクを実行できます:

- Calculation Manager オブジェクト、EPM Workspace ページおよびその他のドキュメントを作成、開く、名前変更、除去、リフレッシュおよび閉じる
- プリファレンスの設定
- オブジェクトのインポートおよびエクスポート
- オブジェクトの使用の表示
- オブジェクトのコピーの作成
- オブジェクトの所有者の変更
- ビジネス・ルールの印刷
- EPM Workspace の終了またはログオフ
- ビューの選択
- お気に入りの使用
- 詳細検索の実行、その他の EPM Workspace 製品のインストール、および変数の使用
- オブジェクトの検証および移行
- オブジェクトの配置
- Calculation Manager およびその他の EPM Workspace 製品のヘルプへのアクセス

ビュー・ペイン

オブジェクトを作成したり開いたりするときに、ウィンドウの左側のフレームにビュー・ペインを表示できます。ルール、ルールセット、テンプレートまたはコンポーネント・デザイナのどれを使用しているかによって、ビュー・ペインにルール・パレット、ルールセット・パレット、テンプレート・パレットまたはコンポーネント・パレットが表示されます。ルール、ルールセット、コンポーネントまたはテンプレート・パレットから、新規または既存オブジェクトをドラッグして、ルール、ルールセット、テンプレートまたはコンポーネント・フロー・チャートにドロップできます。

ビューを使用している場合には、「表示」メニューを使用してビュー・ペインを表示したり、非表示にしたりできます。カスタム・ビューでは、ビュー・ペインから、作成したカスタム・フォルダに新規または既存オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップできます。システムおよびリスト・ビューでは、ビュー・ペインはデフォルトで非表示になっています。配置ビューでは、ビュー・ペインは使用できません。

注： ビュー・ペインのコンテンツは、現在のビュー、およびルールセット、ルール、テンプレート、コンポーネントを使用しているかどうかによって異なります。

9

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの設計

この章の内容

ビジネス・ルールについて.....	241
ビジネス・ルールセットについて.....	263
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ.....	275
ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示.....	276
オブジェクトの所有者の変更.....	277

ビジネス・ルールについて

Calculation Manager では、高度な多次元ビジネス・ルールの作成、検証、配置、管理ができます。また、2つ以上の関連するルール(またはルールセット)を同時にまたは連続して起動できるビジネス・ルールを作成できます。通常、ビジネス・ルールおよびルールセットは次の目的で作成します:

- エンティティ間でのコストの割当て
- 収益モデリングの実行
- 費用モデリングの実行
- 貸借対照表の準備
- キャッシュ・フローの計算
- 為替換算調整勘定の計算
- グループおよび小数株持ちち分の計算
- 繰延税金の計算

ビジネス・ルールまたはルールセットを作成する前に、データベース・アウトラインおよび使用するアプリケーションについて熟知しておく必要があります。この情報を把握しておくこと、ビジネス・ルールをより効率的に作成できます。また、データに関して、次も理解しておく必要があります:

- データの保管および集約方法
- データがデータベースにロードされるレベル
- 計算の実行順序
- 計算を実行する主な仮定

ビジネス・ルールは、式、スクリプト、ルール、データおよびメンバー範囲、テンプレートおよび実行時プロンプト変数を含む変数などのコンポーネントを使用することにより作成できます。(第 11 章「コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計」を参照。)プランニングでビジネス・ルールを

起動するユーザーには、管理者として、ルールに対してその場所からの起動権限を付与する必要があります。ユーザーには、Financial Management でビジネス・ルールを起動するための起動権限は必要ありません。

- ▶ 次に、ビジネス・ルールの作成に使用するプロセスの概要を示します:
 - 1 Performance Management Architect、Shared Services および Calculation Manager サーバーが実行されていることを確認します。
 - 2 EPM Workspace を起動します。
 - 3 EPM Workspace にログオンします。
 - 4 Performance Management Architect 内から Calculation Manager にアクセスします。
 - 5 新規ビジネス・ルールを設計します。コンポーネント(式、スクリプト、条件、範囲および固定ループを含む)、関数、メンバー選択および変数を使用して、ルールを設計できます。
 - 6 ビジネス・ルールを保存します。
 - 7 ビジネス・ルールを検証します。
 - 8 ビジネス・ルールのみを配置するか、アプリケーション内のすべてのルールおよびルールセットとともに配置します。
 - 9 ビジネス・ルールを起動します。

ビジネス・ルールの作成

ビジネス・ルールはシステム・ビューから作成できます。また、リスト、カスタムおよび配置ビューからもビジネス・ルールを作成できます。

- ▶ 新規ビジネス・ルールを作成するには:
 - 1 ルールの名前を入力します。
 - 2 アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
 - 3 アプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーションである必要があります。
 - 4 次のいずれかを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、計算タイプを選択します。
 2. プランニングを選択した場合は、プラン・タイプを選択します。
 3. Essbase を選択した場合は、データベースを選択します。

注：「ルール」を右クリックし、「新規」を選択して、新規ビジネス・ルールを作成する場合は、「新しいルール」ダイアログ・ボックスに、システム・ビュー内で現在操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプが移入されます。

- 5 OK をクリックします。

新規ルールがルール・デザイナーに表示されます。ルールを設計するには、[243 ページの「ビジネス・ルールの設計」](#)を参照してください。

ビジネス・ルール設計

ビジネス・ルールは、計算で構成される Calculation Manager オブジェクトです。計算は、コンポーネントにグループ化されます。ルールには 1 つ以上のコンポーネント、テンプレートまたはルールを含められます。

Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションのビジネス・ルールを作成します。(ルールを作成できるかどうかは、Shared Services で割り当てられている役割によって決まります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。)ルールは、フロー・チャートにグラフィカルに表され、フロー・チャートにコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップしてルールを設計できます。

注： ビジネス・ルールを作成する前に、ビジネス・ルールを作成する対象のアプリケーションが製品(Financial Management、Planning または Essbase)に存在することを確認してください。

▶ ビジネス・ルールを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、次のタスクのいずれかを実行します:
 - ファイル、「新規」、「ルール」の順に選択します。
 - Financial Management、Planning、または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開します。ルールを右クリックし、新規を選択します。
- 3 新しいルールにルール名、アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)、およびアプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、あるいは Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。

Financial Management を選択する場合は計算タイプを、Planning を選択する場合はプラン・タイプを、Essbase を選択する場合はデータベースをそれぞれ選択します。OK をクリックします。

注： 「ルール」を右クリックし、「新規」を選択して、新規ビジネス・ルールを作成する場合は、「新しいルール」ダイアログ・ボックスに、システム・ビュー内で現在操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプが移入されます。

- 4 ビジネス・ルールを設計するには、ルール・パレットから、新規または既存オブジェクトをドラッグし、ルール・デザイナ内のフロー・チャートにドロップします。

注： また、ルールについての独立した式やスクリプトなどの新規オブジェクトを作成して、後でルールに追加できます。

新規オブジェクトから、次のコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをルールフロー・チャートに挿入します:

- 式: [320 ページ](#)の「[式コンポーネントの操作](#)」を参照してください。
- スクリプト: [331 ページ](#)の「[スクリプト・コンポーネントの操作](#)」を参照してください。
- 条件: [338 ページ](#)の「[条件コンポーネントの操作](#)」を参照してください。
- メンバー範囲: [342 ページ](#)の「[メンバー範囲コンポーネントの操作](#)」を参照してください。
- データ範囲 **Financial Management ユーザーのみ**: [347 ページ](#)の「[データ範囲コンポーネントの操作\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
- 固定ループ: [352 ページ](#)の「[固定ループ・コンポーネントの操作](#)」を参照してください。

既存のオブジェクトから、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションの既存のルール、式、スクリプトおよびテンプレートをドラッグし、ルールフロー・チャートにドロップします。既存の式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートにドラッグすると、デフォルトで、式またはスクリプトは共有オブジェクトになります。共有しない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントのプロパティタブで「共有」チェック・ボックスの選択を解除します。[361 ページ](#)の「[スクリプトおよび式コンポーネントの共有](#)」を参照してください。

ヒント: **Planning および Essbase ユーザーのみ:** グラフィカルでない(つまり、スクリプト)フォーマットでビジネス・ルールを操作する場合は、「編集」、「スクリプト」の順に選択します。([253 ページ](#)の「[スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集](#)」を参照。)

5 プロパティで、ルールのプロパティを入力します。

注: ルールにコンポーネントを追加したり、フロー・チャートでルールのコンポーネント間を移動したりすると、タブの数やコンテンツが変わります。ルールのコンポーネントのプロパティやその他の情報を入力するには、フロー・チャートでコンポーネントを選択します。[第 11 章](#)「[コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計](#)」を参照してください。

- オプション: 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(「新しいルール」ダイアログ・ボックスでの名前がデフォルトで移入されます。)
- オプション: ルールの説明を 255 文字以下で入力します。
- オプション: ルールのキャプションを入力します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
- オプション: ルールのコメントを入力します。たとえば、ルールの用途をユーザーに示せます。
- **Financial Management ユーザーのみ:**

- ロギングの使用可能を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキスト(ある場合)を指定します。

注： ルールセットに対してはロギングが使用可能になっていないが、そのルールセットに属しているルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールセットのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするため、ログ・ファイルは作成されません。

- タイマーの使用可能を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対してタイマーを使用可能にできます。タイマーが使用可能になっているすべてのオブジェクトに対してログ・ファイルにプロセス時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールセットがあり、そのルールセットにタイマーが使用可能になっている3つのルールが含まれている場合、ルールセット、およびルールセットの各ルールの処理にかかる時間が記録されます。

6 Financial Management ユーザーのみ: パラメータで、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示し、パラメータとして使用する変数を選択できます。次の手順を行います:

注： 新規ビジネス・ルールを初めて開くと、このタブは空です。ビジネス・ルールにコンポーネントを追加し、それらのコンポーネントが変数を使用する場合、このタブに変数が表示されます。

1. 変数をパラメータとして使用するには、パラメータを選択します。変数がルールセット・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールまたはルールセットで使用できる場合)、パラメータがデフォルトで選択されます。変数がルール・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールでのみ使用できる場合)、パラメータは選択されません。
2. 渡す方法で、参照または値を選択します。(参照がデフォルトです。)

7 Planning および Essbase ユーザーのみ: グローバル範囲で、各次元に対して値(つまり、メンバー、変数および関数)を選択することにより、ルール内のすべてのコンポーネントに共通の次元を指定します。次元に対して選択した値は、ルールの起動時に計算される値になります。

1. 値の選択列で行をクリックすることにより、次元に対して値を選択します。
2. アクションアイコンが表示されたら、これをクリックし、次のいずれかを選択します:
 - 「変数」(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。この章では、変数の詳細な手順について説明しています。)
 - 「メンバー」(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。この章では、メンバー選択の詳細な手順について説明しています。)

- 「関数」(414 ページの「関数の操作」を参照してください。この章では、関数の詳細な手順について説明しています。)

8 Planning および Essbase ユーザーのみ: 変数で変数のマージを選択し、ルールが起動されたときに各変数の最初のインスタンスのみが表示されるように、ビジネス・ルールで使用される同じ変数のすべてのインスタンスをマージします。このチェック・ボックスを選択しない場合は、各変数のすべてのインスタンスが表示されます。

注: 「変数のマージ」を選択する場合、ユーザーが実行時プロンプトで入力する最初の値が、検証および起動時に、後続のすべての実行時プロンプトで使用されます。

9 スクリプトには、ルールに対して生成される計算スクリプトが表示されます。

注: このタブでは変更を加えられません。スクリプトを変更する場合は、「編集」、「スクリプト」の順に選択します。253 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集」を参照してください。

10 オプション: スクリプトでテキスト文字列を検索するには:

- スクリプト内のテキストを検索するには、検索アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. ダイアログ・ボックスに入力するテキストの大文字小文字が一致するテキストを検索する場合は、大文字/小文字の一致を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 4. 検索をクリックします。
- スクリプト内のテキストを検索して置換する場合は、検索/置換アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 置換するテキストを入力します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力するテキストの大文字小文字が一致するテキストを検索する場合は、大文字/小文字の一致を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 5. テキスト文字列のインスタンスを検索して、一度に1つを置換する場合は、置換をクリックします。
 6. テキスト文字列のインスタンスを検索して、同時にすべてを置換する場合は、すべて置換をクリックします。

11 使用には、そのルールを使用するルールおよびルールセットがあればこれが表示されます。(このタブ上の情報は編集できません。)ここには、ルールおよびルールセットの次の情報が表示されます:

- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの名前
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ

- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの説明

注： デフォルトでは、ルールを作成する時点では、ルールはどのルールにもルールセットにも使用されていません。

12 ビジネス・ルールに追加する各コンポーネントで前述の手順を繰り返します。

ヒント： ビジネス・ルールにコンポーネントを追加する際、コンポーネント・アイコンのサイズとフロー・チャートに表示される詳細情報の量を増減できます。このために、フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトできます。フロー・チャートを小さいサイズまたは最小サイズで表示した場合、コンポーネントのキャプションは表示されませんが、アイコン上にマウス・ポインタを置くと、キャプションが表示されます。フロー・チャート内のコンポーネントのサイズにかかわらず、コンポーネントを選択すると「プロパティ」タブにそのプロパティが表示されます。

13 ファイル」、「保存の順」を選択します。

ルールを設計し、保存した後、次のタスクを実行できます：

- ルールの印刷。(261 ページの「ビジネス・ルールの印刷」を参照。)
- ルールの検証。(第 13 章「ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置」を参照。)
- ルールの配置。(第 13 章「ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置」を参照。)
- Planning 内からのルールの起動(Planning ビジネス・ルールの場合)、あるいは Calculation Manager または Administration Services 内からのルールの起動(Essbase ビジネス・ルールの場合)。(『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』または Oracle Essbase Administration Services オンライン・ヘルプを参照。)

注： Financial Management ではルールセットのみを起動できます。

Workforce Planning および Capital Asset Planning のプラン・タイプの事前定義済ビジネス・ルールのロード(Planning ユーザーのみ)

Oracle Hyperion Workforce Planning, Fusion Edition または Oracle Hyperion Capital Asset Planning, Fusion Edition のプラン・タイプをクラシック Planning アプリケーション内で使用する場合は、事前定義済ビジネス・ルールをアプリケーションに

ロードする必要があります。これらの事前定義済ビジネス・ルールを使用すると、Planning で Web フォームを使用する場合に事前定義済の計算を実行できます。

注： この手順は、事前定義済ビジネス・ルールを Workforce Planning および Capital Asset Planning プラン・タイプが使用可能なクラシック Planning アプリケーションにロードする場合にのみ使用できます。Workforce Planning および Capital Asset Planning プラン・タイプが使用可能な Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合は、事前定義済ビジネス・ルールがアプリケーションの作成時に自動的にロードされます。

▶ 事前定義済ビジネス・ルールをロードするには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、事前定義済ビジネス・ルールをロードする Planning アプリケーション・タイプとクラシック・アプリケーションを展開します。
- 3 Workforce Planning または Capital Asset Planning プラン・タイプを右クリックし、事前定義済ルールをロードを選択します。
ビジネス・ルールがプラン・タイプにロードされます。
- 4 OK をクリックし、事前定義済ルールが正常にロードされたことを示すメッセージを閉じます。

事前定義済ルールが、ルールをロードしたアプリケーションの「ルール」フォルダに表示されます。

ビジネス・ルールを開く

Calculation Manager を開くとデフォルトで表示されるシステム・ビューからビジネス・ルールを開くことができます。別のルール、ルールセット、コンポーネント、またはテンプレートのタブ内から「ファイル」、「開く」を使用してルールを開くこともできます。

▶ ビジネス・ルールを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 開くルールを右クリックして、開くを選択します。
 - 開くルールを選択して、「ファイル」、「開くの順」を選択します。

ビジネス・ルールの編集

次のトピックを参照してください:

- [249 ページの「ビジネス・ルールの編集」](#)
- [253 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集」](#)

ビジネス・ルールの編集

ビジネス・ルールの構造は、そのコンポーネント(式、スクリプト、条件、範囲およびループを含む)を追加、除去、または変更することによって編集できます。ビジネス・ルールのコンポーネントおよびビジネス・ルール自体のプロパティも編集できます。

ビジネス・ルールの次のプロパティを編集できます:

- ビジネス・ルールの名前およびキャプション
- ビジネス・ルールの説明およびコメント
- Financial Management アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールにログ・ファイルおよびタイマーがあるかどうか
- Planning および Essbase アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールを起動できるかどうか

次元およびメンバーの範囲と、ビジネス・ルールに含める変数も編集できます。

▶ ビジネス・ルールを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 編集するルールを右クリックして、開くを選択します。
 - 編集するルールを選択して、「ファイル」、「開くの順」を選択します。
- 3 ルールを編集するには、ルール・デザイナーで新規コンポーネントを追加し、そのルールのフロー・チャートから既存のコンポーネントをコピーおよび削除します。

ヒント: ビジネス・ルールのコンポーネントを編集する際、コンポーネント・アイコンのサイズとフロー・チャートに表示される詳細情報の量を増減できます。このために、フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトできます。フロー・チャートを小さいサイズまたは最小サイズで表示した場合、コンポーネントのキャプションは表示されませんが、アイコン上にマウス・ポインタを置くと、キャプションが表示されます。フロー・チャート内のコンポーネントのサイズにかかわらず、コンポーネントを選択すると「プロパティ」タブにそのプロパティが表示されます。

- フロー・チャートからコンポーネントを削除するには、そのコンポーネントを選択して右クリックし、除去を選択します。

- 既存のコンポーネントをコピーして貼り付けるには、そのコンポーネントを選択して右クリックし、コピーを選択します。その後フロー・チャートに貼付けます。
 - 新規コンポーネントを追加するには:
 - 新規オブジェクトからコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをルールフロー・チャートに挿入します:
 - 式: [320 ページの「式コンポーネントの操作」](#) を参照
 - スクリプト: [331 ページの「スクリプト・コンポーネントの操作」](#) を参照
 - 条件: [338 ページの「条件コンポーネントの操作」](#) を参照
 - メンバー範囲: [342 ページの「メンバー範囲コンポーネントの操作」](#) を参照
 - データ範囲(Financial Management ユーザーのみ): [347 ページの「データ範囲コンポーネントの操作\(Financial Management ユーザーのみ\)」](#) を参照
 - 固定ループ: [352 ページの「固定ループ・コンポーネントの操作」](#) を参照
 - 既存のオブジェクトから、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションの既存のルール、式、スクリプトおよびテンプレートをドラッグし、ルールフロー・チャートにドロップします。既存の式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートにドラッグすると、デフォルトで、式またはスクリプトは共有オブジェクトになります。共有にしない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントの「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスの選択を解除します。[361 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有」](#) を参照してください。
- 4 プロパティでルールのプロパティを編集します。(フロー・チャートでルールのコンポーネント間を移動するとタブの数およびコンテンツが変わります。コンポーネントのプロパティおよびその他の情報を編集するには、フロー・チャートでそのコンポーネントを選択してタブに情報を表示します。[第 11 章「コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレート設計」](#) を参照。)
- オプション: 50 文字までの新規名前を入力して、名前を編集します。(デフォルトは「新しいルール」ダイアログ・ボックスでの名前になっています。)
 - オプション: 説明を変更するか 255 文字以下の新規説明を入力して説明を編集します。
 - オプション: ルールのキャプションを編集します。キャプションはフロー・チャートのルール・アイコンの下の表示されます。
 - オプション: ルールのコメントを入力します。たとえば、ルールの機能詳細を説明するコメントを追加したりできます。
 - **Financial Management ユーザーのみ:**
 - ロギングの使用可能を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを

使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキスト(ある場合)を指定します。

注： ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- タイマーの使用可能を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対してタイマーを使用可能にできます。タイマーが使用可能になっているすべてのオブジェクトに対してログ・ファイルにプロセス時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールセットがあり、そのルールセットにタイマーが使用可能になっている3つのルールが含まれている場合、ルールセット、およびルールセットの各ルールの処理にかかる時間が記録されます。

5 Financial Management ユーザーのみ: パラメータで、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示し、パラメータとして使用する変数を編集できます。次の手順を行います:

注： ビジネス・ルールのどのコンポーネントでも実行変数が使用されていない場合、このタブに変数は表示されません。

1. 変数をパラメータとして使用するには、パラメータを選択します。変数がルールセット・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールまたはルールセットで使用できる場合)、パラメータがデフォルトで選択されます。変数がルール・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールでのみ使用できる場合)、パラメータは選択されません。
2. 渡す方法で、参照または値を選択します。(参照がデフォルトです。)

6 Planning および Essbase ユーザーのみ: グローバル範囲では、ルールの起動時に計算される値の範囲を定義する値(つまり、メンバー、変数および関数)を編集できます。

1. 値の選択列で行をクリックすることにより、次元に対して値を選択します。
2. アクションアイコンが表示されたら、これをクリックし、次のいずれかを選択します:
 - 変数(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。詳細手順を示してあります。)
 - メンバー(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。詳細手順を示してあります。)
 - 関数(414 ページの「[関数の操作](#)」を参照してください。この章に詳細手順を示してあります。)

7 Planning および Essbase ユーザーのみ: 変数では、ルールの変数を作成できます。(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照。)

8 スクリプトでは、グラフィカルでないフォーマットでルールを表示できます。

注： このタブで変更はできません。スクリプトを変更する場合は「編集」、「スクリプト」の順に選択してください。スクリプト・モードで編集するとグラフィカル・モードでは編集できなくなります。253 ページの「スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集」を参照してください。

9 オプション: スクリプトでテキスト文字列を検索するには:

- 検索アイコンをクリックしてスクリプト内のテキスト文字列を検索します。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、大文字/小文字の一致を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 4. 検索をクリックします。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索および置換する場合には、検索/置換アイコンをクリックします。
 1. スクリプト内で検索するテキストを入力します。
 2. 検索したテキストを置換するテキストを入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、大文字/小文字の一致を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 5. テキスト文字列の1つのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、置換をクリックします。
 6. テキスト文字列のすべてのインスタンスを検索して、一度に置換する場合には、すべて置換をクリックします。

10 使用には、そのルールを使用するルールおよびルールセットがあればこれが表示されます。ここには、そのルールを使用するルールおよびルールセットの次の情報が表示されます:

注： このタブで情報は編集できません。

- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの名前
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか

- ビジネス・ルールを使用するビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの説明

11 ファイル」、「保存の順」に選択します。

スクリプト・モードでのビジネス・ルールの編集

デフォルトでは、ルール・デザイナを使用してグラフィカル・モードでビジネス・ルールを作成して、ビジネス・ルールのグラフィカル・フローを作成します。作成して保存したビジネス・ルールは、スクリプト・モードで編集して、グラフィカル・モードでの編集に戻れます。

Financial Management ビジネス・ルールの場合は、グラフィカル・ビジネス・ルールをスクリプト・モードで編集すると、変更したルールを別のスクリプト・コンポーネントとして保存するように求められます。元のグラフィカル・ルールは変更されずデータベースに残ります。

▶ ビジネス・ルールをスクリプト・モードで編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 編集するルールを右クリックして、開くを選択します。
 - 編集するルールを選択して、ファイル」、「開くの順」に選択します。
- 3 ルールが開いたら、編集」、「スクリプトの順」に選択します。
- 4 はいをクリックして、スクリプト・モードで編集します。
- 5 スクリプト・エディタで、次のタスクを1つ以上実行します:
 - 関数とそのパラメータの挿入をクリックして、関数をツールに挿入します。(414 ページの「関数の操作」を参照。)
 - 次元から選択したメンバーの挿入をクリックして、メンバーを次元からルールに挿入します。(374 ページの「メンバーの操作」を参照。)
 - 変数の挿入をクリックして、変数をルールに挿入します。(398 ページの「変数の操作」を参照。)
 - **Planning ユーザーのみ:** スマートリストを挿入するには、スマートリストの挿入をクリックします。
 - スクリプトでテキスト文字列を検索する場合には、検索アイコンをクリックします。(255 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換」を参照。)
 - スクリプトのテキスト文字列を検索して置換する場合には、検索と置換アイコンをクリックします。(255 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換」を参照。)
- 6 プロパティでは、ルールのプロパティを編集します。

- オプション: 50 までの新規名前を入力して、名前を入力または編集します。(デフォルト値は「新しいルール」ダイアログ・ボックスでの名前になっています。)
- オプション: ルールの説明を 255 文字までで入力するか編集します。
- オプション: ルールのキャプションを入力または編集します。キャプションは、フロー・チャートのルールのアイコンの下に表示されます。
- オプション: ルールのコメントを入力または編集します。たとえば、ビジネス・ルールの機能詳細を説明するコメントを追加できます。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - ログイングの使用可能を選択します。この設定により、ルールにログ・テキストがあれば、ルールが起動されると、ログ・テキストがログ・ファイルに含まれます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのログイングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキスト(ある場合)を指定します。

注: ルールセットに対してはログイングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- タイマーの使用可能を選択します。この設定により、ルールが起動されると、ルールの処理にかかる時間がログ・ファイルに記録されます。ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対してタイマーを使用可能にできます。タイマーが使用可能になっているすべてのオブジェクトに対してログ・ファイルにプロセス時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールセットがあり、そのルールセットにタイマーが使用可能になっている 3 つのルールが含まれている場合、ルールセット、およびルールセットの各ルールの処理にかかる時間が記録されます。

7 Financial Management ユーザーのみ: パラメータで、ビジネス・ルールで使用されている実行変数を表示したり、パラメータとして使用する変数を編集したりできます。次の手順を行います:

注: ビジネス・ルールのどのコンポーネントでも実行変数を使用されていない場合、このタブに変数は表示されません。

1. 変数をパラメータとして使用するには、パラメータを選択します。変数がルールセット・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールまたはルールセットで使用できる場合)、パラメータがデフォルトで選択されます。変数がルール・スコープを持つ実行変数である場合(つまり、ビジネス・ルールでのみ使用できる場合)、パラメータは選択されません。
2. 渡す方法で、参照または値を選択します。(参照がデフォルトです。)

8 Planning および Essbase ユーザーのみ: グローバル範囲では、ルールの起動時に計算される値の範囲を定義する値(つまり、メンバー、変数および関数)を編集できます。

1. 値の選択列で行をクリックすることにより、次元に対して値を選択します。

2. アクションアイコンが表示されたら、これをクリックし、次のいずれかを選択します:
 - 変数(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。詳細手順を示してあります。)
 - メンバー(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照してください。詳細手順を示してあります。)
 - 関数(414 ページの「[関数の操作](#)」を参照してください。この章に詳細手順を示してあります。)

9 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 変数では、ルールの変数を作成できます。(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照。)

10 使用には、そのルールを使用するルールおよびルールセットがあればこれが表示されます。ここには、そのルールを使用するルールおよびルールセットの次の情報が表示されます:

注: このタブで情報は編集できません。

- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの説明

11 ファイル]、「保存の順」に選択します。

ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換

「検索」または「検索と置換」を使用して、スクリプト・モードで編集しているビジネス・ルール内のテキスト文字列を検索および置換できます。

▶ スクリプトのテキスト文字列を検索および置換するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:

- 検索するスクリプトが含まれるルールを右クリックして、開くを選択します。
- 検索するスクリプトが含まれるルールを選択して、「ファイル」、「開くの順に」を選択します。

4 スクリプトタブを選択します。

5 スクリプト・エディタで、次のタスクを1つ以上実行します:

- 検索アイコンをクリックしてスクリプト内のテキスト文字列を検索します。
 1. 検索するテキスト文字列を入力します。
 2. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、大文字/小文字の一致を選択します。
 3. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 4. 検索をクリックします。
- スクリプト内のテキスト文字列を検索して置換する場合には、検索/置換アイコンをクリックします。
 1. 検索するテキスト文字列を入力します。
 2. 検索したテキスト文字列を置換するテキストを入力します。
 3. 検索する大文字と小文字を区別とダイアログに入力するテキストの大文字と小文字を一致させる場合には、大文字/小文字の一致を選択します。
 4. ダイアログ・ボックスに入力したテキストに完全に一致する(部分一致ではない)テキストを検索する場合は、完全に一致する単語を選択します。
 5. テキスト文字列のインスタンスを検索して、一度に1つを置換する場合は、置換をクリックします。
 6. テキスト文字列のインスタンスを検索して、同時にすべてを置換する場合は、すべて置換をクリックします。

ビジネス・ルールの別のアプリケーションへのコピー

システム・ビューからビジネス・ルールを別のアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプにコピーできます。ビジネス・ルールを別のアプリケーションにコピーすると、別の名前でも新規ビジネス・ルールが作成されます。

注： ビジネス・ルールを同じアプリケーションにコピーできません。同じアプリケーションに同じ名前のビジネス・ルールが2つ存在しないように、「名前を付けて保存」を使用して新規名前でビジネス・ルールのコピーを作成します。

▶ ビジネス・ルールを別のアプリケーションにコピーして貼り付けるには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 コピーするルールを右クリックして、コピー先を選択します。
- 4 名前を付けて保存で、ビジネス・ルールの新規名前を入力するかデフォルト名を受け入れ、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプを選択します。

注： 複数のアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプにコピーできません。

ビジネス・ルール・コンポーネントの子のコピーおよび貼付け

コンポーネントがあるビジネス・ルールを操作する場合、コンポーネントの子(すなわち、フロー・チャートの1つのコンポーネントの下にグループ化されたコンポーネント)をコピーできます。メンバー範囲、固定ループおよび条件コンポーネントの子をコピーして貼付けできます。Financial Management アプリケーションで作業している場合は、データ範囲コンポーネントの子をコピーして貼付けできます。)コンポーネントの子は同じビジネス・ルールまたは同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning、または Essbase)に属していれば異なるアプリケーションの異なるビジネス・ルールにコピーして貼付けできます。Financial Management ビジネス・ルールおよびコンポーネントの場合にコンポーネントの子をコピーするには、同じ計算タイプまたは汎用計算タイプのビジネス・ルールのみ貼り付ける必要があります。

▶ ビジネス・ルール・コンポーネントの子をコピーして貼り付けるには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - コピーして貼り付ける子を持つコンポーネントが含まれるルールを右クリックして、開くを選択します。
 - コピーして貼り付ける子を持つコンポーネントが含まれるルールを選択して、「ファイル」、「開くの順」を選択します。
- 3 ルール・デザイナー・フロー・チャートで、メンバー範囲、データ範囲(Financial Management ユーザーのみ)固定ループ、またはその子をコピーして貼り付ける条件コンポーネントを選択します。
- 4 編集」、「グループのコピーの順」を選択します。
- 5 次のいずれかを行います:
 - コンポーネントの子を同じビジネス・ルールに貼り付ける場合は、コンポーネントの子をフロー・チャートで表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。(選択したコンポーネントの右にコンポーネントの子が表示されます。)

- コンポーネントの子を異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合は、コンポーネントの子を貼り付けるビジネス・ルールを開いて、その子をフロー・チャートで表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。

6 編集」、「貼付けの順に選択します。

7 ファイル」、「保存の順に選択します。

注： コンポーネントの子をコピーして貼り付けると、共有されているコンポーネントもコピーされます。

ビジネス・ルール・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け

ビジネス・ルール・コンポーネントへの参照をコピーして貼り付ける場合には、コンポーネント自体ではなく、コンポーネントへのショートカットをコピーして貼り付けます。参照のコピー元のビジネス・ルールにコンポーネントのコピーは1つしかありません。参照は、コンポーネントが含まれるビジネス・ルールへのポインタとして機能します。

同じビジネス・ルール内、または同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属するビジネス・ルールの場合には異なるビジネス・ルール内の式またはスクリプト・コンポーネントへの参照をコピーして貼り付けられます。Financial Management ビジネス・ルールおよびコンポーネントの場合に、コンポーネントへの参照をコピーする際には、同じ計算タイプまたは汎用計算タイプのビジネス・ルールに貼り付ける必要があります。

▶ ビジネス・ルール・コンポーネントへの参照をコピーして貼り付けるには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - コピーして貼り付ける参照へのコンポーネントが含まれるルールを右クリックして、開くを選択します。
 - コピーして貼り付ける参照へのコンポーネントが含まれるルールを選択して、ファイル」、「開くの順に選択します。
- 3 ルール・デザイナー・フロー・チャートで、コピーして貼り付ける参照への式またはスクリプト・コンポーネントを選択します。
- 4 編集」、「参照のコピーの順に選択します。
- 5 次のいずれかを行います:
 - コンポーネントの参照を同じビジネス・ルールに貼り付ける場合は、フロー・チャートにそのコンポーネントの参照を表示する場所の左にあるコンポーネントを選択します。(選択したコンポーネントの右にコンポーネントの参照が表示されます。)

- コンポーネントの参照を異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合は、その参照を貼り付けるビジネス・ルールを開き、フロー・チャートにそのコンポーネントの参照を表示する位置の左にあるコンポーネントを選択します。

注： 同じアプリケーションに属するビジネス・ルールか、同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属していれば異なるアプリケーションに属するビジネス・ルールに参照をコピーして貼付けできます。

6 編集]、「貼付けの順」を選択します。

7 ファイル]、「保存の順」を選択します。

ビジネス・ルールの保存

ビジネス・ルールを作成または編集したら保存する必要があります。ビジネス・ルールを保存すると、作成対象のアプリケーションおよびアプリケーション・タイプに保存されます。保存後には、配置、検証および起動できます。配置および検証は Calculation Manager から、起動は Planning (Planning ルールの場合)および Calculation Manager または Administration Services (Essbase ルールの場合)から実行できます。

注： Financial Management から起動できるのはビジネス・ルールセットのみです。ビジネス・ルールは起動できません。

- ▶ ビジネス・ルールを作成または編集した後に保存するには、「ファイル]、「保存の順」を選択します。

注： 保存したビジネス・ルールをシステム・ビューで確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。リフレッシュするには、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。

異なる名前でのビジネス・ルールの保存

「名前を付けて保存」を使用すると、異なる名前でのビジネス・ルールを保存できます。「名前を付けて保存」を使用すると、同じルールセット・タイプ内のあるルールセットから別のルールセットにコピーすることもできます。「名前を付けて保存」では、元のビジネス・ルールと区別するために異なる名前のコピーが作成されます。

- ▶ 異なる名前でのビジネス・ルールを保存するには:

1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 異なる名前で保存するルールを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーで、「ファイル」、「名前を付けて保存の順」を選択します。
- 5 名前を付けて保存で、ルールの新規名前およびアプリケーション名を入力します。アプリケーション名は有効な Performance Management Architect アプリケーションである必要があります。ルールが Financial Management ルールの場合は計算タイプを選択し、ルールが Planning ルールの場合はプラン・タイプを選択します。ルールが Essbase ルールの場合はデータベースを選択します。OK をクリックします。

注： 異なる名前で保存するルールのアプリケーション・タイプまたは計算およびプラン・タイプはいずれも変更できません。ルールを異なる名前で保存するときに変更できるのは、ルールが属するアプリケーションです。

新規ルールは、システム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。

ビジネス・ルールへのショートカットの作成

ショートカットを利用すると、アプリケーションごとにビジネス・ルールのコピーを作成しなくても複数のアプリケーション間でビジネス・ルールを共有できます。

ショートカットを使用して、ビジネス・ルールが作成されたアプリケーションのみではなく、その他のアプリケーションにそのルールを配置することもできます。デフォルトでは、ビジネス・ルールを配置するとそのルールが作成されたアプリケーションに配置されます。

注： ショートカットを作成できるのはビジネス・ルールのみです。

- ▶ ビジネス・ルールのショートカットを作成するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
 - 3 ショートカット先のルールを右クリックして、ショートカットの作成を選択します。
 - 4 ショートカットの作成で、ルールへのショートカットを作成する対象のアプリケーションを展開します。
 - 5 ショートカットを作成する計算またはプラン・タイプの横にあるオプション・ボタンを選択します。同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属する複数のアプリケーションで複数の計算またはプラン・タイプを選択できます。

注： ルールを作成したアプリケーション以外のアプリケーションのみがダイアログに表示されます。ビジネス・ルールの名前は1つのアプリケーション内で一意でなければならないため、ルールのショートカットは別のアプリケーションでないと作成できません。さらに、ショートカットを作成するルールと同じ名前のルールが含まれるアプリケーションはダイアログに表示されません。

6 OK をクリックします。

ルールへのショートカットが選択した計算またはプラン・タイプにコピーされます。このショートカットは、ルール・アイコンの左下に上向き矢印として表示されます。

ビジネス・ルールの削除

ビジネス・ルールは、デフォルトで Calculation Manager を開くと表示されるシステム・ビューから削除します。ビジネス・ルールを削除できるのは、他のルールまたはルールセットによって使用されていない場合のみです。ルールが使用されている場合は、そのルールを使用しているルールおよびルールセットから除去するか、これらのルールおよびルールセット用にコピーを作成しないと、そのルールを削除できません。あるルールが他のルールおよびルールセットによって使用されているかどうかを確認するには、ルールの使用を表示します。(276 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示」を参照。)

▶ ビジネス・ルールを削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 削除しようとするルールが他のルールセットにもルールにも使用されていないことを確認してください。(276 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示」を参照。)
- 4 削除するルールを右クリックして、削除を選択します。
- 5 OK をクリックしてルールの削除を確定します。

ビジネス・ルールの印刷

ビジネス・ルールのプロパティ、フロー・チャートおよびコンポーネントの詳細を印刷できます。たとえば、配賦費用の式コンポーネントが含まれるビジネス・ルールを印刷すると、式の構文、式を構成する関数および変数、ルールのフロー・チャートの手順要約(図ではない)、およびルールのプロパティが出力されます。

注： ビジネス・ルールセット、テンプレートおよびコンポーネントはいずれも印刷できません。印刷できるテンプレートとコンポーネントは、印刷するビジネス・ルールで使用されている場合のみです。

▶ ビジネス・ルールを印刷するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 印刷するルールを選択します。
- 4 ファイル」、「印刷の順」を選択します。

注： ルール・デザイナー内から「ファイル」、「印刷」の順に選択してルールを印刷することもできます。

5 印刷プレビューで、次のことを行います:

1. 「印刷」オプションを選択します:
 - ページ・サイズを選択します
 - 縦長または横長の印刷方向を選択します。
2. 「ルール情報」オプションを選択します:
 - プロパティタブからルールの説明、ルール名、ルールが属するアプリケーション、所有者、作成日、最終変更日などその他の詳細を印刷する場合は、一般ルール情報を選択します。
 - フロー・チャートを印刷して、コンポーネント詳細を展開または縮小した状態にする場合は、フロー・チャートおよび展開済または縮小済を選択します。
 - コンポーネントを横(水平)方向に印刷するページ数を選択します。
 - コンポーネントを下(垂直)方向に印刷するページ数を選択します。
3. 「ページの順序」オプションを選択します:
 - 縦の次に横: フロー・チャート内のコンポーネントは、前の手順で指定したページ数を下方向(行のように垂直方向)に印刷してから横方向(列のように水平方向)に印刷します。
 - 横の次に縦: フロー・チャート内のコンポーネントは、前の手順で指定したページ数を横方向(列のように水平方向)に印刷してから下方向(行のように垂直方向)に印刷します。
4. 残りの「ルール情報」オプションを選択します:
 - フロー・チャートのコンポーネントの要約を印刷する場合は、要約を選択します。
 - ルールで使用されている変数の情報を印刷する場合は、変数セクションを選択します。
 - ルール内のコンポーネントについての詳細情報を印刷する場合は、詳細セクションを選択します。
 - 要約、変数および詳細セクションの間に改ページを作成する場合は、セクションの前に改ページを選択します。(このオプションはデフォルトで選択されています。)

- 他のルールに含まれているルールを印刷する場合は、ネストされたルールを選択します。

6 PDFの生成を選択します。

ビジネス・ルール PDFファイルが Adobe Acrobat で開きます。

7 Adobe Acrobat を印刷アイコンをクリックします。

8 「印刷」ダイアログで、使用しているプリンタ特定のオプションを選択して、印刷をクリックします。

ビジネス・ルールセットについて

同時または順次起動できる複数のビジネス・ルール(またはビジネス・ルールセット)を組み合わせることでビジネス・ルールセットを作成します。

Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションのビジネス・ルールセットを作成します(ルールセットを作成できるかどうかは、Oracle Hyperion(R) Shared Services で割り当てられた役割によって決まります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください)。ルールおよびルールセットは、対象のルールセットにドラッグ・アンド・ドロップして追加します。ルールセットを作成および保存すると、検証および配置できます。ルールセットは、Financial Management (Financial Management ルールセットの場合)、Planning (Planning ルールセットの場合)または Calculation Manager または Administration Services (Essbase ルールセットの場合)で起動できます。

ビジネス・ルールセットの作成

システム・ビューからビジネス・ルールセットを作成できます。ビジネス・ルールは、リスト・ビュー、カスタム・ビューおよび配置ビューからも、ルールセット・デザイナー、テンプレート・デザイナーおよびコンポーネント・デザイナー内からも作成できます。

▶ ビジネス・ルールセットを作成するには:

- 1 ルールセットの名前を入力します。
- 2 アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
- 3 アプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーションである必要があります。
- 4 次のいずれかを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、計算タイプを選択します。
 2. プランニングを選択した場合は、プラン・タイプを選択します。
 3. Essbase を選択した場合は、データベースを選択します。

注: システム・ビューから、ルールセットを右クリックし、「新規」を選択して新規ビジネス・ルールセットを作成すると、「新規ルールセット」ダイアロ

グにアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび使用している計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースが移入されます。

5 OK をクリックします。

新規ルールセットがルールセット・デザイナーに表示されます。ビジネス・ルールセットを作成するには、[264 ページの「ビジネス・ルールセットの設計」](#)を参照してください。

ビジネス・ルールセットの設計

「新規ルールセット」ダイアログでルールセットを作成すると、ルールセット・デザイナーに表示されます。

▶ ビジネス・ルールセットを設計するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよび新規ルールセットを作成するアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプを展開し、ルールセットを右クリックして新規を選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを右クリックして新規を選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の各計算タイプに対して「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

4 新規ルールセットで、次のタスクを行います:

1. ルールセットの名前を入力します。
2. アプリケーション・タイプを選択します(Financial Management、Planning または Essbase)。
3. アプリケーション名を選択します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。
4. アプリケーション・タイプとして Financial Management を選択した場合は計算タイプを選択し、アプリケーション・タイプとして Planning を選択した場合はプラン・タイプを選択し、アプリケーション・タイプとして Essbase を選択した場合はデータベースを選択します。
5. OK をクリックします。

- 5 ルールセット・デザイナーでルールセットを作成するには、ルールセット・パレットから既存のルールおよびルールセットをドラッグしてフロー・チャートにドロップします。

ヒント： 「ナビゲート」メニューの下にある上下矢印ボタンを使用してルールセット内のルールを並べ替えできます。上下に移動するには、ルールを選択して、正しい位置にくるまで上下矢印ボタンをクリックします。Financial Management アプリケーション内のルールはルールセット内で連続して起動されるため、ルールの順序は重要です。

注： Planning および Essbase ルールセットには、異なるアプリケーションで作成して配置されたルールおよびルールセットを含められます。Financial Management ルールおよびルールセットは同じ計算タイプか汎用計算タイプに属している必要があります。

- 6 プロパティで、ルールセットのプロパティを入力します。(ルールセット・デザイナーで、作成しているルールセット内のルールまたはルールセットを選択すると、新規ルールセットのプロパティではなくそのプロパティがプロパティに表示されます。)

- **オプション:** 50 文字以下の新規名前を入力して名前を編集します。(新規ルールセットダイアログ・ボックスの名前がデフォルトになります。)

- **オプション:** 255 文字以下のルール説明を入力します。

- **オプション:** ルールセット内のルールおよびルールセットを同時に起動する場合は、並列実行の使用可能を選択します。デフォルトでは、1つのルールセットに属するルールおよびルールセットは連続して起動します。そのルールセット内の各ルールまたはルールセットの実行でエラーが発生すると、次のルールまたはルールセットは起動されません。

ネストされた複数のルールセットがルールセットに含まれ、これらのネストされたルールセットの「並列実行の使用可能」設定が親のルールセットと異なる場合は、ネストされたルールセットの設定が適用されます。たとえば、ルールセット 1(並列処理のフラグが付いている)があり、それにルール 1、ルール 2 およびルールセット 2(連続処理のフラグが付いている)が含まれる場合、ルールセット 1 に並列処理のフラグが付いていても、ルールセット 2 内のルールおよびルールセットは連続して処理されます。

- **オプション:** ルールセットのコメントを入力します。たとえば、ビジネス・ルールセットの機能を説明するコメントを入力できます。

- **Financial Management ユーザーのみ:**

- ルールにログ・テキストがある場合は、ルールの起動時にこのテキストがログ・ファイルに含められるようにロギングの使用可能を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注： ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりも

ルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- ルールセットの起動時にログ・ファイルにルールセットの処理に要した時間が記録されるようにタイマーの使用可能を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。タイマーが使用可能なすべてのオブジェクトのログ・ファイルには、処理時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な3つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- ルールセットを Financial Management で起動できるように「起動の使用可能」を選択します。

注： ビジネス・ルールは Financial Management では起動できません。

7 使用では、このルールセットを使用しているルールセットがあれば確認できます。(このタブで情報は変更できません。)これが、このルールセットを使用するルールセットについて確認できる情報です:

- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの説明

注： デフォルトでは、作成中のルールセットは他のルールセットによって使用されません。

8 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールの起動時に各変数の最初のインスタンスのみが表示されるように、変数で変数のマージを選択して、そのルールセット内のルールで使用される同じ変数のすべてのインスタンスをマージします。このチェック・ボックスを選択しないと、各変数のすべてのインスタンスが表示されます。

注： 「変数のマージ」を選択する場合、ユーザーが実行時プロンプトで入力する最初の値が、検証および起動時に、後続のすべての実行時プロンプトで使用されます。

9 ファイル]、「保存の順」を選択します。

ビジネス・ルールセットを開く

Calculation Manager を開くとデフォルトで表示されるシステム・ビュー内からビジネス・ルールセットを開きます。ルールセットは、ルール・デザイナー、コンポー

ネット・デザイナーおよびテンプレート・デザイナー内で「ファイル」、「開く」の順に選択して開くこともできます。

▶ ビジネス・ルールセットを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが 1 つのみあります。

ビジネス・ルールセット内でビジネス・ルールを開く

システム・ビューまたはルールセット・デザイナーでビジネス・ルールセット内からビジネス・ルールを開くことができます。

▶ ビジネス・ルールセット内でビジネス・ルールを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプ、ルールセットの順に展開し、開くルールを含むルールセットを展開します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開し、開くルールを含むルールセットを展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが 1 つのみあります。

- 4 開くルールを右クリックして、開くを選択します。

ヒント： ビジネス・ルールに属するルールはルールセット・デザイナー内で開くこともできます。ルールセット・デザイナー内でルールを右クリックして、「開く」を選択します。

ビジネス・ルールのビジネス・ルールセットへの追加

ビジネス・ルールは、同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属するビジネス・ルールセットに追加できます。ルールセット内のルールは Financial Management 内で連続して起動されるため、ルールセット内でのルールの順序は重要です。Planning および Essbase では、ルールセット内のルールは連続して起動することも、同時に起動することもできます。

- ▶ ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットに追加するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- 4 ルールセット・デザイナーで、既存のオブジェクトでアプリケーションおよび追加するルールが含まれるプラン・タイプまたは計算タイプを展開します。
- 5 ルールを追加するには、ルールセット・デザイナーにルールをドラッグ・アンド・ドロップします。
- 6 ルールセットに追加する各ルールに対して手順 5 を繰り返します。
- 7 ファイル]、「保存の順」に選択します。

ビジネス・ルールセットからのビジネス・ルールの除去

ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットから除去しても、そのルールは消去されません。ルールセットとは関係なくデータベース内に存在します。

▶ ビジネス・ルールをビジネス・ルールセットから除去するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開し、開くルールセットを右クリックして、開くを選択します。
- 注:** Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。
- 4 ルールセット・デザイナーで、除去するルールを右クリックして、除去を選択します。
 - 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

ビジネス・ルールセットの編集

次のトピックを参照してください:

- [269 ページの「ビジネス・ルールセットの編集」](#)
- [272 ページの「ビジネス・ルールセットの別のアプリケーションへのコピー」](#)

ビジネス・ルールセットの編集

ビジネス・ルールセットの次のプロパティを編集できます:

- ビジネス・ルール・コンポーネント
- ビジネス・ルールの名前
- ビジネス・ルールの説明
- ビジネス・ルール・コメント
- Financial Management アプリケーションの場合は、ビジネス・ルールにログ・ファイルおよびタイマーがあるかどうか
- Planning および Essbase アプリケーションで、変数をマージする必要があるかどうか

▶ ビジネス・ルールセットを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開し、編集するルールセットを右クリックして、開くを選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開し、編集するルールセットを右クリックして、開くを選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。
- 4 ルールセット・デザイナーでルールセットを編集し、新規ルールおよびルールセットを追加、コピー、削除、順序変更するには:
 - ルールまたはルールセットをルールセットから削除するには、ルールまたはルールセットを選択して右クリックし、除去します。
 - ルールまたはルールセットをルールセットに追加するには、既存のオブジェクトで Financial Management、Planning、または Essbase アプリケーションから既存のルールおよびルールセットをドラッグしてルールセット・デザイナーにドロップします。

注: ルールセットに追加するルールおよびルールセットは編集しているルールセットと同じアプリケーション・タイプに属している必要があります。Financial Management ルールおよびルールセットは、同じ計算タイプに属するか、汎用計算タイプに属している必要があります。

 - ルールセット内のルールまたはルールセットを開くには、そのルールまたはルールセットを右クリックして、開くを選択します。
 - ルールセット内でルールまたはルールセットを並べ替えるには、「ナビゲート」メニューの下にある上下矢印ボタンを使用します。ルールまたはルールセットを上下させるには、そのルールまたはルールセットをクリックして、正しい位置にくるまで上下矢印ボタンをクリックします。
- 5 プロパティで、ルールセットのプロパティを編集します。(ルールセット・デザイナーで、このルールセットに追加したルールを選択すると、ルールのプロパティが「プロパティ」タブを表示されます。)
 - **オプション:** 50 文字以下の新規名前を入力して名前を編集します。(「新規ルールセット」ダイアログ・ボックスの名前がデフォルトになります。)
 - **オプション:** 255 文字以下の新規説明を入力して説明を編集します。
 - 並列実行の使用可能選択を編集します。ルールセット内のルールおよびルールセットを同時に起動するには、このオプションを選択します。連続して実行する場合は、このオプションを選択解除します。デフォルトでは、ルールセット内のルールおよびルールセットが連続して実行されます。ルールセット内の各ルールまたはルールセットがエラーなく実行されないと、次は実行されません。

ネストされた複数のルールセットがルールセットに含まれ、これらのネストされたルールセットの「並列実行の使用可能」設定が親のルールセットと異なる場合は、ネストされたルールセットの設定が適用されます。たとえば、ルールセット 1(並列処理のフラグが付いている)があり、それにルール 1、ルール 2 およびルールセット 2(連続処理のフラグが付いている)が含まれる場合、ルールセット 1 に並列処理のフラグが付いていても、ルールセット 2 内のルールおよびルールセットは連続して処理されます。

- コメントの編集
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - ルールにログ・テキストがある場合は、ルールの起動時にこのテキストがログ・ファイルに含められるようにロギングの使用可能を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ルールセットに対してはロギングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- ルールセットの起動時にログ・ファイルにルールセットの処理に要した時間が記録されるようにタイマーの使用可能を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。タイマーが使用可能なすべてのオブジェクトのログ・ファイルには、処理時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能なルールセットがあり、このルールセットにタイマーを使用可能な 3 つのルールが含まれている場合、ルールセットおよびこのルールセットの各ルールの処理に要した時間が記録されます。
- ルールセットを Financial Management で起動できるように「起動の使用可能」を選択します。

注: ビジネス・ルールは Financial Management では起動できません。

6 使用には、そのルールを使用するルールセットがあれば確認できます。(このタブで情報は編集できません。)ここには、そのルールセットを使用するルールセットの次の情報が表示されます:

- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの名前
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの計算またはプラン・タイプ
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルールセットの説明

- 7 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールの起動時に各変数の最初のインスタンスのみが表示されるように、変数で変数のマージを選択して、そのルールセットのルールで使用される同じグローバル変数のすべてのインスタンスをマージします。このチェック・ボックスを選択しないと、各変数のすべてのインスタンスが表示されます。

注: 「変数のマージ」を選択する場合、ユーザーが実行時プロンプトで入力する最初の値が、検証および起動時に、後続のすべての実行時プロンプトで使用されます。

注: マージできるのはグローバル変数のみです。

- 8 ファイル]、「保存の順」に選択します。

ビジネス・ルールセットの別のアプリケーションへのコピー

システム・ビューから、ビジネス・ルールセットを同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)および計算タイプ(Financial Management ルールセットの場合)、プラン・タイプ(Planning ルールセットの場合)またはデータベース(Essbase ルールセットの場合)の別のアプリケーションにコピーできます。

- ▶ ビジネス・ルールセットを別のアプリケーションにコピーするには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- 4 コピーするビジネス・ルールセットを右クリックして、コピー先を選択します。

ヒント: ルールセット・デザイナーでの操作時にビジネス・ルールセットをコピーして、別のビジネス・ルールセットまたはビジネス・ルールに貼り付けることもできます。ルールセット名を選択して、編集]、「コピーの順」を選択し、コピーするビジネス・ルールまたはルールセットを開いて、編集]、「貼付け」の順を選択します。

- 5 名前を付けて保存で、ビジネス・ルールセットの新規名前を入力するか、デフォルト名を受け入れて、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプを選択します。

注： 複数のアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプにビジネス・ルールセットをコピーできません。

選択したアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプに新規ビジネス・ルールセットが追加されます。これをシステム・ビューで確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。アプリケーション・リストをリフレッシュするには、ツールバーのリフレッシュアイコンをクリックします。「ルールセット」またはアプリケーション・リストのその上のレベルをリフレッシュして新規ルールセットを確認することもできます。[275 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ」](#)を参照してください。

ビジネス・ルールセットの保存

ビジネス・ルールセットを作成または編集したら保存する必要があります。ビジネス・ルールセットを保存すると、作成対象のアプリケーションおよびアプリケーション・タイプに保存されます。保存後には、配置、検証および起動できます。配置と検証は Calculation Manager から、起動はそのビジネス・ルールセットが属する Financial Management または Planning から(Financial Management または Planning ルールセットの場合)、または Calculation Manager または Administration Services から(Essbase ルールセットの場合)、実行できます。

- ▶ ビジネス・ルールセットを作成または編集した後に保存するには、「ファイル」、「保存の順」を選択するか、保存アイコンをクリックします。

注： ビジネス・ルールセットを保存した後にシステム・ビュー内で確認する際、アプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。リフレッシュするには、アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management)、プラン・タイプ(Planning)またはデータベース(Essbase の場合)を右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。ツールバーの「リフレッシュ」アイコンをクリックしてシステム・ビューのアプリケーション・リスト全体をリフレッシュすることもできます。

異なる名前でのビジネス・ルールセットの保存

「名前を付けて保存」を使用すると、異なる名前でのビジネス・ルールセットを保存できます。異なる名前での保存とそのルールセットのコピーが作成されます。

- ▶ 異なる名前でのビジネス・ルールセットを保存するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開します。
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- 4 異なる名前で作成したルールセットを右クリックして、開くを選択します。
- 5 ルールセット・デザイナーで、「名前を付けて保存の順」を選択します。
- 6 名前を付けて保存で、ルールセットの新規名前とアプリケーション名を入力します。アプリケーション名は有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。OK をクリックします。

注: 異なる名前で作成したルールセットのアプリケーション・タイプは変更できません。新規ルールセットは、作成元のルールセットと同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)にする必要があります。ルールセットが Financial Management ルールセットの場合、計算タイプを変更できません。新規ルールセットの計算タイプは前のルールセットと同じにする必要があります。

新規ルールセットがシステム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。

ビジネス・ルールセットの削除

Calculation Manager を開くとデフォルトで表示されるシステム・ビューからビジネス・ルールセットを削除します。ビジネス・ルールセットを削除できるのは、他のビジネス・ルールセットによって使用されていない場合のみです。(276 ページの「ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示」を参照。) ビジネス・ルールセットが使用されている場合は、それを使用しているビジネス・ルールセットから除去するか、使用側のビジネス・ルールセット用のコピーを作成しないと、そのビジネス・ルールセットは削除できません。

- ▶ ビジネス・ルールセットを削除するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** 計算タイプおよびルールセットを展開します。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットを展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- 4 ルールセットが別のルールセットに使用されていないことを確認するには、そのルールセットを右クリックし、使用の表示を選択します。(276 ページの「[ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示](#)」を参照。)
- 5 削除するルールセットを右クリックして、削除を選択します。
- 6 OK をクリックしてルールセットの削除を確認します。

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのリフレッシュ

システム・ビューでは、アプリケーション・リストのレベルをリフレッシュできます。アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース、複数のルールセットやルール、あるいは1つのルールセットやルールをリフレッシュできます。

デフォルトで、アプリケーション、アプリケーション・タイプ、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースをリフレッシュする場合は、属するすべてのルール、ルールセット、式、スクリプトおよびテンプレートがリフレッシュされます。ただし、アプリケーション内でルールセットまたはルールをリフレッシュしても、アプリケーション・リストまたは他のアプリケーションに属するルールセットやルールの上位レベルはリフレッシュされません。たとえば、Planning アプリケーションとプラン・タイプ内のルールをリフレッシュすると、そのアプリケーションとプラン・タイプ内の他のルールもリフレッシュされますが、他のプラン・タイプや他の Planning アプリケーション内のルールはリフレッシュされません。

注: ツールバーの「リフレッシュ」アイコンをクリックしてシステム・ビュー内のアプリケーション・リスト全体をリフレッシュすることもできます。

- ▶ ビジネス・ルールまたはルールセットをリフレッシュするには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットをリフレッシュするには、計算タイプを展開し、ルールセットを右クリックして、リフレッシュを選択します。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットをリフレッシュするには、ルールセットを右クリックし、リフレッシュを選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- ルールをリフレッシュするには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開して、ルールを右クリックし、リフレッシュを選択します。

ヒント: アプリケーション・タイプ、アプリケーション、またはリフレッシュするビジネス・ルールセットを含む計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを右クリックして、「リフレッシュ」を選択することもできます。

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用の表示

ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用しているビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットを表示できます。ルールまたはルールセットの使用の表示は、ルールまたはルールセットを削除する場合やこれを使用しているオブジェクトを確認する場合に役立ちます。

▶ ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットの使用を表示するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットの使用を表示するには、計算タイプおよびルールセットを展開し、使用を確認するルールセットを右クリックして、使用の表示を選択します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットの使用を表示するには、ルールセットを展開し、使用を確認するルールセットを右クリックして、使用の表示を選択します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- ルールの使用を表示するには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開してから、使用を確認するルールを右クリックして、使用の表示を選択します。

4 ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットについて次の情報を表示できます:

- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの名前
- ビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットのアプリケーション名
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが配置されているかどうか
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットが検証されているかどうか
- そのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを使用するビジネス・ルール、テンプレートおよびビジネス・ルールセットの説明

注： ルールまたはルールセットの使用は、「使用」タブのルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーから確認することもできます。

5 情報を確認した後、OK をクリックします。

オブジェクトの所有者の変更

オブジェクト(すなわち、ルール、ルールセット、テンプレート、式またはスクリプト・コンポーネント)が属するアプリケーションが配置済であれば、システム・ビューでオブジェクトの所有者を変更できます。デフォルトでは、オブジェクトを作成したユーザーが所有権を変更しないかぎり、そのユーザーがオブジェクトの所有者です。ユーザーが編集できるのは自分が所有しているオブジェクトのみですが、管理者は例外でどのオブジェクトでも編集できます。

▶ オブジェクトの所有者を変更するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ルールセットの所有権を変更するには、計算タイプおよびルールセットを展開します。
 - **Planning および Essbase ユーザーのみ:** ルールセットの所有権を変更するには、ルールセットを展開します。

注： Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の計算タイプごとに「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプ(Planning の場合)およびデータベース(Essbase の場合)と同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- ルール、式、スクリプトまたはテンプレートの所有権を変更するには、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開して、所有権を変更するオブジェクトに応じて、ルール、式、スクリプトまたはテンプレートを展開します。

- 4 オブジェクトを右クリックして、所有権の変更を選択します。
- 5 所有者の変更で、オブジェクトの所有権を移す先の所有者を選択します。
- 6 OK をクリックします。

所有権を割り当てたユーザーがオブジェクトを編集できます。

この章の内容

テンプレートについて.....	279
システム・テンプレートの操作	279
カスタム定義テンプレートの操作.....	300
カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け.....	317
カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートへの挿入.....	317
カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去.....	318
テンプレートの検索.....	318

テンプレートについて

テンプレートはビジネス・ルールで計算を実行します。Calculation Manager にはシステム・テンプレートおよびカスタム定義テンプレートが含まれます。システム・テンプレートを使用すると、データの割当て、集約、コピーおよび消去などの計算を実行できます。カスタム定義テンプレートは、ビジネスのニーズに応じて管理者が作成するテンプレートです。

システムおよびカスタム定義のテンプレートは、既存のオブジェクト・パレットからドラッグし、ルールのフロー・チャートにドロップすることで、ビジネス・ルールに含めることができます。ビジネス・ルールのコンポーネントのように、テンプレートには、パラメータを入力できる一連の手順が含まれます。これらのパラメータをテンプレート・ロジックと組み合わせて、ビジネス・ルール内で計算を行います。

ルール・デザイナーからカスタム定義テンプレートを作成するには、ルールのフロー・チャート内のコンポーネントを選択し、テンプレートとして保存します。カスタム定義テンプレートは、テンプレート・デザイナーを使用して、システム・ビューで「ファイル」、「新規テンプレート」の順に選択することで作成することもできます。

システム・テンプレートの操作

次のトピックを参照してください:

- [281 ページの「Planning および Essbase システム・テンプレートについて」](#)
- [280 ページの「Financial Management システム・テンプレートについて」](#)
- [282 ページの「ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用方法 \(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)

- 297 ページの「システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存」
- 298 ページの「システム・テンプレートのフロー・チャートへの挿入」
- 299 ページの「システム・テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去」

Financial Management システム・テンプレートについて

Calculation Manager には Financial Management のシステム・テンプレートが含まれます。

注： Financial Management システム・テンプレートを使用するには、事前定義済システム変数をテンプレートが使用されているアプリケーションにロードする必要があります。413 ページの「Financial Management アプリケーションへの事前定義済システム変数のロード(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。

- 財務丸めテンプレート: 統計的丸めではなく財務丸めを使用してデータを丸められます。財務丸め関数は、四捨五入法を使用してデータを指定した小数点以下の桁数に丸められます。
- 月の日数取得テンプレート: 指定した年月番号に基づいて、ある月の日数が生成されます。月は通常の 1 から 12 の範囲外の数字として入力できます。たとえば、年(2008)および期間番号(0)を入力すると、2007 年 12 月の日数が戻されます。年(2008)および期間番号(14)を入力すると、2009 年の 2 月の日数が戻されます。この関数は、うるう年にも対応しています。
- イン・リスト・テンプレート: 指定した次元メンバーが指定したメンバー・リストのメンバーかどうかテストされます。
- エンティティ別割当てテンプレート: 指定の割当て加重に基づいて、ソース勘定科目をグループの親エンティティからリスト内の各エンティティに対する宛先勘定科目に割り当てます。
- 平均貸借対照表テンプレート: MTD、QTD、HYTD および YTD の頻度の平均貸借対照表比率が計算されます。データは MTD<QTD、HYTD<YTD、または累積日次残高として入力できます。
- 開始残高テンプレート: 指定した取得メソッドに基づいて勘定科目の開始残高が計算されます。開始残高は同じ値通貨またはエンティティ通貨の合計から取得できます。
- 複雑な集計テンプレート: 各エンティティに割り当てられた集計メソッド(持株、グローバル、比例、資本)に基づいて、集計グループ内の各エンティティに対して集計と消去を行う組込み済の集計ルール。資本、投資、純利益、および標準消去の計算を処理します。監査トランザクションは、設定する監査フラグに基づいて生成されます。この集計ルールで、通常の法的要件のほとんどの計算を行います。

Planning および Essbase システム・テンプレートについて

Calculation Manager では、すべてのシステム・テンプレートをウィザードとして使用できます。ウィザードでシステム・テンプレートを使用すると、ビジネス・ルールでのテンプレートの使用が容易になり、計算スクリプトの潜在的な構文エラーを減らせます。

システム・テンプレートで使用可能な設計時プロンプトは、ウィザードに従って行う選択に基づいてフィルタされます。たとえば、集約システム・テンプレートは、集約する密次元を選択する手順を表示しますが、集約に使用可能な密次元がない場合、その手順でドロップダウン・リストから選択可能な密次元はありません。この状況は、上位の FIX ステートメントですべての密次元が使用されている場合に起こる可能性があります。

テンプレートは、テンプレートをドロップするビジネス・ルールのメンバー範囲でどの次元が使用されているかを検出できます。たとえば、集約テンプレートをルールのメンバー範囲にドロップし、このメンバー範囲にすべての密次元が含まれている場合、テンプレートの密次元集約の手順は表示されません。これにより、計算スクリプト・エラーを回避できます。Essbase スクリプトでは、この次元がすでに使用されている場合は、FIX ステートメント内で次元の集約ができないためです。たとえば、ビジネス・ルールでメンバー範囲が子(YearTotal)で構成されている場合、期間での集約はできません。

上位メンバー範囲にシステム・テンプレートを含めると、システム・テンプレートはこれを検出できます。システム・テンプレートがメンバー範囲コンポーネント(つまり Fix ステートメント)にドロップされると、そのメンバー範囲で使用される次元は式で使用されないことになり、これらの次元はウィザードに表示されません。その結果、システム・テンプレート使用時の計算スクリプト構文エラーの可能性が減ります。たとえば、割当てシステム・テンプレートが、エンティティで構成されたメンバー範囲コンポーネントで使用される場合、エンティティ次元は、割当てを実行できる次元として表示されません。

Calculation Manager には、次のような Planning および Essbase のシステム・テンプレートが含まれています:

- データの消去テンプレート: データベース内のある場所からデータを削除できます。割り当てる前にデータを消去できます。284 ページの「ビジネス・ルールでのデータの消去テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- データのコピー・テンプレート: データベース内のある場所から別の場所にデータをコピーできます。285 ページの「ビジネス・ルールでのデータのコピー・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- 金額単価レート・テンプレート: 3 つの変数のうち 2 つを入力して、3 番目の変数を計算できます。たとえば、販売された品目のレートと単価を入力すると、Calculation Manager がその品目の金額を計算します。286 ページの「ビジネス・ルールでの金額単価レート・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。

- レベル間割当てテンプレート: データベース・アウトラインの複数のレベルでメンバーから集約されたデータを配布できます。287 ページの「ビジネス・ルールでのレベル間割当てテンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- 単純割当てテンプレート: データベース・アウトラインの1つのレベルのメンバーのデータを配布できます。289 ページの「ビジネス・ルールでの単純割当てテンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- 集約テンプレート: 次元の密度に従って次元を集約するために最適化されたスクリプトを生成できます。次元は全体または一部を集約して、子孫、子または祖先に集約できます。292 ページの「ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- データのエクスポート・テンプレート: データベースの特定の場所からリレーショナル・リポジトリ内のファイルまたはテーブルにデータをエクスポートできます。また、バイナリ・ファイル・オプションを使用して以前にエクスポートしたデータもインポートできます。293 ページの「ビジネス・ルールでのデータのエクスポート・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。
- SET コマンド・テンプレート: 計算スクリプトの実行を最適化するスクリプト・コマンドを入力できます。データ・ボリューム、データ処理、メモリー使用、スレッド・スクリプト・コマンドおよびロギング・スクリプト・コマンドを含められます。295 ページの「ビジネス・ルールでの SET コマンド・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。

ビジネス・ルールでのシステム・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

システム・テンプレートを使用してビジネス・ルールを設計できます。ルール・デザイナーでビジネス・ルールを開いた後、アプリケーションを展開し、「System Templates」フォルダからシステム・テンプレートをドラッグしてビジネス・ルールのフロー・チャートにドロップすると、「既存のオブジェクト」の下にシステム・テンプレートが表示されます。

- ▶ ビジネス・ルールでシステム・テンプレートを使用するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - システム・テンプレートを追加するルールを右クリックして、開くを選択します。

- システム・テンプレートを追加するルールを選択して、「ファイル」、「開く」の順に選択します。
 - ファイル、新規、ルールの順に選択して、システム・テンプレートをドラッグ・アンド・ドロップできる新規ビジネス・ルールを作成します。
- 4 ルール・デザイナーにルールが開いたら、既存のオブジェクトから **System Templates** フォルダを展開します。
- 5 ビジネス・ルールに追加するシステム・テンプレートをドラッグして、フロー・チャートにドロップします。

システム・テンプレートをフロー・チャートにドロップすると、「要約」タブがアクティブになり、テンプレート・ウィザードが表示されます。

- 6 テンプレート・ウィザードでテンプレートの情報を入力します。
- データの消去テンプレートの情報を追加するには、[284 ページの「ビジネス・ルールでのデータの消去テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - データのコピー・テンプレートの情報を追加するには、[285 ページの「ビジネス・ルールでのデータのコピー・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - 金額単価レート・テンプレートの情報を追加するには、[286 ページの「ビジネス・ルールでの金額単価レート・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - レベル間割当てテンプレートの情報を追加するには、[287 ページの「ビジネス・ルールでのレベル間割当てテンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - 単純割当てテンプレートの情報を追加するには、[289 ページの「ビジネス・ルールでの単純割当てテンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - 集約テンプレートの情報を追加するには、[292 ページの「ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - データのエクスポート・テンプレートの情報を追加するには、[293 ページの「ビジネス・ルールでのデータのエクスポート・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - SET コマンド・テンプレートの情報を追加するには、[295 ページの「ビジネス・ルールでの SET コマンド・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

7 プロパティで、次のタスクを行います:

- オプション: テンプレートのキャプションを入力します。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - テンプレートで使用されているルールにログ・テキストがある場合は、テンプレートの起動時にこのログ・テキストがログ・ファイルに含まれるようにロギングの使用可能を選択します。ルール、ルールセットおよびコン

ポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注： ロギングがテンプレートに対して使用可能でなく、テンプレートに属するルールおよびコンポーネントに対して使用可能な場合、ログ・ファイルは作成されません。これは、テンプレートのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするためです。

- ログ・ファイルにテンプレートの処理に要した時間が記録されるようにタイマーの使用可能を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。タイマーが使用可能なすべてのオブジェクトのログ・ファイルに処理時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能なテンプレートがあり、このテンプレートにタイマーが使用可能な3つのルールが含まれている場合、テンプレートとこのテンプレートの各ルールの処理に要した時間が記録されます。

8 要約に、テンプレート・ウィザードで入力した情報が表示されます。編集をクリックすると、情報を編集できます。

9 スクリプトでは、グラフィカルでないフォーマットでテンプレートを表示できます。

注： このタブでは変更できません。テンプレート・スクリプトを変更する場合は、ビジネス・ルールを保存し、「編集」、「スクリプト」の順に選択してビジネス・ルールとそのコンポーネントをスクリプトに変換します。

10 ファイル]、「保存の順」に選択します。

ビジネス・ルールでのデータの消去テンプレートの使用方法 (Planning および Essbase ユーザーのみ)

ビジネス・ルールでデータの消去テンプレートを使用してデータベース内の場所からデータを削除します。データを削除するには、削除するデータの場所(すなわち、アプリケーション、次元およびメンバー)を指定します。1つのメンバーまたは定義するメンバーのブロックに対応するデータを削除できます。

たとえば、ビジネス・ルールでデータの消去テンプレートを使用して、データを実績から予測にコピーして変更する前に予測データを削除できます。

▶ ビジネス・ルールでデータの消去テンプレートを使用するには:

1 282 ページの手順 1 から 283 ページの手順 5 までを完了します。

2 データの消去テンプレート・ウィザードのデータの選択で、次のいずれかのタスクを行います:

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

事前に定義されている選択には、作成する変数が移入されます。各タブで、表示される変数のタイプは異なる場合があります。メンバー選択があるタブでは、事前に定義されている選択を使用できます。事前に定義されている選択を使用する場合は、移入されたメンバーを変更することもできます。

- メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注： メンバー・セレクトでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

3 データの選択で、次のタスクを行います：

1. 次のオプションを選択して、データの消去方法を指定します：

- すべて: セルのみを消去。
- 上位: すべてのブロックを消去。
- 動的: 動的計算および保管ブロックを消去。
- 非入力: 未入力ブロックを消去。
- 該当なし: 上位のブロックを消去。

2. ウィザードに対してデバッグ・ツールを有効にするかどうかを指定します。

4 HSP_Rates が疎に設定された複数通貨アプリケーションまたは単一通貨アプリケーションを使用している場合は、設定手順が表示されます。この手順には、「データの選択」タブで選択したメンバーが表示されます。単一メンバーが選択されている次元(密次元を推奨)を選択します。

注： 単一メンバーが選択されている次元を選択できない場合は、このテンプレートを 사용할できません。

5 終了をクリックします。

ビジネス・ルールでのデータのコピー・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

データのコピー・テンプレートは、データベースのある場所から指定した別の場所にデータをコピーするために使用します。

たとえば、データのコピー・テンプレートを使用して、2007 年度の勘定科目およびエンティティをコピーすることによって 2008 年度の予算を作成できます。この場合は、2007 年度実績を 2008 年度予測にコピーします。

予算のあるバージョン(最悪の場合)があり、この予算のデータをコピーして、変更ができる最善の場合のバージョンを作成する場合にデータをコピーすることもできます。

▶ ビジネス・ルールでデータのコピー・テンプレートを使用するには：

1 282 ページの手順 1 から 283 ページの手順 5 までを完了します。

2 データのコピー・テンプレート・ウィザードの視点(POV)で、データのコピーを制限する次元とメンバーを選択します。次へをクリックします。

3 コピー元で、次のタスクを行います：

1. アクションアイコンを使用して、データのコピー元となる次元のメンバーを選択します。

2. 次へをクリックします。
- 4 コピー先で、次のタスクを行います:**
1. アクションアイコンを使用して、データのコピー先となる次元のメンバーを選択します。
 2. 次へをクリックします。
- 5 消去で、新規データを宛先にコピーする前に、その宛先からデータを消去するかを指定します。**
- 6 最適化で、次のタスクを行います:**
1. コピーするデータが作成されていない場合は、はいを選択してデータのコピー・プロセスでこれらのブロックを作成します。データが作成されている場合は、いいえを選択します。
 2. ブロックの作成を選択しない場合は、ブロックがすでに存在するかどうかを指定します。
 3. はいを選択してブロックを作成する場合は、[286 ページの手順 7](#)に進みます。いいえを選択する場合は、[286 ページの手順 6.4](#)に進みます。
 4. コピー先 - その他情報で、前の手順で1つのメンバーのみを選択した次元を選択します。単一メンバーを選択した次元が見つからない場合は、戻るをクリックし、選択してかわりにブロックを作成します。
 5. オプションで、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「ブロックはすでに存在しますか?」: 「いいえ」を選択すると、欠落しているブロックが作成されます。
 - 「データをコピーするための条件を入力してください」: 条件を入力したら、[286 ページの手順 7](#)に進みます。条件を入力しない場合は、この手順の完了後に[286 ページの手順 6.6](#)に進みます。
 - 「コピー済データに適用するパーセンテージを入力してください(10%の場合は「10」を入力)または、その%増加しているメンバーを入力してください」
 6. 消去で、データをコピーする前に、宛先を消去するかどうかを指定します。
- 7 終了をクリックします。**

ビジネス・ルールでの金額単価レート・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

金額単価レート・テンプレートは、3つの変数のうち2つを指定した後に残りの1つを計算するために使用します。

たとえば、製品の収益をプランニングする場合に金額単価レート・テンプレートを使用できます。製品によっては目標とする収益および数量がわかっているため、これらの2つの変数を使用して価格を決定します。

▶ ビジネス・ルールで金額単価レート・テンプレートを使用するには:

- 1 [282 ページの手順 1](#) から [283 ページの手順 5](#) までを完了します。

2 金額単価レート・テンプレート・ウィザードの変数の入力で、アクションアイコンを使用して、3つの変数のうちの2つについて値を選択します:

- メンバー、変数、または関数を金額値として入力します。
- メンバー、変数、または関数をレート値として入力します。
- メンバー、変数、または関数を単位値として入力します。

374 ページの「メンバーの操作」、398 ページの「変数の操作」および414 ページの「関数の操作」を参照してください。

データベースで、#missing を示すメンバーが他の2つのメンバーの値に基づいて計算されます。

```
For Amount member input = Product Revenue
```

```
For Units member input = Quantity
```

```
For Rates member input = Price.
```

```
In the database, for Jan
```

```
Product Revenue = 500, Quantity = 10 and Price = # missing
```

```
This template calculates the Price based on Product Revenue /  
Quantity
```

注: このテンプレートは、メンバーの値が#missing でない場合は機能しません。

3 終了をクリックします。

ビジネス・ルールでのレベル間割当てテンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

レベル間割当てテンプレートは、データベース・アウトラインの2つの異なるレベルのメンバーからデータを配布するために使用します。

▶ ビジネス・ルールでレベル間割当てテンプレートを使用するには:

- 1 282 ページの手順 1 から 283 ページの手順 5 までを完了します。
- 2 レベル間割当てテンプレート・ウィザードの視点(POV)で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次のいずれかのタスクを行い、次へをクリックします。
 - 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注: メンバー・セクタでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

- 3 ソースで、リスト内の次元ごとに、次の3つのタスクのいずれかを行って割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： レベル間割当てに使用する次元は空にします。(次の手順でこの次元を選択します。)

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

- 4 割当て範囲で、次のタスクを行います:

1. データの割当て先の主次元を選択します。
2. 値を入力するか、アクションアイコンを使用して、データの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。
3. 値を入力するか、アクションアイコンを使用して、割当てを開始する、データベース・アウトライン内のレベルの番号を選択します。
4. 値を入力するか、アクションアイコンを使用して、割当てを終了する、データベース・アウトライン内のレベルの番号を選択します。
5. 次へをクリックします。

- 5 ターゲットで、ソースで選択したデータの割当て先である次元メンバーを選択します。(ここには、「ソース」で選択したメンバーがデフォルトで入力されます。)次の3つのタスクのいずれかを行い、次へをクリックします。

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。

- 6 ターゲットで、テンプレートのパフォーマンスを最適化するために、前の手順で値を入力した次元のいずれかを選択します。

- 7 オフセットで、割り当てた値の合計数をオフセット・メンバーに書き込む場合は、リストにある次元から、合計を計算する割当て済メンバーを選択します。次の3つのタスクのいずれかを行い、次へをクリックします:

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 8 ドライバで、次のいずれかのタスクを行って、割当て範囲の各メンバーに適用するパーセンテージを計算するための基準を指定します。次へをクリックします。
- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 9 割当て次元に対するドライバの集約を更新するかどうかを指定します。
- 10 他のオプションで、次を指定します:
1. データを割り当てる前に割当て範囲を消去するかどうかを指定します。
 2. データを割り当てた後に割当て範囲を再集約するかどうかを指定します。
 3. データを四捨五入するかどうかを指定します。
 - 四捨五入メンバーを定義しませんが、割り当てたデータ値の小数点以下の桁数を指定します。
 - 割り当てたデータ値をそのまま使用する場合は、四捨五入なしを選択します。
 4. ウィザードにデバッグ・ツールを使用するかどうかを指定します。
- 11 終了をクリックします。

ビジネス・ルールでの単純割当てテンプレートの使用方法 (Planning および Essbase ユーザーのみ)

データベース・アウトラインの1つのレベルで1つ以上のメンバーから別のメンバーにデータを配布するには、単純割当てテンプレートを使用します。

- ▶ ビジネス・ルールで単純割当てテンプレートを使用するには:
- 1 282 ページの手順 1 から 283 ページの手順 5 までを完了します。
 - 2 単純割当てテンプレート・ウィザードの視点(POV)で、割当て時に変更しないリスト内の次元ごとに次の3つのタスクのいずれかを行い、次へをクリックします。
 - 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。

注: メンバー・セクタでは、ウィザードの現在の手順にリストされる次元を「次元」から選択できます。そのため、ウィザードの現在の手順にリストされる次元のメンバーと関数を選択できます。

- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 3 単純割当てテンプレート・ウィザードのソースで、リストされる各次元について、次の 3 つのタスクのいずれかを行って、割り当てるデータを所有するメンバーを選択します。

注： リストされる次元ごとにメンバーを選択する必要があります。

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。

注： リストされる各次元について、事前定義済の選択に値が入力されない場合、空になっているすべての次元の値を入力する必要があります。

- メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 4 割り当てるソース量のパーセンテージを入力するか、アクションアイコンをクリックして、このパーセンテージと同等のメンバー、変数または関数を選択します。(第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。)次へをクリックします。
- 5 割当て範囲で、次のタスクを行います:
1. データの割当て先の主次元を選択します。
 2. メンバーを入力するか、アクションアイコンを使用してデータの割当て先の(主次元の)親メンバーを選択します。
データは、データベース・アウトラインの親メンバーの下のレベル 0 メンバー(つまり、下にメンバーのない、アウトライン内で最下位のメンバー)に割り当てられます。
 3. 次へをクリックします。
- 6 宛先ターゲットで、ソースで選択したデータの割当て先となる次元メンバーを選択します。(ここでは、「ソース」で選択したメンバーがデフォルトで入力されます。)次のいずれかのタスクを行い、次へをクリックします。
- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セレクトアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
 - 前述の手順で選択した 1 つのメンバーから次元を選択します。

7 宛先オフセットで、割り当てられた値の総量をオフセット・メンバーに書き込む場合は、リストにある次元から、合計を計算する割当て済メンバーを選択します。次のタスクのいずれかを行い、次へをクリックします:

- 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
- メンバー・セクタアイコンをクリックし、リスト内の次元ごとにメンバーと関数を選択します。
- リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
- 割当てプロセスの前にオフセット・データを消去するかどうかを選択します。

8 ドライバで、次のタスクを行います:

1. 割当て方法を選択してデータを割り当てる方法を指定します。
 - 割当て範囲内のデータ値を均等に割り当てる場合は、均等に割当ててを選択します。
 - 割当て範囲の各メンバーに適用するパーセンテージを計算するには、ドライバを使用して割当ててを選択します。
2. 次のタスクのいずれかを行って、視点(POV)で選択しなかった次元ごとにメンバーを選択します:
 - 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セクタアイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第12章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」を参照してください。
3. 次へをクリックします。

9 ドライバ・オプションで、割り当てられたデータが正しいことを確認するために、データの割当て前にドライバのデータを再集約するかどうかを指定します。次へをクリックします。

10 他のオプションで、次の手順を行います:

1. データを割り当てる前に割当て範囲からデータを消去するかどうかを指定します。
2. データを割り当てた後に割当て範囲を再集約するかどうかを指定します。新規値を確認する場合は、データを割り当てた後に値を再集約します。
3. データを四捨五入するかどうかを指定します。
 - 割り当てたデータ値の小数点以下の桁数を指定するには、四捨五入メンバーを定義しますを選択します。四捨五入メンバーを定義しますを選択した場合は、292 ページの手順 10.4 に進みます。
 - データ値をその最大値に四捨五入するには、最大値の使用を選択します。最大値の使用を選択した場合は、292 ページの手順 10.5 に進みます。

- 割り当てたデータ値をそのまま使用する場合は、四捨五入なしを選択します。四捨五入なしを選択した場合は、[292 ページの手順 11](#)に進みます。
 - 欠落しているブロックを自動的に作成するかどうかを指定します。
4. メンバーで四捨五入で、次のタスクを行います
 - この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力します。
 - 割当ての四捨五入差異の適用に使用したメンバーを入力します。
 5. 次のタスクを行います:
 - この割当てに使用する小数点以下の桁数を入力します。
 - 一時的な計算に使用するメンバーを入力します。すでに選択されているメンバーを使用し、未計算メンバーを選択します。
 - 前述のグリッドで1つのメンバーを選択した次元を選択します。
 6. ウィザードでデバッグ・ツールを実行するかどうかを指定します。
- 11 終了をクリックします。**

ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

集約テンプレートは、指定したメンバーのデータ値を集約するために使用します。これらの値のみがユーザーに対して表示されるように制限付きリストを定義できます。その他の設定で、データ値を現地通貨に集約するか、欠落した値を集約するかを指定することもできます。

たとえば、集約テンプレートを使用してレベル 0 のデータ次元を集約できます。レベル 0 を集約するには、集約テンプレートを実行してデータ次元内のメンバーの合計および小計を計算する必要があります。

- ▶ ビジネス・ルールで集約テンプレートを使用するには:
 - 1 [282 ページの手順 1](#) から [283 ページの手順 5](#) までを完了します。
 - 2 集約テンプレート・ウィザードの視点(POV)で、次のいずれかのタスクを行って集約を制限するメンバーを定義します。次へをクリックします。
 - 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セレクタアイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。[第 12 章「メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計」](#)を参照してください。
 - 3 全次元集約で、完全に集約する次元を 5 つまで選択します。3 つの疎次元および 2 つの密次元を選択できます。次へをクリックします。
 - 4 部分次元集約(密)で、次のことが行えます:
 1. 集約する密次元を 2 つまで選択します。

2. 集約する各密次元ごとに、アクションアイコンを使用して集約するメンバーを選択します。
3. 集約する密次元ごとに、集約する集約レベルを選択します。その子孫、子または祖先を集約できます。
4. 次へをクリックします。

5 部分次元集約(疎)で、次のことが行えます:

1. 集約する疎次元を3つまで選択します。
2. 集約する各疎次元ごとに、アクションアイコンを使用して集約するメンバーを選択します。
3. 集約する疎次元ごとに、集約する集約レベルを選択します。その子孫、子または祖先を集約できます。
4. 次へをクリックします。

6 設定で、データを現地通貨に集約するか、欠落した値を集約するかの設定およびその他の設定を指定します。

1. 現地通貨にデータを集約するには、オンを選択します。オフを選択すると、データベースに入力された通貨にデータが集約されます。
2. 集約で欠落した値を含めるには、オンを選択します。オフを選択すると、欠落した値は集約されません。
3. 疎に入力された次元で集約を最適化するには、オフを選択します。オフを選択すると、疎次元で計算が最適化されます。
4. 計算機キャッシュに対して次のいずれかの値を選択します。計算機キャッシュは、計算操作中にデータ・ブロックを作成して追跡するために使用されるメモリー内のバッファです。計算機キャッシュの最適なサイズは集約する疎次元の数および密度によって異なります。(『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照。)
 - 高: バイト数が最大の計算機キャッシュが使用されます。
 - デフォルト: バイト数がデフォルトの計算機キャッシュが使用されます。
 - 低: バイト数が最小の計算機キャッシュが使用されます。
 - オフ: 計算機キャッシュは使用されません。
 - すべて: 1つの疎次元全体が計算されていなくても計算機キャッシュが使用されます。

7 終了をクリックします。

ビジネス・ルールでのデータのエキスポート・テンプレートの使用方法(Planning および Essbase ユーザーのみ)

データのエキスポート・テンプレートは、データベース・アウトライン内の場所からデータをエキスポートするために使用します。バイナリ・ファイルをエキスポートすると、データのエキスポート・テンプレートを使用してこのファイルをインポートすることもできます。

▶ ビジネス・ルールでデータのエクспорт・テンプレートを使用するには:

- 1 [282 ページの手順 1](#) から [283 ページの手順 5](#) までを完了します。
- 2 データのエクспорт・テンプレート・ウィザードで、モードからデータをエクспортまたはインポートするかどうかを指定します。次へをクリックします。
- 3 データ範囲のエクспортで、次の 3 つのタスクのいずれかを行い、エクспортするデータの範囲を指定します。次へをクリックします。
 - 事前に定義されている選択項目の使用から事前定義済の選択肢を選択し、値とともに次元のリストを移入します。
 - メンバー・セクタアイコンをクリックし、リストにある各次元についてメンバーまたは関数を選択します。
 - リスト内の次元を選択し、アクションアイコンをクリックしてメンバー、変数または関数を選択します。第 12 章「[メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計](#)」を参照してください。
- 4 データ範囲のエクспортで、データをエクспортするファイルのタイプを選択し、次へをクリックします。
 - フラット・ファイル
 - データベース・テーブル
 - バイナリ・ファイル

注: ファイルをエクспортした後にインポートする場合、ファイルはバイナリ・ファイルである必要があります。
- 5 出力-ファイルで、エクспортするファイル・タイプに応じて次のいずれかを行い、次へをクリックします。
 - フラット・ファイルをエクспортする場合:
 1. 二重引用符で囲んだファイル名およびパスを入力します。
 2. 列区切り記号を選択します。
 3. オプション: 二重引用符で囲んだテキスト文字列を入力して欠落したデータ値を示すか、アクションアイコンを使用して選択します。
 - データベース・テーブルをエクспортする場合:
 1. 二重引用符で囲んだデータ・ソース名を入力します。
 2. 二重引用符で囲んだデータ・ソース・テーブル名を入力します。
 3. 二重引用符で囲んだデータ・ソース・ログオン名およびパスワードを入力します。
 - バイナリ・ファイルをエクспортする場合は、二重引用符で囲んだファイル名およびパスを入力します。
- 6 プロセス中で、次のことを行えます:
 1. 列または非列フォーマットのどちらでデータをエクспортするかを指定します。
 2. エクспортする小数点以下の桁数を指定します。(最大桁数は 16 です。)
 3. エクспорт後のデータの桁数を指定します。(デフォルトは 16 です。)

4. エクスポートされたファイルの始めにヘッダ行を含めるかどうかを指定します。
5. 他のデータをまとめる列ヘッダとして使用する次元を選択します。
6. リレーショナル・データベースにインポートできるように、エクスポートされたファイルをフォーマットするかどうかを指定します。
7. エクスポートするファイルと、場所および名前が同じファイルがある場合の上書きするかどうかを指定します。
8. データをエクスポートするか、データをエクスポートしないでエクスポート・コマンドを実行するテストを実行するかどうかを指定します。

7 終了をクリックします。

ビジネス・ルールでの SET コマンド・テンプレートの使用方法 (Planning および Essbase ユーザーのみ)

SET コマンド・テンプレートは、計算スクリプトの実行を最適化するスクリプト・コマンドを入力するために使用します。データ・ボリューム、データ処理、メモリー使用、スレッドおよびロギング・スクリプト・コマンドを含められます。

▶ ビジネス・ルールで SET コマンド・テンプレートを使用するには:

1 282 ページの手順 1 から 283 ページの手順 5 までを完了します。

2 SET コマンド・テンプレート・ウィザードのデータ・ボリュームで、次の手順に従います:

1. すべてのデータ・ブロックを計算するか、使用済としてマークされたブロックのみを計算するかを指定します。高機能計算を使用すると、更新されたデータ・ブロックやそれに従属する親などの使用済ブロックのみが計算されます。したがって、計算が非常に効率的になります。
2. データをクリーンとしてマークする時点を指定します。
3. FIX コマンドの評価結果が空のメンバー・セットの場合に、計算を停止するかどうかを指定します。
4. 大きなデータベース・アウトライン内の疎次元に対する複雑な式の計算を最適化するかどうかを指定します。

『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

5. 次へをクリックします。

3 データ処理では、次のことが行えます:

1. 欠落したデータ値を連結するかどうかを指定します。
2. 計算式により定数以外のものが疎次元のメンバーに割り当てられた場合に新規データ・ブロックを作成するかどうかを指定します。
3. メモリーにブロックを作成するかどうか、および欠落したデータ・ブロックを保管するかどうかを指定します。
4. 実行時依存の関数が保管されたメンバーの式に含まれている場合、バッチ計算中に密の動的計算メンバーの計算をオフにするかどうかを指定します。

5. 透過パーティションのあるアプリケーションに対して、ソースへのリモート計算をオンにするかどうかを指定します。

『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

6. 次へをクリックします。

4 メモリーの使用では、次のことが行えます:

1. 計算機キャッシュのサイズを指定します。
 - 高: バイト数が最大の計算機キャッシュが使用されます。
 - デフォルト: バイト数がデフォルトの計算機キャッシュが使用されます。
 - 低: バイト数が最小の計算機キャッシュが使用されます。
 - オフ: 計算機キャッシュは使用されません。
 - すべて: 1つの疎次元全体が計算されていなくても計算機キャッシュが使用されます。
 - 変更しない(システム・デフォルトを使用): システムがデフォルトで使用する設定が使用されます。

注: このオプションは、ルールのスクリプトに表示されません。

2. 疎メンバー式の計算時にロックできるブロックの最大数を指定します。
 - 高: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの最大数
 - デフォルト: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックのデフォルト数
 - 低: 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの最小数
 - 変更しない(システム・デフォルトを使用): 1つのブロックの計算中に同時に固定できるブロックの数

注: このオプションは、ルールのスクリプトに表示されません。

3. 次へをクリックします。

5 スレッドでは、次のことが行えます:

1. 並列計算に使用できるスレッド数を選択することによって、並列計算を使用可能にするかどうかを指定します。(デフォルトでは、シリアル計算が使用されますが、並列計算を使用すると計算を最適化できる場合があります。)
 - 32ビット・プラットフォームでブロックを格納するために、1から4の整数を1つ選択します。
 - 64ビット・プラットフォームでブロックを格納するために、1から8の整数を1つ選択します。

注: 「オフ」を選択すると、シリアル計算が使用されます。並列計算は行われません。

- 集約ストレージの場合は、1-8の整数を1つ選択します。デフォルト値は2です。

2. 並列で実行できる潜在的タスクを識別するために使用するアウトラインの疎次元の数を指定します。値を入力するか、「アクション」アイコンを使用して、この値を保持するメンバーまたは変数を選択します。
 - タスクの識別にアウトラインの最後の疎次元のみ使用することを示すにはデフォルト値の 1 を選択します。
 - たとえば、アウトラインの最後から 2 番目までの疎次元を使用することを示す場合には値 2 を入力します。
 - アウトラインのすべての次元を使用することを示すには、疎次元の総数である最大値を入力します。
3. 次へをクリックします。

6 ログインでは、次のことが行えます:

1. 計算のエラー・レポートのレベルを選択します:
 - 要約: 計算の設定が表示され、作成済、読取り済および書込み済データ・ブロックの数および計算済のデータ・セルの数に関する統計情報が示されます。
 - 詳細: 同じ情報を要約として示します。さらに、データ・ブロックの計算ごとに詳細な情報メッセージが表示されます。
 - エラー: エラー・メッセージのみが表示されます。
 - 情報: 情報、警告およびエラー・メッセージのみが表示されます。
 - なし: 計算スクリプトの実行中はメッセージが表示されません。ただし、エラー・メッセージに関しては、重要な情報が含まれている可能性があるため表示されます。
 - のみ: シミュレート計算のみが実行されます。コマンドが認識されないことを示すエラー・メッセージが検証中に表示されても無視できます。
2. 計算中に一定の間隔で完了通知を生成することにより計算の進行状況を監視するかどうかを指定します。
 - 高: 最大数の完了通知が生成されます。
 - デフォルト: デフォルト数の完了通知が生成されます。
 - 低: 最小数の完了通知が生成されます。

7 終了をクリックします。

システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存

システム・テンプレートのコンテンツをカスタマイズできます。システム・テンプレートは編集できませんが、「名前を付けて保存」を使用すれば、システム・テンプレートに新規名前を付けて保存できます。新規名前では保存すると、カスタマイズ可能なカスタム定義テンプレートになります。元のシステム・テンプレートはそのまま変更されません。

注： Essbase システム・テンプレートで「名前を付け保存」を実行し、カスタム定義テンプレートとして保存すると、新規カスタム定義テンプレートにアプリケーションという設計時プロンプトが表示されます。ただし、Essbase の新規カスタム定義テンプレートを作成する場合は、テンプレートにアプリケーション設計時プロンプトは表示されません。カスタム定義テンプレートとして保存するシステム・テンプレートではアプリケーション設計時プロンプトを無視してください。

▶ システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートとして保存するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
- 3 カスタム定義テンプレートとして保存するシステム・テンプレートが含まれるビジネス・ルールを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナのフロー・チャートで、システム・テンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- 5 システム・テンプレートが開いたら、「ファイル」、「名前を付けて保存の順」を選択します。
- 6 名前を付けて保存では、テンプレートの情報(テンプレート名とアプリケーション名)がデフォルトで表示されます。テンプレートの新規名前を入力し、アプリケーション、および場所のアプリケーション・タイプ、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを入力します。
- 7 OK をクリックします。

新規カスタム定義テンプレートが、アプリケーション、および名前を付けて保存時に選択した計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースの「Templates」フォルダに表示されます。これを開いてカスタマイズできます。

注： 新規テンプレートを確認するために、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。「Templates」フォルダ(あるいは計算またはプラン・タイプ、アプリケーションまたはアプリケーション・タイプ)を右クリックして、「リフレッシュ」を選択します。

システム・テンプレートのフロー・チャートへの挿入

ルール・デザイナ内からシステム・テンプレートをビジネス・ルールに挿入できます。

注： システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートに挿入できません。

▶ システム・テンプレートをビジネス・ルールに挿入するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
- 3 テンプレートを挿入するビジネス・ルールを右クリックして、開くを選択します
- 4 ルール・デザイナの既存のオブジェクトで、System Templates フォルダを展開します。
- 5 ルールに挿入するシステム・テンプレートをドラッグして、このテンプレートを表示するルールのフロー・チャート内の場所にドロップします。次のようなシステム・テンプレートを使用できます:
 - データの消去テンプレートの情報を追加するには、284 ページの「[ビジネス・ルールでのデータの消去テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - データのコピー・テンプレートの情報を追加するには、285 ページの「[ビジネス・ルールでのデータのコピー・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - 金額単価レート・テンプレートの情報を追加するには、286 ページの「[ビジネス・ルールでの金額単価レート・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - レベル間割当てテンプレートの情報を追加するには、287 ページの「[ビジネス・ルールでのレベル間割当てテンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - 単純割当てテンプレートの情報を追加するには、289 ページの「[ビジネス・ルールでの単純割当てテンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - 集約テンプレートの情報を追加するには、292 ページの「[ビジネス・ルールでの集約テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - データのエクスポート・テンプレートの情報を追加するには、293 ページの「[ビジネス・ルールでのデータのエクスポート・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - SET コマンド・テンプレートの情報を追加するには、295 ページの「[ビジネス・ルールでの SET コマンド・テンプレートの使用方法\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

システム・テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去

ビジネス・ルールのフロー・チャートからシステム・テンプレートを除去するには、フロー・チャートでそのテンプレートを右クリックし、「除去」をクリックし

ます。フロー・チャートから除去しても、データベースからは削除されません。データベースには別のオブジェクトとして存在します。

- ▶ システム・テンプレートをフロー・チャートから除去するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
 - 3 システム・テンプレートを除去するビジネス・ルールを右クリックして、開くを選択します。
 - 4 ルール・デザイナーのフロー・チャートで、除去するシステム・テンプレートを右クリックして、除去を選択します。
 - 5 ファイル」、「保存の順」に選択します。

カスタム定義テンプレートの操作

次のトピックを参照してください:

- [301 ページの「カスタム定義テンプレートについて」](#)
- [301 ページの「カスタム定義テンプレートの作成」](#)
- [302 ページの「カスタム定義テンプレートの設計」](#)
- [305 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成」](#)
- [309 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの選択」](#)
- [312 ページの「テンプレートのコンポーネントまたはビジネス・ルールのコンポーネントからのカスタム定義テンプレートの作成」](#)
- [313 ページの「カスタム定義テンプレートを開く」](#)
- [313 ページの「カスタム定義テンプレートの編集」](#)
- [313 ページの「カスタム定義テンプレートの保存」](#)
- [314 ページの「異なる名前でのカスタム定義テンプレートの保存」](#)
- [315 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ」](#)
- [315 ページの「カスタム定義テンプレートの使用の表示」](#)
- [316 ページの「カスタム定義テンプレートの削除」](#)
- [317 ページの「カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け」](#)
- [317 ページの「カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートへの挿入」](#)
- [318 ページの「カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去」](#)
- [318 ページの「テンプレートの検索」](#)

カスタム定義テンプレートについて

カスタム定義テンプレートはビジネス・ルールおよびその他のテンプレートで使用するために管理者が設計します。カスタム定義テンプレートには、システム・ビューの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース内の「Templates」フォルダから、およびルール・デザイナー内の「既存のオブジェクト」からアクセスできます。

カスタム定義テンプレートの作成

カスタム定義テンプレートは、システム・ビューまたはルール・デザイナー、コンポーネント・デザイナーあるいはテンプレート・デザイナー内から作成できます。

- ▶ カスタム定義テンプレートを作成するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 テンプレートを右クリックし、新規を選択します。
 - 4 テンプレートの名前を入力します。
 - 5 アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
 - 6 アプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。
 - 7 次のいずれかを行います:
 - Financial Management を選択した場合は、計算タイプを選択します。
 - プランニングを選択した場合は、プラン・タイプを選択します。
 - Essbase を選択した場合は、データベースを選択します。

注: 「テンプレート」を右クリックして、新規テンプレートを作成するために「新規」を選択すると、「新規テンプレート」ダイアログにシステム・ビュー内で操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプが取り込まれます。

- 8 OK をクリックします。

テンプレートがテンプレート・デザイナーに表示されます。テンプレートを設計するには、302 ページの「[カスタム定義テンプレートの設計](#)」を参照してください。

カスタム定義テンプレートの設計

カスタム定義テンプレートはシステム・ビューから作成します。カスタム定義テンプレートには、スクリプト、式、ビジネス・ルールおよびその他のカスタム定義テンプレートを含められます。

▶ カスタム定義テンプレートを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、次のタスクのいずれかを実行します:
 - ファイル、「新規」、「カスタム定義テンプレートの順」を選択します。
 - Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。テンプレートを右クリックして新規を選択します。
- 3 名前、アプリケーション・タイプおよびカスタム定義テンプレートが属するアプリケーションを入力して、次のいずれかを行います:
 - Financial Management ユーザーのみ: Financial Management テンプレートを作成する場合には、計算タイプを入力します。
 - Planning ユーザーのみ: Planning テンプレートを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
 - Essbase ユーザーのみ: Essbase テンプレートを作成する場合は、データベースを入力します。
- 4 OK をクリックします。
テンプレート・デザイナーに新規テンプレートが表示されます。
- 5 テンプレートを設計するには、テンプレート・パレットから新規および既存のオブジェクトをドラッグして、テンプレート・デザイナー内のテンプレートのフロー・チャートにドロップします。

注: テンプレートとは別に式およびスクリプトなどの新規オブジェクトを作成して、後でテンプレートに追加することもできます。

新規オブジェクトから次のコンポーネントをドラッグ・アンド・ドロップして、新規コンポーネントをテンプレートのフロー・チャートに挿入します:

- 式: 320 ページの「式コンポーネントの操作」を参照してください。
- スクリプト: 331 ページの「スクリプト・コンポーネントの操作」を参照してください。
- 条件: 338 ページの「条件コンポーネントの操作」を参照してください。
- メンバー範囲: 342 ページの「メンバー範囲コンポーネントの操作」を参照してください。
- データ範囲: 347 ページの「データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。

- 固定ループ: 352 ページの「固定ループ・コンポーネントの操作」を参照してください。

既存のオブジェクトで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションから既存のルール、式、スクリプトおよびテンプレートをドラッグし、テンプレートのフロー・チャートにドロップします。

式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップすると、コンポーネントはデフォルトで共有オブジェクトになります。オブジェクトを共有しない場合は、式またはスクリプト・コンポーネントの「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスの選択を解除します。361 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有」を参照してください。

注: システム・テンプレートをカスタム定義テンプレートで使用できません。システム・テンプレートのプロパティをカスタム定義テンプレートで使用する場合には、「名前を付けて保存」を使用してそのシステム・テンプレートをカスタム定義テンプレートとして保存します。297 ページの「システム・テンプレートのカスタム定義テンプレートとしての保存」を参照してください。

ヒント: テンプレートにコンポーネントを追加する際、コンポーネント・アイコンのサイズとフロー・チャートに表示される詳細情報の量を増減できます。フロー・チャート内でズーム・バーを使用してズーム・インおよびズーム・アウトできます。フロー・チャートを小さいサイズまたは最小サイズで表示した場合、コンポーネントのキャプションは表示されませんが、アイコン上にマウス・ポインタを置くと、キャプションが表示されます。フロー・チャート内のコンポーネントのサイズにかかわらず、コンポーネントを選択して、「プロパティ」タブにプロパティを表示したり、コンポーネントを編集したりできます。

- 6 **オプション:** テンプレートをユーザーが使用する際に情報を入力するように求める設計時プロンプトを入力するには、テンプレート・デザイナー・フロー・チャートの下にあるテーブルを使用します。305 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成」を参照してください。

カスタム定義テンプレートを開くと、デフォルトで2つのシステム設計時プロンプトが含まれています:

- アプリケーション: アプリケーション設計時プロンプトは、アプリケーションが複数通貨アプリケーションかどうかを判別します
- 上位 POV: ビジネス・ルールで使用される上位メンバー範囲からメンバーのリストを取得するメンバー範囲設計時プロンプト

- 7 プロパティで、テンプレートのプロパティを入力します。(テンプレートのフロー・チャートでコンポーネント間を移動していくと、タブの数およびコンテンツが変わります。テンプレートのコンポーネントのプロパティおよびその他の情報を入力するには、フロー・チャートでコンポーネントを選択します。第 11 章「コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計」を参照。)

- オプション: 50 文字以下の新規名前を入力してテンプレート名を編集します。(「新規テンプレート」ダイアログの名前がデフォルトになります。)
- オプション: 255 文字以下のテンプレートの説明を入力します。

- オプション: テンプレートのキャプションを入力します。キャプションはフロー・チャートでテンプレートの下に表示されます。
- オプション: テンプレートのコメントを入力します。たとえば、テンプレートの使用目的などを説明する際に入力します。
- **Financial Management ユーザーのみ:**
 - テンプレートで使用されているルールにログ・テキストがある場合は、テンプレートの起動時にこのログ・テキストがログ・ファイルに含まれるようにロギングの使用可能を選択します。ルール、ルールセットおよびコンポーネントのロギングを使用可能にできます。ただし、ビジネス・ルールの式ステートメントとともに含めるログ・テキストがあれば指定します。

注: ロギングがテンプレートに対して使用可能でなく、テンプレートに属するルールおよびコンポーネントに対して使用可能な場合、ログ・ファイルは作成されません。これは、テンプレートのログ設定がルールおよびコンポーネントの設定を上書きするためです。

- ログ・ファイルにテンプレートの処理に要した時間が記録されるようにタイマーの使用可能を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。タイマーが使用可能なすべてのオブジェクトのログ・ファイルに処理時間が含まれます。たとえば、タイマーが使用可能なテンプレートがあり、このテンプレートにタイマーが使用可能な3つのルールが含まれている場合、テンプレートとこのテンプレートの各ルールの処理に要した時間が記録されます。

8 使用では、テンプレートに関する次の情報を表示できます:

- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの名前
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートのアプリケーション名
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが配置されているかどうか
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが検証されているかどうか
- そのテンプレートを使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの説明

9 スクリプトでは、グラフィカルでないフォーマットでテンプレートを表示できます。

注: このタブでは変更できません。テンプレート・スクリプトを変更するには、ビジネス・ルールを保存して「編集」、「スクリプト」の順に選択し、ビジネス・ルールとそのコンポーネントをスクリプトに変換します。

10 ファイル」、「保存の順」を選択します。

カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成

ユーザーがテンプレートを使用してビジネス・ルールを設計するときに適切な情報の入力を求めるプロンプトが表示されるように、カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトを入力できます。

▶ カスタム定義テンプレート用の設計時プロンプトを作成するには:

- 1 [302 ページの手順 1](#) から [302 ページの手順 5](#) までを完了します。
- 2 設計時プロンプト・テーブルの名前に設計時プロンプトの名前を入力します。
- 3 タイプの矢印をクリックし、設計時プロンプト・タイプをドロップダウン・リストから選択します:

注: アプリケーション・タイプに応じて、使用可能な設計時プロンプト・タイプが異なります。

- 属性 - テンプレートが属するアプリケーションの属性の入力を求めるプロンプトが表示されます。「属性」を選択する場合、次のタスクを行います:
 1. ユーザー入力をクリックして、設計時プロンプトの属性を選択します。
 2. **オプション:** 次元限界の選択をクリックして、次元に対する限界を選択します。 [310 ページの「次元間、次元、次元\(複数\)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」](#) を参照してください。
- ブール - ブール値の入力を求めるプロンプトが表示されます。
- 次元間 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の範囲の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元間」を選択した場合、次のタスクを行います:
 - **オプション:** 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。 [311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」](#) を参照してください。
 - **オプション:** 次元限界の選択をクリックして、次元の限界を選択します。 [310 ページの「次元間、次元、次元\(複数\)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」](#) を参照してください。
- 条件 - 条件の入力を求めるプロンプトが表示されます。 [325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」](#) を参照してください。
- 次元 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - **オプション:** 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。 [311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」](#) を参照してください。
 - **オプション:** 次元限界の選択をクリックして、次元の限界を選択します。 [310 ページの「次元間、次元、次元\(複数\)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」](#) を参照してください。
- 次元 - テンプレートが属するアプリケーションの次元の入力を求めるプロンプトが表示されます。「次元」を選択する場合、次のタスクを行います:

- オプション: 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」を参照してください。
 - オプション: 次元限界の選択をクリックして、次元の限界を選択します。310 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」を参照してください。
 - メンバー - アプリケーションで選択した次元のメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」を参照してください。
 - オプション: 次元限界の選択をクリックして、メンバーが属する次元の限界を選択します。310 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」を参照してください。
 - メンバー - アプリケーションで選択した次元の複数のメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」を参照してください。
 - オプション: 次元限界の選択をクリックして、メンバーが属する次元の限界を選択します。310 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」を参照してください。
 - メンバー範囲 - アプリケーションで選択した次元のメンバー範囲の入力を求めるプロンプトが表示されます。「メンバー範囲」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - オプション: 依存関係をクリックして、依存関係を定義します。311 ページの「設計時プロンプトの依存関係の定義」を参照してください。
 - オプション: 次元限界の選択をクリックして、メンバー範囲が属する次元の限界を選択します。310 ページの「次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義」を参照してください。
 - 数値 - アプリケーションで選択した次元の数値の入力を求めるプロンプトが表示されます。
 - 制限リスト - メンバーの制限リストのメンバーの入力を求めるプロンプトが表示されます。「制限リスト」を選択する場合、次のタスクを行います:
 - ユーザー入力をクリックして、メンバーの制限リストを定義します。310 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義」を参照してください。
 - 区切り記号 - 区切り記号の入力を求めるプロンプトが表示されます。
 - 文字列 - テキスト文字列の入力を求めるプロンプトが表示されます。
 - パスワード - パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます
- 4 そのテンプレートを使用したときに設計時プロンプトを表示する場合には、プロンプトしますか?を選択します。
- 5 その設計時プロンプトでユーザーが情報を入力する必要がある場合は、必須を選択します。

- 6 ユーザーがプロンプトを読む必要があるが情報を入力する必要がない場合は、読取り専用を選択します。
- 7 DTP テキストに設計時プロンプトのテキストを入力します。設計時プロンプトがパスワードの場合は、そのパスワードを入力します。

- 8 デフォルト値で設計時プロンプトのデフォルト値を入力または選択します。

設計時プロンプトが次元間設計時プロンプトの場合、次のタスクを行います:

- ユーザー入力をクリックして、次元間選択を定義します。310 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義」を参照してください。
- DTP をソースとして選択をクリックして、既存の設計時プロンプトを選択します。309 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの選択」を参照してください。

設計時プロンプトがメンバー範囲設計時プロンプトの場合、次のタスクを行います:

- ユーザー入力をクリックして、次元のメンバー範囲を定義します。310 ページの「次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義」を参照してください。
- DTP をソースとして選択をクリックして、既存の設計時プロンプトを選択します。309 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの選択」を参照してください。

- 9 テンプレート用に作成する設計時プロンプトごとに 305 ページの手順 1 から 307 ページの手順 8 を繰り返します。作成する設計時プロンプトの数が増えると、設計時プロンプトを手順に整理したり、テーブルで行を追加、コピーまたは順序変更したりする必要があります。

- テーブルの行の順序を変更するには、行を選択し、上矢印または下矢印を使用してテーブル内の目的の位置に行を移動します。
- 行を挿入または削除するには、行の挿入アイコンおよび行の削除アイコンを使用します。
- テーブル内で設計時プロンプトを整理するには、ウィザードの作成/編集をクリックします。308 ページの「テンプレート・ウィザードを使用した設計時プロンプトの整理」を参照してください。
- 設計時プロンプト・テーブルに新規の行を挿入するには、最終行を右クリックして、行の挿入を選択します。
- 設計時プロンプト・テーブルから行を削除するには、その行を右クリックして、行の削除を選択します。
- テーブルの行をコピーするには、その行を右クリックして、コピーを選択します。
- テーブル全体をコピーするには、任意の行を右クリックして、グリッドのコピーを選択します。
- コピーした 1 つまたは複数の行を貼り付けるには、コピーする行または表示する行のすぐ下の行を右クリックして、貼付けを選択します。

- 10 ファイル、保存の順に選択します。

テンプレート・ウィザードを使用した設計時プロンプトの整理

テンプレート・ウィザード・デザイナを使用すると、カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトを編成できます。このウィザードによって、テンプレートでの設計時プロンプトの表示を編成できます。つまり、手順ごとにどの設計時プロンプトを表示するかを指定し、定義する条件に基づいて手順の表示/非表示を選択できます。これらの条件は、ウィザードの前の手順で選択するメンバーや次元に基づいて、またはテンプレートが使用されるルールの上位 FIX ステートメントで選択したメンバーや次元に基づいて作成できます。たとえば、UpperPOV 設計時プロンプトを使用すると、すべての密次元が上位の設計時プロンプトに含まれているかどうかをテストできます。含まれている場合、密次元集約手順は表示されません。含まれていない場合、密次元集約手順は表示されます。

▶ 設計時プロンプトを編成するには:

- 1 302 ページの手順 1 から 303 ページの手順 6 までを完了します。
- 2 設計時プロンプト・テーブルで、ウィザードの作成/編集をクリックします。

注: 設計時プロンプトを手順に編成するには、まずテンプレート・フロー・チャートの下の設計時プロンプト・グリッドに設計時プロンプトを作成する必要があります。

- 3 テンプレート・ウィザード・デザイナで、ステップの追加(+)をクリックしてウィザードに手順を作成します。次のタスクを行います:

1. 手順に名前(「手順 1」など)を付けます。
2. すでに存在する手順の前または後に手順を表示する場合は、前または後を選択し、次に手順番号を選択します。
3. 手順のコメントを入力します。たとえば、手順でどの設計時プロンプトが表示されるかを記述できます。
4. OK をクリックします。

テンプレート・ウィザード・デザイナの「手順」ドロップダウン・リストに手順が表示されます。「手順」ドロップダウン・リストからそれぞれの手順を選択すると、「選択した DTP」リストでその手順にどの設計時プロンプトが表示されるかを確認できます。

- 4 作成した手順について、使用可能な DTP から手順で表示する設計時プロンプトを選択し、右矢印を使用して選択した DTP に移動します。

ヒント: 「使用可能な DTP」で、連続した複数の設計時プロンプトを選択するには[Shift]を押しながらクリックし、連続していない複数の設計時プロンプトを選択するには[Ctrl]を押しながらクリックします。「選択した DTP」で設計時プロンプトの順序を変更するには、上矢印および下矢印キーを使用します。

- 5 設計時プロンプトのコメントを追加するには、コメントアイコンをクリックします。
- 6 設計時プロンプトの条件を作成するには、次のタスクを行います:

1. 条件グリッドの DTP の下で、設計時プロンプトを選択します。システム設計時プロンプト、上位 POV およびアプリケーションがデフォルトで DTP ドロップダウン・リストに表示されます。それらのデフォルト値は次のとおりです:
 - 上位 POV: 「空です」 および 「空ではありません」。設計時プロンプトが空かどうかをテストします
 - アプリケーション: 「複数通貨」 および 「単一通貨」。アプリケーションが複数通貨アプリケーションか、単一通貨アプリケーションかをテストします
2. 演算子で、「==」(等号)または「<>」(大なりまたは小なり)を選択します。
3. 値で、設計時プロンプト条件の値を選択します。
4. 前述の手順を繰り返し、条件のすべての文を定義します。行を追加するには、最後の行のプラス記号(+)をクリックします。

条件の最初の行は IF 文です。その他のそれぞれの行は AND 文です。たとえば、「アプリケーションが複数通貨アプリケーションであり、かつ(AND)、メンバー範囲が空ではない場合、この手順を表示します。」といった条件を定義できます。
- 7 これらの手順を繰り返し、ウィザードで表示するすべての設計時プロンプトの手順を作成します。
 - さらに手順を追加するには、ステップの追加(+)をクリックします。
 - 手順を編集するには、ステップの編集をクリックします。
 - 手順を削除するには、ステップの削除をクリックします。
- 8 OK をクリックします。

カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの選択

既存の設計時プロンプトを選択して、カスタム定義テンプレートに挿入できます。

- ▶ 設計時プロンプトを選択するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 設計時プロンプトを挿入する対象のカスタム定義テンプレートを右クリックして、開くを選択します。
 - 4 設計時プロンプト・テーブルでプロンプト・タイプを選択します。
 - 5 デフォルト値で DTP をソースとして選択アイコンをクリックします。
 - 6 DTP セレクタで設計時プロンプトを選択し、OK をクリックします。
 - 7 ファイル、保存の順に選択します。

次元間、次元、次元(複数)、メンバーおよびメンバー範囲の設計時プロンプトの定義

カスタム定義テンプレートに対して次元間、次元、次元(複数)、メンバー、またはメンバー範囲の設計時プロンプトを作成する場合は、プロンプトを密次元および疎次元に対して表示するか、密次元のみまたは疎次元のみに対して表示するかを指定する必要があります。

- ▶ 次元間、次元、次元(複数)、メンバー、またはメンバー範囲の設計時プロンプトを表示する対象の次元のタイプを選択するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 上限を作成するカスタム定義テンプレートを右クリックして、開くを選択します。
 - 4 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:
 - 次元間
 - 次元
 - 次元(複数)
 - メンバー
 - メンバー範囲
 - 5 タイプ列の右の列で、次元限界の選択アイコンをクリックします。
 - 6 次元タイプの定義で、次のオプションのいずれかを選択します:
 - 疎を表示: 疎次元のみを表示する場合
 - 密を表示: 密次元のみを表示する場合
 - 両方: 密次元および疎次元の両方を表示する場合
 - 7 OK をクリックします。
 - 8 ファイル、保存の順に選択します。

次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトのデフォルト値の定義

次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプト・タイプのデフォルト値を定義するには、メンバーをデフォルト値として選択します。

- ▶ 次元間、メンバー範囲および制限付きリストの設計時プロンプトを定義するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
- 3 デフォルトの設計時プロンプト値を定義する対象のカスタム定義テンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:
 - 次元間
 - メンバー範囲
 - 制限付きリスト
- 5 ユーザー入力アイコンをクリックします。
- 6 次のいずれかを行います:
 - 次元間またはメンバー範囲の設計時プロンプトのデフォルト値を定義する場合は、アクションアイコンをクリックして、リストされた次元ごとに値を選択します。
 - 変数を入力するには、[398 ページの「変数の操作」](#)を参照してください。
 - メンバーを入力するには、[374 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。
 - 関数を入力するには、[414 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。
 - 制限付きリストのデフォルト値を定義する場合は、ルール・ビルダー値および代替値を入力します。
- 7 OK をクリックします。
- 8 ファイル、保存の順に選択します。

設計時プロンプトの依存関係の定義

設計時プロンプトに対して「含む」と「排他的」の依存関係を定義できます。プロンプトを「含む」と指定すると、表示されるプロンプトでユーザーが実行できる選択は、「含む」プロンプトでの選択に依存します。たとえば、プロンプト 1 を「含む」と指定し、ユーザーがプロンプト 1 の勘定科目次元を選択すると、プロンプト 1 の後のプロンプトの選択には、勘定科目次元のみが表示されます。

プロンプトを「排他的」と指定すると、表示されるプロンプトでユーザーが実行できる選択は、「排他的」プロンプトでの選択に依存しません。たとえば、プロンプト 1 を「排他的」と指定し、ユーザーがプロンプト 1 のエンティティ次元を選択すると、プロンプト 1 の後のプロンプトの選択には、エンティティ次元を除くすべての次元が表示されます。

- ▶ 次元間、次元、次元(複数)、メンバー、メンバー(複数)およびメンバー範囲の設計時プロンプト・タイプを定義するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。

- 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
- 3 依存関係を定義するカスタム定義テンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 設計時プロンプト・テーブルで、次の設計時プロンプト・タイプのいずれかを選択します:
 - 次元間
 - 次元
 - 次元(複数)
 - メンバー
 - メンバー
 - メンバー範囲
- 5 依存関係アイコンをクリックします。
- 6 依存関係を定義する設計時プロンプトを選択します。
- 7 次のいずれかを行います:
 - 排他的を選択すると、このプロンプトの後のプロンプトでユーザーの選択から、このプロンプトで選択した内容が除外されます。
 - 含むを選択すると、このプロンプトの後のプロンプトでユーザーの選択に、このプロンプトで選択した内容が含まれます。
 - このプロンプトに依存関係を持たせない場合は、なしを選択します。
- 8 OK をクリックします。
- 9 ファイル、保存の順に選択します。

テンプレートのコンポーネントまたはビジネス・ルールコンポーネントからのカスタム定義テンプレートの作成

ビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートでコンポーネントを選択することで、カスタム定義テンプレートを作成できます。

- ▶ ビジネス・ルールまたはテンプレートのコンポーネントからカスタム定義テンプレートを作成するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートを展開します。

- 3 テンプレートとして保存するコンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
- 4 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートで、テンプレートとして保存するコンポーネントを選択し、右クリックして、テンプレートとして保存を選択します。
- 5 名前を付けて保存で、OK をクリックします。

ヒント： 新規テンプレートを参照するには、場合によってはシステム・ビューのリフレッシュが必要な場合があります。「リフレッシュ」ツールバー・アイコンをクリックして、アプリケーション・リスト全体をリフレッシュします。「Templates」フォルダまたはアプリケーション・リスト内でそれより上の任意のレベルをリフレッシュして、新規テンプレートを参照することもできます。315 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ」を参照してください。

カスタム定義テンプレートを開く

カスタム定義テンプレートは、システム・ビューから開くか、ビジネス・ルールのフロー・チャートでダブルクリックすることによりルール・デザイナから開くことができます。

- ▶ カスタム定義テンプレートを開くには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 開くカスタム定義テンプレートを右クリックし、開くを選択します。

カスタム定義テンプレートの編集

カスタム定義テンプレートの次のプロパティを編集できます:

- テンプレートの名前、説明、キャプションおよびコメント
- テンプレートを構成するコンポーネント
- テンプレートの手順
- テンプレートの設計時プロンプト
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログオン・オプションおよびタイマー・オプションが使用可能かどうか

カスタム定義テンプレートの保存

カスタム定義テンプレートを作成または変更した後に保存します。

- ▶ 作成または編集後にカスタム定義テンプレートを保存するには、「ファイル」、「保存の順」を選択します。

注： システム・ビューでアプリケーション・リストをリフレッシュすると、保存後にカスタム定義テンプレートを表示できます。これを行うには、アウトラインでアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management)、プラン・タイプ(Planning)またはデータベース(Essbase)、または「Templates」フォルダのいずれかのレベルを右クリックし、「リフレッシュ」を選択します。

異なる名前でのカスタム定義テンプレートの保存

カスタム定義テンプレートは、「名前を付けて保存」を使用して異なる名前で保存できます。「名前を付けて保存」を使用すると、あるルールから同じアプリケーション・タイプ内の別のルールにカスタム定義テンプレートをコピーすることもできます。「名前を付けて保存」では、元のテンプレートのコンテンツのコピーが、元のファイルと区別するために異なる名前で作成されます。

- ▶ カスタム定義テンプレートを異なる名前で保存するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 異なる名前で保存するカスタム定義テンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - 4 テンプレート・デザイナーで、「ファイル」、「名前を付けて保存の順」を選択します。
 - 5 名前を付けて保存では、次のタスクを行います:
 1. テンプレートの新規名前とアプリケーション名を入力します。アプリケーション名は有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、あるいは Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。
 2. カスタム定義テンプレートが Financial Management カスタム定義テンプレートの場合は計算タイプを選択し、Planning カスタム定義テンプレートの場合はプラン・タイプを選択し、Essbase カスタム定義テンプレートの場合はデータベースを選択します。
- 注：** 異なる名前で保存したカスタム定義テンプレートのアプリケーション・タイプまたは計算タイプは変更できません。異なる名前でのカスタム定義テンプレートを保存する場合、カスタム定義テンプレートが属するアプリケーション・タイプとプラン・タイプは変更できます。
3. OK をクリックします。

新規カスタム定義テンプレートは、システム・ビューのアプリケーション・リストに追加されます。場合によっては、アプリケーション・リストをリフレッシュして、新規テンプレートを参照する必要があります。[315 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ」](#)を参照してください。

カスタム定義テンプレートのリフレッシュ

カスタム定義テンプレートを作成した後、システム・ビューのアプリケーション・リストをリフレッシュして、「Templates」フォルダの新規テンプレートを参照できます。カスタム定義テンプレートが属するアプリケーション・タイプ、アプリケーション、または計算タイプやプラン・タイプをリフレッシュする場合は、デフォルトで「Templates」フォルダをリフレッシュします。ただし、「Templates」フォルダをリフレッシュしても、アプリケーション・リストのそれより上位のレベル(つまり、計算タイプやプラン・タイプ、アプリケーション、またはアプリケーション・タイプ)はリフレッシュされません。

▶ カスタム定義テンプレートをリフレッシュするには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、リフレッシュするカスタム定義テンプレートを含む Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。
- 3 テンプレートを右クリックし、リフレッシュを選択します。

注: データベース・アウトラインの上位のレベルをリフレッシュすることで、カスタム定義テンプレートもリフレッシュできます(たとえば、Financial Management テンプレートの計算タイプ、Planning テンプレートのプラン・タイプ、Essbase テンプレートのデータベースなど)。

カスタム定義テンプレートの使用の表示

カスタム定義テンプレートを使用するビジネス・ルールを表示できます。カスタム定義テンプレートの使用を表示することは、カスタム定義テンプレートを削除するときに、どのオブジェクトがそのテンプレートを使用しているか(該当する場合)を知る必要がある場合に役立ちます。テンプレートを削除するには、そのテンプレートを使用しているすべてのオブジェクトからテンプレートを除去する必要があります。[318 ページの「カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去」](#)を参照してください。

▶ カスタム定義テンプレートの使用を表示するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイ

プ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。

- 3 使用を表示するカスタム定義テンプレートを右クリックし、使用の表示を選択します。
- 4 カスタム定義テンプレートに関する次の情報を表示できます:
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの名前
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの計算タイプ、プラン・タイプ、またはデータベース
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールのアプリケーション名
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールが配置されているかどうか
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールが検証されているかどうか
 - そのカスタム定義テンプレートを使用しているビジネス・ルールの説明
 - このテンプレートを含んでいるカスタム・ビュー内のフォルダ
- 5 情報を確認した後、OK をクリックします。

カスタム定義テンプレートの削除

システム・ビューからカスタム定義テンプレートを削除できます。カスタム定義テンプレートを削除する前に、どのビジネス・ルールまたはカスタム・フォルダでも使用されていないことを確認します。カスタム定義テンプレートがビジネス・ルールまたはカスタム・フォルダにより使用されているかどうかを調べるには、システム・ビューからその使用を表示します。(315 ページの「[カスタム定義テンプレートの使用の表示](#)」を参照。)テンプレートがビジネス・ルールにより使用されている場合は、削除する前にそのビジネス・ルールからそのテンプレートを除去する必要があります。318 ページの「[カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去](#)」を参照してください。

- ▶ カスタム定義テンプレートを削除するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 削除するテンプレートを右クリックし、使用の表示を選択して、そのテンプレートがビジネス・ルールまたはテンプレートにより使用されていないことを確認します。
 - 4 削除するテンプレートを右クリックし、削除を選択します。
 - 5 OK をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

カスタム定義テンプレートのコピーおよび貼付け

カスタム定義テンプレートをコピーして、別のビジネス・ルールに貼り付けられます。コピー先のルールは、同じアプリケーション・タイプおよび計算またはプラン・タイプに属する必要があります。たとえば、Planning アプリケーション内のプラン1プラン・タイプのルールからカスタム定義テンプレートを、Planning アプリケーション内のプラン1プラン・タイプの別のルールにコピーすることはできませんが、資本資産プラン・タイプのルールにコピーできません。

▶ カスタム定義テンプレートをコピーして貼り付けるには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
- 3 コピーするテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- 4 テンプレート・デザイナーで、編集」、「コピーの順」を選択します。
- 5 ファイル」、「開くの順」を選択し、テンプレートを貼り付けるルールまたはテンプレートを開きます。
- 6 カスタム定義テンプレートを貼り付けるテンプレートまたはルールでのテンプレート・デザイナーまたはルール・デザイナーで、編集」、「貼付けの順」を選択します。
- 7 ファイル」、「保存の順」を選択します。

カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートへの挿入

カスタム定義テンプレートを、挿入先のビジネス・ルールのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップすることにより、カスタム定義テンプレートのコピーをビジネス・ルールに挿入できます。

▶ カスタム定義テンプレートをビジネス・ルールに挿入するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
- 3 テンプレートを挿入するビジネス・ルールを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーの既存のオブジェクトで、Templates フォルダを展開します。
- 5 ルールで挿入するテンプレートをドラッグし、表示する位置でルールのフロー・チャートにドロップします。

- 6 ファイル]、「保存の順」を選択します。

カスタム定義テンプレートのビジネス・ルールのフロー・チャートからの除去

ビジネス・ルールのフロー・チャートからカスタム定義テンプレートを除去するには、フロー・チャートでそのテンプレートを右クリックし、「除去」をクリックします。フロー・チャートから除去しても、データベースからは削除されません。データベースには別のオブジェクトとして存在します。

- ▶ フロー・チャートからテンプレートを除去するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールを展開します。
 - 3 ビジネス・ルールを右クリックし、開くを選択します。
 - 4 ルール・デザイナのフロー・チャートで、除去するテンプレートを右クリックして、除去を選択します。
 - 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

テンプレートの検索

EPM ワークスペースの「詳細検索」機能を使用すると、Calculation Manager 内のテンプレートや他のオブジェクトを検索できます。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

11

コンポーネントを使用したビジネス・ルールおよびテンプレートの設計

この章の内容

Calculation Manager のコンポーネントについて	319
式コンポーネントの操作	320
スクリプト・コンポーネントの操作	331
条件コンポーネントの操作	338
メンバー範囲コンポーネントの操作	342
データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)	347
固定ループ・コンポーネントの操作	352
DTP 割当てコンポーネントの操作(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)	357
スクリプトおよび式コンポーネントの共有	361
コンポーネントの保存	363
式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ	365
式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示	366
フロー・チャート内でのコンポーネントの操作	367
コンポーネントの検索	371

Calculation Manager のコンポーネントについて

ビジネス・ルールは、式、スクリプト、条件、メンバー範囲およびループなどのコンポーネントで構成されます。

- 式には、ユーザーがメンバー、関数、およびオプションで条件文を使用して記述または設計可能な計算文が含まれます。
- スクリプトには、Visual Basic (Financial Management の場合)または Essbase (Planning および Essbase の場合)計算スクリプト・ステートメントのみが含まれます。
- 条件には、値が TRUE または FALSE になる条件文(つまり、If...Then 文)が含まれます。
- メンバー範囲、つまりメタデータ・ループには、メタデータ・メンバーのリスト(勘定科目のリストなど)が含まれます。
- データ範囲(Financial Management ユーザーのみ)、つまりデータ・ループには、データ・レコードのリスト(勘定科目の値のリストなど)が含まれます。
- 固定ループには、メタデータ・ループ(たとえば、勘定科目などのメタデータ・メンバーのリスト全体でのループ)が含まれます。Financial Management の固定

ループには、データ・ループ(たとえば、Financial Management データ全体での固定回数のループ)も含まれます。

ルールおよびテンプレートで使用されている式およびスクリプト・コンポーネントは、別個に作成できます。これらは別個のオブジェクトのため、システム・ビュー内で開いたり、保存、編集、削除、およびエクスポート(他のアクションと同時に)できます。式およびスクリプトとは異なり、条件、範囲およびループの各コンポーネントは、ルールおよびテンプレート内で作成する必要があります。ルールおよびテンプレートに属するそれらのコンポーネントを、別個に開いたり、保存、削除、またはエクスポートしたりできません。

式コンポーネントの操作

次のトピックを参照してください:

- [320 ページの「式コンポーネントについて」](#)
- [320 ページの「式コンポーネントの作成」](#)
- [321 ページの「式コンポーネントの設計」](#)
- [325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」](#)
- [327 ページの「式ステートメントのロギング情報の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)」](#)
- [327 ページの「式ステートメントのコメントの入力」](#)
- [328 ページの「クイック編集を使用したコンポーネントのキャプションの入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)
- [329 ページの「式コンポーネントを開く」](#)
- [329 ページの「式コンポーネントの編集」](#)
- [330 ページの「式コンポーネントの削除」](#)
- [330 ページの「式コンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)

式コンポーネントについて

式コンポーネントは、式計算ステートメントで構成されています。式の計算ステートメントを作成するには、メンバー、関数および条件を入力または選択します。式を作成する際、コンポーネント・デザイナーのグリッド内の行にその各計算ステートメントがリストされます。

式コンポーネントの作成

式コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールおよびテンプレートで式コンポーネントを使用できます。

▶ 式コンポーネントを作成するには:

- 1 式の名前を入力します。

- 2 アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
- 3 アプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、あるいは Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。
- 4 次のいずれかを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、計算タイプを選択します。
 2. プランニングを選択した場合は、プラン・タイプを選択します。
 3. Essbase を選択した場合は、データベースを選択します。

注：「式」を右クリックして「新規」を選択し、新しい式を作成する場合は、システム・ビュー内で操作しているアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプが「新規式」ダイアログに挿入されます。

- 5 OK をクリックします。

コンポーネント・デザイナーに式が表示されます。式コンポーネントを設計するには、[321 ページの「式コンポーネントの設計」](#)を参照してください。

式コンポーネントの設計

式コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールやテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナー内で式コンポーネントを作成することもできます。ビジネス・ルールおよびテンプレートで式コンポーネントを使用できます。

▶ 式コンポーネントを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - ファイル、「新規」、「式コンポーネントの順」を選択します。
 - 式を右クリックし、新規を選択します。

注： 新規式コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドラッグすることにより、ビジネス・ルールまたはテンプレート内で式コンポーネントを作成することもできます。[243 ページの「ビジネス・ルールの設計」](#) および [302 ページの「カスタム定義テンプレートの設計」](#)を参照してください。

- 4 名前、アプリケーション・タイプおよび式コンポーネントが属するアプリケーションを入力して、次のいずれかを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management 式コンポーネントを作成する場合には、計算タイプを入力します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning 式コンポーネントを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
- **Essbase ユーザーのみ:** Essbase 式コンポーネントを作成する場合には、データベースを入力します。

5 OK をクリックします。

6 プロパティで、次の手順に従います:

1. **ビジネス・ルール用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ:** 式コンポーネントを作成する場合、共有は選択できません。式コンポーネントをドラッグしてルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドロップすると、共有はデフォルトで選択されます。かわりにルールまたはテンプレート内に式コンポーネントのコピーを作成するには、共有の選択を解除します。
2. オプション: 新規名前を 50 文字以下で入力することにより、式の名前を編集します。(デフォルトの名前は「新規式」ダイアログで指定されます。)
3. オプション: 式の説明を 255 文字以下で入力します。
4. 式のキャプションを入力します。キャプションは、ルール・デザイナーおよびテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで式の下に表示されます。

注: キャプションを入力しない場合、フロー・チャートではコンポーネントの名前が表示されます。

5. 式のコメントを入力します。たとえば、式の用途をユーザーに伝えられます。

7 **Financial Management ユーザーのみ:** ログイングの使用可能を選択して、式にログ・テキストがある場合は、ルールが起動されたときにログ・ファイルにそのテキストを追加するようにします。ログイングは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。ただし、追加するログ・テキストがある場合は、ビジネス・ルールの式ステートメントでそのテキストを指定します。

注: ルールセットに対してはログイングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

8 **Financial Management ユーザー:** タイマーの使用可能を選択して、ルールが起動されたときに、式の処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている 3 つの式が含まれている場合、ルールおよびルール内の各式の処理に要する時間が記録されます。

9 **ビジネス・ルール用の式コンポーネントを作成している Financial Management ユーザーのみ:** 使用不可を選択し、スクリプトの作成中に、その式コンポーネントを使用するすべてのビジネス・ルール内で式コンポーネントを一時的に使用不可にします。

10 式に、式のキャプションを入力します。

11 テンプレート用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ: 式コンポーネント内で設計時プロンプトを使用する場合は、設計プロンプトの使用を選択します。次に条件グリッドで次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:

1. DTP で設計時プロンプトを選択します。
2. 演算子で、演算子「=」または「<>」を選択します。
3. 値で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント: 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

12 Planning および Essbase ユーザーのみ: Calculation Manager により、デフォルトではグリッドで入力した最初のメンバーを使用して式コンポーネントの計算処理が開始されます。Calculation Manager により、別のメンバーを使用して式コンポーネントの計算処理が開始されるようにするには、「メンバー・ブロック」にメンバーまたは関数名を入力するか、省略記号アイコンをクリックしてメンバー・セレクトからメンバーを選択します。[374 ページの「コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について」](#)を参照してください。

13 コメントに、作成する条件文および式ステートメントのコメントを入力します。

14 オプション: 式コンポーネントの条件文(つまり IF 文)を作成するには、条件の追加をクリックします。[325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」](#)を参照してください。

15 オプション: 表示された IF 行に、条件文のテキストを入力するか、行の右側の列で条件の追加/編集アイコンをクリックして条件ビルダーにアクセスします。条件ビルダーを使用すると、条件文をグラフィックによって設計できます。

注: 下矢印から IF、ELSE IF、および ELSE を選択できますが、デフォルトでは最初の文は IF にする必要があります。

16 オプション: 条件ビルダーを使用して、IF 条件文を設計します。[325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」](#)を参照してください。

17 式行で、式ステートメントを作成するには、等号の左側にある行内をクリックします。アクションアイコンを選択して、次を選択します:

注: [手順 14](#) から [手順 16](#) で条件文(つまり IF 文)を作成した場合、この手順で作成する式ステートメントは条件の THEN 文となります。

- 変数([398 ページの「変数の操作」](#)を参照。)
- メンバー([374 ページの「メンバーの操作」](#)を参照。)
- 関数([414 ページの「関数の操作」](#)を参照。)

18 式行で、式ステートメントを完了するには、等号の右側にある行内をクリックします。アクションアイコンを選択して、次を選択します:

- 変数([398 ページの「変数の操作」](#)を参照。)

- メンバー(374 ページの「メンバーの操作」を参照。)
- 関数(414 ページの「関数の操作」を参照。)

- 19 Financial Management ユーザーのみ:** 文ごとに、ロギング情報アイコンをクリックしてログのオプション条件文を入力します。ログ情報は、条件に合致する場合のみログ・ファイルに記録されます。ロギング情報を保存すると、ログ・テキストが存在することを示す横線の付いた「コメント」アイコンが表示されます。327 ページの「式ステートメントのロギング情報の入力(Financial Management ユーザーのみ)」を参照してください。

注: ログ・テキストをログ・ファイルに含めるには、「ロギングの使用可能」を選択する必要があります。

- 20** コメントアイコンをクリックし、計算文行に関するコメントを入力します。OK をクリックします。

- 21 オプション:** 別の IF 文、または ELSE IF 文や ELSE 文を作成する場合は、次の手順を実行します:

1. 条件の追加をクリックします。
2. 下矢印をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します:
 - IF: IF 条件文を作成するには、これを選択します。IF 文が TRUE の場合、アクションが実行されます。IF 文が FALSE の場合、他のアクションが実行されます。
 - ELSE IF: ELSE IF 条件文を作成するには、これを選択します。関連付けられた IF 文が存在し、IF 文が FALSE の場合、この文のアクションが実行されます。
 - ELSE: ELSE 条件文を作成するには、これを選択します。関連付けられた ELSE IF 文が存在し、ELSE IF 文が FALSE の場合、この文のアクションが実行されます。

注: IF ブロックまたは ELSE IF ブロックから条件文を除去する場合で、次のブロックに ELSE IF 文が含まれている場合は、次のブロックが IF ブロックに変更されます。ただし、次のブロックに ELSE 文が含まれている場合は、このブロック内の条件文が除去されます。

3. 323 ページの手順 14 から 324 ページの手順 20 を繰り返して、式コンポーネントの追加の文を設計します。式グリッドは、式ステートメントのコレクションを含む 1 つ以上の式ブロックで構成される場合があります。さらに、ブロックのコメントおよび条件を入力することもできますが、これはオプションです。

ヒント: 必要に応じて、+アイコンをクリックして式の行をさらに追加します。

- 22 ビジネス・ルール用に式コンポーネントを作成しているユーザーのみ:** 用途で、式コンポーネントを使用するルールを表示できます。

注: このタブの情報はどれも編集できません。

- 23 ファイル]、「保存の順」を選択します。

条件ビルダーを使用した条件文の作成

条件ビルダーを使用すると、式および条件コンポーネントの条件文を作成できます。条件文は、If...Then 文とも呼ばれます。条件文の最初の部分(If 部)が TRUE の場合、文の 2 番目の部分(Then 部)も TRUE になります。条件文の最初の部分が FALSE の場合、2 番目の部分は TRUE の場合とそうでない場合があります。

▶ 条件文を作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件文を作成する式を右クリックし、開くを選択します。
 - 条件文を作成する式を選択し、「ファイル]、「開くの順」を選択します。
- 3 コンポーネント・デザイナーで、条件の追加アイコンをクリックします。
- 4 表示された IF 行に、条件文のテキストを入力するか。行の右側にある条件の追加/編集アイコンをクリックして条件ビルダーにアクセスします。条件ビルダーを使用すると、条件文をグラフィックによって設計できます。

注： 下矢印から IF、ELSE IF、および ELSE を選択できますが、デフォルトでは最初の文は IF にする必要があります。

- 5 条件ビルダーで、メタデータの条件またはデータの条件を選択します。
- 6 次のいずれかを行います:
 - 関数(メタデータの条件の場合)または式(データの条件の場合)に値を入力します。
 - 関数または式行内をクリックし、アクションアイコンを表示します。アクションアイコンをクリックし、式または関数を作成するオプションを選択します:
 - 変数(398 ページの「変数の操作」を参照。)
 - メンバー(374 ページの「メンバーの操作」を参照。)
 - 関数(414 ページの「関数の操作」を参照。)
- 7 次の演算子のいずれかを入力します:
 - =(等しい)
 - <(より大きい)
 - >(より小さい)
 - <>(より大きいか、より小さい)
 - >=(以下)

- <= (以上)

8 次のいずれかを行います:

- 値に値を入力します。
- 値行内をクリックし、アクションアイコンを表示します。アクションをクリックし、式または関数の値を作成するオプションを選択します:
 - 変数(398 ページの「変数の操作」を参照。)
 - メンバー(374 ページの「メンバーの操作」を参照。)
 - 関数(414 ページの「関数の操作」を参照。)

9 条件のコメントを入力します。

- 10 「条件」グリッドに条件を追加するには、+アイコンをクリックします。(+アイコンを使用し、選択した行のコピーを作成して「条件」グリッドに追加することもできます。)**「条件」グリッドの選択した行を、メタデータまたはデータの条件と置換するには、-アイコンを使用します。

ヒント: グリッド内で条件文を並べ替えるには、上矢印および下矢印を使用します。

11 OK をクリックします。

IF 文に条件が挿入されます。

12 オプション: 作成する条件文ごとに、**手順 3** から**手順 11** を繰り返します。

13 オプション: 追加の条件文ごとに、最初の列をダブルクリックしてドロップダウン・リストを表示し、各条件文を開始するための演算子を選択できます:

- IF: IF が付いた最初の条件文だけを開始できます。(これは、作成した最初の条件文にだけ表示されるデフォルトです。)
- NOT IF: NOT IF が付いた最初の条件文だけ開始できます。
- AND: 2 つ以上の条件文が複合したものを作成する場合に、AND が付いた任意の条件文(最初の文を除く)を開始できます。
- OR: 2 つ以上の条件文が複合したものを作成する場合に、OR が付いた任意の条件文(最初の文を除く)を開始できます。
- AND NOT: その後に式コンポーネントが続く条件文を含める場合に、AND NOT が付いた任意の条件文(最初の文を除く)を開始できます。
- OR NOT: その後に式コンポーネントが続く条件文を除外する場合に、OR NOT が付いた任意の条件文(最初の文を除く)を開始できます。

ヒント: 条件文に丸カッコを追加および除去するには、「グループ」アイコンと「グループ解除」アイコンを使用します。複数の条件文をグループ化またはグループ解除するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックするか、[Shift]キーを押しながらクリックして、グループ化またはグループ解除する条件文を選択します。

14 OK をクリックします。

条件文が条件行に挿入されます。

式ステートメントのロギング情報の入力(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management 式ステートメントのロギング情報を入力できます。

▶ ロギング情報を入力するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。ロギング情報を追加する式を右クリックし、開くを選択します。
- 3 コンポーネント・デザイナーで、文ごとにロギング情報アイコンをクリックして、ログのオプションの条件文を入力します。ログ情報は、条件に合致する場合のみログ・ファイルに書き込まれます。ロギング情報を保存すると、ログ・テキストが存在することを示す横線の付いた「コメント」アイコンが表示されます。

注：「ロギングの使用可能」を選択して、ログ・テキストをログ・ファイルに含めます。

- 4 変数を使用する場合は、変数の使用を選択します。次に、変数から変数を選択します。
- 5 ログ・テキストを標準フォーマットで表示する場合は、標準表示フォーマットの使用を選択します。
- 6 ログ・テキストに、ログの条件文を入力するか、条件の追加/編集アイコンをクリックし、条件ビルダーを使用して条件文を作成します。325 ページの「[条件ビルダーを使用した条件文の作成](#)」を参照してください。
- 7 ログ式に式を入力します。
- 8 OK をクリックします。

式ステートメントのコメントの入力

式ステートメントのコメントを入力できます。

▶ 式ステートメントのコメントを入力するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。
- 3 コメントを追加する式を右クリックし、開くを選択します。
- 4 次のいずれかを行います:

- コメントを追加する式がビジネス・ルールに含まれている場合、ルールを展開し、式コンポーネントが含まれているルールを右クリックして開くを選択します。
- コメントを追加する式がテンプレートに含まれている場合、**Templates** フォルダを展開し、式コンポーネントが含まれているルールを右クリックして開くを選択します。
- 式を単独で開く場合は、**Formulas** フォルダを展開し、式を右クリックして開くを選択します。

5 次のいずれかを行います:

- ビジネス・ルール内の式にコメントを追加する場合は、ルール・デザイナーのフロー・チャートで、式コンポーネント、式タブ、およびコメントアイコンの順に選択します。
- テンプレート内の式にコメントを追加する場合は、テンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、式コンポーネント、式タブおよびコメントアイコンの順に選択します。
- 式コンポーネントのコメントを単独で追加する場合は、コンポーネント・デザイナーで、式ステートメントごとにコメントアイコンをクリックします。

6 「コメント」ダイアログで、式ステートメントのコメントを入力します。

7 OK をクリックします。

クイック編集を使用したコンポーネントのキャプションの入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップする場合、「プロパティ」タブでキャプションを入力するのではなく、クイック編集を使用してコンポーネントのキャプションを入力できます。

▶ コンポーネントのキャプションを入力するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、**Calculation Manager** を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、**Planning** または **Essbase** アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのいずれかにコンポーネントのキャプションを入力するかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 キャプションを追加するコンポーネントが含まれているルールまたはテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、まだ選択していない場合はツール、「クイック編集の順に選択してクイック編集を有効にします。
- 5 新規オブジェクトから、コンポーネント・アイコンをドラッグしてフロー・チャートにドロップします。
- 6 フロー・チャート内のコンポーネントの下に表示されたフィールドに、キャプションを入力します。

- 7 ファイル]、「保存の順」に選択します。

式コンポーネントを開く

式コンポーネントは、システム・ビューから、またはルール・デザイナーやテンプレート・デザイナーのフロー・チャート内から開くことができます。

▶ 式コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 開く式を右クリックし、開くを選択します。
 - 開く式を選択し、ファイル]、「開くの順」に選択します。
 - 開く式をダブルクリックします。

注: 式コンポーネントがビジネス・ルールで使用されている場合、式コンポーネントを右クリックして「開く」を選択するか、または式コンポーネントをダブルクリックすることにより、ルール・デザイナーのルールのフロー・チャート内から開くこともできます。

式コンポーネントの編集

式コンポーネントの計算結果をログ・ファイルに含めるかどうか(Financial Management アプリケーションの場合のみ)、および式コンポーネントのコメント、キャプション、名前および説明で構成される文を編集できます。

▶ 式コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。
- 3 編集する式コンポーネントを選択します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - ファイル]、「開くの順」に選択します。
 - 式を右クリックし、開くを選択します。
- 5 コンポーネント・デザイナーでは、式コンポーネントの次のどのプロパティでも編集できます。(321 ページの「式コンポーネントの設計」および 325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」を参照。)

- キャプション
- 条件文
- 式ステートメント
- 名前
- 説明
- コメント
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログおよびタイマーのオプション
- **テンプレート・ユーザーのみ:** 式コンポーネントに条件を作成するとき使用する設計時プロンプト

6 ファイル]、「保存の順」に選択します。

式コンポーネントの削除

式コンポーネントは、どのルールまたはテンプレートでも使用されていない場合のみ削除できます。ルールまたはテンプレートが式コンポーネントを使用しているかどうかを調べるには、その使用を表示します。(366 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示」を参照。)式コンポーネントがルールまたはテンプレートで使用されており、そのルールまたはテンプレートで使用する必要がなくなった場合、ルールまたはテンプレートから除去した後、式コンポーネントを削除できます。削除する式コンポーネントを含んでいるルールまたはテンプレートを削除することもできます。

▶ 式コンポーネントを削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、式を展開します。
- 3 削除する式を右クリックし、使用の表示を選択してどのルールまたはテンプレートも式コンポーネントを使用していないことを確認します。使用している場合、それらのルールまたはテンプレートから式を除去する必要があります。368 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」を参照してください。
- 4 削除する式を右クリックし、削除を選択します。
- 5 式の削除を確認します。

式コンポーネントのコピーおよび貼付け

ルールまたはテンプレートから式コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。式コンポーネント内のグリッドのコンテンツをコピーして、同じ式コンポーネントや異なる式コンポーネントに貼り付けることもできます。式コンポーネントをコピーして、別の式コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

▶ 式コンポーネントをコピーして貼り付けるには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 コピーする式コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、コピーする式コンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。

注: コピーするコンポーネントが共有されている場合、「編集」、「参照のコピー」を使用して、コンポーネント自体をコピーするかわりに参照を共有コンポーネントにコピーできます。(258 ページの「ビジネス・ルール・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」を参照。)

5 次のいずれかを行います:

- 式コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付ける場合、フロー・チャートの式コンポーネントを貼り付ける場所で右クリックし、貼付けを選択します。
- 式コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの式コンポーネントを貼り付ける場所で右クリックして貼付けを選択します。

6 「ファイル」、「保存の順」を選択します。

スクリプト・コンポーネントの操作

次のトピックを参照してください:

- 331 ページの「スクリプト・コンポーネントの作成」
- 332 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計」
- 335 ページの「スクリプト・コンポーネントを開く」
- 335 ページの「スクリプト・コンポーネントの編集」
- 337 ページの「スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け」
- 336 ページの「スクリプト・コンポーネントの削除」

スクリプト・コンポーネントの作成

スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールおよびテンプレートでスクリプト・コンポーネントを使用できます。

▶ スクリプト・コンポーネントを作成するには:

- 1 スクリプトの名前を入力します。
- 2 アプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)を入力します。
- 3 アプリケーション名を入力します。アプリケーション名は、有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、あるいは Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。
- 4 次のいずれかを行います:
 1. Financial Management を選択した場合は、計算タイプを選択します。
 2. プランニングを選択した場合は、プラン・タイプを選択します。
 3. Essbase を選択した場合は、データベースを選択します。

注: スクリプトを右クリックし、「新規」を選択して新規スクリプトを作成する場合、「新規スクリプト」ダイアログ・ボックスには、システム・ビュー内で使用するアプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management スクリプトの場合)、プラン・タイプ(Planning スクリプトの場合)またはデータベース(Essbase スクリプトの場合)が移入されます。

- 5 OK をクリックします。

コンポーネント・デザイナーにスクリプトが表示されます。スクリプトを設計するには、[332 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計」](#)を参照してください。

スクリプト・コンポーネントの設計

ビジネス・ルールおよびテンプレートでスクリプト・コンポーネントを使用できます。スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから作成できます。ビジネス・ルールやテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナー内でスクリプト・コンポーネントを作成することもできます。

▶ スクリプト・コンポーネントを設計するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 次のいずれかを行います:
 - ファイル」、「新規」、「スクリプト・コンポーネントの順に選択します。
 - Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、および計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開します。
- 3 スクリプトを右クリックし、新規を選択します。

注： ビジネス・ルールまたはテンプレート内からスクリプト・コンポーネントを作成することもできます。243 ページの「ビジネス・ルールの設計」および 302 ページの「カスタム定義テンプレートの設計」を参照してください。

- 4 スクリプトの名前、アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを入力します。その後、次のタスクのいずれかを行います：
 - **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management スクリプトを作成する場合には、計算タイプを入力します。
 - **Planning ユーザーのみ:** Planning スクリプトを作成する場合には、プラン・タイプを入力します。
 - **Essbase ユーザーのみ:** Essbase スクリプトを作成する場合は、データベースを入力します。
- 5 OK をクリックします。
- 6 コンポーネント・デザイナーで、スクリプト・コンポーネントを設計するアイコンを使用します。Financial Management スクリプトは、Visual Basic に存在する必要があります。Planning および Essbase スクリプトは Essbase に存在する必要があります。

注： ルール、テンプレートおよび他のコンポーネントとは異なり、スクリプトを開くときは、グラフィカル・フォーマットで(フロー・チャートとして)表示できません。スクリプト・フォーマットでのみ表示できます。

- 関数を挿入するには、関数とそのパラメータの挿入アイコンをクリックします。(414 ページの「関数の操作」を参照。)
- メンバーを挿入するには、次元から選択したメンバーの挿入アイコンをクリックします。(374 ページの「メンバーの操作」を参照。)
- 変数を挿入するには、変数の挿入アイコンをクリックします。(398 ページの「変数の操作」を参照。)

注： Visual Basic スクリプトは、自己完結している必要があります。スクリプトで、ルールセットに定義された置換変数や実行変数を参照できません。スクリプトで変数を使用する必要がある場合、スクリプト・コンポーネント内で宣言する必要があります。

- **Planning ユーザーのみ:** スマートリストを挿入するには、スマートリストの挿入をクリックします。
 - スクリプト内のテキスト文字列を検索するには、検索アイコンをクリックします。255 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換」を参照してください。
 - スクリプト内のテキスト文字列を検索して置換するには、検索/置換アイコンをクリックします。255 ページの「ビジネス・ルール・スクリプトでのテキスト文字列の検索および置換」を参照してください。
- 7 プロパティで、次の手順に従います：
 1. スクリプト・コンポーネントを作成する場合、共有は選択できません。スクリプト・コンポーネントをドラッグしてルールまたはテンプレートのフ

ロー・チャートにドロップすると、共有はデフォルトで選択されます。かわりにルールまたはテンプレート内にスクリプト・コンポーネントのコピーを作成するには、共有の選択を解除します。

2. オプション: 新規名前を 50 文字以下で入力することにより、スクリプトの名前を編集します。(デフォルトの名前は「新規スクリプト」ダイアログで指定されます。)
3. スクリプトの説明を 255 文字以下で入力します。
4. スクリプトのキャプションを入力します。キャプションは、ルール・デザイナーおよびテンプレート・デザイナーのフロー・チャートでスクリプトの下に表示されます。
5. スクリプトのコメントを入力します。たとえば、スクリプトの用途をユーザーに伝えられます。

- 8 ビジネス・ルールのスクリプト・コンポーネントを作成する Financial Management ユーザーのみ:** ログイングの使用可能を選択して、スクリプトにログ・テキストがある場合は、ルールが起動されたときにログ・ファイルにそのテキストが追加されるようにします。ログイングは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできません。ただし、追加するログ・テキストがある場合は、ビジネス・ルールの式ステートメントでログ・テキストを指定します。

注: ルールセットに対してはログイングが使用不可になっているが、そのルールに含まれるルールおよびコンポーネントに対しては使用可能になっている場合、ルールおよびコンポーネントのログ設定よりもルールセットのログ設定の方が優先されるため、ログ・ファイルは作成されません。

- 9 Financial Management ユーザーのみ:** タイマーの使用可能を選択して、ルールが起動されたときに、スクリプトの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている 3 つのスクリプトが含まれている場合、ルールおよびルール内の各スクリプトの処理に要する時間が記録されます。
- 10 Financial Management ユーザーのみ:** 埋込みを選択し、スクリプト・コンポーネントのコンテンツを、Visual Basic スクリプトを生成するときにそのコンテンツを使用するルール内に埋め込みます。
- 11 Financial Management ユーザーのみ:** パラメータに、スクリプト・パラメータを入力します。
- 12** スクリプトで、スクリプト・コンポーネントのキャプションを入力します。
- 13 テンプレートのスクリプト・コンポーネントを作成するユーザーのみ:** スクリプト・コンポーネントで設計時プロンプトを使用する場合は、設計プロンプトの使用を選択します。次に条件グリッドで、次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:
1. DTP で設計時プロンプトを選択します。
 2. 演算子で、演算子「==」または「<>」を選択します。
 3. 値で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
 4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント： 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

- 14 **ビジネス・ルールのスクリプト・コンポーネントを作成するユーザーのみ:** 用途では、スクリプト・コンポーネントを使用するルールを表示できます。

注： このタブで情報は編集できません。

- 15 ファイル」、「保存の順」を選択します。

スクリプト・コンポーネントを開く

スクリプト・コンポーネントは、システム・ビューから開くことができます。ビジネス・ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナーやテンプレート・デザイナーのフロー・チャート内からスクリプト・コンポーネントを開くこともできます。

▶ スクリプト・コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、スクリプトを展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 開くスクリプトを右クリックし、開くを選択します。
 - 開くスクリプトを選択し、「ファイル」、「開くの順」を選択します。

注： スクリプト・コンポーネントがビジネス・ルールで使用されている場合、スクリプト・コンポーネントを右クリックして「開く」を選択するか、またはダブルクリックすることにより、ルール・デザイナーのルール・フロー・チャート内から開くこともできます。

スクリプト・コンポーネントの編集

使用する関数、変数およびメンバーを編集して、スクリプト・コンポーネント(スクリプト・コンポーネント内の式ステートメントの計算結果をログ・ファイルに含めるかどうか(Financial Management アプリケーションの場合のみ)、およびスクリプト・コンポーネントのコメント、キャプション、名前および説明を記述できます。

▶ スクリプト・コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイ

プ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、スクリプトを展開します。

- 3 編集するスクリプト・コンポーネントを選択します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - 「ファイル」、「開くの順」に選択します。
 - スクリプトを右クリックし、開くを選択します。
- 5 コンポーネント・デザイナーでは、スクリプト・コンポーネントの次のどのプロパティでも編集できます。(332 ページの「スクリプト・コンポーネントの設計」を参照。)

注： ルール、テンプレートおよび他のコンポーネントとは異なり、スクリプトを開くときは、グラフィカル・フォーマットで(フロー・チャートとして)表示できません。スクリプト・フォーマットでのみ表示できます。

- スクリプトに含める関数、メンバーおよび変数
 - 名前
 - 説明
 - キャプション
 - コメント
 - **Financial Management ユーザーのみ:** ログおよびタイマーのオプション
- 6 「ファイル」、「保存の順」に選択します。

スクリプト・コンポーネントの削除

スクリプト・コンポーネントは、どのルールまたはテンプレートでも使用されていない場合のみ削除できます。ルールまたはテンプレートがスクリプト・コンポーネントを使用しているかどうかを調べるには、その使用を表示します。(366 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示」を参照。)スクリプト・コンポーネントがルールまたはテンプレートで使用されており、そのルールまたはテンプレートで使用する必要がなくなった場合、ルールまたはテンプレートから除去した後、スクリプト・コンポーネントを削除できます。削除するスクリプト・コンポーネントを含んでいるルールまたはテンプレートを削除することもできます。

- スクリプト・コンポーネントを削除するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、スクリプトを展開します。
 - 3 削除するスクリプトを右クリックし、使用の表示を選択してどのルールまたはテンプレートもスクリプト・コンポーネントを使用していないことを確認します。使用して

いる場合、それらのルールまたはテンプレートからスクリプトを除去する必要があります。368 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」を参照してください。

- 4 削除するスクリプトを右クリックし、削除を選択します。
- 5 スクリプト・コンポーネントの削除を確認します。

スクリプト・コンポーネントのコピーおよび貼付け

ルールまたはテンプレートからスクリプト・コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。スクリプト・コンポーネント内のスクリプトをコピーして、同じスクリプト・コンポーネントや異なるスクリプト・コンポーネントに貼り付けることもできます。スクリプト・コンポーネントをコピーして、別のスクリプト・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ システム・ビューからスクリプト・コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 コピーするスクリプト・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを選択します。
 - 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、スクリプト・コンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。

注： コピーするコンポーネントが共有されている場合、「編集」、「参照のコピー」を使用して、コンポーネント自体をコピーするかわりに参照を共有コンポーネントにコピーできます。(258 ページの「ビジネス・ルール・コンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」を参照。)

- 5 次のいずれかを行います:
 - スクリプト・コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - スクリプト・コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、スクリプト・コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。
- 6 ファイル」、「保存の順」を選択します。

条件コンポーネントの操作

次のトピックを参照してください:

- [338 ページの「条件コンポーネントについて」](#)
- [338 ページの「条件コンポーネントの作成」](#)
- [340 ページの「条件コンポーネントを開く」](#)
- [340 ページの「条件コンポーネントの編集」](#)
- [341 ページの「条件コンポーネントの削除」](#)
- [341 ページの「条件コンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)

条件コンポーネントについて

条件コンポーネントは、TRUE または FALSE となる条件文(つまり、IF...THEN 文)で構成されます。条件が TRUE の場合、指定したアクションが Calculation Manager により実行されます。条件が FALSE の場合、指定した他のアクションが Calculation Manager により実行されます。条件は、メタデータの条件の場合とデータの条件の場合があります。条件コンポーネントは共有できません。

条件コンポーネントの作成

条件コンポーネントは、ビジネス・ルールまたはテンプレート内から作成できます。スクリプトおよび式コンポーネントとは異なり、条件コンポーネントを別個のオブジェクトとして作成できません。作成先のビジネス・ルールまたはテンプレートにリンクされます。また、このコンポーネントは共有できません。

▶ 条件コンポーネントを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、ルールまたはテンプレートのどちらの条件を作成するかによって、次のいずれかのタスクを行います:
 - ルールに作成する場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートに作成する場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 フロー・チャート内の条件を作成する場所を決定したら、新規オブジェクト・パレットから条件コンポーネントをドラッグし、フロー・チャート内のその場所にドロップします。

フロー・チャートに、条件オブジェクトが疑問符の付いたひし形として表示されます。

- 4 条件で、条件コンポーネントを識別するキャプションを入力します。このキャプションは、その条件を使用するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの上に表示されます。
- 5 **テンプレートにのみ条件コンポーネントを作成する場合:** 条件コンポーネントで設計時プロンプトを使用する場合は、設計プロンプトの使用を選択します。次に条件グリッドで、次のタスクを行って設計時プロンプトの条件を定義します:
 1. DTP で設計時プロンプトを選択します。
 2. 演算子で、演算子「=」または「<>」を選択します。
 3. 値で、設計時プロンプトの値を入力または選択します。
 4. これらの手順を繰り返し、条件に必要な数のステートメントを作成します。

ヒント: 行を追加または削除するには、プラス(+)アイコンまたはマイナス(-)アイコンをクリックします。

注: 設計時プロンプトを使用して条件を定義する際、「条件」ボックスに条件を入力したり、条件ビルダーを使用して条件を作成したりできません。

- 6 **Financial Management ユーザーのみ:** タイマーの使用可能を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、条件コンポーネントの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つの条件コンポーネントが含まれている場合、ルールおよびルール内の各条件コンポーネントの処理に要する時間が記録されます。
- 7 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** メンバー・ブロックを作成する場合、省略記号アイコンをクリックし、メンバーまたは関数を選択します。Calculation Manager により、デフォルトではグリッドに入力した最初のメンバーから条件コンポーネント計算の処理が開始されます。Calculation Manager で別のメンバーから処理が開始されるようにするには、メンバー・ブロックにメンバー名または関数名を入力するか、省略記号アイコンをクリックして、メンバー・セレクトからメンバーを選択します。[374 ページの「コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について」](#)を参照してください。
- 8 次のいずれかを行います:
 - 「条件」フィールドに条件文を入力します。
 - 条件の追加/編集をクリックし、条件ビルダーを使用して条件文を作成します。[325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」](#)を参照して[手順 5](#)から[326 ページの手順 14](#)を実行してください。
- 9 条件コンポーネントのコメントを入力します。
- 10 ファイル」、「保存の順」を選択します。

条件コンポーネントを開く

条件コンポーネントは、属するビジネス・ツールまたはテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューから開くことはできません。

▶ 条件コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートの条件コンポーネントを選択して、条件プロパティを確認します。

条件コンポーネントの編集

条件コンポーネントの作成に使用する関数、変数およびメンバー、条件コンポーネントの処理に要する時間をログ・ファイルに記録するかどうか(Financial Management アプリケーションの場合のみ)、および条件コンポーネントのコメントおよびキャプションを編集できます。

▶ 条件コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、プロパティを編集する条件を条件で選択します。次のいずれかのプロパティを編集できます。(338 ページの「[条件コンポーネントの作成](#)」を参照。)
 - キャプション

- 条件文
- 設計時プロンプト(条件がテンプレートのコンポーネントの場合)
- コメント
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログおよびタイマーのオプション

4 ファイル]、「保存の順に選択します。

条件コンポーネントの削除

条件コンポーネントは、属するルールまたはテンプレートから除去することにより削除できます。条件コンポーネントは1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ 条件コンポーネントを削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントであるかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内の削除する条件コンポーネントを選択します。
- 4 条件を右クリックして除去を選択します。
- 5 コンポーネントの削除を確認します。
- 6 ファイル]、「保存の順に選択します。

条件コンポーネントのコピーおよび貼付け

ルールまたはテンプレートから条件コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。条件コンポーネントをコピーして、別のスクリプト・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

▶ ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーから条件コンポーネントをコピーして貼り付けるには

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、条件がルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントであるかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - 条件がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - 条件がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートで、コピーする条件コンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。

注：「編集」、「コピー」の順に選択してコンポーネントをコピーすることもできます。

- 4 次のいずれかを行います:
 - 条件コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの条件コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - 条件コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの条件コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。
- 5 ファイル、「保存の順」に選択します。

メンバー範囲コンポーネントの操作

次のトピックを参照してください:

- [342 ページの「メンバー範囲コンポーネントについて」](#)
- [343 ページの「メンバー範囲コンポーネントの作成」](#)
- [345 ページの「メンバー範囲コンポーネントを開く」](#)
- [345 ページの「メンバー範囲コンポーネントの編集」](#)
- [346 ページの「メンバー範囲コンポーネントの削除」](#)
- [346 ページの「メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)

メンバー範囲コンポーネントについて

メンバー範囲コンポーネントは、Financial Management、Planning または Essbase 次元からのメンバーの範囲で構成される一種のループです。メンバー範囲コンポーネントは共有できないため、ビジネス・ルールまたはテンプレートに新規メンバー範囲コンポーネントを追加するたびに新規メンバー範囲コンポーネントを作成する必要があります。

メンバー範囲コンポーネントの作成

メンバー範囲コンポーネントは、ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザインまたはテンプレート・デザインから作成します。ビジネス・ルールおよびテンプレートから独立して存在するスクリプトおよび式コンポーネントとは異なり、メンバー範囲コンポーネントをシステム・ビューから作成できません。メンバー範囲コンポーネントは、属するビジネス・ルールおよびテンプレートに常にリンクされており、共有できません。

▶ メンバー範囲コンポーネントを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらにメンバー範囲を作成するかに応じて、次のいずれかを行います:
 - ルールに作成する場合は、ルールを展開し、作成先のルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートに作成する場合は、テンプレートを展開し、作成先のテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 フロー・チャート内のメンバー範囲を作成する場所を決定したら、新規オブジェクトからメンバー範囲オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。フロー・チャートに、メンバー範囲オブジェクトが接続線の付いた2つの円として表示されます。
- 4 **オプション:** テンプレートのメンバー範囲コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを作成します。305 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成」を参照してください。
- 5 **オプション:** メンバー範囲コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。
- 6 **Financial Management ユーザーのみ:** タイマーの使用可能を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、メンバー範囲コンポーネントの処理に要する時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つのメンバー範囲コンポーネントが含まれている場合、ルールとルール内の各メンバー範囲コンポーネントの処理に要する時間が記録されます。
- 7 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 除外を選択し、選択したメンバーを計算から除外します。
- 8 テンプレートのメンバー範囲コンポーネントを作成しており、設計時プロンプトを使用する場合は、設計プロンプトの使用を選択します。次に、リストからプロンプトを選択します。309 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの選択」を参照してください。

9 ビジネス・ルールのメンバー範囲コンポーネントを作成する場合、次のいずれかのアクションを実行します:

- メンバーのかわりに変数を使用してメンバー範囲を定義する場合は、変数の使用を選択します。次に、変数を入力するか選択します。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

注: このオプションを選択した場合は、次元のメンバー範囲を定義できません。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:**

1. メンバー範囲を定義する各次元の値列にメンバーを入力するか、各行をクリックしてアクションアイコンを表示します。

ヒント: 1 行ごとに各次元のメンバーを選択するよりは、「メンバー・セクタ」アイコンをクリックし、グリッド内のすべての次元のメンバーを選択できます。メンバー・セクタで「OK」をクリックすると、選択したメンバーのグリッドに、選択したメンバーが次元ごとに表示されます。

2. アクションアイコンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択してメンバー範囲を定義します:

- 変数(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照。)
- メンバー(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照。)
- 関数(414 ページの「[関数の操作](#)」を参照。)

- **Financial Management ユーザーのみ:**

1. 次元列の下にある最初の行をクリックし、次元を選択します。
2. 値列にメンバーを入力するか、行内をクリックしてアクションアイコンを表示します。アクションアイコンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択してメンバー範囲を定義します:

- 変数(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照。)
- メンバー(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照。)
- 関数(414 ページの「[関数の操作](#)」を参照。)

3. 変数列に起動変数を入力するか、行内をクリックしてアクションアイコンを表示します。アクションをクリックして起動変数を選択します。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

4. コメントアイコンをクリックし、次元に定義するメンバー範囲のコメントを入力します。

5. メンバー範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。

10 ファイル]、「保存の順」を選択します。

メンバー範囲コンポーネントを開く

メンバー範囲コンポーネントは、そのコンポーネントが使用されているビジネス・ルール・フロー・チャートまたはテンプレートから開けます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ メンバー範囲コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートのメンバー範囲コンポーネントを選択して、メンバー範囲プロパティを確認します。

メンバー範囲コンポーネントの編集

メンバー範囲コンポーネント、メンバー範囲コンポーネントの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうか(Financial Management アプリケーションのみ)、およびメンバー範囲コンポーネントのコメントとキャプションを定義するために使用する次元およびメンバー、または変数を編集できます。

▶ メンバー範囲コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、および計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらにあるかによって、次のいずれかを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、プロパティを編集するメンバー範囲をメンバー範囲で選択します。メンバー範囲のプロパティはどれでも編集できます。(343 ページの「メンバー範囲コンポーネントの作成」を参照。)
 - キャプション

- メンバー範囲を定義するために選択する変数
 - メンバー範囲に含める次元
 - 各次元のメンバー範囲を定義するメンバー
 - **Financial Management ユーザーのみ:** コンポーネントの処理に要した時間をログ・ファイルに含めるかどうか
 - メンバー範囲を定義する対象の次元のコメント
- 4 ファイル]、「保存の順に選択します。

メンバー範囲コンポーネントの削除

メンバー範囲コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。メンバー範囲コンポーネントは1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

- ▶ メンバー範囲コンポーネントを削除するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
 - 3 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナで、フロー・チャート内の削除するメンバー範囲コンポーネントを選択します。
 - 4 メンバー範囲を右クリックして除去を選択します。
 - 5 コンポーネントの削除を確認します。

メンバー範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け

ルールまたはテンプレートからメンバー範囲コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。メンバー範囲コンポーネントをコピーして、別のメンバー範囲コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーからメンバー範囲コンポーネントをコピーするには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、メンバー範囲がルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - メンバー範囲がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - メンバー範囲がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
 - 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のコピーするメンバー範囲コンポーネントを選択します。
 - 4 編集」、「コピーの順」を選択します。
 - 5 次のいずれかを行います:
 - メンバー範囲コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - メンバー範囲コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、メンバー範囲コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。
 - 6 ファイル」、「保存の順」を選択します。

データ範囲コンポーネントの操作(Financial Management ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- 348 ページの「[データ範囲コンポーネントについて\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」
- 348 ページの「[データ範囲コンポーネントの作成\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」
- 350 ページの「[データ範囲コンポーネントを開く \(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」
- 350 ページの「[データ範囲コンポーネントの編集\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」
- 351 ページの「[データ範囲コンポーネントの削除\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」

- 352 ページの「データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け(Financial Management ユーザーのみ)」

データ範囲コンポーネントについて(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントは、Financial Management アプリケーションのデータ値の範囲で構成されるループの一種です。データ範囲コンポーネントは共有できないため、ビジネス・ルールまたはテンプレートに新規データ範囲を追加するたびに新規データ範囲を作成する必要があります。

データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management ビジネス・ルールまたはテンプレートを設計するときに、ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナ内からデータ範囲コンポーネントを作成します。スクリプトまたは式コンポーネントとは異なり、データ範囲コンポーネントはそれが属するビジネス・ルールまたはテンプレートとしてのみ存在します。データ範囲コンポーネントは共有できません。

注： データ範囲を作成できるのは Financial Management ビジネス・ルールまたはテンプレート内のみです。

▶ データ範囲コンポーネントを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、ルールまたはテンプレートのどちらのデータ範囲を作成するかによって、次のいずれかのタスクを行います:
 - ルールにデータ範囲を作成する場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートにデータ範囲を作成する場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 フロー・チャート内のデータ範囲を作成する場所を決定したら、新規オブジェクトからデータ範囲オブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。
フロー・チャートに、データ範囲オブジェクトが接続線の付いた2つの円として表示されます。
- 4 **オプション:** テンプレートのデータ範囲コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを作成します。305 ページの「カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成」を参照してください。

- 5 データ範囲コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。
- 6 タイマーの使用可能を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、データ範囲コンポーネントの処理に要した時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできません。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている3つのデータ範囲コンポーネントが含まれている場合、ルールおよびルール内の各データ範囲コンポーネントの処理に要した時間が記録されます。
- 7 次のいずれかを行います:
 - ビジネス・ルールのデータ範囲を作成し、変数を使用してこのデータ範囲を定義する場合: 変数の使用を選択して、変数を入力または選択します。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

注: このオプションを選択すると、グリッド内の次元に対してデータ範囲を定義できません。
 - テンプレートに対応するデータ範囲を作成し、設計時プロンプトを使用してそのデータ範囲を定義する場合: 設計プロンプトの使用を選択して、設計プロンプトを入力または選択します。

注: このオプションを選択すると、グリッド内の次元に対してデータ範囲を定義できません。
 - ビジネス・ルールまたはテンプレートに対してデータ範囲を作成し、変数、メンバーおよび関数を使用してそのデータ範囲を定義する場合は、次のことを実行します。
 1. データ範囲を定義する対象の最初の次元に対して、値列にメンバーを入力するか、行をクリックしてアクションアイコンを表示します。
 2. アクションアイコンをクリックし、次のオプションのいずれかを選択してデータ範囲を定義します:
 - 変数(398 ページの「[変数の操作](#)」を参照。)
 - メンバー(374 ページの「[メンバーの操作](#)」を参照。)
 - 関数(414 ページの「[関数の操作](#)」を参照。)
 3. 変数列に起動変数を入力するか、行内をクリックしてアクションアイコンを表示します。アクションアイコンをクリックして、変数を選択して起動変数を選択します。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

注: シナリオ、年、期間、エンティティ、または値次元に対して起動変数を含められません。
 4. コメントアイコンをクリックし、次元に定義するデータ範囲のコメントを入力します。
 5. データ範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
- 8 ファイル]、「保存の順」を選択します。

データ範囲コンポーネントを開く (Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントは、そのコンポーネントが使用されているビジネス・ルールフロー・チャートまたはテンプレートから開けます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ データ範囲コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) またはデータベース (Essbase の場合) を展開します。次に、データ範囲がルールまたはテンプレートのいずれに含まれているかによって、次のいずれかのタスクを行います:
 - データ範囲がルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - データ範囲がテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートのデータ範囲コンポーネントを選択して、データ範囲プロパティを確認します。

データ範囲コンポーネントの編集 (Financial Management ユーザーのみ)

次元およびメンバー、変数、または設計時プロンプトを編集して、データ範囲コンポーネント、データ範囲コンポーネントの処理に要した時間をログファイルに記録するかどうか、およびデータ範囲のコメントおよびキャプションを定義できます。

▶ データ範囲コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) またはデータベース (Essbase の場合) を展開します。次に、ルールまたはテンプレートのどちらのデータ範囲を編集するかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - ルールにデータ範囲を編集する場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートにデータ範囲を編集する場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のデータ範囲を選択してデータ範囲でそのプロパティを編集します。次のいずれかのプロパティ

を編集できます。(348 ページの「データ範囲コンポーネントの作成(Financial Management ユーザーのみ)」を参照。)

- キャプション
- データ範囲を定義するために選択する設計プロンプト(テンプレートのデータ範囲を作成している場合)
- データ範囲を定義するために選択する変数(ビジネス・ルール of データ範囲を作成している場合)
- データ範囲に含める次元
- 各次元のデータ範囲を定義するメンバー
- データ範囲の処理に要する時間をログファイルに含めるかどうか
- データ範囲を定義する対象の次元のコメント

4 ファイル」、「保存の順に選択します。

データ範囲コンポーネントの削除(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。データ範囲コンポーネントは1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ データ範囲コンポーネントを削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、ルールまたはテンプレートのいずれのデータ範囲を削除するかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - ルールにデータ範囲を削除する場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートにデータ範囲を削除する場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内の削除するデータ範囲コンポーネントを選択します。
- 4 データ範囲を右クリックして除去を選択します。
- 5 コンポーネントの削除を確認します。
- 6 ファイル」、「保存の順に選択します。

データ範囲コンポーネントのコピーおよび貼付け (Financial Management ユーザーのみ)

ルールまたはテンプレートからデータ範囲コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。データ範囲コンポーネントをコピーして、別のデータ範囲コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナからデータ範囲コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。ルールまたはテンプレートのどちらかにデータ範囲をコピーするかに応じて、次のいずれかのタスクを行います:
 - ルールにデータ範囲をコピーする場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - テンプレートにデータ範囲をコピーする場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
 - 3 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナで、フロー・チャート内のコピーするデータ範囲コンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。
 - 4 次のいずれかを行います:
 - データ範囲コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - データ範囲コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートのデータ範囲コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。
 - 5 ファイル、「保存の順」を選択します。

固定ループ・コンポーネントの操作

次のトピックを参照してください:

- [353 ページの「固定ループ・コンポーネントについて」](#)
- [353 ページの「固定ループ・コンポーネントの作成」](#)
- [354 ページの「固定ループ・コンポーネントを開く」](#)
- [354 ページの「固定ループ・コンポーネントの編集」](#)
- [355 ページの「固定ループ・コンポーネントの削除」](#)
- [356 ページの「固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)

固定ループ・コンポーネントについて

固定ループ・コンポーネントは、メタデータ・メンバーまたはデータ・レコード (Financial Management アプリケーションのみ) のリストを固定回数サイクル・スルーするオブジェクトです。たとえば、勘定科目リストを 10 回ループする固定ループを作成できます。

固定ループ・コンポーネントの作成

固定ループ・コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレート内で作成するには、そのアイコンをドラッグしてルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートにドロップします。固定ループ・コンポーネントは、そのために作成したビジネス・ルールまたはテンプレート内のみ存在します。固定ループ・コンポーネントはビジネス・ルールまたはテンプレート間で共有できません。

▶ 固定ループ・コンポーネントを作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ (Financial Management の場合)、プラン・タイプ (Planning の場合) またはデータベース (Essbase の場合) を展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらのコンポーネントを作成するかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 固定ループ・コンポーネントを挿入するルールまたはテンプレートを開きます。
- 4 フロー・チャート内の固定ループを作成する場所を決定したら、新規オブジェクトから固定ループオブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。
固定ループは、点線でつながった 2 つの円として表示されます。
- 5 **オプション:** テンプレートの固定ループ・コンポーネントを作成する場合、その設計時プロンプトを作成します。305 ページの「[カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成](#)」を参照してください。
- 6 **オプション:** 固定ループ・コンポーネントを識別するキャプションを入力します。キャプションは、そのコンポーネントが属するルールまたはテンプレートのフロー・チャート内で、コンポーネントの下に表示されます。
- 7 **Financial Management ユーザーのみ:** タイマーの使用可能を選択して、ビジネス・ルールが起動されたときに、固定ループ・コンポーネントの処理に要した時間がログ・ファイルに記録されるようにします。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに追加されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっている 3 つの固定ループ・コンポーネントが含まれている場合、ルールおよびルール内の各固定ループ・コンポーネントの処理に要した時間が記録されます。
- 8 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 次のタスクを行います:
 1. 値で、ループがメタデータまたはデータでサイクル・スルーする回数を入力します。

2. ブレーク変数で、変数を入力するかブレーク変数フィールドをクリックして変数の挿入アイコンを表示します。
3. 変数の挿入をクリックして、固定ループを終了する数値変数を選択するか作成します。ブレーク変数の値は1つにする必要があります。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

9 Financial Management のみ: 次のことを実行します:

1. 値で、ループをメタデータまたはデータでサイクル・スルーする回数を入力するか、フィールドをクリックしてアクションアイコンを表示します。
2. アクションアイコンをクリックして、変数または関数を選択して、変数または関数を選択できるダイアログにアクセスします。398 ページの「[変数の操作](#)」および414 ページの「[関数の操作](#)」を参照してください。
3. 変数で、変数を入力するかブレーク変数フィールドをクリックして「変数の挿入」アイコンを表示します。
4. 変数の挿入アイコンをクリックして、新規変数を選択または作成できるダイアログにアクセスします。398 ページの「[変数の操作](#)」を参照してください。

10 ファイル]、「保存の順」に選択します。

固定ループ・コンポーネントを開く

固定ループ・コンポーネントは、属するビジネス・ツールまたはテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューから開くことはできません。

▶ 固定ループ・コンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。次に、固定ループがルールまたはテンプレートのいずれに含まれているかによって、次のいずれかのタスクを行います:
 - 固定ループがルールに含まれている場合は、ルールを展開し、開くルールを右クリックして開くを選択します。
 - 固定ループがテンプレートに含まれている場合は、テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして開くを選択します。
- 3 ルールまたはテンプレートが開いている場合、フロー・チャートの固定ループ・コンポーネントを選択して、固定ループ・プロパティを確認します。

固定ループ・コンポーネントの編集

固定ループ・コンポーネントに割り当てた値およびそれに対して選択した変数は編集できます。固定ループをビジネス・ルールに対して作成する場合は、キャプ

ションも編集できます。固定ループを Financial Management のビジネス・ルールに対して作成する場合は、固定ループの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうかを編集できます。固定ループを Planning または Essbase のビジネス・ルールに対して作成する場合は、ブレイク変数を編集できます。ブレイク変数は、固定ループを終了する時点を指定するものです。

▶ 固定ループ・コンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらの一部であるかによってルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 編集する固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内の固定ループを選択して固定ループでそのプロパティを編集します。次のいずれかのプロパティを編集できます。(353 ページの「[固定ループ・コンポーネントの作成](#)」を参照。)
 - Financial Management、Planning および Essbase のビジネス・ルールおよびテンプレートの固定ループ・コンポーネントの場合: 固定ループに指定した値およびそれに対して選択した変数
 - Financial Management、Planning および Essbase のビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: キャプション
 - Planning および Essbase のビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: ブレイク変数
 - Financial Management ビジネス・ルールの固定ループ・コンポーネントの場合: 固定ループの処理に要した時間をログ・ファイルに記録するかどうか
- 5 ファイル」、「保存の順」を選択します。

固定ループ・コンポーネントの削除

固定ループ・コンポーネントを削除するには、それが属するルールまたはテンプレートから除去します。固定ループ・コンポーネントは1つのビジネス・ルールまたはテンプレートでのみ使用できるため、ビジネス・ルールまたはテンプレートから除去するだけで削除できます。

▶ 固定ループ・コンポーネントを削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、固定ループ・コン

ポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。

- 3 削除する固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内の削除する固定ループ・コンポーネントを選択します。
- 5 固定ループ・コンポーネントを右クリックして除去を選択します。
- 6 コンポーネントの削除を確認します。

固定ループ・コンポーネントのコピーおよび貼付け

ルールまたはテンプレートから固定ループ・コンポーネントをコピーして、同じルールまたはテンプレートや異なるルールまたはテンプレートに貼り付けられます。固定ループ・コンポーネントをコピーして、別の固定ループ・コンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーから固定ループ・コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、固定ループ・コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 コピーする固定ループ・コンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
 - 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のコピーする固定ループ・コンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。
 - 5 次のいずれかを行います:
 - 固定ループ・コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートの貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - 固定ループ・コンポーネントを異なるビジネス・ルールに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールを開き、フロー・チャートの固定ループ・コンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして貼付けます。
 - 6 ファイル]、「保存の順」に選択します。

DTP 割当てコンポーネントの操作(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

次のトピックを参照してください:

- [357 ページの「DTP 割当てコンポーネントについて\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)
- [357 ページの「DTP 割当てコンポーネントの作成\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)
- [359 ページの「DTP 割当てコンポーネントを開く\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)
- [359 ページの「DTP 割当てコンポーネントの編集\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)
- [360 ページの「DTP 割当てコンポーネントの削除\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)
- [361 ページの「DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け\(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ\)」](#)

DTP 割当てコンポーネントについて(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントを使用するカスタム定義テンプレートの設計時プロンプトに値を割り当てられます。このコンポーネントを、テンプレート・フロー・チャートの条件コンポーネント内に配置することで、定義する条件に基づいて、設計時プロンプトに値を割り当てられます。この方法で DTP 割当てコンポーネントを使用すると、テンプレート・フロー・チャートの複雑さが軽減され、テンプレートのロジックを開発および維持しやすくなります。

注： DTP 割当てコンポーネントは、カスタム定義テンプレートでのみ使用できます。ビジネス・ルールでは使用できません。

DTP 割当てコンポーネントの作成(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

テンプレート内で DTP 割当てコンポーネントを作成するには、アイコンをドラッグしてテンプレート・デザイナー・フロー・チャートにドロップします。DTP 割当てコンポーネントは、そのコンポーネントを作成するテンプレート内にも存在します。DTP 割当てコンポーネントはテンプレート間で共有できません。

- ▶ DTP 割当てコンポーネントを作成するには:
- 1 [EPM Workspace](#) にログインし、[Calculation Manager](#) を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログインおよび Calculation Manager へのアクセス」](#) を参照してください。

- 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
- 3 DTP 割当てコンポーネントを挿入するテンプレートを開きます。
- 4 フロー・チャート内の DTP 割当てコンポーネントを作成する場所を決定したら、新規オブジェクトから DTP 割当てオブジェクトをドラッグし、フロー・チャートにドロップします。

DTP 割当てコンポーネントが、式コンポーネントのように、四角形として表示され、その内側に割合が表示されます。
- 5 **オプション:** コンポーネントの設計時プロンプトを入力します。305 ページの「[カスタム定義テンプレートの設計時プロンプトの作成](#)」を参照してください。
- 6 プロパティで、次のタスクのいずれか、またはすべてを行います。
 - オプション: 最大 50 文字の名前を入力します。
 - オプション: 最大 255 文字の説明を入力します。
 - オプション: キャプションを入力します。フロー・チャート内の DTP 割当てコンポーネントのアイコンの下にキャプションが表示されます。
 - オプション: コメントを入力します。
- 7 **Financial Management ユーザーのみ:** テンプレートを含んでいるビジネス・ルールの起動時に DTP 割当ての処理に要した時間がログ・ファイルに記録されるようにする場合は、タイマーの使用可能を選択します。タイマーは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。処理時間は、タイマーが使用可能になっているオブジェクトごとにログ・ファイルに記録されます。たとえば、タイマーが使用可能になっているルールがあり、そのルールにタイマーが使用可能になっているカスタム定義テンプレートが含まれていて、そのテンプレートにタイマーが使用可能になっている 3 つの DTP 割当てコンポーネントが含まれている場合、ルール、カスタム定義テンプレート、およびテンプレート内の各 DTP 割当ての処理に要した時間が記録されます。
- 8 **Financial Management ユーザーのみ:** テンプレートを含んでいるビジネス・ルールにログ・テキストがある場合、ルールの起動時にログ・ファイルにそのテキストが記録されるようにするには、ロギングの使用可能を選択します。ロギングは、ルール、ルールセットおよびコンポーネントに対して使用可能にできます。ただし、記録するログ・テキストがある場合は、テンプレートの式ステートメントでそのテキストを指定します。
- 9 式で、テンプレートの設計時プロンプトの条件を定義します。
 1. 等号の左側のドロップダウンから、値を定義する設計時プロンプトを選択します。

注: ドロップダウンに設計時プロンプトがない場合は、作業中のテンプレートにプロンプトが作成されていません。
 2. 等号の右側にあるテキスト・ボックスに値を入力するか、ボックス内をクリックしてアクションアイコンを表示します。

- 変数を入力するには、変数を選択します。398 ページの「変数の操作」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、メンバーを選択します。374 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、関数を選択します。414 ページの「関数の操作」を参照してください。
3. これらの手順を繰り返し、必要な数の設計時プロンプトに値を割り当てます。

ヒント： さらに設計時プロンプトの値を定義するための行を追加するには、プラス(+)アイコンをクリックします。行を削除するには、マイナス(-)アイコンをクリックします。

- 10 ファイル」、「保存の順」を選択します。

DTP 割当てコンポーネントを開く(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントは、属するテンプレートのフロー・チャート内から開きます。式およびスクリプト・コンポーネントとは異なり、システム・ビューからは開けません。

▶ DTP 割当てコンポーネントを開くには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーションおよび計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。
- 3 テンプレートを展開し、開くテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 テンプレートを開いた後、DTP Assignment プロパティを表示するにはフロー・チャートで DTP 割当てコンポーネントを選択します。

DTP 割当てコンポーネントの編集(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントの名前、説明、キャプションおよびコメントを編集できます。DTP 割当てコンポーネントを使用して、テンプレートの設計時プロンプトに割り当てる値も編集できます。

▶ DTP 割当てコンポーネントを編集するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。

- 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
- 3 編集する DTP 割当てコンポーネントを含むテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- 4 テンプレート・デザイナーで、フロー・チャートの DTP 割当てを選択し、プロパティまたは式のプロパティを編集します。次のプロパティを編集できます:
 - 名前
 - 説明
 - キャプション
 - コメント
 - Financial Management ユーザーのみ: タイマーが使用可能かどうか
 - Financial Management ユーザーのみ: ロギングが使用可能かどうか
- 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

DTP 割当てコンポーネントの削除(カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

DTP 割当てコンポーネントを削除するには、属するテンプレートから除去します。DTP 割当てコンポーネントは1つのテンプレートでのみ使用できるので、テンプレートから除去するだけで削除できます。

- ▶ DTP 割当てコンポーネントを削除するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 削除する DTP 割当てコンポーネントを含んでいるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - 4 テンプレート・デザイナーで、フロー・チャートで削除する DTP 割当てコンポーネントを選択します。
 - 5 DTP 割当てコンポーネントを右クリックし、除去を選択します。
 - 6 コンポーネントの削除を確認します。

DTP 割当てコンポーネントのコピーおよび貼付け (カスタム定義のテンプレート・ユーザーのみ)

テンプレートから DTP 割当てコンポーネントをコピーして、同じテンプレートまたは異なるテンプレートに貼り付けられます。DTP 割当てコンポーネントをコピーして、別の DTP 割当てコンポーネントや別のコンポーネント・タイプに貼り付けられません。

- ▶ DTP 割当てコンポーネントをテンプレート・デザイナーからコピーして貼り付けるには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、テンプレートを展開します。
 - 3 コピーする DTP 割当てコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - 4 テンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のコピーする DTP 割当てコンポーネントを右クリックし、コピーを選択します。
 - 5 次のいずれかを行います:
 - DTP 割当てコンポーネントを同じテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャート内の貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
 - DTP 割当てコンポーネントを異なるテンプレートに貼り付ける場合、DTP 割当てコンポーネントを貼り付けるテンプレートを開き、フロー・チャート内の DTP 割当てコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。
 - 6 ファイル」、「保存の順」を選択します。

スクリプトおよび式コンポーネントの共有

同じアプリケーション・タイプ(Financial Management、Planning または Essbase)に属するビジネス・ルールおよびテンプレート全体で、式およびスクリプト・コンポーネントを共有できます。

注： 範囲、条件、またはループ・コンポーネントは共有できません。

共有された式またはスクリプト・コンポーネントは、そのコンポーネントを作成した元のルールまたはテンプレートにのみ存在します。コンポーネントを共有すると、Calculation Manager により元のコンポーネントへの参照またはポインタが作成されます。元のコンポーネントのコピーではなく、参照を作成することによって、データベースで使用されるスペースが少なくなり、処理時間は短くなります。

式およびスクリプト・コンポーネントの共有から非共有への変更

共有された式またはスクリプト・コンポーネントを非共有に変更するには、その前に複数のビジネス・ルールまたはテンプレートで使用されていないことを確認する必要があります。使用の表示機能を使用すれば、その式またはスクリプト・コンポーネントがどのビジネス・ルールおよびテンプレートで使用されているかを確認できます。(366 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示」を参照。)次に、そのルールおよびテンプレート内からコンポーネントの「共有」チェック・ボックスを選択解除することで、使用されている各ビジネス・ルールおよびテンプレートに対して共有コンポーネントのコピーを作成できます。

- ▶ 式またはスクリプト・コンポーネントを共有から非共有に変更するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、共有式またはスクリプト・コンポーネントがルールとテンプレートのどちらにあるかによって、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
 - 4 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナで、次のいずれかのタスクを実行します:
 - フロー・チャートに追加する式またはスクリプト・コンポーネントを共有しない場合は、そのコンポーネントをフロー・チャートにドラッグした後、プロパティで共有の選択を解除します。
 - フロー・チャートにすでにある式またはスクリプト・コンポーネントを共有しない場合は、フロー・チャート上でそのコンポーネントを選択し、プロパティで共有の選択を解除します。
- これによってルールまたはテンプレート内のコンポーネントのコピーが作成されます。
- 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

式およびスクリプト・コンポーネントの非共有から共有への変更

式またはスクリプト・コンポーネントを非共有から共有に変更する場合は、同じアプリケーション・タイプ内(Financial Management、Planning または Essbase)に、同じ名前を持つ別の共有または非共有の式またはスクリプト・コンポーネントがないことを確認する必要があります。共有オブジェクトの名前はアプリケーション間で一意にする必要があるため、すでに使用されている名前を持つ共有オブジェクトは作成できません。

式またはスクリプト・コンポーネントを共有するには、既存のコンポーネントをルールまたはテンプレートのフロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップす

るときに、その「プロパティ」タブで「共有」チェック・ボックスを選択します。
(「共有」チェック・ボックスはデフォルトで選択されています。)

▶ 式またはスクリプト・コンポーネントを非共有から共有に変更するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートのどちらの共有の式またはスクリプト・コンポーネントを作成するかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、次のいずれかのタスクを実行します:
 - フロー・チャートにドラッグ・アンド・ドロップするときに、既存の式またはスクリプト・コンポーネントを共有する場合
 1. 既存のオブジェクトで、アプリケーション、計算またはプラン・タイプ、および共有する式またはスクリプトが含まれる Formulas フォルダまたは Scripts フォルダを展開します。
 2. 式またはスクリプトをドラッグして、フロー・チャート内の必要な場所にドロップします。デフォルトでは、共有がコンポーネントのプロパティタブで選択されます。
 - すでにフロー・チャートにある式またはスクリプト・コンポーネントを共有する場合
 1. フロー・チャート内でコンポーネントを選択します。
 2. そのコンポーネントのプロパティタブで、共有を選択します。
- 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

コンポーネントの保存

コンポーネントを保存して、テンプレートとして保存できます。式またはスクリプト・コンポーネントを扱う場合には、異なる名前でも保存できます。

次のトピックを参照してください:

- [363 ページの「コンポーネントの保存」](#)
- [364 ページの「コンポーネントのテンプレートとしての保存」](#)
- [364 ページの「異なる名前での式およびスクリプト・コンポーネントの保存」](#)

コンポーネントの保存

式およびスクリプト・コンポーネントをコンポーネント・デザイナーで設計してから保存します。条件コンポーネント、範囲コンポーネントおよび固定ループ・コンポーネントが属するビジネス・ルールまたはテンプレートを、ルール・デザイ

ナまたはテンプレート・デザイナーで保存すると、これらのコンポーネントも保存されます。

- ▶ コンポーネント・デザイナー、テンプレート・デザイナー、またはルール・デザイナーでコンポーネントの設計を終了した後に保存するには、「ファイル」、「保存の順」を選択するか、または保存アイコンをクリックします。

コンポーネントのテンプレートとしての保存

ビジネス・ルールのコンポーネントをその他のビジネス・ルールで再利用する場合は、テンプレートとして保存できます。ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャート内からコンポーネントをテンプレートとして保存します。

- ▶ コンポーネントをテンプレートとして保存するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 テンプレートとして保存するコンポーネントが含まれるルールまたはテンプレートを開きます。
 - 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、テンプレートとして保存するコンポーネントを選択し、テンプレートとして保存を選択します。

注： コンポーネントまたはコンポーネント・グループのみをテンプレートとして保存できます。コンポーネントをテンプレートとして保存すると、そのコンポーネントの子もテンプレートに保存されます。フロー・チャート内のすべてのビジネス・ルールとテンプレートはそのテンプレートに保存されません。

- 5 名前を付けて保存で、OK をクリックします。

ヒント： 新規テンプレートを確認するには、システム・ビューのリフレッシュが必要な場合があります。315 ページの「カスタム定義テンプレートのリフレッシュ」を参照してください。

異なる名前での式およびスクリプト・コンポーネントの保存

「名前を付けて保存」を使用すれば、スクリプトおよび式コンポーネントを異なる名前を保存できます。「名前を付けて保存」では、式またはスクリプト・コンポーネントのコピーが作成されます。共有されているコンポーネントのコピーを作成して、そのコピーを共有させないことも可能です。361 ページの「スクリプトおよび式コンポーネントの共有」を参照してください。

▶ スクリプトまたは式コンポーネントを異なる名前で保存するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、スクリプトまたは式を展開します。次のいずれかのタスクを行います:
 - 式を異なる名前で保存する場合は、その式を右クリックして名前を付けて保存を選択します。
 - スクリプトを異なる名前で保存する場合は、そのスクリプトを右クリックして名前を付けて保存を選択します。
- 3 名前を付けて保存で、式またはスクリプトの新規名前とアプリケーション名を入力します。アプリケーション名は有効な Performance Management Architect アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションである必要があります。Financial Management の式またはスクリプトの場合は、計算タイプを選択します。Planning の場合は、プラン・タイプを選択します。Essbase の場合は、データベースを選択します。OK をクリックします。

注： 異なる名前で保存した式またはスクリプトのアプリケーション・タイプは変更できません。新規の式またはスクリプトのアプリケーション・タイプは元の式またはスクリプトと同じにする必要があります。また、式またはスクリプトの対象が Financial Management の場合は、計算タイプを変更できません。新規の式またはスクリプトの計算タイプは、元の式またはスクリプトと同じにする必要があります。

保存した後に式またはスクリプト・コンポーネントを確認するには、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。365 ページの「式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ」を参照してください。

式およびスクリプト・コンポーネントのリフレッシュ

式またはスクリプト・コンポーネントを作成した後、「Formulas」フォルダまたは「Scripts」フォルダで確認するために、システム・ビューでアプリケーション・リストのリフレッシュが必要な場合があります。アプリケーション・タイプ、アプリケーション、あるいは式またはスクリプト・コンポーネントが属する計算またはプラン・タイプをリフレッシュする場合、デフォルトでは式およびスクリプト・コンポーネントをリフレッシュします。ただし、式またはスクリプト・コンポーネントをリフレッシュしても、アプリケーション・リストのより上位のレベル(すなわち、計算またはプラン・タイプ、アプリケーション、あるいはアプリケーション・タイプ)はリフレッシュされません。

- ▶ 式またはスクリプト・コンポーネントをリフレッシュするには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、およびスクリプトまたは式コンポーネントを含む計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開します。
 - 3 スクリプトまたは式を右クリックしてリフレッシュを選択します。

式およびスクリプト・コンポーネントの使用の表示

スクリプトおよび式コンポーネントを使用するビジネス・ルールおよびテンプレートを表示できます。スクリプトまたは式の使用を表示すると、次の情報が表示されます:

- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの名前
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートのアプリケーション名
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが配置されているかどうか
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートが検証されているかどうか
- スクリプトまたは式を使用しているビジネス・ルールおよびテンプレートの説明

- ▶ スクリプトまたは式コンポーネントの使用を表示するには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、スクリプトまたは式を展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - 使用を確認するスクリプトを右クリックし、使用の表示を選択します。
 - 使用を確認する式を右クリックし、使用の表示を選択します。
 - 4 情報を確認した後、OK をクリックします。

フロー・チャート内でのコンポーネントの操作

フロー・チャート内で、コンポーネントを展開および縮小して詳細を表示または非表示にする、コンポーネントを除去する、コンポーネントをテンプレートとして保存する、コンポーネントをコピーして貼り付ける、コンポーネント・グループおよびコンポーネント参照をコピーして貼り付けるなどのアクションを行えます。

次のトピックを参照してください:

- [367 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開」](#)
- [368 ページの「コンポーネントのフロー・チャートからの除去」](#)
- [368 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け」](#)
- [369 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け」](#)
- [370 ページの「フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け」](#)

フロー・チャート内でのコンポーネントの縮小および展開

複合コンポーネントが多数あるビジネス・ルールまたはテンプレートがある場合は、フロー・チャートでその一部を縮小または展開できます。フロー・チャートでコンポーネントを縮小および展開することによって、操作するコンポーネントの表示スペースを拡大しながら、操作しないコンポーネントの表示スペースを縮小できます。

▶ コンポーネントをフロー・チャートで縮小するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。[226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのいずれを開くかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーのフロー・チャートで、コンポーネントに対していずれかのアクションを実行します:
 - コンポーネントを展開する場合は、そのコンポーネントを右クリックし、展開を選択します。
 - コンポーネントを縮小する場合は、そのコンポーネントを右クリックし、縮小を選択します。

注： 条件、範囲および固定ループの各コンポーネントは展開および縮小できません。式またはスクリプト・コンポーネントは展開および縮小できません。

- 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

コンポーネントのフロー・チャートからの除去

条件、メンバー範囲、または固定ループの各コンポーネントをビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートから除去すると、そのコンポーネントが削除されます。これらのコンポーネントは共有できません。1つのビジネス・ルールまたはテンプレートにのみ存在します。

式またはスクリプト・コンポーネントをフロー・チャートから除去しても、そのコンポーネントが完全に削除される場合とされない場合があります。式またはスクリプト・コンポーネントが共有されていない場合は、コンポーネントを除去すると完全に削除されます。式またはスクリプト・コンポーネントが共有されている場合は、除去元のビジネス・ルールまたはテンプレートからのみ削除されます。

- ▶ コンポーネントをフロー・チャートから除去するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、ビジネス・ルールまたはテンプレートのいずれからコンポーネントを除去するかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
 - 4 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートで除去するコンポーネントを右クリックして、除去を選択します。
 - 5 ファイル]、「保存の順」を選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネントのコピーおよび貼付け

ビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャート内のコンポーネントをコピーする場合、同じビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャート内の別の場所に貼り付けるか、ビジネス・ルールまたはテンプレートが同じアプリケーション・タイプ(すなわち、Financial Management、Planning または Essbase)に属する場合は、別のビジネス・ルールまたはテンプレートのフロー・チャートに貼り付けられます。

- ▶ コンポーネントをコピーして貼り付けるには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コピーして貼り付けるコンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかによって、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナまたはテンプレート・デザイナのフロー・チャートでコピーするコンポーネントを右クリックして、コピーを選択します。

ヒント: 「編集」、「コピー」を順に選択して使用もできます。

5 次のいずれかを行います:

- コンポーネントを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
- コンポーネントを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネントを貼り付けるビジネス・ルールまたはテンプレートを開き、フロー・チャートのコンポーネントを貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。

ヒント: 「編集」、「貼付け」を順に選択して使用もできます。

6 ファイル」、「保存の順に選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネントへの参照のコピーおよび貼付け

コンポーネント自体とは異なり、コンポーネントへの参照をコピーすると、そのコンポーネントへのポインタのみがコピーされます。コンポーネントへの参照をコピーすると、コンポーネント自体は作成した元の場所にものみ存在します。

コンポーネントへの参照をコピーする場合は、同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けるか、同じアプリケーション・タイプ(すなわち、Financial Management、Planning または Essbase)に属する別のビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付けられます。

- ▶ フロー・チャート内でコンポーネントへの参照をコピーして貼り付けるには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コピーして貼り付けるコンポーネントへの参照がビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
 - 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。

- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のコピーするコンポーネントの参照を右クリックして、参照のコピーを選択します。

ヒント：「編集」、「参照のコピー」を順に選択して使用もできます。

- 5 次のいずれかを行います：

- 同じビジネス・ルールまたはテンプレートにコンポーネントの参照を貼り付ける場合は、フロー・チャート内の参照を貼り付ける場所の左側をクリックします。
- 異なるビジネス・ルールまたはテンプレートにコンポーネントの参照を貼り付ける場合は、そのルールまたはテンプレートを開いて、フロー・チャート内の参照を貼り付ける場所の左側をクリックします。

- 6 右クリックして貼付けを選択します。

ヒント：「編集」、「貼付け」を順に選択して使用もできます。

- 7 ファイル、「保存の順」を選択します。

フロー・チャート内でのコンポーネント・グループのコピーおよび貼付け

コンポーネントに他のコンポーネントが含まれている(すなわち、コンポーネント内にコンポーネントがある)場合は、コンポーネントのグループをコピーして、同じフロー・チャート内の別の場所に貼り付けるか、別のフロー・チャートに貼り付けられます。

- ▶ フロー・チャート内でコンポーネント・グループをコピーして貼り付けるには：

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コピーおよび貼り付けるコンポーネント・グループがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらに含まれているかに応じてルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 ビジネス・ルールまたはテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーまたはテンプレート・デザイナーで、フロー・チャート内のコピーするコンポーネント・グループを右クリックして、グループのコピーを選択します。

ヒント：「編集」>「グループのコピー」も使用できます。

- 5 次のいずれかを行います：

- コンポーネント・グループを同じビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、フロー・チャートのコンポーネント・グループを貼り付ける場所を右クリックし、貼付けを選択します。
- コンポーネント・グループを異なるビジネス・ルールまたはテンプレートに貼り付ける場合、コンポーネント・グループを貼り付けるビジネス・ルール

またはテンプレートを開き、フロー・チャートのコンポーネント・グループを貼り付ける場所を右クリックして貼付けを選択します。

6 ファイル]、「保存の順」を選択します。

コンポーネントの検索

詳細検索機能を使用して、Calculation Manager または EPM Workspace のコンポーネントまたは他のオブジェクトを検索できます。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

12

メンバー選択、変数および関数を使用したコンポーネントの設計

この章の内容

メンバー選択、変数および関数について.....	373
メンバーの操作	374
変数の操作.....	398
関数の操作.....	414
関数の選択.....	415

メンバー選択、変数および関数について

コンポーネントを使用してビジネス・ルールを設計するのと同様に、メンバー、変数および関数を使用してコンポーネントを設計します。

式、スクリプト、条件および範囲の各コンポーネントでメンバー選択を使用して、メンバーのリスト(Planning および Essbase アプリケーションの場合)またはメンバーおよびメンバー・リスト(Financial Management アプリケーションの場合)を戻すメンバーおよび関数を選択します。374 ページの「メンバーの操作」を参照してください。

変数は、式、ループおよび条件の各コンポーネントに対して式を構築するために使用します。ビジネス・ルールが起動されると計算される実行変数と、より複雑な式または関数を代替する置換変数の 2 種類の変数があります。(398 ページの「変数の操作」を参照。)次の種類の変数を作成できます:

- アプリケーション・タイプに属するすべてのアプリケーションで使用するグローバル変数(Financial Management および Planning でグローバル変数を作成できます。)
- 1つのアプリケーションのみで使用するアプリケーション変数(Financial Management、Planning および Essbase でアプリケーション変数を作成できます。)
- 1つのプラン・タイプまたはデータベースで使用するプラン・タイプまたはデータベース変数(Planning および Essbase でプラン・タイプまたはデータベース変数を作成できます。)
- 1つのビジネス・ルールのみで使用するルール変数(Planning および Essbase でルール変数を作成できます。)

関数は、ループ、条件および式の各コンポーネントで使用できる事前に定義された式です。コンポーネントで使用できる関数は、Financial Management、Planning および Essbase アプリケーションで異なります。(Financial Management、Planning

および Essbase アプリケーションで使用可能な関数の種類については、[414 ページ](#)の「[関数の操作](#)」を参照。Financial Management コンポーネントで使用できる関数の詳細なリストおよび説明については『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照。Planning および Essbase アプリケーションで使用できる関数の詳細なリストおよび説明については『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照。)関数を使用して次のような計算を実行できます:

- 日付文字列から数字への変換
- 範囲をまたがったメンバーの平均値の計算
- ある期間における資産の減価償却の計算
- 時間次元のメンバーの期間累計値の計算

メンバーの操作

次のトピックを参照してください:

- [374 ページ](#)の「[コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について](#)」
- [375 ページ](#)の「[1 つ以上の次元から 1 つの次元へのメンバーまたは関数の追加](#)」
- [385 ページ](#)の「[1 つ以上の次元から 1 つの次元への複数のメンバーまたは関数の追加](#)」
- [396 ページ](#)の「[コンポーネントからのメンバーおよび関数の除去](#)」
- [396 ページ](#)の「[メンバーの検索](#)」
- [397 ページ](#)の「[名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索](#)」

コンポーネントへのメンバーおよび関数の追加について

式コンポーネント、スクリプト・コンポーネント、条件コンポーネント、メンバー範囲コンポーネントおよびデータ範囲コンポーネントにメンバーを追加できます。式コンポーネント、スクリプト・コンポーネントおよび条件コンポーネントにメンバーのリストを戻す関数も追加できます。コンポーネントが属するアプリケーションの次元からメンバーおよび関数を選択できます。

操作するコンポーネントによって、1 つの次元から 1 つ以上のメンバーまたは関数を選択するか、複数の次元から 1 つ以上のメンバーまたは関数を選択できます。

- 複数の次元に対して 1 つのメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - 式コンポーネントの式グリッド内
 - 必要なパラメータが 1 つのメンバーである関数内
- 複数の次元に対して複数のメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - タイプがメンバーである変数値の定義内
- 1 つの次元に対して複数のメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - Planning または Essbase のビジネス・ルールのグローバル範囲内

- 設計時プロンプト・タイプがスライスであるテンプレート内
- タイプがメンバーである変数値の定義内
- タイプがメンバーである変数制限の定義内
- ループ・コンポーネント内
- パラメータがメンバーであるすべての関数内
- 1つの次元に対して1つのメンバーを選択できる条件は次のとおりです:
 - タイプがメンバーである変数値の定義内
 - パラメータがメンバーであるすべての関数内

1つ以上の次元から1つの次元へのメンバーまたは関数の追加

メンバー・セレクタによって、次元内のメンバーを選択できます。次元内のメンバーを展開および縮小するときは、「+」および「-」を使用します。

「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスには2つのペインがあり、次元のすべてのメンバーおよび関数が左側の「メンバーと関数」タブに表示され、選択するメンバーおよび関数が右側の「選択」に表示されます。その次元で使用可能なすべてのメンバーが表示される左ペインには、メンバー名と簡単な説明が表示されます(使用可能な場合)。選択内容を示す右ペインには、メンバー名および選択タイプが表示されます。

▶ 1つ以上の次元をコンポーネントに追加するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、開くを選択します。
- 4 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを追加するコンポーネントを選択します。

注: メンバーをループ・コンポーネントに追加できません。

- 5 メンバー・セレクタアイコンをクリックします。
- 6 メンバー・セレクタで、次元から次元を選択します。

選択する次元のメンバーがメンバーに表示され、作業しているアプリケーションの関数が関数に表示されます。

- 7 次のいずれかを行います:

- メンバーでメンバーを選択し、右矢印ボタンをクリックして選択リストに移動します。このテーブルのオプションを使用してさらに選択を定義することもできます。

表 25 メンバー・セレクタ・ボタン

ボタン	説明
特殊項目の追加	次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連する追加メンバーまたは関数を追加します: <ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー ○ 子 ○ 子孫 ○ 兄弟 ○ 親 ○ 祖先 ○ レベル 0(ベース) ○ 含む
選択	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストに移動します。
選択解除	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストから除去されます。
すべて選択解除	選択すると、すべてのメンバーおよび関数が選択リストから除去されます。
検索	選択すると、フィールドに入力したメンバーまたは関数が検索されます。(396 ページの「メンバーの検索」を参照。)
詳細検索	選択すると、詳細検索オプションにアクセスできます。(396 ページの「メンバーの検索」を参照。)
前へ	選択すると、現在の検索の前に入力したメンバーまたは関数が検索されます。
次へ	選択すると、現在の検索の後に入力したメンバーまたは関数が検索されます。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 関数で、次のタスクを実行します:
 1. 関数を選択し、右矢印ボタンを使用して選択リストに移動します。上記のテーブルのオプションを使用して選択項目をさらに定義することもできます。表 25 を参照してください。
 2. このテーブルに従って、関数の必要な値を入力します:

表 26 Planning および Essbase の関数および値

関数	入力する値	説明
@ALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名を入力するか、「メンバー」をクリックしてメンバーを選択します。
@ANCEST	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 世代レベル番号 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「次元」で選択した次元名を入力します。 2. 祖先値が戻る元の世代またはレベルの番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@ANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@ATTRIBUTE	属性メンバー名	入力した次元に対して、選択に含める属性メンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@CURRMBR	次元名	次元名を入力します。
@DESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル名	3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@GENMBRS	○ 次元名 ○ genName	1. 次元名を入力します。 2. dimName から世代名を入力します。正の整数は世代番号を表します。
@IALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IANCESTORS	○ メンバー名 ○ 世代レベル番号	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@ICHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IDESCENDANTS	○ メンバー名 ○ 世代レベル番号	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@ILSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IRDESCENDANTS	○ メンバー名	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメン

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル番号	<p>バーの組合せを戻す関数を入力します。</p> <p>2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。</p>
@IRSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@ISIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@LEVMBRS	○ 次元名 ○ レベル名	<p>1. 次元名を入力します。</p> <p>2. レベルの番号を定義するレベル名または整数値を入力します。整数値は0 または正の整数にする必要があります。</p>
@LIST	引数	親関数によって処理できるように、1つの引数として収集および処理される引数のリストを入力します。引数として使用できるのは、メンバー名、メンバーの組合せ、メンバー・セット関数、範囲関数および数値式です。
@LSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@MATCH	○ メンバー、世代 ○ genName	<p>1. 選択の基準となるメンバーのデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。Calculation Manager は、メンバー名、指定したメンバーの別名およびその子孫を検索します。</p> <p>2. 選択の基準となる世代のデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。Calculation Manager は、その世代の</p>

関数	入力する値	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一致するパターン 	<p>すべてのメンバー名およびメンバー別名を検索します。</p> <p>3. ワイルドカード文字(*または?)を含めた検索対象の文字パターンを入力します。?は任意の1文字を表します。?はパターン内の任意の場所で使用できます。*は任意の数の文字を表します。*を使用できるのはパターンの末尾のみです。文字パターンにスペースを含めるには、二重引用符("")でパターンを囲みます。</p>
@MEMBER	文字列	文字列(二重引用符で囲まれている)または文字列を戻す関数を入力します。
@MERGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト 1 ○ リスト 2 	<p>1. マージするメンバーの第1リストを入力します。</p> <p>2. マージするメンバーの第2リストを入力します。</p>
@PARENT	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ メンバー名 	<p>1. 次元名を入力します。</p> <p>2. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。</p>
@RANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 範囲リスト 	<p>1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。</p> <p>2. メンバー名、メンバー名のカンマ区切りリスト、メンバー・セット関数または範囲関数を入力します。rangeListが指定されていない場合、Calculation Managerは時間としてタグ付けされた次元のレベル0のメンバーを使用します。</p>
@RDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 	<p>1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは</p>

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル番号	<p>は戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。</p> <p>2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。</p>
@RELATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<p>1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。</p> <p>2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。</p>
@REMOVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト 1 ○ リスト 2 	<p>1. マージするメンバーの第 1 リストを入力します。</p> <p>2. マージするメンバーの第 2 リストを入力します。</p>
@RSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@SHARE	範囲リスト	メンバーのカンマ区切りリスト、メンバーを戻す関数またはメンバーの範囲を入力します。rangeList のすべてのメンバーが同じ次元からのものである必要があります。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@UDA	○ 次元名	1. ユーザー定義属性が関連付けられる次元の名前を入力します。

関数	入力する値	説明
	○ ユーザー定義の属性	2. データベース・アウトラインに表示されるユーザー定義属性の名前を入力します。
@WITHATTR	○ 次元名 ○ 演算子 ○ 値	1. 属性次元の名前を入力します。 2. 演算子仕様を二重引用符("")で囲んで入力します。 3. 満たす必要がある条件を演算子と組み合わせで定義する値を入力します。値として使用できるのは、属性メンバー仕様、定数または日付フォーマット関数(すなわち@TODATE)です。
@XRANGE	○ メンバー名 1 ○ メンバー名 2	1. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。mbrName1が次元をまたぐメンバー(実績>1月など)である場合は、mbrName2も同じにする必要があり、次元の順序がmbrName1で使用する順序と一致させる必要があります。

Financial Management、Planning および Essbase 向けにサポートされている関数のリストについては、[414 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。

- **Financial Management ユーザーのみ:** リストでは、次のタスクを行います:
 1. 選択した次元のメンバー・リストを選択して、このテーブルに従ってリストのパラメータを入力します:

表 27 Financial Management メンバー・リストおよびパラメータ

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
勘定科目	○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
	<ul style="list-style-type: none"> □ 期間 ○ システムにはパラメータを入力しません。
カスタム 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、子、ベース、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 通貨および ConsolMethods にはパラメータを入力しません。
カスタム 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 通貨には値を入力しません。
カスタム 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
カスタム 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
エンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、次のパラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
	○ 調整エンティティおよび親調整エンティティには値を入力しません。
ICP	○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムには値を入力しません。
期間	○ 階層、子孫、祖先、親および子に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 第1世代、第2世代、第3世代、第4世代、第5世代および第6世代には値を入力しません。
シナリオ	○ 階層、子孫、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ サポート・プロセス管理には値を入力しません。
値	○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 入力、調整、合計およびデフォルト通貨には値を入力しません。
表示	○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
年	○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します： <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
	<ul style="list-style-type: none"> □ 年 □ 期間

2. 右矢印ボタンをクリックしてメンバー・リストを選択リストに移動します。前述の表のオプションを使用して、選択を詳細に定義することもできます。表 26 を参照してください。

8 次のいずれかを行います:

- 次のいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、手順 9 に進みます。
 - タイプがメンバーである変数値
 - パラメータがメンバーである関数
- 次のいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、各次元のメンバー、関数またはメンバー・リストを選択するまで手順 6 および手順 7 を繰り返します。次に手順 9 に進みます。
 - Planning または Essbase ビジネス・ルールのグローバル範囲
 - 設計時プロンプト・タイプがスライスであるテンプレート
 - タイプがメンバーである変数値
 - タイプがメンバーである変数制限
 - ループ・コンポーネント
 - パラメータがメンバーである関数

9 OK をクリックします。

1 つ以上の次元から 1 つの次元への複数のメンバーまたは関数の追加

メンバー・セレクタによって、次元内のメンバーを選択できます。次元内のメンバーを展開および縮小するときは、「+」および「-」を使用します。

「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスには 2 つのペインがあり、次元のすべてのメンバーおよび関数が左側の「メンバーと関数」タブに表示され、選択するメンバーおよび関数が右側の「選択」に表示されます。その次元で使用可能なすべてのメンバーが表示される左ペインには、メンバー名と簡単な説明が表示されます(使用可能な場合)。選択内容を示す右ペインには、メンバー名および選択タイプが表示されます。

複数のメンバーが選択可能なコンポーネントの場合は、[Shift] キーを押しながらクリックするか、[Ctrl] キーを押しながらクリックして、連続または非連続のメンバーを選択できます。

- ▶ 1 つ以上の次元から複数のメンバーを 1 つのコンポーネントに追加するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。

2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。

3 次のいずれかを行います:

- メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
- メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、開くを選択します。

4 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを追加するコンポーネントを選択します。

注: メンバーをループ・コンポーネントに追加できません。

5 メンバー・セレクトアイコンをクリックします。

6 メンバー・セレクトで、次元から次元を選択します。

選択する次元のメンバーがメンバーに表示され、作業しているアプリケーションの関数が関数に表示されます。

7 次のいずれかを行います:

- メンバーで、[Ctrl]キーを押しながらクリックするか、または[Shift]キーを押しながらクリックしてメンバーを選択します。メンバーを選択リストに移動するには右矢印ボタンをクリックします。このテーブルのオプションを使用して選択項目を詳細に定義することもできます。

表 28 メンバー・セレクト・ボタン

ボタン	説明
特殊項目の追加	次のいずれかを選択して、タブで選択したメンバーまたは関数に関連する追加メンバーまたは関数を追加します: <ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー ○ 子 ○ 子孫 ○ 兄弟 ○ 親 ○ 祖先 ○ レベル 0(ベース) ○ 含む
選択	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストに移動します。
選択解除	選択すると、メンバーまたは関数が「選択」リストから除去されます。

ボタン	説明
すべて選択解除	選択すると、すべてのメンバーおよび関数が選択リストから除去されます。
検索	選択すると、フィールドに入力したメンバーまたは関数が検索されます。(396 ページの「メンバーの検索」を参照。)
詳細検索	選択すると、詳細検索オプションにアクセスできます。(396 ページの「メンバーの検索」を参照。)
前へ	選択すると、現在の検索の前に入力したメンバーまたは関数が検索されます。
次へ	選択すると、現在の検索の後に入力したメンバーまたは関数が検索されます。

- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 関数で、次のタスクを行います:
 1. [Ctrl]キーを押しながらクリックするか、[Shift]キーを押しながらクリックして関数を選択し、右矢印ボタンをクリックして選択リストに移動します。上記テーブルのオプションを使用して選択項目を詳細に定義することもできます。表 28 を参照してください。
 2. このテーブルに従って、関数の必要な値を入力します:

表 29 Planning および Essbase の関数および値

関数	入力する値	説明
@ALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名を入力するか、「メンバー」をクリックしてメンバーを選択します。
@ANCEST	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ 世代レベル番号 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「次元」で選択した次元名を入力します。 2. 祖先値が戻る元の世代またはレベルの番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。 3. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@ANCESTORS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル名	絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@ATTRIBUTE	属性メンバー名	入力した次元に対して、選択に含める属性メンバー名またはメンバーの組合せを入力します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@CURRMBR	次元名	次元名を入力します。
@DESCENDANTS	○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 ○ 世代レベル名	1. 任意のメンバー名またはメンバーの組合せを入力します。 2. メンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。 3. 選択にメンバーを含める最高のレベル名と世代名を入力します。
@GENMBRS	○ 次元名 ○ genName	1. 次元名を入力します。 2. dimName から世代名を入力します。正の整数は世代番号を表します。
@ALLANCESTORS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@ANCESTORS	○ メンバー名	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル番号	力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@CHILDREN	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@DESCENDANTS	○ メンバー名 ○ 世代レベル番号	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@ILSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@IRDESCENDANTS	○ メンバー名 ○ 世代レベル番号	1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. 選択にメンバーを含める上限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@IRSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@ISIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@LEVMBRS	○ 次元名	1. 次元名を入力します。

関数	入力する値	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○ レベル名 	<p>2. レベルの番号を定義するレベル名または整数値を入力します。整数値は0または正の整数にする必要があります。</p>
@LIST	引数	<p>親関数によって処理できるように、1つの引数として収集および処理される引数のリストを入力します。引数として使用できるのは、メンバー名、メンバーの組合せ、メンバー・セット関数、範囲関数および数値式です。</p>
@LSIBLINGS	メンバー名	<p>メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。</p>
@MATCH	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー、世代 ○ genName ○ 一致するパターン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選択の基準となるメンバーのデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。Calculation Manager は、メンバー名、指定したメンバーの別名およびその子孫を検索します。 2. 選択の基準となる世代のデフォルト名またはユーザー定義名を入力します。Calculation Manager は、その世代のすべてのメンバー名およびメンバー別名を検索します。 3. ワイルドカード文字(*または?)を含めた検索対象の文字パターンを入力します。?は任意の1文字を表します。?はパターン内の任意の場所で使用できます。*は任意の数の文字を表します。*を使用できるのはパターンの末尾のみです。文字パターンにスペースを含めるには、二重引用符("")でパターンを囲みます。
@MEMBER	文字列	<p>文字列(二重引用符で囲まれている)または文字列を戻す関数を入力します。</p>

関数	入力する値	説明
@MERGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ リスト 1 ○ リスト 2 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マージするメンバーの第 1 リストを入力します。 2. マージするメンバーの第 2 リストを入力します。
@PARENT	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次元名 ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次元名を入力します。 2. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@RANGE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 範囲リスト 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバー名のカンマ区切りリスト、メンバー・セット関数または範囲関数を入力します。rangeList が指定されていない場合、Calculation Manager は時間としてタグ付けされた次元のレベル 0 のメンバーを使用します。
@RDESCENDANTS	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 ○ 世代レベル番号 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0 または負の整数はレベル番号を表します。
@RELATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ○ メンバー名 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいは戻された親と組み合わせるメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。 2. メンバーを選択する下限の絶対世代番号または絶対レベル番号を定

関数	入力する値	説明
	○ 世代レベル番号	義する整数値を入力します。正の整数は世代番号を表します。0または負の整数はレベル番号を表します。
@REMOVE	○ リスト 1 ○ リスト 2	1. マージするメンバーの第 1 リストを入力します。 2. マージするメンバーの第 2 リストを入力します。
@RSIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@SHARE	範囲リスト	メンバーのカンマ区切りリスト、メンバーを戻す関数またはメンバーの範囲を入力します。rangeList のすべてのメンバーが同じ次元からのものである必要があります。
@SIBLINGS	メンバー名	メンバー名またはメンバーの組合せ、あるいはメンバーまたはメンバーの組合せを戻す関数を入力します。
@UDA	○ 次元名 ○ ユーザー定義の属性	1. ユーザー定義属性が関連付けられる次元の名前を入力します。 2. データベース・アウトラインに表示されるユーザー定義属性の名前を入力します。
@WITHATTR	○ 次元名 ○ 演算子 ○ 値	1. 属性次元の名前を入力します。 2. 演算子仕様を二重引用符(“)で囲んで入力します。 3. 満たす必要がある条件を演算子と組み合わせで定義する値を入力します。値として使用できるのは、属性メンバー仕様、定数または日付フォーマット関数(すなわち@TODATE)です。
@XRANGE	○ メンバー名 1	1. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一の

関数	入力する値	説明
	○ メンバー名 2	メンバーを戻す関数を入力します。 2. メンバー名、メンバーの組合せまたは単一のメンバーを戻す関数を入力します。mbrName1が次元をまたぐメンバー(実績->1月など)である場合は、mbrName2も同じにする必要があります、次元の順序がmbrName1で使用する順序と一致させる必要があります。

- **Financial Management ユーザーのみ:** リストでは、次のタスクを行います:
 1. 選択した次元のメンバー・リストを選択して、このテーブルに従ってリストのパラメータを入力します:

表 30 Financial Management メンバー・リストおよびパラメータ

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムにはパラメータを入力しません。
カスタム 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、子、ベース、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 通貨および ConsolMethods にはパラメータを入力しません。
カスタム 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 通貨には値を入力しません。

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
カスタム 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
カスタム 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
エンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、次のパラメータの値を入力します: □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 調整エンティティおよび親調整エンティティには値を入力しません。
ICP	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親、子およびベースに対して、パラメータの値を入力します: □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ システムには値を入力しません。
期間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先、親および子に対して、パラメータの値を入力します: □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 第 1 世代、第 2 世代、第 3 世代、第 4 世代、第 5 世代および第 6 世代には値を入力しません。

次元	メンバー・リストおよびパラメータ
シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層、子孫、祖先および親に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ サポート・プロセス管理には値を入力しません。
値	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間 ○ 入力、調整、合計およびデフォルト通貨には値を入力しません。
表示	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間
年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 階層および子孫に対して、パラメータの値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> □ 最上位のメンバー □ アクティブなエンティティ □ シナリオ □ 年 □ 期間

2. メンバー・リストを選択リストに移動するには、右矢印ボタンをクリックします。上記テーブルのオプションを使用して、選択内容を詳細に定義することもできます。表 28 を参照してください。

8 次のいずれかを行います:

- タイプがメンバーである変数を定義するために、メンバー、関数、またはメンバー・リストを選択する場合は、次元ごとにメンバー、関数またはメンバー・リストを選択するまで、手順 6 および手順 7 を繰り返します。次に手順 9 に進みます。
- これらのいずれかのメンバー、関数またはメンバー・リストを選択する場合は、手順 9 に進みます。
 - Planning または Essbase ビジネス・ルールのグローバル範囲
 - 設計時プロンプト・タイプがスライスであるテンプレート
 - タイプがメンバーである変数値
 - タイプがメンバーである変数制限

- ループ・コンポーネント
- パラメータがメンバーである関数

9 OK をクリックします。

コンポーネントからのメンバーおよび関数の除去

式、スクリプト、条件、メンバーおよびデータ範囲のコンポーネントからメンバーを除去できます。式、スクリプトおよび条件のコンポーネントから関数を除去できます。

コンポーネントからメンバーおよび関数を除去しても、データベースからは削除されません。共有コンポーネントからメンバーおよび関数を除去する場合は、最初にコンポーネントを非共有にする必要があります。

▶ コンポーネントからメンバーまたは関数を除去するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - メンバーを追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、開くを選択します。
- 4 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、除去するメンバーまたは関数を含むコンポーネントを選択します。
- 5 アクションアイコンをクリックして、メンバーを選択します。
- 6 メンバー・セレクタで、次元から、除去するメンバーまたは関数を含む次元を選択します。
- 7 選択からメンバーまたは関数をメンバーまたは関数に移動するには左矢印を使用します。表 25 を参照してください。
- 8 複数の次元からメンバーを除去する場合は、次へをクリックして、手順 6 および手順 7 を繰り返します。
- 9 OK をクリックします。
- 10 ファイル」、「保存の順」に選択します。

メンバーの検索

「メンバー・セレクタ」内でメンバーを検索できます。

▶ メンバーを検索するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ(Financial Management の場合)、プラン・タイプ(Planning の場合)またはデータベース(Essbase の場合)を展開し、コンポーネントがビジネス・ルールまたはテンプレートのどちらにあるかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - メンバーを検索するコンポーネントを含むテンプレートを右クリックして、開くを選択します。
 - メンバーを検索するコンポーネントを含むビジネス・ルールを右クリックして、開くを選択します。
- 4 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、メンバーを検索するコンポーネントを選択します。
- 5 アクションアイコンをクリックして、メンバーを選択します。
- 6 メンバー・セレクタで、次元から、検索するメンバーを含む次元を選択します。
- 7 オプション: メニューアイコンから、次のタスクを実行して、ダイアログのメンバーの表示をカスタマイズできます:
 - メンバーの名前、別名、説明および数を表示または非表示にするには、表示のオプションを選択または選択解除します。(デフォルトでは、メンバーの名前および別名が表示されます。)
 - 選択した次元のメンバーを非表示にするには、すべて縮小を選択します。(デフォルトでは、次元を選択するとアウトラインが縮小します。)
- 8 メンバーの検索で、検索するメンバーの名前を入力します。
- 9 検索をクリックして、メンバーを検索します。
- 10 オプション: メンバーをその名前、別名、またはそのプロパティの 1 つで検索するには、詳細検索をクリックします。397 ページの「[名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索](#)」を参照してください。
- 11 オプション: 複数のメンバーが検索条件に一致する場合は、左および右矢印を使用してアウトラインを上下に移動し、検索条件に一致するすべてのメンバーを参照します。
- 12 OK をクリックします。

メンバーが検索されたら、メンバーのアウトラインに強調表示されます。

名前、別名またはプロパティでのメンバーの検索

「メンバー・セレクタ」内の「詳細検索」を使用して、メンバーをその名前、別名、またはプロパティの 1 つで検索できます。

- ▶ 名前、別名、またはプロパティでメンバーを検索するには:
- 1 メンバー・セレクタから、詳細検索をクリックします。
 - 2 メンバーの検索で、検索基準から、次のオプションのいずれかを選択します:
 - 名前: メンバーをその名前で検索する場合。手順 4 に進みます。
 - 別名: メンバーをその別名で検索する場合。手順 4 に進みます。
 - プロパティ: メンバーをそのプロパティの 1 つで検索する場合。手順 3 に進みます。
 - 3 プロパティを選択した場合は、プロパティ名を入力または選択します。Planning および Financial Management のメンバー・プロパティについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。Essbase のメンバー・プロパティについては、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。
 - 4 名前、別名、またはプロパティの値を入力します。
 - 5 OK をクリックします。
- 別名、名前、またはプロパティが検索されたら、「メンバー」のアウトラインに強調表示されます。
- 注:** 別名でメンバーを検索する場合、他の言語の別名を持つメンバーを含む、検索条件に一致する別名を持つすべてのメンバーがアウトラインに強調表示されます。ただし、使用されている言語のメンバーの別名のみが「メンバー・セレクタ」に表示されます。
- 6 **オプション:** 複数のメンバーが検索条件に一致する場合は、左および右矢印を使用してアウトラインを上下に移動し、検索条件に一致するすべてのメンバーを参照します。

変数の操作

変数は、それらに対して定義する値を想定します。ビジネス・ルールおよびテンプレートの設計時にコンポーネントで変数を使用します。

変数ナビゲータを起動して、システム・ビューおよびコンポーネント・デザイナー内から新規変数を作成できます。コンポーネント・デザイナー内から変数を作成する場合、その変数は、変数を作成したコンポーネントを含むビジネス・ルールに関連付けられます。システム・ビューから直接変数を作成し、選択するビジネス・ルール、計算およびプラン・タイプ、データベースまたはアプリケーションに関連付けることもできます。

変数には、次の 2 つのタイプがあります:

- **実行:** ビジネス・ルールを起動すると、変数に対して定義された計算が実行されます。式、条件、またはループのコンポーネントで実行変数を使用できます。
- **置換:** ビジネス・ルールの設計または起動時に、変数は計算に置換できます。式コンポーネントで置換変数を使用できます。

作成できるいくつかのタイプの実行および置換変数があります。

注： 作成できる変数は、使用するアプリケーション・タイプに応じて、および実行変数と置換変数のどちらを作成するかに応じて異なります。

- 数値 - 番号
- 文字列 - テキスト文字列
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** Essbase - Essbase 代替変数
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 次元間 - 次元の選択
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** 次元 - 次元
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** メンバー - メンバー
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** メンバー - 複数のメンバー
- **Planning および Essbase ユーザーのみ:** パーセント - パーセンテージ
- **Planning ユーザーのみ:** 数値としての文字列 - テキスト文字列
- **Planning ユーザーのみ:** 数値としての日付 - 日付
- メンバー範囲 - 1 つ以上の次元のメンバー範囲
- **Financial Management ユーザーのみ:** データ範囲 - データ値の範囲
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログ情報 - ログ・ファイルからの情報
- **Financial Management ユーザーのみ:** ブール - TRUE 値または FALSE 値を戻す条件
- 配列 - 値のリスト

Planning でビジネス・ルールを起動する際にユーザーに情報を入力するよう求める実行変数を作成できます。これらの実行時プロンプト変数は、メンバー、テキスト、日付または数値などの変数を指定するようにユーザーにプロンプトを表示します。これらのプロンプトは、特に予想されるデータ型をユーザーに指示します。

注： 実行時プロンプト変数は、Planning ビジネス・ルールでのみ使用できます。

例:

- 月を選択します。
- 四半期ごとの予想顧客数を入力します。
- 翌月に予測する収益増減のパーセンテージは何ですか?

変数を作成するアプリケーション・タイプに応じて、次の最大 4 つのデータベース・オブジェクトに変数を関連付けられます:

- **(Financial Management および Planning ユーザーのみ)** グローバル: グローバルを選択すると、アプリケーション・タイプ内のすべてのアプリケーションで変数を使用できます。
- アプリケーション: アプリケーションを選択すると、変数の作成時に使用しているアプリケーション内で変数を使用できます。

- (Planning および Essbase ユーザーのみ)プラン: プランを選択すると、変数を作成するときに使用しているプラン・タイプまたはデータベース内で変数を使用できます。
- (Planning および Essbase ユーザーのみ)ルール: ルールを選択すると、変数の作成時に使用しているビジネス・ルール内で変数を使用できます。

注: すべてのレベル(グローバル、アプリケーション、プランおよびルール)の実行時プロンプト変数がビジネス・ルールで使用されている場合、これらの変数を非表示にできます。実行時プロンプト変数は Planning ビジネス・ルールでのみサポートされています。

システム・ビューからの変数の作成

システム・ビューから、またはコンポーネント・デザイナー内からは、変数ナビゲータを起動することによって変数を作成できます。

▶ システム・ビューから変数を作成するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「ツール」、「変数の順」を選択します。
- 3 変数ナビゲータで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプを展開します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - Financial Management および Planning ユーザーのみ: 同じアプリケーション・タイプの任意のアプリケーションで使用できる変数を作成するには、<グローバル>を右クリックして、新規を選択します。(これはデフォルトの選択です。)
 - Financial Management、Planning および Essbase ユーザー: そのアプリケーションでのみ使用できる変数を作成するには、アプリケーションを右クリックし、新規を選択します。
 - Planning および Essbase ユーザーのみ: そのプラン・タイプまたはデータベースでのみ使用できる変数を作成するには、プラン・タイプまたはデータベースを右クリックし、新規を選択します。
 - Planning および Essbase ユーザーのみ: そのルールでのみ使用できる変数を作成するには、ビジネス・ルールを右クリックし、新規を選択します。
- 5 置換変数を作成する場合は、置換を選択して、次のいずれかを行います:
 - Financial Management の置換変数を作成するには、[手順 6](#)に進みます。
 - Planning または Essbase の置換変数を作成するには、[手順 7](#)に進みます。
- 6 Financial Management ユーザーのみ: 置換で、Financial Management の置換変数を作成するには、次のタスクを行います:
 1. 変数の名前を入力します。
 2. 変数のタイプを選択します:

- 数値 - 番号
- 文字列 - テキスト文字列
- メンバー範囲 - 1 つ以上の次元のメンバー範囲
- **Financial Management ユーザーのみ:** データ範囲 - データ値の範囲
- **Financial Management ユーザーのみ:** ログ情報 - ログ・ファイルからの情報

注: タブのオプションは、選択した変数のタイプによって変わります。

3. 変数の説明を入力します。
4. グループにこの変数を含む場合は、グループ名を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、グループ列の下に表示されます。
5. 値テーブルに、変数の値を入力します。
 - 数値変数の値の入力については、[403 ページ](#)の「[数値変数の変数値の入力](#)」を参照してください。
 - 文字列変数の値の入力については、[404 ページ](#)の「[文字列変数の変数値の入力](#)」を参照してください。
 - メンバー範囲変数の値の入力については、[407 ページ](#)の「[メンバー変数またはメンバー\(複数\)変数の変数値の入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - データ範囲変数の値の入力については、[409 ページ](#)の「[データ範囲変数の値の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。
 - ログ情報変数の値の入力については、[410 ページ](#)の「[ログ情報変数の値の入力\(Financial Management ユーザーのみ\)](#)」を参照してください。

7 Planning および Essbase ユーザーのみ: 置換で、Planning または Essbase の置換変数を作成する場合は、次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数のタイプを選択します:
 - 数値 - 番号
 - 文字列 - テキスト文字列
 - Essbase - Essbase 代替変数
 - 次元間 - 複数の次元を選択
 - 次元 - 次元
 - メンバー - メンバー
 - メンバー(複数) - 複数のメンバー
 - パーセント - パーセンテージ
 - **Planning ユーザーのみ:** 数値としての文字列 - テキスト文字列
 - **Planning ユーザーのみ:** 数値としての日付 - 日付
 - メンバー範囲 - 1 つ以上の次元のメンバー範囲

注： タブのオプションは、選択した変数のタイプによって変わります。

- 変数の説明を入力します。
- この変数をグループに含める場合は、グループ名を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、グループ列の下に表示されません。
- 変数が実行時プロンプト変数の場合、プロンプトを表示するためにユーザーが最後に入力した値をプロンプトが次回発生する場合のデフォルト値とする場合には、最後に入力した値の使用を選択します。

注： このオプションは、変数に実行時プロンプトがある場合にのみ選択できます。

- 値テーブルで、変数の値を入力します。入力する値は上記に選択する変数タイプによって変わります。以下のトピックを参照してください：
 - 数値変数の値の入力については、[403 ページの「数値変数の変数値の入力」](#)。
 - 文字列変数の値の入力については、[404 ページの「文字列変数の変数値の入力」](#)。
 - 次元間変数の値の入力については、[406 ページの「次元間変数の変数値の入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - 次元変数の値の入力については、[407 ページの「次元変数の変数値の入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - メンバー変数、メンバー(複数)変数またはメンバー範囲変数の値の入力については、[407 ページの「メンバー変数またはメンバー\(複数\)変数の変数値の入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。
 - パーセント、数値としての文字列、数値変数としての日付の値の入力については、[408 ページの「パーセント変数の変数値の入力\(Planning および Essbase ユーザーのみ\)」](#)を参照してください。

8 実行変数を作成する場合は、実行を選択して、次のいずれかを行います：

- Financial Management の実行変数を作成するには、[手順 9](#)に進みます。
- Planning または Essbase の実行変数を作成するには、[手順 10](#)に進みます。

9 Financial Management ユーザーのみ: 実行で、Financial Management の実行変数を作成する場合は、次のタスクを行います：

- 変数の名前を入力します。
- 変数タイプ: 数値、文字列、ブール、または配列を選択します。
- 変数の説明を 255 文字以下で入力します。
- 変数の値を入力します。
- グループ内に変数を置く場合は、その名前を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、グループ列の下に表示されます。
- 変数のスコープを入力します。これはルールまたはルールセットで使用できます。
- 変数タイプが配列の場合:

1. 変数のサイズを入力します。
2. 文字列または数値データ型を選択します。

10 Planning および Essbase ユーザーのみ: 実行で、Planning または Essbase の実行変数を作成する場合は、次のタスクを行います:

1. 変数の名前を入力します。
2. 変数が配列であるかどうかを指定します。このチェック・ボックスを選択する場合、次元も選択する必要があります。
3. 変数の値を入力します。
4. グループ内に変数を置く場合は、その名前を入力します。グループ名は変数を保存およびリフレッシュした後で、グループ列の下に表示されます。
5. 変数タイプとして配列を選択した場合は、Planning 次元または Essbase 次元を選択します。

11 作成する変数ごとに、**手順 6** から **手順 10** を繰り返します。

12 ファイル」、「保存の順」を選択します。

数値変数の変数値の入力

数値変数には Planning、Essbase または Financial Management の置換変数または Financial Management の実行変数を指定できます。

▶ Planning または Essbase の数値変数の値を入力するには:

- 1 **400 ページの手順 1** から **400 ページの手順 5** までを完了します。
- 2 **タイプ**で、数値を選択します。
- 3 **値テーブル**で、「**スマート・リスト**」を選択します。

変数タイプとしてスマート・リストを使用する場合は、スマート・リストチェック・ボックスを選択します。(このリリースについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照。)たとえば、値 1 から値 5、年次(1)、四半期ごと(2)、月次(3)、日次(4)および 1 時間ごと(5)を持つレポート・サイクルの整数のスマート・リストを設定できます。ユーザーが「月次」を選択する場合は数値 3 がデータベースに保管されます。これによりユーザーが数値を記憶する必要がなくなります。スマート・リストの値としてテキスト文字列または日付を設定することもできます。

注: このチェック・ボックスを使用可能にするには、スマート・リストの使用をサポートする Planning アプリケーションを選択する必要があります。

- 4 **制限**で、スマート・リストの制限を選択します。

注: 実行時プロンプト値として Essbase 代替変数を使用し、その代替変数の値が変数制限外の場合、ルールを起動するとエラーが発生しないで正常に起動します。

- 5 **スマート・リストの値**を選択します。

- 6 デフォルトでは、RTP が選択されます。この変数の実行時プロンプトを作成しない場合は、RTP を選択解除します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 7 RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 8 欠落したデータ値が許可されているかどうかを指定します。
- 9 ファイル」、「保存の順」を選択します。

▶ Financial Management の置換数値変数または実行数値変数に値を入力するには:

- 1 [400 ページの手順 1](#) から [400 ページの手順 5](#) を実行します。
- 2 値を入力するか、値フィールド内をクリックして、アクションアイコンを表示します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - メンバーを入力するには、メンバーを選択します。[374 ページの「メンバーの操作」](#)を参照してください。
 - 関数を入力するには、関数を選択します。[414 ページの「関数の操作」](#)を参照してください。
- 4 ファイル」、「保存の順」を選択します。

文字列変数の変数値の入力

文字列変数には、Financial Management、Planning または Essbase の置換変数または Financial Management の実行変数を指定できます。文字列変数は英数字で、255 文字以内にする必要があります。NULL 値を含められますが、値に前方&(アンパサンド)文字を含められません。

▶ Planning または Essbase の置換文字列変数の値を入力するには:

- 1 [400 ページの手順 1](#) から [400 ページの手順 5](#) までを完了します。
- 2 タイプで、文字列を選択します。
- 3 値テーブルで、変数に値を入力します。
- 4 デフォルトでは、RTP が選択されます。この変数の実行時プロンプトを作成しない場合は、RTP を選択解除します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 5 RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 6 ファイル」、「保存の順」を選択します。

▶ Financial Management の置換変数または実行文字列変数に値を入力するには:

- 1 [400 ページの手順 1](#) から [400 ページの手順 5](#) までを完了します。
- 2 タイプで、文字列を選択します。

- 3 値を入力するか、値フィールド内をクリックして、アクションアイコンを表示します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - メンバーを入力するには、メンバーを選択します。374 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、関数を選択します。414 ページの「関数の操作」を参照してください。
- 5 ファイル」、「保存の順」を選択します。

配列変数の値の入力

配列変数には、Financial Management、Planning または Essbase の実行変数を指定できます。配列には多次元の値のリストが含まれます。

通常、配列はメンバー式の一部として変数を格納するために使用されます。配列変数のサイズは、対応する次元のメンバー数によって決まります。たとえば、シナリオ次元に 4 つのメンバーがある場合、次のコマンドに 4 つのエントリを持つ Discount と呼ばれる配列が作成されます。一度に複数の配列を使用できます。

```
ARRAY Discount[Scenario];
```

▶ 配列変数に値を入力するには:

- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
- 2 タイプで、配列を選択します。
- 3 値フィールドで、変数の値を入力します。
- 4 ファイル」、「保存の順」を選択します。

メンバー範囲変数の値の入力

メンバー範囲変数には、Financial Management、Planning または Essbase の置換変数を指定できます。メンバー範囲変数は指定された 2 つのメンバーの間のメンバー範囲(2 つのメンバーを含む)を含んでいる必要があります。

▶ メンバー範囲変数の値を入力するには:

- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
- 2 タイプで、メンバー範囲を選択します。
- 3 値テーブルで、Financial Management、Planning または Essbase のいずれのメンバー範囲を作成しているかによって、次のいずれかを行います。
 1. Financial Management のメンバー範囲変数を作成する場合は、次の手順に従います:
 1. メンバー選択を制限する次元を選択します。次元を選択すると、メンバー・セレクタにその次元のメンバーのみが表示されます。次元を選択しないと、メンバー・セレクタにすべての次元が表示されます。

2. 値に、変数の値を入力するか、アクションアイコンを選択して、メンバー、変数、または変数値の関数を入力します。
 - 変数を入力するには、[398 ページ](#)の「[変数の操作](#)」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、[374 ページ](#)の「[メンバーの操作](#)」を参照してください。
 - 関数を入力するには、[414 ページ](#)の「[関数の操作](#)」を参照してください。
 3. 変数で、変数アイコンを選択して、メンバー範囲の変数を選択します。
 4. コメントアイコンをクリックして、変数のコメントを入力します。
 5. メンバー範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
2. Planning または Essbase のメンバー範囲変数を作成する場合は、次の手順に従います:
1. メンバー範囲を定義するテーブルの次元ごとに、メンバー・セレクトタを入力するかこれを使用してメンバー範囲の制限を選択します。(表示される次元は変数を作成しているアプリケーションに属する次元です。)
- 注： Planning ユーザーのみ:** 「制限」フィールドにテキストを入力する前に、「RTP」を選択する必要があります。
2. メンバー・セレクトタを入力するかこれを使用してメンバー範囲の値を選択します。表示される次元ごとに複数のメンバーおよび関数を選択できます。
 3. **Planning ユーザーのみ:** 変数を使用して起動時に情報を求めるプロンプトを表示する場合は、リストされた次元ごとに RTP を選択します。
- 注：** 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。
4. **Planning ユーザーのみ:** RTP を選択した次元ごとに、その次元の変数が起動されるたびにユーザーに対して表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 4 ファイル」、「保存の順」を選択します。

次元間変数の変数値の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

次元間変数は、Planning または Essbase の置換変数です。これには、ビジネス・ルールを次元間で起動できる複数の次元からのメンバー範囲が含まれます。

▶ 次元間変数の値を入力するには:

- 1 [400 ページの手順 1](#) から [400 ページの手順 5](#) までを完了します。
- 2 タイプで、次元間を選択します。

- 3 表示される次元ごとに、値テーブルで、メンバー・セレクトタに入力するかこれを使用して変数の制限を選択します。

注：「制限」フィールドにテキストを入力する前に、「RTP」を選択する必要があります。

- 4 メンバー・セレクトタに入力するかこれを使用して変数の値を選択します。メンバーまたは関数を選択できます。
- 5 **Planning ユーザーのみ:** 変数が実行時プロンプトを含んでいる場合は、RTP を選択します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 **Planning ユーザーのみ:** ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 次元のすべてに対して値を選択するには、**手順 3** から **手順 6** を繰り返します。
- 8 ファイル」、「保存の順」を選択します。

次元変数の変数値の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

次元変数は、Planning または Essbase の置換変数です。この変数には、選択する次元が含まれます。

▶ 次元変数の値を入力するには:

- 1 **400 ページの手順 1** から **400 ページの手順 5** までを完了します。
- 2 タイプで、次元を選択します。
- 3 値テーブルで、次元を選択します。表示される次元は変数を作成するアプリケーションに属する次元です。
- 4 **Planning ユーザーのみ:** デフォルトでは、RTP が選択されます。変数に実行時プロンプトが必要ない場合は、RTP を選択解除します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 5 **Planning ユーザーのみ:** RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 6 ファイル」、「保存の順」を選択します。

メンバー変数またはメンバー(複数)変数の変数値の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

メンバー変数およびメンバー(複数)変数は Planning および Essbase 置換変数です。これらの変数には、選択した次元から 1 つのメンバーまたは複数のメンバーが含まれます。

- ▶ 1つまたは複数のメンバー変数の値を入力するには:
- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
 - 2 タイプで、メンバーまたはメンバー(複数)を選択します。
 - 3 値テーブルで、次元を選択します。表示される次元は変数を作成するアプリケーションに属する次元です。
 - 4 メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して、変数の制限を選択します。手順 3 で選択した次元からのみメンバーを選択できます。関数を選択することもできます。414 ページの「関数の操作」を参照してください。
 - 5 メンバー・セレクタに入力するかこれを使用して、変数の値を選択します。1つのメンバー変数に対して1つのメンバーまたは関数を選択できます。また、1つのメンバー変数に対して複数のメンバーおよび関数も選択できます。
 - 6 **Planning ユーザーのみ:** デフォルトでは、RTP が選択されます。実行時プロンプトを作成しない場合は、RTP を選択解除します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 7 **Planning ユーザーのみ:** RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 8 ファイル」、「保存の順」を選択します。

パーセント変数の変数値の入力(Planning および Essbase ユーザーのみ)

パーセント変数は、Planning および Essbase の置換または実行変数です。この変数には、指定するパーセンテージが含まれます。

- ▶ パーセント変数の値を入力するには:
- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
 - 2 タイプで、パーセントを選択します。
 - 3 値テーブルで、制限内をクリックして、変数の最小値および最大値を定義します。
 - 4 変数の数値を入力します。
 - 5 **Planning ユーザーのみ:** デフォルトでは、RTP が選択されます。実行時プロンプトを作成しない場合は、RTP を選択解除します。

注: 「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 **Planning ユーザーのみ:** RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 欠落しているデータ値を許可するかどうかを選択します。
- 8 ファイル」、「保存の順」を選択します。

数値としての文字列変数および数値としての日付変数の変数値の入力(Planning ユーザーのみ)

数値としての文字列変数および数値としての日付変数は Planning の置換または実行変数です。

- ▶ 数値としての文字列変数、または数値としての日付変数の値を入力するには:
 - 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
 - 2 タイプで、数値としての日付、パーセント、または数値としての文字列を選択します。
 - 3 値テーブルで、制限内をクリックして、変数の最小値および最大値を定義します。
 - 4 変数の数値を入力します。
 - 5 デフォルトでは、RTP が選択されます。実行時プロンプトを作成しない場合は、RTP を選択解除します。

注：「RTP」を選択しない場合は、変数に値を入力する必要があります。

- 6 RTP を選択した場合、ユーザーに表示する実行時プロンプト・テキストを入力します。
- 7 欠落しているデータ値を許可するかどうかを選択します。
- 8 ファイル」、「保存の順」を選択します。

データ範囲変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

データ範囲変数は、Financial Management の置換変数です。選択する次元からのデータ値の範囲が含まれます。

- ▶ データ範囲変数の値を入力するには:
 - 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
 - 2 タイプで、データ範囲を選択します。
 - 3 値テーブルで、表示される次元ごとに、アクションアイコンを選択して変数の値を入力します。
 - 変数を入力するには、398 ページの「変数の操作」を参照してください。
 - メンバーを入力するには、374 ページの「メンバーの操作」を参照してください。
 - 関数を入力するには、414 ページの「関数の操作」を参照してください。
 - 4 変数で、変数アイコンをクリックして、データ範囲の変数を選択します。
 - 5 コメントアイコンをクリックして、変数のコメントを入力します。
 - 6 データ範囲を定義する次元ごとにこれらの手順を繰り返します。
 - 7 ファイル」、「保存の順」を選択します。

ブール変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

ブール変数は、Financial Management の実行変数です。ブール変数は TRUE または FALSE 値を持つ変数です。

▶ ブール変数の値を入力するには:

- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
- 2 タイプで、ブールを選択します。
- 3 値フィールドで、変数の値を入力します。
- 4 ファイル]、「保存の順」を選択します。

ログ情報変数の値の入力(Financial Management ユーザーのみ)

ログ情報変数は、Financial Management の置換変数であります。

▶ ログ情報変数の値を入力するには:

- 1 400 ページの手順 1 から 400 ページの手順 5 までを完了します。
- 2 タイプで、ログ情報を選択します。
- 3 値テーブルで、ログ・テキストおよびログ式を入力するか、条件の追加/編集をクリックして条件ビルダーを使用します。325 ページの「条件ビルダーを使用した条件文の作成」を参照してください。
- 4 ファイル]、「保存の順」を選択します。

変数の選択

Calculation Manager を使用して様々な場所から変数を選択できます。コンポーネント・デザイナ内からコンポーネントを作成する際、またはテンプレート・デザイナ内およびその他の場所から設計時プロンプトを作成する際に、変数を選択できます。

▶ 変数を選択するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ビジネス・ルールおよびテンプレートのどちらかでコンポーネントの変数を選択するかに応じて、ルールまたはテンプレートを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - 変数を追加するコンポーネントが含まれるテンプレートを右クリックし、開くを選択します。
 - 変数を追加するコンポーネントが含まれるビジネス・ルールを右クリックし、開くを選択します。

- 4 ビジネス・ルールまたはテンプレートが開いたら、そのフロー・チャートで、変数を挿入するコンポーネントを選択します。
 - 5 フロー・チャートの下のタブで、次のいずれかを行います：
 - メンバー範囲、データ範囲および固定ループの各コンポーネントの場合、変数フィールドで、変数アイコンを選択します。
 - 式コンポーネントの場合、アクションアイコンをクリックして、変数を選択します。
 - スクリプト・コンポーネントの場合、変数の挿入アイコンをクリックします。
 - 条件コンポーネントの場合、条件ビルダーを起動して、アクションアイコンをクリックして、変数を選択します。
 - 6 変数の選択で、次のいずれかを行います：
 - 新規変数を作成する場合は、作成をクリックして、変数ナビゲータにアクセスします。[400 ページの「システム・ビューからの変数の作成」](#)を参照してください。
 - カテゴリから、既存の変数を選択する場合は、変数を関連付けるオブジェクトを選択します。デフォルトでは、変数はそれを作成するアプリケーションに関連付けられています。次のオブジェクトを選択できます：
 - (Financial Management および Planning ユーザーのみ) グローバル: 変数はアプリケーション・タイプ内のすべてのアプリケーションに適用されます。
 - アプリケーション: 変数はそれを作成するアプリケーションに適用されます。
 - (Planning および Essbase ユーザーのみ) プラン・タイプ: 変数はそれを作成するプラン・タイプまたはデータベースに適用されます。
 - (Planning および Essbase ユーザーのみ) ルール: 変数はそれを作成するルールに適用されます。
 - 7 置換または実行で、1 つまたは複数の変数を選択してそれをコンポーネントに挿入します。
- ヒント:** 複数の変数を選択するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックするか、または[Shift]キーを押しながらクリックします。
- 8 OK をクリックします。
変数はコンポーネントに挿入されます。
 - 9 ファイル」、「保存の順」に選択します。

変数の編集

変数ナビゲータから変数の任意のプロパティを編集できます。前に検証した変数に変更を加える場合は、その変数を使用するコンポーネントは検証されません。もう一度各コンポーネントを検証する必要があります。[第 13 章「ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置」](#)を参照してください。

変数の削除

変数が任意のコンポーネントまたはメンバー式で使用されない場合には、変数ナビゲータ内から削除できます。変数がコンポーネントで使用される場合は、変数を削除する前にコンポーネントから除去する必要があります。

▶ 変数を削除するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「ツール」、「変数の順」を選択します。
- 3 変数ナビゲータで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - Financial Management および Planning ユーザーのみ: 変数がグローバル変数である場合は、<グローバル>を選択します。
 - 変数がアプリケーション変数である場合は、変数が関連付けられているアプリケーションを選択します。
 - Planning および Essbase ユーザーのみ: 変数がプラン・タイプまたはデータベース変数である場合は、変数が関連付けられているプラン・タイプまたはデータベースを選択します。
 - Planning および Essbase ユーザーのみ: 変数がビジネス・ルール変数の場合、変数が関連付けられているビジネス・ルールを選択します。

アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベース、およびビジネス・ルールに関連付けられている変数は、置換または実行に表示されます。

- 5 置換または実行で、削除する変数を右クリックして、削除を選択します。
- 6 確認の削除で、はいを選択して変数の削除を確認します。

変数のリフレッシュ

変数ナビゲータで変数のリストをリフレッシュして、変数を追加、削除、または変更を加えた後で、最新のリストを表示できます。

▶ 変数ナビゲータで、変数のリストをリフレッシュするには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「ツール」、「変数の順」を選択します。
- 3 変数を作成、編集、または削除します。次のトピックを参照してください:
 - 400 ページの「[システム・ビューからの変数の作成](#)」
 - 411 ページの「[変数の編集](#)」
 - 412 ページの「[変数の削除](#)」

- 4 置換、または実行で、右クリックして、リフレッシュを選択します。

変数のコピー

コピーと貼付けを使用すると、同じ名前を持つ変数を同じアプリケーションまたは別のアプリケーションにコピーできます。「名前を付けて保存」を使用すると、異なる名前を持つ変数も同じアプリケーションまたは別のアプリケーションにコピーできます。

▶ 「名前を付けて保存」を使用して異なる名前を持つ変数をコピーするには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「ツール」、「変数の順」を選択します。
- 3 変数ナビゲータで、次のタスクのいずれかを実行します:

- **Financial Management ユーザーのみ:** 連結を展開し、コピーする変数を含んでいるかどうかに応じて、アプリケーションまたはグローバルを選択します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning を展開し、グローバル、またはコピーする変数に関連付けられているアプリケーション、プラン、タイプ、またはビジネス・ルールを選択します。
- **Essbase ユーザーのみ:** Essbase を展開し、コピーする変数に関連付けられているアプリケーション、データベースまたはビジネス・ルールを選択します。

選択したオブジェクトに関連付けられている変数は、「置換」および「実行」タブに表示されます。

- 4 コピーする変数を右クリックし、名前を付けて保存を選択します。
- 5 名前を付けて保存で、変数の新規名前を入力し、アプリケーションと、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを選択するか、デフォルトを受け入れます(デフォルトで、変数は作成されたのと同じアプリケーションと計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースにコピーされます)。

Financial Management アプリケーションへの事前定義済システム変数のロード(Financial Management ユーザーのみ)

Financial Management システム・テンプレートを使用するには、まずシステム・テンプレートを使用するアプリケーションに事前定義済システム変数をロードする必要があります。これらのシステム変数は、システム・テンプレートを使用できるようにする実行および置換変数です。

注: これらのシステム変数を変更または削除しないでください。変更または削除すると、システム・テンプレートは指定どおりに動作しません。システム変数を誤って変更または削除した場合は、システム変数をアプリケーションに再ロードできます。

事前定義済システム変数をアプリケーションにロードしたら、別のアプリケーションにコピーし、アプリケーション変数として使用できます。このようにコピーされたバージョンはシステム変数にリンクされていないため変更または削除できません。

- ▶ 事前定義済システム変数を Financial Management アプリケーションにロードするには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、「ツール」、「変数の順」を選択します。
 - 3 変数ナビゲータで、連結を展開し、アプリケーションを表示します。
 - 4 システム・テンプレートを使用するアプリケーションを右クリックし、システム変数のロードを選択します。

システム変数がアプリケーションに正常にロードされたことを通知するメッセージが表示されます。変数ナビゲータ内からロード先のアプリケーションを選択すると、事前定義済システム変数がアプリケーション変数とともに「実行」および「置換」タブに表示されます。

注： システム・テンプレートを使用する各アプリケーションに対してこの手順を実行する必要があります。

関数の操作

式、スクリプト、条件およびメンバー範囲の各コンポーネントで関数を使用して、データ値またはメンバーを戻すメンバー式を定義します。たとえば、関数(および算術や論理演算子)を使用して、指定するメンバーの兄弟、親、または子に戻したり、指定する値より大きいまたは小さいデータ値のリストに戻したり、指定するメンバーからデータ値を割り当てられます。Calculation Manager で関数を選択すると、正しいパラメータを入力するようにプロンプト表示されます。

計算で使用できる関数は、Financial Management、Planning および Essbase では異なります。

以下に Financial Management コンポーネントで使用できる関数のタイプのリストを示します。Financial Management の関数は、使用できるルールタイプによって分類されます(Financial Management アプリケーションのコンポーネントで使用できる関数の、完全なリストおよび説明については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

- 計算
- 換算
- 連結
- 配賦
- 動的計算
- トランザクション

Planning および Essbase コンポーネントで使用できる関数のタイプのリストを次に示します。(Planning および Essbase アプリケーションのコンポーネントで使用できる関数の完全なリストおよび説明については、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照。)

- ブール
- リレーションシップ
- 計算演算子
- 制御フロー
- データの宣言
- 機能
- 算術
- メンバー・セット
- 範囲(財務)
- 配賦
- 予測
- 統計
- 日付/時刻
- その他
- カスタム定義

注： 関数は、メンバー・セレクタおよび関数セレクタで使用できます。

関数の選択

式、スクリプト、条件およびメンバー範囲の各コンポーネントに関数を挿入できます。選択できる関数のタイプは使用しているコンポーネントのタイプによって異なります。

▶ 関数を選択するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、関数を選択するオブジェクトに応じて、ルール、テンプレート、式またはスクリプトを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - 関数を挿入するコンポーネントを含むビジネス・ルールを開きます。次にビジネス・ルールのフロー・チャートに関数を挿入するコンポーネントを選択します。
 - 関数を挿入するコンポーネントを含むテンプレートを開きます。次にテンプレートのフロー・チャートに関数を挿入するコンポーネントを選択します。

- 関数を挿入する式コンポーネントを開きます。
- 関数を挿入するスクリプト・コンポーネントを開きます。

4 次のいずれかを行います:

- 式コンポーネントに関数を挿入する場合は、式タブで、式行内をクリックして、アクションアイコンを選択し、関数を選択します。
- スクリプト・コンポーネントに関数を挿入する場合は、スクリプトタブで、関数とそのパラメータの挿入アイコンをクリックします。
- メンバー範囲コンポーネントに関数を挿入する場合は、メンバー範囲タブで、次元の値列内をクリックして、アクションアイコンを選択し、関数を選択します。
- 条件コンポーネントに関数を挿入する場合は、条件タブで、条件ビルダーアイコンをクリックします。条件ビルダーで、式、関数または値から、アクションアイコンを選択して、関数を選択します。

5 関数セレクトタで、次のいずれかを行います:

注: 関数セレクトタを呼び出すコンテキストによって、使用できる関数タイプは、[414 ページの「関数の操作」](#)で説明される関数タイプより多くの制限がある場合があります。

- カテゴリから、関数タイプを選択できる場合は、1つの関数を選択するか、またはすべての関数を選択してすべての関数タイプの関数を表示します。カテゴリの関数、またはすべての関数がカテゴリの選択の下のリストに表示されます。
- カテゴリの関数タイプ内で選択できない場合は、[手順 6](#)に進みます。

6 関数のリストから関数を選択します。

7 関数のパラメータを入力します。(Planning および Essbase コンポーネントに対して使用できる関数およびパラメータの説明については、『Oracle Essbase テクニカル・リファレンス』を参照してください。Financial Management コンポーネントで使用できる関数およびパラメータの説明については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。)

8 OK をクリックします。

13

ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証および配置

この章の内容

システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証.....	417
ルール・デザイナからのビジネス・ルールの検証.....	418
ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置.....	420

システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証

ビジネス・ルール、ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントを検証して、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションに配置する前に構文的に正しいことを確認します。検証プロセスにより、次のことが確認されます:

- すべての次元メンバーがアプリケーション内の次元に対して有効です。
- 存在するすべての関数には、正しいパラメータ数があり、アプリケーション・タイプに対して有効です。
- ビジネス・ルールのすべての変数参照が有効です。置換変数の場合、変数は最初に正しい文字列で置換されて検証されます。実行変数の場合、検証プロセスにより、変数がアプリケーション、アプリケーション・タイプ内のアプリケーション、プラン・タイプ(Planning ユーザーのみ)、またはデータベース(Essbase ユーザーのみ)、およびビジネス・ルール(Planning および Essbase ユーザーのみ)に対して定義されていることが確認されます。
- スクリプト世代には構文エラーはありません。

Planning ユーザーのみ: 実行時プロンプトを持つビジネス・ルールをデフォルト値で検証する場合、検証プロセスにより、実行時プロンプトのすべてのメンバーが選択したプラン・タイプおよびアプリケーションに対して有効であり、構文エラーがないことが確認されます。デフォルト値なしで実行時プロンプトを持つビジネス・ルールを検証する場合は、検証は実行されません。

注: 配置する前にルールおよびルールセットを検証しない場合は、構文が正しいことを確認するために配置プロセスの一部として検証されます。

- ▶ ビジネス・ルール、ルールセット、式またはスクリプト・コンポーネントを検証するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよびアプリケーションを展開します。
- 3 次のいずれかを行います:
 - **Financial Management ユーザー:** ルールセットを検証するには、計算タイプおよびルールセットを展開します。
 - **Planning および Essbase ユーザー:** ルールセットを検証するには、ルールセットを展開します。

注: Financial Management アプリケーションの場合、アプリケーション内の各計算タイプに対して「ルールセット」フォルダがあります。Planning および Essbase アプリケーションの場合、プラン・タイプおよびデータベースと同じレベルの各アプリケーションに対して「ルールセット」フォルダが1つのみあります。

- ルール、式、スクリプトまたはテンプレートを検証するには、検証するオブジェクトに応じて、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルール、式、スクリプトまたはテンプレートを展開します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - 検証するオブジェクトを右クリックして、検証を選択します。
 - 検証するオブジェクトを選択して、「アクション」、「検証の順」を選択します。
 - 5 **Planning および Essbase ユーザーのみ:** オプションの検証で、Planning(Planning ルールの場合)または Essbase(Essbase ルールの場合)、Performance Management Architect、あるいはその両方に対して検証するかどうかを選択し、OK をクリックします。

注: クラシック Financial Management またはクラシック Planning アプリケーションからオブジェクトを検証している場合は、Financial Management または Planning のみに対して検証できます。クラシック・アプリケーションのオブジェクトは Performance Management Architect アプリケーションに対して検証できません。

- 6 次のいずれかを行います:
 1. オブジェクトが正常に検証されたら、OK をクリックします。
 2. エラーがある場合は、それが表示されます。エラーを修正して、オブジェクトをもう一度検証します。

ルール・デザイナーからのビジネス・ルールの検証

ビジネス・ルールを作成またはデバッグする場合は、ルール・デザイナー内からすばやく検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションの Financial Management ビジネス・ルールは、Financial Management、Performance Management Architect、またはその両方に対して検証できます。
- クラシック Financial Management アプリケーションの Financial Management ビジネス・ルールは、Financial Management のみに対して検証できます。
- Performance Management Architect アプリケーションの Planning ビジネス・ルールは、Planning、Performance Management Architect、またはその両方に対して検証できます。
- クラシック Planning アプリケーションの Planning ビジネス・ルールは、Planning のみに対して検証できます。
- Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションの Essbase ルールは、Essbase のみに対して検証できます。

▶ ルール・デザイナー内からビジネス・ルールを検証するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 検証するルールを右クリックし、開くを選択します。
- 4 ルール・デザイナーで、アクション、検証の順に選択し、次のいずれかのタスクを行います:
 - クラシック Financial Management または Planning アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、連結を選択します。
 - Planning ルールを使用している場合は、Planning を選択します。

注: クラシック Financial Management および Planning アプリケーションでビジネス・ルールを使用している場合は、ルールが作成されたアプリケーションのみに対して検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、EPMA、連結または両方を選択し、OK をクリックします。
 - Planning ルールを使用している場合は、EPMA、Planning または両方を選択し、OK をクリックします。
- Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションおよびルールを使用している場合は、Essbase を選択します。

ルールによって検証が正常に行われると、メッセージが表示されます。検証が行われない場合は、エラーが表示されます。

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを Planning および Essbase に配置できます。1つ以上のビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置できます(部分配置と呼ばれる)。アプリケーションのすべてのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置することもできます(完全配置と呼ばれる)。

Financial Management にはビジネス・ルールセットのみを配置できます。アプリケーションの各計算タイプから1つのルールセットを配置できます。個々のルールは配置できません。

Performance Management Architect アプリケーションを使用する場合は、Performance Management Architect のアプリケーション・ライブラリ内からルールとアプリケーションも配置できます。このガイドの第2部を参照してください。

ビジネス・ルールセットを Financial Management に配置した後は、データ・フォームまたはデータ・グリッド内から計算または連結を実行できます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Planning に配置した後は、データ・フォーム内から起動したり、「起動」メニューから個別に起動したりできます。ビジネス・ルールとビジネス・ルールセットを Essbase に配置した後は、Oracle Essbase Administration Services から起動できます。『Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド』、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』および Oracle Essbase Administration Services オンライン・ヘルプを参照してください。

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にする

アプリケーションでビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのサブセットを配置する場合、配置ビューで配置可能にする必要があります。ルールおよびルールセットを配置可能にするには、配置ビューのそれぞれの名前の横にあるチェック・ボックスを選択します。

注： 1つのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットのみ、またはアプリケーションのすべてのルールおよびルールセットを配置する場合は、配置ビューで配置可能にする必要はありません。

- ▶ ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置可能にするには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューの表示、「配置ビューの順」を選択します。
 - 3 配置ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよび配置するルールまたはルールセットを含むアプリケーションを展開します。
 - 4 To Be Deployed フォルダを展開し、配置できるルールおよびルールセットの一覧を表示します。

- 5 配置の対象になるルールおよびルールセットの横にあるチェック・ボックスを選択します。

注： ルールまたはルールセットを配置する前に、構文が正しいかどうかを検証する必要があります。検証機能を使用すると、ルールおよびルールセットを手動で検証できます。417 ページの「システム・ビューからのビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、式およびスクリプト・コンポーネントの検証」を参照してください。ただし、配置する前に検証しない場合にも、ルールおよびルールセットは配置プロセスの一部として自動的に検証されます。

ヒント： ルールまたはルールセットの横にあるチェック・ボックスを選択解除して配置の対象から外す場合は、左クリックまたは右クリックし、「選択済のマーク解除」を選択します。

配置ビューからのビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットの配置

ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットは、配置ビューから配置できます。ルール・デザイナー(ビジネス・ルール用)またはルールセット・デザイナー(ビジネス・ルールセット用)から Planning または Essbase に 1 つのビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置することもできます。423 ページの「ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置する(Planning および Essbase ユーザーのみ)」を参照してください。

Financial Management に配置する場合は、アプリケーションのそれぞれの計算タイプに対して 1 つのビジネス・ルールセットを配置できます。Financial Management に複数のビジネス・ルールを配置できません。

- ▶ 配置ビューからビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを配置するには:
 - 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
 - 2 システム・ビューの表示」、「配置ビューの順」を選択します。

注： Planning または Essbase に配置する場合は、システム・ビューから配置することもできます。

- 3 配置ビューで、Financial Management、Planning または Essbase のいずれかのアプリケーション・タイプを展開します。
- 4 次のいずれかを行います:
 - **Planning および Essbase ユーザー:** アプリケーション内のすべてのルールおよびルールセットを配置するには、アプリケーションを右クリックし、配置を選択します。

注： アプリケーションのすべてのルールおよびルールセットを配置すると(完全配置)、ルールおよびルールセットを含むフォルダが配置ビューから削除されます。

- **Planning および Essbase ユーザー:** ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのサブセットを配置するには、アプリケーションおよび To Be Deployed フォルダを展開し、次の手順を実行します:

1. 配置するルールセットを選択していない場合は選択します。
2. 配置するルールを含むプラン・タイプを展開します。
3. 配置するルールを選択していない場合は選択します。
4. 右クリックして配置を選択します。

ヒント： 複数のルールまたはルールセットを配置する場合は、[Ctrl]キーおよび[Shift]キーを押しながらクリックして選択し、右クリックして「配置」を選択します。

注： 他のアプリケーションへのショートカットを含むビジネス・ルールを配置すると、ショートカットがあるそれぞれのアプリケーションにビジネス・ルールが配置されます。Performance Management Architect アプリケーションを使用し、ショートカットを含むルールが各アプリケーションに正しく配置されるようにするには、Performance Management Architect で、ライブラリ・ジョブ・コンソールを使用して配置の結果を確認します。

- **Financial Management ユーザーのみ:** ビジネス・ルールセットを配置するには、次の手順に従います:

1. 配置するルールセットを含むアプリケーション、To Be Deployed フォルダ、および計算タイプを展開します。
2. 配置するルールセットを選択していない場合は選択します。計算タイプ当たり 1 つのルールセットを配置できます。

注： 配置には、必ず Generic_Ruleset を含めてください。

3. アプリケーションを右クリックし、配置を選択します。配置すると、.xml フォーマットの Calculation Manager オブジェクトが.rle フォーマットに変換され、Financial Management アプリケーションにロードされます。

ヒント： 複数のルールを配置する場合は、[Ctrl]を押しながらクリックするか、[Shift]を押しながらクリックして選択し、右クリックして「配置」を選択します。

正常に配置されると、「配置されました」というメッセージが表示されます。問題の発生時に Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect の「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスにライブラリ・ジョブ・コンソールへのリンクが表示されます。

ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置する(Planning および Essbase ユーザーのみ)

ビジネス・ルールまたはルールセットを設計した後に、ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーから検証および配置できます。

- ▶ ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからビジネス・ルールまたはビジネス・ルールセットを配置するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューから、Planning または Essbase アプリケーション・タイプおよび配置するルールまたはルールセットを含むアプリケーションを展開します。

注： システム・ビューから、Planning および Essbase のルールおよびルールセットも配置できます。ルールまたはルールセットを右クリックし、「配置」を選択します。

- 3 次のいずれかを行います:

- ビジネス・ルールを配置する場合は、ルールを含むプラン・タイプを展開し、ルールを展開します。
- ビジネス・ルールセットを配置する場合は、ルールセットを展開します。

注： Planning および Essbase アプリケーションでは、アプリケーションの下に「ルールセット」フォルダがあり、各プラン・タイプまたはデータベースの下に「ルール」フォルダがあります。

- 4 配置するルールまたはルールセットを右クリックし、開くを選択します。
- 5 ルール・デザイナーまたはルールセット・デザイナーからアクション」、「配置の順に選択します。

正常に配置されると、「配置されました」というメッセージが表示されます。問題の発生時に Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合は、Performance Management Architect の「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスにライブラリ・ジョブ・コンソールへのリンクが表示されます。

ショートカットを含むビジネス・ルールの配置 (Planning および Essbase ユーザーのみ)

ショートカットを含むビジネス・ルールを Planning および Essbase アプリケーションに配置すると、ショートカットを作成したそれぞれのアプリケーションにルールのコピーが配置されます。

▶ ショートカットを含むビジネス・ルールを配置するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューの表示」、「配置ビューの順に選択します。

注: Planning または Essbase に配置する場合は、システム・ビューから配置することもできます。

- 3 配置ビューで、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、To Be Deployed フォルダを展開します。
- 4 配置するルールを右クリックし、すべて配置を選択します。

ルールセット・デザイナーからのビジネス・ルールの配置

ルール・デザイナー内でビジネス・ルールを使用している場合は、アプリケーションにすぐに配置できます。これはルール・デザイナー内から行うことができます。

▶ ルール・デザイナー内からビジネス・ルールを配置するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、計算タイプ、プラン・タイプまたはデータベースを展開し、ルールを展開します。
- 3 配置するルールを右クリックし、開くを選択します。

注: 右クリックして「配置」を選択し、システム・ビューからビジネス・ルールを配置することもできます。

- 4 ルール・デザイナーで、アクション、配置の順に選択し、次のいずれかのタスクを行います:

- クラシック Financial Management または Planning アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、連結を選択します。
 - Planning ルールを使用している場合は、Planning を選択します。

注: クラシック Financial Management または Planning アプリケーションでビジネス・ルールを使用している場合は、ルールが作成されるアプリケーションのみに対して検証できます。

- Performance Management Architect アプリケーションを使用している場合:
 - Financial Management ルールを使用している場合は、EPMA、連結または両方を選択し、OK をクリックします。

- Planning ルールを使用している場合は、EPMA、Planning または両方を選択し、OK をクリックします。
- Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションおよびルールを使用している場合は、Essbase を選択します。

ルールによって検証が正常に行われると、メッセージが表示されます。検証が行われない場合は、エラーが表示されます。

Essbase ビジネス・ルールはシステム・ビューまたは Calculation Manager のルール・デザイナー内から起動できます。その点で、それぞれ Financial Management および Planning から起動する必要がある、Financial Management および Planning のビジネス・ルールセットおよびビジネス・ルールとは異なります。

▶ Essbase ビジネス・ルールを起動するには:

- 1 EPM Workspace にログインし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログインおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Essbase アプリケーション・タイプ、アプリケーション、データベース、ルールと展開します。
- 3 システム・ビューで、次のタスクのいずれかを実行します:
 - 実行するビジネス・ルールを右クリックして、実行を選択します。
 - 実行するルールをダブルクリックします。ルールがルール・デザイナーに表示されたら、アクション、実行の順に選択します。

この章の内容

ビジネス・ルールの移行について	429
Business Rules から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行(Planning ユーザーのみ)	429
Financial Management から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行(Financial Management ユーザーのみ).....	440

ビジネス・ルールの移行について

アプリケーションを前のリリースからこのリリースにアップグレードした後に、ビジネス・ルールを前のリリースから Calculation Manager に移行するか(Planning および Essbase)、またはインポートする(Financial Management)必要があります。

前のリリースの Financial Management では、Financial Management でビジネス・ルールを作成して維持し、前のリリースの Planning および Essbase では、Oracle Hyperion(R) Business Rules でビジネス・ルールを作成して維持します。

このリリースでは、Performance Management Architect にアップグレードされる Financial Management または Planning アプリケーション、クラシック Financial Management または Planning アプリケーション(つまり、Performance Management Architect にアップグレードされないもの)、または Essbase ブロック・ストレージ・アプリケーションを操作する場合、Calculation Manager を使用して、ビジネス・ルールを作成して維持できます。

Business Rules から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行(Planning ユーザーのみ)

Planning のビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを Business Rules の以前のリリースから Calculation Manager に移行するには、Calculation Manager の移行機能を使用します。Business Rules オブジェクトを Calculation Manager に移行する場合は、ビジネス・ルールはビジネス・ルールとして、シーケンスはビジネス・ルールセットとして、変数は変数として、マクロはテンプレートとして移行されます。

注： Business Rules のプロジェクトがある場合は、セキュリティを移行するときに、直接 Planning に移行されます。

Business Rules から Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行に関する考慮事項を次に示します:

- Business Rules から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには、それらが属しているアプリケーションを移行します。一度に1つのアプリケーションを移行できます。
- ビジネス・ルールは、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。ただし、Calculation Manager の移行機能を繰り返し使用して、Business Rules から Calculation Manager に新規ビジネス・ルールを移行することはできます。
- ビジネス・ルールを移行するには、次の基準を満たす必要があります:
 - これまでに移行されていない必要があります。
 - 移行するアプリケーションに属しているアウトラインが存在する必要があります。
 - Business Rules のアプリケーションのすべての場所から起動できるか、または Calculation Manager のアプリケーションの少なくとも1つのプラン・タイプから起動できる必要があります。
- アプリケーションのすべての場所で起動できるビジネス・ルールを移行する場合は、次のようになります:
 - アウトラインが移行するアプリケーションに属している場合に Business Rules でアウトラインを選択すると、ビジネス・ルールはアウトラインで指定されているアプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。Business Rules でアウトラインを選択しなければ、ビジネス・ルールは移行を実行するユーザーが「Calculation Manager の移行」ダイアログ・ボックスで指定するデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。
 - ビジネス・ルールの配置ステータスは移行されません。
 - ビジネス・ルールをデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行する場合、移行するアプリケーションにショートカットは作成されません。
- 移行されるアプリケーションの1つ以上の場所で起動できるビジネス・ルールを移行すると、次のようになります:
 - Business Rules で選択されているアウトラインが移行するアプリケーションに属していない場合、ビジネス・ルールは移行を実行するユーザーが「Calculation Manager の移行」ダイアログ・ボックスで指定するデフォルト・アプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。
 - Business Rules で移行するアプリケーションに属しているアウトラインを選択すると、ビジネス・ルールはアウトラインで指定されているアプリケーションおよびプラン・タイプに移行されます。アウトラインを指定しなければ、ビジネス・ルールは Calculation Manager アプリケーションの最初のプラン・タイプに移行されます。
 - ビジネス・ルールの配置ステータスは、Calculation Manager の配置ビューで「配置済」に設定されます。
 - Business Rules のアプリケーションに対して、ビジネス・ルールに複数の起動場所が定義されている場合、ルール名は、Calculation Manager のすべて

のプラン・タイプに対して一意にする必要があるため、ショートカットは Calculation Manager アプリケーションの 1 つのプラン・タイプのみに対して作成されます。

Calculation Manager への Capital Asset Planning および Workforce Planning ビジネス・ルールの移行に関する考慮事項を次に示します:

- Oracle Hyperion Capital Asset Planning, Fusion Edition および Oracle Hyperion Workforce Planning, Fusion Edition のビジネス・ルールは、移行中のアプリケーションで資本資産および要員プラン・タイプが使用可能になっている場合、それぞれ資本資産および要員プラン・タイプに移行されます。
- 配置ステータスは、Calculation Manager の配置ビューで「配置済」に設定されます。
- ショートカットは、ビジネス・ルールが前もって移行されている場合のみ、Calculation Manager のアプリケーションに資本資産および要員プラン・タイプで作成されます。

Business Rules のシーケンスの Calculation Manager への移行に関する考慮事項を次に示します:

- シーケンスは、移行後に変更した場合も含めて、一度だけ移行できます。
- Business Rules では、シーケンスに複数のアプリケーションで起動できるルールを含められます。Calculation Manager も複数のアプリケーションで起動できるルールセットをサポートします。
- Business Rules では、シーケンス内のビジネス・ルールに同じアプリケーションに対する複数の起動場所を含めることができます。Calculation Manager では、ビジネス・ルールセット中のビジネス・ルールに同じアプリケーションに対して含めることができるのは 1 つの起動場所のみです。
- Business Rules では、シーケンスにアウトラインは含まれません。
- シーケンスは、次の条件が満たされる場合に移行できます:
 - シーケンスおよびそのネストされたシーケンス内のすべてのルールは、正常に移行されている必要があります。
 - シーケンスのすべてのルールに対して、シーケンスの一部として起動されるルールに起動場所が定義されている場合、ルールがそれ自体で起動される場合の起動場所はルールに対して定義された一連の起動場所の 1 つであり、ルールがその場所に正常に移行されている必要があります。この両方の条件が満たされている場合のみ、シーケンスを移行できます。
 - シーケンス内の各ルールには、Calculation Manager で移行されたルールに対して、Business Rules で少なくとも 1 つの起動場所を定義する必要があります。シーケンスのルールの起動場所がルール自体に定義されたどの起動場所でもない場合は、ルールの起動場所が特定できないので、シーケンスを移行できません。Business Rules で、シーケンスのビジネス・ルールの起動場所として「すべての場所」が設定されている場合も、シーケンスを移行できません。
 - シーケンスが移行の条件を満たしている場合は、アプリケーションに移行され、Calculation Manager のシステム・ビューのアプリケーション・レベルの「ルールセット」フォルダに表示されます。

- シーケンスを移行すると、配置ビューのステータスは「配置済」に設定されます。
- 1つ以上のルールが移行に失敗すると、シーケンスは部分的に移行されません。

Business Rules から Calculation Manager への変数の移行に関する考慮事項を次に示します:

- 変数を含むビジネス・ルールを移行する場合、変数は自動的に移行されます。Business Rules では、変数はグローバルまたはローカルです。Calculation Manager では、変数はグローバル(すべてのアプリケーションで使用)、アプリケーション(1つのアプリケーションのみで使用)、プラン・タイプ(Planning ユーザーのみ: 1つのプラン・タイプのみで使用)、またはルール(Planning ユーザーのみ: 1つのビジネス・ルールのみで使用)です。グローバル変数を移行すると、Calculation Manager のグローバル変数になります。ローカル変数を移行すると、Calculation Manager のビジネス・ルール変数になります。

注: Calculation Manager にすでに存在する Business Rules のグローバル変数を移行する場合は、グローバル変数からアプリケーション変数に変更できます。

- 変数は、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。
- ルール・レベルで設定された変数情報も移行されます。
- シーケンス・レベルで変数に割り当てられる起動値は、Calculation Manager の対応する値に移行されます。

Business Rules から Calculation Manager へのマクロの移行に関する考慮事項を次に示します:

- マクロは、移行後に変更できますが、移行できるのは一度だけです。
- マクロは、Calculation Manager のテンプレートに移行されます。
- パラメータは、Calculation Manager の設計時プロンプトに移行されます。設計時プロンプトは、parm1、parm2、parm3 などと命名され、String 型です。
- マクロのコアは、グラフィカル・スクリプト・コンポーネントに移行されます。
- マクロをテンプレートに移行すると、テンプレートは移行されたアプリケーションの最初のプラン・タイプに配置されます。
- ネストされたマクロを含むマクロは、移行されません。

Essbase の代替変数の移行に関する考慮事項を次に示します:

- アプリケーションおよびプラン・タイプ・レベルの Essbase 代替変数は、それらを含むアプリケーションを最初に移行する際に移行されます。アプリケーションを再び移行する場合、Essbase 代替変数は移行されません。
- Essbase のグローバル・レベルの代替変数は、移行されません。

注: Calculation Manager の移行機能は、ビジネス・ルールおよびその他のオブジェクトを移行します。プロジェクトおよびオブジェクトの起動セキュリティは移行されません。プロジェクトおよび起動セキュリティを Planning

に移行するには、Planning とともにインストールされるユーティリティを使用する必要があります。(『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照。)

▶ Business Rules から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「アクション」、「移行の順」を選択します。

注: ビジネス・ルールは、リスト・ビューおよびカスタム・ビューからも移行できます。この2つのビューを開くには、それぞれ「表示」、「リスト・ビュー」または「表示」、「カスタム・ビュー」の順に選択します。

- 3 「移行」ダイアログ・ボックスで、Business Rules から移行するアプリケーションを選択します。

注: アプリケーションは、配置する必要があります。

- 4 アプリケーションで、ビジネス・ルールを移行するデフォルト・アプリケーションを選択します。ビジネス・ルールのデフォルト・アプリケーションには、移行されるアプリケーションに対して起動可能なアプリケーションを指定する必要があります。ただし、Business Rules でアウトラインが選択されていないこと、または選択されたアウトラインが現在のアプリケーションに属していないことが必要です。
- 5 プラン・タイプで、デフォルトのプラン・タイプを選択します。
- 6 Calculation Manager のグローバル変数と同じ名前の Business Rules グローバル変数をアプリケーション変数として移行する場合は、移行オプションで、アプリケーションにグローバル変数を移行するを選択します。
- 7 移行するオブジェクトによって、アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトを上書きする場合は、既存のオブジェクトの上書きを選択します。
- 8 アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトに移行するオブジェクトを追加する場合は、既存のオブジェクトをスキップを選択します。
- 9 移行するオブジェクトが、アプリケーションおよびプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトと重複する場合に移行プロセスを停止する場合は、重複のエラー出力を選択します。
- 10 OK をクリックします。

移行のユース・ケース

次の2つの表に、ルールを Performance Management Architect の App1 および Performance Management Architect の App2 の場所に移行する際のアプリケーションおよびプラン・タイプの各種の組合せを示します。この例では、App1 および App2 は Performance Management Architect アプリケーションに存在し、App3 はまだ存在していません。

表 31 App1 の移行

ビジネス・ルール のアーチファクト	Business Rules における設計 場所	Business Rules における起動 場所	Calculation Manager のシステ ム・ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先	内部の ショート カット
R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	App1/pt1	なし(起動 場所が設 計アプリ ケーション に一致し ないため)	App1	なし
R2	空白	すべての 場所	デフォル ト・アプ リケー ション/ デフォル ト・プラ ン・タイ プ	なし	デフォル ト・アプ リケー ション	なし
R3	App2/pt1	App2/pt1	スキップ されまし た	なし	なし	なし
R4	App1/pt2	App2/pt1	App1/pt2	なし	App1	なし
R5	App3/pt1	すべての 場所	デフォル ト・アプ リケー ション/ デフォル ト・プラ ン・タイ プ	なし	デフォル ト・アプ リケー ション	なし
R6	App1/pt1	App3/pt1	App1/pt1	なし	App1	なし
R7	<空白>	App3/pt1	スキップ されまし た	なし	なし	なし
R8	App1/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	App1/pt1	App1/pt1	App1	なし
R9	<空白>	App1/pt2、 App1/pt1	App1/pt1	App1/pt1	App1	なし
R10	App3/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	デフォル ト・アプ リケー ション/ デフォル ト・プラ ン・タイ プ	App1/pt2	デフォル ト・アプ リケー ション	App1/pt2

表 32 App2 の移行

ビジネス・ルール・アーチファクト	Business Rules における設計場所	Business Rules における起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先	内部のショートカット
R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	移行済	App2/pt1	App1	App2/pt1
R2	<空白>	すべての場所	移行済	なし	前の実行のデフォルト・アプリケーション	なし
R3	App2/pt1	App2/Pt1	App2/pt1	App2/Pt1	App2	なし
R4	App1/pt2	App2/pt1	移行済	App2/pt1	App1	App2/pt1
R5	App3/pt1	すべての場所	移行済	なし	前の実行のデフォルト・アプリケーション	なし
R6	App1/pt1	App3/pt1	スキップされました	なし	App1	なし
R7	<空白>	App3/pt1	スキップされました	なし	なし	なし

次の2つの表に、シーケンスを Performance Management Architect の App1 および Performance Management Architect の App2 の場所に移行する際のアプリケーションおよびプラン・タイプの各種の組合せを示します。この例では、App1 および App2 は既存の Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition アプリケーションであり、App3 はまだ存在していません。

表 33 App1 の移行

ビジネス・ルール・アーチファクト	シーケンスの移行先	起動場所	上書きされた起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先
RS1、R1	App1/pt1	App1/pt2、App2/pt1	<空白>	移行されていないルールがあるので、スキップされました	なし	なし
RS1、R2	デフォルト・アプリケーション	すべての場所	<空白>	移行されていないルールが	なし	なし

ビジネス・ ルールの アーチファ クト	シーケン スの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager の システ ム・ ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先
	シヨン (App1/pt1 など)			あるので、 スキップさ れました		
RS1、 R3	なし	App2/Pt1	<空白>	移行され ていない ルールが あるので、 スキップさ れました	なし	なし
RS2、 R4	App1/pt2	App2/pt1	App2/pt1	オーバ ロードさ れた R4 の 起動場所 は、R4 が 移行され た場所 ではないの で、スキッ プされま した	なし	なし
RS2、 R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバ ロードさ れた R4 の 起動場所 は、R4 が 移行され た場所 ではないの で、スキッ プされま した	なし	なし
RS2、 R8	App1/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	<空白>	オーバ ロードさ れた R4 の 起動場所 は、R4 が 移行され た場所 ではないの で、スキッ プされま した	なし	なし
RS3、 R4	App1/pt2	App2/pt1	App1/pt2	オーバ ロードさ れた R4 の 起動場所 は、起動場 所ではな いのでス キップさ れました	App1	App1

ビジネス・ ルールの アーチファ クト	シーケン スの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager の システ ム・ ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先
RS3、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバ ーロード された R4 の 起動場所 は、起動場 所ではないの のでスキッ プされて ました	App1	App1
RS3、R8	App1/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	<空白>	オーバ ーロード された R4 の 起動場所 は、起動場 所ではないの のでスキッ プされて ました	App1	App1
RS4、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R4 の起 動場所は、 R4 が移行 された場 所ではな いのでスキ ップされ ました	なし	なし
RS4、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	R4 の起 動場所は、 R4 が移行 された場 所ではな いのでスキ ップされ ました	なし	なし
RS4、R8	App1/pt1	App1/pt2、 App1/pt1	<空白>	R4 の起 動場所は、 R4 が移行 された場 所ではな いのでスキ ップされ ました	なし	なし
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	<空白>	移行され ていない ルールが あるので、 スキップ されて ました	なし	なし
RS5、R2	デフォ ルト・ア プ	すべての 場所	<空白>	移行され ていない	なし	なし

ビジネス・ ルールの アーチファ クト	シーケ ンスの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager の システ ム・ ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先
	リケー ション (App1/pt1 など)			ルールが あるので、 スキップさ れました		
RS5a、R3	なし	App2/Pt1	<空白>	移行され ていない ルールが あるので、 スキップさ れました	なし	なし
RS5a、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	移行され ていない ルールが あるので、 スキップさ れました	なし	なし

表 34 App2 の移行

ビジネス・ ルールの アーチファ クト	シーケ ンスの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager の システ ム・ ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先
RS1、R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されまし た	なし	なし
RS1、R2	前の実行 のデフォ ルト・ア プリーケ ション (App1/pt1 など)	すべての 場所	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されまし た	なし	なし
RS1、R3	App2/pt1	App2/Pt1	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されまし た	なし	なし
RS2、R4	App1/pt2	App2/pt1	App2/pt1	オーバ ーロード された R4 および R6 の起動場 所は、ルー ル	なし	なし

ビジネス・ルールのアーチファクト	シーケンスの移行先	起動場所	上書きされた起動場所	Calculation Manager のシステム・ビューの場所	Calculation Manager の配置ビューの場所	移行先
				が移行された場所ではないのでスキップされました		
RS2、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 および R6 の起動場所は、ルールが移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS2、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	オーバーロードされた R4 および R6 の起動場所は、ルールが移行された場所ではないのでスキップされました	なし	なし
RS3、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし
RS3、R6	App1/pt1	App3/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし
RS3、R8	App1/pt1	App1/pt2、App1/pt1	<空白>	R4 の起動場所は、移行された場所ではなかったためスキップされました	App1	なし

ビジネス・ ルールの アーチファ クト	シーケン スの移行 先	起動場所	上書きさ れた起動 場所	Calculation Manager の システ ム・ ビューの 場所	Calculation Manager の 配置 ビューの 場所	移行先
				キップさ れました		
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	<空白>	移行され ていない ルールが あるので、 スキップさ れました	なし	なし
RS5、R1	App1/pt1	App1/pt2、 App2/pt1	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されました	なし	なし
RS5、R2	前の実行 のデフォ ルト・ア プリケー ション (App1/pt1 など)	すべての 場所	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されました	なし	なし
RS5a、R3	App2/pt1	App2/Pt1	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されました	なし	なし
RS5a、R4	App1/pt2	App2/pt1	<空白>	R2 の起動 場所が不 明なので スキップ されました	なし	なし

Financial Management から Calculation Manager へのビジ ネス・ルールの移行(Financial Management ユーザーの み)

Financial Management のビジネス・ルールを Financial Management の以前のリリースから Calculation Manager に移行するには、Calculation Manager のインポート機能を使用します。

Financial Management のビジネス・ルールをインポートする場合は、SUB ステートメントを含む Visual Basic スクリプト・ルール・ファイル(.rle ファイル)としてインポートされます。ルール・ファイルの各 SUB ステートメントは、SUB ステートメ

ントの計算タイプのルールおよびルール・セットの Calculation Manager スクリプト・コンポーネントに変換されます。

有効な SUB ステートメント・タイプの一覧を次に示します:

- SUB Calculate
- SUB Consolidate
- SUB Translate
- SUB Allocate
- SUB Input
- SUB NoInput
- SUB Dynamic
- SUB Transactions
- SUB EquityPickUp
- SUB Global

有効な計算タイプの各 SUB ステートメントでは、1つのビジネス・ルールおよび1つのスクリプト・コンポーネントを含むルールセットが作成されます。ルール・ファイルに有効な計算タイプではない SUB ステートメントがあるか、または関数がある場合は、汎用計算タイプに変換されます。たとえば、ルール・ファイルに Write_To_File() という SUB ステートメントがある場合は、定義済の計算タイプではないので、汎用計算タイプに変換されます。

Financial Management から Calculation Manager への移行中に、作成できるルールセット、ルールおよびスクリプト・コンポーネントを次に示します:

Sub Calculate

- ルールセット
 - 名前: Calculate_Ruleset
 - 計算タイプ: Calculate
 - Calculate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Calculate_Rule
 - 計算タイプ: Calculate
 - Calculate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Calculate_Component
 - 計算タイプ: Calculate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Translate

- ルールセット

- 名前: Translate_Ruleset
- 計算タイプ: Translate
- Translate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Translate_Rule
 - 計算タイプ: Translate
 - Translate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Translate_Component
 - 計算タイプ: Translate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Consolidate

- ルールセット
 - 名前: Consolidate_Ruleset
 - 計算タイプ: Consolidate
 - Consolidate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Consolidate_Rule
 - 計算タイプ: Consolidate
 - Consolidate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Consolidate_Component
 - 計算タイプ: Consolidate
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Dynamic

- ルールセット
 - 名前: Dynamic_Ruleset
 - 計算タイプ: Dynamic
 - Dynamic_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Dynamic_Rule
 - 計算タイプ: Dynamic
 - Dynamic_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント

- 名前: Dynamic_Component
- 計算タイプ: Dynamic
- スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Input

- ルールセット
 - 名前: Input_Ruleset
 - 計算タイプ: Input
 - Input_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Input_Rule
 - 計算タイプ: Input
 - Input_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Input_Component
 - 計算タイプ: Input
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub NoInput

- ルールセット
 - 名前: NoInput_Ruleset
 - 計算タイプ: NoInput
 - NoInput_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: NoInput_Rule
 - 計算タイプ: NoInput
 - NoInput_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: NoInput_Component
 - 計算タイプ: NoInput
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Transactions

- ルールセット
 - 名前: Transactions_Ruleset
 - 計算タイプ: Transactions

- Transactions_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Transactions_Rule
 - 計算タイプ: Transactions
 - Transactions_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Transactions_Component
 - 計算タイプ: Transactions
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub EquityPickUp

- ルールセット
 - 名前: EquityPickUp_Ruleset
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - EquityPickUp_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: EquityPickUp_Rule
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - EquityPickUp_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: EquityPickUp_Component
 - 計算タイプ: EquityPickUp
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Allocate

- ルールセット
 - 名前: Allocate_Ruleset
 - 計算タイプ: Allocate
 - Allocate_Rule というルールを含む
- ルール
 - 名前: Allocate_Rule
 - 計算タイプ: Allocate
 - Allocate_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Allocate_Component
 - 計算タイプ: Allocate

- スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

Sub Generic

- ルールセット
 - 名前: Generic_Ruleset
 - 計算タイプ: Generic
 - <メジャーではない sub の名前>_Rule という 1 つ以上のルールを含む
- ルール
 - 名前: <メジャーではない sub の名前>_Rule
 - 計算タイプ: Generic
 - <メジャーではない sub の名前>_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: <メジャーではない sub の名前>_Component
 - 計算タイプ: Generic
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

SUB Global

- ルールセット
 - 名前: Global_Ruleset
 - 計算タイプ: Global
 - Global_Rule という 1 つ以上のルールを含む
- ルール
 - 名前: Global_Rule
 - 計算タイプ: Global
 - Global_Component というスクリプト・コンポーネントを含む
- スクリプト・コンポーネント
 - 名前: Global_Component
 - 計算タイプ: Global
 - スクリプト・コンポーネントの対応する Visual Basic スクリプト・ステートメントを含む

▶ Financial Management から Calculation Manager にビジネス・ルールを移行するには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、「ファイル」、「インポートの順に選択します。以前のリリースから Financial Management オブジェクトを Calculation Manager に移行するには、ファイルに

インポートする必要があります。449 ページの「ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート」を参照してください。

ファイル内のすべての SUB ステートメントをルールセット、ルールおよびスクリプト・コンポーネントに変換し、Calculation Manager に移行すると、Calculation Manager に計算オブジェクトが表示されます。

スクリプト・コンポーネントをグラフィカル・オブジェクトに変換する場合は、ルール・デザイナーで新規ビジネス・ルールおよび式コンポーネントを作成できます。グラフィカル・ルールおよびスクリプト・コンポーネントを組み合わせられます。スクリプト・コンポーネントをグラフィカル・オブジェクトに変換しない場合は、Calculation Manager に移行した後に配置できます。

16

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポートおよびインポート

この章の内容

エクスポートおよびインポートについて.....	447
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポート.....	447
アプリケーションのエクスポート.....	449
ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート.....	449

エクスポートおよびインポートについて

Calculation Manager 内で、Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションのすべてのオブジェクトをエクスポートできます。また、アプリケーション内の個別のビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式コンポーネントおよびスクリプト・コンポーネントもエクスポートできます。

アプリケーションおよびオブジェクトは、エクスポート後に、Calculation Manager 内の他の Financial Management、Planning または Essbase アプリケーションにインポートできます。たとえば、ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットを、運用コンピュータの Financial Management アプリケーションからエクスポートし、それらをテスト・コンピュータの別の Financial Management アプリケーションにインポートできます。

Oracle Hyperion(R) Business Rules からビジネス・ルール、シーケンス、マクロおよび変数をエクスポートし、Calculation Manager にインポートすることもできます。

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのエクスポート

オブジェクトは、Calculation Manager 内の任意のビュー(システム・ビュー、カスタム・ビューおよび配置ビュー)からエクスポートできます。アプリケーション、オブジェクト、または複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、Calculation

Manager 内の他のアプリケーションにインポートできる xml ファイルにエクスポートされます。

注： Calculation Manager からは、1 つ以上のオブジェクトをエクスポートできません。

▶ Calculation Manager からオブジェクトをエクスポートするには:

1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。

2 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプまたは Planning アプリケーション・タイプおよびエクスポートするオブジェクトを含むアプリケーションを展開します。

3 次のいずれかを行います:

- **Financial Management ユーザーのみ:** Financial Management のルールセットをエクスポートするには、計算タイプおよびエクスポートするルールセットを含むルールセットを展開します。
- **Planning ユーザーのみ:** Planning のルールセットをエクスポートするには、ルールセットを展開します。
- ルール、式、スクリプトまたはテンプレートをエクスポートするには、計算またはプラン・タイプを展開し、次にルール、式、スクリプトまたはテンプレートを展開します。

4 次のいずれかを行います:

- オブジェクトを 1 つだけエクスポートする場合は、右クリックしてエクスポートを選択します。
- 複数のオブジェクトをエクスポートする場合は、エクスポートするオブジェクトを選択し、右クリックしてエクスポートを選択します。[Shift] キーを押しながらクリックまたは [Ctrl] キーを押しながらクリックし、異なる計算またはプラン・タイプ、異なるオブジェクト・タイプ(ビジネス・ルール、式など)、およびアプリケーション・タイプ(Financial Management または Planning)内の異なるアプリケーションにある隣接または隣接していない複数のオブジェクトを選択します。

「エクスポート」を選択した後に、生成された.xml ファイルを開くか、または保存するかを確認するメッセージが表示されます。

5 ファイルのダウンロードで、次のいずれかを行います:

- 生成された.xml ファイルのコンテンツを表示する場合は、開くを選択します。
- 生成された.xml ファイルを表示せずに保存する場合は、保存を選択し、ファイル名を入力し(またはデフォルト名を受け入れる)、再び保存をクリックします。

アプリケーションのエクスポート

Calculation Manager から 1 つ以上のアプリケーションをエクスポートできます。アプリケーションをエクスポートする場合は、アプリケーションのコンテンツが xml ファイルに保存されます。

- ▶ アプリケーションをエクスポートするには:
- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
 - 2 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプまたは Planning アプリケーション・タイプを展開します。
 - 3 次のいずれかを行います:
 - アプリケーションを 1 つだけエクスポートする場合は、右クリックしてエクスポートを選択します。
 - 複数のアプリケーションをエクスポートする場合は、エクスポートするアプリケーションを選択し、右クリックしてエクスポートを選択します。[Shift] キーを押しながらクリックまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックし、同じアプリケーション・タイプ(Financial Management または Planning)内の隣接または隣接していない複数のアプリケーションを選択します。

「エクスポート」を選択した後に、生成された.xml ファイルを開くか、または保存するかを確認するメッセージが表示されます。
 - 4 ファイルのダウンロードで、次のいずれかを行います:
 - 生成された xml ファイルのコンテンツを表示する場合は、開くを選択します。
 - 生成された xml ファイルのコンテンツを表示せずに保存する場合は、保存を選択し、ファイル名を入力し(またはデフォルト名を受け入れる)、再び保存をクリックします。

ビジネス・ルール、ビジネス・ルールセット、テンプレート、式およびスクリプト・コンポーネントのインポート

Business Rules(『Hyperion Business Rules 管理者ガイド』を参照)からオブジェクトをエクスポートし、Calculation Manager からオブジェクトおよびアプリケーションをエクスポートした後は、Calculation Manager 内の他のアプリケーションにそれらをインポートできます。Calculation Manager にオブジェクトをインポートするためのファイルの種類は、次のいずれかにする必要があります:

- .xml。Calculation Manager のオブジェクトを xml フォーマットで格納するファイル
- **Planning ユーザーのみ:** .csc。Calculation Manager のオブジェクトを Oracle Essbase 計算スクリプト・フォーマットで格納するファイル
- **Financial Management ユーザーのみ:** .cmo。Calculation Manager のオブジェクトを ASCII テキスト・フォーマットで格納するファイル

- **Financial Management ユーザーのみ:** .rle。Calculation Manager のオブジェクトを Visual Basic フォーマットで格納するファイル

▶ Calculation Manager にオブジェクトをインポートするには:

- 1 EPM Workspace にログオンし、Calculation Manager を起動します。226 ページの「[EPM Workspace へのログオンおよび Calculation Manager へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 システム・ビューで、Financial Management アプリケーション・タイプまたは Planning アプリケーション・タイプを展開します。
- 3 オブジェクトをインポートするアプリケーションを選択します。
- 4 ファイル]、「インポートの順」を選択します。
- 5 インポートで、インポートするファイルを入手または選択します。
- 6 詳細の更新をクリックして、ファイルをインポートする Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition または Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプを入力します。
 - .csc ファイルの場合は、場所の詳細を入力する必要があります。
 - .xml ファイルの場合、場所の詳細はインポート・ファイル自体にあるので、場所の詳細を入力する必要はありません。
 - .rle ファイルで場所の詳細を入力した場合は、'app_name=Statutory のように、'app_name=<アプリケーション名>というキーワードを.rle ファイルの最初の行に記述する必要があります。
 - .cmo ファイルの場合、アプリケーションの情報はキーワードに含まれます。

注: 「詳細の更新」を使用してファイルをインポートするアプリケーションおよび計算またはプラン・タイプを入力する場合は、この場所によって、インポート・ファイル自体の場所が上書きされます。インポート・ファイルに場所情報が含まれていない場合は、「詳細の更新」を使用して場所情報を入力する必要があります。場所情報がなければ、インポートは失敗します。

- 7 インポート・オプションで、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 既存のオブジェクトを上書き: インポートするオブジェクトは、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプのオブジェクトを置換します。
 - 既存のオブジェクトをスキップ: インポートするオブジェクトは、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプのオブジェクトに追加されます。
 - 重複のエラー出力: インポートするオブジェクトが、アプリケーションおよび計算またはプラン・タイプにすでに存在するオブジェクトと重複する場合、重複するオブジェクトの名前がログ・ファイルに記述され、オブジェクトはインポートされずに、インポート・プロセスが停止します。
- 8 インポートをクリックします。

第IV部

データの同期

データの同期の内容：

- [データの同期](#)

この章の内容

データの同期の理解	453
データの同期.....	454
次元のマッピング	460
マッピングの操作	465
データ・シンクロナイザの操作	471

データの同期の理解

データの同期によって、Hyperion アプリケーション、インタフェース・テーブルおよび外部ファイル間でデータを同期およびマップできます。

データの同期モジュールによって使用可能になるタスクは、次のとおりです：

- 同期の作成および変更
- ソースおよび宛先のアプリケーションまたはファイルの選択(外部ソースはソースのみ)
- ソースおよび宛先間のマッピングの定義
- 同期の検証
- 同期の実行
- 同期アクティビティのログの表示

データの同期モジュールによって、Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)を宛先として、次のソースとの間の同期を作成できます：

- Financial Management
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Essbase BSO
- 外部ソース(フラット・ファイル)
- インタフェース・テーブル

データの同期

Performance Management Architect によって、次の3つの場所のデータを同期できます:

- アプリケーション・ライブラリ(454 ページの「アプリケーション・ライブラリにおけるアプリケーションの同期」)
- データ・フロー(202 ページの「データ・フローの表示」)
- データ・シンクロナイザ(454 ページの「データ・シンクロナイザにおけるアプリケーションの同期」)

Hyperion アプリケーションのソースとしての使用方法

アプリケーションは、アプリケーション・ライブラリまたはデータ・シンクロナイザで同期できます。

アプリケーション・ライブラリにおけるアプリケーションの同期

2つのアプリケーションが選択され、「統合の作成」アクセス役割に自身のユーザー名が割り当てられている場合、アプリケーション・ライブラリでアプリケーションを同期できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

▶ アプリケーション・ライブラリでデータを同期するには:

- 1 ソース・アプリケーションを選択します。
- 2 [Ctrl]キーを押しながら宛先アプリケーションを選択します。
- 3 右クリックして同期を選択します。

注: Planning アプリケーションを同期する場合は、プラン・タイプを選択することを求めるプロンプトが表示されます。

次元マッピングが表示されます。460 ページの「次元のマッピング」を参照してください。

データ・シンクロナイザにおけるアプリケーションの同期

▶ データ・シンクロナイザでデータを同期するには:

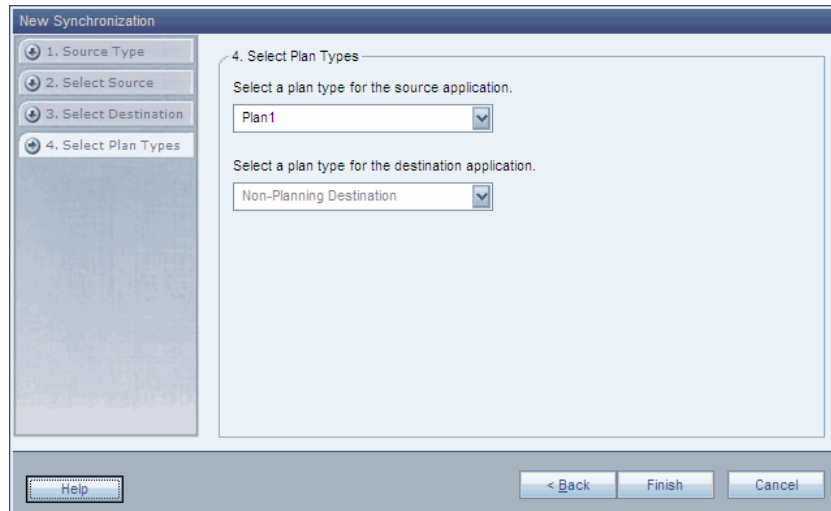
- 1 ナビゲート、管理、データの同期の順に選択します。
- 2 ファイル、新規、同期の順に選択します。
「新規同期」ウィザードが表示されます。
- 3 Hyperion アプリケーションを選択し、次へをクリックします。

4 ソース・アプリケーションを選択し、次へをクリックします。

5 次のいずれかのアクションを行います:

- 2つの Financial Management アプリケーションを同期する場合は、終了をクリックし、手順6から手順8をスキップします。
- Planning のソースまたは宛先のアプリケーションを同期する場合は、次へをクリックします。

「プラン・タイプの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

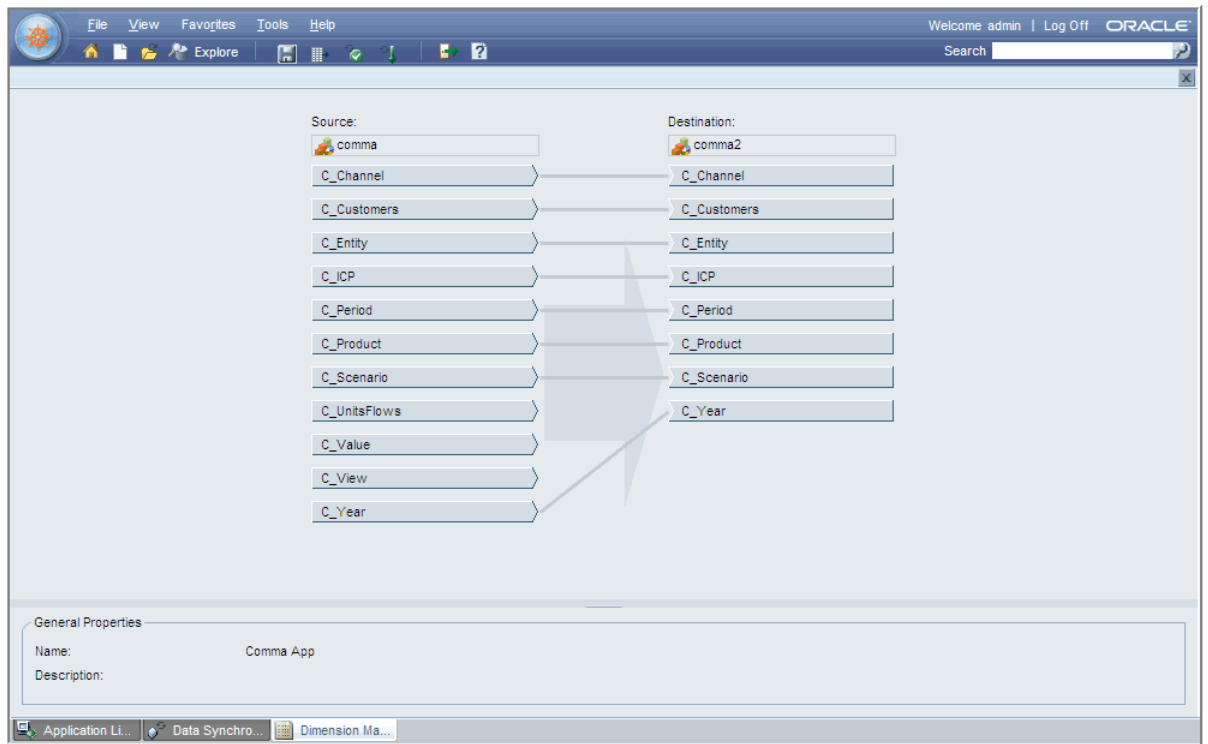



The screenshot shows a dialog box titled "New Synchronization". On the left, there is a vertical list of steps: "1. Source Type", "2. Select Source", "3. Select Destination", and "4. Select Plan Types". Step 4 is highlighted. The main area of the dialog is titled "4. Select Plan Types" and contains two sections. The first section is "Select a plan type for the source application." with a dropdown menu showing "Plan1". The second section is "Select a plan type for the destination application." with a dropdown menu showing "Non-Planning Destination". At the bottom of the dialog, there are four buttons: "Help", "< Back", "Finish", and "Cancel".

データはプラン・タイプ間で共有できます。たとえば、収益プランには、製品販売合計勘定科目に連結できる一連の販売詳細勘定科目を含められます。P & L プランを作成して製品販売合計勘定科目を含め、一連の販売詳細勘定科目を省略することもできます。このようにして、勘定科目の詳細を記載せずに製品販売合計のデータ値を P & L プランに集約し、P & L プランのデータベースを小さく効率的にできます。

6 プラン・タイプを選択し、終了をクリックします。

次元マッピングが表示されます。



7  をクリックします。

「データの同期の保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

8 名前および説明を入力し、OK をクリックします。

同期を保存した後に、次元をマップできます。460 ページの「次元のマッピング」を参照してください。

複数通貨の Planning アプリケーションの同期

複数通貨の Planning アプリケーションを同期できます。

たとえば、Financial Management の値(ソース)を HSP_Rates(宛先)にリンクするとします。Financial Management が生成する各行に対して、Planning に 2 行が戻されます。

この例では、Financial Management の次に示す行

```
Account, Entity, Period, Scenario, Year, Value "NetProfit", "UnitedStates.Massachusetts", "January", "Actual", "2006", "USD", 10.0
```

は、次のように変換されます。

```
Account, Entity, Period, Scenario, Year, Currency,
HSP_Rates "NetProfit", "UnitedStates.Massachusetts", "January", "Actual", "2006", "Local", "HSP_InputValue", 10.0
0 "NetProfit", "UnitedStates.Massachusetts", "January", "Actual", "2006", "Local", "HSP_InputCurrency", USD
```

逆の場合も同様に動作します。Planning アプリケーションから連結アプリケーションに同期し、HSP_Rates から連結値にマップする場合は、2 行が 1 行にマージされ

ます(上記の例の逆)。それ以外の場合、行は変更されずにソースから宛先に送信されます(メタデータおよびデータ換算後)。

注： 新規行の生成または元の行のマージは、データが宛先に送信される前に即座に実行されます。すべてのメタデータおよびデータの変換は、行の自動生成またはマージの前に実行されます。

- ▶ マルチ通貨アプリケーションを同期するには、HSP_Rates 次元を右クリックし通貨メンバーの生成を選択します。

アプリケーションをマルチ通貨の Planning アプリケーションと同期して HSP_Rates 次元がリンクされた場合、HSP_Rates 次元の右クリック・メニューに「通貨メンバーの生成」が表示されます。

注： マルチ通貨アプリケーションの同期は、1 対 1 マッピングで実行でき、HSP_Rates が複数の次元にリンクされている場合は実行できません。

Financial Management を Planning にマッピングする場合は、Financial Management の値次元を Planning の HSP_Rates にマップし、デフォルト・メンバーの「ローカル」を通貨次元に割り当てる必要があります。

Hyperion データ・インタフェース・テーブルをソースとして使用

インタフェース・テーブルによって、データベース操作(SQL ロードまたは Hyperion データ統合製品の活用)を通じて Hyperion スキーマに情報を提供できます。インタフェース・テーブルに情報を保管した後に、データ同期で提供される標準のマッピングとロードのメカニズムを使用して、情報をそれぞれの Hyperion 製品に送れます。インタフェース・テーブルは、フラット・ファイルのロードのためにテキスト・ファイルを事前にフォーマットする必要がなく、Hyperion 製品スイートに情報を提供する際のリレーショナル・データベースの機能および柔軟性を必要とする場合に役立ちます。次の項では、データ・インタフェース・テーブルをソースとして使用方法の詳細を説明します：

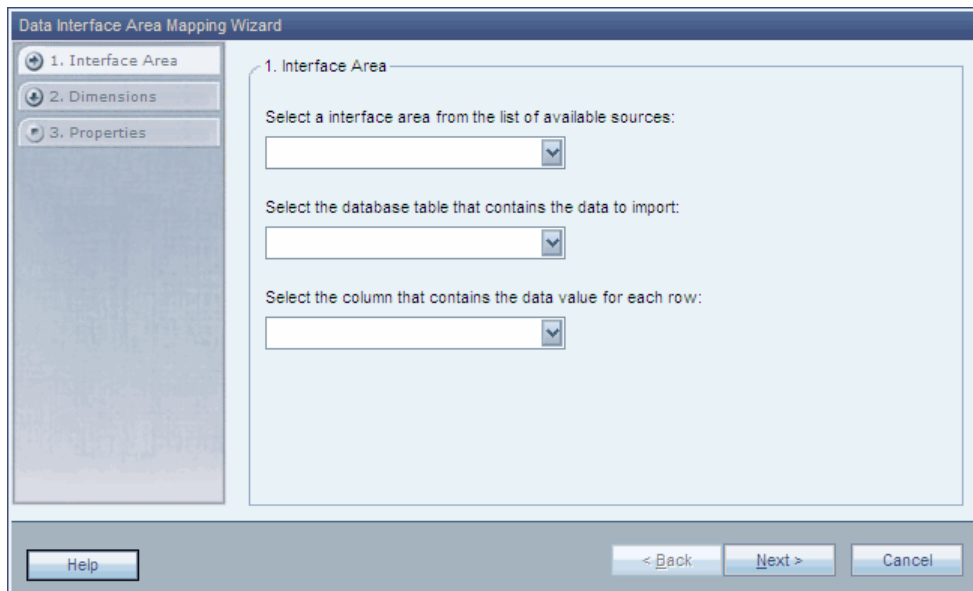
- [457 ページの「インタフェース領域の定義」](#)
- [458 ページの「同期の作成」](#)

インタフェース領域の定義

インタフェース領域をソースとして使用して同期を作成する前に、インタフェース領域を作成する必要があります。

- ▶ インタフェース領域を作成するには：

- 1 ファイル、新規、データ・インタフェース領域定義の順に選択します。



- 2 インタフェース・テーブル・ソース、インポートするデータを含むデータベース・テーブル、および各行のデータ値を含む列を選択し、次へをクリックします。
- 3 左の列を選択し、右に次元名を入力して次元を定義します。
たとえば、Col1 が左に表示され、右に Scenario という次元名を入力します。

ヒント：  をクリックして列を除去します。

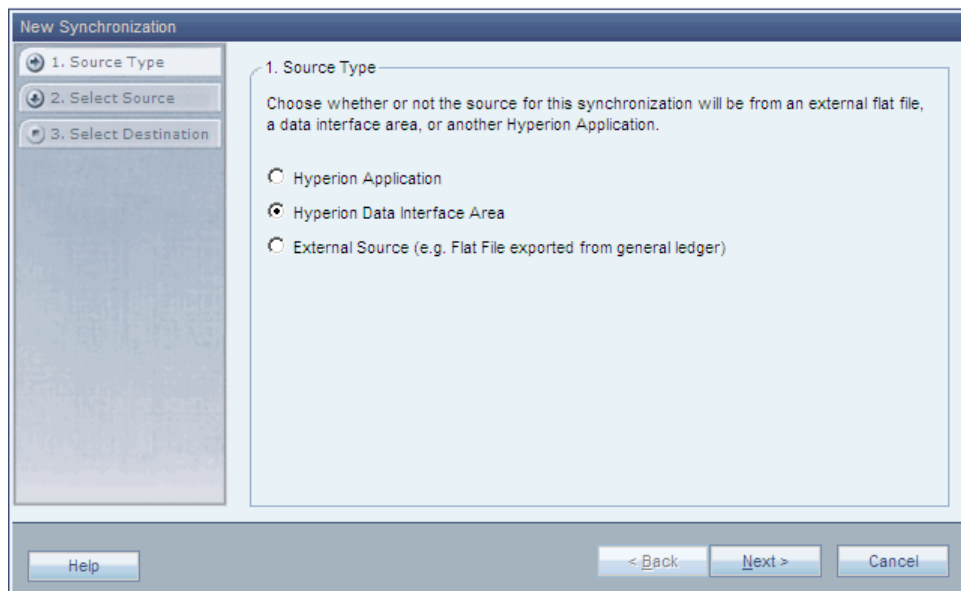
- 4 次へをクリックします。
- 5 インタフェース・テーブル名および説明を入力し、終了をクリックします。

同期の作成

インタフェース領域を作成したら、そのインタフェース・テーブルをソースとして使用する同期を作成できます。

注： インタフェース・テーブルをソースとして使用して同期を作成する前に、インタフェース・テーブルを定義する必要があります。457 ページの「[インタフェース領域の定義](#)」を参照してください。

- ▶ 同期を作成するには:
 - 1 データ・シンクロナイザで、ファイル、新規、同期の順に選択します。
 - 2 Hyperion データ・インタフェース領域を選択します。



- 3 次へをクリックします。
- 4 ソース(インタフェース領域、インポートするデータベース・テーブル、および各行のデータを含む列)を選択し、次へをクリックします。
- 5 列を選択し、次元名を入力して次元を定義し、次へをクリックします。
- 6 インタフェース領域の名前および説明(省略可能)を入力し、終了をクリックします。

外部ファイルのソースとしての使用方法

データ同期のソースとして使用する外部ファイルを定義できます。データ同期は、最後の列にデータを格納する区切りファイルをサポートし、固定長フィールドはサポートしていません。フラット・ファイルのソースに関するすべてのマッピング・ルールおよびフィルタを入力する必要があります。

外部ファイルをソースとして使用する同期を作成する前に、外部ファイルを定義する必要があります。

▶ 外部ファイルを定義するには:

- 1 ファイル、新規、外部のファイル定義の順に選択します。

「外部ファイル・マッピング・ウィザード」が表示されます。


- 2 次のすべてのアクションを実行します:

- 外部ファイルのフィールドを区切り文字である**区切り記号**を選択します。ファイルの区切り文字として、セミコロン(;)、カンマ(,)、スペース、またはタブを使用できます。「その他」フィールドを使用して区切り文字を指定することもできます。
- テキスト値を識別する文字である**引用符文字**を選択します。たとえば、引用符文字が二重引用符(")の場合は、すべてのメンバーを二重引用符で囲む必要があります。二重引用符で囲まれていないテキスト値があると、エラーを戻します。

- スキップするヘッダー行の数を入力します。たとえば、外部ファイルには、名前、住所、都市、都道府県、郵便番号など、スキップするヘッダーがある場合があります。

3 次へをクリックします。

4 アクションを実行してファイルをプレビューする:

-  をクリックし、「参照」をクリックし、ファイルを選択し、「アップロード」をクリックします。

「プレビューするファイル URL の指定」を選択し、file:///c:/data/previewfile.csv などの URL を入力します。

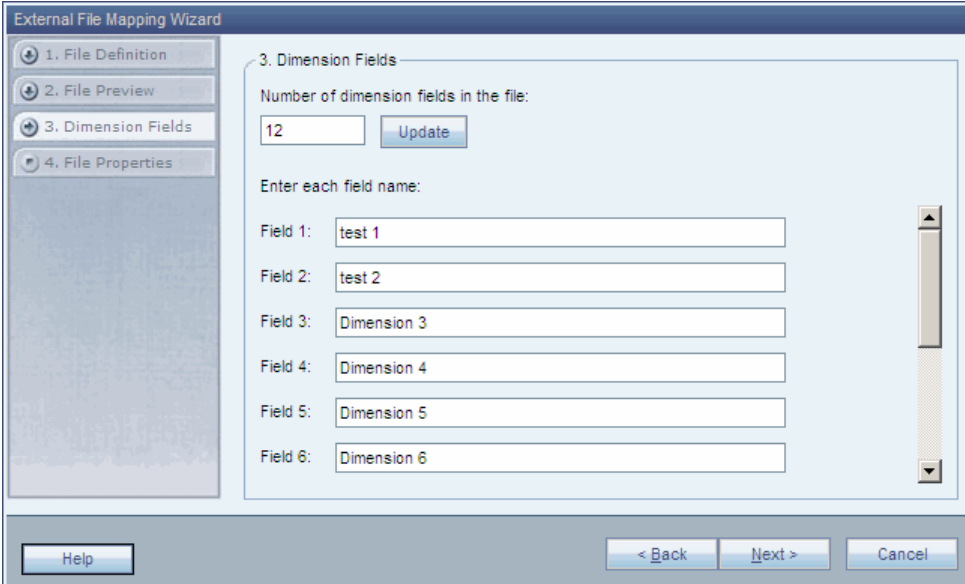
外部ファイルのフォーマットを指定するので、フォーマットは固定されていませんが、次のルールに従う必要があります:

- すべての行に同じ数の列を含める必要があります。
- すべての行には、各次元に対するメンバー値(空ではない)が必要です。
- すべての行の最後の列は交差値(テキストまたは数値)にする必要があります。

5 サンプル・ファイルのプレビューをクリックします。

ファイルをプレビューするときはウィザードで指定するオプションが適用されるので、オプションがどのようにデータに影響するかを確認できます。

6 次へをクリックします。



7 ファイルの次元の数を入力し、更新をクリックします。

8 各次元の名前を入力し、次へをクリックします。

9 外部ファイルの名前と説明(省略可能)を入力し、終了をクリックします。

次元のマッピング

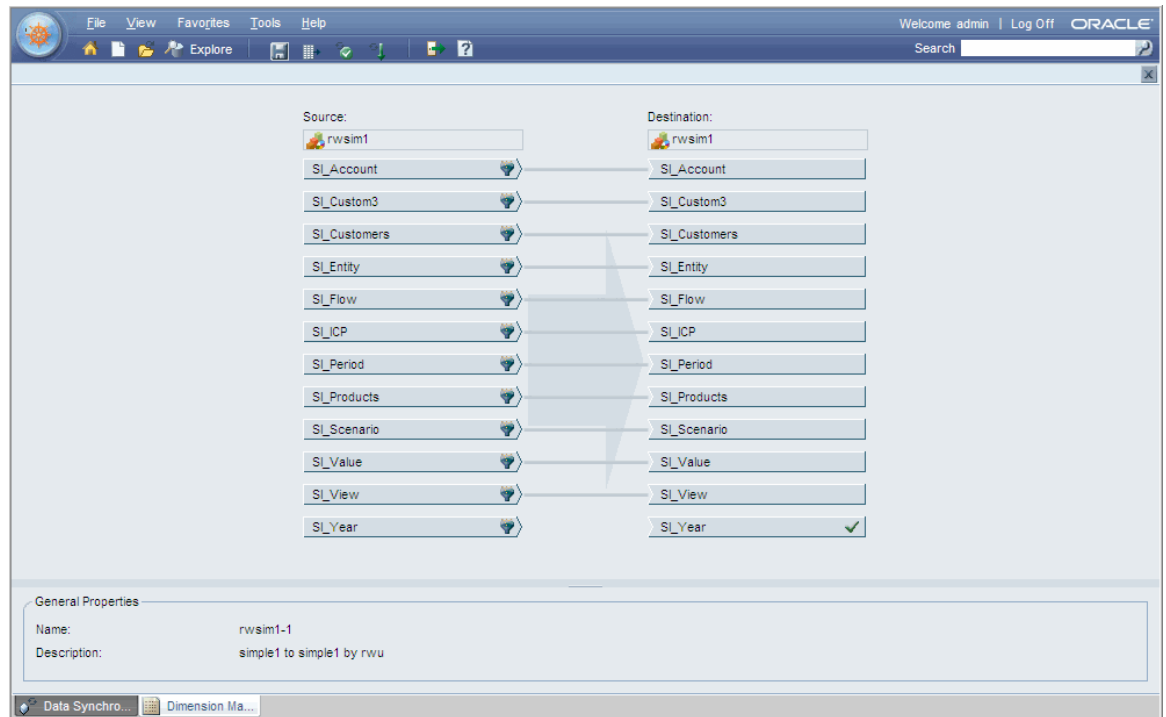
同期を作成した後は、同期がすべての関連要素を認識できるように、各ソースおよび宛先に対応する次元をマップする必要があります。同期の詳細を定義すると

きはリンクを作成するか、または定義済のマッピング・テーブルを活用するか、またはマップする必要がない次元にデフォルト値を割り当てられます。

▶ 次元をマップするには:

- 1 新規同期を作成する場合は、次元マッピングが自動的に表示されます。それ以外の場合に次元マッピングにアクセスするには、データ・シンクロナイザで同期を右クリックし、編集をクリックします。

次元マッピングが表示されます。



次元マッピングを使用して、ソースおよび宛先の次元間のリンクを作成、変更、または削除できます。データ同期は、アプリケーション間の一般的な次元を自動的にリンクします。ソースおよび宛先の次元間のリンクは、ドラッグ・アンド・ドロップを使用して動的に作成または変更できます。

- 2 アクションを実行することによって、次元のソースおよび宛先間にリンクを作成する:
 - マップする次元をドラッグします。たとえば、ソース・アプリケーションの勘定科目次元を宛先アプリケーションの勘定科目次元にドラッグできます。
 - ソース次元を右クリックし、「新規リンクの開始」を選択します。宛先次元を右クリックし、「リンクの終了」を選択します。

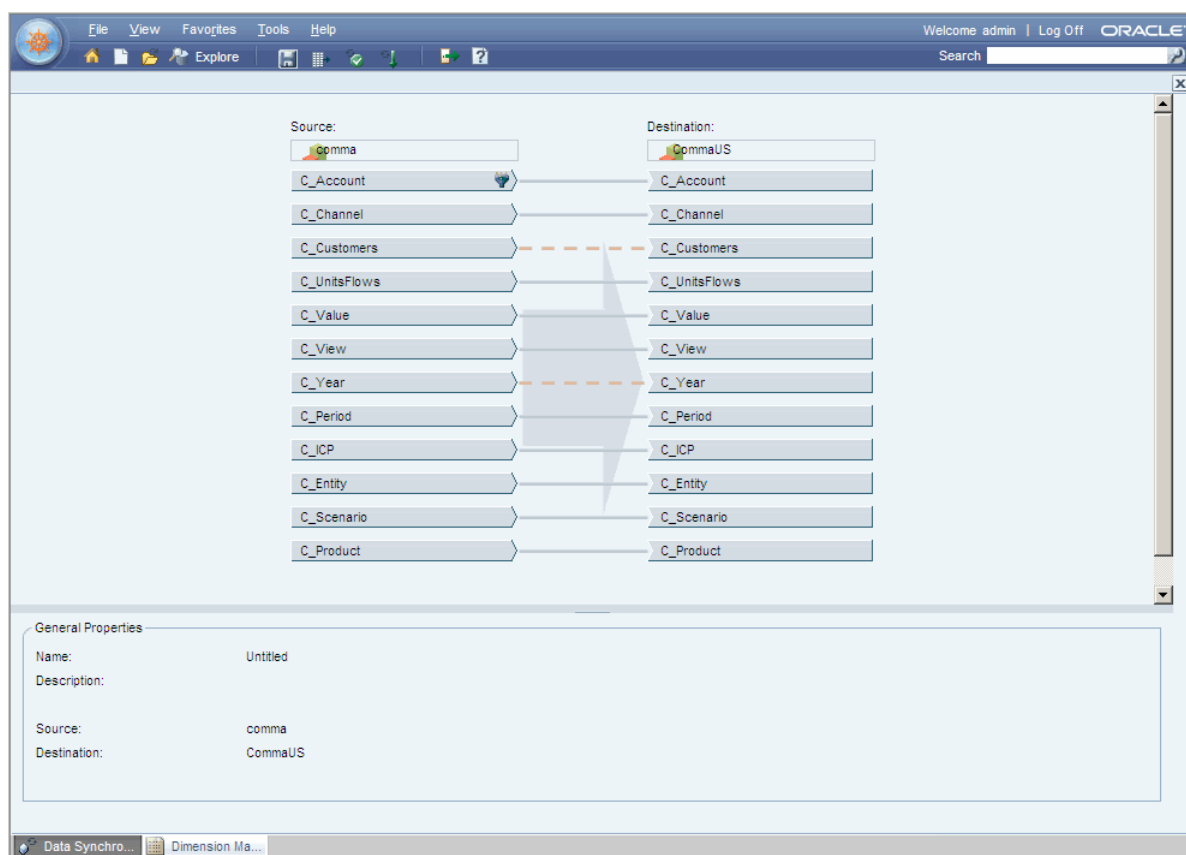
注： ソースおよび宛先の次元間には、1対1、1対多、または多対1のリレーションシップを作成できます。

リンクは静的にすることもできますが、マッピング・テーブルをリンクに適用して、2つの次元間のリレーションシップをさらに細かく定義することもできます。[466 ページの「次元マッピングでのマッピング・テーブルの作成」](#)を参照してください。

線の種類は、ソースおよび宛先の次元間のリレーションシップを表す:

- **実線** - マッピング・テーブルは割り当てられません。実線は、1対1および1対多のマッピングで有効です。
- **点線** - マッピング・テーブルは、リレーションシップに関連付けられます。[466 ページの「次元マッピングでのマッピング・テーブルの作成」](#)を参照してください。

次の図に、1対1マッピングおよびマッピング・テーブルを含む2つのマッピングの同期を示します。



リンクは対話型で、リンクを選択すると、リンクされた次元間に定義されているリレーションシップの要約が表示されます。要約には、次の内容が含まれます:

- ソース次元
- 宛先次元
- リレーションシップ型(1対1またはマッピング・テーブルが定義されたメンバー・リレーションシップ)
- フィルタ要約
- デフォルト・メンバー選択

3 省略可能: リンクを除去する場合は、リンクを右クリックし、リンクの除去を選択します。

マッピングを定義した後に、次元をフィルタし、マッピングを定義し、デフォルト・メンバーを割り当てることもできます。終了したら、同期を保存する必要があります。[463 ページの「次元のフィルタ処理」](#)、[466 ページの「次元マッピング」](#)

でのマッピング・テーブルの作成」、464 ページの「デフォルト・メンバーの割当て」および465 ページの「同期の保存」を参照してください。

次元のフィルタ処理

次元間でリレーションシップを作成するときは、ソース・アプリケーションで使用できるメンバー・セットを制限することもできます。同期の実行時に、ソースと宛先のメンバーにフィルタを適用します。フィルタ処理が必要になるインスタンスがあります。たとえば、1月から2月への期間のマッピングで、ソースの Entity_1 から宛先の Entity_2 にデータを移動する場合、ソースのフィルタは、1月のデータのみを抽出する必要があります。そうしなければ、結果は予測できなくなります。

フィルタ処理の制約:

- フラット・ファイルでは、フィルタはサポートされません。
- インタフェース・テーブルに対する関数フィルタはサポートされません。ただし、EQUAL および LIKE はサポートされます。

▶ 次元をフィルタするには:

1 次元を右クリックし、フィルタの作成を選択します。

「フィルタ条件」ダイアログ・ボックスが表示されます。




2 フィルタ、EQUAL、LIKE、または FUNCTION を選択します。

注： Actual; Budget のように、各エントリをセミコロンで区切ると、複数のフィルタを作成できます。

- EQUAL - シナリオ次元の実績などの任意の有効なメンバー。
- LIKE - フィルタに次のようなワイルドカードを使用します:
 - 複数の文字には*(文字列の末尾には*ワイルドカード文字のみを使用します)
 - 単一文字には?
たとえば、?ctual は Actual に一致し、*tual は Actual に一致します。
- FUNCTION - 次元の基本レベル・メンバーを取得する BottomOfHierarchy() などの有効なメンバー選択関数を使用します。Performance Management Architect がサポートする関数のリストについては、付録 G 「メンバー・クエリー関数」を参照してください。

3 フィルタ条件にするメンバーを入力するか、または をクリックします。

メンバー・セレクタが表示されます。

- 4 フィルタ条件にする複数のメンバーを入力し、 をクリックしてから OK をクリックします。

注： 複数の関数はサポートされていません。

「フィルタ条件」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 5 OK をクリックします。

フィルタを次元マッピングに適用すると、次元の横にファンネルが表示されます。

デフォルト・メンバーの割当て

宛先アプリケーションの次元にリレーションシップが定義されていない場合、リンク・プロセスを完了するために1つのメンバーを指定する必要があります。このメンバーは、同期の実行時に各データ・ポイント交差を完了するために使用します。

▶ デフォルト・メンバーを割り当てるには:

- 1 デフォルト・メンバーを割り当てる宛先アプリケーションで、マップされていない次元を右クリックします。
- 2 デフォルト・メンバーの割当てを選択します。
メンバー・セレクタが表示されます。
- 3 デフォルトとして割り当てるメンバーを選択し、OK をクリックします。


デフォルト・メンバーの次元の横に緑のチェックマークが表示されます。

注： デフォルト・メンバーを除去するには、デフォルト・メンバーを含む次元を右クリックし、「デフォルト・メンバーの除去」を選択します。

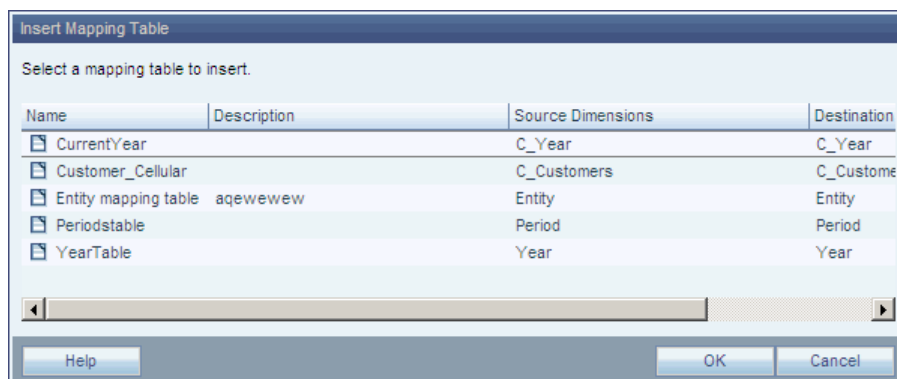
マッピング・テーブルの挿入

マッピング・テーブルは、データ同期で再利用できるマッピングです。作成したマッピング・テーブルは、同期に挿入できます。マッピング・テーブルの作成については、[465 ページの「マッピングの操作」](#)を参照してください。

▶ マッピング・テーブルを挿入するには:

- 1  をクリックします。

「マッピング・テーブルの挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 挿入するマッピング・テーブルを選択して、OK をクリックします。

マッピング・テーブルを次元マッピングで使用する場合、リンクは点線になります。


マッピングの編集

既存のマッピング・テーブルを編集している場合、マッピング・テーブル・デザイナーには、ソース・アプリケーション、宛先アプリケーションおよびマップされた次元リレーションシップが表示されます。

- ▶ マッピングを編集するには:
 - 1 マッピング(点線のリンク)を右クリックします。
 - 2 マッピングの編集を選択します。
マッピング・テーブル・デザイナーが表示されます。
 - 3 マッピングを編集します。次へをクリックして画面を順次移動し、終了をクリックします。

同期の保存

同期を検証および実行する前に、保存する必要があります。

- ▶ 同期を保存するには:
 - 1 「次元マッピング」で  をクリックします。
「データの同期の保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 名前および説明を入力し、OK をクリックします。

マッピングの操作

マッピング・テーブルを使用して、次元間のリレーションシップを定義できます。マッピングは、一度マッピングを定義して複数の同期で再利用できるシナリオで使用します。

マッピング・テーブルを作成する場合は、複数のソース・アプリケーションの次元を選択できますが、宛先アプリケーションの次元は1つしか選択できません。表示されるリレーションシップは、ソース次元のメンバーが宛先次元のメンバーとして使用されることを示します。1対1、1対多および多対1のリレーションシップを定義できます。データの同期は、次の内容を活用します:

- 簡単な変換または複雑な変換を実行するためのマッピング・テーブルおよび
- 外部ソースまたはアプリケーションからアプリケーションにマップする変換エンジン

マッピング・テーブル・デザイナーを使用して、マッピング・テーブルを作成します。466 ページの「次元マッピングでのマッピング・テーブルの作成」および469 ページの「データ・シンクロナイザでのマッピング・テーブルの作成」を参照してください。

マッピング・テーブルは、データ・シンクロナイザで編集できます。473 ページの「マッピング・テーブルの編集」を参照してください。

次元マッピングでのマッピング・テーブルの作成

ここでは、次元マッピングで次元をリンクする際にマッピングを定義する方法を順を追って説明します。ソースおよび宛先アプリケーションは自動的に選択されるので、マッピング・テーブル・デザイナーの最初の画面はスキップされます。

▶ 次元をマップする際に、マッピング・テーブルを作成するには:

1 次元マッピングで、リンクを右クリックし、マッピングの定義を選択します。

マッピング・テーブル・デザイナー(データのマップ)が表示されます。

各行は、ソースと宛先のアプリケーション次元間でのマッピング・ルールを表します。セルをダブルクリックして、セルに値を直接入力するか、セルをクリックして「メンバーの選択」を選択してメンバーを選択します。

ソース値をセルに直接入力する場合は、ワイルド・カードおよびインディケータとして記号を使用できます。

表 35 ソース次元のルール構文

記号	使用
*	1 つ以上の文字に一致します。たとえば、Acc*は Acc100、Acc101 などに一致します。
?	1 つの文字に一致します。たとえば、Acc???は Acc100 に一致しますが、Acc1000 には一致しません。
~	文字の範囲に一致します。たとえば、Acc100~Acc200 は、Acc100、Acc101 などの Acc200 までの候補に一致します。両方のフィールドが数値の場合、範囲は数値として評価されます。いずれかのフィールドが英数字の場合、範囲は辞書編集的に評価されます。
¥	次の文字が文字通りに解釈することを示します。たとえば、Acc¥*は正確に Acc*のみに一致します。
^	スペースを表します。 必須 - 先頭および末尾のスペース 省略可能 - 入力の途中に表示されるスペース

記号	使用
{NULL}	空のフィールドに一致します。

宛先次元には、異なるルール構文を使用します。ソースのルール構文では、ルールに適合する交差を定義します。行が換算エンジンを通過するとき、それぞれのソース・ルールに対してメンバーが定義されているルールに適合するかどうかをチェックされます。一致候補が見つかり、宛先ルールがメンバーに適用されません。宛先ルールは、ソース・ルールに一致するメンバーに行われる変更を定義します。宛先次元のルール構文には、次のエントリがあります：

- メンバー名
- リテラル文字列と組み合わせたソース・メンバー名
- ワイルド・カードのコンテンツ

表 36 宛先次元のルール構文

記号	使用
[]	連結できる宛先値。
[フィールド番号]	指定した入力フィールドの値全体を転送します。入力フィールドは、入力フィールドの定義の順序に基づくシーケンス番号によって識別されます。たとえば、[1]は、最初の入力値が出力になることを示します。FY[1][2]は、出力値が入力 1 の値および入力 2 の値を連結した文字列 FY になることを示します。つまり、入力 1 が Years で、入力 2 が Months の場合、結果は FYYearsMonths になります。
[フィールド番号,*]	入力フィールドの*の値になります。たとえば、出力 1 が[1,*]と定義され、入力 1 が 123*と定義されている場合、入力 1 = 123456 の場合、出力 1 = 456 です。
[フィールド番号,*#]	参照される*が入力の最初のインスタンスではない場合に必要フォーマットです。 #は、入力フィールドの*の位置です。 [1,*1]は、[1,*]と同じです。 たとえば、入力 3 = *123*で出力 1 = abc[3,*2]の場合、入力 3 = 91234 で出力 1 = abc4 になります。
[フィールド番号,?]	入力フィールドの?の値になります。たとえば、出力 1 が[1,?]と定義され、入力 1 が 123?と定義されている場合、入力 1 = 123456 の場合、出力 1 = 4 です。
[フィールド番号,?#]	参照される?が入力の最初のインスタンスではない場合に必要フォーマットです。 #は、入力フィールドの?の位置です。 [2,?1]は、[2,?]と同じです。 たとえば、入力 1 = 123?、入力 2 = 4??、および出力 1 = abcd[2,?2]の場合、入力 1 = 1237、入力 2 = 498、出力 1 = abcd8 です。
¥	次の文字が文字通りに解釈されることを示すインディケータです。出力に[または]を使用する場合は、¥が必要です。出力で、[]の定義の内部で¥を使用できません。
^	スペースのインディケータです。 必須 - 先頭および末尾のスペース 省略可能 - 入力の途中に表示されるスペース
{NULL}	空のフィールドを出力するために使用する値です。

2 次のいずれかのアクションを行います:

- ソースには、セルをダブルクリックしてルールを入力します。表 35 で説明されている構文を使用します。(また、セルを選択し、メンバーの選択を選択してから「メンバー・セクタ」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し OK をクリックできます。)
- 宛先には、セルをダブルクリックしてルールを入力します。表 36 で説明されている構文を使用します。(また、セルを選択し、メンバーの選択を選択してから「メンバー・セクタ」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し OK をクリックできます。)

「メンバーの選択」を選択すると、メンバー・セクタで次元内のメンバーを表示して選択できます。「+」および「-」を使用すると、次元内のメンバーを展開および縮小できます。

「メニュー」ボタンを使用すると、メンバー・セクタ内に表示される列を変更できます。

「検索」タブを選択して、名前または説明で検索したり、語句でワイルドカードを使用したりできます。たとえば、勘定科目次元で Asset(資産)メンバーを検索する場合、「名前」を選択して As*と入力して「検索」をクリックすると、「Assets」、「Asset ID」、「Asset Rate」など、As で始まるメンバー名のみが表示されます。

3 必要に応じて、マッピングを変更します:

- テーブルの最後に行を挿入するには、追加をクリックします。
- 行をコピーするには、行を選択して複製をクリックします。
重複行は、テーブルの最後に追加されます。
- 行を削除するには、複数の行を選択して除去をクリックします。
- テーブル内の行を上または下に移動するには、行を選択し、上へ移動または下へ移動をクリックします。

ルールは順番に処理されます。一致候補が見つかり、ルールがメンバーに適用され、処理が完了します(そのメンバーに他のルールは適用されません)。複数のルールに適合するメンバーもあるので、ルールの順序を制御できるようになっています。

- セルを編集するには、セルをダブルクリックするか、または[F2]キーを押します。

ヒント: [Tab]キーを使用すると、テーブル内を移動できます。

4 次へをクリックし、マッピング・テーブルを検証します。

「マッピングの検証」画面には、各行にマッピング・ルールが記述されたテーブルが表示されます。メンバー情報ではなく、構文のみが検証されます。各ルールに合否のマークが付けられます。

5 検証をクリックします。

ヒント: 「すべて表示」をクリックしてすべてのルールを表示するか、または「例外のみ表示」をクリックして、検証を通過していないルールのみを表示します。

- 6 ルールが検証を通過しなかった場合は、戻るをクリックして「データのマップ」ページに戻り、エラーを修正してから次へをクリックして再検証します。
- 7 次へをクリックします。

「マッピング・プロパティ」画面が表示され、そこでマッピング・テーブルの名前および説明を提供します。MAP_などの接頭辞を付けると有効です。
- 8 名前および説明を入力し、終了をクリックします。

名前および説明に制限はありません。

点線は、マッピングが定義されたことを示します。


マッピングは、データ・シンクロナイザにも表示されます。471 ページの「データ・シンクロナイザの操作」を参照してください。


データ・シンクロナイザでのマッピング・テーブルの作成

次の手順では、ソースおよび宛先アプリケーションの選択を含むデータ・シンクロナイザでのマッピング・テーブルの定義について順を追って説明します。

マッピング・テーブルを作成する前に、少なくとも1つのアプリケーションを作成する必要があります。

- ▶ データ・シンクロナイザでマッピング・テーブルを作成するには:
- 1 ファイル、新規、マッピング・テーブルの順に選択します。

マッピング・テーブル・デザイナーが表示されます。
 - 2  をクリックして、ソース・アプリケーションを選択します。

「ソース・アプリケーション」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - 3 ソース・アプリケーションを選択します。アプリケーションが Planning アプリケーションである場合は、プラン・タイプを選択します。次に、OK をクリックします。
 - 4  をクリックして、宛先アプリケーションを選択します。
 - 5 宛先アプリケーションを選択します。アプリケーションが Planning アプリケーションの場合は、プラン・タイプを選択します。次に、OK をクリックします。

プラン・タイプに応じて次元が変更されます。
 - 6 ソースおよび宛先次元を選択し、次へをクリックします。
 - 7 次のいずれかのアクションを行います:
 - ソースには、セルをダブルクリックしてルールを入力します。表 35 で説明されている構文を使用します。(また、セルを選択し、メンバーの選択を選択してから「メンバー・セレクタ」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し OK をクリックできます。)
 - 宛先には、セルをダブルクリックしてルールを入力します。表 36 で説明されている構文を使用します。(また、セルを選択し、メンバーの選択を選択して

から「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し OK をクリックできます。)

「メンバーの選択」を選択すると、メンバー・セレクトで次元内のメンバーを表示して選択できます。「+」および「-」を使用すると、次元内のメンバーを展開および縮小できます。

「メニュー」ボタンを使用すると、メンバー・セレクト内に表示される列を変更できます。

「検索」タブを選択して、名前または説明で検索したり、語句でワイルドカードを使用したりできます。たとえば、勘定科目次元で Asset(資産)メンバーを検索する場合、「名前」を選択して As*と入力して「検索」をクリックすると、「Assets」、「Asset ID」、「Asset Rate」など、As で始まるメンバー名のみが表示されます。

8 必要に応じて、マッピングを変更します:

- テーブルの最後に行を挿入するには、追加をクリックします。
- 行をコピーするには、行を選択して複製をクリックします。
重複行は、テーブルの最後に追加されます。
- 行を削除するには、複数の行を選択して除去をクリックします。
- テーブル内の行を上または下に移動するには、行を選択し、上へ移動または下へ移動をクリックします。
ルールは順番に処理されます。一致候補が見つかり、ルールがメンバーに適用され、処理が完了します(そのメンバーに他のルールは適用されません)。複数のルールに適合するメンバーもあるので、ルールの順序を制御できるようになっています。
- セルを編集するには、セルをダブルクリックするか、または[F2]キーを押します。

ヒント: [Tab]キーを使用すると、テーブル内を移動できます。

9 次へをクリックし、マッピング・テーブルを検証します。

「マッピングの検証」画面には、各行にマッピング・ルールが記述されたテーブルが表示されます。メンバー情報ではなく、構文のみが検証されます。各ルールに合否のマークが付けられます。

10 検証をクリックします。

ヒント: 「すべて表示」をクリックしてすべてのルールを表示するか、または「例外のみ表示」をクリックして、検証を通過していないルールのみを表示します。

11 ルールが検証を通過しなかった場合は、戻るをクリックして「データのマップ」ページに戻り、エラーを修正してから次へをクリックして再検証します。

12 次へをクリックします。

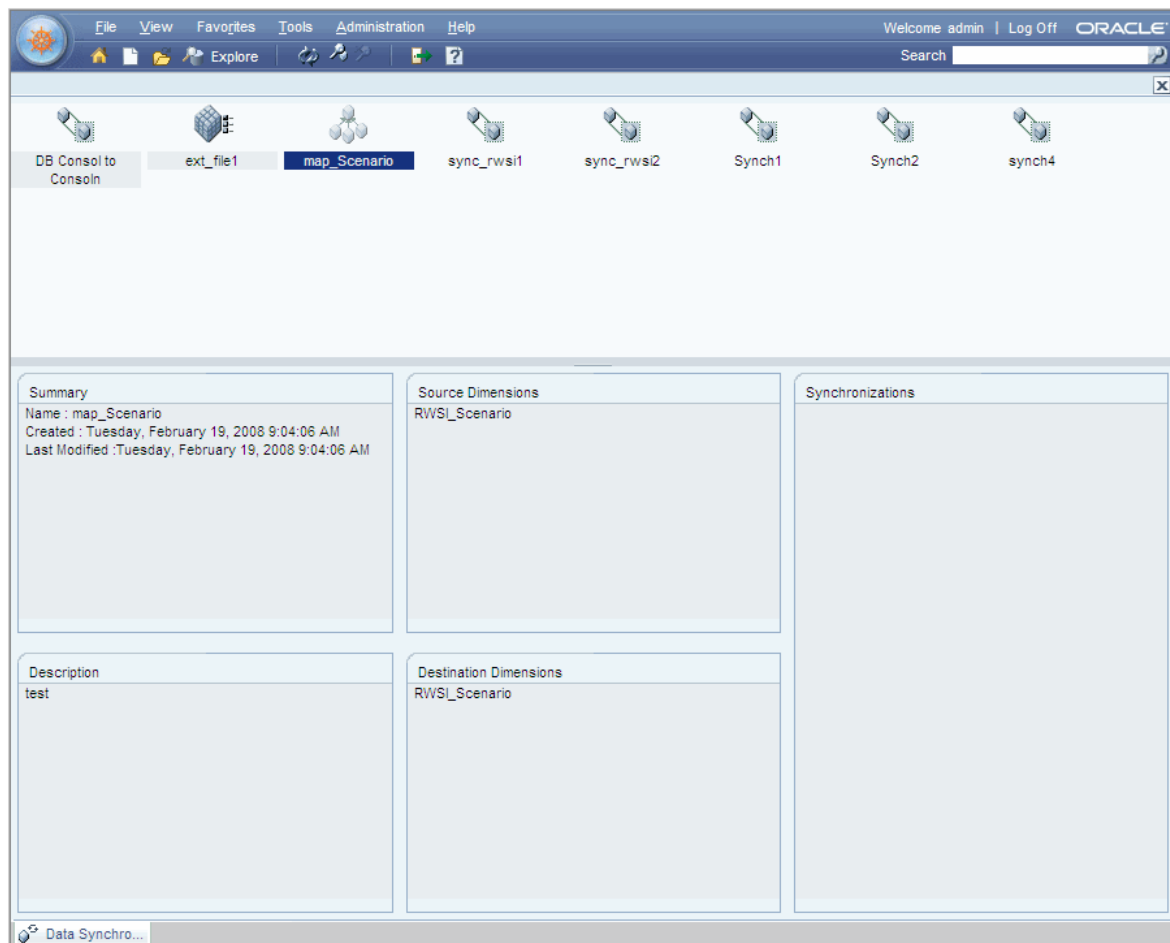
「マッピング・プロパティ」画面が表示され、そこでマッピング・テーブルの名前および説明を提供します。MAP_などの接頭辞を付けると有効です。

13 名前および説明を入力し、終了をクリックします。

データ・シンクロナイザで定義済のすべてのマッピング・テーブルを表示できます。471 ページの「データ・シンクロナイザの操作」を参照してください。

データ・シンクロナイザの操作

- ▶ データの同期およびマッピング・テーブルにアクセスするには、ナビゲート、管理、データの同期の順にクリックします。



データ・シンクロナイザのナビゲート

データ・シンクロナイザは、すべての同期およびマッピング・テーブルを識別します。同期を選択すると、下部ペインに次の情報が表示されます:

- **要約** - 名前、作成日および最終更新日
- **説明** - 「新規同期」ダイアログ・ボックスの「説明」テキスト・ボックスで入力した情報
- **プロパティ** - ステータスおよび最後に同期済日付
- **アプリケーション** - 同期のソースおよび宛先アプリケーション
- **マッピング・テーブル** - 同期で使用されるマッピング・テーブル

マッピング・テーブルを選択すると、下部ペインに次の情報が表示されます:

- 要約 - 名前、作成日および最終更新日
- 説明 - 「新規同期」ダイアログ・ボックスの「説明」テキスト・ボックスで入力した情報
- ソース次元 - マッピング・テーブルで使用されるソース次元
- 宛先次元 - マッピング・テーブルで使用される宛先次元
- 同期 - マッピング・テーブルを使用する同期

データ・シンクロナイザ・ビューの変更

▶ データの同期ビューを変更するには:

- 1 表示、詳細の順に選択します。

詳細表示には、名前、説明および作成日が表示されます。

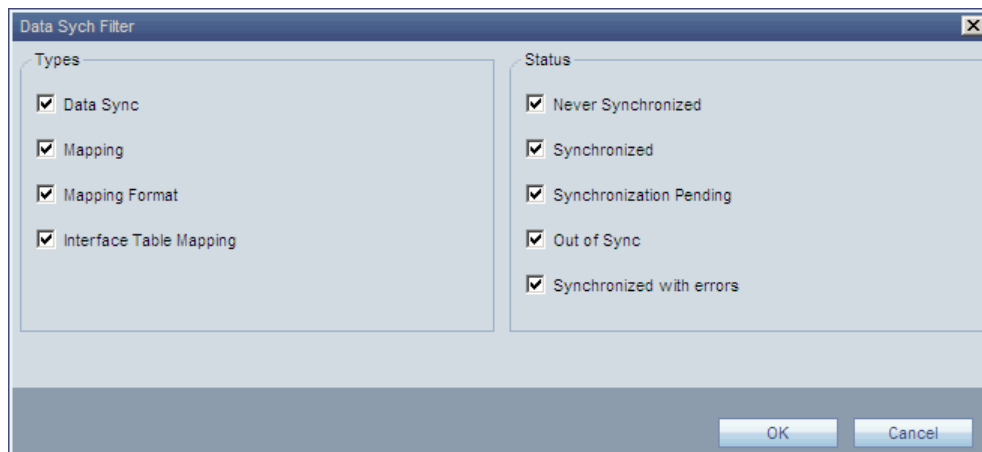
- 2 列を基準にソートするには、列ヘッダーをクリックします。たとえば、名前によってソートする場合は、名前をクリックします。
- 3 列を移動するには、列見出しをクリックして新しい場所にドラッグします。
- 4 ビューをアイコン・ビューに変更するには、表示、アイコンの順にクリックします。

同期のフィルタ処理

フィルタを使用して、ビューで同期またはマッピングを非表示にします。

▶ データの同期フィルタを作成するには:

- 1 表示、フィルタの順に選択します。




- 2 表示しないタイプを選択解除します。
- 3 たとえば、非同期状態の同期など、表示しないステータスを選択解除します。
- 4 OK をクリックします。

同期の編集

▶ 同期を編集するには:

- 1 データの同期で、同期を右クリックして編集を選択します。
次元マッピングが表示されます。

ヒント: 同期をダブルクリックして編集することもできます。

- 2 必要に応じて、マッピングを変更し、をクリックします。

マッピング・テーブルの編集

▶ マッピング・テーブルを編集するには:

- 1 マッピングをダブルクリックするか、マッピングを右クリックして、編集を選択します。
マッピング・テーブル・デザイナーが表示されます。
- 2 マップされた値を変更して、次へをクリックします。
- 3 マッピングを検証し、次へをクリックします。
- 4 マッピング・プロパティを変更し、終了をクリックします。

同期およびマッピングの複製

▶ 同期およびマッピングを複製するには:

- 1 データの同期モジュールで、同期またはマッピングを右クリックして、複製を選択します。
同期を複製する場合にマッピング・テーブルを使用している場合、そのマッピング・テーブルが元の同期および複製された同期で使用されます。
- 2 「複製」ダイアログ・ボックスに名前および説明を入力し、OK をクリックします。

同期およびマッピングの削除

▶ 同期およびマッピングを削除するには:

- 1 データの同期モジュールで、同期またはマッピングを右クリックして、削除を選択します。
- 2 必要な場合は、表示、リフレッシュの順に選択します。
同期またはマッピングが除去されます。

同期の検証および実行

同期を実行すると、データがソース・アプリケーションから取得され、マッピング・ルールに従って変換され、宛先アプリケーションにプッシュされて、そこでアプリケーションにコミットされます。同期を検証する場合は、同じプロセスに従いますが、データは宛先アプリケーションにコミットされません。これによって、ソースおよび宛先で要求および結果データを処理でき、データを書き込まずに発生する可能性があるエラーを生成できます。同期に問題があるかどうかをすばやく識別できます。

宛先が連結アプリケーションである場合、データ・シンクロナイザは次のデフォルト値を使用します:

- ロード・モード=マージ
- ファイル内の累計=FALSE
- ファイルに所有権データが含まれています=FALSE


宛先が Essbase アプリケーションである場合、データ・シンクロナイザは次のデフォルト値を使用します:

- abortOnError - この操作をエラー発生時に中止するかどうかを判別します。有効な値は TRUE または FALSE です。
- DryRun - 実際のデータ更新を含まないドライ・ランかどうかを判別します。有効な値は TRUE または FALSE です。
- delimiter - データ・ストリームの区切り文字を示します。

注: 外部ファイル用に共有場所を使用する場合、同期を検証または実行するサーバーからこのデータ・ファイルにアクセスする必要があります。

▶ 同期を検証するには:

1 次のいずれかのアクションを行います:

- データ・シンクロナイザで、同期を右クリックし、同期の検証を選択します。
- 「次元マッピング」で  をクリックします。

「データ同期検証オプション」ダイアログ・ボックスが開きます。

2 演算子を選択し、値を入力します。


ソースの値と宛先の値でスケールが異なる場合は、演算子を選択し、値を入力する必要があります。乗算、除算、加算、または減算を選択し、演算子とともに適用する数値を入力できます。たとえば、演算子*(乗算)を選択し、値 10 を入力すると、宛先に送信される各データ値に 10 が掛けられます。

3 同期で外部ソース・ファイルを使用する場合は、ソースの URL を入力するか、アップロードをクリックして、ファイルをソースとして使用します。

4 OK をクリックします。

▶ 同期を実行するには:

1 次のいずれかのアクションを行います:

- データ・シンクロナイザで、同期を右クリックし、同期の実行を選択します。
- 「次元マッピング」で  をクリックします。

「データ同期実行オプション」ダイアログ・ボックスが開きます。

- 2 演算子および値に入力します。
- 3 同期で外部ソース・ファイルを使用する場合は、ソースの URL を入力するか、アップロードをクリックして、ファイルをソースとして使用します。
- 4 OK をクリックします。

第 V 部

ジョブの管理

ジョブの管理の内容：

- [ジョブの管理](#)
- [タスクの自動化の使用方法](#)

この章の内容

ライブラリ・ジョブ・コンソールの操作.....	479
ライブラリ・ジョブ・コンソールのナビゲート.....	480
ジョブの添付ファイルの表示.....	486
ジョブの削除.....	488

ライブラリ・ジョブ・コンソールの操作

ライブラリ・ジョブ・コンソールは、多数の機能領域にまたがるジョブを扱うインフラストラクチャを提供する中心的なコンポーネントです。ジョブは、Performance Management Architect でバックグラウンドで実行するように送信する非同期プロセスです。

ライブラリ・ジョブ・コンソールでは、中心的な1つの場所でジョブを表示および管理できます。通常、2つのジョブ・カテゴリがあります。セッション間での可用性を必要とするジョブおよびジョブのステータス、および1つのセッションに結合されているジョブです。

ライブラリ・ジョブ・コンソールは、次のジョブ・タイプをサポートしています:

ジョブ・タイプ	ジョブに関連する操作
次元のインポート	次元ライブラリへの次元のインポート
連結アプリケーションの配置	連結アプリケーションの配置
Planning アプリケーションの配置	Planning アプリケーションの配置
分析アプリケーションの配置	Analytic Services アプリケーションの配置
収益性アプリケーションの配置	収益性アプリケーションの配置
データの同期	データの同期の実行
比較	アプリケーションの比較
プロパティ・クエリー	プロパティ・クエリー
エクスポート	アプリケーションのエクスポート
トランザクション・ログ・エクスポート	トランザクション・ログのエクスポート
アプリケーションのアップグレード	既存の Hyperion アプリケーションのアップグレード

ジョブ・タイプ	ジョブに関連する操作
アプリケーションの移行	既存の Hyperion アプリケーションの移行
アプリケーションの検証	既存の Hyperion アプリケーションの検証
次元の添付解除	共有次元をアプリケーション内のローカルに変更
ローカル次元の共有	ローカル次元を共有に変更
アプリケーションのコピー	アプリケーションのコピー
次元のコピー	次元のコピー

- ▶ ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、ナビゲート、管理、ライブラリ・ジョブ・コンソールの順にクリックします。

「実行中」のジョブが表示されます。

各ジョブは、初回送信時またはジョブ処理中に、ジョブ実行中の情報を取り込みます。

ライブラリ・ジョブ・コンソールのナビゲート





ライブラリ・ジョブ・コンソールには、Performance Management Architect のジョブが表示されます。上部ペインでジョブを選択し、下部ペインで要約情報を表示できます。下部ペインに表示されるのは、次のとおりです：

- **要約** - ジョブについての情報
 - **開始時間** - 短い文字列に使用
 - **送信時間** - 大量のコンテンツに使用
 - **最終変更時間** - ジョブが最後に更新された時刻
 - **ユーザー名** - ジョブを送信したユーザー名
 - **プロセス名** - ジョブが実行されているプロセス名
 - **スレッド** - 現在のジョブのスレッド ID
 - **サーバー** - ジョブが実行されているサーバー名
 - **詳細** - エラーおよび警告を含むジョブの要約
- **添付ファイル** - 各ジョブは、追加の情報を含む複数の添付ファイルを保持できます。添付ファイルは、それぞれ異なる独立したものにできます。たとえば、入力パラメータ・ファイル、出力ログ・ファイル、または出力結果ファイルを使用できます。添付ファイルには、次の2種類があります:
 - **プレーン・テキスト** - 小さい文字列に使用
 - **ファイル** - 大量のコンテンツに使用
- **ステータス** - ステータスおよび進行状況を表示します。各ジョブは、次のステータスを保持できます:
 - **無効** - サーバーで実行中のジョブはありません
 - **スケジュール済の開始** - キューに入っていますが、まだ開始されていません
 - **スケジュール済の停止** - 取り消されましたが、まだ実行中です
 - **開始中** - 開始準備をしています
 - **実行中** - 現在実行中です
 - **一時停止**
 - **停止中** - 停止処理中です
 - **停止済** - ユーザーの要求により停止しました
 - **中止** - エラーにより中止されました
 - **完了** - 正常に完了しました
 - **応答なし**

注: ジョブのステータスは変更できません。

ライブラリ・ジョブ・コンソール・ビューの変更


- ▶ ライブラリ・ジョブ・コンソール・ビューを変更するには:
 - 1 ページごとのジョブ数を変更するには、ページ当たりをクリックし、100 などのジョブ数を選択します。

- 2 列を基準にソートするには、列ヘッダーをクリックします。たとえば、名前によってソートする場合は、名前をクリックします。
- 3 列を移動するには、列ヘッダーを新しい場所にドラッグします。
- 4 ジョブのページをスクロールするには、 および最後のページまでスクロールする  をクリックします。
- 5 前のページにスクロールするには、 または最初のページまでスクロールする  をクリックします。

ヒント： ジョブのページを移動するときに、ライブラリ・ジョブ・コンソールをリフレッシュして最新のジョブのステータスを表示できます。482 ページの「ライブラリ・ジョブ・コンソールのリフレッシュ」を参照してください。

ライブラリ・ジョブ・コンソールのリフレッシュ

ライブラリ・ジョブ・コンソールをリフレッシュしてジョブの最新ステータスを表示できます。

- ▶ 表示されているジョブ数をリフレッシュするには、 をクリックします。

ジョブ・フィルタの作成

フィルタを作成して、ライブラリ・ジョブ・コンソールに特定のジョブを表示できます。

- ▶ フィルタを作成するには:
 - 1 ジョブを右クリックしてフィルタを選択するか、表示、フィルタの順にクリックします。「ジョブ・フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 次のオプションでジョブをフィルタできます:

1. 「自己」または「他のユーザー」 - 「自己」を選択して自分のユーザー名で送信したジョブを表示するフィルタを作成するか、「他のユーザー」を選択して、ユーザー名を入力します。 [483 ページの「自分のジョブのフィルタ処理」](#) および [484 ページの「他のユーザーのジョブのフィルタ処理」](#) を参照してください。
2. ジョブ ID - ジョブ ID を入力します。
3. ジョブ・タイプ - 次元のインポートなど、フィルタするジョブ・タイプを選択します。
4. ジョブのステータス - 「完了」など、フィルタするステータスを選択します。
5. 送信時間の「開始」および「終了」 - 開始日および終了日を選択して、日付範囲でフィルタします。

3 OK をクリックします。

ヒント: フィルタをデフォルト・オプションにリセットするには、「リセット」をクリックします。

ジョブがフィルタされている場合は、「ジョブ・フィルタ」ダイアログ・ボックスへのリンク(「ジョブ・フィルタのオプション」)が「実行中」のジョブ・ウィンドウに表示されます。

自分のジョブのフィルタ処理

ライブラリ・ジョブ・コンソールに表示されるジョブが、自分のジョブのみになるようにフィルタできます。ジョブのフィルタは、期限切れのジョブの削除を含むジョブの管理に役立ちます。ジョブの削除については、 [488 ページの「ジョブの削除」](#) を参照してください。

▶ 自分のジョブをフィルタするには:

- 1 表示、フィルタの順に選択します。
- 2 使用可能な場合はジョブ ID を入力します。
- 3 ジョブ・タイプを選択します。
- 4 ジョブのステータスおよび時間を選択し、OK をクリックします。

「ジョブ・フィルタ」ダイアログ・ボックスの選択内容に応じて、ライブラリ・ジョブ・コンソールに、自分のジョブのみが表示されます。次の図は、自分および次元のインポートでフィルタしたジョブを示しています。

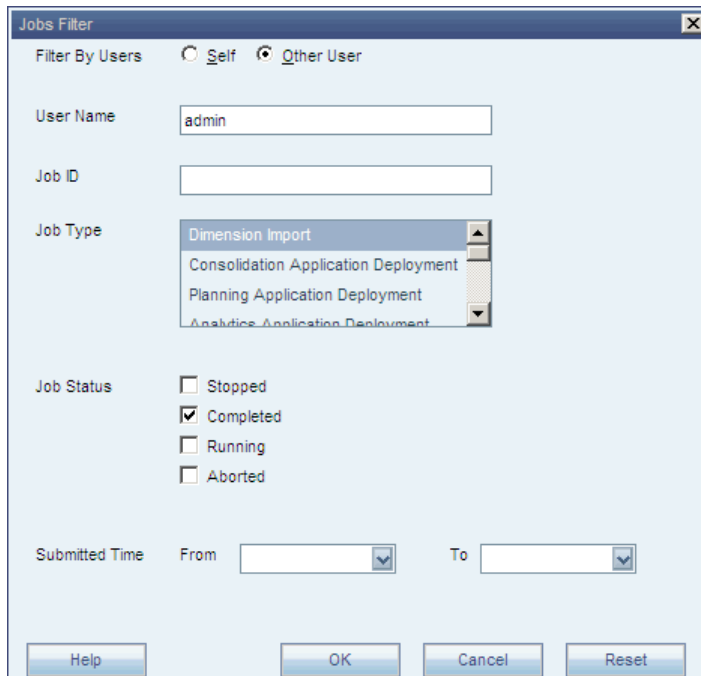
ID	Description	Last Updated Time	Type	Created By
1	Import 'wComma' into Application 'Master'	Friday, November ...	Import	admin
5	Import 'Moto' into Application 'Master'	Friday, November ...	Import	admin
7	Replace Dimension - 'C_Account' with 'C_Account'	Friday, November ...	Import	admin
8	Dimension Merge - 'C_Account' to 'C_Account'	Friday, November ...	Import	admin
16	Import 'simplep1' into Application 'Master'	Friday, November ...	Import	admin
21	Import 'statepu' into Application 'mepu'	Friday, November ...	Import	admin
23	Dimension Merge - 'ST_Account' to 'ST_Account'	Friday, November ...	Import	admin
39	Dimension Merge - 'ST_Account' to 'ST_Account'	Friday, November ...	Import	admin

他のユーザーのジョブのフィルタ処理

ライブラリ・ジョブ・コンソールに、他のユーザーのジョブのみを表示するようにフィルタできます。

▶ 他のユーザーのジョブをフィルタするには:

- 1 表示、フィルタの順に選択します。



The image shows a 'Jobs Filter' dialog box with the following fields and options:

- Filter By Users:** Radio buttons for 'Self' and 'Other User' (selected).
- User Name:** Text box containing 'admin'.
- Job ID:** Empty text box.
- Job Type:** Dropdown menu with options: 'Dimension Import', 'Consolidation Application Deployment', 'Planning Application Deployment', and 'Analytics Application Deployment'.
- Job Status:** Checkboxes for 'Stopped', 'Completed' (checked), 'Running', and 'Aborted'.
- Submitted Time:** 'From' and 'To' dropdown menus.
- Buttons:** 'Help', 'OK', 'Cancel', and 'Reset' at the bottom.

- 2 ユーザー名を入力します。
- 3 使用可能な場合はジョブ ID を入力します。
- 4 ジョブ・タイプを選択します。
- 5 ジョブのステータスおよび時間を選択し、OK をクリックします。

ライブラリ・ジョブ・コンソールに、「ジョブ・フィルタ」ダイアログ・ボックスの選択内容に応じたジョブが表示されます。

セキュリティ

ライブラリ・ジョブ・コンソールは、ジョブの送信および表示に Performance Management Architect 役割を使用します。

ジョブの送信のセキュリティ

認証済ユーザーは、前のセクションで説明したジョブ・タイプのジョブを送信できます。

ジョブの表示のセキュリティ

ジョブを送信するユーザーは、更新および読取りのために、ライブラリ・ジョブ・コンソール内のジョブのフル・アクセス権があります。さらに、他の Performance Management Architect 役割(次元エディタ、アプリケーション作成者、統合の作成、統合の実行)の一部であるユーザーは、次の表に基づくジョブへのアクセス権も保持できます。

表 37 ジョブ・タイプのセキュリティ

ジョブ・タイプ	表示できる人
インポート	ユーザー、次元エディタ
連結アプリケーションの配置	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、次元エディタ
Planning アプリケーションの配置	ユーザー、Planning アプリケーション作成者、次元エディタ
分析アプリケーションの配置	ユーザー、Essbase アプリケーション作成者、次元エディタ
収益性の配置	ユーザー、収益性アプリケーション作成者、次元エディタ
データの同期	ユーザー、統合の作成、統合の実行
トランザクション履歴	ユーザー、次元エディタ
比較	ユーザー、次元エディタ
プロパティ・クエリー	ユーザー、次元エディタ
エクスポート	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、Planning アプリケーション作成者、Essbase アプリケーション作成者
トランザクション・ログ・エクスポート	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、Planning アプリケーション作成者、Essbase アプリケーション作成者

ジョブ・タイプ	表示できる人
アプリケーションのアップグレード	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、Planning アプリケーション作成者、Essbase アプリケーション作成者、次元エディタ
アプリケーションの移行	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、Planning アプリケーション作成者、Essbase アプリケーション作成者
アプリケーションの検証	ユーザー、Financial Management アプリケーション作成者、Planning アプリケーション作成者、Essbase アプリケーション作成者

ジョブの添付ファイルの表示

各添付タイプを、ジョブの結果のビューアのタイプに関連付けられます。たとえば、インポート・プロセスで生成されたエラー・ログ・ファイルを、インポート・エラー・ログ・ビューアを使用して表示できます。添付ファイル用に実装された特定のビューアがない場合は、デフォルトによりテキスト・ファイルで表示できます。

インポート結果の表示

- ▶ インポート結果を表示するには、ライブラリ・ジョブ・コンソールの「添付ファイル」領域で、結果のインポートをクリックします。

The screenshot shows the Oracle Job Console interface. The main window displays a table of errors for a job profile. The table has columns for No, Type, Action, and Member. The errors listed are all of type 'Error' and involve 'InsertMember' or 'Update Member Properties' actions. The member names include 'test', 'test1', 'NetProfit', 'TotalAssets', 'TotalLiabEquity', 'OtherInfo', 'ExchangeRates', 'CostAllocation', 'CashFlow', 'KeyMetrics', 'Validation', and 'YôieTuàY'.

No	Type	Action	Member
1	Error	InsertMember	test
2	Error	InsertMember	test1
3	Error	Update Member Properties	test
4	Error	Update Member Properties	test1
5	Error	Update Member Properties	NetProfit
6	Error	Update Member Properties	TotalAssets
7	Error	Update Member Properties	TotalLiabEquity
8	Error	Update Member Properties	OtherInfo
9	Error	Update Member Properties	ExchangeRates
10	Error	Update Member Properties	CostAllocation
11	Error	Update Member Properties	CashFlow
12	Error	Update Member Properties	KeyMetrics
13	Error	Update Member Properties	Validation
14	Error	Update Member Properties	YôieTuàY

63 ページの「インポート・プロファイルの作成」を参照してください。

注： bpma_server_config.xml ファイルの ImportErrorThreshold 設定は、実行中のインポートがシャット・ダウンする前に発生する可能性があるエラーと警告を合せた最大数を定義します。デフォルト値は 1000 ですが、ImportErrorThreshold 設定を変更して、インポート・エラーしきい値を大きくできます。付録 H 「BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定」を参照してください。

テキスト・ファイルの表示

次のジョブはテキスト・ファイルの添付ファイルとして表示できます：

- データの同期 - ソース、宛先およびデータの同期に対して作成されるセッション・ログ・ファイル。
 - 次の各ジョブ用のテキスト・ファイルが作成されます：
 - 比較 - テキスト・ファイルがジョブに添付されます。
 - 配置 - テキスト・ファイルがジョブに添付されます。
 - アプリケーションのアップグレード - テキスト・ファイルがジョブに添付されます。
 - エクスポート - テキスト・ファイルがジョブに添付されます。
 - 検証 - テキスト・ファイルがジョブに添付されます。
- ▶ テキスト・ファイルの添付ファイルを表示するには、ライブラリ・ジョブ・コンソールの「添付ファイル」領域で、ログ・ファイルのリンクをクリックします。
- 次の図に、「添付ファイル」領域にデータの同期のログ・ファイルを示します。

The screenshot shows the Oracle Job Console interface. At the top, there is a navigation bar with 'File', 'View', 'Favorites', 'Tools', 'Administration', and 'Help' menus. The user is logged in as 'admin' and the page title is 'Welcome admin | Log Off ORACLE'. Below the navigation bar is a search field and a 'Job Filter Options' section. The main content area displays a table of jobs with columns for ID, Description, Last Updated Time, Type, and Created By. The table contains 9 rows of job entries. Below the table, there are two panels: 'Summary' and 'Attachments'. The 'Summary' panel shows details for a specific job, including 'Started Time', 'Submitted Time', 'Last Updated Time', 'User Name', 'Process Name', 'Thread', 'Server', and 'Detail'. The 'Attachments' panel shows a link to a log file. At the bottom of the interface, there is a 'Job Console' tab.

ID	Description	Last Updated Time	Type	Created By
1	Import 'comma' into Application 'Master'	Monday, May 12, 2008 1:20:...	Import	admin
3	Validating Application : comma	Monday, May 12, 2008 1:33:...	Application Validation	admin
4	Validating Application : comma	Monday, May 12, 2008 1:42:...	Application Validation	admin
5	deploy : comma	Monday, May 12, 2008 1:44:...	ConsolidationAppDeploy	admin
6	Exporting application comma.	Monday, May 12, 2008 1:43:...	Export	admin
7	Duplicating Application 'comma' to 'mig1'	Monday, May 12, 2008 6:17:...	Application Copy	admin
8	Validating Application : mig1	Monday, May 12, 2008 6:17:...	Application Validation	admin
9	deploy : mig1	Monday, May 12, 2008 6:19:...	ConsolidationAppDeploy	admin

Summary
 Started Time : Monday, May 12, 2008 1:42:57 PM
 Submitted Time : Monday, May 12, 2008 1:42:57 PM
 Last Updated Time : Monday, May 12, 2008 1:44:42 PM
 User Name : admin
 Process Name :
 Thread : 0
 Server : dimserver
 Detail : Completed Successfully.

Attachments
[d8018827-ebcb-4061-bae5-243dedaf38f6.log](#)

Status
 Status : Completed
 Progress : 100%

ジョブの削除

データベースで多数のジョブを維持するのは困難なので、ジョブの削除は重要です。ジョブを削除すると、ライブラリ・ジョブ・コンソールのナビゲートが簡単になります。ただし、ジョブを削除するための適切なユーザー権限を持っている必要があります。

▶ ジョブを削除するには:

- 1 ライブラリ・ジョブ・コンソールで、ジョブを右クリックし、ジョブの削除を選択します。

「削除の確認」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 OK をクリックします。

この章の内容

概要	489
タスクの自動化の前提条件.....	490
タスクフローの管理	490
タスクフローの作成	491
タスクフローの表示	498
タスクフローの編集	498
タスクフローのコピー	498
タスクフローの削除	499
タスクフローの手動実行.....	499
タスクフローのアクセス権の管理.....	499
タスクフローのアクセス権の割当て.....	500
タスクフローのステータスの表示.....	502
アクティブ・タスクフローの停止	504

概要

タスクの自動化は、一連のタスクを連鎖させてタスクフローにするメソッドです。Performance Management Architect を使用して頻繁に実行するタスクを、タスクの自動化を使用して自動化できます。

Performance Management Architect を操作する場合、次元のインポート、データの同期、アプリケーションの再配置などのタスクを定期的に行います。Performance Management Architect 操作を実行するタスクフローを作成および維持して、必要に応じて実行される重要なタスクをスケジュール化できます。

Performance Management Architect は、次のタスクフローをサポートしています：

- データの同期
- フラット・ファイルからの次元のインポート
- インタフェース・テーブルからの次元のインポート
- 連結の再配置
- Planning の再配置
- Analytic Services の再配置(Essbase (ASO)および Essbase (BSO)アプリケーション用)

タスクの自動化の前提条件

タスクの自動化における次の前提条件を考慮します:

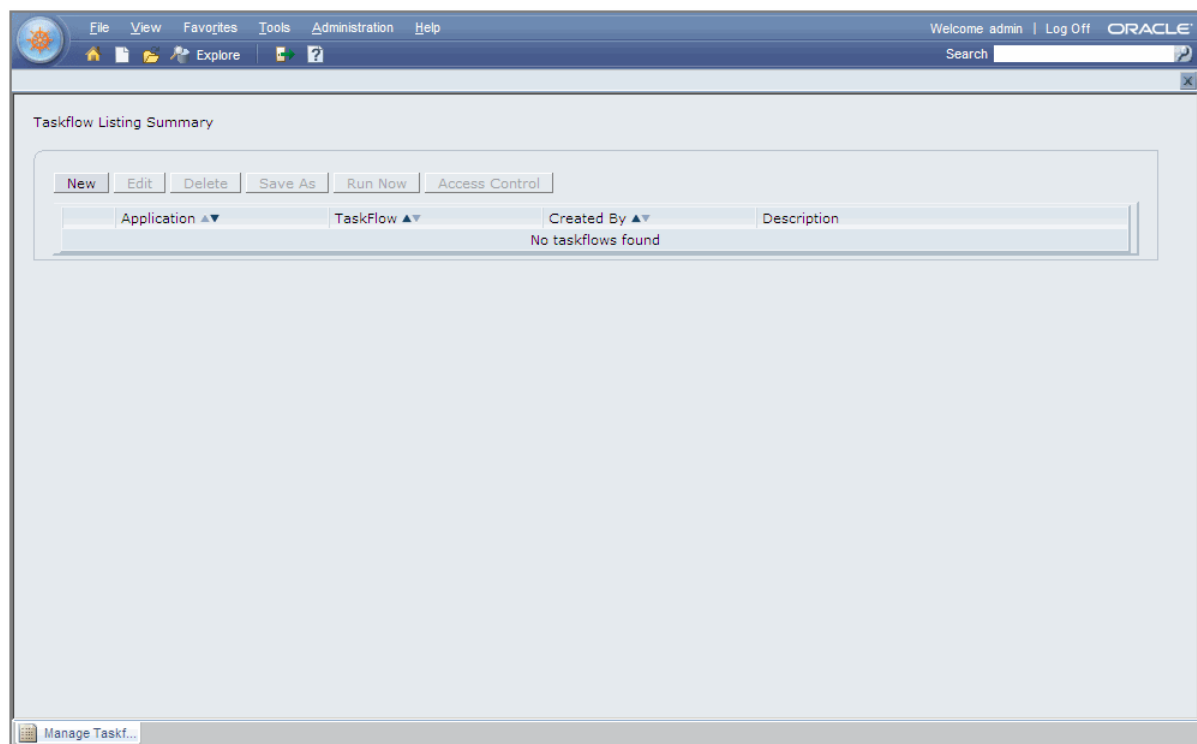
- Shared Services をインストールする必要があります。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- Shared Services にアプリケーションを登録する必要があります。アプリケーションを Performance Management Architect に配置すると、自動的に登録されます。

タスクフローの管理

「タスクフローの管理」オプションから、タスクフローの作成、編集、保存、コピーおよび削除、使用可能なタスクフローのリストの表示、タスクフローのアクセス権の割当ておよびタスクフローの手動実行ができます。次の手順を参照してください:

- [491 ページの「タスクフローの作成」](#)
- [494 ページの「ステージの追加」](#)
- [497 ページの「リンクの追加」](#)
- [498 ページの「タスクフローの編集」](#)
- [498 ページの「タスクフローのコピー」](#)
- [499 ページの「タスクフローの削除」](#)
- [499 ページの「タスクフローの手動実行」](#)
- [499 ページの「タスクフローのアクセス権の管理」](#)
- [500 ページの「タスクフローのアクセス権の割当て」](#)
- [502 ページの「タスクフローのステータスの表示」](#)
- [504 ページの「アクティブ・タスクフローの停止」](#)

- ▶ タスクフローを管理するには、Performance Management Architect から、管理、タスクフローの管理の順に選択します。



タスクフローの作成

タスクフローを作成して一連のタスクをリンクし、それらを実行する時間を指定します。タスクフローを作成する場合は、それに名前および説明を割り当てます。次に、タスク・ステージやタスク間のリンクなど、タスクフローの詳細を指定します。

- ▶ タスクフローを作成するには:
- 1 「タスクフローのリスト(要約)」画面の新規をクリックします。
 - 2 名前にタスクフロー名を入力します。Performance Management Architect タスクフローを認識しやすいように、タスクフロー名に EPMA という接頭辞を付けることもできます。

名前には、最大 40 文字を指定できます。

「アプリケーション」テキスト・ボックスに現在のアプリケーションの名前が表示されます。

- 3 説明にタスクフローの説明を入力します。
- 4 送信をクリックします。

タスクフロー・エディタが表示されるので、ステージおよびリンクを追加します。

Performance Management Architect アクション

Performance Management Architect は、次のアクションをサポートします:

- [492 ページの「データの同期」](#)

- 492 ページの「フラット・ファイルからの次元のインポート」
- 493 ページの「インタフェース・テーブルからの次元のインポート」
- 493 ページの「再配置」

データの同期

▶ データの同期タスクフローを作成するには:

- 1 処理を選択し、アプリケーション(たとえば、EPMA- Budget)を選択します。
- 2 アクションデータの同期の実行を選択します。
- 3 次のアクションを行います:
 - 「同期タイプ」 - 「URL」を選択し、「編集」をクリックします。同期を選択し、「送信」をクリックします。
 - オプション: 「外部ソース・ファイル」 - 同期で、同期のソースに外部ソース・ファイルを使用する場合は、外部ソース・ファイルの場所を入力します。
場所は、Web サーバーからアクセスできる場所を Universal Naming Convention(UNC)で示す必要があります(例: ¥¥server¥file.dat)。
 - 「モード」 - 「スキャン」または「ロード」を選択します。
 - 「スキャン」 - 同期のデータをコミットしません。かわりに、新規データを書き込まずに実行することで同期をテストします。
 - 「ロード」 - 同期を完全に実行します。
- 4 保存をクリックします。

フラット・ファイルからの次元のインポート

▶ フラット・ファイルのインポート・タスクフローを作成するには:

- 1 アプリケーションを選択します。
- 2 アクションフラット・ファイルからの次元のインポートを選択します。
- 3 次のアクションを行います:
 - 「プロファイル名の選択」 - 「URL」を選択し、「編集」をクリックし、プロファイルを選択し、「送信」をクリックします。
 - オプション - 「次元ファイルのインポート」 - プロファイルが外部フラット・ファイルを使用する場合は、「TEXTBOX」を選択し、場所を入力します。
場所は、Web サーバーからアクセスできる場所を Universal Naming Convention(UNC)で示す必要があります(例: ¥¥server¥file.dat)。
- 4 保存をクリックします。

インタフェース・テーブルからの次元のインポート

- ▶ インタフェース・テーブル・インポートのタスクフローを作成するには:
 - 1 アプリケーションを選択します。
 - 2 アクションインタフェース領域からの次元のインポートを選択します。
 - 3 「プロファイル名の選択」で、URL を選択し、「編集」をクリックし、プロファイルを選択し、送信をクリックします。
 - 4 保存をクリックします。

再配置

連結、Planning および Analytic Services の再配置のタスクフローを作成できます。

連結

- ▶ 連結の再配置タスクフローを作成するには:
 - 1 アプリケーションを選択します。
 - 2 アクション連結の再配置を選択します。
 - 3 次のアクションを行います:
 - 「連結アプリケーション」 - 「URL」を選択し、「編集」をクリックします。アプリケーションを選択し、「送信」をクリックします。
 - オプション: 「すべてのメタデータとデータの消去」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
 - オプション: 「参照整合性の確認」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
 - 4 保存をクリックします。

Planning

- ▶ Planning の再配置タスクフローを作成するには:
 - 1 アプリケーションを選択します。
 - 2 Planning の再配置を選択します。
 - 3 次のアクションを行います:
 - 「Planning アプリケーション」 - 「URL」を選択し、「編集」をクリックします。アプリケーションを選択し、「送信」をクリックします。
 - 「データソース」 - 「TEXTBOX」を選択し、元のプランニング・データ・ソースの場所を入力します。(アプリケーションで使用されるデータベースまたは Essbase キューブ。)
 - オプション:

- 「アウトラインの作成」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
- 「アウトラインのリフレッシュ」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
- 「セキュリティ・フィルタの作成」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
- 「共有メンバー・セキュリティ・フィルタ」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
- 「セキュリティ・フィルタ制限の検証」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。

注： Planning Web でプランニング次元エディタでメンバーにセキュリティを割り当てる必要があります。Planning のセキュリティ・オプションについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』で説明しています。

- 4 「保存」をクリックします。

Analytic Services

▶ Analytic Services 再配置タスクフローを作成するには:

- 1 アプリケーションを選択します。
- 2 アクション「Analytic Services の再配置」を選択します。
- 3 次のアクションを行います:
 - 「Essbase アプリケーション」 - 「URL」を選択し、「編集」をクリックします。アプリケーションを選択し、「送信」をクリックします。
 - オプション: 「すべてのデータを消去」 - 「PICKLIST」を選択し、「TRUE」または「FALSE」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

ステージの追加

ステージは、通常 1 人の個人が実行するタスクフロー内の手順を説明します。各ステージは、アクションを保持します。これらのアクションは、実行時に値が提供されるパラメータを保持できます。

ステージを定義するには、次の 3 つのタブを使用します:

- 「全般」: ステージ名、説明およびステージの実行を担当するユーザーのユーザー ID を定義します。ユーザーは、開始元(タスクフローの 1 番目のステージの所有者)、または他のステージの別のユーザーです。
- 「処理」: タスクフローが実行されたときのアクションと、必要に応じて、そのパラメータを定義します。
- 「開始イベント」: ローカル・ユーザーのコンピュータではなくアプリケーション・サーバーの時間に基づいたタスクフローの開始時間および発生するイベ

ントの実行予定回数を定義します。このタブは、タスクフローの1番目のステージに対してのみ表示されます。スケジュール済イベント(タスクフロー開始時間)が表示されているか、または使用不可になっています(「今すぐ実行」オプションで実行されたタスクフローの手動開始の場合)。

▶ ステージを追加するには:

1 タスクフロー・エディタで、ステージの追加をクリックします。

新規ステージが左パネルに表示され、ステージの詳細が右パネルに表示されます。タスクフローにステージがある場合、新規ステージはタスクフローの最後に作成されます。

2 全般を選択し、次の情報を入力します:

1. 「名前」に、ステージ名(Data_Synchronization など)を入力します。

注: ステージ名にスペースを含めることはできません。名前には最大 30 文字を指定できます。

2. オプション: 「説明」に、タスクフローの説明(同期を毎日実行する、など)を入力します。
3. 「別のユーザーとして実行」で「ユーザー名」を選択し、タスクフローを起動するユーザー名およびパスワードを入力します。

注: ステージ 1 では、ユーザー名およびパスワードを入力することが要求されます。後続のステージでは、開始元を選択できます。この場合は、ステージ 1 で定義したユーザー ID およびパスワードが使用されます。

3 処理を選択し、次の情報を入力します:

1. 「アプリケーション」から、タスクも実行元のアプリケーションを選択します。
2. 「アクション」から、実行するアクション(Data_Synchronization など)を選択します。

注: 491 ページの「Performance Management Architect アクション」を参照してください。

3. 各パラメータの「タイプ」で、アクションに応じて POV の「選択リスト」、「テキスト・ボックス」、または「URL」の順に選択して、パラメータの値を入力します。

たとえば、Data_Synchronization アクションでは、「モード」パラメータの選択リストから、「マージ」、「累計」または「置換」を選択できます。

データ・ファイルおよびログ・ファイルの名前およびパスの場合は、手動で情報をテキスト・ボックスに入力する必要があります。タスクフローはサーバーから実行されるので、ファイル名およびパスが有効で、タスクを実行するサーバーからアクセスできることを確認する必要があります。このため、自分のハード・ドライブを参照する c:¥file.dat などのパスを入力できません。たとえば¥¥HFMServer¥share¥path¥file.dat のように、Universal

Naming Convention (UNC)を使用してファイルのコンピュータ名および共有ディレクトリを特定する必要があります。

4 開始イベントを選択し、次の情報を入力します:

1. 「開始イベント」でイベントを選択します。
「サーバーの日付」情報は、表示専用です。
2. 「開始日」に、タスクを実行する日を入力するか、ポップアップ・カレンダーをクリックして日付を選択します。
3. 「開始時間」で、タスクを実行する時刻を選択します。

注: この時刻は、サーバーの日付に表示されている、アプリケーション・サーバーでの時刻です。

4. 繰り返しタスクの場合は、「繰り返し」を選択し、「繰り返しの設定」からタスクの頻度を選択します。
 5. タスクの終了日時のオプションを選択します:
 - 「終了日なし」
 - 「終了条件」: 実行回数を入力します。
 - 「終了日」: 終了日を選択し、「終了時間」を選択します。
- 5 オプション: ステージを追加するには、ステージの追加をクリックし、全般および処理にステージ情報を入力します。

注: 「開始イベント」タブは、1番目のステージにのみ使用できます。

Shared Services のステージ・アクションおよびパラメータ

表 38 Shared Services のステージ・アクションおよびパラメータ

アクション	パラメータ
電子メール	<p>電子メール・メッセージを自動的に電子メール・アドレスに送信できるようにするアクション。電子メール・アクションの次のパラメータを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none">● 宛先: 受信者の電子メール・アドレスを入力します。● 件名: 電子メールの件名を入力します。● メッセージ: 変数を選択して(変数リストから変数をダブルクリック)、成功か失敗かを表示します。● 変数: 電子メール・アクションに使用可能な変数をリストします。
実行	<p>コマンド・ラインから外部プログラムを実行するアクション。実行アクションの次のパラメータを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none">● コマンド: 外部プログラムを実行するコマンドを入力します。 <p>外部プログラムは、有効なコマンド・ライン・スクリプト(Windows の「bat」スクリプトまたは UNIX の「sh」スクリプトなど)、および任意の有効なプログラム実行コマンドです。bat ファイルがパスを動的に解決しないことを確認します。ファイルがパスを解決する変数を使用する場合は機能しません。</p>

アクション	パラメータ
	コマンドには、実行可能ファイルへのフル・パスを含める必要があります。たとえば、Internet Explorer を起動するには、C:¥Program Files¥Internet Explorer¥IEXPLORE.EXE と入力します。

リンクの追加

リンクは、タスクフロー実行中に1つのステージのアクティビティが完了して制御が次のステージに渡され、それが開始されるポイントです。リンクは、条件なし(1つのステージが完了すると別のステージが開始される)、または条件付き(操作のシーケンスは複数のリンク条件に依存する)にできます。

リンクは、次に実行されるシステムのアクションを指定します。リンクはすべてのステージに必要です。通常、ほとんどのステージが2つのリンク(成功および失敗)を保持します。成功リンクでは、1番目のステージが成功した場合にシステムが受信ステージと呼ばれる2番目のステージに進む必要があることを指定できます。失敗リンクでは、1番目のステージで問題が発生した場合に実行されるアクションを指定します。

たとえば、Data_Synchronization の1番目のステージが成功した場合に、システムが Redeploying_Consolidation ステージに進む成功リンクを設定できます。また、Data_Synchronization ステージでエラーが発生した場合または問題に遭遇した場合に、システムが Redeploying_Consolidation ステージの End(プロセスを終了してタスクフローを停止する)に進む失敗リンクを設定できます。

タスクフローの最後のステージには、タスクフローを完了する目標として、「End」への最終リンクが必要です。

イベントの変数を指定できます。たとえば、Data_Synchronization_Result==Success などのデータ・ロード・タスクの変数を追加できます。

▶ リンクを追加するには:

- 1 リンクの追加をクリックします。
- 2 全般を選択し、名前にリンク名を入力します。
名前には、最大 30 文字を指定できます。
- 3 説明にリンクの説明を入力します。
送信ステージは表示専用です。
- 4 受信ステージでステージを選択します。
- 5 必要に応じて条件タブを選択し、変数で変数(たとえば、Data_Synchronization_Result)を選択します。
- 6 値で成功または失敗を選択します。
- 7 追加をクリックします。

注: タスクフローの最後のステージに End 目標へのリンクがあることを確認します。

ヒント： 条件を削除するには、「削除」をクリックします。

タスクフローの表示

タスクフローは **Shared Services** で保管および管理します。「タスクフローのリスト(要約)」には、アプリケーションで使用可能なタスクフロー、そのタスクフローの作成者および説明が表示されます。

- ▶ タスクフロー・リストを表示するには、「**管理**」、「**タスクフローの管理**」の順に選択します。

タスクフローの編集

タスクフローを作成した後、タスクフローの説明の編集、およびタスクフロー変数の作成、編集または削除ができます。ステージまたはリンクの追加または削除もできます。

- ▶ タスクフローを編集するには:
 - 1 **管理**、**タスクフローの管理**の順に選択します。
 - 2 編集するタスクフローを選択し、**編集**をクリックします。
 - 3 **タスクフロー・エディタ**で、**オプション**を選択します:
 - ステージを追加するには、「**ステージの追加**」をクリックします。[494 ページの「ステージの追加](#)」を参照してください。
 - リンクを追加するには、「**リンクの追加**」をクリックします。[497 ページの「リンクの追加](#)」を参照してください。
 - ステージまたはリンクを削除するには、「**削除**」をクリックします。

注： ステージを削除すると、そのステージに関連したリンクもすべて削除されます。

- タスクフローの説明を編集するには、「**プロパティ**」をクリックします。
- 4 **タスクフローを編集し、アクションを実行**します:
 - 編集内容を保存するには、「**保存**」をクリックします。
 - 編集を取り消すには、「**取消し**」をクリックします。変更は保存されずに「タスクフローのリスト(要約)」に戻ります。

タスクフローのコピー

アプリケーションのタスクフローを定義したら、それを別のアプリケーションにコピーできます。

- ▶ タスクフローをコピーするには:
 - 1 **管理**、**タスクフローの管理**の順に選択します。

- 2 コピーするタスクフローを選択し、名前を付けて保存をクリックします。
- 3 タスクフローの新規名前および説明を入力します。
- 4 送信をクリックします。

Shared Services では、タスクフローのコピーが、新規名前で「タスクフローのリスト(要約)」に追加されます。

タスクフローの削除

使用しなくなったタスクフローを削除できます。

- ▶ タスクフローを削除するには:
 - 1 管理、タスクフローの管理の順に選択します。
 - 2 タスクフローのリストで削除するタスクフローを選択し、削除をクリックします。

タスクフローの手動実行

タスクフローは、自動的に開始されるのを待つかわりに、手動で実行できます。スケジュール済の実行時間の前にタスクフローをテストできます。これによって、実行前にタスクフローを調整できます。

- ▶ タスクフローを手動で実行するには:
 - 1 管理、タスクフローの管理の順に選択します。
 - 2 タスクフローのリストから実行するタスクフローを選択し、今すぐ実行をクリックします。

タスクフローのアクセス権の管理

Shared Services では、任意の製品アプリケーションから独立したアプリケーションのタスクフローへのアクセス権を管理できます。モデルごとの権限を個別ユーザーまたはユーザーのグループに割り当てます。また、アプリケーション・レベルで権限を割り当てることもできます。

特定のタスクフローにアクセスするには、ユーザーは、個別にアクセス権を割り当てられるか、アクセス権が割り当てられているグループの一部になってアクセス権を継承する必要があります。個々のグループが1つのグループに割り当てられ、個別ユーザーのアクセス権がそのグループのアクセス権と競合する場合、個別ユーザーの権限が優先されます。

ユーザーが自分のタスクフロー以外のタスクフローにもアクセスできるようにするには、管理者がユーザーを目的のタスクフローに追加して権限を割り当てる必要があります。

タスクフロー管理に対する権限には、次のタイプがあります:

表 39 タスクフロー権限

権限	説明
読取り	タスクフローを表示します。
書込み	タスクフローを編集します。 書込み権限には、読取り権限は自動的には含まれません。ユーザーに両方の権限を持たせる場合は、書込み権限に加えて、読取り権限を明示的に割り当てる必要があります。
管理	新規ユーザーを作成、およびユーザーの権限を変更します。 管理権限には、読取りおよび書込み権限は自動的には含まれません。ユーザーにこれらのすべての権限を持たせる場合は、管理権限に加えて、読取りおよび書込み権限を明示的に割り当てる必要があります。

権限は、グループおよび個別ユーザーに適用できます。ユーザーには、自分が属するグループの権限が自動的に付与されます。ただし、ユーザーの権限を明示的に追加または拒否すると、グループ権限を上書きできます。

アクセス権の各タイプ(読取り、書込みおよび管理)に対して、次のアクションを実行する必要があります:

- 権限付与: ユーザーまたはグループに権限を明示的に付与します。
グループのメンバーに権限を付与すると、グループから継承された権限が上書きされます。たとえば、グループで権限が拒否されている場合、そのグループのメンバーに権限を明示的に付与できます。
- 拒否: ユーザーまたはグループに権限を明示的に拒否します。
グループのメンバーに対する権限を拒否すると、グループから継承された権限が上書きされます。たとえば、グループに権限が付与されている場合、そのグループのメンバーの権限を明示的に拒否できます。
- なし: ユーザーまたはグループに対して権限を適用しません。

タスクフローのアクセス権の割当て

個別ユーザーまたはユーザーのグループに、個別のタスクフローの権限を割り当てられます。タスクフローの権限を割り当てるには、その管理権限を持っている必要があります。

ユーザーは、属しているグループの権限を継承します。ただし、個別ユーザーに割り当てる権限は、ユーザーが継承するグループの権限を上書きします。

権限の割当て(または拒否)によって、その他の権限が暗黙的に割り当てられる(または拒否される)ことはありません。つまり、書込み権限を割り当てても読取り権限は暗黙的には割り当てられず、管理権限を割り当てても読取りおよび書込み権限は暗黙的には割り当てられません。同様に、読取り権限を拒否しても、書込み権限および管理権限は暗黙的には拒否されません。また、書込み権限を拒否しても、管理権限は暗黙的には拒否されません。すべての権限をそれぞれのユーザーに明示的に割り当てる必要があります。

▶ タスクフローに対する権限を割り当てるには:

1 タスクフローを選択し、アクセス制御をクリックします。

「アクセス・リスト」ウィンドウに、選択したタスクフローに対してユーザーおよびグループに割り当てられている権限を表示できます。

2 ユーザーまたはグループを追加するには、追加をクリックします。

「プリンシパルの追加」ウィンドウが表示されます。「使用可能なユーザー/グループ」に、Shared Services ユーザーとして認証済のユーザーがリストされます。ユーザーがリストにない場合は、管理者に連絡して、認証済ユーザーを追加します。

3 オプション: ユーザーまたはグループを検索するには、次の手順に従います:

1. ドロップダウン・リストで、「ユーザー」または「グループ」を選択します。
2. ユーザーまたはグループ名を入力します。
3. 「プロバイダ」で、ユーザーまたはグループを含むプロバイダを選択します。
4. 「検索」をクリックします。

4 使用可能なユーザー/グループで、このタスクフローのアクセス権を割り当てるユーザーまたはグループを選択します。複数のユーザーを選択する場合は[Ctrl]キーを押しながらクリックします。

5 選択したユーザーやグループを選択したユーザー/グループに移動する場合は、追加をクリックします。すべてのユーザーおよびグループを選択したユーザー/グループに移動する場合は、すべて追加をクリックします。

注: グループ名の前にはアスタリスク(*)が付いています。

6 読取り、書込みおよび管理権限に対して、アクセス・タイプ(権限付与、拒否またはなし)を選択します。

7 追加をクリックして、権限を割り当てます。

タスクフローの権限の編集

個別のタスクフローの個別ユーザーおよびグループの権限を編集できます。タスクフローの権限を変更するには、その管理権限を持っている必要があります。

▶ タスクフローに対する権限を編集するには:

1 管理、タスクフローの管理の順に選択します。

2 タスクフローを選択し、アクセス制御をクリックします。

3 ユーザーまたはグループを選択し、編集をクリックします。

ウィンドウに、選択したユーザーやグループに割り当てられている権限が表示されます。

4 読取り、書込みおよび管理の各権限に対して、権限付与、拒否またはなしのいずれかのオプションを選択します。

5 オプションをクリックします:

- 変更内容を反映させる場合は「更新」をクリックします

- 変更を取り消すには「閉じる」をクリックします

タスクフローのアクセス権に対する変更を表示するには、製品アプリケーションからログアウトして、ブラウザを閉じ、製品アプリケーションに再度ログオンする必要があります。

タスクフローの権限の削除

個別のタスクフローへのユーザーおよびグループのすべての権限を削除できます。タスクフローへのアクセス権を削除するには、そのタスクフローの管理権限を持っている必要があります。

▶ タスクフローへのアクセス権を削除するには:

- 1 管理、タスクフローの管理の順に選択します。
- 2 タスクフローを選択し、アクセス制御をクリックします。

選択したタスクフローについて、ユーザーおよびグループに割り当てられている権限が表示されます。

- 3 ユーザーまたはグループを選択し、削除をクリックします。






タスクフローのステータスの表示

「タスクフロー・ステータス(要約)」では、タスクフローのステータス(アクティブ、完了、または停止済など)を確認できます。すべてのタスクフローを表示するか、またはステータス、アプリケーション、またはタスクフローが開始された日付または日付の範囲でタスクフローのリストをフィルタできます。

個別のタスクフローをドリル・ダウンして「タスクフロー参加者(要約)」にタスクフローの詳細を表示できます。「タスクフロー参加者(要約)」は、タスクフローの各ステージのステータス、およびそれが完了した時間を表示します。正常に完了したステージおよび失敗したステージを表示できます。この情報は、自動ルーチンのトラブルシューティングに使用できます。

表 40 タスクフローのステータス(要約)の要素

要素	説明
ステータス	次のタスクフローのタイプでフィルタします: <ul style="list-style-type: none">● アクティブ● 完了● 停止済み● すべて
アプリケーション	タスクフローに含まれるアプリケーション
タスクフロー	タスクフロー名

要素	説明
開始期間 (オプション)	タスクフローを開始した日付または日付の範囲を入力するか、クリックして選択します。
検索	指定する検索基準に一致する「タスクフローのリスト」領域を表示します。
タスクフローのリスト	<p>次のような指定の検索条件に一致するタスクフローを表示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ID ● アプリケーション* ● タスクフロー* ● 開始元* ● 開始済* (最新のタスクフローを最初に表示します) ● ステータス* ● 説明 <p>*はソート可能なデータを示します。列ヘッダーをクリックして、アプリケーション、タスクフロー、開始元、開始済またはステータス別にタスクフローをソートできます。</p>
停止	アクティブ・タスクフロー・インスタンスを停止します。
削除	<p>選択したタスクフロー・インスタンスを削除します。</p> <p>注: タスクフローは、削除の前に停止する必要があります。</p>
すべて削除	選択したタスクフロー・インスタンスをすべて削除します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの最初のページを「タスクフローのリスト」領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの前のページを「タスクフローのリスト」領域に表示します。
ページ	ページを選択して、「タスクフローのリスト」領域に表示します。
	「ページ」ドロップダウン・リスト・ボックスで選択したページを「タスクフローのリスト」領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの次のページを「タスクフローのリスト」領域に表示します。
	指定した検索条件に一致するタスクフロー・インスタンスの最後のページを「タスクフローのリスト」領域に表示します。
リフレッシュ	「タスクフローのリスト」領域に表示されたタスクフロー・インスタンスをリフレッシュします。

「タスクフロー・ステータス(要約)」からもアクティブ・タスクフローを停止できます。504 ページの「[アクティブ・タスクフローの停止](#)」を参照してください。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

- 1 管理、タスクフロー・ステータスの表示の順に選択します。
- 2 タスク ID をダブルクリックして、そのステータスを表示します。

- 3 タスクフローを検索するには、フィルタ条件を選択し、検索をクリックします。

アクティブ・タスクフローの停止

アクティブ・タスクフローは、進行中のタスクフローです。進行中でないタスクフローは停止できます。たとえば、エラーがあるタスクフローを停止して調整できます。

- ▶ アクティブ・タスクフローを停止するには:
 - 1 管理、タスクフロー・ステータスの表示の順に選択します。
 - 2 ステータスでアクティブを選択します。
 - 3 オプション: リストをフィルタするには、タスクフローの検索条件を選択して検索をクリックします。
 - 4 停止するタスクフローを選択し、停止をクリックします。

タスクフロー参加者(要約)の表示

タスクフロー参加者(要約)では、タスクフローの参加者をリストし、各参加者インスタンスのステータス情報を表示します。

- ▶ タスクフロー参加者ステータスを表示するには:
 - 1 管理、タスクフロー・ステータスの表示の順に選択します。
 - 2 タスクフローの権限条件を選択し、検索をクリックします。

Shared Services タスクフロー管理システムでタスクフローをすべて表示するには、「(ステータス)すべて」を選択し、検索をクリックします。
 - 3 「タスクフローのリスト」領域で、参加者要約を表示するタスクフローを見つけて、タスクフロー ID をクリックします。

「タスクフロー参加者(要約)」ウィンドウが表示されます。
 - 4 タスクフローのステータス(要約)ウィンドウに戻るには取消しをクリックします。

表 41 「タスクフロー参加者(要約)」ウィンドウの要素

要素	説明
タスクフロー(要約)	選択したタスクフローの要約情報(アイテムは完了順に表示される)は、次のとおりです: <ul style="list-style-type: none">● ID● アプリケーション● タスクフロー● 開始元● 開始済● ステータス● 説明

要素	説明
参加者	ステージの参加者名。参加者は選択可能です。参加者をクリックすると、タスクフローの参加者についての詳細が表示されます。
ステージ名	ステージ名
ステータス	ステージ・ステータスは、次のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> ● アクティブ ● 完了 ● 停止済み ● すべて
成功変数	完了したステージの結果
完了	ステージ完了日時

タスクフロー参加者(詳細)の表示

「タスクフロー参加者(詳細)」ウィンドウにタスクフロー参加者の詳細が表示されます。

▶ タスクフロー参加者の詳細を表示するには:

- 1 管理、タスクフロー・ステータスの表示の順に選択します。
- 2 タスクフローの権限条件を選択し、検索をクリックします。

Shared Services タスクフロー管理システムでタスクフローをすべて表示するには、「(ステータス)すべて」を選択し、「検索」をクリックします。

- 3 「タスクフローのリスト」で、参加者要約を表示するタスクフローを見つけて、タスクフローIDをクリックします。
- 4 タスクフロー参加者の詳細を表示する参加者をクリックします。
Shared Services で、「タスクフロー参加者(詳細)」ウィンドウが表示され、参加者イベントが発生順にソートされます。
- 5 タスクフロー参加者(要約)ウィンドウに戻るには取消しをクリックします。

A

Financial Management次元の 操作

この付録の内容

勘定科目	508
カスタム	516
エンティティ	518
シナリオ	521
アプリケーション	524
期間別組織	529
連結メソッド	529
通貨	532
システム生成の勘定科目	534
内部取引パートナーの設定	536
セキュリティに基づくメタデータのフィルタ	538
メタデータの参照整合性	538
次元の名前付けの制限	541
9.3.1 で作成された連結フラット・ファイルの使用方法	541
Financial Management 9.3.1 および Performance Management Architect の操作	541

Financial Management では、次元によってはその他の次元と関連付けする必要があります。特定のプロパティは、その他の次元のメンバーを参照します。たとえば、勘定科目次元の Security Class プロパティは、セキュリティ・クラス次元のメンバーを指しています。関連付け作成の指示に関しては、83 ページの「次元の関連付けの作成」を参照してください。

次元名の最大文字数は 80 文字です。名前付けの制限の詳細は、541 ページの「次元の名前付けの制限」を参照してください。

表 42 Financial Management の関連付け

次元(ソース)	プロパティ名	次元(ターゲット)
勘定科目	Plug Account	勘定科目
	Alias	別名
	Custom1-Custom4 Top Member	カスタム 1-カスタム 4
	Security Class	セキュリティ・クラス
連結メソッド	Alias	別名

次元(ソース)	プロパティ名	次元(ターゲット)
通貨	Alias	別名
カスタム 1-カスタム 4	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
エンティティ	Alias	別名
	Currency	通貨
	Holding Company	エンティティ
	ICP Top member	ICP
	Security Class	セキュリティ・クラス
	Security As Partner	セキュリティ・クラス
ICP	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
期間	Alias	別名
シナリオ	Alias	別名
	Security Class	セキュリティ・クラス
	Default Frequency	表示
	Default Frequency For IC Transactions	表示
	Phased Submission Start Year	年
値	Alias	別名
表示	Alias	別名
年	Alias	別名

勘定科目

次の表では、勘定科目次元のメンバー・プロパティを説明します。プロパティ・ラベル列は、Performance Management Architect プロパティ・グリッドのプロパティに表示されるラベルを示します。プロパティ名列に表示されるこの名前を使用すると、Performance Management Architect バッチ・クライアントを使用してプロパティ値を一度に変更できます。スクリプトの実行の詳細については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect バッチ・クライアント・ユーザー・ガイド』を参照してください。

表 43 勘定科目次元のメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	<p>メンバーの説明(最大 80 文字)</p> <p>Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義し、別名次元を別の次元に関連付けます。たとえば、値が英語、フランス語およびイタリア語の別名次元を作成し、その別名次元を勘定科目次元に関連付けられます。</p>	Alias
Calc Attribute	<p>計算の説明(最大 80 文字)</p> <p>この情報はデータ・フォームおよびデータ・グリッドに表示されます。</p> <p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	CalcAttribute
Consolidation Account Type	<p>次のいずれかの値です：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ASSET(資産) ● LIABILITY(負債) ● REVENUE(収益) <p>注： リリース 4.1 より前の Financial Management では、この勘定科目の種別は INCOME と呼ばれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● EXPENSE(支出) ● FLOW(フロー) ● BALANCE(残高) ● BALANCERECURRING(経常残高) ● CURRENCYRATE(通貨レート) ● GROUPLABEL(グループラベル) ● DYNAMIC(動的) <p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	ConsolidationAccountType
Custom1 Top Member、Custom2 Top Member、Custom3 Top Member、Custom4 Top Member	<p>勘定科目で有効なカスタム次元の最上位のメンバー</p> <p>指定したメンバーおよびその子孫のすべてが勘定科目で有効です。</p>	<p>Custom1TopMember</p> <p>Custom2TopMember</p> <p>Custom3TopMember</p> <p>Custom4TopMember</p>

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	このプロパティの値を入力するには、勘定科目およびカスタム次元を関連付ける必要があります。	
Default Parent	勘定科目のデフォルトの親。デフォルトの親の値は派生値であり、値の入力はできません。	DefaultParent
Enable Custom1 Aggregation、 Enable Custom2 Aggregation、 Enable Custom3 Aggregation、 Enable Custom4 Aggregation	勘定科目次元およびカスタム次元が交差するセルで集約できるかどうかを指定します。 このプロパティは、特殊な合計(加算ではない)に使用されます。勘定科目がカスタム次元を集約できる場合はY、できない場合はNを指定します。 注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。	EnableCustom1Aggr EnableCustom2Aggr EnableCustom3Aggr EnableCustom4Aggr
Enable Data Audit	シナリオで、監査可能対象が監査されるかどうかを指定します： ● Y: すべての勘定科目を監査する(Enable Data Audit が FALSE に設定されている勘定科目も監査される。) ● O: Enable Data Audit が TRUE に設定されている勘定科目のみを監査する ● N: すべての勘定科目の監査を使用不可にする	EnableDataAudit
ICP Top Member	勘定科目の ICP 最上位のメンバー 指定したメンバーおよびその子孫のすべてが勘定科目で有効です。 このプロパティの値を入力するには、勘定科目および ICP 次元を関連付ける必要があります。	ICPTopMember
Is Calculated	勘定科目を計算できるかどうかを指定します。 基本レベルの勘定科目のみを計算できます。基本レベルの計算済勘定科目に値を入力できません。勘定科目を計算するにはYを指定し、それ以外の場合はNを指定します。	IsCalculated

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	
Is Consolidated	<p>勘定科目が親勘定科目に連結されているかどうかを指定します。</p> <p>親勘定科目に連結する場合は Y を指定し、親勘定科目に連結しない場合は N を指定します。</p> <p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	IsConsolidated
Is ICP	<p>勘定科目が内部取引勘定科目であるかどうかを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y: 自己 ICP トランザクションを含め、ICP 取引を計上できる場合。 ● N: ICP トランザクションを計上できない場合。 ● R: ICP トランザクションを計上できるが、勘定科目そのものに ICP トランザクションを指定できない場合。 <p>内部取引勘定科目の場合は、調整勘定科目を指定する必要があります。</p>	IsICP
Name	<p>勘定科目の名前(必須)</p> <p>名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始したり、次の文字を含めることはできません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミコロン(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) 	Name

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	● アンパサンド(&)	
Number Of Decimal Places	勘定科目の値に、小数点の右側に表示される桁数(0 から 9) (必須) 注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。	NumDecimalPlaces
Plug Account	内部取引での矛盾を特定するために使用される勘定科目の名前(勘定科目の Is ICP プロパティが選択されている場合に必須) このプロパティの値を入力するには、2 つの勘定科目次元を関連付ける必要があります。	PlugAccount
Security Class	勘定科目データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前(最大 80 文字) このプロパティの値を入力するには、勘定科目およびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。	SecurityClass
Submission Group	送信グループ(0 から 99)。 送信グループが 0 に設定されると、勘定科目が確認プロセスに含まれなくなります。 注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。 デフォルト値: 1	SubmissionGroup
User Defined 1、User Defined 2、User Defined 3	勘定科目のカスタム情報(最大 80 文字) User Defined1、User Defined2 および User Defined3 関数は、このプロパティに格納されたテキストを取得します。	UserDefined1 UserDefined2 UserDefined3
Uses Line Items	勘定科目がライン・アイテムを保持できるかどうかを示します。勘定科目がライン・アイテムを使用する場合は Y を指定し、勘定科目がライン・アイテムを使用しない場合は N を指定します。 注意 ライン・アイテムの詳細を入力した後にこのプロパティを変更すると、格納され	UsesLineItems

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>たライン・アイテムの詳細が勘定科目で有効でなくなる場合があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● このプロパティを Y から N に変更した場合は、データベースに保管されたライン・アイテムの詳細が無効になります。合計のみが表示されます。 ● このプロパティを N から Y に変更した場合、合計額のみが表示されますが、合計とライン・アイテムの詳細情報が一致するように、合計を抽出してそれをライン・アイテムの詳細データとしてロードできます。 	
XBRL Tags	勘定科目の XBRL タグ(最大 225 文字)	XBRLTags

勘定科目の種別の動作

次の表は、システムにおける勘定科目の種別の動作を示しています。たとえば、ASSET 勘定科目は、期間をまたぐ合計は計算されず、REVENUE 勘定科目では年度累計が出力されます。借方が ASSET 勘定科目の場合、入力した値はその勘定科目に加算されます。貸方が ASSET 勘定科目の場合、入力した値はその勘定科目から減算されます。GROUPLABEL を除くすべての勘定科目の種別にはデータが含まれます。

表 44 勘定科目の種別の動作

勘定科目の種別	勘定科目の種別の動作			
	年次累計	借方	貸方	デフォルトの換算
ASSET(資産)	いいえ	加算	減算	DefaultRateForBalance 勘定科目
LIABILITY(負債)	いいえ	減算	加算	DefaultRateForBalance 勘定科目
REVENUE(収益)	はい	減算	加算	DefaultRateForFlow 勘定科目
EXPENSE(支出)	はい	加算	減算	DefaultRateForFlow 勘定科目
FLOW(フロー)	はい	加算	減算	なし
BALANCE(残高)	いいえ	加算	減算	なし

勘定科目の種別	勘定科目の種別の動作			
	年次累計	借方	貸方	デフォルトの換算
BALANCE RECURRING(経常 残高)	いいえ	加算	減算	なし
CURRENCYRATE(通 貨レート)	いいえ	該当なし	該当なし	該当なし
GROUPLABEL(グ ループラベル)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
DYNAMIC(動的)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

異なるタイプの親勘定科目に集約されるとき動作は、勘定科目の種別によって異なります。たとえば、ASSET 勘定科目の値は、親 ASSET および EXPENSE 勘定科目に加算され、親 LIABILITY および REVENUE 勘定科目から減算されます。

注： 下の表では、勘定科目の種別を 1 文字または 2 文字の略号で示しています。

表 45 親勘定科目に集約される場合の勘定科目の種別の動作

勘定科目の種別	親勘定科目のタイプ別の勘定科目の種別の動作									
	A	L	R	E	F	B	BR	C	G	D
ASSET (資産)	加算	減算	減算	加算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
LIABILITY(負債)	減算	加算	加算	減算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
REVENUE(収益)	減算	加算	加算	減算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
EXPENSE(支出)	加算	減算	減算	加算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
FLOW(フロー)	加算	加算	加算	加算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
BALANCE(残高)	加算	加算	加算	加算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ
BALANCE	加算	加算	加算	加算	加算	加算	加算	いいえ	いいえ	いいえ

親勘定科目のタイプ別の勘定科目の種別の動作										
勘定科目の種別	A	L	R	E	F	B	BR	C	G	D
RECURRING(経常残高)										
CURRENTCYRATE(通貨レート)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
GROUP LABEL(グループラベル)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
DYNAMIC(動的)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

注： 上の表の「なし」は、勘定科目の種別が親勘定科目に集約されないことを示します。

勘定科目の種別が親勘定科目に集約される例を次に示します：

```

Total Assets 80
├ Fixed Assets 100
└ Amortization 20

```

この例では、総資産(ASSET 勘定科目)が固定資産(ASSET 勘定科目)および償却(LIABILITY 勘定科目)の親です。勘定科目が親勘定科目に集約されると、固定資産の値 100 が加算され、償却の値 20 が減算されて、結果の総資産の値は 80 になります。

動的な勘定科目の定義

動的な勘定科目は、データが要求されると動的に計算されます。その値は保管されません。最も一般的な動的計算の種類は比率計算です。

- ▶ 動的な勘定科目および計算を定義するには：
 - 1 動的な勘定科目の種別を使用する勘定科目を設定します。
動的にできるのは、これらの勘定科目のみです。

注： 動的な勘定科目では、次の勘定科目プロパティは無視されます: Is Calculated、Is Consolidated、Enable Custom1 Aggregation、Enable Custom2 Aggregation、Enable Custom3 Aggregation、Enable Custom4 Aggregation、Uses Line Items。

- 2 ルール・ファイルに、Sub Dynamic ()セクションを作成します。
- 3 ルール・ファイルで計算を定義します。

カスタム

カスタム次元は、Performance Management Architect の汎用次元タイプで表されます。汎用次元プロパティであるカスタム次元は、汎用 Performance Management Architect 次元をカスタム 1 からカスタム 4 連結次元にマップします。

表 46 カスタム次元のメンバーのプロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	メンバーの説明(最大 80 文字) Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、その別名次元を別の次元に関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成して、その別名次元をカスタム次元に関連付けられます。	Alias
Aggregation Weight	親に集約されるカスタム・メンバーの割合。1 は 100% を意味します。たとえば、集約加重を .5 に設定すると、メンバーの値の 50% だけが親に集約されます。	AggregationWeight
Default Parent	カスタム・メンバーのデフォルトの親。デフォルトの親の値は派生した値で、値を入力できません。	DefaultParent
Is Calculated	基本レベルのカスタム勘定科目が計算されるかどうか 基本レベルのカスタム勘定科目だけが計算できます。基本レベルの計算されたカスタム勘定科目には値を入力できません。カスタム勘定科目を計算するには Y を指定し、それ以外の場合は N を指定します。	IsCalculated
Name	カスタム・メンバーの名前(必須)	Name

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始したり、次の文字を含めることはできません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミコロン(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) ● アンパサンド(&) <p>注: Custom1 次元メンバー名を連結メソッドの名前と同じにできません。</p>	
Security Class	<p>カスタム次元データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前(最大 80 文字)</p> <p>このプロパティに値を入力するには、カスタム次元およびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。</p>	SecurityClass
Submission Group	<p>送信グループ(0 から 99)。</p> <p>デフォルトの空白は、1 に設定されます。送信グループがゼロ(0)に設定されると、カスタム・メンバーは確認プロセスに含まれません。</p>	SubmissionGroup
Switch Sign For Flow	<p>次のように勘定を切り替えた場合に、FLOW 勘定の符号(借方/貸方)を変えるかどうかを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ASSET から LIABILITY へ ● LIABILITY から ASSET へ ● EXPENSE から REVENUE へ ● REVENUE から EXPENSE へ ● BALANCE から FLOW へ ● FLOW から BALANCE へ <p>この勘定科目の符号が切り替えられる場合はY、切り替え</p>	SwitchSignForFlow

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>られない場合は N を指定します。</p> <p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	
Switch Type For Flow	<p>次のように勘定を切り替えた場合に、FLOW 勘定の勘定科目の種別を変えるかどうかを指定します：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ASSET から EXPENSE へ ● EXPENSE から ASSET へ ● LIABILITY から REVENUE へ ● REVENUE から LIABILITY へ ● BALANCE から FLOW へ ● FLOW から BALANCE へ <p>この勘定科目の種別が切り替えられる場合は Y、切り替えられない場合は N を指定します。</p> <p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	SwitchTypeForFlow
User Defined 1、User Defined 2、User Defined 3	<p>カスタム・メンバーのカスタム情報(最大 80 文字)</p> <p>User Defined 1、User Defined 2 および User Defined 3 関数は、このプロパティに保管されたテキストを取得します。</p>	UserDefined1 UserDefined2 UserDefined3

エンティティ

表 47 エンティティの次元のメンバーのプロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	<p>メンバーの説明(最大 80 文字)</p> <p>Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、その別名次元を別の次元に関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成し、その別名次元をエンティティ次元に関連付けられます。</p>	Alias

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Allow Adjustments	このエンティティで仕訳の転記が許可されているかどうかを指定します。このエンティティで仕訳の転記が許可されている場合は Y を指定し、仕訳の転記が許可されていない場合は N を指定します。	AllowAdjs
Allow Adjustments From Children	親エンティティで子からの仕訳の転記が許可されているかを指定します。子からの仕訳の転記が許可されている場合は Y を指定し、子からの仕訳の転記が許可されていない場合は N を指定します。	AllowAdjFromChildren
Currency	エンティティのデフォルト通貨を指定します。このプロパティの値は必須です。 このプロパティに値を入力するには、エンティティおよび通貨次元を関連付ける必要があります。 注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。	Currency
Default Parent	エンティティのデフォルトの親を指定します。デフォルトの親の値は派生値なので値を入力できません。	DefaultParent
Holding Company	エンティティの持株会社を指定します。エンティティの名前を指定するか<blank>にできます。 このプロパティに値を入力するには、2つのエンティティ次元を関連付ける必要があります。	HoldingCompany
Is ICP	エンティティが内部取引エンティティかどうかを指定します。エンティティが内部取引エンティティの場合は Y を指定し、内部取引エンティティでない場合は N を指定します。エンティティが内部取引エンティティの場合は、[ICP Entities] の下の ICP 次元の POV に表示されます。 デフォルト値: N	IsICP
Name	エンティティの名前(必須) 名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始することはで	Name

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>きず、ALL という単語にすることもできません。また次の文字は使用できません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミicolon(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) ● アンパサンド(&) 	
Security As Partner	<p>ICP エンティティのセキュリティ・クラスの名前を指定します。このプロパティを使用して ICP 次元のエンティティをセキュリティで保護できます。</p> <p>このプロパティに値を入力するには、エンティティおよびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。</p>	SecurityAsPartner
Security Class	<p>エンティティ・データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前(最大 80 文字)</p> <p>このプロパティに値を入力するには、エンティティおよびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。</p>	SecurityClass
User Defined 1、User Defined 2、User Defined 3	<p>エンティティのカスタム情報(最大 80 文字)</p> <p>User Defined 1、User Defined 2 および User Defined 3 関数は、このプロパティに保管されたテキストを取得します。</p>	UserDefined1 UserDefined2 UserDefined3

シナリオ

表 48 シナリオ次元プロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	<p>メンバーの説明(最大 80 文字)</p> <p>Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、別名次元を別の次元と関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成し、その別名次元をシナリオ次元に関連付けられます。</p>	Alias
Consolidate YTD	<p>連結のビューを指定します。このプロパティの値は必須です。YTD には Y を、期別には N を指定します。</p>	ConsolidateYTD
Default Frequency	<p>シナリオの、データを入力できる期間を指定します。このプロパティの値は必須です。</p> <p>たとえば、Monthly という値は、月別でしか入力データを抽出できず、四半期または年間では抽出できないことを表す。</p> <p>このプロパティに値を入力するには、シナリオ次元および表示次元を関連付けます。</p>	DefaultFrequency
Default Parent	<p>シナリオのデフォルトの親を指定します。デフォルトの親の値は派生値なので値を入力できません。</p>	DefaultParent
Default View	<p>視点(POV)バーで<Scenario View>を選択した場合、使用するビューを指定します。このプロパティの値は必須です。YTD または期別を指定します。</p> <p>シナリオのデフォルト・ビューを変更し、ライン・アイテムの詳細を入力する場合、最初にライン・アイテムの詳細を抽出して保存する必要があります。次に、ビューを変更する前にライン・アイテムの詳細を削除します。新規デフォルト・ビューを一致させるには、それをロードする前に抽出したライン・アイテムの詳細を変更する必要があります。</p>	DefaultView

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Default Frequency For IC Transactions	<p>内部取引のデフォルトの頻度を指定します。このプロパティは有効な頻度で、最大 20 文字まで指定できます。このプロパティのデフォルトは <blank> です。</p> <p>このプロパティに値を入力するには、シナリオ次元および表示次元を関連付けます。</p>	DefFreqForICTrans
Enable Data Audit	<p>シナリオを監査対象にするかどうかを指定します。勘定科目またはシナリオのこのプロパティは監査できる対象を決定します。次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y: すべての勘定科目を自動的に監査します。Enable Data Audit が FALSE に設定されている勘定科目も監査されます。 ● O: Enable Data Audit が TRUE に設定されている勘定科目のみを監査します。 ● N: すべての勘定科目の監査を使用不可にします。 <p>デフォルト値: N</p>	EnableDataAudit
Enable Process Management	<p>プロセス管理機能を使用可能にするかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y: プロセス管理を使用可能にします。 ● N: プロセス管理を使用不可にします。 ● A: プロセス管理および電子メールによる警告を使用可能にします。 <p>デフォルト値: N</p>	HfmEnableProcessManagement
Maximum Review Level	<p>シナリオに最大のプロセス管理確認レベルを指定します。確認レベルを 1 から 10 で指定します。このプロパティの値は必須です。</p>	MaximumReviewLevel
Name	<p>シナリオの名前(必須)</p> <p>名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始したり、次の文字を含めることはできません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) 	Name

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミコロン(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) ● アンパサンド(&) 	
Phased Submission Start Year	<p>開始年を指定します。 Performance Management Architect でアプリケーションを配置するか、従来の Financial Management アプリケーションにメタデータをロードすることで、開始年を設定できます。この設定により、プロセス管理のフェーズ化された送信を開始するシナリオの年に対する柔軟な設定を使用可能にします。</p>	PhasedSubStartYear
Security Class	<p>シナリオのデータにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前(最大 80 文字)</p> <p>このプロパティに値を入力するには、シナリオ次元およびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。</p>	SecurityClass
UDA	次元に定義されたユーザー定義属性。	UDA
User Defined 1、User Defined 2、User Defined 3	<p>シナリオのカスタム情報(最大 80 文字)</p> <p>User Defined 1、User Defined 2 および User Defined 3 関数は、このプロパティに保管されたテキストを取得します。</p>	UserDefined1 UserDefined2 UserDefined3
Uses Line Items	<p>シナリオにライン・アイテムを含めることができるかどうかを指定します。シナリオがライン・アイテムを受け入れることができる場合は Y、シナリオがライン・アイテムを受け入れることができない場合は N を指定します。</p> <p>注： ライン・アイテムの詳細を入力した後でこのプロパティを変更すると、保管され</p>	UsesLineItems

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>ているライン・アイテムの詳細が、そのシナリオに対して有効ではなくなる場合があります。次のような状態になります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ライン・アイテムを受け入れていたシナリオを、ライン・アイテムを受け入れないように変更すると、データベースに保管されたライン・アイテムの詳細が無効になります。合計のみが表示されます。 ● ライン・アイテムを受け入れていなかったシナリオを、ライン・アイテムを受け入れるように変更すると、そのシナリオの合計量の情報だけが存在し、対応するライン・アイテムの詳細情報は存在しません。合計を抽出してから、それをライン・アイテムの詳細データとしてロードし、合計をライン・アイテムの詳細情報に一致させられます。 	
Zero View For Adjustments	その期間で不足している調整済データ値を解釈する方法を指定します。このプロパティの値は必須です。YTD または 期別を指定します。	ZeroViewForAdj
Zero View For Non-adjustments	その期間で不足している未調整データ値を解釈する方法を指定します。このプロパティの値は必須です。YTD または 期別を指定します。	ZeroViewForNonAdj

アプリケーション

アプリケーション・プロパティは、従来の Financial Management メタデータ・ファイルのアプリケーション設定セクションと同じです。アプリケーション・プロパティは Financial Management アプリケーション全体に適用されます。アプリケーション・プロパティは、アプリケーションの次の情報を決定します:

- 組織が動的かどうか、期間別組織を使用するかどうか?
- どの次元にセキュリティを設定するか?
- どのデフォルトの換算レートを使用するか?
- ICP 加重はどの程度か?
- 連結ルールを適用するかどうか?

- デフォルト通貨は何か?

表 49 アプリケーション・プロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Consolidation Rules	<p>アプリケーションで連結ルールがサポートされるかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y:ユーザー定義ルールの Consolidate()ルーチンに記載されているルールを使用します。 ● R:値次元の比例値を算出します。比例値は保管されないので注意してください。 ● N:デフォルトの連結および消去を使用します。 <p>デフォルト値: N</p>	ConsolidationRules
Default Currency	<p>アプリケーションのデフォルト通貨を指定します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p>	DefaultCurrency
Default Rate For Balance Accounts	<p>ASSET または LIABILITY 勘定科目で使用する換算レートを含む勘定科目を指定します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p>	DefaultRateForBalanceAccounts
Default Rate For Flow Accounts	<p>REVENUE または EXPENSE 勘定科目で使用する換算レートを含む勘定科目を指定します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p>	DefaultRateForFlowAccount
Default Value For Active	<p>アプリケーション内のエンティティがデフォルトでアクティブか、デフォルトで非アクティブかを指定します。非アクティブのエンティティはその親に連結されません</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p> <p>非アクティブの場合は 0、アクティブの場合は 1 を指定します。</p>	DefaultValueForActive
Enable Metadata Security Filtering	<p>アプリケーションのユーザーがすべての次元のメンバーを参照するか、アクセス権のあるメンバーだけを参照するかを指定します。システムは次の次元をフィルタできます:</p>	EnableMetadataSecurityFiltering

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● シナリオ ● エンティティ ● 内部取引パートナ(ICP) ● 勘定科目 ● Custom1、Custom2、Custom3、Custom4 <p>ユーザーがアクセス権を持つ次元メンバーだけを表示するには Y を、アプリケーション内のすべての次元を表示するには N を指定します。</p> <p>デフォルト値は N です。</p>	
ICP Entities Aggregation Weight	<p>値次元の[ICP Top]メンバーに集約される、内部取引パートナ・エンティティの[ICP Entities]の比率を指定します。</p> <p>百分率の値を、小数(1.0 が 100 パーセント)で表します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p> <p>デフォルト値: 1</p>	ICPEntitiesAggregationWeight
Maximum Cell Text Size	<p>セル・テキストで使用できる最大文字数を指定します。</p> <p>有効な値は、制限なしを示す -1 または 2,147,483,647 までの正数です。</p> <p>デフォルト値: 1900</p>	MaxCellTextSize
Maximum Document Attachment Size	<p>添付文書の最大サイズをバイト単位で指定します。</p> <p>有効な値は、制限なしを示す -1 または 2,147,483,647 までの正数です。</p>	MaxDocAttachmentSize
Maximum Number of Document Attachments	<p>各ユーザーが添付できる文書の最大数を指定します。</p> <p>有効な値は、制限なしを示す -1 または 2,147,483,647 までの正数です。</p>	MaxNumDocAttachments
Node Security	<p>ノードのセキュリティ・アクセス権のタイプを指定します。</p> <p>有効な値は親かエンティティです。</p> <p>エンティティのセキュリティ・アクセス権に基づいてノードのデータをチェックする場合はエンティティ、親のセキュリティ・アクセス権に基づいてノードのデータを</p>	NodeSecurity

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>チェックする場合は親を指定します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p>	
Org By Period Application	<p>以前の連結構造と新しい連結構造をアプリケーションで共存させることができるかどうかを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y:アプリケーションで新旧の組織構造を許可します ● N:アクティブな組織構造のみを許可します 	OrgByPeriodApplication
Use PVA For Balance Accounts	<p>BALANCE 勘定のデフォルトの換算メソッドを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y:期別値(PVA)換算メソッドを使用します ● N: 為替レート値(VAL)換算メソッドを使用します 	UsePVAForBalanceAccounts
Use PVA For Flow Accounts	<p>FLOW 勘定科目のデフォルトの換算メソッドを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y:期別値(PVA)換算メソッドを使用します ● N: 為替レート値(VAL)換算メソッドを使用します 	UsePVAForFlowAccounts
Security For Accounts	<p>アプリケーションの勘定科目にセキュリティを設定するかどうかを指定します。</p> <p>セキュリティを設定する場合はY、設定しない場合はNを指定します。</p>	SecurityForAccounts
Security For Custom1、Security For Custom2、Security For Custom3、Security For Custom4	<p>アプリケーションのカスタム次元にセキュリティを設定するかどうかを指定します。アプリケーションのカスタム次元にセキュリティを設定する場合はY、設定しない場合はNに指定します。</p>	<p>SecurityForCustom1</p> <p>SecurityForCustom2</p> <p>SecurityForCustom3</p> <p>SecurityForCustom4</p>
Security For Entities	<p>アプリケーションのエンティティにセキュリティを設定するかどうかを指定します。アプリケーションのエンティティにセキュリティを設定す</p>	SecurityForEntities

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	る場合はY、設定しない場合はNに指定します。	
Security For ICP	アプリケーションの ICP メンバーにセキュリティを設定するかどうかを指定します。アプリケーションの ICP メンバーにセキュリティを設定する場合はY、設定しない場合はNに指定します。	SecurityForICP
Security For Scenarios	アプリケーションのシナリオにセキュリティを設定するかどうかを指定します。アプリケーションのシナリオにセキュリティを設定する場合はY、設定しない場合はNに指定します。	SecurityForScenarios
Validation Account	検証に使用する勘定科目の名前を指定します。検証に使用する勘定科目は、既存の勘定科目で、カスタム次元の [ICPTop] との有効な交差部分が必要です。	ValidationAccount
Support Submission Phase for Account	アプリケーション内の勘定科目で、プロセス管理のフェーズ化された送信がサポートされるかどうかを指定します。 有効な値は TRUE または FALSE です。 デフォルト値: FALSE	SupportSubmissionPhaseForAccount
Support Submission Phase for Custom1、Support Submission Phase for Custom2、Support Submission Phase for Custom3、Support Submission Phase for Custom4	アプリケーション内のカスタム・メンバーで、プロセス管理のフェーズ化された送信がサポートされるかどうかを指定します。 有効な値は TRUE または FALSE です。 デフォルト値: FALSE	SupportSubmissionPhaseForCustom1 SupportSubmissionPhaseForCustom2 SupportSubmissionPhaseForCustom3 SupportSubmissionPhaseForCustom4
Support Submission Phase for ICP	アプリケーション内の ICP メンバーで、プロセス管理のフェーズ化された送信がサポートされるかどうかを指定します。 有効な値は TRUE または FALSE です。 デフォルト値: FALSE	SupportSubmissionPhaseForICP
Validation Account 2-9	検証勘定科目は、プロセス単位を次の確認レベルに上げる前に、値がゼロに等しいことを確認するために使用されず。	ValidationAccount2-9

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	たとえば、Validation Account3には送信フェーズ 4 のための有効な勘定科目が必要です。	
FDM Application Name	FDM アプリケーションの名前です。	FdmAppName

期間別組織

期間別組織機能によって、同じアプリケーション内での最新の連結構造を使用可能にして過去の構造と共存させられます。

組織構造は、買収、売却、合併および再編成など、様々な理由で変更されます。組織変更をサポートするために、Financial Management はシステム勘定科目、アクティブを使用して、子のアクティブまたは非アクティブ連結ステータスを親に反映します。アクティブ勘定科目はエンティティ階層のフィルタとして動作します。アクティブ勘定科目は、親レベルでデータを保管し、ICP 次元を使用して子に関する情報を保管する内部取引勘定科目です。

親の子に対応する ICP メンバーでは、アクティブ勘定科目は、子が現在の年、シナリオおよび期間のアクティブ連結メンバーと見なされるべきかどうかをシステムに指定します。アクティブ勘定科目が 0 の ICP メンバーに対応する子は、非アクティブな子と見なされ、連結されません。アクティブ勘定科目が 1 の ICP メンバーに対応する子は、アクティブな子とみなされ、連結されます。アクティブ勘定科目の値は表示または変更できます。アクティブな子データに対する変更は親に影響を与え、非アクティブな子への変更は親に影響を与えません。

Default Value For Active プロパティは、アクティブ勘定科目が空白の子のステータスを制御します。このため、すべての親子交差にアクティブまたは非アクティブのフラグを付ける必要はありません。デフォルトでは、すべての子は特に指定がないかぎり親に対してアクティブです。

連結メソッド

表 50 連結メソッドのプロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	メンバーの説明(最大 80 文字) Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、別名次元を別の次元と関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成し、その別名次元を連結メソッド次元に関連付けられます。	Alias
Name	連結メソッドの名前(必須)	Name

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<p>名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始したり、次の文字を含めることはできません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミicolon(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) ● アンパサンド(&) 	
Control	<p>計算ルーチンで使用されるコントロールのタイプに対応するしきい値を指定します。このプロパティに対して次のいずれかの値を選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Blank ● No ● Limited ● Full 	Control
Is Holding Method	<p>連結メソッドを持株会社を使用するかどうかを指定します。</p> <p>このメソッドを持株会社を使用する場合はY、持株会社には別のメソッドを使用する場合はNを指定します。</p>	IsHoldingMethod
Percent Consol	<p>出資比率計算ルーチンに適用する連結比率を指定します。</p> <p>次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● POWN ● POWNMIN ● PERCENTAGE <p>注： 値として PERCENTAGE を選択する場合、Percent Consol Value プロパティに値を入力する必要があります。</p>	PercentConsol

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Percent Consol Value	<p>出資比率計算ルーチンに適用する連結比率値を指定します。</p> <p>注： このプロパティは、Percent Consol プロパティの値が PERCENTAGE の場合のみ、システムによって使用されます。</p> <p>1 から 100 の値を指定します。</p>	PercentConsolValue
To Percent Control	<p>支配比率の範囲の上限を指定します。出資比率計算ルーチンで使用されます。</p> <p>0-100 の値を指定します。</p> <p>注： メソッドのレコードの 1 つで、100 に指定する必要があります。</p>	ToPercentControl
To Percent Control Compare	<p>支配比率の上限の境界が範囲に含まれるかどうかを指定します。出資比率計算ルーチンおよび To Percent Control プロパティで使用されます。このプロパティは、Used By Calc Routine プロパティが N の場合はオプションです。</p> <p>このプロパティには < または <= を指定します。</p>	ToPercentControlComp
Used By Calc Routine	<p>このメソッドを自動出資比率計算ルーチンで使用するかどうかを指定します。</p> <p>このメソッドを出資比率の計算に使用する場合は Y、使用しない場合は N を指定します。</p>	UsedByCalcRoutine

連結メソッドの使用方法

連結メソッドは、連結および出資比率の計算プロセスで使用されます。

メタデータで連結メソッドを定義すると、システムは、カスタム 1 次元の [ConsolMethod] システム・リストを自動的に生成します。システム・リストは、メタデータの連結メソッドのセクションで定義されるすべてのメソッドで構成されます。

連結する際に、連結メソッドを使用するエンティティに割り当てる方法は 2 つあります。メソッドはデータ・ロードまたはデータ入力を使用して手動で割り当てられます。また、エンティティに割り当てられた最終的な支配比率に基づいた出資比率の計算ルーチンで割り当てることもできます。

手動での連結メソッドの割当て

連結メソッドの情報を手動で入力するには、次の情報のあるデータ・グリッドを作成します:

POV: シナリオ、年、期限、ビュー、エンティティ、値、勘定科目、C2、C3、C4

シナリオ: 適用可能なシナリオ

年: 適用可能な年

期間: 適用可能な期間

エンティティ: 親エンティティ

値: [該当なし]

勘定科目: [Method]という名前の、システム生成の勘定科目

C2: [なし]

C3: [なし]

C4: [なし]

行: ICP エンティティ(親の場合は、システム・リスト[ICP Entities]を使用するか、選択した ICP エンティティのユーザー定義リストを使用できます。)

列: カスタム 1(システム生成のリスト[ConsolMethods]を使用する必要があります。)

メソッド割当て情報は、親エンティティのデータ・ファイルの勘定科目メソッドに保管されます。各親の子では、連結メソッドの割当てがシステムによって ICP 次元に保管されます。割り当てられたメソッドは、子が親に連結されるときに使用されます。

グリッドの交差では、ICP エンティティへのメソッドの割当てを示すために 1 を使用します。たとえば、親グループに 2 つの子、A および B があり、A にグローバル・メソッド、B に資本メソッドを割り当てる場合、グローバル・メソッドとエンティティ A の交差に 1 を入力し、資本メソッドおよびエンティティ B の交差に 1 を入力します。

通貨

表 51 通貨次元でのメンバーのプロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	<p>メンバーの説明(最大 80 文字)</p> <p>Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、別名次元を別の次元と関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成し、その別名次元</p>	Alias

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	を通貨次元に関連付けられません。	
Display In ICT	<p>内部取引モジュールのドロップダウン・リストに通貨を表示するかどうかを指定します。</p> <p>通貨を表示する場合は Y、表示しない場合は N を指定します。</p>	DisplayInICT
Name	<p>通貨の名前(必須)</p> <p>名前は、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。スペースで開始したり、次の文字を含めることはできません:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピリオド(.) ● プラス符号(+) ● マイナス符号(-) ● アスタリスク(*) ● スラッシュ(/) ● シャープ(#) ● カンマ(,) ● セミコロン(;) ● アット・マーク(@) ● 二重引用符(") ● 中かっこ({}) ● アンパサンド(&) 	Name
Scale	<p>小数点の位置を指定して、金額を表示および保管するときの位取りを設定します。</p> <p>このプロパティの値は必須です。</p> <p>為替レートの入力方法を決定します。このプロパティには、次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空白=なし ● 0 = 1 ● 1 = 10 ● 2 = 100 ● 3 = 1000 ● 4=1 万 ● 5=10 万 ● 6 = 100 万 ● 7=1 千万 	Scale

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● 8=1 億 ● 9 = 10 億 	
Translation Operator	<p>内部取引の換算を指定します。</p> <p>デフォルトは空白です。</p> <p>次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● D:取引通貨をレートで除算して現地通貨を算出します。 ● M:取引通貨をレートで乗算して現地通貨を算出します。 ● <blank>:デフォルトで D が使用されます。 	TranslationOperator

カスタム 1 およびカスタム 2 次元では、システム・メンバー・リスト [Currencies] が使用できます。アプリケーションに追加する通貨は、[Currencies] メンバー・リストに追加されます。[Currencies] リストにより、通貨のペアに対する通貨換算レートのエントリが使用可能になり、非通貨メンバーをフィルタ処理する方法が提供されます。

システム生成の勘定科目

アプリケーションを作成すると、そのアプリケーションの連結および出資比率のシステム勘定科目が自動的に作成されます。

注： システム勘定科目で変更できるのは、説明、セキュリティ・クラスおよび小数点の位置のみです。システム勘定科目のその他のプロパティは定義済で変更できません。

連結勘定

次のシステム勘定科目は、勘定科目次元の各親に必要で、連結プロセスで使用されます。

注： 連結で使用されるすべてのシステム勘定科目(アクティブ勘定科目以外)は、BALANCE 勘定科目です。アクティブ勘定科目は BALANCERECURRING 勘定科目です。

表 52 連結のシステム勘定科目

連結のシステム勘定科目	値の説明
アクティブ	親に対する子の連結ステータス。子は親に連結されている場合は Yes、子が親に連結されていない場合は No。
[PCON]	連結比率。エンティティの親に連結されるエンティティの値の割合。0 を含む -100 から 100 までの正数または負数。デフォルト値は 100 です。 注： 後続の期間については 0 が最初に表示されるため、すべての後続の期間において比率を入力する必要があります。
[POWN]	他のエンティティに所有されているエンティティの共有に基づいて計算された出資比率。0 から 100 までの正数。デフォルト値は 100 です。
[DOWN]	直接出資比率。0 から 100 までの正数。デフォルト値は 100 です。
[PCTRL]	他のエンティティに所有されている議決権株式に基づいて計算された支配比率。0 から 100 までの正数。デフォルト値は 100 です。
メソッド	エンティティに割り当てる連結メソッド。<該当なし>、または使用可能なメソッドのリストから選択したものを指定します。
Consol1、 Consol2、 Consol3	連結メソッド。0 から 255 の間の数値です。

出資比率勘定科目

出資比率の計算には、次のシステム勘定科目が使用されます。

注： 出資比率の計算に使用されるシステム勘定科目は、すべて BALANCE 勘定です。

表 53 出資比率のシステム勘定科目

出資比率のシステム勘定科目	値の説明
SharesOwned	所有株式の総数。正数または 0 で、デフォルト値は 0 です。 注： 所有株式の総数は、未払株の総数以下であることが必要です。
VotingOwned	所有議決権株の数。正数または 0 で、デフォルト値は 0 です。 注： 所有議決権株の総数は、未払議決権株の総数以下であることが必要です。
SharesOutstanding	発行済株式の総数、または発行済株式の割合。正数または 0 で、デフォルト値は 0 です。 注： 発行済株式の数または比率を入力します。比率の場合は 100 を入力します。
VotingOutstanding	発行済議決権株の数。正数または 0 で、デフォルト値は 0 です。

出資比率のシステム勘定科目	値の説明
	注：発行済議決権株の数または割合を入力します。割合の場合は100を入力します。
Shares%Owned	システムによって計算されます。
Voting%Owned	システムによって計算されます。

内部取引パートナーの設定

内部取引は、内部取引パートナー(ICP)次元全体で管理されます。ICP次元は、1つの勘定科目に対して存在するすべての内部取引残高のコンテナを表します。ICPは、内部取引の詳細を追跡および消去するために、勘定科目次元およびカスタム次元を組み合わせる使用される予約済の次元です。

内部取引用にアプリケーションを設定するには、次のアクションを実行する必要があります：

- 内部取引が実行される勘定科目と、各内部取引勘定科目(勘定科目メタデータの Is ICP プロパティおよび Plug Account プロパティ)の調整勘定科目を示します。
- 内部取引を実行するエンティティを示します(エンティティ・メタデータの Is ICP プロパティ)。

内部取引を作成する場合、各グループに少なくとも1つの内部取引勘定科目および調整勘定科目が必要です。勘定科目に Is ICP プロパティを選択することで、その勘定科目を内部取引勘定科目に指定します。勘定科目が内部取引と指定され、内部取引が入力されると、連結プロセスにより [Elimination] 値次元メンバーに消去または反転するエントリが生成されます。

調整勘定科目は、消去の完了時に2つの内部取引勘定科目の間の差分を保管します。調整勘定科目は、ICP 勘定科目として設定できます。調整勘定科目を ICP によって詳細化するには、Is ICP プロパティを Y または R に設定し、システムが消去した内容に対応する ICP メンバーに書き込むようにします。調整勘定科目を ICP によって詳細化しない場合は、Is ICP プロパティを N に設定して、システムが消去内容を [ICP 該当なし] に書き込むようにします。連結の間に、有効な内部取引エンティティの間のトランザクションは消去されます。

表 54 システム生成の ICP 要素

システム生成の ICP 要素	値の説明
[ICP Top]	最上位内部取引メンバーを指定します。
[ICP None]	内部取引メンバーが使用されないことを指定します。
[ICP Entities]	内部取引が発生するエンティティを示します。

表 55 ICP プロパティ

プロパティ・ラベル	値の説明	プロパティ名
Alias	メンバーの説明(最大 80 文字) Alias プロパティを使用するには、別名次元を作成し、プロパティを定義して、別名次元を別の次元と関連付けます。たとえば、別名次元を英語、フランス語およびイタリア語の値で作成し、その別名次元を ICP 次元に関連付けられます。	Alias
Default Parent	ICP のデフォルトの親。デフォルトの親値は派生値で、値を入力できません。	DefaultParent
Name	ICP の名前(必須) 名前が定義され、変更できません。	Name
Security Class	ICP データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前(最大 80 文字) このプロパティに値を入力するには、ICP およびセキュリティ・クラス次元を関連付ける必要があります。	SecurityClass
Submission Group	送信グループ(0 から 99)。 デフォルトは空白で、1 に設定されます。送信グループがゼロ(0)に設定される場合、ICP は確認プロセスに含まれません。	SubmissionGroup

システム生成の値メンバーの編集

アプリケーションを作成すると、そのアプリケーションの値メンバーが自動的に作成されます。

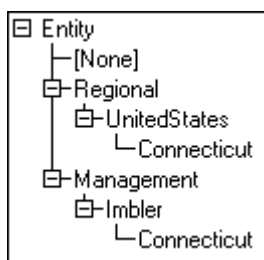
注： 値メンバーの説明のみを変更できます。その他のすべてのプロパティは定義済で変更できません。

メタデータをロードすると、Financial Management はアプリケーション内の各通貨について、CurrencyName、CurrencyName Adjs および CurrencyName Total の 3 つの値次元メンバーを自動的に作成します。ここで、CurrencyName は通貨ラベルです。たとえば、通貨が USD の場合、Financial Management は値次元メンバーとして USD、USD Adjs および USD Total を作成します。

セキュリティに基づくメタデータのフィルタ

セキュリティに基づいてメタデータをフィルタする場合、ユーザーは、アクセス権を持つシナリオ、エンティティ、ICP、勘定科目およびカスタム 1 からカスタム 4 までの次元の要素のみを参照します。メタデータのフィルタ処理は、`EnableMetadataSecurityFiltering` プロパティに Y を指定してアプリケーション・レベルで設定します。ユーザーが階層表示できる要素については、セキュリティ・クラスを割り当て、ユーザーにセキュリティ・クラスに対するメタデータ・アクセス権を付与します。

ユーザーは、アクセス権を持つメンバーの親および祖先に暗黙的なアクセス権があります。暗黙的なアクセスでは、階層ツリー構造内の祖先および親を参照できますが、それらにアクセスできません。たとえば、次のツリー構造で、ツリーには親(UnitedStates および Imbler)および祖先(Management および Regional)が表示されていますが、ユーザーは Connecticut にのみアクセスできます。



メタデータの参照整合性

Financial Management では、アプリケーションで参照整合性の問題が発生しないように、メタデータを変更する前に、変更がアプリケーションの現在の状態で有効かどうかを確認されます。

メタデータをロードする場合、システムはメタデータ・ロード・ファイルをアプリケーション内のメタデータ要素と比較します。すべての変更は記録され、一部の変更は既存のデータに対して確認されます。参照整合性の問題を引き起こす変更は行えません。

注： メタデータをロードするときは、必ず「整合性の確認」オプションを選択してください。

参照整合性に影響を与えるメタデータ・プロパティの変更

次の表は、ロードするメタデータ・ファイルに対してシステムが既存のデータをチェックする必要がある、メタデータ・プロパティでの特定の変更について示しています。参照整合性に影響を与えるメタデータ・プロパティのみが表にリストされています。

表 56 メタデータの参照整合性チェック

次元	メタデータ・プロパティの変更	メタデータをロードできない場合の条件
勘定科目	Is Calculated (N から Y)	勘定科目に仕訳またはテンプレートが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
	Is ICP (Y から R)	勘定科目および ICP=<エンティティ>に仕訳またはテンプレートが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
	Is ICP (Y から N または R から N)	勘定科目および ICP <> [ICP None]に仕訳またはテンプレートが存在するかどうかチェックされます(勘定科目は内部取引勘定科目でなく、[ICP None]以外の ICP メンバーが無効なため)。存在する場合は、メタデータはロードされません。
	Uses Line Items (Y から N または N から Y)	シナリオおよび勘定科目に標準のデータが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。 注： Y から N の場合は、ライン・アイテムの詳細へのアクセスは許可されません。
カスタム	Is Calculated (N から Y)	このカスタム次元に仕訳またはテンプレートが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
エンティティ	通貨	<Entity Currency Adjs>または<Parent Currency Adjs>に仕訳が存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
	Allow Adjustments (Y から N) Allow Adjustments From Children (Y から N)	Allow Adjustments の場合は、エンティティに<Entity Curr Adjs>または<Parent Currency Adjs>の仕訳が存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。 Allow Adjustments From Children の場合は、エンティティに [Parent Adjs]または[Contribution Adjs]の仕訳が存在するかどうかチェックされます。存在

次元	メタデータ・プロパティの変更	メタデータをロードできない場合の条件
		する場合は、メタデータはロードされません。
	Is ICP (Y から N)	ICP 次元で使用されるエンティティが仕訳内にあるかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
シナリオ	Zero View For Adjustments	シナリオに仕訳が存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
	Uses Line Items	指定されたシナリオに対してこのプロパティがオンに設定された勘定科目に標準データが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。
アプリケーション	Default Value For Active	[Parent Adjs]または[Contribution Adjs]に仕訳または反復テンプレートが存在するかどうかチェックされます。存在する場合は、メタデータはロードされません。

システムは、アプリケーション内のロード・ファイルおよびメタデータ間の無効な視点もチェックします。次元メンバーがロード・ファイルに存在しないがアプリケーションの仕訳に存在する場合、メタデータはロードされません。

メタデータ・ログ・ファイルの参照整合性エラー

参照整合性エラーは、メタデータのログ・ファイルの、次の項に表示されます:

```
Metadata referential integrity check started at
```

参照整合性の確認セクションの各行は、ロード・ファイル内のメタデータ整合性エラーを示します。整合性のチェック中に検出されたエラーは次のフォーマットで表示されます:

```
Journals::SINGLECA1 Scenario::Actual Year::1999
Value::[Contribution Adjs]
Period::January has 1 occurrences of
Changed::[SCENARIO::Actual::ZeroViewForAdj: Periodic -> YTD]
```

この例は、メタデータ整合性エラーが、Scenario Actual、Year 1999、Value [Contribution Adjs]、Period January の視点を持つ SINGLECA1 仕訳で発生したことを示しています。エラーは、Actual シナリオの ZeroViewForAdj プロパティが Periodic から YTD に変更されたことを示しています。仕訳は Actual シナリオのために存在するので、この変更はできません。

次元の名前付けの制限

連結次元に名前を付けるときは、次のルールに従う必要があります:

- 名前に使用できる文字数は最大 80 文字です。
- 名前を、アンダースコア、空白文字または英数字以外の文字で始められません。2 番目以降の文字には、空白文字、英数字以外の文字およびアンダースコアを含む英数字を使用できます。
- 次元名に次の語を含めないでください

ALL AND ASSIGN AVERAGE CALC	GENRANGE GROUP GT ID IDERROR	OR PAREN PARENPARAM PERCENT
CALCMBR COPYFORWARD	INTEGER LE LEVELRANGE	PLUS RELOP SET SKIPBOTH
CROSSDIM CURMBRNAME DIM	LOOPBLOCK LOOPPARAMS LT MBR	SKIPMISSING SKIPNONE SKIPZERO
DIMNAME DIV DYNAMIC	MBRNAME MBRONLY MINUS	TO LOCALRATE TRAILMISSING
EMPTYPARAM EQ EQOP EXCEPT EXP	MISSING MUL MULOP NE NON	TRAILSUM UMINUS UPPER
EXPERROR FLOAT FUNCTION GE	NONINPUT NOT	VARORXMBR XMBRONLY \$
GEN		\$UNIVERSE\$\$ #MISSING #MI

9.3.1 で作成された連結フラット・ファイルの使用方法

以前のリリースで作成された .ads フラット・ファイルを使用する場合、現在のリリースで使用する前に手動で更新する必要があります。フラット・ファイルで次の更新を行います:

- .ads ファイルのシナリオ次元に、PhasedSubStartYear を追加する必要があります。
- .ads ファイルから DefaultParent を除去する必要があります。

Financial Management 9.3.1 および Performance Management Architect の操作

Financial Management 9.3.1 を、現在のリリースの Performance Management Architect で使用する場合は、このリリースで使用可能なすべての機能を使用できます。Performance Management Architect、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition および Shared Services をアップグレードする標準プロセスに従います。その他の手順は必要ありません。

B

プランニング次元の操作

この付録の内容

すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ	543
複数のプランニング次元に共通するプロパティ	547
勘定科目	552
通貨	557
エンティティ	559
期間	560
シナリオ	561
バージョン	562
年	564
カスタム次元	565
Planning の別名	565
Planning の属性	565
Planning の UDA	566
Planning 9.3.1 および Performance Management Architect の操作	566
Essbase での作業の考慮事項	566
アプリケーションの命名の制限(Essbase)	568
次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限	569
Planning のフラット・ファイルの操作	570

すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Plan Name	最大 8 文字。Planning アプリケーションには 5 個までのプランのタイプを指定できます。プラン 1、プラン 2 およびプラン 3 は、Planning の標準のプラン・タイプです。(他のプラン・タイプは、別のモジュールに付属しています。『Oracle Hyperion Workforce Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Capital Asset Planning 管理者ガイド』を参照。)	Plan1Name、Plan2Name、Plan3Name、PlanWorkforceName、PlanCapexName

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	デフォルト値: プラン 1: TRUE、 プラン 2: TRUE、プラン 3: TRUE、要員: FALSE、資本資産: FALSE	
Valid For Plan	<p>標準的な Planning アプリケーションでは、3 個までのプラン・タイプを指定できます。(他のプラン・タイプについては、『Oracle Hyperion Workforce Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Capital Asset Planning 管理者ガイド』を参照。)</p> <p>各プラン・タイプに対して Essbase データベースが作成されます。勘定科目、エンティティおよび他の次元を作成するとき、それらをプラン・タイプと関連付けて、各プラン・タイプのデータベースにはそのプラン・タイプに対応する次元、メンバーおよびデータ値のみが含まれるようにします。これにより、最適なアプリケーション設計、サイズおよびパフォーマンスが実現されます。少なくとも 1 つのプラン・タイプを設定する必要があります。(プラン・タイプ数は組織での必要性に依存します。)アプリケーションを作成した後は、プラン・タイプ数を削減したり、プラン・タイプ名を変更したりはできません。</p> <p>注意 アプリケーションにデータを入力した後で次元メンバーのプラン・タイプを選択解除すると、アプリケーションのリフレッシュ時にデータが失われる場合があります。勘定科目メンバーでは、選択解除されたプラン・タイプがソースのプラン・タイプの場合、データが失われます。</p> <p>プラン・タイプは親メンバーから子メンバーに継承されます。親メンバーに対して別のプラン・タイプを選択すると、階層内のすべての子孫メンバーも更新されます。特定のメンバーに異なるプラン・タイプを設定するには、それらを個別に選択して異なるプロパティを設定します。</p>	AppValidForPlan1、 AppValidForPlan2、 AppValidForPlan3、 AppValidForWorkforce、 AppValidForCapex

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>注： このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>このプロパティ値は関係値です。この値を変更した場合、他の階層のメンバーでは自動的に変更されません。</p> <p>デフォルト値: プラン 1: TRUE、プラン 2: TRUE、プラン 3: TRUE、要員: FALSE、資本資産: FALSE</p>	
Date Format	<p>日付フォーマットを MM-DD-YYYY または DD-MM-YYYY に設定します。</p> <p>デフォルト値: MM-DD-YYYY</p>	DateFormat
Default Currency	<p>これは、アプリケーションおよびアプリケーション・エンティティのデフォルト通貨です。</p> <p>デフォルト値: 該当なし</p>	DefaultCurrency
Multiple Currencies	<p>アプリケーションが複数の通貨をサポートすることを示します。一度指定すると変更できません。通貨次元は必須です。複数通貨のサポートは、基本通貨に関係なく、レベル 0 のメンバーでのみ使用できます。</p> <p>Performance Management Architect は通貨次元を自動的に作成しません。HSP_Rates はマルチ通貨アプリケーションに対する Planning アプリケーションの作成時に作成されます。これは、Performance Management Architect では定義されません。HSP_Rates は、「パフォーマンス設定」ダイアログ・ボックスで使用し、Planning アプリケーションのパフォーマンスを調整します。</p> <p>デフォルト値: TRUE</p>	MultiCurrency
Base Time Period	<p>カレンダーのロールアップ方法を設定するために、アプリケーションに最低レベルの期限を定義します。期間次元構造に対して次から適切な値を選択します:</p>	BaseTimePeriod

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● 12 か月(月は四半期にロールアップされ、四半期は年にロールアップされます) ● 四半期 ● カスタム(週や日など) デフォルト値: 12 か月	
Weeks	<p>1 か月の会計週のパターンで、均等、445、454、または544 を指定します。基本期間の中で要約期間にデータがどのように入力されるかを設定します。</p> <p>均等ではなく週パターンを選択した場合、Planning は、四半期の値をそれらが13週に分割されているかのように処理し、選択したパターンに従って週を分散します。</p> <p>週パターンは、基本期間オプションで12か月を選択した後のみ使用できます。</p> デフォルト値: 均等	WeeksDistribution、WeeksDistributionMember
Start Year	<p>アプリケーションの会計開始年。開始年は、2008 や2009 のような4桁の年フォーマットを使用します。アプリケーションを作成した後は、この設定を変更しないでください。</p> デフォルト値: 該当なし	AppStartYear
Start Month	<p>基本期間が12か月に設定されたアプリケーションの会計開始月。他の基本期間タイプでは、このフィールドは関係ありません。アプリケーションを配置した後は、アプリケーションの開始月を変更しないでください。</p> デフォルト値: 該当なし	StartMonth
Default Alias Table	<p>各アプリケーションに必須。他の別名テーブルが作成されていない場合、別名はデフォルト・テーブル(削除できません)に保管されます。9個までの追加の別名テーブルを作成できます。</p> <p>Performance Management Architect に別名テーブルを作成するには、別名タイプの次元を作成して、Default という</p>	DefaultAliasTable

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>名前の子メンバーを作成します。このメンバーは、Planning および Essbase で必要なデフォルトの別名テーブルです。別名次元に子メンバーを追加することで、追加の別名テーブルを作成できます。別名次元を勘定科目やエンティティなどのメインまたは基本次元や、ユーザー定義次元に関連付けるために、次元の関連付けを作成します。別名次元を選択して、システム・カテゴリのデフォルト・メンバー・プロパティを変更することで、デフォルトの別名テーブルを変更できます。</p> <p>デフォルト値: デフォルト</p>	

複数のプランニング次元に共通するプロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Valid for Plan	<p>プラン 1、プラン 2、プラン 3、要員、資本資産。(他のプラン・タイプは別のモジュールに付属しています。『Oracle Hyperion Workforce Planning 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Capital Asset Planning 管理者ガイド』を参照。)</p> <p>メンバーにプラン・タイプのアクセス権を割り当てます。メンバーにプラン・タイプを割り当てないと、その子がプラン・タイプにアクセスできません。カスタム次元では、プラン・タイプを選択解除すると、すべての次元メンバーが無効になります。</p> <p>メンバーを移動するとき、新しい親が別のプラン・タイプに対して有効な場合、メンバーは新しい親と共通のプラン・タイプに対してのみ有効です。</p> <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p>	AppValidForPlan1、 AppValidForPlan2、 AppValidForPlan3、 AppValidForWorkforce、 AppValidForCapex
Data Storage	データをデータベースに保管する方法を決定し、パフォー	DataStorage

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>マンスおよびディスク使用の最適化を使用可能にします:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● StoreData: メンバーのデータ値を保管します。子メンバーに動的計算が設定されている場合、親メンバーを保管する設定にしないでください。ユーザーがデータ・フォームを保存およびリフレッシュしても、親に対する新しい合計が計算されません。 ● NeverShare: 親に集約する子メンバーを1つのみ持つ親メンバーで使用され、子メンバーにセキュリティを適用します。 ● DynamicCalc: 密次元のメンバーまたは多数のユーザーから同時にアクセスされるデータ値に使用します。多くの場合、疎次元のメンバーを計算するために使用されます。ユーザーがデータを入力する基本レベルのメンバーには使用しないでください。データ値は動的計算メンバーについては保存されません。データがターゲット・バージョンのメンバーに対して入力される場合、親メンバーには使用しないでください。動的計算に設定された親メンバーは、ターゲット・バージョンでは読取り専用です。動的計算の親の場合、Essbase 制限による子の数は 100 個です。 <p>注意 メンバーのストレージを動的計算に変更すると、データの算出方法によってはデータが失われる可能性があります。アウトライン、計算、またはその両方を更新して、動的に計算された値を取得する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DynamicCalcAndStore: メンバーのデータ値を計算し、その値を保管します。多くの場合、複雑な式で疎次元のメンバーやユーザーが頻繁に取得するメ 	

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>ンバーを計算する際、「動的計算および保管」ではなく、「動的計算」を使用することで、計算を最適化し、ディスク使用を低減できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● LabelOnly: データではなくデータベース・スペースの操作や最小化を支援する仮想メンバーに使用します。メンバーは値を表示できます。これは、為替レートを保管する場所なので、マルチ通貨アプリケーションでは、LabelOnly データ・ストレージをエンティティ、バージョン、通貨およびユーザー定義のカスタム次元の最上位メンバーに適用できません。この場合は、「共有しない」を使用する必要があります。レベル0のメンバーには使用しないでください。データ・フォームの場合、ラベルのみの親に最初の子メンバーを続けて使用しないでください。 ● ShareData: 同じ次元のメンバーによるデータ値の共有を許可し、アプリケーション内のロールアップ構造の変更を使用可能にします。共有メンバーの場合、データ・ストレージを共有データに設定する必要があります。設定しないと、アプリケーションが Planning に配置される際、共有メンバーが追加されません。 <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>このプロパティ値は関係値です。この値を変更した場合、他の階層のメンバーでは自動的に変更されません。</p> <p>デフォルト値: NeverShare</p>	
Two Pass Calculation	親メンバーまたは他のメンバーのデータ値に基づいたメンバーのデータ値を再計算し	TwoPassCalc

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>ます。動的計算または動的計算および保管プロパティを持つ勘定科目およびエンティティ・メンバーで使用できません。</p> <p>デフォルト値: FALSE</p>	
UDA	<p>メンバーに関連付けられたUDA(ユーザー定義属性)を定義します。1つのメンバーに複数のUDAを入力するには、UDAメンバー間にカンマを配置します。UDAの詳細については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>デフォルトのUDAメンバーはHSP_NOLINK および HSP_UDFです。</p> <p>デフォルト値: 該当なし</p>	UDA
Member Formula	<p>演算子、計算関数、次元、メンバーの名前および個別メンバーの値を計算するための数値定数の組合せで作成されるアウトライン式。</p> <p>デフォルト値: 該当なし</p>	MemberFormula
Alias	<p>別名または代替メンバー名を保管する別名テーブルを定義します。569 ページの「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」で定義される命名規約を使用します。</p> <p>デフォルト値: 該当なし</p>	Alias
Aggregation	<p>プラン1、プラン2、プラン3、要員、資本資産では、連結時に子を親にロールアップする方法を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● + (加算) ● - (減算) ● * (乗算) ● / (除算) ● %(パーセント) ● ~ (連結では無視する) ● なし (階層に関係なく集約しない) <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされる</p>	Plan1Aggregation、 Plan2Aggregation、 Plan3Aggregation、 WorkforceAggregation、 CapexAggregation

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>と、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>このプロパティ値は関係値です。この値を変更した場合、他の階層のメンバーでは自動的に変更されません。</p> <p>デフォルト値: プラン 1: +、プラン 2: +、プラン 3: +、要員: ~、資本資産: ~</p>	
Data Type	<p>値を保管および表示する方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通貨 ● 通貨以外 ● パーセンテージ ● スマート・リスト ● 日付 ● テキスト ● 未指定 <p>勘定科目で、データ型が通貨以外に設定されている場合、為替レート・タイプを「なし」に設定する必要があります。</p> <p>デフォルト値: 未指定</p>	データ型
Attribute Type	<p>タイプが、テキスト、プール、日付、または数字の選択したメンバーと関連付ける属性値。Planning では、属性値は次元内の単一レベルにのみ割り当てられます。</p> <p>次元メンバーに割り当てられた属性の属性値を作成します。データ・フォームおよびレポートを作成する際、メンバーを属性値でフィルタできます。</p> <p>属性を疎次元のみに割り当てられます。属性をラベルのみメンバーに割り当てることはできません。密次元に属性を追加する必要がある場合、すべてのプランのタイプで次元を疎に変更する必要があります。次元を疎から密に変更する場合、その次元のすべての属性および属性値は自動的に削除されます。</p> <p>属性メンバーを削除する際、関連付けられたすべての属性値も削除されます。値は割り当てられていたすべてのメンバーおよび次元から除去されます。</p>	AttributeDataType

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	デフォルト値: テキスト	
Smart List	一意の名前。英数字およびアンダースコアを含み、特殊文字またはスペースは含みません。101 ページの「スマート・リストの操作(Planning のみ)」を参照してください。 デフォルト値: 該当なし	スマート・リスト

勘定科目

勘定科目次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Two Pass Calculation
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type

勘定科目には、予算プランナが必要とする情報を指定します。勘定科目の構造には、計算を定義できます。勘定科目の次元には、次元のメンバーに属性値および別名を割り当てるために、属性次元および別名次元に関連付ける必要があります。勘定科目が複数のプラン・タイプに対して有効な場合、ソース・プラン・タイプを指定して、勘定科目の値を保管するデータベースを決定します。動的計算プロパティまたは動的計算および保管プロパティの勘定科目では、2 パス計算を使用して、親メンバーまたはその他のメンバーのデータ値に基づいたメンバーのデータ値を再計算できます。

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Time Balance	なし、フロー、期首、残高、平均、入力、加重平均 - Actual Actual、加重平均 - Actual 365、期末から、要約期間の値の計算方法を設定します。 デフォルト値: 該当なし	TimeBalance
Skip Value	タイム・バランスのプロパティが「期首」、「残高」、または「平均」の場合、親値を計算する際にデータベース計	SkipValue

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>算がゼロ値および欠落した値を処理する方法を次の中から指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なし: ゼロおよび#MISSING 値を考慮する ● 欠落: #MISSING 値を除外する ● ゼロ: ゼロ値を除外する ● 欠落およびゼロ: #MISSING 値およびゼロ値を除外する <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>デフォルト値: なし</p>	
Expense Reporting	<p>勘定科目を差異レポートの支出として扱うかどうかを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 支出: 実績値が予算値から減算される ● 支出外: 予算値が実績値から減算される <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>デフォルト値: 支出外</p>	VarianceReporting
Account Type	<p>勘定科目のタイム・バランス(時間経過による値のフロー)および差異レポートの署名の動作を定義します(支出、収入、資産、負債、資本および保存された仮定)。</p> <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>デフォルト値: 「平均」(データ型が「通貨」に設定されていないときはマルチ通貨アプリケーション)、または「なし」(データ型が「通貨」に</p>	AccountType

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	設定されているときは単一通貨アプリケーション)。	
Exchange Rate Type	<p>勘定科目メンバーに数値を格納し、値を計算する方法を設定します。この設定は、レポートの通貨値を計算するために使用する為替レートを決定します。通貨データ型の勘定科目では、次に示すオプションはどの期間にも有効です:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なし ● 平均: 平均為替レート ● 期末: 期末為替レート ● 履歴: ある時点に適用された為替レート <p>勘定科目のデータ型を「通貨」以外の値に設定した場合、為替レート・タイプは「なし」に設定する必要があります。</p> <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>デフォルト値: 平均(データ型が「通貨」に設定されていない場合は「なし」)</p>	ExchangeRateType
Source Plan Type	<p>勘定科目を複数のプラン・タイプで使用する場合、プラン・タイプは勘定科目値を保管するデータベースになります。勘定科目メンバーを移動すると、有効なプラン・タイプはメンバーおよび新しい親に共通の内容によって決まります。新しい親に異なるソース・プラン・タイプがある場合、メンバーのソース・プラン・タイプは、そのメンバーの有効な最初の新規プラン・タイプに設定されます。</p> <p>このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子孫は自動的に値を継承します。元の親の子孫のメンバーの値が上書きされると、それ自身の子孫は新しい値を継承します。勘定科目メンバーの新しい親に別のソース・プラン・タイプがある場合、ソース・プラン・タイプはそのメンバーの有効な最初の新規プ</p>	SourcePlanType

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	ラン・タイプに設定され ます。 デフォルト値: プラン 1	

勘定科目の種別およびそれに依存するプロパティの有効な組合せ

勘定科目の種別	タイム・バランス	差異レポート	目的
収益	フロー	支出外	収益のソース
支出	フロー	支出	ビジネスの原価
資産	残高	支出外	企業リソース
負債および資本	残高	支出外	残余請求権または債権者への債務
保存された想定	ユーザー定義	ユーザー定義	アプリケーション全体の整合性を確保するための一元管理された Planning の仮定

タイムバランスプロパティの例

タイム・バランスおよび差異レポートの設定は、システムによって定義されます。

タイム・バランス・プロパティ	説明	例
フロー	期間合計としての要約期間の値の集約。	1月=10、2月=15、3月=20、Q1=45
期首	期間合計としての要約期間の最初の値	1月=10、2月=15、3月=20、Q1=10
残高	期間合計としての要約期間の最後の値	1月=10、2月=15、3月=20、Q1=20
平均	平均	1月=10、2月=15、3月=20、Q1=15
入力	親の期間の値は、子孫に入力されます。子の値が変更された場合は、デフォルト集約ロジックが親に適用されます。	1月=20、2月=20、3月=20、Q1=20
加重平均-Actual_Actual	年間の実際の日数に基づいた日々の加重平均です。2月が29日間あるうるう年の会計です。この例では、Q1の平均が計算されています。(1)Q1の各値にその月の日数を乗算	1月=10、2月=15、3月=20、Q1=5

タイム・バランス・プロパティ	説明	例
	し、(2)それらの値を合計し、(3)合計値を Q1 の日数で除算します。結果は、この年をうるう年と仮定して算出されます: $(10 * 31 + 15 * 29 + 20 * 31) / 91 = 15$	
加重平均-Actual_365	年間 365 日に基づいた日々の加重平均で、2 月が 28 日間あると仮定し、うるう年は考慮していません。この例では、Q1 の平均が計算されています。(1)Q1 の各値にその月の日数を乗算し、(2)それらの値を合計し、(3)合計値を Q1 の日数で除算します。結果は、この年をうるう年ではないと仮定して算出されます: $(10 * 31 + 15 * 28 + 20 * 31) / 90 = 15$	1 月=10、2 月=15、3 月=20、Q1=15

加重平均(Actual_Actual プロパティおよび加重平均 - Actual_365 プロパティ)は、4 つの四半期にロール・アップされる標準の月別カレンダーのみで使用できます。Planning でデータを計算して記録する方法については、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』を参照してください。

ゼロおよび欠落した値のための勘定科目計算の例

次の例では、タイム・バランスが「期首」が設定されていると仮定します。

スキップ・オプション	例
なし	Jan = 0、Feb = 20、Mar = 25、Q1 = 0 最初の子(1 月)の値は 0 で、ゼロ値は親値を計算する際に考慮されます。
欠落	1 月 = #MISSING、2 月 = 20、3 月 = 25、Q1 = 20 最初の子(1 月)の値は#MISSING で、#MISSING 値は親値を計算する際に考慮されないため、Q1 = 2 番目の子(2 月)または 20 になります。
ゼロ	1 月 = 0、2 月 = 20、3 月 = 25、Q1 = 20 最初の子(1 月)の値は 0 で、ゼロ値は親値を計算する際に考慮されないため、Q1 = 2 番目の子(2 月)または 20 になります。
#Missing およびゼロ	1 月 = 0、2 月 = #MISSING、3 月 = 25、Q1 = 25 最初の子(1 月)の値は 0 で、2 番目の子(2 月)の値は#MISSING です。#MISSING 値およびゼロ値は親値を計算する際に考慮されないため、Q1 = 3 番目の子(3 月)または 25 になります。

通貨

通貨次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Two Pass Calculation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type
- Attribute Values
- Apply Security

財務情報は、複数の通貨でプラン、予測および分析できます。次の内容を設定できます:

- アプリケーションがレポートの作成に使用する通貨
- レポートおよびデータ・フォームでの通貨の表示方法
- 他の通貨への換算方法
- 3 番目の通貨を使用するかどうか(三角換算法の通貨)
- 通貨換算を行うタイミングの指定

為替レート、通貨換算および交換レート表の管理については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Thousands Separator	<ul style="list-style-type: none">● なし: 1000● カンマ: 1,000● 点: 1.000● スペース: 1 000● 通貨設定: 通貨の設定 デフォルト値: カンマ	ThousandSep
Decimal Separator	<ul style="list-style-type: none">● 点: 1.00● カンマ: 1,00● 通貨設定: 通貨の設定 デフォルト値: 点	DecimalSep
Negative Sign	<ul style="list-style-type: none">● 接頭辞のマイナス: -1000● 接尾辞のマイナス: 1000-● かっこ: (1000)	NegativeSign

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● 通貨設定: 通貨の設定 デフォルト値: 接頭辞のマイナス	
Negative Color	<ul style="list-style-type: none"> ● 黒: 負の値は黒で表示される ● 赤: 負の値は赤で表示される ● 通貨設定: 通貨の設定 デフォルト値: 赤	NegativeColor
Scale	スケールによって、値の表示方法(整数、十、百、千、百万など)を決定します。通貨を入力および表示する方法を設定します。たとえば、スケールを「千」に設定すると、3円は3000円を表します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 全体 ● 十 ● 百 ● 千 ● TThousands ● HThousands ● 百万 ● TMillions ● HMillions ● 十億 デフォルト値: 全体	Scale
Currency Code	市場で確立されている通貨名の略語または独自に作成するカスタム通貨コードです。 デフォルト値: 該当なし	CurrencyCode
Symbol	市場で確立されている通貨名の記号です。たとえば、米ドルの記号は\$です。 デフォルト値: 該当なし	Symbol
Triangulation Currency	通貨換算の中間通貨です。三角換算法の通貨を変更する場合は、Triangulation Currency プロパティの為替レートを再入力し、アプリケーションをリフレッシュして、為替レートを転送して保管する必要があります。デフォルト通貨を三角換算法の通貨として選択できません。	TriangulationCurrency

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。 デフォルト値: 該当なし	
Reporting Currency	財務諸表を準備するために使用する通貨です。変換されたレポートの通貨値は、すべてのユーザーに対して保管され、読取り専用になります。 デフォルト値: 該当なし	ReptCurrency

エンティティ

エンティティ次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」](#)で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type
- Attribute Values

地域、国、部署などの承認のためのプランを提出するグループ用のエンティティ・メンバーを作成できます。データ・フォームは1エンティティ当たり複数の通貨をサポートするので、複数通貨のデータ入力を使用可能にし、単一の通貨でレポートを作成できます。入力した値の通貨を設定し、定義された為替レートを使用して他の通貨に換算できます。

エンティティ次元には、基本通貨に値を入力するために通貨次元との関連付けが必要です。マルチ通貨アプリケーションでは、通貨次元は基本エンティティ次元に関連付ける必要があります。エンティティ次元には、属性値および別名を次元のメンバーに割り当てるために、属性次元および別名次元と関連付ける必要があります。共有ライブラリのアプリケーションの関連付けは、名前を右クリックし、「すべての関連付けをアクティブにする」を選択してアクティブ化できます。

一般に、エンティティ・メンバーには異なるプランを準備します。エンティティ・メンバーを定義する場合は、メンバーに対して有効なプラン・タイプを指定しま

す。データ・フォームはプラン・タイプに関連付けられるので、各プラン・タイプにデータを入力できるエンティティ・メンバーを制御できます。

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Currency	<p>USD(米ドル)など、3文字の通貨コードを入力します。</p> <p>マルチ通貨アプリケーションでは、各エンティティ・メンバーに対して基本通貨を指定します。</p> <p>集約ストレージ・アウトラインには該当しません。</p> <p>このプロパティに対して、親レベルで値を定義すると、すべての子孫が自動的にその値を継承します。元の親の子孫メンバーで値が上書きされると、その子孫は新しい値を継承します。</p> <p>デフォルト値: アプリケーションのデフォルト通貨</p>	Currency

期間

期間次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページ](#)の「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type
- Attribute Values

期間次元を使用して、年次連結の構造を表示および変更します。基本期間および週数を指定できます。

カレンダーを作成した後に基本期間を変更できません。アプリケーションには最大500の期間を含められます。実際の制限は、暦年および期間の組合せによって定義します。期間数および年数は、アプリケーションが複数の通貨を使用するかどうかにも依存します。1年当たり400の期間および27年、または1年当たり360の期間および30年などが、推奨される実用的な制限です。

名前、説明、別名、期首および期末の更新を含めて、要約期間または BegBalance メンバーを追加および変更できます。基本期間の順序をスキップまたは変更でき

ません。現在の会計年度を超えて範囲を拡張できません。12 か月および四半期の基本期間の均衡階層を使用するには、すべての基本メンバーをルートから同じ数のレベルにする必要があります。

正常に配置するには、Planning アプリケーションには、必要なメンバー(BegBalance および YearTotal)を含める必要があります。YearTotal は、四半期または週(カスタム期間用)を集約するための要約期間です。

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Use Beginning Balance	BegBalance 期間を使用するかどうかを指定します。 デフォルト値: 該当なし	UseBegBalance
Period Type	期間タイプ: 基本期間、要約期間、年期間、または代替期間	PeriodType

期間次元の代替階層の考慮事項

代替階層を使用する場合は、次のことを考慮します:

- 期間タイプ代替期間を、すべての代替階層メンバーに対して設定する必要があります。
- 代替階層メンバーの親は、期間などの期間次元の root メンバーか、または別の代替階層メンバーです。

シナリオ

シナリオ次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページ](#)の「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type

データをグループ化するには、シナリオ次元を作成します。各シナリオには勘定科目および各エンティティの他の次元のデータが含まれます。ユーザーは、エンティティおよびバージョンのデータを入力した後に、データを送信するか、または確認および承認のために他のユーザーに移行できます。エンティティ、シナリオおよびバージョンの交差は、プランニング・ユニットと呼ばれます。Planning は、確認プロセスでプランニング・ユニットのステータスを追跡します。シナリ

オ次元には、開始期間値および終了期間値を入力するために、期間次元および年次元との関連付けが必要です。

シナリオの用途は次のとおりです:

- 別の Planning 方法を適用する
- 予測および予算を作成する
- 実績の履歴を保管する

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Enable Process Management	プロセス管理に対してシナリオを使用可能にするかどうかを指定します。これによって、このメンバーを含むプランニング・ユニットを管理できます。 デフォルト値: TRUE	EnableProcessManagement
Start Year、End Year、Start Period、End Period	シナリオを有効にする年および期間です。データ・フォームにアクセスするユーザーは、その範囲内の年および期間のみでそのシナリオに入れます。シナリオの時間範囲は変更できます。 デフォルト値: 該当なし	StartYear、EndYear、StartPeriod、EndPeriod
Use Beginning Balance	BegBalance 期間を使用するかどうかを指定します。 デフォルト値: 該当なし	UseBegBalance
Exchange Rate Table	マルチ通貨アプリケーションのみで使用します。シナリオに為替レート・テーブルを割り当てます。 デフォルト値: 該当なし	ExchangeRateTable

シナリオ・メンバーには、グループまたはユーザーがデータを表示または変更できるかどうかを決定するアクセス権を指定できます。Planning のアクセス権の設定については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

シナリオを削除する場合は、シナリオ(データを含む)を使用するすべてのプランニング・ユニットが削除されます。データ・フォームの軸(行または列)で開始されるか、または割り当てられているプランニング・ユニットで使用されるシナリオは削除できません。最初にデータ・フォームからシナリオへの参照を除去し、別のシナリオを割り当てる必要があります。

バージョン

バージョン次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」](#)で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type

バージョン次元の用途は次のとおりです:

- プランに、準備段階や最終などの複数の繰返しを提供する
- ベスト・ケースなどの仮定に基づいた予測結果をモデル化する
- 内部や外部などのプラン・データを制御する
- 簡単に目標を設定する

バージョンはシナリオから独立しています。バージョン名およびアクセス権を変更できます。アプリケーションには、少なくとも1つのバージョンが必要です。アクセス権の設定については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

表 57 バージョンのプロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Enable Process Management	プロセス管理に対してバージョンを使用可能にするかどうかを指定します。これによって、このバージョン・メンバーを含むプランニング・ユニットを管理できます。ターゲット・バージョンでは使用できません。 デフォルト値: 該当なし	EnableProcessManagement
Version Type	目標: ユーザーは、任意のレベルでメンバーのデータを入力し、ビジネス・ルールを使用して親メンバーから子孫に値を配布できます。 ターゲット・バージョンを使用して、プランにハイレベルの目標を設定します。ボトムアップ・バージョンで作業するプランナは、プラン・データの入力時に目標を参照できます。 ターゲット・バージョンはトップダウンの予算を使用します。ワークフロー・タスクは許可されず、#MISSING などのターゲット・メンバーの子は、トップ・レベルでデータ	VersionType

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>入力を使用可能にするために空白にする必要があります。ターゲット・メンバーは、「保管」に設定する必要があります(動的計算は、データの入力内容を子の合計で上書きします)。</p> <p>ボトムアップ: ユーザーは、最下位レベルのメンバーにデータを入力します。親レベルのメンバーは読取り専用です。親メンバーの値は、最下位レベルのメンバーから集約されます。</p> <p>デフォルト値: ボトムアップ</p>	

年

年次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページの「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」](#)で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type
- Attribute Values

カレンダーに年を追加するには、年次元を使用します。年次元の名前は、FY08 などのように、FY に続けて 2 桁の年を記述する必要があります。開始年は、年次元構造の最初の年メンバーに基づきます。アプリケーションの配置後に開始年を変更できません。ただし、初期の年の範囲の最後に年を追加することはできます。

年次元の最初の年のメンバーおよび Start Year プロパティは、同じ年に属する必要があります。たとえば、Start Year が 2008 の場合、年次元の最初の年は FY08 にする必要があります。2008 や FY07 などのように、年の不一致がある場合は、エラーが表示され、アプリケーションを配置できなくなります。

年には、別名を追加、変更、または割り当てられます。カレンダーの年数は、新規データベースを作成しないかぎり、減らすことはできません。Performance Management Architect は、年次元の最初のシステム・メンバーとして「年なし」を追加します。Performance Management Architect では、年次元の最初のメンバーとして「年なし」が保存されますが、プランニング・リポジトリでは最後の年として保存されます。

カスタム次元

勘定科目次元のメンバーは、表で説明されているプロパティだけでなく、[543 ページ](#)の「すべてのプランニング次元に適用できるプロパティ」で説明されている次のようなほとんどの一般的なプロパティを使用します:

- Valid for Plan
- Two Pass Calculation
- Aggregation
- UDA
- Member Formula
- Alias
- Data Storage
- Smart List
- Data Type

Apply Security プロパティを使用して、カスタム次元にセキュリティを適用します。カスタム次元は、[569 ページ](#)の「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」の名前付けルールに従う必要があります。次元名および別名は一意にする必要があります。これらは、スペースを含めて最大 80 文字を指定できます。説明は最大 255 文字を指定できます。

Planning の別名

別名は、次元の定義を支援する代替の名前、説明、言語、またはその他のアイテムです。別名は、勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義の次元メンバーに割り当てられます。別名の作成および更新の詳細については、「別名次元」のトピックを参照してください。

エンティティなどの基本次元には、別名次元とのアクティブな関連付けがあり、エンティティ・メンバーには、選択された別名テーブルに対して定義された別名があり、別名は Planning カテゴリの別名フィールドに表示されます。アプリケーションを Planning に配置する場合は、別名次元の子メンバーが別名テーブルになり、「デフォルト」というメンバーを含める必要があります。別名は、[569 ページ](#)の「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」の名前付けの要件に従う必要があります。

Planning の属性

属性を使用して階層を作成し、別名を割り当てることによって、データのグループ化、選択、または計算を簡略化できます。属性名は一意にする必要があります。[569 ページ](#)の「次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限」の命名規則に従う必要があります。属性データ型には、テキスト、ブール、日付、数値があります。属性およびその値の詳細については、『Oracle Essbase Database 管理者ガイド』を参照してください。

属性は、疎次元のみに割り当てられます。疎次元が密次元に変更されると、次元のすべての属性およびその値は自動的に削除されます。属性をラベルのみのメンバーに割り当てることはできません。エンティティや製品などの次元は、属性値および別名の割り当てを使用可能にするために、属性次元および別名次元に関連付ける必要があります。クラシック・Planning アプリケーションを Performance Management Architect にアップグレードする前に、属性次元の名前に含まれるすべてのスペースを除去する必要があります。

属性を変更または削除した場合は、ビジネス・ルール、レポートおよびデータ・フォームを更新および検証する必要があります。属性を削除すると、関連するすべての属性値が削除され、割り当てられているカスタム次元のメンバーから除去されます。インポート・プロファイルを使用して属性値をロードする場合は、ロードする前に属性次元を作成する必要があります。アプリケーションをアップグレードする前に、属性次元の名前に含まれるスペースを除去する必要があります。

Planning の UDA

ユーザー定義属性(UDA)は、計算スクリプト、メンバー式およびレポートが指定した UDA に関連付けられているメンバーのリストを戻すように、メンバーの特性を説明するために使用する語句です。複数の次元のメンバーに対して作成する UDA のユーザー定義属性次元を使用できます。UDA については、[135 ページの「ユーザー定義属性の操作」](#)を参照してください。

Planning 9.3.1 および Performance Management Architect の操作

Planning 9.3.1 を Performance Management Architect の最新版とともに使用する場合は、最新の Performance Management Architect のほとんどの機能を使用できます。ただし、データ・ソースの作成や新規属性タイプ、ブール、日付および番号の使用などの一部の機能は Planning 9.3.1 で使用できません。互換性については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストール概要』ガイドを参照してください。

Essbase での作業の考慮事項

Planning の「データベースの管理」ページで作成およびリフレッシュを行うと、Essbase データベースのデータに影響します。「作成」をクリックすると、データが消去され、Planning のプラン・タイプが再構築されます。「リフレッシュ」をクリックすると、データが置換されることがあります。詳細については、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。

クラシック・アプリケーション管理で作成したアプリケーションを Performance Management Architect にアップグレードすると、クラシック・アプリケーション管理に戻ってそのアプリケーションを操作できなくなります。Essbase アウトラインを直接 Oracle Essbase Administration Services で変更することはサポートされていません。

Planning アプリケーションをリフレッシュすると、Essbase データベースは次のように変更されます:

- Planning のリレーショナル・データベースにメンバーがない場合、メンバーおよびそのプロパティ、属性およびユーザー定義属性(UDA)は、リフレッシュ時に Essbase で維持されません。
- Planning は、Essbase の既存のメンバーからメンバーのプロパティを取得し、その後に Planning で定義できるメンバー・プロパティを設定および上書きします。

この動作は、これらのメンバー、属性、および UDA が Planning に存在しなかった場合もリフレッシュ・プロセスがインクリメンタルで、Essbase のアウトラインに直接行われた変更を維持する前のリリースとは異なります。

HSP_UDF UDA は、Performance Management Architect の外部で定義されたメンバー式を維持します。Performance Management Architect のリフレッシュを使用して割当てを解除しても、Essbase のアウトラインから UDA の割当ては解除されません。HSP_UDF UDA を含むメンバーを直接 Essbase に追加してデータベースをリフレッシュすると、Essbase のこのメンバーのすべての式が保存され、レベル・ゼロおよび動的計算のメンバーに式プレースホルダ(;)は生成されません。カスタム UDA や HSP_NOLINK UDA などのその他の UDA は、Performance Management Architect または Planning(クラシック・アプリケーション用)で定義された場合のみ維持されます。

メンバー式は、Performance Management Architect および Planning(クラシック・アプリケーション用)でサポートされているので、HSP_UDF UDA の必要性はそれほど高くありません。UDA は、できるだけ Performance Management Architect または Planning(クラシック・アプリケーション用)で定義するようにしてください。

@XREF 関数は、現在のデータベースの値を計算するために別のデータベースからデータ値を参照します。HSP_NOLINK UDA をメンバーに追加すると、メンバーに対して選択されていないソース・プラン・タイプではないすべてのプラン・タイプに対して@XREF 関数が作成されないようにできます。UDA および関数の詳細については、『Oracle Essbase Database 管理者ガイド』を参照してください。

最も一般的に使用される Essbase メンバー・プロパティに対して、Essbase のアウトラインを直接変更する必要はありません。Performance Management Architect および Planning は、期間次元における動的時系列、期間次元における代替階層、シナリオおよびバージョン次元における階層、属性次元における階層および別名をサポートします。

これらのガイドラインは、スーパーバイザまたはアプリケーション管理者としてログオンして Essbase で作業する際に使用してください:

- 次元の疎密の設定および Essbase における次元の順序は変更しないでください。
- テキスト、ブール、数値および日付を含む任意の属性次元タイプを使用できます。
- リンク・レポート・オブジェクト(LRO)は使用しないでください。
- タイム・バランスのデフォルト設定は変更しないでください。残高のデフォルト設定は「期末」、フローのデフォルト設定は「なし」です。

- 差異レポートの設定は変更しないでください。これらは、保存された仮定を除くすべての勘定科目の種別に対して事前に設定されています。保存された仮定の勘定科目の種別の有効な設定は、費用および費用外です。
- リフレッシュする前にデータベースをバックアップします。

アプリケーションの命名の制限(Essbase)

Essbase のアプリケーションおよびデータベースの作成の詳細については、Essbase の製品マニュアルを参照してください。

Planning または Essbase のレポート・アプリケーションの名前を付ける場合は、次の規則に従います:

- 非 Unicode モードのアプリケーションおよびデータベースでは、8 バイト以内を使用し、Unicode モードのアプリケーションおよびデータベースでは、30 文字以内を使用します。
- スペースは使用しないでください。
- 次の特殊文字は使用しないでください:
 - アスタリスク
 - 円記号
 - 大かっこ
 - コロン
 - カンマ
 - 等号
 - 大なり記号
 - 小なり記号
 - 期間
 - プラス符号
 - 疑問符
 - 引用符(二重および一重)
 - セミコロン
 - スラッシュ
 - タブ
 - 垂直棒
- リレーショナル・データベース環境における Planning アプリケーションの名前に、アンダースコアを除く拡張文字は使用しないでください。
- 集約ストレージ・データベースでは、アプリケーション名に DEFAULT、LOG、METADATA、または TEMP は使用しないでください。

名前の大文字と小文字を正しく入力してください。アプリケーション名は入力したとおりに作成されます。

次元、メンバーおよび別名の名前付けの制限

次元、メンバーおよび別名の命名では、次の規則に従います:

- 非 Unicode モードの次元、メンバー、または別名では、80 バイト以内を使用し、Unicode モードの次元、メンバー、または別名では、80 文字以内を使用します。
- 大文字および小文字は、大文字および小文字の区別が使用可能になっている場合のみ区別してください。
- メンバー名、次元名、別名および説明では、HTML タグは使用しないでください。
- 引用符、かっこ、バックスラッシュ、タブは使用しないでください。かっこは使用できますが、ブロック・ストレージのアウトラインではお勧めできません。集約ストレージのアウトラインへの変換時にエラーが発生します。
- 次元またはメンバの名前の先頭に次の文字は使用しないでください:
 - アット・マーク
 - 円記号
 - 大かっこ
 - カンマ
 - ダッシュ、ハイフンまたはマイナス符号
 - 等号
 - 小なり記号
 - 丸かっこ
 - 期間
 - プラス符号
 - 引用符
 - アンダースコア
 - 垂直棒
- 名前の先頭または末尾にスペースを入れしないでください。Essbase では、名前の先頭または末尾のスペースは無視されます。
- メンバー名にスラッシュ(/)は使用しないでください。
- カスタム・カレンダーの期間では、接頭辞にスペースを使用しないでください。
- 次元名またはメンバー名に、次の用語は使用しないでください:
 - 計算スクリプト・コマンド、演算子およびキーワード。コマンドの一覧については、Essbase の製品マニュアルを参照してください。
 - レポート・ライターのコマンド。
 - 関数名および関数引数。
 - 他の次元の名前、他のメンバーの名前(メンバーが共有でない場合)、世代名、レベル名およびデータベースでの別名。
 - 次の用語は使用できません:

ALL AND ASSIGN AVERAGE CALC	GENRANGE GROUP GT ID	OR PAREN PARENPARM PERCENT
CALCMBR COPYFORWARD	IDERROR INTEGER LE	PLUS RELOP SET SKIPBOTH
CROSSDIM CURMBRNAME DIM	LEVELRANGE LOOPBLOCK	SKIPMISSING SKIPNONE
DIMNAME DIV DYNAMIC	LOPPARMS LT MBR MBRNAME	SKIPZERO TO TOLOCALRATE
EMPTYPARM EQ EQOP EXCEPT	MBRONLY MINUS MISSING MUL	TRAILMISSING TRAILSUM
EXP EXPERROR FLOAT FUNCTION	MULOP NE NON NONINPUT NOT	UMINUS UPPER VARORXMBR
GE GEN		XMBRONLY \$\$UNIVERSE\$\$
		#MISSING #MI

- 動的時系列を使用可能にしている場合は、履歴、年、季、期間、四半期、月、週、および日は使用しないでください。

Planning のフラット・ファイルの操作

以前のリリースで作成された.ads フラット・ファイルを使用している場合は、最新のリリースで使用する前に、手動で更新する必要があります。通常のフラット・ファイルまたはシンプル・フラット・ファイルを使用できます。

リリース 9.3.1 で作成されたフラット・ファイルの使用方法

リリース 9.3.1 で作成した.ads フラット・ファイルを使用する場合は、この項で説明したこれらの機能の現行リリースで使用する前に、.ads フラット・ファイルを更新しておく必要があります。フラット・ファイルのコンテンツに応じて、次の項の説明に従って更新します。

9.3.1 で作成したフラット・ファイルを Performance Management Architect リリース 11.1.1.x とともに使用するには、次の更新を行う必要があります：

- Account Hierarchies セクションの WeeksDistributionMember プロパティを、元の値が Even の場合に、TRUE に置き換えます。
- PeriodType プロパティを、Period Members セクションから、Period Hierarchies セクションに移動します。

引用符で囲まれたメンバー式の更新

フラット・ファイルにメンバー式が含まれる場合は、メンバー式の引用符を無視するために、新規プロファイルダイアログ・ボックスの文字列の二重引用符を除去を選択解除する必要があります。

AttributeDataType の更新

属性データ型を定義するには、次元セクションに AttributeDataType を追加し、定義する属性次元のタイプを指定します(テキスト、ブール、数値、または日付)。空白にすると、属性次元タイプはデフォルトのテキストになります。

例:

```
!Section=Dimensions
'Name|DimensionClass|DimensionAlias|DimDataStorage|DimTwoPassCalc|
```


は、Current が PropertyArray=Scenario セクションで参照されるシナリオ・メンバーで、CURRENT_UDA はシナリオ次元の Current メンバーに関連付けられる UDA 次元のメンバーです:

```
!PropertyArray=Scenario
```

```
UDA|Current|CURRENT_UDA|
```

- 4 .ads フラット・ファイルの最後に、UDA 次元の Members セクションを追加します。次に例を示します:

```
!Members=UDA  
'Name  
CURRENT_UDA
```

- 5 .ads フラット・ファイルの最後に、UDA 次元の Hierarchies セクションを追加します。次に例を示します:

```
!Hierarchies=UDA  
'Parent|Child  
#root|CURRENT_UDA
```

現行リリースの前にフラット・ファイルが生成され、次元の Members セクションに UDA プロパティがある場合は、プロパティを除去する必要はなく、新規プロパティ・カウントに合わせて|文字を削除してメンバーを更新する必要もありません。このプロパティは、プロファイルが作成され、ファイルが Performance Management Architect にインポートされるときに無視されます。

例:

```
!Members=Scenario  
'Name|DataType|StartYear|EndYear|StartPeriod|EndPeriod|UseBegBalance|  
EnableProcessManagement|SmartList|ExchangeRateTable|UDA|Description
```

Planning 9.3.0.1 で作成したフラット・ファイルの使用方法

Planning 9.3.0.1 で作成された DTS メンバーを含むフラット・ファイルでは、現行リリース用にファイルを更新します。現行リリースで作成されたフラット・ファイルでは、DTS メンバーに必要な変更はありません。

期間タイプの更新

Planning 9.3.0.1 で作成された DTS を使用するには、次の手順に従ってファイルを更新する必要があります。

▶ 期間タイプを更新するには:

- 1 元の.ads フラット・ファイルを別の名前で作成してバックアップします。
- 2 元の.ads フラット・ファイルをテキスト・エディタで開きます。
- 3 カット・アンド・ペーストを使用して、期間タイプ・プロパティを Member セクションから Hierarchies セクションに移動します。

- 4 更新した.ads フラット・ファイルを元のファイルと同じ名前で同じ場所に保存します。

Planning のフラット・ファイルの例(通常)

次に、Planning で使用できる通常のフラット・ファイルの例を示します。

```
!FILE_FORMAT=ADS
!VERSION=1.0

!Section=Dimensions
'Name|DimensionClass|DimensionAlias|DimDataStorage|Plan1Density|
Plan2Density|Plan3Density|WorkforceDensity|CapexDensity|EnumOrder1|
EnumOrder2|EnumOrder3|EnumOrderWF|EnumOrderCapex|DimValidForPlan1|
DimValidForPlan2|DimValidForPlan3|DimValidForWorkforce|DimValidForCapex
Colors|Attribute|Colors| || || || || || || || || || || || || ||
Account|Account|Account|NeverShare|Dense|Dense|Dense|Dense|0|0|0|0|Y|
Y|Y|N|
Currency|Currency|Currency|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|
0|0|Y|Y|Y|N|
Entity|Entity|Entity|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|0|0|Y|
Y|Y|N|
NewCustomDimension|Generic|NewCustomDimension|NeverShare|Sparse|Sparse|
Sparse|Sparse|0|0|0|0|Y|Y|Y|N|
Period|Period|Period|NeverShare|Dense|Dense|Dense|Dense|0|0|0|0|Y|Y|Y|
N|
Scenario|Scenario|Scenario|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|
0|0|Y|Y|Y|N|
Version|Version|Version|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|0|
0|Y|Y|Y|N|
Year|Year|Year|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|0|0|Y|Y|Y|N|
Alias|Alias|Alias| || || || || || || || || || || || || ||

!Section=DimensionAssociations
'BaseDimension|Property|TargetDimension
Colors|Alias|Alias
Account|Alias|Alias
Currency|Alias|Alias
Currency|TriangulationCurrency|Currency
Entity|Alias|Alias
Entity|Currency|Currency
Entity|Colors|Colors
NewCustomDimension|Alias|Alias
Period|Alias|Alias
Scenario|Alias|Alias
Scenario|StartPeriod|Period
Scenario|EndPeriod|Period
Scenario|StartYear|Year
Scenario|EndYear|Year
Version|Alias|Alias
Year|Alias|Alias
smartLists|Alias|Alias

!Members=Colors
'Name
blue
```

```

green
purple

!Hierarchies=Colors
'Parent|Child|DataStorage
#root|blue|
#root|green|
#root|purple|

!Members=Account
'Name|DataType|SourcePlanType|AccountType|VarianceReporting|TimeBalance|
SmartList|UDA|TwoPassCalc|SkipValue|Description|MemberFormula
100|Currency|Plan1|Revenue|NonExpense|Flow| || ||

!Hierarchies=Account
'Parent|Child|DataStorage|ExchangeRateType|MemberValidForPlan1|
MemberValidForPlan2|MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|
MemberValidForCapex|Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|
WorkforceAggregation
#root|100|NeverShare|Average|Y|Y|Y|N| |+|+|+|+

!PropertyArray=Account
'Property|Name|Key|Value
Alias|100|Aliases_Table_1|Aliases_Table_1 100
Alias|100|Aliases_Table_2|Aliases_Table_2 100
Alias|100|Aliases_Table_3|Aliases_Table_3 100
Alias|100|Aliases_Table_4|Aliases_Table_4 100
Alias|100|Default|Alias_100

!Members=Currency
'Name|DataType|Symbol|Scale|ThousandSep|DecimalSep|NegativeSign|
NegativeColor|ReptCurrency|TriangulationCurrency|CurrencyCode|SmartList|
UDA|Description
Local|Unspecified|null|Whole|None|Dot| |Black|N| || |Local currency
USD|Unspecified|$|Whole|None|Dot| |Black|Y| || |United States of America
dollar
DEM|Unspecified|DM|Whole|None|Dot| |Black|Y| || |Germany deutsche mark
EUR|Unspecified|€|Whole|None|Dot| |Black|Y| || |European Union Euro
FRF|Unspecified|F|Whole|None|Dot| |Black|Y|EUR| || |France franc
IEP|Unspecified|IRf|Whole|None|Dot| |Black|Y| || |Ireland punt

!Hierarchies=Currency
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex
#root|Local|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|USD|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|DEM|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|EUR|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FRF|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|IEP|StoreData|Y|Y|Y|N|

!PropertyArray=Currency
'Property|Name|Key|Value
Alias|DEM|Default|Alias_DEM
Alias|FRF|Default|Alias_FRF

!Members=Entity

```

```

'Name|DataType|Currency|SmartList|UDA|Colors|Description
ParentMMM|Unspecified|USD|||
Mem_3|Unspecified|USD|||
Mem_2|Unspecified|USD|||
Mem_1|Unspecified|USD|||
ParentMMM_Shared|Unspecified|USD|||
Canada|Unspecified|USD|||
United States|Unspecified|USD|||blue|
Oregon|Unspecified|USD|||
California|Unspecified|USD|||
San Francisco|Unspecified|USD|||
Washington|Unspecified|USD|||
East|Unspecified|USD|||
NY|Unspecified|USD|||
West|Unspecified|USD|||
CA|Unspecified|USD|||
WA|Unspecified|USD|||
NJ|Unspecified|USD|||

!Hierarchies=Entity
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|WorkforceAggregation
#root|ParentMMM|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM|Mem_3|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM|Mem_2|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM|Mem_1|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
#root|ParentMMM_Shared|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM_Shared|Mem_3|ShareData|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM_Shared|Mem_2|ShareData|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
ParentMMM_Shared|Mem_1|ShareData|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
#root|Canada|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
#root|United States|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
United States|Oregon|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
United States|California|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
California|San Francisco|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
United States|Washington|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
#root|East|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
East|NY|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
#root|West|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
West|CA|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
West|WA|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+
West|NJ|NeverShare|Y|Y|Y|N||+|+|+|+

!PropertyArray=Entity
'Property|Name|Key|Value
Alias|Canada|Default|Alias_Canada
Alias|United States|Default|Alias_United States
Alias|Oregon|Default|Alias_Oregon
Alias|California|Default|Alias_California
Alias|San Francisco|Default|Alias_San Francisco
Alias|Washington|Default|Alias_Washington

!Members=NewCustomDimension
'Name|DataType|SmartList|UDA|Description
One|Unspecified|||

```



```

!Hierarchies=NewCustomDimension
' Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|WorkforceAggregation
#root|One|NeverShare|Y|Y|Y|N|+|+|+|

!PropertyArray=NewCustomDimension
' Property|Name|Key|Value
Alias|One|Default|Alias_One

!Members=Period
' Name|DataType|SmartList|UDA|Description
BegBalance|Unspecified|||
YearTotal|Unspecified|||
Q1|Unspecified|||
Jan|Unspecified|||
Feb|Unspecified|||
Mar|Unspecified|||
Q2|Unspecified|||
Apr|Unspecified|||
May|Unspecified|||
Jun|Unspecified|||
Q3|Unspecified|||
Jul|Unspecified|||
Aug|Unspecified|||
Sep|Unspecified|||
Q4|Unspecified|||
Oct|Unspecified|||
Nov|Unspecified|||
Dec|Unspecified|||

!Hierarchies=Period
' Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
PeriodType
#root|BegBalance|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
#root|YearTotal|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Year Time Period
YearTotal|Q1|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Summary Time Period
Q1|Jan|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q1|Feb|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q1|Mar|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
YearTotal|Q2|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Summary Time Period
Q2|Apr|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q2|May|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q2|Jun|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
YearTotal|Q3|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Summary Time Period
Q3|Jul|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q3|Aug|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q3|Sep|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
YearTotal|Q4|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Summary Time Period
Q4|Oct|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q4|Nov|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period
Q4|Dec|StoreData|Y|Y|Y|N|N|Base Time Period

!PropertyArray=Period
' Property|Name|Key|Value
Alias|Aug|Default|Alias_Aug_New

```

```

!Members=Scenario
'Name|DataType|StartYear|EndYear|StartPeriod|EndPeriod|UseBegBalance|
EnableProcessManagement|SmartList|ExchangeRateTable|UDA|Description
Current|Unspecified|FY06|FY09|Jan|Dec|N|Y|||
A_Scenario|Unspecified|FY06|FY06|Jan|Jan|N|Y||A_FXRate||
B,_Scenario|Unspecified|FY06|FY06|Jan|Dec|N|Y||A_FXRate||

!Hierarchies=Scenario
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex
#root|Current|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|A_Scenario|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|B,_Scenario|StoreData|Y|Y|Y|N|

!PropertyArray=Scenario
'Property|Name|Key|Value
Alias|A_Scenario|Default|Alias_A_Scenario
Alias|B,_Scenario|Default|Alias_B,_Scenario

!Members=Version
'Name|DataType|VersionType|EnableProcessManagement|SmartList|UDA|
Description
BU_Version_1|Unspecified|BottomUp|Y|||
A_Version|Unspecified|BottomUp|Y|||
B,_Version|Unspecified|BottomUp|Y|||
C,_Version|Unspecified|Target|N|||
D_Version|Unspecified|Target|N|||

!Hierarchies=Version
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex
#root|BU_Version_1|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|A_Version|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|B,_Version|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|C,_Version|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|D_Version|StoreData|Y|Y|Y|N|

!PropertyArray=Version
'Property|Name|Key|Value
Alias|A_Version|Default|Alias_A_Version
Alias|B,_Version|Default|Alias_B,_Version
Alias|C,_Version|Default|Alias_C,_Version
Alias|D_Version|Default|Alias_D_Version

!Members=Year
'Name|DataType|SmartList|UDA|Description
FY06|Unspecified|||
FY07|Unspecified|||
FY08|Unspecified|||
FY09|Unspecified|||
FY10|Unspecified|||
FY11|Unspecified|||

!Hierarchies=Year
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex

```

```

#root|FY06|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FY07|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FY08|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FY09|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FY10|StoreData|Y|Y|Y|N|
#root|FY11|StoreData|Y|Y|Y|N|

!PropertyArray=Year
'Property|Name|Key|Value
Alias|FY06|Default|Alias_FY06

!Members=Alias
'Name
Aliases_Table_1
Aliases_Table_2
Aliases_Table_3
Aliases_Table_4
Default

!Hierarchies=Alias
'Parent|Child
#root|Aliases_Table_1
#root|Aliases_Table_2
#root|Aliases_Table_3
#root|Aliases_Table_4
#root|Default

```

Planning のフラット・ファイルの例(シンプル)

次に、Planning で使用できるシンプル・フラット・ファイルの例を示します。シンプル・フラット・ファイルでは、メンバーおよびプロパティ配列セクションは含まれず、これらのセクションの情報は、階層セクションに移動されます。

```

!FILE_FORMAT=ADS
!VERSION=1.0

!Section=Dimensions
'Name|DimensionClass|DimensionAlias|DimDataStorage|Plan1Density|
Plan2Density|Plan3Density|WorkforceDensity|CapexDensity|EnumOrder1|
EnumOrder2|EnumOrder3|EnumOrderWF|EnumOrderCapex|DimValidForPlan1|
DimValidForPlan2|DimValidForPlan3|DimValidForWorkforce|DimValidForCapex
Colors|Attribute|Colors| || || || || || || || || || || || || || || || || ||
Account|Account|Account|NeverShare|Dense|Dense|Dense|Dense||0|0|0|0||Y|
Y|Y|N|
Currency|Currency|Currency|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse||0|0|
0|0||Y|Y|Y|N|
Entity|Entity|Entity|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse||0|0|0|0||Y|
Y|Y|N|
NewCustomDimension|Generic|NewCustomDimension|NeverShare|Sparse|Sparse|
Sparse|Sparse||0|0|0|0||Y|Y|Y|N|
Period|Period|Period|NeverShare|Dense|Dense|Dense|Dense||0|0|0|0||Y|Y|Y|
N|
Scenario|Scenario|Scenario|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse||0|0|
0|0||Y|Y|Y|N|
Version|Version|Version|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse||0|0|0|

```

```

0|Y|Y|Y|N|
Year|Year|Year|NeverShare|Sparse|Sparse|Sparse|Sparse|0|0|0|0|Y|Y|Y|N|
Alias|Alias|Alias|

```

```

!Section=DimensionAssociations
'BaseDimension|Property|TargetDimension
Colors|Alias|Alias
Account|Alias|Alias
Currency|Alias|Alias
Currency|TriangulationCurrency|Currency
Entity|Alias|Alias
Entity|Currency|Currency
Entity|Colors|Colors
NewCustomDimension|Alias|Alias
Period|Alias|Alias
Scenario|Alias|Alias
Scenario|StartPeriod|Period
Scenario|EndPeriod|Period
Scenario|StartYear|Year
Scenario|EndYear|Year
Version|Alias|Alias
Year|Alias|Alias
smartLists|Alias|Alias

```

```

!Hierarchies=Colors
'Parent|Child|DataStorage
#root|blue|
#root|green|
#root|purple|

```

```

!Hierarchies=Account
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|WorkforceAggregation|
DataType|SourcePlanType|AccountType|ExchangeRateType|VarianceReporting|
TimeBalance|SmartList|UDA|TwoPassCalc|SkipValue|Description|
MemberFormula|Alias=Default|Alias=Aliases_Table_1|Alias=Aliases_Table_2|
Alias=Aliases_Table_3|Alias=Aliases_Table_4
#root|100|NeverShare|Y|Y|Y|N|+|+|+|+|Currency|Plan1|Revenue|Average|
NonExpense|Flow|
|Alias_100|Aliases_Table_1 100|Aliases_Table_2 100|
Aliases_Table_3 100|Aliases_Table_4 100

```

```

!Hierarchies=Currency
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
DataType|Symbol|Scale|ThousandSep|DecimalSep|NegativeSign|NegativeColor|
ReptCurrency|TriangulationCurrency|CurrencyCode|SmartList|UDA|
Description|Alias=Default
#root|Local|StoreData|Y|Y|Y|N|Unspecified|null|Whole|None|Dot|Prefixed
Minus|Black|N|
|Local currency|
#root|USD|StoreData|Y|Y|Y|N|Unspecified|$|Whole|None|Dot|Prefixed
Minus|Black|Y|
|United States of America dollar|
#root|DEM|StoreData|Y|Y|Y|N|Unspecified|DM|Whole|None|Dot|Prefixed
Minus|Black|Y|
|Germany deutsche mark|Alias_DEM
#root|EUR|StoreData|Y|Y|Y|N|Unspecified|€|Whole|None|Dot|Prefixed
Minus|Black|Y|
|European Union Euro|
#root|FRF|StoreData|Y|Y|Y|N|Unspecified|F|Whole|None|Dot|Prefixed

```

```

Minus|Black|Y|EUR| | | |France franc|Alias_FRF
#root|IEP|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|IRf|Whole|None|Dot|Prefixed
Minus|Black|Y| | | |Ireland punt

!Hierarchies=Entity
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|WorkforceAggregation|
DataType|Currency|SmartList|UDA|Colors|Description|Alias=Default
#root|ParentMMM|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM|Mem_3|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM|Mem_2|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM|Mem_1|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
#root|ParentMMM_Shared|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM_Shared|Mem_3|ShareData|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM_Shared|Mem_2|ShareData|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
ParentMMM_Shared|Mem_1|ShareData|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
#root|Canada|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
Alias_Canada
#root|United States|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | |blue| |
Alias_United States
United States|Oregon|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|USD| | | |
Alias_Oregon
United States|California|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|
USD| | | |Alias_California
California|San Francisco|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|
USD| | | |Alias_San Francisco
United States|Washington|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified|
USD| | | |Alias_Washington

!Hierarchies=NewCustomDimension
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
Plan1Aggregation|Plan2Aggregation|Plan3Aggregation|WorkforceAggregation|
DataType|SmartList|UDA|Description|Alias=Default
#root|One|NeverShare|Y|Y|Y|N| | | | |Unspecified| | | |Alias_One

!Hierarchies=Period
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
DataType|SmartList|UDA|Description|PeriodType|Alias=Default
#root|BegBalance|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
#root|YearTotal|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Year Time Period|
YearTotal|Q1|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|
Q1|Jan|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
Q1|Feb|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
Q1|Mar|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
YearTotal|Q2|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|
Q2|Apr|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
Q2|May|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
Q2|Jun|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
YearTotal|Q3|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|
Q3|Jul|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
Q3|Aug|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|Alias_Aug_New
Q3|Sep|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Base Time Period|
YearTotal|Q4|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|

```

```

Q4|Oct|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|
Q4|Nov|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|
Q4|Dec|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Summary Time Period|

!Hierarchies=Scenario
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
DataType|StartYear|EndYear|StartPeriod|EndPeriod|UseBegBalance|
EnableProcessManagement|SmartList|ExchangeRateTable|UDA|Description|
Alias=Default
#root|Current|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|FY06|FY09|Jan|Dec|N|Y| | | |
#root|A_Scenario|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|FY06|FY06|Jan|Dec|N|Y| |
A_FXRate| |Alias_A_Scenario
#root|B,_Scenario|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|FY06|FY06|Jan|Dec|N|Y| |
A_FXRate| |Alias_B,_Scenario

!Hierarchies=Version
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
DataType|VersionType|EnableProcessManagement|SmartList|UDA|Description|
Alias=Default
#root|BU_Version_1|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|BottomUp|Y| | | |
#root|A_Version|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|BottomUp|Y| | | |
Alias_A_Version
#root|B,_Version|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|BottomUp|Y| | | |
Alias_B,_Version
#root|C,_Version|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|Target|N| | | |
Alias_C,_Version
#root|D_Version|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified|Target|N| | | |
Alias_D_Version

!Hierarchies=Year
'Parent|Child|DataStorage|MemberValidForPlan1|MemberValidForPlan2|
MemberValidForPlan3|MemberValidForWorkforce|MemberValidForCapex|
DataType|SmartList|UDA|Description|Alias=Default
#root|FY06|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |Alias_FY06
#root|FY07|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |
#root|FY08|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |
#root|FY09|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |
#root|FY10|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |
#root|FY11|StoreData|Y|Y|Y|N| |Unspecified| | |

!Hierarchies=Alias
'Parent|Child
#root|Aliases_Table_1
#root|Aliases_Table_2
#root|Aliases_Table_3
#root|Aliases_Table_4
#root|Default

```



Profitability and Cost Management プロパティの操作

この付録の内容

次元プロパティおよびメンバー・プロパティ 583

次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

Profitability and Cost Management の次元およびメンバーのプロパティは、表 58 にアルファベット順で表示され、次の情報が含まれます:

- プロパティ・ラベル。プロパティにわかりやすい表示名を提供します。該当する場合、名前に関連キューブ・タイプが追加されます(ASO または BSO)。キューブ・タイプが指定されていない場合、プロパティは両方のタイプに適用されます。
- 各プロパティの説明
- プロパティに一意的識別子を提供し、インポートおよびバッチ・クライアントでデータを更新する際に使用するプロパティ名。

次元ライブラリでプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストまたはデータ入力ボックスを表すプロパティを変更できます。

表 58 Profitability and Cost Management の次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Alias	<p>選択した次元またはメンバーの別名を入力します。別名は、配置したアプリケーションに表示される次元名です。</p> <ul style="list-style-type: none">● 現在の次元またはメンバーのデフォルトの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。すべてのデータベースには、「Default」という別名テーブルがあります。● 現在の次元またはメンバーの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、別名テーブルの横にある既存の別名をクリックして新規名前を入力します。	Alias

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	適切な命名規則に従います。	
Attributes	次元メンバーの特性を入力します。 たとえば、従業員次元メンバーには名前、年齢または住所の属性があり、製品次元メンバーにはサイズや味などの一連の属性がある場合があります。	Attributes
Attribute Type	選択した次元またはメンバーの属性のタイプを入力します: <ul style="list-style-type: none"> ● テキスト ● ブール ● 日付 ● 数値 	AttributeDataType
Comment	次元またはメンバーのコメントを入力します。コメントには最大 255 文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場合)。 属性次元またはメンバーにコメントを割り当てられません。 注: Unicode 使用可能データベースでは、最大 80 文字まで許可されます。	Comment
Consolidation	選択した次元またはメンバーの連結のタイプを選択します: <ul style="list-style-type: none"> ● +(加算) - デフォルト ● -(減算) ● *(乗算) ● /(除算) ● %(パーセント) ● ~(連結では無視する) ● ^(連結しない) ● NotUsed 注: 集約ストレージ・アウトラインでは、連結演算子の使用に一部制限があります。詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。	Consolidation

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Data Storage(ASO)	<p>次元およびメンバーの ASO ストレージ・オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● StoreData - データは次元とともに保管されます。 ● ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareData プロパティは、メンバーのみに適用されます。次元ルート・メンバーは共有できません。 ● NeverShare - この次元に関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子に複製されます。 <p>注： このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● LabelOnly - この次元にはデータが関連付けられません。 	ASODimensionDataStorage
Data Storage(BSO)	<p>次元およびメンバーの BSO ストレージ・オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● StoreData - データは次元とともに保管されます。 ● ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareData プロパティは、メンバーのみに適用されます。次元ルート・メンバーは共有できません。 ● NeverShare - この次元に関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子に複製されます。 ● LabelOnly - この次元にはデータが関連付けられません。 ● DynamicCalcAndStore - この次元に関連付けられているデータは、ユーザーが 	DataStorage

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>要求するまで計算されません。計算された後、データは保管されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> DynamicCalc - この次元に関連付けられているデータは、ユーザーが要求するまで計算されません。データは保管されず、要求の処理が完了した後に破棄されます。 	
Dimension Formula(ASO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切な ASO MDX 構文を使用します。</p>	ASODimensionFormula
Dimension Formula(BSO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切な BSO CALCULATOR 構文を使用します。</p>	BSODimensionFormula
Dimension Solve Order	<p>選択した次元のソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、この次元を2番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p>	DimensionSolveOrder
Dimension Sort Order	<p>数値を順番に入力して Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition によって生成された Essbase アウトライン内の次元の順序を設定します。</p> <p>たとえば、この次元が Essbase アウトラインの2番目の次元である場合は、2を入力します。</p> <p>Dimension Sort Order は、別名次元と UDA 次元を除き、モデル内のすべての次元に設定されている必要があります。次元ソート順は連続している必要があります。</p> <p>ソート順は次のように設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> メジャー次元がデフォルトで1に設定されている。 AllocationType 次元がデフォルトで2に設定されている。 	DimensionSortOrder

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● POV 次元とビジネス次元が 3 以上に設定されている。 ● 属性次元が最後の次元としてソートされている。 <p>たとえば、12 個の連続した次元のうち 4 個が属性次元である場合、属性次元には 9、10、11 および 12 を設定する必要があります。</p>	
Dimension Storage Type	<p>次元に必要なストレージ・タイプを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 密 ● 疎 <p>注: このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p>	DimensionStorageType
Hierarchy Type (Dimensions Only)	<p>次元の階層のタイプを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能 ● 使用不可 ● 保管 ● 動的 	DimensionHierarchyType
Hierarchy Type (Members Only)	<p>メンバー元の階層のタイプを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保管(最初の Gen2 の子用) ● 動的(2 番目以降の Gen2 の子用。2 番目の Gen2 メンバーは代替階層をホスト可能) ● なし(使用不可) <p>注: 最後の Gen2 の子は常に NoMember である必要があります。</p>	HierarchyType
Member Formula (ASO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切な ASO MDX 構文を使用します。</p>	ASOMemberFormula
Member Formula (BSO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p>	BSOMemberFormula

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	適切な BSO(BSO CALCULATOR) 構文を使用します。	
Member Solve Order (DimensionsOnly)	<p>選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このメンバーを 2 番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p> <p>このプロパティは、ASO データベースのみに適用されます。</p>	MemberSolveOrder
Member Solve Order (Members Only)	<p>選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このメンバーを 2 番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p> <p>このプロパティは、ASO データベースのみに適用されます。</p>	MemberSolveOrder
POV Dimension	この次元を選択したモデルの POV 次元として設定する場合は、このチェック・ボックスを選択します。	IsPOVDimension
POV Display Order	複数の POV 次元がある場合は、1、2、3 などの数値を入力して、各 POV 次元の表示順を設定します。	POVDisplayOrder
Primary Level Weighting	<p>プライマリ・レベルの加重は、集約操作中のビュー選択エンジンで選択できるレベルを制限します。これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションのみに適用されます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Default - ビュー選択エンジンは選択するレベルを自由に決定できます。これは、新規の階層に対する初期値です。 ● AllLevels - ビュー選択エンジンは階層のすべてのレベルを集約対象とみなします。 ● NoAggregation - ビュー選択エンジンはどのレベルも集約用に選択できません。 ● TopLevelOnly - ビュー選択エンジンは次元の最上位レベルのみを集約対象とみなします。 	PrimaryLevelWeighting

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● BottomaTop - ビュー選択エンジンは、次元の最上位レベルおよび最下位レベルのみを集約対象とみなします。 ● BottomLevelOnly - ビュー選択エンジンは次元の最下位レベルのみを集約対象とみなします。 	
Two Pass Calc(BSO) (Dimensions Only)	次元に対して 2 パス計算を使用可能にする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	TwoPassCalc(BSO)
Two Pass Calc(BSO) (Members Only)	メンバーに対して 2 パス計算を使用可能にする場合は、このチェック・ボックスを選択します。	TwoPassCalc(BSO)
UDA	<p>選択したメンバーの UDA 名を入力します。UDA 次元は、Performance Management Architect に存在し、UDA が追加される先のベースに関連付けられている必要があります。「次元の関連付けの表示」を参照してください。</p> <p>最大 256 文字までの英数字を入力できます。複数の UDA は、カンマで区切る必要があります(例: Small Market,New Market)。</p> <p>注： Unicode 使用可能データベースでは、最大 80 文字まで許可されます。</p>	UDA



Essbaseプロパティの操作

この付録の内容

アプリケーション・プロパティ	591
次元プロパティおよびメンバー・プロパティ	597

アプリケーション・プロパティ

Performance Management Architect は、Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションを作成することによって、Essbase への配置をサポートします。サポートされるのは、キューブのレポート作成のみで、キューブのクエリーはサポートされません。

次に Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションのプロパティをアルファベット順に示します。プロパティ・ラベル列は、Performance Management Architect プロパティ・グリッドのプロパティに表示されるラベルを示します。プロパティ名列に表示されるこの名前を使用すると、Performance Management Architect バッチ・クライアントを使用してプロパティ値を一度に変更できます。スクリプトの実行の詳細については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect バッチ・クライアント・ユーザー・ガイド』を参照してください。

注： 別の指定がないかぎり、プロパティは Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションの両方に適用されます。

表 59 Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションのプロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Allow Duplicates in Outline	<p>アウトラインでの重複メンバー名を許可する場合は選択します。</p> <p>デフォルトでは、Essbase のアウトラインで、メンバー名を一意にする必要があります。既存の一意のアウトラインで重複メンバー名を許可する場合は、このオプションを選択して、重複メンバーを許可するようにアプリケーションを変換できます。アプリケーションを一度変換すると、一意に戻すことはできません。</p>	AllowDuplicatesInOutline

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>デフォルトでは、重複メンバー名を許可するアプリケーションのすべての次元では、重複メンバー名が許可されず、重複メンバー名のアウトラインの1つ以上の次元で、「次元で重複を許可する」オプションを選択解除し、次元で一意的なメンバー名を要求することもできます。</p> <p>デフォルト値: FALSE</p>	
Attribute Calculations Avg Name	<p>アウトラインにおける名前重複を避けるために、属性計算次元またはそのメンバーの名前の変更が必要になる場合があります。</p> <p>必要に応じて、属性計算次元の新規名前またはすべてのメンバーの新規名前を指定します。指定した名前は、レポートおよびスプレッドシートで使用されます。メンバーの機能は、メンバー名の影響を受けません。たとえば、どのような名前であってもカウントされます。</p> <p>省略可能: 属性計算の Avg メンバーに新規名前を指定します。</p> <p>注: このオプションは、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p> <p>デフォルト値: Avg</p>	AttributeCalculationsAvgName
Attribute Calculations Boolean False Name	<p>省略可能: ブール属性次元のすべての FALSE メンバーに対する名前を入力します。たとえば、FALSE 値を持つすべてのメンバーを No と名付けます。</p> <p>デフォルト値: FALSE</p>	AttributeCalculationsBooleanFalse Name
Attribute Calculations Boolean True Name	<p>省略可能: ブール属性次元のすべての TRUE メンバーに対する名前を入力します。たとえば、TRUE 値を持つすべてのメンバーを Yes と名付けます。</p> <p>デフォルト値: TRUE</p>	AttributeCalculationsBooleanTrueName
Attribute Calculations Count Name	<p>省略可能: 属性計算平均の Count メンバーに新規名前を指定します。</p> <p>注: このオプションは、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	AttributeCalculationsCountName

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	デフォルト値: Count	
Attribute Calculations Date Name	日付属性次元のメンバー名のフォーマットを選択します: <ul style="list-style-type: none"> ● 月が最初(mm-dd-yyyy) ● 日が最初(dd-mm-yyyy) デフォルト値: 月が最初	AttributeCalculationsDateName
Attribute Calculations Dimension Name	省略可能: 属性計算次元に新規名前を指定します。 デフォルト値: 属性計算	AttributeCalculationsDimensionName
Attribute Calculations Max Name	省略可能: 属性計算 Max メンバーに新規名前を指定します。 注: このオプションは、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。 デフォルト値: Max	AttributeCalculationsMaxName
Attribute Calculations Min Name	省略可能: 属性計算 Min メンバーに新規名前を指定します。 注: このオプションは、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。 デフォルト値: Min	AttributeCalculationsMinName
Attribute Calculations Range Name	属性値が数値範囲の上限または下限を指定します。たとえば、属性名 1000、100000 および 1000000 で「範囲の一番上」を選択すると、範囲は、0 から 1000、1001 から 100000、および 100001 から 1000000 になります。 次のオプションのいずれかを選択します: <ul style="list-style-type: none"> ● 範囲の一番下 ● 範囲の一番上 デフォルト値: 範囲の一番上	AttributeCalculationsRangeName
Attribute Calculations Sum Name	省略可能: 属性計算次元に新規名前を指定します。 デフォルト値: Sum	AttributeCalculationsSumName
Auto Configure	次元のデータ構成の疎/密を Essbase に自動的に判断させるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● TRUE: Essbase は、各次元の疎/密を自動的に設定しません。次元ストレージ・タ 	AutoConfigure

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>イブを手動で変更できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● FALSE: データ構成の疎/密を手動で変更できるようにします。 <p>注: この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p> <p>デフォルト値: FALSE</p> <p>注: Performance Management Architect の Auto Configure プロパティを変更しても、Essbase 内で上書きされないことがあります。Essbase アプリケーションで Dimension Storage Type プロパティを設定する場合は、Essbase にアプリケーションを配置または再配置する前に、Auto Configure プロパティ値を FALSE に設定する必要があります。</p>	
Case Sensitive	<p>大文字と小文字を区別してメンバーを扱うかどうかを示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● このチェック・ボックスを選択した場合: <p>メンバー名の大文字と小文字は区別されます。たとえば、Product と product は区別されます。名前の大文字と小文字のみが異なるメンバーは、すべてのメンバー比較と検索操作で個別のメンバーとして扱われます。この設定は、デフォルトです。 ● このチェック・ボックスを選択解除した場合: <p>メンバー名の大文字と小文字は区別されません。</p> <p>デフォルト値: TRUE</p> </p>	CaseSensitive
Comment	<p>省略可能: このアプリケーションを説明するコメントを入力します。</p>	Comment
Conversion Method	<p>換算の計算時に使用する換算方法を選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乗算: メイン・データベースに保管されている現地のデータ値に、通貨データベースに格納されてい 	ConversionMethod

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>る換算レートを乗算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 除算(デフォルト): メイン・データベースに保管されているローカルのデータ値を、通貨データベースに保管されている換算レートで除算します。 <p>注: この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	
Currency Database	<p>通貨換算の計算用にリンクする通貨データベースを選択します。現在のデータベースに通貨データベースをリンクしなければ、通貨データベースは「なし」になります。</p> <p>注: この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	CurrencyDatabase
Database Name	<p>このアプリケーションを配置する際に作成する多次元データベースの名前を入力します。</p>	DatabaseName
Prefix/Suffix Format	<p>ブール、日付および数値属性次元のメンバー名に、Essbaseが付加する値のソースを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なし: 接頭辞や接尾辞を付けずに完全なメンバー名を使用します。たとえば、6000000 のようになります。 ● 次元: 完全なメンバー名に、属性次元の名前を接頭辞または接尾辞として付加します。たとえば、Population_6000000 のようになります。 ● 親: 完全なメンバー名に、親の名前を接頭辞または接尾辞として付加します。たとえば、Small_6000000 のようになります。 ● 親の親: 完全なメンバー名に、親の親の名前を接頭辞または接尾辞として付加します。たとえば、Population_6000000 のようになります。 ● 祖先: 完全なメンバー名に、上位世代のすべての名前を接頭辞または接尾 	PrefixSuffixFormat

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>辞として付加します。たとえば、Population_Small_6000000 のようになります。</p> <p>デフォルト値: なし</p>	
Prefix/Suffix Separator	<p>区切り記号: 属性メンバー名および接頭辞または接尾辞との間に挿入する区切り記号を、次の中から選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンダースコア(_): たとえば、Population_Small_6000000 ● パイプ(): たとえば、Population Small 6000000 ● キャレット(^): たとえば、Population^Small^6000000 <p>デフォルト値: アンダースコア(_)</p>	PrefixSuffixSeparator
Prefix/Suffix Value	<p>接頭辞と接尾辞のどちらを付加するかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 接頭辞: 指定した接頭辞を、ブール、日付および数値属性次元のメンバー名の前に付加します。たとえば、Population_6000000 のようになります。「接頭辞」がデフォルト値です。 ● 接尾辞: 指定した接尾辞を、ブール、日付および数値属性次元のメンバー名の後ろに付加します。たとえば、6000000_Population のようになります。 <p>デフォルト値: 接頭辞</p>	PrefixSuffixValue
Unicode	<p>アプリケーションを Unicode モードに移行するには、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>注意 アプリケーションを Unicode モードに設定する処理は、元に戻せません。アプリケーションの Unicode モードへの以降については、『Oracle Essbase Database 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>デフォルト値: FALSE</p>	Unicode

次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

次に、Essbase (ASO)および Essbase (BSO)の次元およびメンバーのプロパティをアルファベット順に示します。

注： 別の指定がないかぎり、プロパティは Essbase (ASO)アプリケーションおよび Essbase (BSO)アプリケーションの両方の次元およびメンバーに適用されます。

表 60 Essbase (ASO)および Essbase (BSO)の次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Alias	<p>テキスト・ボックスに別名を入力します。</p> <p>そのデータベースに対して定義されているすべての別名テーブル、および現在のメンバーに対して定義されているすべての別名が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">● デフォルト: 現在の次元またはメンバーのデフォルトの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。すべてのデータベースには、「Default」という別名テーブルがあります。● 別名テーブルの一覧: 現在の次元またはメンバーの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、別名テーブルの横にある既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。	Alias
Allow Duplicates In Dimension	<p>重複メンバー名を許可するアウトラインで、次のいずれかのオプションを選択し、細かいレベルでメンバー名の一意性を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none">● TRUE: 次元内で重複メンバー名を許可します。● FALSE: 次元内では一意のメンバー名は必須です。これは、重複メンバー名のアウトラインのデフォルトです。 <p>注： この設定は、一意のメンバー名を必須とするアウトラインには適用されません。</p>	AllowDuplicatesInDimension

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Comment	<p>次元またはメンバーのコメントを入力します。コメントには最大 255 文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場合)。</p> <p>属性次元またはメンバーにコメントを割り当てられません。</p>	Comment
Consolidation	<p>メンバー連結プロパティは、子を親にロール・アップする方法を指定します。現在のメンバーが次元または属性でない場合は、連結演算子を選択してそのメンバーに割り当てます:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● + (加算) ● - (減算) ● * (乗算) ● / (除算) ● %(パーセント) ● ~(連結では無視する) ● ^ (連結しない) ● NotUsed <p>デフォルト値: + (加算)</p> <p>『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』の属性データの計算に関する項目も参照してください。</p> <p>注: 集約ストレージ・アウトラインでは、連結演算子の使用に一部制限があります。</p>	Consolidation
Currency	<p>選択したアイテムが次元で、その次元に国のタグが付けられている場合に表示されません。</p> <p>通貨名を入力します(たとえば、米国ドルの場合は USD)。通貨換算のためにメイン・データベースのアウトラインを準備する際には、国次元およびそのメンバーに通貨名を割り当てる(たとえば、アメリカにはドルを、ドイツにはユーロを割り当てる)必要があります。</p> <p>注: この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	Currency

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
Currency Conversion	<p>現在のメンバーが勘定科目次元のメンバーで、通貨アプリケーションの中にある場合は、次のオプションを設定します。</p> <p>注： この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p> <p>「通貨換算」ドロップ・ダウン・リストがあります。次の通貨換算オプションの1つを選択して、通貨の為替レートのカテゴリを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なし: このメンバーには通貨換算との関係はありません。これはデフォルトの設定です。 ● 換算しない: メンバーは通貨の値ではないために換算されません。その値は数量またはパーセンテージなどの可能性があります。 ● カテゴリ: このメンバーは、指定したカテゴリへの通貨換算を必要とします。 <p>『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』の通貨換算のためのメイン・データベース・アウトラインの準備に関する項目を参照してください。</p>	CurrencyConversion
Currency Category	<p>現在のメンバーが勘定科目次元のメンバーで、メンバーが通貨換算を必要とする場合は、必要な通貨換算のタイプを入力します。</p> <p>通貨カテゴリ・タイプは、通貨データベースの勘定科目次元のメンバーの名前です。</p> <p>『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』の会計メンバーへの通貨カテゴリの割当てに関する項目を参照してください。</p> <p>注： この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	CurrencyCategory
Data Storage	次のいずれかのストレージ・オプションを選択します:	DataStorage

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● StoreData: 次元とともにデータを保管するには、これを選択します。 ● DynamicCalcAndStore: ユーザーから要求されるまでこの次元と関連するデータが計算されないようにするには、これを選択します。一度計算されると、そのデータは保管されません。 このオプションは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。 ● DynamicCalc: ユーザーから要求されるまでこの次元と関連するデータが計算されないようにするには、これを選択します。データは保管されず、要求が実行された後で破棄されます。 このオプションは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。 ● NeverShare: この次元と関連するデータが共有されないようにするには、これを選択します。暗黙の共有関係(親と1つの子など)がある場合でも共有されず、この例の場合は親および子間でデータが複製されます。 このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。 ● LabelOnly: この次元にデータを関連付けないようにするには、これを選択します。 このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに対して制限がありません。 ● Share Data: 共有メンバーの場合です。メンバーは同じ名前の別のメンバーとストレージ・スペースを共有します。重複メンバー名を使用可能にするアウトラインでは、共有としてタグ付けしたメンバーと同じ名前の複数メ 	

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>ンバーが含まれる場合、「共有メンバーの複製」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスには、アウトライン内の共有メンバー名と一致するすべてのメンバー名が表示されます。共有メンバーの基準にする重複メンバーを選択します。集約ストレージ・データベースでの教諭メンバーの使用の詳細については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』の代替階層に関する項目を参照してください。</p> <p>デフォルト値: NeverShare</p> <p>注： Performance Management Architect を使用して、ハイブリッド分析または拡張リレーショナル・アクセス・キューブを作成できません。</p>	
Dimension Solve Order	<p>次のいずれかの解決順序オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存の値または 0: アウトラインで指定した解決順の設定を使用する場合に選択します。既存の設定がない場合、Essbase は解決順の値を 0 に設定します。 ● 新規の値: 優先度を表す数字を指定する場合に選択します。Essbase はその値で式を計算します。解決順が最上位のメンバーに対する式が優先されます。解決順には 0 から 127 までの数値を指定できます。0 より小さい、または 127 より大きい値の場合は、それぞれ 0 または 127 にリセットされます。警告メッセージは表示されません。デフォルト値は 0 です。 <p>メンバー・レベルで解決順序を指定することもできます。解決順序が設定されていないメンバーは、その次元の解決順序を受け継ぎます。</p> <p>解決順の詳細については、『Essbase Administration Services</p>	DimensionSolveOrder

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>オンライン・ヘルプ』の計算の順序に関する項目を参照してください。</p> <p>注： これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションにのみ適用されます。</p>	
Fully Qualified Shared Member	<p>重複メンバー名を使用可能にするアウトラインでは、メンバーの修飾名とともに重複(一意でない)名を表示します。修飾メンバー名は、メンバー名に対して祖先を接頭辞にして(名前が一意になるまで祖先をさかのぼって)構成されます。</p> <p>たとえば、New York という名前のメンバーがアウトラインに2つ存在し、一方は State、他方は City の下に含まれている場合は、修飾メンバー名には次のように、2つのメンバーを区別する最初の祖先の名前が含まれます:</p> <p>[State].[New York]</p> <p>[City].[New York]</p>	FullyQualifiedSharedMember
Hierarchy Type	<p>次のいずれかの階層オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能: 複数の階層を使用可能にします。保管する階層と動的階層の両方を次元内で使用する場合に選択します。 ● 使用不可: 複数の階層を使用不可にします。 ● 保管済: 保管階層として次元を設定するには、これを選択します。これはデフォルトです。 ● 動的: 動的階層として次元を設定するには、これを選択します。 <p>勘定科目タグが付けられた次元は自動的に動的次元とみなされます。勘定科目次元を保管階層に指定できません。</p> <p>動的階層と保管階層の使用に関する制限の重要な情報は、『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』の階層に関する項目を参照してください。</p>	HierarchyType

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>注： これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションにのみ適用されます。</p>	
Member Formula	メンバーに関連付けられたすべての式が表示されます。	MemberFormula
Member Solve Order	<p>優先度を表す数字を指定します。Essbase はその値で式を計算します。解決順が最上位のメンバーに対する式が優先されます。解決順には 0 から 127 までの数値を指定できます。0 より小さい、または 127 より大きい値の場合は、それぞれ 0 または 127 にリセットされます。警告メッセージは表示されません。</p> <p>デフォルト値: 0</p> <p>解決順が 0 のメンバーは、そのメンバーの次元の解決順序を継承します。解決順が同じメンバーはその次元がデータベース・アウトラインに出現する順序で評価されます。解決順が指定されていないメンバーは、解決順があるメンバーの後で評価されます。</p> <p>解決順の詳細については、『Essbase Administration Services オンライン・ヘルプ』の計算の順序に関する項目を参照してください。</p> <p>注： この設定は、Essbase (ASO)アプリケーションにのみ適用されます。</p>	MemberSolveOrder
Primary Level Weighting	<p>プライマリ・レベルの加重は、集約操作中のビュー選択エンジンで選択できるレベルを制限します。</p> <p>注： これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションにのみ適用されます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト: ビュー選択エンジンは選択するレベルを自由に決定できます。これは、新規の階層に対する初期値です。 ● ConsiderAllLevels: ビュー選択エンジンは階層のすべてのレベルが集約に対応するとみなします。 	PrimaryLevelWeighting

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● DoNotAggregate: ビュー選択エンジンはそのどのレベルも集約用に選択できません。 ● ConsiderTopLevelOnly: ビュー選択エンジンは次元の最上位レベルのみが集約に対応するとみなします。 ● NeverAggregateToIntermediate Levels: ビュー選択エンジンは、次元の最上位レベルおよび最下位レベルのみが集約に対応するとみなします。 デフォルト値: デフォルト	
Secondary Level Weighting	集約操作中にビュー選択エンジンで選択できる属性のレベルを制限します。 次のオプションのいずれかを選択します: <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト: ビュー選択エンジンは選択するレベルを自由に決定できます。これは、新規の階層に対する初期値です。 ● ConsiderAllLevels: ビュー選択エンジンは階層のすべてのレベルが集約に対応するとみなします。 ● DoNotAggregate: ビュー選択エンジンはどのレベルも集約用に選択できません。 ● ConsiderTopLevelOnly: ビュー選択エンジンは次元の最上位レベルのみが集約に対応するとみなします。 ● NeverAggregateToIntermediate Levels: ビュー選択エンジンは、次元の最上位レベルおよび最下位レベルのみが集約に対応するとみなします。 デフォルト値: デフォルト	SecondaryLevelWeighting
Skip Value	次のいずれかのオプションを選択して、タイム・バランスの計算中に Essbase がスキップまたは無視する対象を指定します。タイム・バランス・プロパティに「期首」、「期末」、または「平均」を設定した場合にはスキップのみ指定できます。	SkipValue

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> ● なし: 親の値を計算するときに、ゼロおよび欠落している値を含めるには、これを選択します。 <p>注: Essbase が計算中に #MISSING 値を検出した場合、その #MISSING の値はメンバーの総数で除算されず、実績値を持つメンバーの総数で除算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 欠落: 親の値を計算するときに #MISSING 値を除外するには、これを選択します。 ● ゼロ: 親の値を計算するときにゼロを除外するには、これを選択します。 ● 欠落およびゼロ: 親の値を計算するときに、#MISSING 値およびゼロを除外するには、これを選択します。 <p>デフォルト値: なし</p>	
Time Balance	<p>次のいずれかのオプションを選択して、タイム・バランスのプロパティを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存の定義またはなし: アウトラインで指定された設定を使用する場合に選択します。既存の設定がない場合、Administration Services がタイム・バランス・プロパティを「なし」に設定します。これはデフォルトです。 ● なし: タイム・バランス・プロパティを使用しない場合に選択します。メンバー値はデフォルトの方法で計算されます。 ● 期首: 親の値が期間の開始時点における値を表す場合は、このタイム・バランス・プロパティを選択します。 ● 平均: 親の値が期間中の平均値を表す場合は、このタイム・バランス・プロパティを選択します。 ● スキップ・ノード: 次のいずれかのオプションを選択して、タイム・バランスの計算中に Essbase がス 	TimeBalance

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>キップまたは無視する対象を指定します。タイム・バランス・プロパティに「期首」、「期末」、または「平均」を設定した場合にはスキップのみ指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし: 親の値を計算するときに、ゼロおよび欠落している値を含めるには、これを選択します。 <p>注: Essbase が計算中に#MISSING 値を検出した場合、その#MISSING の値はメンバーの総数で除算されず、実績値を持つメンバーの総数で除算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 欠落: 親の値を計算するときに#MISSING 値を除外するには、これを選択します。 ○ ゼロ: 親の値を計算するときにゼロを除外するには、これを選択します。 ○ 欠落およびゼロ: 親の値を計算するときに、#MISSING 値およびゼロを除外するには、これを選択します。 <p>注: このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p> <p>デフォルト値: フロー</p>	
Two Pass Calc	<p>アウトラインの 2 回目のパスでその次元を計算するには、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>注: この設定は、Essbase (BSO)アプリケーションのみに適用されます。</p>	TwoPassCalc
UDA	<p>選択したメンバーの UDA 名を入力します。複数の UDA の場合はカンマで区切る必要があります。例: Small Market, New Market。</p>	UDA
Variance Reporting	<p>次のいずれかのオプションを選択して、実績データおよび予算データの差異を計算する方法を指定します。</p>	VarianceReporting

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>注： このプロパティの値を親レベルで定義すると、すべての子はその値を自動的に継承します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「既存の定義または支出外」：アウトラインで指定されている設定を使用して実際のデータと予算データの差異を計算する場合に選択します。既存の設定がない場合、Essbase は次元を支出外として保管します。これはデフォルトの設定です。 ● 「支出外」：メンバーを支出外として設定する場合に選択します。支出外のアイテム(たとえば売上など)の予算を立てる場合は、売上実績が予算時の見積を上回ることを期待します。売上実績が予算を下回ると、差異は負数になります。 ● 支出: メンバーを「支出」に設定するときに選択します。ある期間の支出を予算化するとき、支出の実績が予算を下回る必要があります。実績が予算を上回ると、差異は負数になります。 <p>注： これらのオプションは、Essbase (BSO)アプリケーションにのみ適用されます。</p> <p>デフォルト値: NonExpense</p>	



統計およびシステム・プロパティの操作

選択したカテゴリを問わず、次元メンバーに適用される統計およびシステム・プロパティがあります。次の表で、これらのプロパティについて説明します。

注： 統計プロパティでは、プロパティはメンバーのみに定義されます。

Property	Value	
Hidden Member	<input type="checkbox"/>	✓
Reference Count	1	🔍
Sibling Count	24	🔍
Child Count	3	🔍
Descendant Count	20	🔍

統計プロパティ	メンバーについて提供された情報
Hidden Member	メンバーが非表示であるかどうかを示します。 デフォルト値: FALSE
Reference Count	親の数
Sibling Count	兄弟の数
Child Count	子の数
Descendant Count	子孫の数

システム・プロパティはメンバーおよび次元に対して定義されます。

メンバーのシステム・プロパティ:

- 名前
- 説明
- 親
- ソート順
- 親の説明
- 表示文字列(今回は使用しない)
- メンバー・クラス(今回は使用しない)

次元のシステム・プロパティ:

- 次元名

- 次元の説明
- 表示プロパティ - (今回は使用しない)
- デフォルト・メンバー - デフォルトの最上位のメンバー
- 次元タイプ - 次元のタイプ
- 次元の別名 - 配置済アプリケーションで表示される次元名。
- 次元の所有者 - 次元を変更および削除できるユーザーおよびグループ。次元のアクセス権の設定情報については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- 次元リーダー - 次元を表示できるユーザーおよびグループ。次元のアクセス権の設定情報については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- 次元ライター - 次元を変更できるユーザーおよびグループ。次元のアクセス権の設定情報は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

注： システム・プロパティの `IsPrimary` はプロパティ・グリッドに表示されませんが、インポート・ソースで使用されます。このプロパティは、階層セクションの親/子関係がプライマリ・メンバーを参照するかどうかを示すブール・プロパティです。このプロパティが使用されない場合、メンバーに対して作成された最初の親/子関係が次元階層の最初のメンバーの場所になります。このプロパティが使用された場合、TRUE の値が、配置されるプライマリ・メンバーを許可するプライマリ・メンバーの関係を、次元におけるそのメンバーの 2 番目またはその後の発生と定義します。このプロパティは、インポートを介して、名前、親または子システムのプロパティのように処理されます。メタデータをインポートする場合、インポート・ソースの階層セクション・ヘッダー行は、そのプロパティ名 (`IsPrimary`) を参照し、インポート中にプロパティを認識する必要があります。詳細は、[52 ページ](#) の「階層セクション」を参照してください。



アプリケーションの検証

次の表では、各アプリケーション・タイプに対して Performance Management Architect によって実行される検証について説明します。

表 61 連結の検証

検証レベル	検証
次元	<ul style="list-style-type: none">● 連結アプリケーションでサポートされないため、アプリケーションに UDA 次元がないことを確認する● アプリケーションで無効の次元クラスを使用している次元があるかどうかを判断する● 期間次元がローカルであることを確認する● 次元インスタンスが次元の深さの最大許容レベルを超えていることを確認する● 次元が共有メンバーをサポートすることを確認する● 次元が一意でないメンバーをサポートすることを確認する● 次元に必要な関連付けがあることを確認する● カスタム次元 ID を検証する● 静的次元があるかどうかチェックする
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none">● このアプリケーションに少なくとも 1 つの次元が必要である● アプリケーションに追加されている次元クラスの、許容済次元インスタンス数を検証する● アプリケーション名にルールを実行する● 無効な文字があるかどうかチェックする● 現在のプロパティに有効な値があることを確認する● アプリケーション・プロパティに有効な値があることを確認する
メンバー	<ul style="list-style-type: none">● メンバー用に有効な勘定科目の種別があることを確認する● 有効なデフォルト・メンバー・プロパティがあることを確認する

表 62 Planning の検証

検証レベル	検証
次元	<ul style="list-style-type: none">● 属性次元は、疎次元にのみ関連付けが可能である● ブール・メンバーに許容される値は、TRUE または FALSE である● レベル-0 の日付メンバーは、アプリケーション設定で日付フォーマット・プロパティ設定に一致している必要がある● レベル-0 の数値のメンバーは、有効な数値である必要がある

検証レベル	検証
	<ul style="list-style-type: none"> ● 表示次元タイプは、Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition アプリケーションではサポートされない ● タイプが BOOLEAN、DATE または NUMERIC の空の属性次元を、基本次元と関連付けることはできない ● 基本次元は、1 つのブール属性次元とのみ関連付けることができる ● 年、通貨および別名の次元に制約された次元レベルがあることを確認する ● 年、通貨および別名の次元に共有メンバーがないことを確認する ● 次元は同次元内に一意でないメンバーをサポートしない ● 各別名次元にデフォルトの別名メンバーがあることを確認する ● 選択した次元プラン・タイプは、アプリケーションに対して選択されているプラン・タイプと同一またはサブセットである必要がある ● 別名の次元に許容されていない名前がないことを確認する ● 別名テーブルで別名の重複をチェックする ● Version Type プロパティが「目標」に設定されている場合、Enable Process Management プロパティが、TRUE に設定されないように、バージョン次元のすべてのメンバーをチェックする ● メンバー名および別名は一意である必要がある <p>期間および年の検証:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年メンバーは連続している必要がある ● 最初の年メンバーは、現在のアプリケーションの開始年にする必要がある ● 期間ツリーの年合計メンバーの下にある各レベルには、同じ子の数が必要である ● このアプリケーションの基本期間の年合計メンバーの下にあるリーフ・メンバーの数が間違っている ● 最大期間数は 500 である ● 最大の年メンバー数を超過している ● 年次元に 100 を超える年がないことを確認する ● 年次元で最初の年を取得する ● 配置済のアプリケーションには、範囲の最初に年を追加できない ● 期間次元メンバーの深さが期間タイプに基づくことを確認する
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション内に次元の関連付けが存在しない ● 157 ページの「Planning アプリケーションの作成」にあるように、アプリケーション内で必要な最小の次元数をチェックする ● シナリオ、年、期間、エンティティ、勘定科目および別名の次元が、アプリケーションの指定より多くのインスタスがないことを確認する ● アプリケーション・レベルの選択したプラン・タイプに基づき、必要な次元がすべて表示されていることをチェックする ● Account Type プロパティに、Planning に有効な値のみが含まれていることを確認する ● アプリケーション名にルールを実行する ● PerfOrder プロパティ (RatesPlan1PerfOrder など)に、一意のプラン・タイプの値があることを確認する
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ● ソース・プラン・タイプ値はメンバーに対して有効でない ● この値の支出レポート値は有効でない ● タイム・バランスは Essbase アプリケーションの最後にのみ設定できる

検証レベル	検証
	<ul style="list-style-type: none"> ● メンバーのプラン・タイプは、その親と同一、またはサブセットである必要がある。上位レベルのメンバーにおいて、親プラン・タイプは次元のプラン・タイプである ● 選択した期間タイプに基づき有効な DTS があるかどうかチェックする ● 特定の次元クラスのすべての次元のメンバーすべてに、特定のプロパティ用の非 NULL 値があり、プロパティ値が許容された値であることをチェックする ● Data Type プロパティに基づく為替レート・タイプ・プロパティ値をチェックする ● DataStorage プロパティに基づく Two Pass Calculation プロパティをチェックする ● 複数のメンバーが属性プロパティを使用する場合、これらのメンバーはそれぞれの階層と同一レベルである必要がある <p>メンバー名の検証:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマート・リストのメンバー名に、特殊文字または空白スペースがあってはならない ● 年メンバー名は、FY08 のフォーマットである必要がある ● メンバー名に前端または後端の空白があってはならない ● 1 から 80 文字の範囲である必要がある ● 特殊文字または予約語を含めることはできない ● 特殊文字で開始できない ● 予約語であってはいけない ● 次元名と一致できない ● 属性タイプがブールである場合、メンバー名の値として許可されるのは TRUE または FALSE のいずれかである

表 63 収益性の検証

検証レベル	検証
次元	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネス次元には LabelOnly に設定されている ASO データ・ストレージおよび BSO データ・ストレージが必要である。 ● 次元ソート順がモデルに対して設定されていて、次の条件を満たしている: <ul style="list-style-type: none"> ○ 別名次元と UDA 次元を除く、モデル内のすべての次元ソート順が設定されている。 注： 別名次元と UDA 次元は、次元ソート順に対して無視されている。 ○ 次元ソート順が連続している。 ○ メジャー次元がデフォルトで 1 に設定されている。 ○ AllocationType 次元がデフォルトで 2 に設定されている。 ○ POV 次元とビジネス次元が 3 以上に設定されている。 ○ 属性次元が最後の次元としてソートされている。 <p>たとえば、12 個の連続した次元のうち 4 個が属性次元である場合、属性次元には 9、10、11 および 12 を設定する必要があります。</p>
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーションの名前が 7 文字以下で、特殊文字が含まれていない。 ● 少なくとも 1 つの次元が POV タイプに設定されている。 ● POV フラグのある次元数は、1 から 4 の範囲である必要がある

検証レベル	検証
シヨ ン	<ul style="list-style-type: none"> ● 定義済ビジネス次元が少なくとも1つ必要である ● メジャー次元が1つ必要である ● AllocationType 次元が1つ必要である ● 許容される勘定科目タイプの次元は1つのみである ● 許容されるエンティティ・タイプの次元は1つのみである
メン バー	<ul style="list-style-type: none"> ● ASO および BSO データ・ストレージのみを定義できる ● NoMember は、すべてのビジネス次元で最終世代2メンバーとして設定する必要がある。 <p>注： この要件は POV、メジャー、AllocationType、別名、UDA または属性次元に適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同じ親の下に重複するメンバーがない。

表 64 Essbase (BSO)の検証

検証レベル	検証
アプ リケ ーシ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> ● このアプリケーションに少なくとも1つの次元が必要である ● アプリケーションに追加されている次元クラスの、許容済次元インスタンス数を検証する ● 次元が、重複および一意でないメンバーを許可するように設定されていないことを確認する ● 勘定科目次元のタイム・バランスが設定されている場合は、Skip プロパティを設定する必要がある

表 65 Essbase (ASO)検証

検証レベル	検証
アプ リケ ーシ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> ● このアプリケーションに少なくとも1つの次元が必要である ● アプリケーションに追加されている次元クラスの、許容済次元インスタンス数を検証する ● 10 を超える深さを持つ階層はパフォーマンス警告を受ける ● 階層の複数のルールをチェックする
メン バー	<ul style="list-style-type: none"> ● 唯一サポートされている連結演算子は+である ● 式は動的な階層でのみ有効である ● 保管階層の共有メンバーは、複数の階層次元でのみ有効である ● 保管階層のラベルのみのメンバーは、ラベルのみの兄弟を持っている必要がある

この付録の内容

メンバー・クエリー関数の使用方法 615

メンバー・クエリー関数の使用方法

Performance Management Architect データ・シンクロナイザは、次のメンバー・クエリー関数をサポートしています:

- list
- union
- AND - AND 演算を実行します。
- OR - OR 演算を実行します。
- Member() - 指定のメンバーを戻します。
- **Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition のみ:**
 - AllMembers() - すべてのメンバーを階層で戻します。
 - TopOfHierarchy() - 親メンバーを持たない、階層の最上位のメンバーを戻します。
 - BottomOfHierarchy() - 子を持たない、階層の最下位のメンバーを戻します。
[617 ページの「BottomOfHierarchy」](#)を参照してください。
- **Essbase のみ:**
 - Ancestors() - 同じ分岐内の指定したメンバーより上位のすべてのメンバーを戻します。[616 ページの「Ancestors」](#)を参照してください。
 - Children() - 指定した親の 1 レベル下のメンバーを戻します。
 - Descendants() - 指定した親より下位のすべてのメンバーを戻します。
 - Match() - 指定したパターンに一致するメンバーを戻します。[617 ページの「Match」](#)を参照してください。
 - Parent() - 同じ分岐内の member-name より 1 レベル上のメンバーを戻します。[618 ページの「Parent」](#)を参照してください。
 - Property() - 指定したプロパティ値のメンバーを戻します。[618 ページの「Property」](#)を参照してください。
 - Siblings() - member-name パラメータと同レベルの同じ親を持つメンバーを戻します。[620 ページの「Siblings」](#)を参照してください。

構文

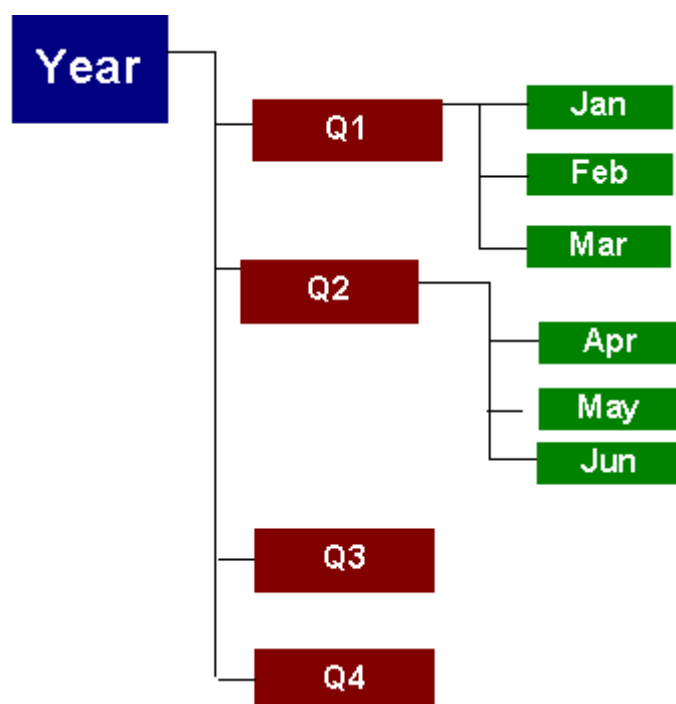
文字列に空白文字が含まれている場合を除いて、文字列を引用符で囲むのはオプションです。たとえば、"long name"は引用符で囲む必要がありますが、nameは囲む必要はありません。

次のコード例の一部の文字列は2行で表示されていますが、コード内では文字列を1行のみで定義する必要があります。

例

すべての例は、次の年次元に基づいています:

図1 年次元



Ancestors

同じ分岐内の指定したメンバーより上のすべてのレベルのメンバーを戻します。

構文

Ancestors (member-name, hierarchy, inclusive)

パラメータ	説明
member-name	次元のメンバー名。
hierarchy	次元の階層。Essbaseでは、異なる階層を持ってないため、階層は次元名になります。

パラメータ	説明
inclusive	TRUE の場合、パラメータ member-name も戻されます。 FALSE の場合、パラメータ member-name は戻されません。

例

Ancestors ("Jan", "Year", "True")

Q1 を戻します

BottomOfHierarchy

子を持たないメンバーを戻します。

構文

BottomOfHierarchy (hierarchy)

ここで、hierarchy は次元の階層です。Essbase では、異なる階層を持っていないため、階層は次元名になります。

例

BottomOfHierarchy ("Year")

Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Q3、Q4 を戻します

Match

指定したパターンに一致するメンバーを戻します。

構文

Match (pattern)

ここで、pattern はテキスト文字列です。次のワイルドカード文字を使用できます

? - 任意の 1 文字と一致します

* - 0 文字以上の文字と一致します。* は文字列の末尾にのみ使用できます。

例

match ("Q?")

Q1、Q2、Q3 および Q4 を戻します

Parent

同じ分岐内の member-name より 1 つ上のレベルのメンバーを戻します。

構文

Parent (member-name, hierarchy, inclusive)

パラメータ	説明
member-name	次元のメンバー名。
hierarchy	次元の階層。Essbase では、異なる階層を持ってないため、階層は次元名になります。
inclusive	TRUE または FALSE に設定します。 TRUE の場合、パラメータ member-name も戻されます。 FALSE の場合、パラメータ member-name は戻されません。

例

```
parent ( "Jun " , "Year" , "True" )
```

Jun、Q2 を戻します

Property

指定したプロパティ値を持つメンバーを戻します。2 つの構文仕様があります。

次のステートメントは構文 2 を使用しています:

```
select * from Year where "Population" < 1000
```

前述のステートメントは、構文 1 を使用した次のステートメントと同等です:

```
select * from Year where Property("Population", 1000, "<")
```

構文 1

Property (property-type, property-value, optional operator)

パラメータ	説明
property-type	次のいずれかの値を使用します: <ul style="list-style-type: none">"Name""Attribute dimension name"。ここで、Attribute dimension name は動的です。"UDA""Alias table name"。ここで、Alias table name は動的です。
property-value	実際のプロパティ値。

パラメータ	説明
optional operator	演算子は、プロパティ・タイプが属性次元名の場合のみ指定します。デフォルト演算子は等号です。>、<、=、<>、!=、<=、>=

例 1

次の例では、Essbase とともにインストールされるサンプル・アプリケーションと基本データベースを使用しています。

名前

```
property ("Name", "QTR1")
```

名前が"Qtr1"に等しいメンバーである Qtr1 を戻します

属性次元

```
property ("population", "3000", ">")
```

population 属性が 3000000 より大きい、基本次元のすべてのメンバーを戻します

結果: New Hampshire、Utah、Nevada、New Mexico、Iowa

UDA

```
property ("UDA", "major market")
```

UDA 値が"major market"であるすべてのメンバーを戻します

別名テーブル

```
property ("long names", "quarter 1")
```

別名テーブル"long names"内の別名が"quarter 1"に等しいメンバーである Qtr1 を戻します

構文 2

次の構文を使用する property()メンバー・クエリー関数も指定できます:

```
<"Property type"> <operator> <"value">
```

パラメータ	説明
"property-type"	次のいずれかの値を使用します: <ul style="list-style-type: none"> "Name"、ここで Name は動的です。 "Attribute dimension name"、ここで Attribute dimension name は動的です。 "UDA" "Alias table name"、ここで Alias table name は動的です。
optional operator	演算子は、プロパティ・タイプが属性次元名の場合のみ指定します。デフォルト演算子は等号(=)です。次のいずれかの演算子を使用します:

パラメータ	説明
	>、<、=、<>、!=、<=、>=
value	実際のプロパティ値。

例 2

次の例では、Essbase とともにインストールされるサンプル・アプリケーションと基本データベースを使用しています。

名前

"Name" = "QTR1"

名前が"quarter 1"に等しいメンバーである Qtr1 を戻します

注： 名前プロパティ・タイプでは、=演算子のみ有効です。

属性次元

"population"> "3000"

population 属性が 3000000 より大きい、基本次元のすべてのメンバーを戻します

結果: New Hampshire、Utah、Nevada、New Mexico、Iowa

注： 属性次元では、すべての演算子(>、<、=、<>、!=、<=、>=)が有効です

UDA

"UDA" = "major market"

UDA 値が"major market"であるすべてのメンバーを戻します。

別名テーブル

"long names" = "quarter 1"

別名テーブル"long names"内の別名が"quarter 1"に等しいメンバーである Qtr1 を戻します

Siblings

member-name パラメータと同じレベルに同じ親を持つメンバーを戻します。

構文

Siblings (member-name, hierarchy, inclusive)

パラメータ	説明
member-name	次元のメンバー名。
hierarchy	次元の階層。Oracle Essbase では、異なる階層を持っていないため、階層は次元名になります。
inclusive	TRUE または FALSE に設定します。 TRUE の場合、パラメータ member-name も戻されます。 FALSE の場合、パラメータ member-name は戻されません。

例

siblings ("Jan", "Year", False)

Feb、Mar を戻します



BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定

BPMA_Server_Config.xml ファイルには、DimensionServer および log4net という 2 つの主要要素があります。DimensionServer セクションには、次元サーバーとその他の関連プロセスの内部動作に固有の設定が含まれています。log4net セクションには、log4net モジュールが警告やエラーなどをログングするために使用する設定が含まれています。BPMA_Server_Config.xml ファイルは、<Hyperion_Home>¥products¥Foundation¥BPMA¥AppServer¥DimensionServer¥ServerEngine¥bin にあります。次に BPMA_Config_Server.xml ファイルの抜粋を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<Config>
  <DimensionServer>

    <Data_Access_Layer>
      <SqlVendor>SqlServer</SqlVendor>
      <Server>localhost</Server>
      <Database>EPMA</Database>
      <Port>1433</Port>
      <LogonID>epma_db</LogonID>
      <Password>MONRJQOR</Password>
      <ConnectRetries>3</ConnectRetries>
      <ConnectRetryTimeout>2</ConnectRetryTimeout>
      <CommandTimeout>900</CommandTimeout>
    </Data_Access_Layer>

    <SessionManager>
      <JvmPath>%HYPERION_HOME%\common\JRE\Sun\1.5.0\bin\client\jvm.dll</
JvmPath>
```

注： 次の表の説明には、デフォルト値が示されているものがあります。デフォルト値は、Performance Management Architect のインストール時に自動的に事前に移入される値です。次の表で記載がないかぎり、設定を空白にしないでください。

次の表に、BPMA_Server_Config.xml ファイル内の設定のパラメータ、説明およびデフォルト設定を示します。

パラメータ	説明	デフォルト設定
DimensionServer	セッション・マネージャ、プロセス・マネージャ、イベント・マネージャ、ジョブ・マネージャなどの、次元サーバーとその他の関連プロセス	

パラメータ	説明	デフォルト設定
	の内部動作に固有の設定が含まれています。	
Data_Access_Layer	Shared Services から接続の詳細を取得できない場合にデータベースへの接続を作成するために使用される値が含まれています。	
SqlVendor	<p>データを保管するために使用するリレーショナル・データベースのタイプまたはブランド。使用できる値は、SqlServer、Oracle および DB2 です。</p> <p>SQL Server 設定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Server - データベースが常駐する物理マシンの名前。データベースが次元サーバーと同じマシンに常駐する場合、この値には、localhost を使用できます。 ● Database - データベースの名前。 ● Port - データベースが接続を受け取るポート番号(SQL Server のデフォルトは 1433 です)。(この設定は空白にできます。) <p>Oracle 設定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● OracleRAC - TRUE に設定すると、接続先のデータベースが Oracle Real Application Cluster 構成であることを示します。FALSE に設定した場合、または OracleRAC 要素が完全に欠如している場合は、OracleRAC 以外のデータベース構成であることを示します。 ● Server - データベースが常駐する物理マシンの名前。データベースが次元サーバーと同じマシンに常駐する場合、この値には、localhost を使用できます。tnsnames.ora ファイルでクライアント(次元サーバー)マシン上で定義されているネット・サービス名を使用して接続する場合、このパラメータは空白にできます。 ● Database 	

パラメータ	説明	デフォルト設定
	<ul style="list-style-type: none"> ○ OracleRAC データベース構成では、この値にはデータベースの SERVICE_NAME が含まれます。 ○ OracleRAC 以外のデータベース構成では、クライアント(次元サーバー)マシン上の tnsnames.ora ファイルでネット・サービス名が定義されていない場合、データベース SID が含まれます。 ○ OracleRAC 以外のデータベース構成で、クライアント(次元サーバー)マシン上の tnsnames.ora ファイルでネット・サービス名が定義されている場合、クライアント(次元サーバー)マシン上の tnsnames.ora ファイルで定義されているネット・サービス名が含まれます。 <p>● Port</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ OracleRAC データベース構成では、データベースが接続を受け取るポート番号(Oracle のデフォルトは 1521)。 ○ OracleRAC 以外のデータベース構成で、クライアント(次元サーバー)マシン上の tnsnames.ora ファイルでネット・サービス名が定義されていない場合、データベースが接続を受け取るポート番号(Oracle のデフォルトは 1521)。 ○ クライアント(次元サーバー)マシン上の tnsnames.ora ファイルでネット・サービス名が定義されている場合、この値は tnsnames.ora ファイルで定義されているため、空白にできます。 <p>DB2 設定:</p>	

パラメータ	説明	デフォルト設定
	<ul style="list-style-type: none"> ● Server - データベースが常駐する物理マシンの名前。データベースが次元サーバーと同じマシン内に常駐する場合、この値には、localhost を使用できます。 ● Database - データベースの名前 ● Port - データベースが接続を受け取るポート番号。デフォルトは 50000 です。 <p>すべてのデータベース・タイプの設定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● LogonID - データベースへのログオンに必要なユーザー名。 ● Password - データベースへのログオンに必要なパスワード(暗号化されている必要があります)。 ● ConnectRetries - 例外(エラー)をスローする前にデータベースへの接続を試行する回数 ● ConnectRetryTimeout - データベース接続が試行される間隔(秒数)。 ● CommandTimeout - 例外(エラー)がスローされる前にデータベース・クエリーに与えられている秒数。 	
SessionManager	<p>NetJNIBridge サービスを介して Shared Services に接続するためにセッション・マネージャ・サービスが使用する値が含まれています。セッション・マネージャは、ユーザー認証、グループ、役割、権限情報、データベース接続情報などを取得するために Oracle Hyperion(R) Shared Services を使用します。</p>	
EnableNestedGroups	<p>TRUE に設定すると、特定のユーザーに対してグループ・メンバーシップが要求されたときに、最上位グループとともにすべてのネストされたグループが戻されます。このパラメータを FALSE に設定すると、特定のユーザーに対してグループ・メンバーシップが要求されたときに、最上位グループのみが戻されます(ネ</p>	TRUE

パラメータ	説明	デフォルト設定
	ストされたグループは含まれません)。	
NetUNIBridgePort	NetUNIBridge サービスが SessionManager サービスと通信するために使用するポート番号。	5255
NetUNIBridgeHost	NetUNIBridge サービスを実行中の物理マシンの名前。 NetUNIBridge が次元サーバーと同じマシン上で実行されている場合は、この名前に localhost を使用できます。	
ProcessManager	プロセス・マネージャ・サービスが、1 つ以上のエンジン・インスタンス、イベント登録、および開始に割り当てられた時間を管理するために使用する値が含まれています。	
ServerManagerPort	エンジン・マネージャ・サービスが、プロセス・マネージャ・サービスと通信するために使用するポート番号。	5255
Port	その他のサービスがプロセス・マネージャ・サービスと通信するために使用するポート番号。	5251
EventSubscriptionPort	イベント・マネージャ・サービスが、プロセス・マネージャ・サービスと通信するために使用するポート番号。プロセス・マネージャ・サービスが登録しているイベントが発生すると、イベント・マネージャ・サービスは、このポートを介してプロセス・マネージャ・サービスに通知します。	5252
HostName	プロセス・マネージャ・サービスが実行されている物理マシンの名前。	localhost
MinEnginePort	開始済の次元サーバー・エンジンがリスニングできる使用可能なポート番号範囲の下端。	5100
MaxEnginePort	開始済の次元サーバー・エンジンがリスニングできる使用可能なポート番号範囲の上端。	5140

パラメータ	説明	デフォルト設定
DimensionServerStartupTimeout	次元サーバーのインスタンスが例外をスローする前に待機する秒数。	300
ExportCompressionThreshold	エクスポートが圧縮される前のエクスポート済アプリケーションの最大サイズ(バイト)。	102400
ExportXSLPath	アプリケーション・エクスポートをフォーマットするために使用される.xslt ファイルへのパス。	
OutputExportDocuments	配置の際のアプリケーション・エクスポート中に、ファイル・システム内でのファイルの作成を使用可能または使用不可にします。 デフォルトでは、使用不可で FALSE に設定されています。使用可能にするには、この値を TRUE に設定します。	FALSE
ProductMetadataPath	製品メタデータを定義する.xml ファイルへのパス。このパラメータは、次元サーバーがプロパティ定義などをロードするために使用します。	
CustomMetadataPath	(廃止予定)	
Validations	検証を制御するために使用される値が含まれています。Application、MaxReportedErrors、MaxReportedWarnings および DefaultMessages の設定が含まれています。	
Application	アプリケーション検証を制御するために使用される値が含まれています。	
MaxReportedErrors	アプリケーションの検証時に記録できるエラーの最大数。	5000
MaxReportedWarnings	アプリケーションの検証時に記録できる警告の最大数。	5000
DefaultMessages	アプリケーションの検証時にユーザーにレポートされるエラーと警告の合計の最大数。	25
AutoCleanupTemporaryApplicationsStartTime AutoCleanupTemporaryApplicationsMinimumAge	サーバーが一時アプリケーションを自動的にクリーンアップする方法を制御します。 一時アプリケーションは、アプリケーション作成ウィザードによって使用されます。一	AutoCleanupTemporaryApplicationsStartTimedefault は、4:00:00 です。 AutoCleanupTemporaryApplicationsMinimumAge のデフォルトは、1440 です。

パラメータ	説明	デフォルト設定
	<p>時アプリケーションが適切にクリーンアップされないと、除去されない可能性があります。</p> <p>デフォルトでは、「一時」というマークが付けられているアプリケーションは 4:00:00 (午前 4 時)に自動的に除去されます。</p> <p>注： この時刻は、24 時間制フォーマットのローカル時間です。たとえば、午後 2 時 30 分は 14:30:00 と入力します。</p> <p>時刻は、 AutoCleanupTemporaryApplicationsStartTimesetting を変更して調整できます。デフォルトでは、アプリケーションの経過時間が 24 時間を超える場合にクリーンアップの対象となります。アプリケーションの最少経過時間は、 AutoCleanupTemporaryApplicationsMinimumAge 値(分数)を設定して変更できます。</p>	
PurgeBaselineStartTime	<p>必要でなくなったベースラインの自動削除が開始される時刻を設定します。デフォルトでは、ローカル時間の午前 3 時です(3:00:00 と入力されています)。</p> <p>注： この時刻は、24 時間制フォーマットのローカル時間です。たとえば、午後 2 時 30 分は 14:30:00 と入力します。</p>	3:00:00
ImportErrorThreshold	<p>実行中のインポートがシャット・ダウンする前に発生する可能性があるエラーと警告を合わせた最大数。</p>	1000
ImportMaxLockTime	<p>エンジン書込みロックを再取得する前に実行中のインポートが実行する最小ミリ秒数。最大ミリ秒数ではありません。</p>	1000
ExcludedMemberLimit	<p>EnumExcludedMembers() API 呼び出しによって戻されるメンバーの数を制限します。</p>	5000
EventManager	<p>他のサービス(プロセス・マネージャ、エンジン・マネージャ、ジョブ・マネージャ)がイベント・マネージャ・</p>	<p>Host のデフォルトは、localhost です。</p> <p>Port のデフォルトは、5253 です。</p>

パラメータ	説明	デフォルト設定
	<p>サービスと通信するために使用する設定が含まれています。</p> <p>Host - イベント・マネージャ・サービスが実行されているマシンの名前。</p> <p>Port - イベント・マネージャに接続するためのポート番号。</p>	
JobManager	<p>他のサービス(プロセス・マネージャなど)がジョブ・マネージャ・サービスと通信するために使用する設定が含まれています。</p> <p>Host - ジョブ・マネージャ・サービスが実行されているマシンの名前。</p> <p>Port - ジョブ・マネージャに接続するためのポート番号。</p> <p>AttachmentFolder - ジョブ添付ファイルを保管するフォルダへのローカル・パス。</p>	<p>Host のデフォルトは、localhost です。</p> <p>Port のデフォルトは、5254 です。</p> <p>AttachmentFolder のデフォルトは、C:¥Temp ¥JobManagerAttachments です。</p>
log4net	<p>log4net モジュールが、エラーやデバッグ情報などをログギングするために使用する設定が含まれています。</p> <p>注意 このセクションの値は、Oracle のカスタマ・サポートによって指示されないかぎり、変更しないでください。</p>	



アクセシビリティ

この付録の内容

スクリーン・リーダーおよび拡大鏡の標準	631
Calculation Manager のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする	632
Calculation Manager ユーザー・インタフェースでの[Tab]キーの使用法	633
グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用法	633
一般的なユーザー・インタフェース要素のアクセシビリティ動作	634
Calculation Manager のアクセシビリティ	635
オンライン・ヘルプのアクセシビリティ	645

この付録では、Calculation Manager のアクセシビリティおよび互換性の機能を説明します。Calculation Manager との併用に推奨されるスクリーン・リーダーと拡大鏡の詳細は、『Oracle Hyperion Planning Readme』または『Oracle Hyperion Financial Management Readme』を参照してください。

スクリーン・リーダーおよび拡大鏡の標準

Calculation Manager 用に、Oracle では JAWS 8 スクリーン・リーダーと MAGiC 10.5 スクリーン拡大鏡をサポートしています。詳細は、これらの製品のドキュメントを参照してください。

注： JAWS と MAGiC の併用またはスクリーン・リーダーとしての MAGiC の使用は行わないでください。

JAWS のプリファレンスの設定

JAWS のプリファレンスは、JAWS でページを正しく読み取り、ユーザー・インタフェースの更新に対応できるように設定してください。MAGiC は、Calculation Manager と併用する際に構成を変更する必要はありません。

JAWS でカスタマイズする必要があるプリファレンスのリストを次に示します。

- JAWS で「Forms Mode Auto Off」を使用不可にします。

- ▶ JAWS で「Forms Mode Auto Off」を使用不可にするには、Utilities、Configuration Manager、Set Options、HTML Options、Misc、Forms Mode Auto Off の順に選択します。
 - Calculation Manager/DHTML アプリケーションを使用する場合は、仮想 PC カーソルを使用不可にし、通常のドキュメントを読み取る場合は使用可能にします。
- ▶ カーソルのデフォルト状態を設定するには、次のいずれかのタスクを実行します:
 - ショートカット・キーで[Ctrl]を押しながら[Alt]およびテンキーの[+]を押して、仮想 PC カーソルを切り替えます。
 - Utilities、Configuration Manager、Set Options、Advanced Options、Use Virtual PC Cursor の順に選択します。
 - JAWS の「Verbosity Options」で「Control Group Name」プリファレンスを使用不可にしてください。これにより、ユーザー・インターフェースのレイアウトによって生じるコントロールの読取りの重複を防げます。
- ▶ JAWS の「Verbosity Options」で「Control Group Name」プリファレンスを使用不可にするには、Utilities、Configuration Manager、Set Options、Verbosity Options、Beginner Preferences(または選択されている詳細レベル)、Control Group Name の順で選択します。

Calculation Manager のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする

Calculation Manager のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にすると、Calculation Manager でプリファレンス・スクリーン・リーダー、拡大鏡などのツールを併用できます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にしないと、アクセシビリティ・ツールでは Calculation Manager のほとんどが使用できません。セッション中にこの設定を変更した場合、ブラウザを再起動して変更を使用可能にする必要があります。

注：「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」オプションは、Internet Explorer 6 および 7 を使用するとき EPM Workspace ユーザー・プリファレンスの「全般」タブに表示されます。

- ▶ Calculation Manager のアクセシビリティを使用可能にするには、次の手順に従います:
 - 1 EPM Workspace で、「ファイル」、「プリファレンス」の順に選択します。
 - 2 アクセシビリティ・モードから「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」を選択します。
 - 3 「OK」をクリックします。

高コントラスト・モードの設定

高コントラスト・カラー・モードはアクセシビリティを高めるために使用できません。このオプションは、スクリーン・リーダーがサポートされているプラットフォームでのみサポートされています。

▶ 高コントラスト・モードを設定するには、次の手順に従います:

1 次のいずれかのタスクを実行します:

- 「ファイル」、「プリファレンス」の順に選択します。アクセシビリティ・モードのテーマの選択メニューから「高コントラスト」を選択します。
- [Ctrl]を押しながら[Shift]と[H]を押して、通常モードと高コントラスト・モードを切り替えます。Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition を再起動するか、作業を続行するかを尋ねるプロンプトが表示されます。再起動した場合、透過的に再認証されます。

2 「OK」をクリックします。

Calculation Manager ユーザー・インタフェースでの [Tab] キーの使用方法

Calculation Manager ユーザー・インタフェースのデフォルトのタブ順は、左から右、上から下に移動します。コンポーネントの順序は、ツールバー、検索コントロール、オブジェクト・パレット、コンテンツ領域、コンテンツ領域(下)タブ・バーです。タブ順は両方向にループするので、最後のアイテムでタブ移動すると最初のアイテムに戻り、最初のアイテムから逆にタブ移動すると最後のアイテムに移動します。次の要素は、タブ順に含まれません:

- 「ナビゲート」メニュー
- メイン・メニュー・バー(メイン・メニュー・アイテムのアクセスにはショートカット・キーを使用する)
- 「ようこそ<username>」メッセージと付属のログオフ・テキスト・リンク(かわりにツールバーのログオフまたは終了アイコンあるいは「ファイル」メニューのアイテムを使用する)

注: アクセシビリティ・モードでは、タブを使用してツールバーをナビゲートできません。

グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用方法

Calculation Manager には、一般的なナビゲーションのキーボード・ショートカットが用意されています。

表 66 グローバル・ナビゲーション・ショートカット

キーボード・ショートカット	アクション
[F10]	メニュー・バーの最初の「メニュー」ボタンをフォーカスしてアクティブにします(それぞれ[Alt]を押しながら文字アクセサを押すことも可能)
[Ctrl]+[0]	現在のオブジェクト・パレットをフォーカスします(オブジェクト・パレットは自身をフォーカスできないため、これは最初の有効な子をタブ順でフォーカスします)。オブジェクト・パレットがない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[1]、 [2]...[9]	1 番目、2 番目の順に 9 番目までオブジェクト・パレットを選択し、フォーカスをその最初のフォーカス可能な子に移動します。
[Ctrl]+[R]	フォーカス関連コンテンツ・コントロール
[Ctrl]+[B]	フォーカス・コラボレーション領域コントロール
[Ctrl]+[G]	Workspace の下部のタブ・バー(オープン・モジュールをリストする)をフォーカスします。フォーカスが現在のタブへ移動します。開いているタブがない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[F]	「検索」テキスト・ボックスをフォーカスします
[Ctrl]+[T]	ツールバーをフォーカスします。個々のボタンを選択するには[Tab]キーを使用します。
[Ctrl]+[Y]	コンテンツ領域をフォーカスします。他のオブジェクト・パレットと同様、フォーカスをタブ順で最初の有効な子に移動します。
[Ctrl]+[F4]	現在のモジュールを閉じます。開いているモジュールがない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[Shift] +[H]	高コントラスト・モードを切り替えます
[Ctrl]+[F6]、 [Tab]	フォーカスされているドキュメントを開くとフォーカスが iframe へ移動してその外へ移動します
[Ctrl]+[Shift] +[F6]	フォーカスを iframe から除去します
矢印キー ([←]/[→]/ [↓]/[↑])	エクスプローラ・モジュール内を移動して、グリッドまたはツリー・ビューで他のセルと行にアクセスします

一般的なユーザー・インタフェース要素のアクセシビリティ動作

次に、ユーザー・インタフェース要素をアクティブにするキーストロークと、ユーザー・インタフェース要素をフォーカスしたときのスクリーン・リーダーの予期される動作を示します。

表 67 ユーザー・インタフェース要素タイプ

ユーザー・インタフェースの要素	アクション
ボタン	[Enter]または[Space]を押すとボタンがアクティブになり、左クリックと同じアクションを起こします。
コンボ・ボックス	<ol style="list-style-type: none"> [↑]または[↓]キーでは、ポップアップ・メニューを表示し、コンボ・ボックス値を選択できます。 [Space]または[Enter]ではポップアップからコンボ・ボックス・アイテムを選択します。 編集可能な場合、英数字キーで編集します。
ダイアログ	<ol style="list-style-type: none"> ダイアログ・ボックスに承認ボタンが定義されている場合、[Enter]キーを押すとアクティブになります。 ダイアログ・ボックスはモーダルで、他のすべてのキーボード・イベントをブロックします。
コンテンツ領域 (IFrame)	<ol style="list-style-type: none"> [Ctrl]を押しながら[F6]を押すと、コンテンツ領域(iframe)へナビゲートし、最初の要素を選択します。 [Ctrl]を押しながら[Shift]と[F6]を押すと、コンテンツ領域(iframe)の外へナビゲートし、フォーカスをコンテンツ領域に戻します。
リスト	<ol style="list-style-type: none"> [↑]または[↓]キーでは、リスト要素で選択フォーカスを上または下に移動します。選択は、継続的に更新されます。矢印キーを押すと選択イベントが発生します。 [Ctrl]を押しながら[↑]または[↓]キーを押すと、現在の選択を変更せずにフォーカスが上または下に移動します。[Space]を使用してフォーカスしているアイテムを選択に追加できます。 [Shift]を押しながら[↑]または[↓]キーを押すと、フォーカスが上または下に移動し、新たにフォーカスしたアイテムが選択に追加されます。 <p>注： リストが1つの選択のみサポートする場合、[Ctrl]および[Shift]キー修飾子は無効です。</p>
タブ・バー	[←]または[→]キーでは選択のフォーカスを移動し、ただちに新しいタブを選択します。選択のフォーカスはタブ・バーの端からラップします。
テキスト・フィールド	<ol style="list-style-type: none"> 編集可能な場合、英数字キーで編集します。 [Tab]では、タブ順に移動します。 タブは、テキスト・フィールドの文字として入力できません。
ツリー	[←]および[→]キーでは、子があれば現在のノードを縮小または展開します。子がない場合、何も起きません。展開は非再帰的ですが、ツリーにサブノードの前の展開状態が記録されている場合は、その状態になります。

Calculation Manager のアクセシビリティ

次の表に、Hyperion Calculation Manager のキーボード・ショートカットを示します。

表 68 Calculation Manager ショートカット・キー

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
グローバル・メニュー		
ファイル	[Alt]+[F]	[Alt]+[F]
ファイル、新規ルール	[Ctrl]+[Shift]+[R]	[Alt]+[F]、[N]、[R]
ファイル、新規ルールセット	[Ctrl]+[Shift]+[L]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、新規テンプレート	[Ctrl]+[Shift]+[M]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、式コンポーネント	[Ctrl]+[Shift]+[F]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、スクリプト・コンポーネント	[Ctrl]+[Shift]+[C]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、印刷	キーボード・ショートカットなし	[Alt]+[F]、[P]
インポート	キーボード・ショートカットなし	[I]
エクスポート	キーボード・ショートカットなし	[E]
ログオフ	キーボード・ショートカットなし	[G]
終了	キーボード・ショートカットなし	[X]
編集	[Alt]+[E]	[Alt]+[E]
編集、削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
編集、削除	キーボード・ショートカットなし	[R]
ツール	[Alt]+[T]	ニーモニック・ショートカットなし
ツール、変数	[Ctrl]+[Shift]+[B]	ニーモニック・ショートカットなし
アクション	[Alt]+[C]	ニーモニック・ショートカットなし
アクション、検証	キーボード・ショートカットなし	[V]
アクション、移行	キーボード・ショートカットなし	[M]
モジュールを閉じる	[Ctrl]+[F4]	ニーモニック・ショートカットなし

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
変数デザイナー		ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、新規変数	[Ctrl]+[Shift]+[V]	[N]
ファイル、保存	[Ctrl]+[S]	[S]
コンテキスト・メニュー		ニーモニック・ショートカットなし
新規	キーボード・ショートカットなし	[N]
リフレッシュ	キーボード・ショートカットなし	[R]
エクスポート	キーボード・ショートカットなし	[E]
削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
コピー	キーボード・ショートカットなし	[C]
貼付け	キーボード・ショートカットなし	[P]
保存	キーボード・ショートカットなし	[S]
変数プロパティ・グリッド		ニーモニック・ショートカットなし
実行時プロンプトの切替え	[Alt]+[Shift]+[P]	ニーモニック・ショートカットなし
値	[Alt]+[Shift]+[U]	ニーモニック・ショートカットなし
制限	[Alt]+[Shift]+[L]	ニーモニック・ショートカットなし
ルール・デザイナー		ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、保存	[Ctrl]+[S]	[Alt]+[F]、[S]
ファイル、名前を付けて保存	キーボード・ショートカットなし	[Alt]+[F]、[A]
ファイル、テンプレートとして保存	キーボード・ショートカットなし	[Alt]+[F]、[M]
編集	[Alt]+[E]	ニーモニック・ショートカットなし
編集、コピー	[Ctrl]+[C]	[C]
編集、貼付け	[Ctrl]+[V]	[P]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
編集、グループのコピー	キーボード・ショートカットなし	[G]
編集、参照のコピー	キーボード・ショートカットなし	[R]
編集、スクリプト	キーボード・ショートカットなし	[S]
ツール	[Alt]+[T]	ニーモニック・ショートカットなし
ツール、クイック編集	キーボード・ショートカットなし	[Q]
アクション	[Alt]+[C]	
アクション、検証	[Ctrl]+[M]	[V]
アクション、配置	[Ctrl]+[D]	[D]
コンテキスト・メニュー		ニーモニック・ショートカットなし
コピー	キーボード・ショートカットなし	[C]
削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
グループのコピー	キーボード・ショートカットなし	[G]
縮小	キーボード・ショートカットなし	[L]
展開	キーボード・ショートカットなし	[X]
貼付け	キーボード・ショートカットなし	[P]
テンプレートとして保存	キーボード・ショートカットなし	[T]
開く	キーボード・ショートカットなし	[O]
エクスポート	キーボード・ショートカットなし	[E]
ズーム・イン	[Ctrl]+[Shift]+[2]	ニーモニック・ショートカットなし
ズーム・アウト	[Ctrl]+[Shift]+[1]	ニーモニック・ショートカットなし
ルール、テンプレート・パレット†		

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
コピー(パレットから)	[D]	ニーモニック・ショートカットなし
参照による貼付け(ルールへ)	[R]	ニーモニック・ショートカットなし
コピーによる貼付け	[Ctrl]+[R]	ニーモニック・ショートカットなし
条件の Else 部分に貼付け	[Shift]+[R]	ニーモニック・ショートカットなし
システム・ビュー		
ツール、フィルタ	キーボード・ショートカットなし	[Alt]+[T]、[F]
表示、リスト・ビュー	キーボード・ショートカットなし	[L]
表示、システム・ビュー	キーボード・ショートカットなし	[S]
表示、カスタム・ビュー	キーボード・ショートカットなし	[C]
表示、配置ビュー	キーボード・ショートカットなし	[D]
コンテキスト・メニュー		
開く	キーボード・ショートカットなし	[O]
削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
新規	キーボード・ショートカットなし	[N]
エクスポート	キーボード・ショートカットなし	[E]
検証	キーボード・ショートカットなし	[V]
配置	キーボード・ショートカットなし	[P]
すべて配置	キーボード・ショートカットなし	[A]
リフレッシュ	キーボード・ショートカットなし	[R]
コピー先	キーボード・ショートカットなし	[Y]
ショートカットの作成	キーボード・ショートカットなし	[S]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーマニク・ショートカット*
使用状況の表示	キーボード・ショートカット なし	[U]
移行	キーボード・ショートカット なし	[M]
所有者の変更	キーボード・ショートカット なし	[W]
ロガーの設定	キーボード・ショートカット なし	[L]
コメントの設定	キーボード・ショートカット なし	[C]
タイマーの設定	キーボード・ショートカット なし	[T]
カスタム・ビュー		
ファイル、名前変更	キーボード・ショートカット なし	[R]
コンテキスト・メニュー		
開く	キーボード・ショートカット なし	[O]
新規	キーボード・ショートカット なし	[N]
新規フォルダ	キーボード・ショートカット なし	[F]
新規ルール	キーボード・ショートカット なし	[U]
新規ルールセット	キーボード・ショートカット なし	[L]
新規式	キーボード・ショートカット なし	[M]
新規スクリプト	キーボード・ショートカット なし	[S]
リフレッシュ	キーボード・ショートカット なし	[H]
名前変更	キーボード・ショートカット なし	[A]
削除	キーボード・ショートカット なし	[R]
エクスポート	キーボード・ショートカット なし	[E]
検証	キーボード・ショートカット なし	[V]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
使用状況の表示	キーボード・ショートカットなし	[U]
ドラッグ	[Ctrl]+[C]	ニーモニック・ショートカットなし
ドロップ	[Ctrl]+[V]	ニーモニック・ショートカットなし
配置ビュー		
コンテキスト・メニュー		
開く	キーボード・ショートカットなし	[O]
リフレッシュ	キーボード・ショートカットなし	[R]
エクスポート	キーボード・ショートカットなし	[E]
配置	[Alt]+[Shift]+[Y]	[P]
すべて配置	キーボード・ショートカットなし	[A]
検証	[Alt]+[Shift]+[L]	[V]
選択済をマーク	キーボード・ショートカットなし	[K]
選択済のマーク解除	キーボード・ショートカットなし	[M]
使用状況の表示	キーボード・ショートカットなし	[U]
ロガーの設定	キーボード・ショートカットなし	[L]
コメントの設定	キーボード・ショートカットなし	[C]
タイマーの設定	キーボード・ショートカットなし	[T]
チェック・ボックスの選択/ 選択解除	[Space]	ニーモニック・ショートカットなし
テンプレート・デザイナー		
ファイル	[Alt]+[F]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、保存	[Ctrl]+[S]	ニーモニック・ショートカットなし
ファイル、名前を付けて保存	キーボード・ショートカットなし	[A]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
編集	[Alt]+[E]	ニーモニック・ショートカットなし
編集、コピー	[Ctrl]+[C]	[C]
編集、貼付け	[Ctrl]+[V]	[P]
編集、グループのコピー	キーボード・ショートカットなし	[G]
ツール	[Alt]+[T]	ニーモニック・ショートカットなし
ツール、変数	[Ctrl]+[Shift]+[V]	[V]
ツール、クイック編集	キーボード・ショートカットなし	[Q]
テンプレート・グリッド		
「密度」ダイアログ	[Alt]+[Shift]+[S]	ニーモニック・ショートカットなし
依存関係	[Alt]+[Shift]+[N]	ニーモニック・ショートカットなし
範囲	[Alt]+[Shift]+[I]	ニーモニック・ショートカットなし
設計時プロンプト・セレクタ	[Alt]+[Shift]+[K]	ニーモニック・ショートカットなし
行の削除	キーの削除	ニーモニック・ショートカットなし
行の挿入	キーの挿入	ニーモニック・ショートカットなし
上へ移動	[Alt]+[Shift]+[U]	ニーモニック・ショートカットなし
下へ移動	[Alt]+[Shift]+[W]	ニーモニック・ショートカットなし
チェック・ボックスの選択/選択解除	[Alt]+[Shift]+[O]	ニーモニック・ショートカットなし
コンテキスト・メニュー		
行の挿入	キーボード・ショートカットなし	[I]
行の削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
コピー	キーボード・ショートカットなし	[C]
グリッドのコピー	キーボード・ショートカットなし	[G]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
貼付け	キーボード・ショートカットなし	[P]
テンプレート・リファレンス		
セルの編集	[F2]	ニーモニック・ショートカットなし
チェック・ボックスの選択/ 選択解除	[Space]	ニーモニック・ショートカットなし
式コンポーネント		
「ログ」ダイアログ	[Alt]+[Shift]+[G]	ニーモニック・ショートカットなし
「コメント」ダイアログ	[Alt]+[Shift]+[N]	ニーモニック・ショートカットなし
「条件」ダイアログ	[Alt]+[Shift]+[I]	ニーモニック・ショートカットなし
メンバー・ブロックの使用可能	[Tab]キーと[Space]	ニーモニック・ショートカットなし
メンバー・ブロックの使用不可	[Tab]キーと[Space]	ニーモニック・ショートカットなし
メンバー・ブロック・アクション	[Tab]キーと[Space]	ニーモニック・ショートカットなし
ドロップ・ダウン・メニューを インライン編集モードに変更	[F2] (編集モード)	ニーモニック・ショートカットなし
コンテキスト・メニュー		
メンバーの挿入	キーボード・ショートカットなし	[M]
選択項目の編集	キーボード・ショートカットなし	[S]
条件の挿入	キーボード・ショートカットなし	[L]
条件の削除	キーボード・ショートカットなし	[T]
行の挿入	キーボード・ショートカットなし	[I]
行の削除	キーボード・ショートカットなし	[R]
前にグリッドを追加	キーボード・ショートカットなし	[B]
後ろにグリッドを追加	キーボード・ショートカットなし	[F]

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
最後にグリッドを追加	キーボード・ショートカットなし	[E]
グリッドの削除	キーボード・ショートカットなし	[D]
行のコピー	キーボード・ショートカットなし	[C]
すべての行をコピー	キーボード・ショートカットなし	[A]
貼付け	キーボード・ショートカットなし	[P]
スクリプト・コンポーネント		
検索	[Ctrl]+[F]	ニーモニック・ショートカットなし
置換	[Ctrl]+[R]	ニーモニック・ショートカットなし
メンバー・セレクタ	[Alt]+[Shift]+[B]	ニーモニック・ショートカットなし
関数セレクタ	[Alt]+[Shift]+[U]	ニーモニック・ショートカットなし
変数セレクタ	[Alt]+[Shift]+[G]	ニーモニック・ショートカットなし
スクリプト・エディタのタブ移動	[Ctrl]+[B]	ニーモニック・ショートカットなし
コンポーネント・デザイナー		
上へ移動	[Alt]+[Shift]+[U]	ニーモニック・ショートカットなし
下へ移動	[Alt]+[Shift]+[W]	ニーモニック・ショートカットなし
グループ	[G]	ニーモニック・ショートカットなし
グループ解除	[N]	ニーモニック・ショートカットなし
削除	[Del]キー	ニーモニック・ショートカットなし
条件の追加	キーの挿入	ニーモニック・ショートカットなし
条件の置換	[Alt]+[Shift]+[R]	ニーモニック・ショートカットなし
ルールセット・デザイナー		

メニュー、ボタンまたはタスク	キーボード・ショートカット	ニーモニック・ショートカット*
ファイル、保存	[Ctrl]+[S]	[S]
ファイル、名前を付けて保存	キーボード・ショートカットなし	[A]
コンテキスト・メニュー		
リフレッシュ	キーボード・ショートカットなし	[R]
開く	キーボード・ショートカットなし	[O]
削除	キーボード・ショートカットなし	[R]
上へ移動	[Alt]+[Shift]+[U]	ニーモニック・ショートカットなし
下へ移動	[Alt]+[Shift]+[D]	ニーモニック・ショートカットなし
ドラッグ	[Ctrl]+[C]	ニーモニック・ショートカットなし
ドロップ	[Ctrl]+[V]	ニーモニック・ショートカットなし
既存のオブジェクト		
コンテキスト・メニュー		
リフレッシュ	キーボード・ショートカットなし	[R]
開く	キーボード・ショートカットなし	[O]
ループ・ビルダー		
「コメント」ダイアログ	[Alt]+[Shift]+[N]	ニーモニック・ショートカットなし

*複数のキーが+記号で続く場合は、同時に押す必要があります。

†テンプレートとビジネス・ルールの場合、オブジェクト・パレットからコンポーネントをドラッグしてフロー・チャートにドロップし、キーボード・ショートカットまたは[Tab]キーを使用して、正しいコンポーネントとショートカットにフォーカスを設定します。

オンライン・ヘルプのアクセシビリティ

次の表は、オンライン・ヘルプのキーボード・ショートカットを示します。

表 69 オンライン・ヘルプ、キーボード・ショートカット

キーボード・ショートカット	説明
[Ctrl]+[Shift] +[1]	「コンテンツ」タブを開いてそこへフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[2]	「インデックス」タブを開いてそこへフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[3]	「検索」タブを開いてそこへフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[4]	ヘルプ・トピックを含むコンテンツ・フレームへフォーカスを移動します。



Performance Management Architectのアクセシビリティ

この付録の内容

キーボード対応	647
アプリケーションのアップグレード・ウィザード	658
プランニング・データ・ソースの管理	658
ジョブ・コンソール	659
データの同期	660

キーボード対応

次の表に、Performance Management Architect で使用可能なキーボード対応を示します。キーボード対応は Oracle Hyperion EPM Architect, Fusion Edition のモジュールによって管理されます。

ユーザー・インタフェースのナビゲート

次の表に、ユーザー・インタフェースをナビゲートするショートカット・キーを示します。

表 70 全般ナビゲーション・キー

キー	説明
[Ctrl] + 右矢印	次元ライブラリでの次元またはメンバーの展開
下矢印および上矢印	次元ライブラリでの次元およびメンバーの選択
タブ	画面でのアイテムの選択(右へ移動)
[Shift] + [Tab]	画面での前のアイテムの選択(左へ移動)

次元ライブラリ

次の各項では、次元ライブラリで使用できるキーボード・ショートカットについて説明します。

表 71 次元ライブラリのキーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl] + [Shift] + [N]	新規次元の作成
[Ctrl] + [Shift] + [Z]	新規アプリケーション作成のためのアプリケーション・ウィザードの起動
[Ctrl] + [Shift] + [F]	新規フォルダの作成
[Ctrl] + [Shift] + [E]	次元の検索
[Ctrl] + [Alt] + [C]	フィルタ条件の消去
[Ctrl] + [Shift] + [S]	ソート条件の消去
[Ctrl] + [Alt] + [1]	ビュー・ペインの表示。(ビュー・ペインが常に表示される。)
[Ctrl] + [Alt] + [V]	「共有ライブラリ」ペインが閉じている場合に、「共有ライブラリ」を表示
[Ctrl] + [Alt] + [E]	アプリケーションのペインが閉じている場合に、アプリケーションのペインを表示
[Ctrl] + [Alt] + [P]	「プロパティ・グリッド」が閉じている場合に、これによって「プロパティ・グリッド」を表示
[Ctrl] + [Alt] + [L]	メンバー・リストが閉じてるか表示されていない場合に、メンバー・リストを表示
[Ctrl] + [Shift] + [R]	リフレッシュ
[Ctrl] + [Alt] + [T]	トランザクション・ログのダウンロード
[Ctrl] + [Alt] + [O]	次元のソート
[Ctrl] + [Alt] + [F]	次元のフィルタ
[Ctrl] + [Shift] + [M]	タスクフローの管理
[Ctrl] + [Shift] + [T]	タスクフロー・ステータスの表示
[Ctrl] + [U]	ユーザーの移行

次元ライブラリ・ペイン

次元ライブラリ・ペインでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 72 次元ライブラリ - ペイン・アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	共有ライブラリ・ペインを選択します。
[Ctrl] + [2]	「アプリケーション」ペインを選択します。
[Ctrl] + [3]	「プロパティ・グリッド」または「メンバーの検索」ペインを選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Ctrl] + [←]	垂直分割ペインを、共有ライブラリ・ペイン、アプリケーション・ペインまたはプロパティ・グリッドの左に移動します。
[Shift] + [→]	垂直分割ペインを、共有ライブラリ・ペイン、アプリケーション・ペインまたはプロパティ・グリッドの右に移動します。
[Shift] + [F10]	共有ライブラリ、アプリケーション・ペイン、プロパティ・グリッドまたはメンバーの検索ペインで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。

次元ライブラリ・ツリー

次元ライブラリ・ツリーでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 73 次元ライブラリ - 次元ツリーのアクセシビリティ・キー

キー	アクション
[↑]	現在のノードの1つ上にあるノードを選択します。
[↓]	現在のノードの1つ下にあるノードを選択します。
[→]	プラス(+)記号の付いたノードを展開します。 注： 共有ライブラリまたはアプリケーションで次元を選択し、[→]キーを押すと、次元のプロパティが表示されます。
[←]	マイナス(-)記号の付いたノードを縮小します。

注： 前の表に示すキーストロークは、アプリケーション・ツリーで使用されるキーストロークと同じです。

グリッド・エディタ

グリッド・エディタでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 74 グリッド・エディタ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
グリッド・エディタ・ウィザード	
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]	ツリー内で現在のノードの1つ上にあるノードを選択します。
[↓]	ツリー内で現在のノードの1つ下にあるノードを選択します。
[→]	プラス(+)記号の付いたノードを展開します。
[←]	マイナス(-)記号の付いたノードを縮小します。
グリッド・エディタ	
[Ctrl] + [1]	グリッド・エディタ・ペインを選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または [↓]	グリッド内を垂直方向に移動します。
[→]または [←]	グリッド内を水平方向に移動します。
[Space]	チェック・ボックスを選択または選択解除します。
[F2]	グリッド内のセルを編集します。たとえば、「メンバー式」セルをフォーカスして[F2]を押すと、「メンバー式」ダイアログ・ボックスが表示されます。また、[F2]キーを押すと、Is ICP などのプロパティのドロップダウン・リストも使用可能になります。

「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックス

「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 75 メンバー・セレクト - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]	ツリー内で現在のノードの1つ上にあるノードを選択します。
[↓]	ツリー内で現在のノードの1つ下にあるノードを選択します。

キー	アクション
[→]	プラス(+)記号の付いたノードを展開します。
[←]	マイナス(-)記号の付いたノードを縮小します。

「メンバーの検索」 ペイン

「メンバーの検索」 ペインでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 76 「メンバーの検索」 ペイン - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[↑]または[↓]	「メンバーの検索」 ペイン内をフォーカスしている場合、[↑]または[↓]を使用すると、メンバー間を移動できます。

「次元の関連付けの表示」 ダイアログ・ボックス

「次元の関連付けの表示」 ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 77 次元の関連付けの表示 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	次元の関連付け間を移動します。

「プラン・タイプ・パフォーマンス設定」 ダイアログ・ボックス

「プラン・タイプ・パフォーマンス設定」 ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 78 プラン・タイプ・パフォーマンス設定 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	ドロップダウン・メニュー内を上下に移動します。
[Enter]	ドロップダウン・メニューのアイテムを選択します。
[↑]	次元間を上に移動します。
[↓]	次元間を下に移動します。

「子の順序変更」ダイアログ・ボックス

「子の順序変更」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 79 子の順序変更 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	メンバー間を移動します。

「アプリケーションの編集」ダイアログ・ボックス

「アプリケーションの編集」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 80 アプリケーションの編集 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	アプリケーション間を移動します。

プロパティ・グリッド

プロパティ・グリッドでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 81 プロパティ・グリッド - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	上から下に移動します。
[↑]または[↓]	プロパティ間を移動します。
[F2]	プロパティ値を編集します。
[Enter]	ドロップダウン・メニューのアイテムを選択します。
[Space]	チェック・ボックスを選択または選択解除します。

「セキュリティ・グループ/ユーザーの選択」ダイアログ・ボックス

「セキュリティ・グループ/ユーザーの選択」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています(このダイアログ・ボックスには、プロパティ・グリッドの「システム」カテゴリからアクセスできます)。

表 82 セキュリティ・グループ/ユーザーの選択 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または [↓]	ドロップダウン・メニュー内を上下に移動します。または、リストに複数のユーザー/グループが含まれている場合は、ユーザー/グループ・リスト内を上下に移動します。
[Enter]	ドロップダウン・メニューのアイテムを選択します。

「別名」ダイアログ・ボックス

「別名」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています(このダイアログ・ボックスには、プロパティ・グリッドからアクセスできます)。

表 83 別名 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	別名間を移動します。
[F2]	別名を編集します。

「次元のインポート」ダイアログ・ボックス

「次元のインポート」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 84 次元のインポート - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	インポート・プロファイル・リスト内を上下に移動します。

「インポート・プロファイルの作成 - 次元のマッピング」画面

「インポート・プロファイル - 次元のマッピング」画面では、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 85 次元のマッピング - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[Space]	チェック・ボックスを選択または選択解除します。
[↑]または[↓]	ドロップダウン・リスト内を上下に移動します。

「インポート・プロファイルの作成－次元マッピング」画面

「インポート・プロファイル－次元マッピングのインポート」画面では、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 86 次元マッピングのインポート－アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または [↓]	次元マッピング・オプションまたはマッピング・オプション(プロパティ・リスト)内を上下に移動します。
[→]または [←]	マッピング・オプションにリストされたプロパティ間を左右に移動します。
[F2]	「マッピング・オプション」の「共有ライブラリ」列に表示されるドロップダウン・リストをアクティブにします。
[Space]	チェック・ボックスを選択または選択解除します。

アプリケーション・ライブラリ

アプリケーション・ライブラリでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 87 アプリケーション・ライブラリのキーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl] + [Shift] + [Z]	新規アプリケーション作成のためのアプリケーション・ウィザードの起動
[Ctrl] + [Shift] + [F]	アプリケーション・ライブラリの新規フォルダの作成
[Ctrl] + [Alt] + [1]	ビュー・ペインの表示。(ビュー・ペインが常に表示される。)
[Ctrl] + [Shift] + [I]	アイコンの表示
[Ctrl] + [Shift] + [L]	詳細の表示
[Ctrl] + [Alt] + [F]	アプリケーションのフィルタ
[Ctrl] + [Alt] + [C]	フィルタ条件の消去
[Ctrl] + [Shift] + [R]	リフレッシュ
[Ctrl] + [Alt] + [M]	プランニング・データ・ソースの管理
[Ctrl] + [Shift] + [M]	タスクフローの管理
[Ctrl] + [Shift] + [T]	タスクフロー・ステータスの表示

アプリケーション・ライブラリ・ペイン

アプリケーション・ライブラリでは、ペインを表示する次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 88 アプリケーション・ライブラリ・ペイン - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	上ペインのアプリケーション・リストを選択します。
[Ctrl] + [2]	要約領域から始まる下ペイン(アプリケーションの詳細)を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [↑]	下ペイン(アプリケーションの詳細)のサイズを拡大し、分割ペインを上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(アプリケーションの詳細)のサイズを縮小し、分割ペインを下に移動します。
[Shift] + [F10]	アプリケーション・ライブラリで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。

「アプリケーションの検索」ダイアログ・ボックス

「アプリケーションの検索」ダイアログ・ボックスでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 89 アプリケーションの検索 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	ドロップダウン・メニューまたはアプリケーション・リスト内を上下に移動します。

アプリケーション作成ウィザード

アプリケーション作成ウィザードでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 90 アプリケーション作成ウィザード - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	<ul style="list-style-type: none"> ● Planning を除くすべてのアプリケーション・タイプで、左から右および上から下に移動します。 ● Planning アプリケーションの場合は、[Tab]キーを使用して上から下に移動します。「ローカル次元の自動作成」チェック・ボックスが選択されている場合、[Tab]キーは、上から下に移動し、「次へ」ボタンなどに移動します。次に、アプリケーション情報内を移動して画面の上部まで戻った後、[Tab]キーを押すと、引き続き Planning オプションとカレンダー・オプション内を移動します。 <p>「アプリケーション設定」画面:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 左から右および上から下に移動します。
[Space]	チェック・ボックスを選択または選択解除します。

キー	アクション
アプリケーション・タイプ・ページ	
[Ctrl] + [1]	コンテンツ・ペインを選択します。選択時にスクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [2]	ページの「アプリケーション情報」領域を選択します。
[Ctrl] + [3]	Planning アプリケーションでは、ページの「Planning」領域を選択します。
[Ctrl] + [4]	Planning アプリケーションでは、ページの「カレンダー」領域を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
次元の選択ページ	
[Ctrl] + [1]	コンテンツ・ペインを選択します。選択時にスクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
アプリケーションの設定ページ	
[Ctrl] + [1]	コンテンツ・ペインを選択します。選択時にスクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [2]	「アプリケーション」ペインを選択します。
[Ctrl] + [3]	「プロパティ・グリッド」または「メンバーの検索」ペインを選択します。
[Ctrl] + [4]	「検証」領域を選択します。選択時にスクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。

キー	アクション
[Shift] + [↑]	下ペイン(詳細)のサイズを大きくすると、分割ペインは上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(詳細)のサイズを小さくすると、分割ペインは下に移動します。
[Shift] + [F10]	「プロパティ・グリッド」で選択したアプリケーション、次元、メンバーまたはプロパティのショートカット・メニューを表示します。

アプリケーションの比較

アプリケーションの比較機能では、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 91 アプリケーションの比較 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	「次元比較結果」ペインを選択します。
[Ctrl] + [2]	「アプリケーション比較要約」ペインを選択します。
[Ctrl] + [3]	「プロパティ比較結果」ペインを選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [F10]	「次元比較結果」リストで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。

データ・フロー

データ・フロー機能では、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 92 データ・フロー - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	データ・フロー領域を選択します。選択時に、スクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [2]	アプリケーション・プロパティ要約ペインを選択します。

キー	アクション
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [↑]	下ペイン(詳細)のサイズを大きくすると、分割ペインは上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(詳細)のサイズを小さくすると、分割ペインは下に移動します。
[Shift] + [F10]	選択したアプリケーションまたはリンクのショートカット・メニューを表示します。

アプリケーションのアップグレード・ウィザード

アプリケーションのアップグレード・ウィザードでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 93 アプリケーションのアップグレード・ウィザード - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	アップグレード対象として選択可能なアプリケーション間を移動します。

プランニング・データ・ソースの管理

「データ・ソース」ページでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 94 プランニング・データ・ソースの管理 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	上ペインでデータ・ソースを選択します。選択時に、スクリーン・リーダー・サポートが使用可能な場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする方法については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [2]	下ペイン(詳細)を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [↑]	下ペイン(詳細)のサイズを大きくすると、分割ペインは上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(詳細)のサイズを小さくすると、分割ペインは下に移動します。

キー	アクション
[Shift] + [F10]	選択したデータ・ソースのショートカット・メニューを表示します。

ジョブ・コンソール

ジョブ・コンソールでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 95 ライブラリ・ジョブ・コンソールのキーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl] + [Shift] + [Z]	新規アプリケーション作成のためのアプリケーション・ウィザードの起動
[Ctrl] + [Shift] + [L]	詳細の表示
[Ctrl] + [Shift] + [R]	リフレッシュ
[Ctrl] + [Alt] + [F]	ジョブのフィルタ
[Ctrl] + [Alt] + [C]	フィルタ条件の消去
[Ctrl] + [Alt] + [M]	タスクフローの管理
[Ctrl] + [Shift] + [M]	タスクフロー・ステータスの表示

次のアクセシビリティ・キーは、ジョブ・コンソールのナビゲートに使用できます。

表 96 ジョブ・コンソール-アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	上ペインのジョブのリストを選択します。
[Ctrl] + [2]	要約領域で始まる下ペイン(ジョブの詳細)を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [↑]	下ペイン(ジョブの詳細)のサイズを大きくし、分割ペインを上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(ジョブの詳細)のサイズを小さくし、分割ペインを下に移動します。
[Shift] + [F10]	ジョブ・コンソールで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	ジョブ・リスト内を上下に移動します。
[→]	ジョブのリストをナビゲートします。

キー	アクション
[Enter]	ハイパーリンクをフォーカスして[Enter]キーを押すと、添付ファイルが開きます。

データの同期

データの同期では、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 97 データの同期のキーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl] + [Shift] + [Z]	新規アプリケーション作成のためのアプリケーション・ウィザードの起動
[Ctrl] + [Shift] + [G]	新規同期の作成
[Ctrl] + [Alt] + [T]	新規マッピング・テーブルの作成
[Ctrl] + [Alt] + [X]	外部ファイル・マッピングの定義
[Ctrl] + [Alt] + [D]	データ・インタフェース・テーブル・マッピングの定義
[Ctrl] + [Shift] + [I]	アイコンの表示
[Ctrl] + [Shift] + [L]	詳細の表示
[Ctrl] + [Shift] + [R]	リフレッシュ
[Ctrl] + [Alt] + [F]	同期のフィルタ
[Ctrl] + [Alt] + [C]	フィルタ条件の消去
[Ctrl] + [Alt] + [M]	タスクフローの管理
[Ctrl] + [Shift] + [M]	タスクフロー・ステータスの表示

データ・シンクロナイザをナビゲートするには、次のアクセシビリティ・キーを使用できます。

表 98 データの同期 - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	上ペインで同期のリストを選択し、選択時にスクリーン・リーダー・サポートが使用可能である場合は、スクリーン・リーダーがページの説明を読み上げます。スクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
[Ctrl] + [2]	要約領域で始まる下ペイン(プロパティの詳細)を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。

キー	アクション
[Shift] + [↑]	下ペイン(同期の詳細)のサイズを大きくし、分割ペインが上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(同期の詳細)のサイズを小さくし、分割ペインが下に移動します。
[Shift] + [F10]	データ・シンクロナイザで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。
[Tab]	左から右および上から下に移動します。

新規同期

新規同期ウィザードでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 99 新規同期ウィザード - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]	左から右および上から下に移動します。
[↑]または[↓]	ソース・タイプ、使用可能なソースまたは宛先の間を上下に移動します。

データの同期 - 次元マッピング

データの同期 - 次元マッピングでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています。

表 100 データの同期の次元マッピング - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [1]	上ペインの次元マッピングを選択します。
[Ctrl] + [2]	下ペイン(詳細)を選択します。
[Ctrl] + [F7]	フォーカスを最上位のコンポーネントに切り替えます。たとえば、ダイアログ・ボックスにフォーカスがない場合、このキーボード・ショートカットはフォーカスをダイアログ・ボックスに切り替えます。
[Shift] + [↑]	下ペイン(詳細)のサイズを大きくすると、分割ペインは上に移動します。
[Shift] + [↓]	下ペイン(詳細)のサイズを小さくすると、分割ペインは下に移動します。
[Shift] + [F10]	「次元マッピング」 ページで選択したアイテムのショートカット・メニューを表示します。

用語集

！感嘆符(!)(bang character(!))を参照してください。

#MISSING 欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING))を参照してください。

2パス(two-pass) 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbaseのプロパティです。2パスのメンバーは、2番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Performance Management Architect のモジュールの1つです。

CDF カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))を参照してください。

CDM カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。**エンコード方式(encoding)**も参照してください。

ESSMSH **MaxL シェル(MaxL Shell)**を参照してください。

Extensible Markup Language(XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load(ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID(identity) 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の ID です。

Install_Home EPM System 製品がインストールされるディレクトリを示す変数です。同じコンピュータに複数のアプリケーションがインストールされている場合は、EPM System 製品の一つのインスタンスを指します。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)(Interactive Reporting connection file(.oce)) データベース API(ODBC、SQL*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報をカプセル化したファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続ファイル(..oce)を作成して発行します。

Java データベース接続(JDBC)(Java Database Connectivity(JDBC)) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Page です。

KeyContacts ガジェット(KeyContacts gadget) Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供します。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに KeyContacts ガジェットを使用できます。

LRO リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO))を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。[MaxL DDL](#)、[MaxL DML](#)、および [MaxL シェル\(MaxL Shell\)](#)も参照してください。

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作の言語です。

MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール(MaxL Perl Module) Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル(MaxL Shell) MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX は essmsh、Windows は essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ(MaxL Script Editor) 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX(多次元式)(MDX(multidimensional expression)) リレーショナル・データベースで SQL を使用する際に、OLAP 準拠のデータベース向けに OLE DB に命令する言語です。「OLAPQuery」セクションのアウトライナを構築するとき、Interactive Reporting クライアントは要求を MDX の命令に変換します。ユーザーがクエリーを処理するとき、MDX がデータベース・サーバーに送信され、サーバーはクエリーの結果となるレコードを戻します。[SQL スプレッドシート\(SQL spreadsheet\)](#)も参照してください。

MIME タイプ(MIME Type) 多目的インターネット・メール拡張仕様(Multipurpose Internet Mail Extension)です。アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより決定されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値(null value) データのない値です。NULL 値はゼロと等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

「OK」ステータス(OK status) 連結ステータスの一つです。エンティティが連結済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ(OLAP Metadata Catalog)
Integration Services で、リレーショナル・データ・ソースから取り出されるデータの特性、ソース、場所およびタイプを記述したメタデータが含まれているリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル(OLAP model) Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAP モデルは多次元データベースの構造を生成するために使用されます。

Open Database Connectivity(ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

PL 勘定(P&L)(P&L accounts(P&L)) 損益勘定です。通常、会社の損益計算書を構成する費用勘定と収益勘定の集合を指します。

POV(視点)(POV(point of view)) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting [SQR Production Reporting](#) を参照してください。

PVA 期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA))を参照してください。

root メンバー(root member) 次元分岐における最上位のメンバーです。

RSC サービス(RSC services) リモート・サービス・コンフィグレータで構成されるサービスです。リポジトリ・サービス、サービス・ブローカー、名前サービス、イベント・サービス、およびジョブ・サービスを含みます。

Shared Services レジストリ(Shared Services Registry) Shared Services データベースの一部です。Shared Services レジストリでは、インストールされたほとんどの EPM System 製品の情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、配置設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を保管および再利用します。

Smart Space Collaborator ユーザーまたはシステムがメッセージを送信したり、Reporting and Analysis リポジトリのコンテンツを共有したりするためのサービスです。メッセージには、インスタント・メッセージのスタイル、ディスカッション、ミーティング、トースト・メッセージなどの様々な形態を使用できます。

Smart Space クライアント・ソフトウェア(Smart Space client software) クライアントのコンピュータ上で実行し、ガジェット、即時コラボレーション、および Reporting and Analysis リポジトリへのアクセスを提供します。Smart Space のワークフレームとガジェットから構成されます。

SmartBook ガジェット(SmartBook gadget) Reporting and Analysis リポジトリまたは URL からのドキュメントを含みます。SmartBook が開くとすべてのドキュメントがロードされるので、あらゆるコンテンツへのアクセスを即座に実行できます。

SPF ファイル(SPF files) SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート(SQL spreadsheet) SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language(SQL) リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP)を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション(Unicode-mode application) 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

Uniform Resource Locator(URL) インターネットまたはイントラネット上のリソースのアドレスです。

Web サーバー(Web server) イントラネットまたはインターネットの Web ページや Web アプリケーションをホストするソフトウェアやハードウェアです。

WITH セクション(WITH section) MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタムのメンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ(Workspace Page) 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wsconf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML Extensible Markup Language(XML)を参照してください。

XOLAP アウトラインのメタデータのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール(Y axis scale) 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。

アウトライン(outline) 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、連結、および算術的關係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期(outline synchronization) パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ(accessor) データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権(access permissions) リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認(activity-level authorization) 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ・サービス(active service) 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ(assemblies) EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元(value dimension) 入力値、換算値、および連結の詳細を定義するために使用されます。

アダプタ(adapter) ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード(upgrade) 以前のソフトウェア・リリースを現在のリリースに置換するプロセス、またはある製品を別の製品に置換するプロセスです。

宛先(destination) Profitability and Cost Management の割当てでは、宛先は割り当てられる値を受け取るポイントを指します。

アドホック・レポート(ad hoc report) エンド・ユーザーがその場で作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション(application) (1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析およびレポートに対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーションの通貨(application currency) アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ(appender) 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率(Risk Free Rate) より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有(implied share) メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーチファクト(artifact) 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行(migration) アプリケーション、アーチファクト、またはユーザーを、別の環境またはコンピュータにコピーするプロセスです。たとえば、テスト環境から実稼働環境にコピーします。

移行監査レポート(migration audit report) 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット(migration snapshot) アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf)(migration definition file(.mdf)) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ(migration log) アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ(dependent entity) 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名(non-unique member name) [重複メンバー名\(duplicate member name\)](#)を参照してください。

一意のメンバー名(unique member name) データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン(unique member outline) 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク(image bookmarks) Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ(cause and effect map) 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示します。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。

インデックス(index) (1)Essbase により、疎データの組合せを使用してブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。(2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ(index cache) インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目(index entry) 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル(index file) ブロック・ストレージのデータ取得情報を保管する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ(index page) インデックス・ファイルの下位区分です。データ・ブロックを指すポインタを含みます。

イントロスペクション(introspection) データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。[スクレーピング\(scraping\)](#)と対比してください。

インポート・フォーマット(import format) FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

「影響」ステータス(IMPACTED status) 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示します。

円グラフ(pie chart) 1つのデータ・セットを扇形に分割された円形で示すグラフです。

エンコード方式(encoding) テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の一つです。各エンコード方式には UTF--8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。[コード・ページ\(code page\)](#)および[ロケール\(locale\)](#)も参照してください。

エンタープライズ・ビュー(Enterprise View)

Administration Services の機能の一つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーチファクトを直接操作できます。

エンティティ(entity) 部門、子会社、工場、地域、製品など、その他の財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント(agent) アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット(Favorites gadget) Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含みます。

親(parents) 直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親はエンティティであると同時に少なくとも1つのノードに関連しているため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整(parent adjustments) 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

折れ線グラフ(line chart) データ・セットを最大50個表示できるグラフです。各データ・セットは線で示されます。折れ線グラフで絶対値やパーセントを表す際に、前の線の上に次の線を重ねていく形で表示することも可能です。

オンライン分析プロセス(OLAP)(online analytical processing(OLAP)) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行える多次元環境です。連結された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAPシステムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間消去(intercompany elimination) **消去(elimination)**を参照してください。

会社間照合(intercompany matching) アプリケーション内の内部取引勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。内部取引の受取勘定科目は、対応する内部取引の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から内部取引のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート(intercompany matching report) 内部取引勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス(Advanced Relational Access) リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースに存在する要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル(review level) プロセス管理の確認ステータス・インディケータの一つです。「開始していません」、「第1パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重(weight) スコアカードのアイテムに割り当てられた値です。スコアカード全体のスコアの計算において、そのアイテムの相対的な重要性を示します。スコアカードのすべてのアイテムの加重を総計すると100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード(cascade) メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー(custom calendar) システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元(custom dimension) ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF)) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。**カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))**も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM)) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。**カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))**も参照してください。

カスタム・プロパティ(custom property) ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート(custom report) 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

型付きメジャー(typed measure) Essbase で、メジャーが示されている次元で Text または Date というタグが付けられたメンバーです。セルの値は事前定義されたテキストまたは日付として表示されます。

カタログ・ペイン(Catalog pane) アクティブ・セクションで利用可能な要素のリストを表示します。アクティブ・セクションがクエリーの場合はデータベース・テーブルのリストが表示され、ピボットの場合は結果列のリストが表示され、ダッシュボードの場合は埋込み可能セクション、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールのリストが表示されます。

カテゴリ(categories) データ編成に使用するグループです(月など)。

株式ベータ(Equity Beta) 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は1.2です。

可変属性(varying attribute) 1つ以上の次元で変化する属性の関連付けです。これらの次元との関連で値を追跡するために使用できます。たとえば、Product次元に関連付けられているSales Representativeという可変属性を使用すると、複数の販売員によるCustomer Salesの値を時間次元との関連で追跡できます。また、5月に特定の販売員が担当した製品を検索するといった場合にも、可変属性をメンバー選択で使用できます。

カレンダー(calendar) ユーザー定義の期間、およびその関係です。カレンダーまたは会計年度は、Q1、Q2、Q3、およびQ4から構成されます。

為替レート(exchange rate) ある通貨から別の通貨に変換する際に使用する数値です。たとえば、1米ドルをユーロに変換する場合、為替レートの0.8936に米ドルを乗じます。これにより、1米ドルに相当するユーロは0.8936と算出されます。

為替レート・タイプ(exchange rate type) 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、履歴レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

換算(translation) **通貨換算(currency conversion)**を参照してください。

換算レート(conversion rate) **為替レート(exchange rate)**を参照してください。

勘定科目次元(accounts dimension) 高機能の会計を可能にする次元タイプです。勘定科目として定義可能な次元は1つのみです。

勘定科目の種別(account type) 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の動作を示します。勘定科目タイプのオプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去(account eliminations) 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック(account blocking) 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

関数(function) 値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。

感嘆符(!)(bang character(!)) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー(managed server) 内蔵されたJava仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目(Related Accounts) 勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント(externally triggered events) ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証(external authentication) OracleのHyperionアプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、アプリケーションにログオンすること指します。ユーザー情報の保管場所は、通常はMSADやNTLMなどの企業ディレクトリとなります。

ガジェット(gadget) EPMのコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysisのコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA)) 通貨換算プロセスの一つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ(base entity) 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元(base dimension) 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

基本通貨(base currency) 日常の業務トランザクションが行われる通貨です。

期末(ending period) チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ(cache) データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ(cube) 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ(cube schema) Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置(cube deployment) Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟(sibling) 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ(Shared Workspace Page) 専用のシステム・フォルダに保管され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有メンバー(shared member) ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

行の抑制(suppress rows) 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付けます。

クエリー(query) データ・プロバイダからの情報の要求です。リレーショナル・データ・ソースにアクセスする場合などに使用されます。

クエリー・ガバナー(query governor) Essbase Integration Server のパラメータ、または Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

クラスタ(cluster) 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ棒グラフ(clustered bar charts) カテゴリを横に並べたグラフです。並列カテゴリの分析に便利です。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し(iteration) 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。

クリーン・ブロック(clean block) 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。

クロス集計レポート(crosstab reporting) テーブル・フォーマットでデータの分類および連結を行うことです。テーブルのセルには、交差する分類に合致するデータの連結結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス連結レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

グリッドの POV(grid POV) 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート・デザイナーはグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防げます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ(group) 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド(global report command) 別のグローバル・コマンドに置換されるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算(calculation) データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行するプロセスです。

計算結果アイテム(computed item) データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ・アイテム、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト(calc script) データベースの連結方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。連結プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

系統データ(genealogy data) 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたる開始から終了までのコストまたは収益のフローについてのレポートを作成できます。

系列(lineage) 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。**トレーサビリティ(traceability)**も参照してください。

結合(join) 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく 2 つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING)) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限(permission) データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検索ガジェット(Search gadget) Reporting and Analysis のリポジトリを検索します。検索ガジェットは、ドキュメントをインポートしたときに設定されたドキュメントのキーワードや説明で一致を探します。

検証(validation) アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。たとえば、FDM の検証ルールにより、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。

限界税率(Marginal Tax Rate) 税引き後の負債コストを計算するために使用されます。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨(local currency) 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点(origin) 2 つの軸の交差です。

子(child) データベース・アウトライン内で上位に親を持つメンバーです。

高機能計算(intelligent calculation) 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

交差(intersection) 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位。ワークシートのセル。

構成ファイル(configuration file) セキュリティ・プラットフォームフォームでは、XML ドキュメントの構成を製品の管理者やインストール・プログラムに依存しています。XML ドキュメントは有意義なプロパティの値を示し、企業の認証シナリオに関連する場所と属性を指定するように変更する必要があります。

構造ビュー(structure view) トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

構築方法(build method) データベース・アウトラインを変更するために使用する方法の一種です。データ・ソール・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築方法を選択します。

個人の反復タイム・イベント(personal recurring time events)

再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数(personal variable) 複雑なメンバー選択の名前付きの選択ステートメントです。

個人用ページ(personal pages) リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス(committed access) Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数(context variable) タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ(content) リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ(content browser) コンテンツを選択して Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション(contribution) 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コントロール・グループ(controls group) 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されます。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

コード・ページ(code page) 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。[エンコード方式\(encoding\)](#)も参照してください。

差異(variance) プラン値と実績値などの 2 つの値の差です。

サイクル・スルー(cycle through) データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。

再構成 URL(reconfigure URL) ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするための URL です。

再構築(restructure) データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新(latest) 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を抽出するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー(top-level member) 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サブ勘定科目のナンバリング(Subaccount Numbering) 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ(subscribe) アイテムまたはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、アイテムまたはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細(supporting detail) セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法(triangulation) 第 3 の共通通貨を介して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手段です。欧州の場合はユーロが共通通貨として使用されます。たとえば、フランス・フランからイタリア・リラに変換する場合、ユーロが共通通貨として定義されます。したがって、フランの残高をリラに変換するには、フランからユーロに変換してから、ユーロからリラに変換します。

算出ステータス(calculation status) 一部の値または式の計算が変更されたことを示す連結ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再連結する必要があります。

算術演算子(mathematical operator) 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード(arithmetic data load) データベース内の値に対して演算(たとえば各値に 10 を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング(sampling) エンティティの特性を判断するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。[メタデータのサンプリング\(metadata sampling\)](#)も参照してください。

サービス(services) ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

サーブレット(servlet) Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

サーブレット・コンフィグレータ(Servlet Configurator)

ローカルにインストールされているすべてのサーブレットを構成するユーティリティです。

残高勘定科目(balance account) 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式(formula) データベース・メンバーを計算する演算子、関数、次元およびメンバー名、および定数の組み合わせです。

式の保存(preserve formulas) データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目(asset account) 勘定科目タイプの一つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目(expense account) 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額(Market Risk Premium) 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出(system extract) データをアプリケーションのメタデータから ASCII ファイルに転送します。

子孫(descendant) データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ(scenario) データを分類するための次元です(Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

支配比率(percent control) 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目(income account) 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

集計(consolidation) 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

集計比率(percent consolidation) 親に連結された子の値の割合です。

集計ファイル(*.cns)(consolidation file(*.cns)) 連結ファイルは、連結のプロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結を定義したり変更したりすることも可能です。

集計ファイル(親)(consolidated file(Parent)) 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

集計ルール(consolidation rule) 階層のノードを連結する際に実行されるルールを特定します。親の残高が正しく連結されるように、顧客固有の適切な式を含められます。消去プロセスは、連結ルール内で制御できます。

修飾名(qualified name) 修飾されたフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York] など)。

集約(aggregation) 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

集約関数(aggregate function) 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト(aggregation script) 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース(aggregate storage database)

潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約(aggregate limit) 集約要求ライン・アイテムや集約メタトピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル(aggregate cell) 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー(aggregate view) 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率(percent ownership) エンティティが親によって所有される程度です。

手動ステージ(manual stage) 完了するためにユーザーが操作する必要があるステージです。

消去(elimination) 組織内のエンティティ間でのトランザクションをゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目(Eliminated Account) 連結ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート(detail chart) 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック(dirty block) 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算(serial calculation) デフォルトの計算設定です。1 つの計算を複数のタスクに分割して、一度に 1 つのタスクを計算します。

仕訳(JE)(journal entry(JE)) シナリオと期間の残高勘定科目の借方または貸方に計上する調整のセットです。

シングル・サインオン(single sign-on) 外部のログイン情報を使用するシングル・ログインにより、複数の EPM System 製品にアクセスできる機能です。

信頼できるパスワード(trusted password) ある製品について認証されたユーザーが、パスワードを再入力せずに他の製品にもアクセスできるようにするパスワードです。

信頼できるユーザー(trusted user) 認証されたユーザーです。

時間次元(time dimension) データが示す期間を定義します(会計期間、暦時間など)。

軸(axis) (1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。(2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

時系列レポート作成(time series reporting) カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

次元(dimension) ビジネス・データを整理して値の取得や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性(interdimensional irrelevance) 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元はアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

次元構築(dimension build) Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール(dimension build rules) データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性(dimensionality) MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、{(West, Feb), (East, Mar)} というセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります。

次元タイプ(dimension type) 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ(dimension tab) 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル(dimension table) (1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。(2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する 1 つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAP モデルのコンテナを指します。

事前計算(precaculation) ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性(persistence) Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト(runtime prompt) ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度(result frequency) 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳(auto-reversing journal) 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ(automated stage) ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

従業員(employee) 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重要事業領域(CBA)(critical business area(CBA)) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF)(critical success factor(CSF)) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1 つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック(upper-level block) 少なくとも 1 つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ(redundant data) 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、トランザクションの間保持されます。

ジョブ(jobs) 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含められます。

ジョブの出力(job output) ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

数値属性範囲(numeric attribute range) 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含められます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スクレーピング(scraping) データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。イントロスペクション(introspection)と対比してください。

スケール(scaling) スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア(score) 目標を達成するレベルです。通常は目標のパーセンテージとして表されます。

スコアカード(scorecard) 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。

スコープ(scope) Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が 3 レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。**持続性(persistence)**も参照してください。

ステージ(stage) 通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の一つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります。

ステージ・アクション(stage action) 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て(post stage assignment) 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て(intrastage assignment) 財務フローの割当てです。同じステージ内のオブジェクトに対して割り当てられます。

ステージング領域(staging area) 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー(Status bar) 画面下部のステータス・バーには、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

スナップショット(snapshot) 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライタ(Spotlighter) 選択された条件に基づくカラー・コーディングを使用可能にするツールです。

スマート・カット(SmartCut) URL フォームのリポジトリ・アイテムへのリンクです。

スマート・スライス(smart slice) Smart View で、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。次元または次元メンバーの限定的なセットを含みません。

スマート・タグ(smart tags) Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパー・サービス(super service) RSC サービスを開始するために startCommonServices スクリプトによって使用される専用のサービスです。

スーパーバイザ(supervisor) サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズーム(zoom) レポートの倍率を設定します。たとえば、ページ全体またはページ幅に合わせて倍率を変更したり、100%を基準としてパーセントで倍率を指定できます。

ズームチャート(ZoomChart) チャートを拡大することにより詳細情報を表示するために使用されます。チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度(precision) 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品(product) Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー(secondary measure) プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ(accountability map) 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント(security agent) Web アクセス管理プロバイダ(Netegrity SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム(security platform) EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代(generation) データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート(Design Report) コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを設計するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

接続ファイル(connection file) [Interactive Reporting 接続ファイル\(.oce\)](#)([Interactive Reporting connection file\(.oce\)](#))を参照してください。

セル(cell) (1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート(cell note) Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト(choice list) レポート・デザイナーがレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定できるメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーのみを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーのみを選択することで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

戦略マップ(Strategic map) 組織の上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略目標および目的に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO)(strategic objective(SO)) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の一つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目的の親になります。

税金の初期残高(Taxes - Initial Balances) Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー(correlated subqueries) 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て(reciprocal assignment) 財務フローの割当ての一種です。宛先の一つとしてソースが含まれます。

組織(organization) 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

疎次元(sparse dimension) ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。**密次元(dense dimension)** と対比してください。

祖先(ancestor) その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性(attribute) 次元メンバーの特性です。たとえば、Employee 次元のメンバーは名前、年齢、住所といった属性を持ち、Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元(Attribute Calculations dimension) メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの 1 月の平均売上の値を計算できます。

属性次元(attribute dimension) 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ(attribute type) 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け(attribute association) データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート(attribute reporting) 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。[基本次元\(base dimension\)](#)も参照してください。

貸借一致の仕訳(balanced journal) 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP)(symmetric multiprocessing(SMP)) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

タイトル・バー(Title bar) Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示します。

タイム・イベント(time events) ジョブを実行するトリガーです。

タイム・スケール(time scale) 指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示します。

タイム・ライン・ビューア(time line viewer) 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

多次元データベース(multidimensional database) 3つ以上の次元でデータを整理、保管、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。[リレーショナル・データベース\(relational database\)](#)と対比してください。

タスクフロー(taskflow) ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス(taskflow instance) タスクフローの単一のインスタンスを示します。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム(taskflow management system) タスクフローを定義および作成し、その実行を管理します。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者(taskflow participant) 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義(taskflow definition) タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスを示します。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト(task list) 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ(tabs) Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行えるビューです。

タプル(tuple) MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual])といったタプルがあります。

単項演算子(unary operator) アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

代替階層(alternate hierarchy) 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード(dashboard) 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換(replace) データ・ロードのオプションの一つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート(chart) スプレッドシート・データをグラフィカルに表したものです。視覚的な表示により、分析、カラー・コーディング、および比較の手助けとなるビジュアル・キューの効率が上がります。

チャート・テンプレート(chart template) Workspace チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド(extraction command) Essbase レポート作成コマンドの一つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および順序付けを処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査(Investigation) ドリルスルー(drill-through)を参照してください。

調整(adjustment) 仕訳(JE)(journal entry(JE))を参照してください。

調整勘定科目(plug account) 内部取引勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

重複する別名(duplicate alias name) 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン(duplicate member outline) 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名(duplicate member name) データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。

直接レート(direct rate) 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間またはシナリオのレートを入力します。

通貨(monetary) 金銭的な値です。

通貨換算(currency conversion) データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1 米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1×0.923702)。変換後のユーロの額は 0.92 になります。

通貨の上書き(Currency Overrides) 入力期間で、選択した入力メソッドを上書きして、デフォルト通貨/アイテムとして該当期間の値を入力できます。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション(currency partition) アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳(regular journal) 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。貸借一致エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

通知ガジェット(Notifications gadget) 他のユーザーやシステムから受け取った通知メッセージの履歴を表示します。

定義済ドリル・パス(predefined drill paths) データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態(adaptive states) Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー(text measure) メジャーの値をテキストとして表現できるデータ型です。Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。**型付きメジャー(typed measure)**、**テキスト・リスト(text list)**、および**導出テキスト・メジャー(derived text measure)**も参照してください。

テキスト・リスト(text list) Essbase で、数値の識別子にマッピングされたテキストの値を保管するオブジェクトです。テキスト・リストではテキスト・メジャーを使用可能にします。

テンプレート(template) 特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済のフォーマットです。

デフォルト通貨単位(Default Currency Units) データの単位スケールを定義します。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、10,000 と解釈されます。

データ関数(data function) 値を集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを連結します。

データ・キャッシュ(data cache) 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル(data cell) **セル(cell)**を参照してください。

データ値(data value) [セル\(cell\)](#)を参照してください。

「データなし」ステータス(NO DATA status) 連結ステータスの一つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ(data file cache) 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム(data form) Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続(database connection) データ・ソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるファイルです。

データ・マイニング(data mining) Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル(data model) データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック(data lock) 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぎます。

データ・ロード位置(data load location) FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール(data load rules) テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

透過パーティション(transparent partition) ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン(transparent login) ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせます。

統合(integration) Shared Services を使用して EPM System 製品間でデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付け、およびスケジュールが決定されます。

トップ・ラベルとサイド・ラベル(top and side labels) 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト(traffic lighting) 2 つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー(triggers) ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbase の機能の一つです。基準に一致すると、Essbase はユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ(traceability) メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえば Essbase Studio の場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソース要素まで追跡できます。

トレース・レベル(trace level) ログ・ファイルに取り込まれた詳細のレベルを定義します。

トレース割当て(trace allocations) Profitability and Cost Management の機能の一つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

トークン(token) 外部認証システム上の一つの有効なユーザーまたはグループの暗号化された ID です。

トースト・メッセージ(toast message) 画面右下の隅に表示され、現れたり消えたりするメッセージです。

同期(sync) Shared Services とアプリケーション・モデルの同期です。

同期済(synchronized) モデルの最新バージョンがアプリケーションと Shared Services の両方に存在する状態を指します。[モデル\(model\)](#)も参照してください。

導出テキスト・メジャー(derived text measure) Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、Sales メジャーに基づき、High、Medium、および Low という値を含む Sales Performance Index という導出テキスト・メジャーの場合、対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium、および Low が表示されるように定義されます。テキスト・メジャー(text measure)も参照してください。

動的階層(dynamic hierarchy) 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算(dynamic calculation) Essbase で、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

動的計算および保管メンバー(Dynamic Calc and Store members) ブロック・ストレージ・アウトラインで、Essbase により値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2 回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー(Dynamic Calc members) ブロック・ストレージ・アウトラインで、Essbase により取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照(dynamic reference) データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

動的時系列(Dynamic Time Series) ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目(dynamic view account) 勘定科目の一つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト(dynamic member list) システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート(dynamic report) レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン(domain) データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ(driver) ドライバは割当て方法の一種です。ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示します。

ドリルスルー(drill-through) あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン(drill-down) 次元の階層を使用してクエリ結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパースペクティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

名前付きセット(named set) MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ(input data) 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証(authentication) 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス(authentication service) 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証(native authentication) サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列ヘッダー(nested column headings) 複数の次元からのデータを表示するレポートの列ヘッダーのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列ヘッダーはネスト列です。ネスト列ヘッダーでは、ヘッダーの一番上の行の Q1(Year 次元)が、ヘッダーの一番下の行の Actual および Budget(Scenario 次元)で修飾されます。

ノート(note) ボックス、メジャー、スコアカード、またはマップ要素に関連する補足情報です。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)(Hypertext Markup Language(HTML)) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク(hyperlink) ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析(Hybrid Analysis) リレーショナル・データベースに保管された下位レベルのデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

ハイライト(highlighting) 構成に応じて、チャートのセルまたはズームチャートの詳細がハイライトされ、値のステータス(赤色は不正、黄色は警告、緑色は良好)が示されます。

範囲(range) 上限と下限、およびその間に含まれる値のセットです。数字、金額、または日付を含むことが可能です。

反復タイム・イベント(recurring time event) ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート(recurring template) 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ(generic jobs) SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス(legend box) 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

バックアップ(backup) アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV(batch POV) ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算(batch calculation) データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード(batch processing mode) サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行できます。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行できます。

バッチ・ファイル(batch file) 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー(batch loader) 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン(version) データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合(pattern matching) 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表せます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ(performance indicator) ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ(public job parameters) 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント(public recurring time events) 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット(palette) JASCに準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。

パースペクティブ(perspective) スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示せます。

パーティション化(partitioning) データ・モデルの間に共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域(partition area) データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの一つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルを含む必要があります。

「非アクティブ」ステータス(INACTIVE status) エンティティの当期の連結が非アクティブにされていることを示します。

非アクティブ・グループ(inactive group) 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

非アクティブ・サービス(inactive service) 稼動が一時停止しているサービスです。

非アクティブ・ユーザー(inactive user) 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

非次元モデル(non-dimensional model) Shared Services のモデル・タイプの一つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

日付メジャー(date measure) Essbase で、メジャーが示されている次元で「日付」のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。**型付きメジャー(typed measure)**も参照してください。

表示タイプ(display type) リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート(standard journal template) 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元(standard dimension) 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス(business process) 集合的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール(business rules) 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー(visual cue) 特定のタイプのデータ値をハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。

ビュー(view) 年次累計または期別のデータを示すものです。

ピボット(pivot) 取得したデータのパースペクティブを変更する機能です。Essbase では、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得られます。

ピン(pins) ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード(pinboard) 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの一つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから構成されるグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字(file delimiter) データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル(fact table) スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ(filter) データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フィールド(field) データ・ソース・ファイル内のアイテムです。Essbase データベースにロードされます。

フォルダ(folder) 他のファイルを含んで階層を形成するファイルです。

フォーマット(format) ドキュメントやレポート・オブジェクトの視覚的な特性です。

フォーマット文字列(format string) Essbase で、セルの値の表示を変換する方法です。

復元(restore) データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション(replicated partition) パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部です。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目(liability account) 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目タイプです。未払費用、買掛金勘定、長期借入金などが負債勘定科目に含まれます。

フッター(footer) レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド(free-form grid) 動的計算のために、異なるソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成(free-form reporting) ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム(frame) デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームと Workspace フレームが2つの主要な領域となります。

フロー勘定科目(flow account) 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック(book) 類似する Financial Reporting ドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。

ブックの POV(book POV) ブックが実行される次元メンバーです。

ブックマーク(bookmark) ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークの2つのタイプがあります。

ブロック(block) プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目(Blocked Account) 手動で入力するために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース(block storage database) 疎次元に定義されたデータ値の分散度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ(broadcast message)

Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどのユーザー向けの情報が表示されます。

分離レベル(isolation level) データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase カーネルの設定です。

プライマリ・メジャー(primary measure) 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ(planner) プランナは、大多数のユーザーから構成されます。データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、および Smart View の使用が可能です。

プランニング・ユニット(planning unit) シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション(presentation) Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートのグループ化、整理、並べ替え、配布、および確認を行えます。リポジトリ内のレポートを参照するポイントを含みます。

プロキシ・サーバー(proxy server) セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト(project) 実装でグループ化された EPM System 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート(process monitor report) FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手順のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

プロット領域(plot area) X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロパティ(property) アーチファクトの特性です(サイズ、タイプ、処理手順など)。

プロビジョニング(provisioning) ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権を付与するプロセスです。

並列エクスポート(parallel export) Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算(parallel calculation) 計算オプションの一つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード(parallel data load) Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

ヘッド・アップ・ディスプレイ(head up display) Windows デスクトップの上に、背景イメージを含むロード済 Smart Space デスクトップを表示するモードです。

変換(transformation) (1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーチファクトを変換します。(2)データ・マイニングで、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更します。

変換先通貨(destination currency) 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨(source currency) 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス(CHANGED status) エンティティのデータが変更されたことを示す連結ステータスです。

別名(alias) 代替名です。たとえば、列をより簡単に特定する記述子として、メンバー名のかわりに別名を表示できます。

別名テーブル(alias table) メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ(page) グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含められません。

ページ・ファイル(page file) Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し(page heading) レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー(page member) ページ軸を決定するメンバーです。

保管階層(stored hierarchy) 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用されます。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含められないなどの一定の制限があります。

ホスト(host) アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ(host properties) ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Install_Home が含まれる場合は、いずれかの Install_Home に関するプロパティとなります。ホスト・プロパティは CMC から構成されます。

保存された仮定(saved assumptions) ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

棒グラフ(bar chart) 1-50 のデータ・セットを含められるグラフです。各データ・セットには任意の数の値を割り当てられます。データ・セットは、対応する棒のグループ、上下に重ねた棒、または別々の行に個別の棒として表示されます。

マイ Workspace ページ(My Workspace Page) 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

マイニング属性(mining attribute) データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル(master data model) 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ(Map Navigator) 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル(Map File) 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するために使用されます。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mpr となります。

マルチロード(multiload) 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ(merge) データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元(dense dimension) ブロック・ストレージ・データベースで、次元メンバーのすべての組合せのデータを含んでいる可能性のある次元です。たとえば、時間次元はすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるために、しばしば密な次元となっています。疎次元(sparse dimension)と対比してください。

ミニスキーマ(minischema) データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート(minireport) レポートのコンポーネントの一つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の一つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含められます。

耳折れ(dog-ear) 折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されません。

メジャー(measures) OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。 **ファクト・テーブル(fact table)** も参照してください。

メタアウトライン(metaoutline) Integration Services で、OLAP モデルから Essbase のアウトラインを作成するための規則と構造を含んだテンプレートです。

メタデータ(metadata) データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ(metadata security) ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング(metadata sampling) ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素(metadata elements) データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メトリック(metric) ビジネス・データから計算される数値測定単位です。業績評価や企業トレンド分析に役立ちます。

メンバー(member) 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド(member selection report command) 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド(member-specific report command) レポート・ライターのフォーマット・コマンドの一つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト(member list) 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード(member load) Integration Services で、次元およびメンバー(データを含まない)を Essbase のアウトラインに追加するプロセスです。

目標(target) 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社(holding company) 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル(model) (1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。(2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという 2 つの主要なタイプがあります。(3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割(role) リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA)(user-defined attribute(UDA)) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDA を使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

ユーザー定義メンバー・リスト(user-defined member list) ユーザー定義による、次元に含まれるメンバーの名前付きの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ(user directory) ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。

ユーザー変数(user variable) ユーザーのメンバー選択に基づいて、データ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示します。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート(Summary chart) 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

予算管理者(budget administrator) アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

ライトバック(write-back) 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフ・サイクル管理(life cycle management) アプリケーション情報をライフサイクルの最初から最後まで通して管理するプロセスです。

ライフ・サイクル管理ユーティリティ(Lifecycle Management Utility) アプリケーションとアーチファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。

ライン・アイテムの詳細(line item detail) 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース(resources) システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ(repository) ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマット、および注釈の情報を保管します。

領域(area) メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均(Historical Average) 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース(relational database) 関連する2次元テーブルにデータを保管するデータベースです。[多次元データベース\(multidimensional database\)](#)と対比してください。

リンク(link) (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。(2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件(link condition) タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル(linked data model) リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション(linked partition) データ・セルを使用して2つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO)) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。[ローカル・レポート・オブジェクト\(local report object\)](#)と対比してください。

隣接する四角形(bounding rectangle) Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または1ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域(layout area) Workspace ページで、コンテンツを配置可能な領域を指定するために使用されます。

例外(exceptions) 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー(layer) (1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。(2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード(record) データベースで、1つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列(column) グリッドまたはテーブルで縦方向に表示される情報です。列には、特定のフィールドからのデータ、計算により得られたデータ、またはテキストの情報が含まれます。

レベル(level) 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル 0 のブロック(level 0 block) 疎のレベル 0 のメンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル 0 のメンバー(level 0 member) 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ(Report Extractor) レポート・スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト(report object) レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト(report script) 1 つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨(reporting currency) 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア(Report Viewer) レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

ログ・アナライザ(Log Analyzer) Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名(location alias) データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール(locale) コンピュータで使用される言語、通貨、および日付フォーマット、データのソート順、文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。[エンコード方式\(encoding\)](#)および [ESSLANG](#) も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード(locale header record) スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済(locked) ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス(LOCKED status) 連結ステータスの一つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル(locked data model) ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理グループ(logic group) FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される 1 つ以上の論理勘定を含みます。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

ローカル結果(local results) データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト(local report object) Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。[リンク・レポート・オブジェクト\(LRO\)](#) ([linked reporting object\(LRO\)](#))と対比してください。

ロールアップ(roll-up) [集計\(consolidation\)](#)を参照してください。

ワイルド・カード(wild card) 検索文字列で、任意の 1 文字または文字グループを示す文字(*)です。

割当て(assignment) Profitability and Cost Management で、割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

ワーク・フロー(work flow) FDM で開始から終了までデータを処理する必要があるステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック(workbook) 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

索引

記号

- #MISSING データ, 556
 - 設定の指定, 552
- #Missing データ
 - スマート・リストで表現, 104
- #Missing データ・フォーム・ラベル・オプション, 104
- #Missing ドロップ・ダウン・ラベル・オプション, 104
- 2 パス計算, 552
- 2 パス計算オプション, 549
- 3 桁ごとの区切り文字, 557
- 4-4-5 週次パターン, 166
- 445 週パターンおよび 544 週パターン、再配置時の考慮事項, 215
- 5-4-4 週次パターン, 166

A - Z

- AccountType
 - 動作, 513
- Actual_365 加重平均タイム・バランス, 556
- Actual_Actual 加重平均タイム・バランス, 555
- Aggregation Weight, 516
- Alias, 509, 516, 518, 521, 529, 532, 537
- AllocationType 次元, 171
 - 次元ソート順, 179
- AllocationType 次元タイプ
 - 説明, 46
- Allow Adjustments, 519
- Allow Adjustments From Children, 519
- Analytic Services
 - 考慮事項, 566
- Ancestors メンバー・クエリー関数, 616
- Base Time Period, 545
- BegBalance メンバー。「期首残高の期間」を参照
- BottomOfHierarchy メンバー・クエリー関数, 617
- Calc Attribute, 509
- Calculation Manager
 - 説明, 223
 - ログオン, 226
- CloseInputValueBlock 変数, 139
- Consolidate YTD, 521
- Consolidation Account Type, 509
- Consolidation Rules, 525
- Control, 530
- CrossRef(accountName, prefix)関数, 139
- CrossRef(accountName)関数, 139
- Currency, 519
- Custom Top Member, 509
- CYTD(memberName, calTpIndexName, fiscalTpIndexName)関数, 139
- CYTD(memberName)関数, 139
- D-T-D、日次累計, 124
- Default Alias Table
 - 定義, 546
- Default Currency, 525, 545
 - 再配置の要件, 215
- Default Frequency, 521
- Default Frequency For IC Transactions, 522
- Default Parent, 510, 516, 519, 521, 537
- Default Rate For Balance Accounts, 525
- Default Rate For Flow Accounts, 525
- Default Value For Active, 525
- Default View, 521
- Dimension(dimtag)関数, 139
- Dimension Sort Order プロパティ, 179
- Display In ICT, 533
- DOWN 勘定科目, 535
- DTS メンバー
 - 定義済, 124
 - 年および期間の名前変更, 124
- Enable Custom Aggregation, 510
- Enable Data Audit, 510, 522
- Enable Metadata Security Filtering, 525

- Enable Process Management, 522
- EPM Workspace
 - ログオン, 226
- Essbase (ASO)アプリケーション
 - 配置ガイドライン, 213
 - 配置要件, 213
 - 要件, 181
- Essbase (BSO)
 - 配置, 213
- Essbase (BSO)アプリケーション
 - 配置ガイドライン, 213
 - 配置要件, 213
 - 要件, 181
- FDM Application Name, 529
- getCalendarTPIndex()関数, 139
- getFiscalTPIndex()関数, 139
- H-T-D、累計, 124
- Holding Company, 519
- HSP_NOLINK, 567
- HSP_UDF, 567
- ICP, 429, 536
- ICP Entities Aggregation Weight, 526
- ICP Top Member, 510
- ICP 次元タイプ
 - 説明, 46
- ICP の設定, 429, 536
- ICP メンバー
 - 生成されたシステム, 429, 536
- Is Calculated, 510, 516
- Is Consolidated, 511
- Is Holding Method, 530
- Is ICP, 511
 - エンティティ, 519
- M-T-D、月次累計, 124
- Match メンバー・クエリー関数, 617
- Maximum Cell Text Size, 526
- Maximum Document Attachment Size, 526
- Maximum Number of Document Attachments, 526
- Maximum Review Level, 522
- Multiple Currencies, 160, 545
- Name, 511, 516, 519, 522, 529, 533, 537
- Node Security, 526
- Number Of Decimal Places, 512
- NumberOfPeriodsInYear 変数, 139
- NumberOfYears 変数, 139
- OpenInputValueBlock 変数, 138, 301
- Org By Period Application, 527
- P-T-D、期間累計、期間メンバー名の変更, 124
- Parent メンバー・クエリー関数
 - ALE、ADS ドライバ, 618
- PCON 勘定科目, 535
- PCTRL 勘定科目, 535
- Percent Consol, 530
- Percent Consol Value, 531
- Performance Management Architect
 - Planning 固有の情報, 543
 - 情報, 21
- Period(periodName)関数, 139
- Phased Submission Start Year, 523
- Plan Name, 543
- Planning
 - 2パス計算, 552
 - BegBalance メンバー, 561
 - UDA, 550
 - YearTotal メンバー, 561
 - アクセス権, 83
 - アプリケーション設定の変更, 164
 - アプリケーションの要件, 158
 - アプリケーション、配置, 214
 - アプリケーション・プロパティ, 543
 - インポート・プロファイルによる次元メンバーの追加, 78
 - エンティティ・プロパティ, 559
 - 開始年, 207
 - 開始年および月, 546
 - 為替レート・タイプ, 554
 - 為替レート・テーブル, 562
 - 勘定科目, 552
 - 勘定科目の種別, 553
 - 勘定科目の種別の組合せ, 555
 - 勘定科目計算の例, 556
 - 期間プロパティ, 560
 - 基本期間, 546
 - 共有メンバー、操作, 123
 - 共有メンバー、データ・ストレージへの ShareData の設定, 124
 - 再配置時の考慮事項, 214
 - 支出レポートのオプション, 553
 - シナリオ, 561
 - 集約プロパティ, 550
 - 次元, 78, 83, 543
 - 次元の選択, 161

- 事前に定義されている次元, 158, 161, 207
- 疎および密次元, 78
- ソース・プラン・タイプ, 554
- 属性値, 551, 566
- タイム・バランス・プロパティの例, 555
- ターゲットおよびボトムアップ・バージョン, 563
- 通貨, 557, 560
- デフォルト通貨の指定, 160
- デフォルトの別名テーブル, 546
- データ型, 551
- データ・ストレージ, 547
- 動的計算, 548
- 年次元, 564
- 配置の考慮事項, 207
- バージョン, 563
- パターン, 546
- 複数通貨, 545
- プラン・タイプ, 543, 552
- プラン・タイプの定義, 160
- プランで有効, 547
- プラン名, 543
- プロセス管理、使用可能, 562, 563
- プロパティ, 547
- 別名テーブル, 550
- 別名テーブル、デフォルト, 546
- 命名規約, 83
- メンバー、削除, 128
- メンバー、除外, 128
- メンバー計算式, 550
- メンバーの削除、影響, 215
- レポートの通貨, 559
- Planning の配置のトラブルシューティング, 207, 564
- Plug Account, 512
- POV
 - POV 次元, 177
 - POV の表示順序, 177
- POV 次元, 171
 - 次元ソート順, 179
- POWN 勘定科目, 535
- Profitability and Cost Management
 - 配置の検証, 211
- Property メンバー・クエリー関数, 618
- Q-T-D、四半期累計, 124
- S-T-D、季節累計, 124
- Scale, 533
- Security As Partner, 520
- Security Class, 512, 517, 520, 523, 537
- Security For Accounts, 527
- Security For Custom, 527
- Security For Entities, 527
- Security For ICP, 528
- Security For Scenarios, 528
- SET コマンド・テンプレート
 - 説明, 282
- Shared Services タスクフロー
 - 権限の削除, 502
 - 権限の編集, 501
 - 参加者ステータスの表示, 504
 - 参加者の詳細の表示, 505
- ShareData
 - 共有メンバーに対する設定, 124
 - 配置, 124
- SharesOutstanding 勘定科目, 535
- SharesOwned 勘定科目, 535
- Siblings メンバー・クエリー関数, 620
- Start Month, 546
- Start Year, 546
- Start Year プロパティ, 158
- Submission Group, 512, 517, 537
- Support Submission Phase for Account, 528
- Support Submission Phase for Custom, 528
- Support Submission Phase for ICP, 528
- Switch Sign For Flow, 517
- Switch Type For Flow, 518
- Time Balance プロパティ, 552
- To Percent Control, 531
- To Percent Control Compare, 531
- Translation Operator, 534
- UDA, 523
 - HSP_NOLINK, 567
 - HSP_UDF, 567
 - Planning, 550
 - 操作, 135
 - 複数, 550
- Unicode モード・オプション, 217
- Use PVA For Balance Accounts, 527
- Use PVA For Flow Accounts, 527
- Used By Calc Routine, 531
- User Defined1...3, 512, 518, 520, 523
- Uses Line Items, 512, 523
- Validation Account, 528
- VotingOutstanding 勘定科目, 535

VotingOwned 勘定科目, 535
 W-T-D、週次累計, 124
 Weeks , 546
 XBRL Tags, 513
 Y-T-D、年次累計、年メンバー名の変更, 124
 YearTotal メンバー
 配置に必要, 561
 編集, 561
 Zero View For Adjustments, 524
 Zero View For Non-adjustments, 524

あ行

アウトライン、更新の考慮事項, 566
 「アクション」メニュー, 232
 アクセス権
 メンバーの削除の影響, 215
 アクセス権、Planning への割当て, 83
 アクセス権、シナリオ用の定義, 562
 アクティブ勘定科目, 535
 値次元タイプ
 説明, 47
 値のスキップの設定, 552
 値メンバー
 生成されたシステム, 429, 536
 編集, 537
 アプリケーション
 Planning の変更, 164
 Profitability and Cost Management の要件, 171
 アプリケーション・メンバーシップの表示, 190
 命名規則, 568
 インスタンス, 216
 エクスポート, 449
 カレンダー範囲の定義, 166
 管理, 22, 147
 基本期間の定義, 166
 検証, 204, 205
 再配置, 214
 収益性の作成, 170
 手動による次元の追加, 174
 次元順序の変更, 167
 次元の関連付けの表示, 187
 次元の除去, 187
 次元の追加, 151, 162
 情報, 147
 前提条件, 148
 通貨の定義, 160

月配布分散の定義, 166
 データ型の評価順序, 168
 データ・ソース, 216
 データ・フローからのアクセス, 204
 配置, 204
 パフォーマンス, 168
 パフォーマンス設定のプラン・タイプ, 167
 パフォーマンスの最適化, 167
 比較, 199
 比較結果, 200
 プランニングの作成, 157, 158, 159, 160, 161
 プラン・タイプの設定, 160
 プランニングの配置, 214
 プロセス, 147
 密次元および疎次元, 167
 メンバーの除外, 144
 メンバーの操作, 141
 メンバーのフィルタ処理, 141
 連結の作成, 149
 連結の配置, 210
 連結の要件, 150
 アプリケーションの作成
 Planning, 157, 158, 159, 161
 収益性, 170
 連結, 149
 アプリケーションの変更
 Planning, 164
 アプリケーションのメンバー
 フィルタ処理, 141
 アプリケーション・プロパティ
 Planning, 543
 連結, 524
 アプリケーション・メンバーシップ
 表示, 190
 アプリケーション・メンバーシップの表示
 次元ライブラリ, 86
 アプリケーション・ライブラリ
 データ・フローの表示, 202
 アーキテクチャ
 Performance Management Architect, 25
 移行
 Financial Management から Calculation Manager へのビジネス・ルール, 440
 Planning から Calculation Manager へのビジネス・ルール, 429
 ビジネス・ルール, 429
 概要, 429, 536

以前のリリース

互換性, 541

依存関係、設計時プロンプトに対する定義,
311

一定期間のデータの配布, 166

印刷

ビジネス・ルール, 261

インスタンス、操作, 216

インタフェース・テーブル

概要, 56

構成, 57

システム・テーブル, 59

消去, 62

定義, 59

インタフェース・テーブルのインポート

タスクフローの作成, 493

インタフェース・テーブルの消去, 62

インタフェース・データ・ソース

構成, 57

インタフェース領域

定義, 457

インポート

概要, 447

式およびスクリプト・コンポーネント, 449

テンプレート, 449

ビジネス・ルール, 449

ビジネス・ルールセット, 449

インポート・ファイル

管理, 70

削除, 73

作成, 48, 63

階層セクション, 52

次元セクション, 49

次元の関連付けセクション, 50

プロパティ配列セクション, 54

メンバー・セクション, 50

次元のインポート, 70

表示, 72

編集, 72

インポート・プロファイルの削除, 73

インポート・ファイルの作成, 63

次元ライブラリ, 48

インポート・プロファイル、および Planning,
78

インポート・プロファイルの管理, 70

インポート・プロファイルの表示, 72

インポート・プロファイルの編集, 72

うるう年、会計, 555

エクスポート

アプリケーション, 449

概要, 447

式およびスクリプト・コンポーネント, 447

テンプレート, 447

ビジネス・ルール, 447

ビジネス・ルールセット, 447

エラー・メッセージ

再配置, 214

数式用, 140

配置, 124, 207, 564

エンティティ次元, 559

エンティティ次元タイプ, 171

説明, 46

エンティティ・プロパティ

Planning 用, 559

連結, 518

エンティティ・メンバー

およびプラン・タイプ, 547

通貨, 560

エンティティ・メンバーの通貨, 560

「お気に入り」メニュー, 231

か行

会計開始月、再配置の要件, 215

会計年度、設定, 166

開始月

再配置の要件, 215

配置の要件, 207

開始年, 562

再配置の要件, 215

説明, 564

フォーマット, 207

階層セクション

isPrimary 列, 52

加重平均タイム・バランス・プロパティ, 555

カスタム期間、Planning, 545

カスタム次元

削除, 129

除外, 129

命名, 83

カスタム定義テンプレート

検索, 318

異なる名前で保存, 314

コピーおよび貼付け, 317

コンポーネントからの作成, 312

- 削除, 316
- 作成, 301
- 使用の表示, 315
- 設計, 302
- 設計時プロンプトの依存関係の定義, 311
- 設計時プロンプトの作成, 305
- 設計時プロンプトの次元限界の定義, 310
- 設計時プロンプトの選択, 309
- 設計時プロンプトのデフォルト値の定義, 310
- 説明, 138, 301
- 開く, 313
- フロー・チャートからの除去, 318
- フロー・チャートへの挿入, 317
- 編集, 313
- 保存, 313
- リフレッシュ, 315
- カスタム・ビュー
 - 説明, 236
- カスタム・プロパティ
 - Planning, 83
 - 連結, 516
- カレンダー
 - 現在の年または期間の変更, 564
 - 再配置の要件, 215
 - 実用的な限界, 560
 - 設定, 560
 - 年の追加, 564
 - 要約期間の作成, 560
- カレンダー範囲, 166
- 為替レート、勘定科目メンバーのタイプ, 554
- 為替レート・テーブル、シナリオ用の定義, 562
- 勘定科目次元, 552
- 勘定科目次元タイプ, 171
 - 説明, 45
- 勘定科目計算における欠落データ, 556
- 勘定科目計算におけるゼロ, 556
- 勘定科目の種別
 - および支出レポート, 553
 - 説明, 553
 - 要約, 555
- 勘定科目プロパティ
 - Planning, 552
 - 連結, 508
- 勘定科目メンバー
 - 勘定科目の種別, 553
 - プラン・タイプ, 552
- 関数。「数式」を参照
 - メンバー・クエリー, 615
- 管理
 - アプリケーション, 22
 - ジョブ, 479
- 関連付け
 - Planning のアップグレード時に割当て, 79
 - 次元, 187
 - フラット・ファイルでのロード, 79
 - 関連付け、プランニング・メンバーの除去時に解除, 128
- 期間
 - シナリオ用の定義, 562
 - 実用的な限界, 560
 - 変更, 564
- 期間、変更, 564
- 期間次元, 560
- 期間次元、情報, 560
- 期間次元タイプ
 - 説明, 46
- 期間の範囲、設定, 560
- 期間別組織, 529
- 期間累計、期間の名前変更, 124
- 期首残高の期間
 - およびシナリオ, 562
 - 配置に必要な, 561
 - 編集, 561
- 期首残高の使用, 561, 562
- 期首タイム・バランス・プロパティ, 555
- 基本期間
 - 定義, 166
 - データの分散, 166
- 基本メンバーの設定、Planning で使用しない, 123
- 共有オプション, 547
- 共有しないオプション, 547
- 共有データ、共有メンバーの設定, 547
- 共有メンバー
 - 作成, 120
 - 操作, 123
 - データ・ストレージへの ShareData の設定, 124
- 共有メンバーの作成, 120
- 金額単価レート・テンプレート
 - 説明, 281
- クイック配置、説明, 424

国次元タイプ, 171

説明, 46

計算。「ビジネス・ルール」を参照

計算スクリプト

検索, 246, 252, 253, 256, 333

経常残高勘定科目の動作, 514

結果

インポートの表示, 486

結果のインポート, 486

権限、Planning への割当て, 83

検索

計算スクリプト内, 246, 252, 253, 256, 333

検証, 180

アプリケーション, 204, 205

データの同期, 474

データ・フローからのデータ同期, 204

検証条件

収益性, 211

検証条件 Profitability and Cost Management, 179

コピー

ビジネス・ルール, 256

ビジネス・ルール・コンポーネントの子,
257

ビジネス・ルール・コンポーネントの参照,
258

ビジネス・ルールセット, 272

孤立メンバー, 127

コンポーネント

検証, 417

コンポーネントのビジネス・ルールへの追
加, 250

所有者の変更, 277

追加、ビジネス・ルールへ, 243

テンプレートの作成, 312

ビジネス・ルールから削除, 249

ビジネス・ルールでのコンポーネントのコ
ピーおよび貼付け, 250

さ行

最初の年

説明, 564

再配置

Planning の考慮事項, 214

アプリケーション, 214

シナリオの考慮事項, 562

使用の表示の確認, 207, 215

タスクフローの作成, 493

通貨の問題, 215

トラブルシューティング, 214, 564

年次元の考慮事項, 564

差異レポート, 553

差異レポートおよび勘定科目の種別, 555

削除

カスタム定義テンプレート, 316

ジョブ, 488

ビジネス・ルール, 261

ビジネス・ルールセット, 274

ビジネス・ルールのコンポーネント, 249

ルールセットからのルールまたはルールセッ
ト, 270

ルールセットのビジネス・ルール, 268

削除されたメンバー

Planning での使用の表示の確認, 128

配置前の使用の確認, 207, 215

作成

情報, 21

ビジネス・ルール, 241, 242, 243

ビジネス・ルールセット, 264

ビジネス・ルールセットのプロパティ, 265

ビジネス・ルールのコンポーネント, 243

ビジネス・ルールのプロパティ, 244

三角換算法, 558

三角換算法通貨、削除結果, 215

参照整合性, 538

サンプル・テーブル

Performance Management Architect, 61

残高勘定科目の動作, 513

式。「数式」を参照

式コンポーネント

インポート, 449

エクスポート, 447

検証, 417

所有者の変更, 277

資産勘定科目の動作, 513

支出勘定科目の種別

および差異レポート, 553

要約, 555

支出勘定科目の動作, 513

支出外勘定科目の種別, 553

支出外の設定, 553

支出の設定, 553

支出レポートのオプション, 553

システム勘定科目

DOWN 勘定科目, 535

- PCON 勘定科目, 535
- PCTRL 勘定科目, 535
- POWN 勘定科目, 535
- SharesOutstanding 勘定科目, 535
- SharesOwned 勘定科目, 535
- VotingOutstanding 勘定科目, 535
- VotingOwned 勘定科目, 535
- アクティブ勘定科目, 535
- メソッド勘定科目, 535
- 連結 1...3 勘定科目, 535
- システム・テンプレート
 - Essbase、説明, 281
 - Financial Management、説明, 280
 - Planning と Essbase、説明, 281
 - SET コマンド・テンプレートの使用, 295
 - カスタム定義テンプレートとして保存, 297
 - 金額単価レート・テンプレートの使用方法, 286
 - 検索, 318
 - 集約テンプレートの使用, 292
 - 単純割当てテンプレートの使用, 289
 - データのエクспорт・テンプレートの使用, 293
 - データのコピー・テンプレートの使用, 285
 - データの消去テンプレートの使用, 284
 - ビジネス・ルールの使用, 282
 - フロー・チャートからの除去, 299
 - フロー・チャートへの挿入, 298
 - レベル間割当てテンプレートの使用, 287
- システム・ビュー
 - 説明, 236
- システム・プロパティ、次元別名の使用, 79
- システム変数、ロード, 413
- シナリオ
 - アクセス権、定義, 562
 - 為替レート・テーブル、定義, 562
 - 期間、定義, 562
 - 削除, 562
 - 配置、必須, 562
 - プロセス管理、使用可能, 562
- シナリオ次元タイプ
 - 説明, 47
- シナリオのプロパティ、Planning 用, 561
- シナリオ・プロパティ
 - 連結, 521
- 支配比率, 535
- 資本勘定科目の種別
 - 要約, 555
- 週、再配置の要件, 215
- 収益勘定科目の種別
 - 要約, 555
- 収益勘定科目の動作, 513
- 週次配布パターン, 166
- 集約ストレージ・オプション・アプリケーション
 - 要件, 181
- 集約テンプレート
 - 説明, 282
- 集約なしプロパティ, 550
- 終了期間, 562
- 終了年, 562
- 出資比率, 535
- 出資比率勘定科目
 - SharesOutstanding 勘定科目, 535
 - SharesOwned 勘定科目, 535
 - VotingOutstanding 勘定科目, 535
 - VotingOwned 勘定科目, 535
- 小数区切り, 557
- 所有権
 - 変更, 277
- ショートカット
 - 作成、ビジネス・ルールへの, 260
- ショートカット、ビジネス・ルールの配置, 423
- 使用
 - カスタム定義テンプレート
 - 表示, 315
 - 表示、ビジネス・ルール, 47, 246, 252, 255, 276
 - 表示、ビジネス・ルールセット, 266, 271, 276
- 時間次元タイプ, 171
 - 説明, 47
- 次元
 - Planning 固有の情報, 543
 - Planning の命名規約, 83
 - Profitability and Cost Management, 171
 - アプリケーションでの除去, 187
 - アプリケーションへの追加, 151, 162
 - エンティティ, 559
 - 階層, 79
 - 勘定科目, 552
 - 関連付け, 79
 - コピー, 85

- 再配置の要件, 215
- 削除, 90, 129
- 作成, 76
- 手動によるアプリケーションへの追加, 174
- 次元ライブラリ, 45
- 除外, 129
- 整理, 86
- 疎, 78
- 定義済, 158, 161, 207
- 配置、考慮事項, 207
- フォルダへのコピー, 87
- フラット・ファイル、関連付けの指定, 79
- 密, 78
- 命名規約, 569
- メンバーとの関係, 78
- ユーザー定義, 83
- 次元限界
 - 設計時プロンプトに対する定義, 310
- 次元順序
 - 変更, 167
- 次元タイプ
 - AllocationType, 46, 171
 - ICP, 46
 - POV, 171
 - POV 次元, 177
 - POV の表示順序, 177
 - 値, 47
 - エンティティ, 46
 - 勘定科目, 45
 - 期間, 46
 - 国, 46
 - シナリオ, 47
 - 時間, 47
 - スマート・リスト, 47
 - セキュリティ・クラス, 47
 - 属性, 46, 171
 - 通貨, 46
 - 定義, 45
 - 年, 47
 - 汎用, 46
 - バージョン, 47, 246
 - 表示, 47
 - ビジネス, 171
 - 別名, 45, 171
 - メジャー, 46, 171
 - 連結メソッド, 46
- 次元の関連付けの作成, 83
- 次元の関連付け
 - 削除, 84
 - 作成, 83
 - 表示, 84, 187
- 次元の関連付けの削除
 - 次元ライブラリ, 84
- 次元の関連付けの表示
 - 次元ライブラリ, 84
- 次元のコピー, 85
- 次元の削除, 90
- 次元の作成, 76
- 次元のタイプ, 45
- 次元のロード、フラット・ファイルの使用, 79
- 次元別名、システム・プロパティ, 79
- 次元ライブラリ
 - 関連付け, 79
 - 新規プランニング次元, 79
 - 次元の関連付けの表示, 84
- 事前に定義されている次元
 - 再配置の要件, 215
 - 配置の要件, 158, 161, 207
- 実行
 - データの同期, 474
 - データ・フローからのデータ同期, 204
- 除外されたメンバー
 - Planning での使用の表示の確認, 128
- ジョブ
 - 管理, 479
 - 削除, 488
 - タイプ, 479
 - 添付ファイル, 486
- 数式, 138
 - エラー・メッセージ, 140
 - 構文, 140
 - 使用の前提条件, 138
 - スマート・リストの使用, 140
 - 説明, 138
 - メンバー式の使用, 138
- スキップのオプション, 556
- スクリプト
 - 検索場所, 252, 253, 256, 333
- スクリプト・エディタ、ビジネス・ルール編集に使用, 253
- スクリプト・コンポーネント
 - インポート, 449
 - エクスポート, 447
 - 検証, 417

所有者の変更, 277
 スクリプト・モード
 ビジネス・ルールの編集, 253
 スケール, 558
 スマート・リスト
 #Missing の表現, 104
 およびデータ入力, 101
 数式での使用, 140
 操作, 101
 プロパティの設定, 103
 命名の考慮事項, 103
 スマート・リスト次元タイプ
 説明, 47
 スマート・リストの表示順のオプション, 104
 成功トランザクション履歴を削除, 208
 セキュリティ, 28
 ジョブ・コンソール内, 485
 ジョブの送信, 485
 ジョブの表示, 485
 セキュリティ・クラス次元タイプ
 説明, 47
 設計時プロンプト
 依存関係の定義, 311
 カスタム定義テンプレート向けの作成, 305
 カスタム定義テンプレート向けの選択, 309
 次元限界の定義, 310
 デフォルト値の定義, 310
 設定, 429, 536
 「タイマーの使用可能」設定, 245, 251, 254, 266, 271
 「ロギングの使用可能」設定, 245, 250, 254, 265, 271
 前提条件
 アプリケーション, 148
 疎次元, 78
 およびパフォーマンス, 167
 密への変更の影響, 566
 ソース・プラン・タイプ, 554
 ソース・プラン・タイプ、および勘定科目, 552
 属性次元, 171
 次元ソート順, 179
 属性次元タイプ
 説明, 46
 属性値
 Planning, 551
 除外, 129

ロード, 566

た行

「タイマーの使用可能」設定, 245, 251, 254, 266, 271
 タイム・バランスの計算, 556
 タイム・バランス・プロパティの例, 555
 タスクの自動化
 前提条件, 490
 タスクフロー
 インタフェース・テーブルのインポートの作成, 493
 管理, 490
 コピー, 498
 再配置の作成, 493
 削除, 499
 作成, 491
 手動実行, 499
 ステージの作成, 494
 ステータスの表示, 502
 停止, 504
 データの同期の作成, 492
 表示, 498
 フラット・ファイルのインポートの作成, 492
 編集, 498
 リンクの追加, 497
 単一通貨、再配置, 215
 単一メンバーに対する複数 UDA, 550
 単純割当てテンプレート
 説明, 282
 単純割当てテンプレート、使用, 289
 ターゲット・バージョン、説明, 563
 直接出資比率, 535
 追加
 コンポーネントをビジネス・ルールに, 243, 250
 事前定義済ビジネス・ルール, 247
 ビジネス・ルール, 241, 242, 243
 ビジネス・ルールからルールセットに, 268
 ビジネス・ルールセット, 264
 ビジネス・ルールセットのプロパティ, 265
 ビジネス・ルールのプロパティ, 244
 ルールまたはルールセットをルールセットに, 270
 通貨
 アプリケーションでの定義, 160

- 再配置の要件, 215
- トライアングレーション, 558
- 名前, 560
- 複数, 160
- 変換, 160
- レポート作成, 559
- 通貨記号, 558
- 通貨コード, 558
- 通貨次元タイプ, 171
 - 説明, 46
- 通貨プロパティ
 - Planning, 545
 - 連結, 532
- 月配布パターン, 166
- 「ツール」メニュー, 231
- ツールバー
 - Calculation Manager, 227, 228
 - EPM Workspace, 227
 - Performance Management Architect, 32
 - 標準, 227
 - ワークスペース, 32
- 定義
 - 連結メソッド, 529
- 添付ファイル
 - ジョブの添付ファイルの表示, 486
- テンプレート
 - カスタム定義
 - 異なる名前で保存, 314
 - コピーおよび貼付け, 317
 - コンポーネントからの作成, 312
 - 削除, 316
 - 作成, 301
 - 使用の表示, 315
 - 設計, 302
 - 設計時プロンプトの依存関係の定義, 311
 - 設計時プロンプトの作成, 305
 - 設計時プロンプトの次元限界の定義, 310
 - 設計時プロンプトの選択, 309
 - 設計時プロンプトのデフォルト値の定義, 310
 - 説明, 138, 301
 - 開く, 313
 - フロー・チャートからの除去, 318
 - フロー・チャートへの挿入, 317
 - 編集, 313
 - 保存, 313
 - リフレッシュ, 315
- 検索, 318
- システム
 - Essbase、説明, 281
 - Financial Management、説明, 280
 - Planning と Essbase、説明, 281
 - SET コマンド・テンプレートの使用, 295
 - 金額単価レート・テンプレートの使用方法, 286
 - 集約テンプレートの使用, 292
 - 単純割当てテンプレートの使用, 289
 - データのエキスポート・テンプレートの使用, 293
 - データのコピー・テンプレートの使用, 285
 - データの消去テンプレートの使用, 284
 - ビジネス・ルールの使用, 282
 - フロー・チャートからの除去, 299
 - レベル間割当てテンプレートの使用, 287
- システム・テンプレート
 - SET コマンド, 282
 - 金額単価レート, 281
 - 集約, 282
 - 単純割当て, 282
 - データのエキスポート, 282
 - データのコピー, 281
 - データの消去, 281
 - レベル間割当て, 282
- 所有者の変更, 277
- 説明, 279
- テーブル
 - マッピング, 464
- デフォルト値、設計時プロンプトに対する定義, 310
- デフォルト別名テーブル
 - 配置の要件, 207
- デフォルト・メンバー
 - データの同期の割当て, 464
- データ
 - 一定期間の配布, 166
 - メンバーの削除の影響, 215
- データ・ストレージ
 - ShareData を使用する共有メンバー, 124
 - パフォーマンスの最適化のために使用, 547
- データ・セルの下矢印, 101
- データ・ソース
 - Essbase サーバーの構成, 217
 - Unicode のサポート, 217

管理, 216
 削除, 219
 作成および編集, 216
 詳細の表示, 218
 情報の入力, 217
 選択, 217
 データ・ソース・ウィザードの開始, 216
 データのエクスポート・テンプレート
 説明, 282
 データのコピー・テンプレート
 説明, 281
 データの消去テンプレート
 説明, 281
 データの同期, 453, 454
 宛先次元のルール構文, 467
 アプリケーション, 454
 インタフェース・テーブルを使用して作成,
 458
 インタフェース領域の定義, 457
 外部ファイル, 459
 検証, 474
 削除, 473
 次元のフィルタ処理, 463
 次元のマッピング, 460
 実行, 474
 ソース次元のルール構文, 466
 タスクフローの作成, 492
 デフォルト・メンバーの割当て, 464
 データ・インタフェース・テーブル, 457
 データ・シンクロナイザの操作, 471
 データ・シンクロナイザのナビゲート, 471
 データ・シンクロナイザ・ビューの変更,
 472
 データ・フローからの検証, 204
 データ・フローからの実行, 204
 データ・フローからの編集, 204
 データ・フローでの表示, 203
 フィルタ, 472
 複数通貨のアプリケーション, 456
 複製, 473
 編集, 473
 保存, 465
 マッピング, 465
 マッピング・テーブル, 464
 マッピング・テーブルの作成, 466, 469
 マッピング・テーブルの編集, 465
 理解, 453

データの分散, 166
 データの保管オプション, 547
 データ・フォーム、メンバーの削除の影響,
 215
 データ・フロー
 同期の検証, 204
 同期の実行, 204
 同期の表示, 203
 同期の編集, 204
 表示, 202
 フォーカル・アプリケーション, 203
 データベースのリフレッシュ
 考慮事項, 566
 同期
 データ, 454
 保存, 465
 マッピング・テーブルの作成, 466, 469
 「動的計算」および「動的計算および保管」の
 オプション, 547
 動的時系列(DTS), 124

な行

内部取引パートナ、設定, 429, 536
 ナビゲーション
 Performance Management Architect, 31
 ナビゲート
 ライブラリ・ジョブ・コンソール, 480
 入力タイム・バランス・プロパティ, 555
 年
 カレンダーへの追加, 564
 現在の変更, 564
 最大, 560
 再配置の要件, 215
 実用的な限界, 560
 年なしメンバー、説明, 564
 配置の要件, 207
 年次元, 564
 年次元、説明, 564
 年次元タイプ
 説明, 47
 年次累計、年の名前変更, 124
 年なしメンバー、説明, 564

は行

配置
 BegBalance の必須対象, 561
 Essbase (ASO)アプリケーション, 213

- Essbase (BSO)アプリケーション, 213
- Essbase BSO アプリケーション, 213
- Planning に必要なシナリオ, 562
- Planning に必要な年, 564
- Planning に必要なバージョン, 563
- Planning の考慮事項, 207
- YearTotal の必須対象, 561
- アプリケーション, 204
- 完全、部分的な次元更新でない, 207
- 共有メンバー、ShareData, 124
- 使用の表示の確認, 207, 215
- 情報, 21
 - トラブルシューティング, 207, 214, 564
- 必須の次元, 158, 161, 207
- メンバーの削除、影響, 215
- メンバーの除外, 129
- 配置ビュー
 - 説明, 238
- 貼付け
 - ビジネス・ルール, 256
 - ビジネス・ルール・コンポーネントの子, 257
 - ビジネス・ルール・コンポーネントの参照, 258
 - ビジネス・ルールセット, 272
- 汎用次元タイプ
 - 説明, 46
- バックアップ
 - リフレッシュの前, 566
- バッチ・クライアント
 - 情報, 24
- バランス・プロパティ, 555
- バージョン
 - Planning の配置に必要, 563
 - プロセス管理、使用可能, 563
 - ボトムアップ, 563
 - 目標, 563
- バージョン次元タイプ
 - 説明, 47, 246
- バージョン・タイプ, 563
- パフォーマンス
 - アプリケーションでの最適化, 167
 - 次元順序の変更, 167
 - データ型の評価順序の設定, 168
 - プラン・タイプ設定, 167
- パフォーマンスの最適化, 167
- 比較
 - アプリケーション, 199
 - 比較結果
 - 表示, 200
 - メンバーの除外, 202
 - 表示
 - データ・フロー, 202
 - 「表示」メニュー, 230
 - 表示次元タイプ
 - 説明, 47
 - 表示順序
 - POV 次元, 177
 - 開く
 - カスタム定義テンプレート, 313
 - ビジネス・ルール, 248
 - ビジネス・ルールセット, 266
 - ルールセットでのルールまたはルールセット, 270
 - ルールセット内のビジネス・ルール, 267
 - ビジネス次元, 171
 - 次元ソート順, 179
 - ビジネス・ルール
 - Financial Management から Calculation Manager への移行, 440
 - Planning から Calculation Manager への移行, 429
 - 移行, 429
 - 概要, 429, 536
 - 印刷, 261
 - インポート, 449
 - エクスポート, 447
 - エクスポートおよびインポート、概要, 447
 - 起動、Essbase, 427
 - クイック配置を使用した配置, 424
 - 検証, 417
 - 異なる名前での保存, 259
 - コピー, 256
 - コンポーネントの子のコピーおよび, 257
 - コンポーネントの子の貼付けおよび, 257
 - コンポーネントのコピーおよび貼付け, 250
 - コンポーネントの削除, 249
 - コンポーネントの追加, 243, 250
 - コンポーネントへの参照のコピー, 258
 - 削除, 261
 - 作成, 241, 242, 243, 249, 269
 - 参照のコンポーネントへの貼付け, 258
 - 所有者の変更, 277
 - ショートカットの作成, 260

- ショートカットを含む配置, 423
- 使用の表示, 47, 246, 252, 255, 276
- スクリプト・モードでの編集, 253
- 説明, 241
- 配置、概要, 420
- 配置、配置ビューから, 421
- 配置、ルール・デザイナから, 423
- 配置可能にする, 420
- 貼付け, 256
- 開く, 248
- プロパティの入力, 244
- プロパティの編集, 250, 253
- 編集, 248, 249
- 保存, 259
- リフレッシュ, 275
- ロード、事前定義済, 247
- ビジネス・ルールセット
 - インポート, 449
 - エクスポート, 447
 - 検証, 417
 - 異なる名前での保存, 273
 - コピー, 272
 - 削除, 274
 - 作成, 264
 - 所有者の変更, 277
 - 使用の表示, 266, 271, 276
 - 説明, 263
 - 配置、概要, 420
 - 配置、配置ビューから, 421
 - 配置、ルールセット・デザイナから, 423
 - 配置可能にする, 420
 - 貼付け, 272
 - 開く, 266
 - ビジネス・ルールの除去, 268
 - ビジネス・ルールの追加, 268
 - ビジネス・ルールを開く, 267
 - プロパティの入力, 265
 - プロパティの編集, 270
 - 編集, 269
 - 保存, 273
 - リフレッシュ, 275
 - ルールまたはルールセットの除去, 270
 - ルールまたはルールセットの追加, 270
 - ルールまたはルールセットを開く, 270
- ビュー
 - Calculation Manager での使用, 233
 - カスタム・ビュー、説明, 236
 - システム・ビュー、説明, 236
 - 同期のフィルタ処理, 472
 - 配置の説明, 238
 - リスト・ビュー、説明, 234
 - ビュー・ペイン、説明, 238
 - 「ファイル」メニュー, 229
- フィルタ
 - Calculation Manager での使用, 233
 - ジョブ・コンソールでの作成, 482
 - ジョブ・コンソール内の自分のジョブ, 483
 - ジョブ・コンソール内の他のユーザーのジョブ, 484
 - 同期, 472
- フィルタ処理
 - データの同期における次元, 463
 - メンバー, 141
- フォルダ
 - 作成, 86
 - 次元のコピー, 87
 - 次元の追加, 87
- フォーカル・アプリケーション
 - 変更, 203
- 複数通貨, 215
- 負債勘定科目の種別
 - 要約, 555
- 負債勘定科目の動作, 513
- 負数の符号, 557
- 負の値の色, 558
- フラット・ファイルのインポート
 - タスクフローの作成, 492
- フロー
 - データの表示, 202
- フロー勘定科目の動作, 513
- フロー・タイム・バランス・プロパティ, 555
- フロー・チャート
 - Calculation Manager での使用, 233
 - カスタム定義テンプレートの除去, 318
 - カスタム定義テンプレートの挿入, 317
 - システム・テンプレートの除去, 299
 - システム・テンプレートの挿入, 298
- ブランク・アプリケーション、作成, 158
- ブロック・ストレージ・オプション・アプリケーション
 - 要件, 181
- プラン 1、プラン 2 およびプラン 3 のプラン・タイプ、説明, 543
- プラン設定

- およびエンティティ・メンバーに対して有効, 547
- および勘定科目メンバー, 552
- プラン・タイプ
 - Planning, 544
 - アプリケーションでの設定, 160
 - エンティティ・メンバー, 547
 - 勘定科目メンバー, 552
 - 再配置の要件, 215
 - 設定, 543
- プラン・タイプの集約, 550
- プランニングの再配置のトラブルシューティング, 214, 564
- プランニング・ユニット、メンバーの削除の影響, 215
- プロセス
 - アプリケーションの作成, 26
- プロセス管理、Planning での使用, 562, 563
- プロセス管理の使用可能, 562, 563
- プロパティ
 - Aggregation Weight, 516
 - Alias, 509, 516, 518, 521, 529, 532, 537
 - Allow Adjustments, 519
 - Allow Adjustments From Children, 519
 - Base Time Period, 545
 - Calc Attribute, 509
 - Consolidate YTD, 521
 - Consolidation Account Type, 509
 - Consolidation Rules, 525
 - Control, 530
 - Currency, 519
 - Custom Top Member, 509
 - Default Alias Table, 546
 - Default Currency, 525, 545
 - Default Frequency, 521
 - Default Frequency For IC Transactions, 522
 - Default Parent, 510, 516, 519, 521, 537
 - Default Rate For Balance Accounts, 525
 - Default Rate For Flow Accounts, 525
 - Default Value For Active, 525
 - Default View, 521
 - Display In ICT, 533
 - Enable Custom Aggregation, 510
 - Enable Data Audit, 510, 522
 - Enable Metadata Security Filtering, 525
 - Enable Process Management, 522
 - FDM Application Name, 529
 - Holding Company, 519
 - ICP Entities Aggregation Weight, 526
 - ICP Top Member, 510
 - Is Calculated, 510, 516
 - Is Consolidated, 511
 - Is Holding Method, 530
 - Is ICP, 511, 519
 - Maximum Cell Text Size, 526
 - Maximum Document Attachment Size, 526
 - Maximum Number of Document Attachments, 526
 - Maximum Review Level, 522
 - Multiple Currencies, 545
 - Name, 511, 516, 519, 522, 529, 533, 537
 - Node Security, 526
 - Number Of Decimal Places, 512
 - Org By Period Application, 527
 - Percent Consol, 530
 - Percent Consol Value, 531
 - Phased Submission Start Year, 523
 - Plan Name, 543
 - Planning, 543
 - Plug Account, 512
 - Scale, 533
 - Security As Partner, 520
 - Security Class, 512, 517, 520, 523, 537
 - Security For Accounts, 527
 - Security For Custom, 527
 - Security For Entities, 527
 - Security For ICP, 528
 - Security For Scenarios, 528
 - Start Month, 546
 - Start Year, 546
 - Submission Group, 512, 517, 537
 - Support Submission Phase for Account, 528
 - Support Submission Phase for Custom, 528
 - Support Submission Phase for ICP, 528
 - Switch Sign For Flow, 517
 - Switch Type For Flow, 518
 - To Percent Control, 531
 - To Percent Control Compare, 531
 - Translation Operator, 534
 - UDA, 523
 - Use PVA For Balance Accounts, 527
 - Use PVA For Flow Accounts, 527
 - Used By Calc Routine, 531
 - User Defined 1...3, 512, 523

User Defined1...3, 518, 520
 Uses Line Items, 512, 523
 Valid for Plan, 544
 Validation Account, 528
 Weeks , 546
 XBRL Tags, 513
 Zero View For Adjustments, 524
 Zero View For Non-adjustments, 524
 システム, 79
 疎から密への次元の変更の影響, 566
 ビジネス・ルール
 入力, 244
 編集, 250, 253
 ビジネス・ルールセット
 入力, 265
 編集, 270
 連結
 アプリケーション, 524
 エンティティ, 518
 カスタム, 516
 勘定科目, 508
 シナリオ, 521
 連結プロパティ
 通貨, 532
 プロパティ値、疎から密への次元の変更の影響, 566
 プロンプト
 依存関係の定義, 311
 次元限界の定義, 310
 設計時プロンプトの作成, 305
 設計時プロンプトの選択, 309
 デフォルト値の定義, 310
 平均タイム・バランス・プロパティ, 555
 「ヘルプ」メニュー, 232
 編集
 カスタム定義テンプレート, 313
 ビジネス・ルール, 248, 249
 ビジネス・ルール、スクリプト・モード, 253
 ビジネス・ルールセット, 269
 ビジネス・ルールセットのプロパティ, 270
 ビジネス・ルールのプロパティ, 250, 253
 マッピング・テーブル, 465
 「編集」メニュー, 230
 変数
 コピー, 413

システムのロード(Financial Management のみ), 413
 別名
 Planning, 550
 Profitability and Cost Management の要件, 171
 次元の配置に使用, 79
 選択, 550
 命名規約, 569
 別名次元, 171
 次元ソート順, 179
 設定, 80
 別名次元タイプ
 説明, 45
 別名次元の設定, 80
 別名テーブル
 Planning での作成, 546
 Planning の選択, 550
 Planning のデフォルト, 546
 保存
 カスタム定義テンプレート, 313
 異なる名前で, 314
 異なる名前のビジネス・ルール, 259
 異なる名前のビジネス・ルールセット, 273
 ビジネス・ルール, 259, 273, 314
 ビジネス・ルールセット, 273
 保存された仮定, 555
 ボトムアップ・バージョン, 563

ま行

マッピング
 削除, 473
 情報, 465
 テーブル, 464
 テーブルの作成, 466
 同期の次元, 460
 複製, 473
 編集, 465
 マッピング・テーブル
 編集, 473
 密次元, 78
 およびパフォーマンス, 167
 疎への変更, 566
 命名規約、Planning, 83
 命名の制限
 アプリケーション, 568
 次元、メンバー、および別名, 569
 メジャー次元, 171

次元ソート順, 179
メジャー次元タイプ
説明, 46
メソッド勘定科目, 535
メタデータ
リフレッシュの考慮事項, 566
メタデータの整合性, 538
メニュー
Calculation Manager, 228
Performance Management Architect, 33, 34, 35
「アクション」メニュー, 232
「お気に入り」メニュー, 231
「ツール」メニュー, 231
「表示」メニュー, 230
「ファイル」メニュー, 229
「ヘルプ」メニュー, 232
「編集」メニュー, 230
メンバー
Planning 固有の情報, 543
アプリケーションでの除外, 144
エンティティ次元, 547
共有メンバーの操作, 123
削除, 128, 129
削除、影響, 215
集約プロパティ, 550
除外, 129
除去, 127
操作, 141
デフォルトの割当て, 464
命名規約, 569
リフレッシュの考慮事項, 566
メンバー・クエリー関数, 615
メンバー計算式
Planning, 550
検証結果の表示, 137
数式の使用, 138
操作, 137
メンバーシップ
アプリケーションの表示, 190
メンバーの削除
次元ライブラリ, 128
メンバーの作成, 119
メンバーの除外
比較結果, 202
メンバーの除去, 127
文字、予約, 568
モジュール

Performance Management Architect, 22

や行

役割

Performance Management Architect, 28

要件

Essbase (ASO)アプリケーション, 181

Essbase (BSO)アプリケーション, 181

集約ストレージ・オプション・アプリケーション, 181

ブロック・ストレージ・オプション・アプリケーション, 181

要約期間

作成, 560

範囲の変更, 560

予約文字, 568

ら行

ライフサイクル管理, 30

ライブラリ・ジョブ・コンソール

ジョブ・タイプ, 479

ジョブの削除, 488

ジョブの送信のセキュリティ, 485

ジョブの添付ファイルの表示, 486

ジョブの表示のセキュリティ, 485

セキュリティ, 485

操作, 479

ナビゲート, 480

ビューの変更, 481

フィルタの作成, 482

リフレッシュ, 482

ラベル

スマート・リスト, 103

ラベルのみオプション, 547

リスト・ビュー

説明, 234

リフレッシュ

カスタム定義テンプレート, 315

ビジネス・ルール, 275

ビジネス・ルールセット, 275

ライブラリ・ジョブ・コンソール, 482

ルール

Financial Management から Calculation Manager への移行, 440

Planning から Calculation Manager への移行, 429

移行, 429

- 概要, 429, 536
- 印刷, 261
- インポート, 449
- エクスポート, 447
- エクスポートおよびインポート、概要, 447
- 起動、Essbase, 427
- クイック配置を使用した配置, 424
- 検証, 417
- 異なる名前での保存, 259
- コピー, 256
- コンポーネントの子のコピーおよび, 257
- コンポーネントの子の貼付けおよび, 257
- コンポーネントのコピーおよび貼付け, 250
- コンポーネントの削除, 249
- コンポーネントの追加, 243, 250
- コンポーネントへの参照のコピー, 258
- 削除, 261
- 作成, 241, 242, 243, 249, 269
- 参照のコンポーネントへの貼付け, 258
- 所有者の変更, 277
- ショートカットの作成, 260
- ショートカットを含む配置, 423
- 使用の表示, 47, 246, 252, 255, 276
- スクリプト・モードでの編集, 253
- 説明, 241
- 配置、概要, 420
- 配置、配置ビューから, 421
- 配置、ルール・デザイナーから, 423
- 配置可能にする, 420
- 貼付け, 256
- 開く, 248
- プロパティの入力, 244
- プロパティの編集, 250, 253
- 編集, 248, 249
- 保存, 259
- リフレッシュ, 275
- ロード, 247
- ルール構文
 - データの同期で使用する宛先次元, 467
 - データの同期で使用するソース次元, 466
- ルールセット
 - インポート, 449
 - エクスポート, 447
 - 検証, 417
 - 異なる名前での保存, 273
 - コピー, 272
 - 削除, 274
 - 作成, 264
 - 所有者の変更, 277
 - 使用の表示, 266, 271, 276
 - 説明, 263
 - 配置、概要, 420
 - 配置、配置ビューから, 421
 - 配置、ルールセット・デザイナーから, 423
 - 配置可能にする, 420
 - 貼付け, 272
 - 開く, 266
 - ビジネス・ルールの除去, 268
 - ビジネス・ルールの追加, 268
 - ビジネス・ルールを開く, 267
 - プロパティの入力, 265
 - プロパティの編集, 270
 - 編集, 269
 - 保存, 273
 - リフレッシュ, 275
 - ルールまたはルールセットの除去, 270
 - ルールまたはルールセットの追加, 270
 - ルールまたはルールセットを開く, 270
- レベル間割当てテンプレート
 - 説明, 282
- レポート通貨, 559
- 連結
 - アプリケーションの要件, 150
- 連結 1...3 勘定科目, 535
- 連結勘定科目
 - DOWN 勘定科目, 535
 - PCON 勘定科目, 535
 - PCTRL 勘定科目, 535
 - POWN 勘定科目, 535
 - アクティブ勘定科目, 535
 - メソッド勘定科目, 535
 - 連結 1...3 勘定科目, 535
- 連結比率, 535
- 連結メソッド, 529
- 連結メソッド次元タイプ
 - 説明, 46
- 「ロギングの使用可能」設定, 245, 250, 254, 265, 271
- ローカル次元の自動作成, 159
- ロード
 - 事前定義済ビジネス・ルール, 247